

朝見遺跡（第5次）発掘調査報告
～松阪市立田町・和屋町～
—本文編—



瑞花円鏡・瑞花双鳥八稜鏡

2022（令和4）年3月

三重県埋蔵文化財センター



S B57041・57042他掘立柱建物群検出状況（東から）



S B57041柱穴の並び（北から）



S B57041・57042完掘状況（西から）



S B55005（北西から）



S B57041ピット検出状況（東から）



S D53002（南東から）



S D53002最上層青銅鏡出土状況（西から）



S D53002最下層青銅鏡出土状況（南西から）



S D53002出土青銅鏡（上から素文鏡、瑞花円鏡、瑞花双鳥八稜鏡）

例　言

- 1 本書は、高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）に伴う朝見遺跡（第5次）の発掘調査報告書である。
- 2 調査地は、三重県松阪市立田町・和屋町に位置する。
- 3 発掘調査は、三重県教育委員会が三重県農林水産部から依頼を受けて実施した。発掘調査および整理作業の経費は、国庫補助金を得て三重県教育委員会が一部負担し、他は三重県農林水産部から執行委任を受けた。
- 4 発掘調査期間は平成26（2014）年4月22日～平成27（2015）年2月18日である。
- 5 第5次調査の発掘調査面積は、9,996 m²である。
- 6 調査および整理作業の体制は以下のとおりである。

調査主体 三重県教育委員会

〔現地調査 平成26年度〕

調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査研究1課

櫻井拓馬 谷口文隆 鳥田元彦 渡辺和仁 森隆生 小倉礼

研修員 田中信太郎

土工委託 安西工業株式会社

〔整理作業 平成27～令和3年度〕

整理担当 三重県埋蔵文化財センター 調査研究1課

櫻井拓馬 森川常厚 犢積裕昌 土橋明梨紗 田中久生

保存処理委託 (株)吉田生物研究所、(株)古環境研究所

自然科学分析委託 (株)パレオ・ラボ (土壤分析・年代測定)

(株)バリノ・サーヴェイ (樹種同定)

- 7 本書の編集は櫻井があたり、文責は文末に記した。遺物の写真撮影は櫻井、田中久生が行った。

- 8 発掘調査および整理作業に際しては、地元朝見上地区の方々をはじめ、下記の諸氏や機関に御指導・御協力を賜った。記して感謝したい。

泉拓良、杉山洋、小野映介、山中敏史、外山秀一、田村陽一、矢野健一、関西繩文文化研究会、東海繩文研究会、榎本義謙、西田尚史、丸山真史、内川隆志、朝見上地区土地改良区、松阪市教育委員会、松阪市文化財センター（敬称略、順不同）

- 9 調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターが保管している。

凡　例

- 1 本書では、国土地理院発行の1:25,000 数値地図（「松阪」相当、（平成20年10月発行）、三重県共有デジタル地図の1:2,500 地形図（平成24年06PF831番）を用いた。三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組合の承認を得て使用した（令和3年4月5日付三総合地第1号）。
- 2 標高は東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。
- 3 本書で用いた座標は世界測地系に基づくものである。方位は第VI座標系の座標北で示した。掘立柱建物の方位は、飯野郡条里地割（N15° E）との対応を示すため、南北軸を東西偏角で示した。
- 4 本書で用いる遺構略号は以下のとおりである。

S B : 掘立柱建物	S H : 壁穴建物	S E : 戸井戸	S K : 土坑	S D : 溝	Pit : 柱穴
S R : 自然流路	S X : 墓	S Z : その他不明遺構	S F : 炉跡		
- 5 土色の記述は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1967年初版）に拠った。遺物観察表における土器の色調表記もこれに従う。
- 6 遺物実測図の縮尺は1:4を基本とし、その他の縮尺を適宜用いた。
- 7 註は各節の文末に付し、参考文献も註に記した。
- 8 遺構一覧表、遺物観察表は各章末に付した。
- 9 遺物観察表の凡例は以下のとおりである。
 - ・実測番号は、当センター所蔵の遺物実測図番号である。
 - ・色調は外面のみ、標準土色帖の色名（「黄橙色」など）を記す。マンセル記号の表記は省略した。
 - ・土器の残存率は全周を12分割して示す（例：口縁部3/12）。1/12以下のものは「口縁部片」など。
 - ・胎土は、特徴的な事項（砂粒や金雲母の多さなど）のみ備考欄に記した。
 - ・法量は完存ないし復元の値である（器高は残存値）、口径・底径は実測時の接地面ではなく、外周で計測した値とした。また、土師器皿の底径は記していない。
 - ・出土砥石の粒度は、JIS研磨剤の規格に準拠するサンドベーパーに対比して示す。粒度は# 40以下、80（粗目）、120、180（中目）、320、600（細目）、1000、2000以上（極細目）の8段階とした。
- 10 写真図版中の遺物に付した番号は、各遺物の報告番号と対応する。遺物写真は縮尺不同である。
- 11 古代（平安時代）・中世の時期区分は、多気郡明和町畜宮跡における土師器編年（畜宮歴史博物館2001）、南伊勢系土師器を中心とした中世土器の編年（伊藤2008）に即して示した（第III章参照）。共伴陶磁器などでさらに年代の絞り込みが可能な場合は、各陶磁器編年や曆年代観を記している。

平安時代 前期（畜宮II期1～3段階）	8世紀末～9世紀	
中期（畜宮II期4段階）	10世紀前半	古代
後期（畜宮III期）	10世紀後半～11世紀前半	
中世I期（a・b）	11世紀後半～12世紀後半、平安時代末	中世前期
II期（a・b）	12世紀末～14世紀前葉、平安時代末～鎌倉時代	
III期（a・b）	14世紀中葉～15世紀前半、南北朝～室町時代	中世後期
IV期（a・b・c）	15世紀後半～16世紀末、戦国期	

目 次

巻頭図版

例言・凡例	i · ii
目 次	iii ~ vi

I 前 言	1
1. 調査の経緯と経過	1
2. 調査の方法	4
II 位置と環境	7
1. 柳田川と沖積平野	7
2. 先史時代の遺跡動向	7
3. 古道と条里の展開	10
III 遺 構	13
1. 基本層序と微地形	13
2. 検出遺構の概要	15
3. 1 区	17
4. 2 区	31
5. 3 区	38
6. 4 区	46
7. 5 区	58
8. 6 区	63
9. 7 区	85
10. 8 区	109
11. 9 区	116
遺構一覧表	126
IV 遺 物	136
1. 出土遺物の概要	136
2. 弥生時代以降の遺物	136
3. 縄文時代の遺物	182
遺物観察表	213
V 自然科学分析	243
1. 分析の種類と対象	243
2. C 14 年代測定・土壤分析	243
3. 樹種同定	262
VI 総 括	271
1. 縄文時代の集落と環境	271
2. 弥生～古墳時代の土地利用	275
3. 平安時代の遺構と遺物	277
4. 条里地割と開発	282
5. 朝見遺跡の特質	285
写真図版（別冊）	

挿図目次

第 1 図 道路位置図	2
第 2 図 朝見遺跡調査位置図	3
第 3 図 調査区位置およびグリッド割付図	6
第 4 図 道路分布図	8
第 5 図 地形分類図	9
第 6 図 道路周辺のボーリングデータ	14
第 7 図 土層柱状図	16
第 8 図 1 区遺構全体図①	20
第 9 図 1 区遺構全体図②	21
第 10 図 1-1 ~ 1-3 区西壁土層断面図	22
第 11 図 1-4 区西壁・南壁土層断面図	23
第 12 図 SD 51001・51002・51043・51044 断面図	24
第 13 図 SD 51005・51020・51021	25
第 14 図 SX 51017	26
第 15 図 SX 51029	27
第 16 図 S E 51028・S E 51036	28
第 17 図 SX 51043 遺物出土状況図	29
第 18 図 SZ 51046 遺物出土状況図	30
第 19 図 2 区遺構全体図①、S X 52019・ SD 52026・52027 断面図	33
第 20 図 2 区遺構全体図②、S R 52003・ SD 52006 断面図	34
第 21 図 2 区遺構全体図③、SD 52004 断面図	35
第 22 図 2 区西壁土層断面図	36
第 23 図 2 区北壁・南壁土層断面図	37
第 24 図 3 区遺構全体図①、SD 53011 断面図	40
第 25 図 3 区遺構全体図②、SD 53001・53005 ～ 53007 断面図	41
第 26 図 3 区遺構全体図③	42
第 27 図 3 区西壁土層断面図	43
第 28 図 3 区南壁土層断面図	44
第 29 図 S E 53004	44
第 30 図 SD 53002 断面図・遺物出土状況図	45
第 31 図 4-1 区・4-3 区遺構全体図	48
第 32 図 4-1 区・4-2 区遺構全体図	49
第 33 図 4-1 区・4-4 区遺構全体図	50
第 34 図 4-1 区南壁土層断面図	51
第 35 図 4-4 区北壁・4-1 区西壁土層断面図	52
第 36 図 S K 54004・54006・54033、S D 54009 遺物出土状況図	53
第 37 図 S D 54011・54014 断面図、 遺物出土状況図	54
第 38 図 S E 54031	55
第 39 図 S E 54036	56
第 40 図 S B 54039・54041 ~ 54043	57
第 41 図 5 区遺構全体図	59
第 42 図 5 区東壁土層断面図	60
第 43 図 S E 55001	61
第 44 図 S B 55005、S B 55005 隔接ビット 遺物出土状況	62
第 45 図 6 区上層遺構全体図	66
第 46 図 6 区北壁土層断面図	67
第 47 図 6 区南壁・下層断削土層断面図、 下層埋積浅谷断面図	68
第 48 図 S K 56001・56002・56020 ~ 56022・ 56024、S K 56021 遺物出土状況図	69
第 49 図 S K 56007・56012、S D 56033 断面図 S F 56036 遺物出土状況図	70
第 50 国 S E 56003	71
第 51 国 S E 56004	72
第 52 国 S E 56006	73
第 53 国 S K 56013・56028・56031・ 56032	74
第 54 国 S X 56026 平面図、断面図、 遺物出土状況図	75
第 55 国 S X 56027 平面図、断面図	76
第 56 国 S X 56027 遺物出土状況図	77
第 57 国 S K 56029 断面図・遺物出土状況図	78
第 58 国 S B 56034・56066	78
第 59 国 S B 56035・56063 ~ 56065	79
第 60 国 6 区下層遺構全体図	80
第 61 国 6 区北壁土層断面模式図	81
第 62 国 S X 56037、S X 56057、S F 56048 ~ 56056、S K 56059	83
第 63 国 S Z 56038・56047・S K 56060、 S K 56061・S F 56062・S K 56058	84
第 64 国 7-1 区遺構全体図①	91
第 65 国 7-1 区遺構全体図②	92

第 66 図	7-1 区遺構全体図③	93
第 67 図	7-1 区遺構全体図④	94
第 68 図	7-2 区遺構全体図	95
第 69 図	7-2 区、7-3 区遺構全体図	96
第 70 図	7-1 区北壁土層断面図①	97
第 71 図	7-1 区北壁土層断面図②	98
第 72 図	7-2 区北壁・7-3 区東壁土層断面図	99
第 73 図	S D 57001・57015・57017・57018・ 57020・57021・57023 断面図	100
第 74 図	S E 57006・S K 57012・S K 57031・ S D 57032 遺物出土状況図	101
第 75 図	S B 57041・57043・SB57041 ピット 遺物出土状況図	102
第 76 図	S B 57042・57044・ S A 57045・57059・57060・57068	103
第 77 図	S B 57045・57047・57075・ S A 57066・57067	104
第 78 図	S B 57048・57049・57076	105
第 79 図	S X 57022	106
第 80 図	S B 57071・57074・ S B 57071 ピット遺物出土状況図	107
第 81 図	S D 57053・57058・57062・57069	108
第 82 図	8 区遺構全体図①・S D 58015～ 58018・58020・58021 断面図	110
第 83 図	8 区遺構全体図②・S D 58015・58016・ 58018・58019・58024 断面図	111
第 84 図	8 区東壁土層断面図	112
第 85 図	8 区東壁土層断面図②・ 8 区南～西壁土層断面図	113
第 86 図	8 区東西土層断面図	114
第 87 図	S X 58013	115
第 88 図	9 区遺構全体図	120
第 89 図	9 区北壁・東壁土層断面図①	121
第 90 図	9 区北壁・東壁土層断面図②	122
第 91 図	S B 59042・59043・59049・59050・ ピット遺物出土状況図	123
第 92 図	S B 59044・59045・59051・SA59048・ ピット遺物出土状況図	124
第 93 図	S K 59033 他遺物出土状況	
	S D 59023・59027・59035 断面図	125
第 94 図	土器・陶磁器等 1 区①	147
第 95 図	土器・陶磁器等 1 区②	148
第 96 図	土器・陶磁器等 1 区③	149
第 97 図	土器・陶磁器等 1 区④	150
第 98 図	土器・陶磁器等 1 区⑤・2 区①	151
第 99 図	土器・陶磁器等 2 区②・3 区①	152
第 100 図	土器・陶磁器等 3 区②	153
第 101 図	土器・陶磁器等 3 区③	154
第 102 図	土器・陶磁器等 3 区④	155
第 103 図	土器・陶磁器等 3 区⑤・4 区①	156
第 104 図	土器・陶磁器等 4 区②	157
第 105 図	土器・陶磁器等 4 区③・5 区	158
第 106 図	土器・陶磁器等 6 区①	159
第 107 図	土器・陶磁器等 6 区②	160
第 108 図	土器・陶磁器等 6 区③	161
第 109 図	土器・陶磁器等 6 区④・7 区①	162
第 110 図	土器・陶磁器等 7 区②	163
第 111 図	土器・陶磁器等 7 区③	164
第 112 図	土器・陶磁器等 7 区④・8 区①	165
第 113 図	土器・陶磁器等 8 区②	166
第 114 図	土器・陶磁器等 8 区③・9 区①	167
第 115 図	土器・陶磁器等 9 区②	168
第 116 図	土器・陶磁器等 9 区③	169
第 117 図	土器・陶磁器等 その他ピット	170
第 118 図	土器・陶磁器等 含む層①	171
第 119 図	土器・陶磁器等 含む層②	172
第 120 図	木製品 1 区①	175
第 121 図	木製品 1 区②・4 区①	176
第 122 図	木製品 4 区②	177
第 123 図	木製品 4 区③	178
第 124 図	木製品 4 区④	179
第 125 図	木製品 4 区⑤	180
第 126 図	木製品 6 区	181
第 127 図	縄文土器の分類	183
第 128 図	縄文土器 1 区①	188
第 129 図	縄文土器 1 区②	189
第 130 図	縄文土器 1 区③	190
第 131 図	縄文土器 1 区④	191
第 132 図	縄文土器 1 区⑤	192
第 133 図	縄文土器 1 区⑥	193
第 134 図	縄文土器 1 区⑦	194
第 135 図	縄文土器 1 区⑧・6 区①	195
第 136 図	縄文土器 6 区②	196
第 137 図	縄文土器 6 区③	197

第 138 図 繩文土器 6 区④	198	第 157 図 道路周辺の地形分類図	261
第 139 図 繩文土器 6 区⑤	199	第 158 図 県内の縄文文中へ後期前半の道路	271
第 140 図 繩文土器 6 区⑥	200	第 159 図 朝見上地区遺跡群の縄文遺構	
第 141 図 繩文土器 6 区⑦	201	遺物分布	272
第 142 図 繩文土器 6 区⑧・その他	202	第 160 図 大里西沖遺跡 SH 15 繩文土器 5	274
第 143 図 朝見遺跡(第 5 次)の石器組成	204	第 161 図 弥生・古墳時代の遺構分布	276
第 144 図 石器 1 区・6 区①	206	第 162 図 7-1 区大型建物 S B 57041 付近の	
第 145 図 石器 6 区②	207	遺構変遷	278
第 146 図 石器 6 区③	208	第 163 図 平安時代の軒的建物	280
第 147 図 石器 6 区④	209	第 164 図 平安時代の空間利用	283
第 148 図 石器 6 区⑤	210	第 165 図 朝見遺跡の土地変遷史	286
第 149 図 石器 6 区⑥	211	写真 1 7 区での調査指導風景	5
第 150 図 石器 6 区⑦・7 区	212	写真 2 縄文土器(1536) 施文状況	186
第 151 図 年代測定試料の写真	246	写真 3 テフラ試料の偏光顕微鏡写真	265
第 152 図 历年較正結果	246	写真 4 堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真	266
第 153 図 分析 No. 2 ~ No. 4 の火山ガラス の屈折率測定結果	248	写真 5 産出した花粉化石	267
第 154 図 堆積物中の珪藻化石分布図	253	写真 6 産出した植物珪酸体	268
第 155 図 花粉分布図	256	写真 7 樹種同定結果 1	269
第 156 図 植物珪酸体分布図	258	写真 8 樹種同定結果 2	270

表目次

第 1 表 高度水利機能確保基盤整備事業 (朝見上地区) に伴う調査一覧表	4	第 9 表 テフラ試料の湿式篩分け、 重液分離の結果	248
第 2 表 遺構一覧表	126 ~ 135	第 10 表 4 φ 筒残渣中の鉱物組成	248
第 3 表 青銅鏡の蛍光 X 線分析結果	139	第 11 表 硅藻化石の環境指標種群一覧	250
第 4 表 遺物観察表	213 ~ 242	第 12 表 堆積物中の珪藻化石産出表	251 ~ 252
第 5 表 分析試料一覧	244	第 13 表 産出花粉孢子一覧表	254 ~ 255
第 6 表 年代測定試料および処理	245	第 14 表 試料 1 g 当りのプランクトン・オバール個数	257
第 7 表 放射性炭素年代測定および 暦年較正の結果	245	第 15 表 第 5 次調査墨書き土器一覧	281
第 8 表 火山灰分析試料とその特徴	248		

巻頭写真図版

- ・巻頭図版 1 (7 区大型掘立柱建物)
S B 57041・57042 他掘立柱建物群検出状況
- ・巻頭図版 2 (5 区・7 区大型掘立柱建物)
S B 57041 柱穴の並び
- S B 57041・57042 完掘状況、S B 55005
- S B 57041 ピット検出状況
- ・巻頭図版 3 (3 区青銅鏡出土状況)
SD 53002
- SD 53002 最上層青銅鏡出土状況
- SD 53002 最下層青銅鏡出土状況
- ・巻頭図版 4 (出土遺物 青銅鏡)
SD 53002 出土青銅鏡

I 前 言

1. 調査の経緯と経過

(1) 調査に至る経緯

朝見遺跡は、松阪市街地より約1km東の田園地帯に位置する遺跡で、周辺には今なお条型地割がよく残っている。ここで、朝見上地区（朝田・立田・和屋・幸生・上七見・上川町）を対象とした県営ほ場整備事業（高度水利機能確保基盤整備事業）が計画されたため、調査の原因者である三重県松阪農林事務所と保護措置について協議を行った。事前協議の詳しい経過は、既刊の『朝見遺跡（第1・2次）発掘報告書』をあわせて参照されたい。

ほ場整備の事業区域は159haに及んだため、平成21年度に分布調査、範囲確認調査は平成22～25年度の4ヶ年に分割して実施した（第1表）。本次調査に関わる範囲確認調査の結果は『朝見遺跡（第3・4・6次）発掘報告書』に掲載している。

(2) 既往の調査

朝見遺跡の発掘調査は、いずれも当事業に関わるもので、9次に及んでいる。詳細は第1表および既刊の報告書を参照されたい。

(3) 調査の経過

第5次調査は平成26(2014)年4月22日に開始し、平成27(2015)年2月18日に終了した。工事計画や耕作、水利との関係上、まず遺跡東端の1～3区の調査を進め、4～6区、7～9区へと順次西進した。1区と6区では下層遺構及び遺物包含層を確認したため、追加調査を実施している。

以下に調査日誌（抄）を記す。

【調査日誌（抄）】

平成26（2014）年

4月24日 調査前写真撮影

5月7日 2区表土掘削開始

5月28日 1区南側より重機掘削開始

6月25日 1～4区全景・遺構別写真撮影

6月26日 1～1～3区全景写真撮影

6月30日 3区重機掘削開始。

7月8日 3区表土掘削中にSD53002より円鏡

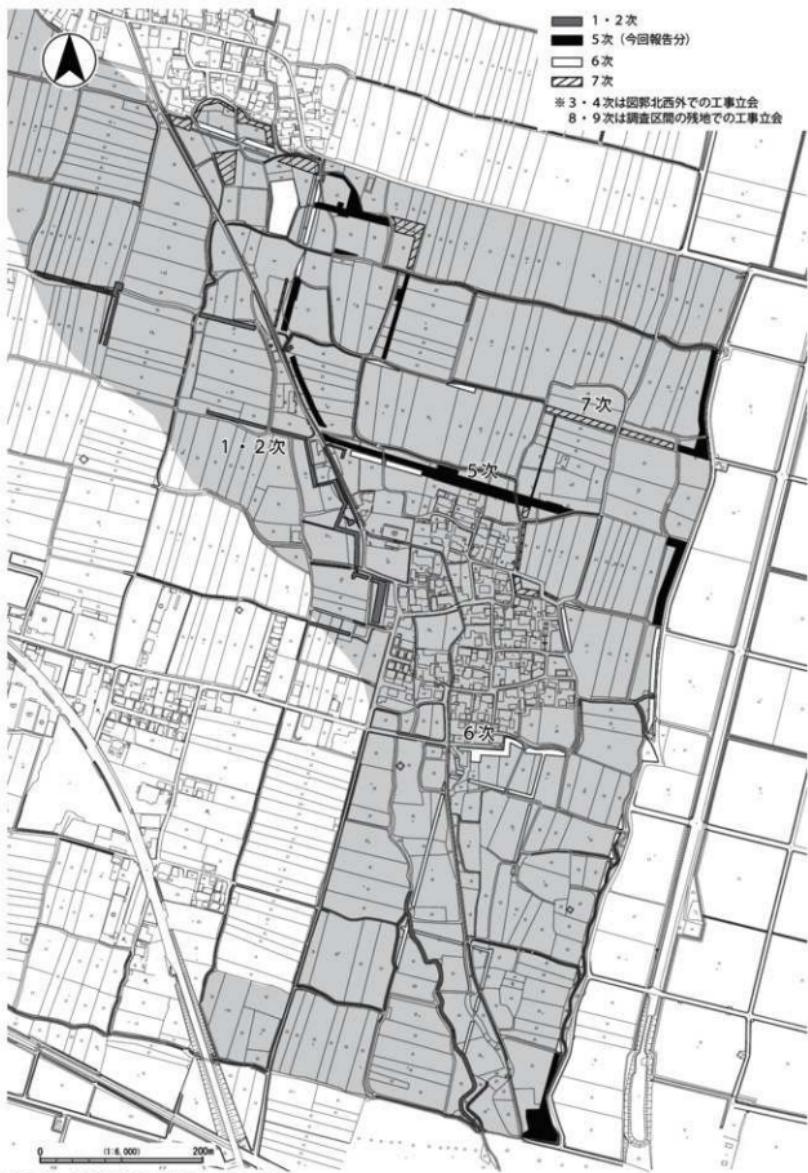
出土。出土状況確認後一時取上げ。

- 7月11日 表土掘削中、SD53002より八稜鏡出土
7月15日 八稜鏡を取り上げ
7月22日 4区東側より重機掘削開始
7月30日 3区SD53002最下層から鏡が出土
8月6日 3区全般写真を撮影。4区遺構検出開始
8月21日 1区下層の縄文精査、縄文土器多数
9月6日 3区を対象に現地説明会開催
9月10日 4区全景、遺構写真撮影
9月11日 5区・6区表土掘削開始
9月18日 6区重機掘削開始
9月30日 7～1区重機掘削開始
10月24日 6区全景・遺構写真撮影
10月29～30日 7～1区掘立柱建物全景写真撮影
10月31日 7～2区表土掘削開始
11月12日 9区表土掘削開始
11月13日 7～2区全景写真撮影
11月14日 8区表土掘削開始
11月19日 5区南端より表土掘削開始
11月29日 6区・7区を中心現地説明会開催
12月2日 6区下層確認、縄文遺構精査開始
12月12日 7～2区掘立柱建物の完掘写真撮影
12月19日 5区遺構検出を開始
8区・9区の全般写真撮影
12月25日 6区下層全景・遺構写真撮影
平成27（2017）年
1月14日 8区・9区の全景写真撮影
1月28日 6区調査区北壁断削、土層確認
2月2日 5区全景写真撮影
2月5日 5区下層確認、現地調査終了
2月18日 撤収完了

【調査指導】（敬称略、所属は当時）
・2014年8月19日 杉山洋（奈良文化財研究所）
　出土鏡について
・2014年9月10日 外山秀一（皇學館大學）
　遺跡周辺の地形環境について
・2014年11月10日 山中敏史（奈良文化財研究所）
　官衙関連遺構、遺物について



第1図 遺跡位置図 (1:15,000、三重県市町共有デジタル地図に加筆)



第2図 朝見遺跡調査位置図 (1:6,000)

- ・2015年3月18日 泉拓良（京都大学）
調文土器について
- (4) 文化財保護法にかかる諸手続
本発掘調査に伴う法規上の手続きは以下の通り。
- ①文化財保護法第94条に基づく三重県文化財保護
条例第48条第1項
(土木工事等のための発掘に関する通知)
- ・平成22年9月9日付、松農環第4236-1号
(県教育長あて県知事通知)「周知の埋蔵文化財包
蔵地における土木工事等の通知書」
- ②文化財保護法第99条第1項
(発掘調査の着手報告)
- ・平成26年4月23日付、教理第28号
(県教育長あて県埋蔵文化財センター所長報告)

「埋蔵文化財発掘調査の報告について」

③文化財保護法第100条第2項

(文化財の発見・認定通知)

- ・平成27年3月2日付、教委第12-4435号

(松阪警察署長あて県教育長通知)

「埋蔵文化財の発見について(通知)」

(5) 普及公開

発掘調査成果説明会や普及啓発パンフレットの刊
行等の普及公開活動を行った。また、学校教員の研
修や中学生の職場体験を発掘現場および普及公開活
動の中で実施した。

2. 調査の方法

第1表 高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）に伴う埋蔵文化財調査一覧表

調査年度	範囲確認調査				発掘調査			報告書		
	遺跡名 (所在地)	確認面積	範囲確認 調査坑数	現状	調査期間	対応	遺跡名(次数)	調査面積		
平成22年度	朝見遺跡 (和田町)	162,000m ² (1,437m ²)	160ヶ所 (1,437m ²)	水田	2010/09/14～ 2010/10/06	要調査	朝見遺跡(第1次)	265m ²	工事立会	1
平成23年度	福町遺跡 (福田町)	123,020m ²	66ヶ所 (396m ²)	水田	2011/11/29～ 2011/12/27	要調査	朝見遺跡(第2次)	3,412m ²	本発掘調査 工事立会	1
	四常遺跡 (朝見町)	4,900m ²	3ヶ所 (18m ²)	水田	2011/12/14	施工可				
	大角遺跡 (朝見町)	1,060m ²	2ヶ所 (12m ²)	水田	2011/12/14	要調査				
	朝見遺跡 (立田町)	40,080m ²	29ヶ所 (248m ²)	水田	2011/12/14～ 2011/12/19	要調査				
平成24年度	中坪遺跡 (立田町)	131,000m ²	74ヶ所 (444m ²)	水田	2012/12/03～ 2012/12/08	要調査	福町遺跡(第5次)	4,396m ²	本発掘調査	2
	朝見遺跡 (立田町)	150,000m ²	55ヶ所 (330m ²)	水田	2012/12/11～ 2012/12/14	要調査	朝見遺跡(第3次)	236m ²	工事立会	6
平成25年度	朝見遺跡 (和田町)	187,000m ²	64ヶ所 (384m ²)	水田	2013/09/04～ 2013/09/13	要調査	福町遺跡(第6次)	5,463m ²	本発掘調査	4
							中坪遺跡(第1次)	1,955m ²	本発掘調査	3
							朝見遺跡(第4次)	452m ²	工事立会	6
							中坪遺跡(第2次)	1,100m ²	本発掘調査	5
平成26年度							朝見遺跡(第5次)	9,996m ²	本発掘調査	本書
							福町遺跡(第7次)	720m ²	工事立会	4
平成27年度							朝見遺跡(第6次)	8,545m ²	本発掘調査	6
							朝見遺跡(第7次)	5,742m ²	本発掘調査	未刊
平成28年度							朝見遺跡(第8次)	600m ²	工事立会	未刊
							中坪遺跡(第3次)	3,775m ²	本発掘調査	7
平成29年度							朝見遺跡(第9次)	620m ²	工事立会	未刊
							中坪遺跡(第4次)	64m ²	工事立会	7

報告書

- 三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡(第1・2次)発掘調査報告』2015年
- 三重県埋蔵文化財センター『坂町遺跡(第5次)発掘調査報告』2016年
- 三重県埋蔵文化財センター『中坪遺跡(第1次)発掘調査報告』2017年
- 三重県埋蔵文化財センター『坂町遺跡(第6・7次)発掘調査報告』2018年
- 三重県埋蔵文化財センター『中坪遺跡(第2次)発掘調査報告』2018年
- 三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡(第3・4・6次)発掘調査報告』2021年
- 三重県埋蔵文化財センター『中坪遺跡(第3・4・次)発掘調査報告』2022年

(1) 調査区の設定 (第2図)

今回の調査地は、平成28・29年度工事対象部分のうち、集落内道路・用排水路・ポンプ場敷設箇所を対象とし、多くの調査区が線状を呈する。また、調査区も遺跡各所に分散している(第2図)。

調査区は着手順に1~9区と名付け、各調査区の内部は枝番を付して管理し(例: 1-4区)、青銅鏡出土や大型掘立柱建物など重要遺構の調査にあわせ、適宜拡張した。

平面直角座標系は世界測地系を採用した。地区割(グリッド)は第1・2次調査で設定した。旧飯野郡主条里(N15°E)を主軸とする100m四方の大地区(A~M)を踏襲したが、調査範囲が広範囲に及んだため、遺跡全体を覆うよう大地区(ア~ワ)を追加した。大地区内は東西を1~25、南北をa~yに25分割した4m四方の小地区を設け、大・小地区とも、北西隅を基点とした地区名(例: テ-g25)を付与した。遺物の取り上げにはこのグリッドを用いている(第3図)。

(2) 遺構検出・掘削

表土から遺構面までの堆積土を重機(バックホー)で除去し、遺構検出・掘削は人力で行った。井戸の断ち割りや自然流路の掘削、一部遺物包含層の掘削においては、重機を補助的に用いている。

(3) 記録・図化

遺構実測は調査員による手測りである。遺構検出段階は小地区単位の1/40略測図(遺構カード)を作成し、これをもとに1/100の遺構配置図を作成した。遺構平面図・土層断面図については原則1/20で作成し、適宜その他の縮尺を適用した。これらの図面に加えて現場の作業日誌も当センターで保管している。

遺構番号は調査区ごとの通し番号とし、第5次調査の5を冒頭に付し、調査区(1~9区)の数字と3桁の通番を組み合わせている。今次以降は複数の調査区を2班同時並行で調査したためである。

(例)「SD 51002」の場合

= SD(遺構) + 5(次) + 1(区) + 002(通番)

なお、報告書作成にあたり、遺構番号の加除訂正を行ったが、原則として調査時の番号をそのまま用いている。

ビットの遺構番号は、当センターの調査標準に従い、小地区ごとの通し番号としているが、遺物実測図を掲載した掘立柱建物のビットについては、別に番号を付した(例: SB 57041-P1)。

遺構写真は、6×7判(モノクロ・カラーリバーサル)で撮影し、35mm判(モノクロ・カラーリバーサル)やデジタル1眼レフを補助的に用いた。使用したカメラは、6×7判:ペンタックス、35mm判:ニコンFM2、デジタル:ニコンD800Eである。遺物の写真撮影はデジタルカメラを用いた。

(4) 出土遺物の整理

出土遺物は出土年月日と遺構・層位の区別を行い、小地区単位で取りあげている。整理作業終了後は報告書掲載遺物およびその参考資料(A遺物)と未掲載遺物(B遺物)に区分して保存した。

保存処理は、A遺物の一部に限定した。金属製品は残りの悪い針などは保存処理していない。木製品は小型製品のうち機能が明確なもの、大型品は建築部材転用の井戸枠、曲物の良品に限定し、その他は樹種同定などの分析に供した。

3. 朝見上地区遺跡群

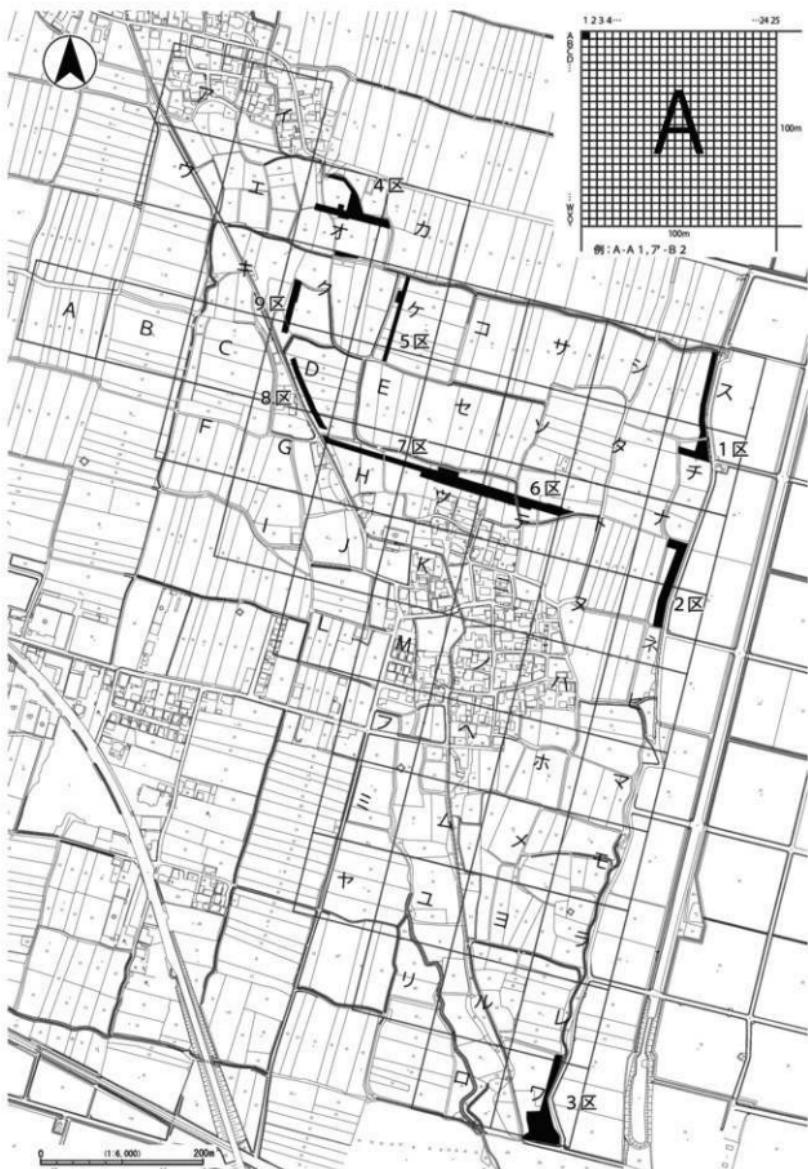
本書では、本ほ場整備事業で発掘調査した、朝見遺跡・堀町遺跡・中坪遺跡を総称するとき、便宜上「朝見上地区遺跡群」と呼ぶこととする。

Ⅱ章以降で述べるように、この3遺跡はいずれも櫛田川分流(名残川)の旧河道が形成した自然堤防上に立地し、縄文時代中期以来の地理的環境・歴史的展開とともに相互の関係が深いと認められるためである。

(櫻井)



写真1 7区での調査指導風景(山中敏史氏)



第3図 調査区位置およびグリッド割付図 (1:6,000)

II 位置と環境

1. 柳田川と沖積平野

(1) 遺跡の位置

朝見遺跡（1）は南北に細長く伸びた三重県のはば中央、松阪市立田町・和屋町にある縄文時代から中世の集落跡である（第4・5図）。遺跡は松阪市の中心市街地から約2km東方の田園地帯にあり、一帯には古代以来の条里型地割がよく残っていた（写真図版1）。今回のほ場整備においても、基本的にこの地割を踏襲するかたちで用排水路や田面の整備が行われている。下流域はほ場整備未施工であり、今なお条里制の息づくエリアである。

当地周辺の地理的・歴史的環境については、朝見上地区遺跡群の既刊報告書でも詳細に述べており、それらを再構成しながら、記述していきたい。

当地は柳田川とその支流・分流が形成した沖積平野（柳田川低地）にあたり、西を松阪市街地（松阪低地）、南を丘陵、東を明野台地に囲まれている。その母体となった柳田川は、高見山地を水源とし、上流では中央構造線に沿って流れている。下流は松阪・玉城丘陵に挟まれた低地を東に流下したのち、松阪市豊原町・早馬瀬町付近で広い平野に達し、伊勢湾に向かって北流する^①。

(2) 亂流する柳田川

一帯は今でこそ起伏の少ない平坦な地形となっているが、柳田川の流路は度重なる洪水で幾度も大きく変化し、特に右岸側に紡錘形の自然堤防を発達させている。特に、承和14（847）年頃と、永保3年（1083）に柳田川中流域を襲った大洪水は、多気・飯野の郡界が変わるほどの大規模な流路変遷を生ぜしめた。また、保安2年（1121）の台風による洪水は、東寺領大国庄（多気郡多気町弟国周辺）に基大きな被害を与えた。これらの災害が、柳田川下流域にも大きく影響したことは想像に難くない^②。

かつては現在の祓川が柳田川本流であり、伊勢神宮・斎宮との関係から、柳田川は神域の境界線と認識されていた（「神之近堀」）。これに対して「下穂小川」が「神之遠堀」と称された^③。「下穂小川」

は金剛川など堀町遺跡の西側を流れる小河川の通称ともされ^④、後述の「飯野・飯高郡条里絵図」には、金剛川が飯高・飯野郡の郡界として描かれている。

(3) 柳田川の分流

国土地理院の治水地形分類図（2014年更新版）によれば、この柳田川本流とは別に、松阪市和屋町・立田町・朝田町付近には、北西→南東方向に斜行する旧河道と、それに由来する自然堤防が細長く伸びている。また中坪遺跡（2）の位置する立田町から大宮田町・古井町に向かって北伸する、規模の大きな自然堤防が発達し、かつて松阪市豊原町付近から北西に流れた柳田川分流があったことがわかる。

現和屋集落付近は、旧河道に東西両側に挟まれた自然堤防（微高地）であると図示され（第5図）、朝見遺跡付近は、標高約6mと沖積低地としては標高が高いのが特徴といえる。

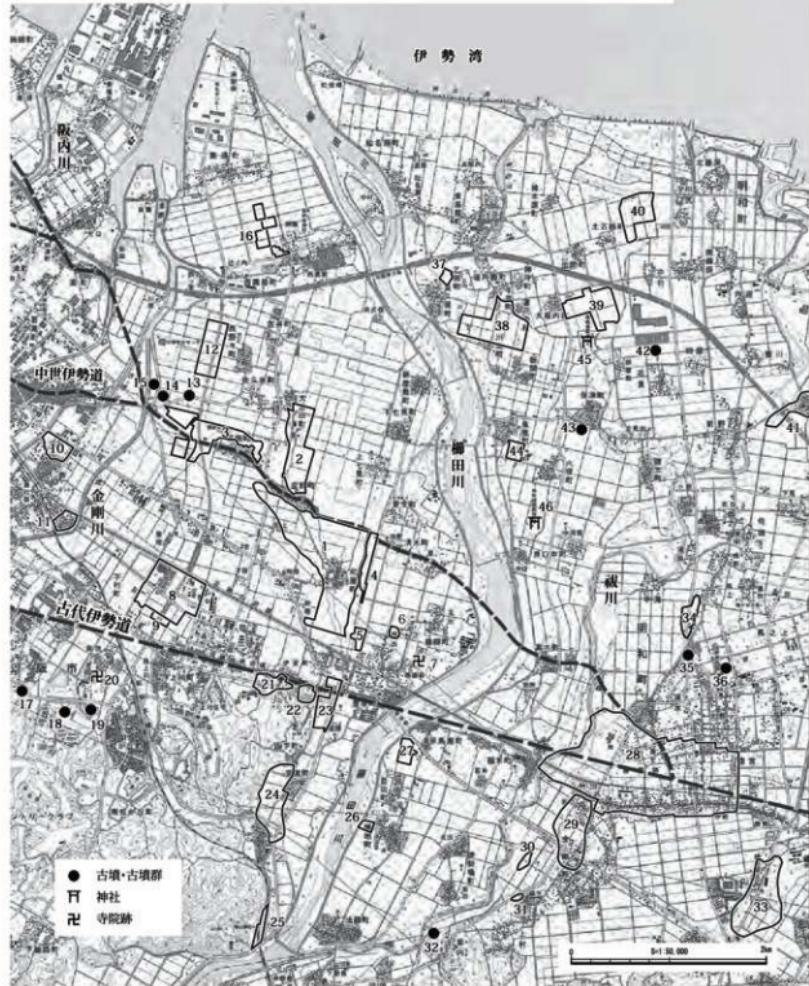
朝見遺跡の発掘調査では、この自然堤防に平行する方向の溝や流路が、弥生時代後・終末期以降、位置をわざわざ変えながら、現在まで連続と続くことが判明している^⑤。V章（自然科学分析）においても、当地的地形環境について詳しく検討しており、柳田川右岸に比べ左岸側は相対的に起伏が少ないと、基盤層・遺構埋土の堆積状況から、柳田川本流から切り離された名残川が存在し、右岸に比べて安定的な土地利用が可能であったと推測している。この名残川が基幹水路となり、各時代の開発を支えていたのである。

2. 先史時代の遺跡動向

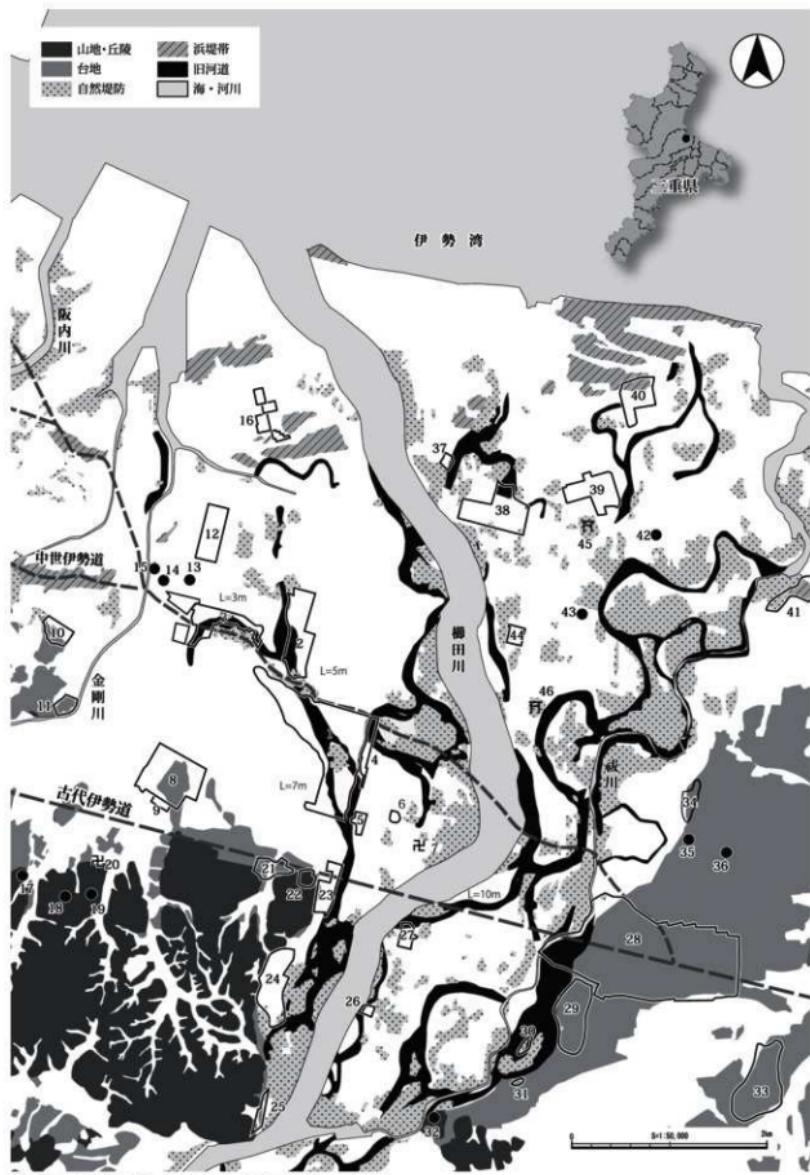
(1) 低地の縄文集落

近年の大きな調査成果として、堀町遺跡（3）・中坪遺跡・朝見遺跡で縄文時代中期中葉（咲烟式）から後期中葉（元住吉山I式）の遺構・遺物が出土し、およそ半径2kmの範囲に縄文時代中・後期の集落が点在している状況が判明した^⑥。なかでも、中期後葉～末の遺物量が突出して多い。朝見遺跡・堀町遺跡では石器炉や埋設土器などの遺構や、石皿など

1. 朝見遺跡 2. 中坪遺跡 3. 屋町遺跡 4. 瀧干遺跡 5. 大蓮寺遺跡 6. かん志ゆう道路
 7. 大雷寺廢寺 8. 村竹コノ遺跡 9. 甘子遺跡 10. 湾岸崎遺跡 11. 杉垣外遺跡 12. 御堂山遺跡
 13. 佐久米大塚山古墳 14. 丸山古墳 15. 雜塚古墳 16. 西黒部遺跡群(池ノ上遺跡・小狐遺跡・西黒部西山遺跡)
 17. 権現山1・2号墳 18. 坊山1号墳 19. 高田2号墳 20. 貴田寺廢寺 21. 丸野遺跡・中谷遺跡
 22. 天王山遺跡・天王山古墳群 23. 猿垣頭内遺跡 24. 山添遺跡・山添古墳群 25. 大川上遺跡 26. 横地西／垣内遺跡
 27. 古櫛通りB道跡 28. 斎宮跡 29. 金剛坂道跡 30. 寺組内遺跡 31. 繩糸道跡 32. 神前山1号墳 33. 北野遺跡
 34. 畠垣内遺跡 35. 板本古墳群 36. 東垣外古墳群 37. 東久保北浦遺跡 38. 川島遺跡 39. 服部遺跡 40. 南山遺跡
 41. 西浦遺跡 42. 北浦古墳 43. 狐塚古墳 44. 魚見下起道跡 45. 神服機殿神社 46. 神麻駆機殿神社



第4図 遺跡分布図 (1:50,000、国土地理院発行 1:25,000 数値地図に加筆)



第5図 地形分類図 (1:50,000、註5文献を一部改変)

定住を示す遺物が認められ、県内の臨海平野では初の成果として注目される。

第Ⅲ章で詳しく述べるように、沖積層（洪積層の可能性もある）は下部の砂礫層が大きく凹凸を見せており、微高地では比較的安定した居住が可能であったと推測される。

明和町西浦遺跡（41）では、基盤層と見られていた砂層中から里木式に相当する深鉢（埋設土器か）が出土した点も注目される⁽¹⁾。櫛田川下流域は伊勢湾沿岸の縄文研究の上で瞪目すべきフィールドとなりつつあり、遺跡の形成過程について、VI章で詳しく検討することとした。

（2）弥生時代の集落と墓域

弥生時代の櫛田川河口付近の海岸線については、遺跡の分布や浜堤帯の位置などから論じた石黒立人氏の研究があり、弥生時代の海岸線を、松阪市幸生町付近の浜堤帯と明野台地の先端を結ぶラインに想定している⁽²⁾。古墳時代以降の海岸線については、『万葉集』、『風土記』逸文の記述や松阪市南山遺跡（40）⁽³⁾の調査成果などから、かつて「的形」と呼ばれた胃袋状の潟湖が櫛田川河口部に存在し、外洋船も停泊可能な良港があつたとする説がある⁽⁴⁾。

ただし、朝見上地区では、中坪遺跡から北に向かって頗著な旧河道や自然堤防が北側へ向かって伸びており、その影響で海岸線が内陸側に進入しづらい環境があつたと予想される。

弥生時代の遺跡は、金剛川左岸から櫛田川にかけての段丘上に湧早崎遺跡（10）、村竹コノ遺跡（8）や天王山遺跡（22）など中・後期の集落が展開する。櫛田川低地においては、堀町遺跡で後期前半の集落が見つかっているのみで、後期以前の開発は低調であったといえる。

朝見遺跡、瀬干遺跡（4）では弥生時代終末期の方形周溝墓群が見つかっている⁽⁵⁾。これらの墓域に対応する集落は今のところ明確でないが、方形周溝墓の検出範囲は径1kmと広く、本来は複数の集落が点在していたのであろう。

（3）古墳の展開

櫛田川低地の主要な古墳築造は古墳時代中期に入つてからである。全国でも出土例が稀少な金銅装眉庇付冑（メトロボリタン美術館蔵）をもつ佐久米

大塚山古墳（13）の被葬者は、伊勢湾の海上交通にも関わった有力首長と目される⁽⁶⁾。

朝見遺跡付近では、明治末年に7基の古墳があり、その一つが本次調査区に接した「面塚」であると伝えられる⁽⁷⁾。

後期古墳では、丘陵裾部に金銅装馬具や振り環頭太刀を保有する山添2号墳（24）などがあり、6世紀後半の有力豪族の存在が知られる⁽⁸⁾。

3. 古道と条里の展開

（1）古代の飯野郡

古代の飯野郡は、7世紀に多気郡から分離され、一端神宮膝下から離れるが、8世紀末にふたたび神郡に加えられ、度会・多気郡と合わせて神三郡と称された。神郡内は祭主・宮司のもと、地方豪族である郡司や検非違使が統治し、加えて東寺領莊園や、在地寺院など雑多な勢力が利を競っていた。飯野郡域では、郡衙や下級官衙の様相は不明である。

堀町遺跡近辺は、のちの条里絵図に「長田里」の名があり、和名抄に記載された「長田郷」とみられる。朝見遺跡の付近は南北方向の七条・八条に相当し、具体的な里名は不詳である⁽⁹⁾。本次調査出土の墨書き土器「七西井」は、条里地割内の地名を示す可能性があり、重要な地名である（IV・VI章）。

（2）古代伊勢道と中世参宮古道

飯野郡域では、南側の段丘上に古代伊勢道が、平安時代後半から中世には、三渡川河口付近から浜堤帯を結び神宮へ至る中世参宮古道が所在していた。堀町遺跡も中世参宮古道の通過点にあり、街道沿いの朝田・立利・清水などの各郷には関が置かれ、関錢が徵収されていた⁽¹⁰⁾。

直線規格道であることを至上命題とした古代伊勢道に対して、中世参宮古道は地形に即した自然発生的な海沿いの道とみられるが⁽¹¹⁾。佐久米古墳群の立地などからみて、古代以前にも同様のルートが用いられていた可能性は高いといえよう。

（3）平安時代の朝見遺跡と堀町遺跡

その両者が接する衝地にあるのが、朝見遺跡であり、既往の調査で多数の重要遺物が得られている。列挙すると、平安時代前期、特に9世紀後半には初

期貿易陶磁、多数の緑釉陶器（緑釉緑彩含む）、大量の製塩土器、石帶、墨書き土器、転用硯、木製祭祀具などがある。これらの構成は櫛田川対岸の斎宮ともよく似ることから、斎宮寮の貴族・官人層が經營に関与した可能性が指摘されている⁽¹⁸⁾。また、平安時代中期には、今回報告する二面庇付大型建物（10世紀前半）を中心とした建物群があり、柱穴掘方の大きさは斎宮や国府にも匹敵し、この時期としては異例である。平安時代後期（10世紀後半）には、複数の青銅鏡が水辺祭祀に供されたほか、鏡出土地に隣接する大蓮寺遺跡で四面庇付建物や陰刻花文をもつ緑釉陶器が確認された⁽¹⁹⁾。

朝見遺跡はいわゆる官衙関連遺跡であるが、その性格を限定する文字資料を欠いている。しかし、方六町におよぶ規模、館（荘所）的な大型建物が広範囲に展開するなど、有力寺社の古代莊園に似た空間構成をとる点は注意される⁽²⁰⁾。

これに対して、堀町遺跡は墨書き土器や木製祭祀具が出土するという共通性はあるものの、緑釉陶器の少なさ、石帶など官衙的色彩の強い遺物に乏しいなど、遺跡の性格は朝見遺跡と若干異なる⁽²¹⁾。これら近隣遺跡を含めた遺跡の比較検討、一帯の景観の復原は、朝見上地区の調査を通じた重要な課題の一つである。

（4）櫛田川下流域の条里

飯野郡条里（N15° E）は、古代の伊勢道を基準線としており、松阪市西黒部付近まで広がっている。かねてより、飯野郡における条里施工の進展は、『沢氏古文書』内の飯野・飯高郡条里絵図が15世紀末の段階を示すものとされてきた⁽²²⁾。ところが近年、樋本紀昭氏は、当絵図の作成が13世紀に遡るという見方を示している⁽²³⁾。この説に拠れば、鎌倉時代には現況とさほど変わらない範囲に条里型地割が及んでいたこととなる。

朝見遺跡では、第1・2次調査の結果から、11世紀前半以降に現地表に遺存する条里坪境溝の開削が進んだと考えられており⁽²⁴⁾、坪境溝以外の条里方向の溝も、平安時代末以降のものが多いようである。一方、掘立柱建物の主軸から、「見えない条里プラン」も採用されていた可能性が高い⁽²⁵⁾。建物一帯の条里プランの諸段階や特徴を細かく明らかに

することが求められる。

4. 中世以降の集落

14世紀代には「太神宮法楽寺棚橋領」として「朝田郷・立理郷・宮田郷」など、当地付近の郷村名が史料上に現れ、中世においても神宮の脚下にあったことが知られる⁽²⁶⁾。

朝見上地区の朝田・立田（旧立利村）の現集落は、櫛田川分流の旧河道が形成した自然堤防上に立地し、中世参宮古道沿いに発達した街村的形態をとる。これに対し、和屋・上七見・下七見などは、条里型地割に即した方形の集村となっている（写真図版1）。朝見遺跡の中心は和屋集落上にあるが、中世参宮街道に面した朝田・立利（立田）・宮田などの郷村に比べると、史料上、単に字名や地名として登場するにとどまっており、中世集落の形成過程に差異がみられる可能性があろう。

和屋町では、集落内に戦国期の一石五輪塔や江戸時代の墓標をもつ集団墓地がみられ、室町時代以降、集村化していくと推測される。近世には津藩領、18世紀中ごろ（『宗国史』）には家数46、人数212という⁽²⁷⁾。

5. 近年の古気候研究との関係

近年の樹木年輪酸素同位体比を中心とした、高解像度の古気候復元研究は、古代・中世の村落や莊園研究に大きな影響を与えつつある。朝見遺跡の最盛期である平安時代は、9世紀以降温暖・乾燥となるが、10世紀、特に中葉は、数十年にわたって危機的な高温少雨の時期が続いたとされている。その後、11～12世紀に高温多雨の不安定な時期が訪れ、13世紀には寒冷・多雨となる⁽²⁸⁾。沖積平野の開発においては、こうした数十年周期の気候変動が大きく影響したと予想され、朝見上地区遺跡群の調査成果も、最終的にそれらと対照していく必要がある。

櫛田川流域では、承和14（847）年頃、永保3年（1083）の大洪水、保安2年（1121）の台風による洪水などがあり、14世紀以降もしばしば洪水の被害が訴えられている。東寺領大國莊園関係資料では、

史料上「堰長」とよばれる田堵や神宮綱宜ら在地勢力がその都度井堰や溝の復旧にあたり、徐々に権益を増やしていく様子がうかがえる。保安2年（1121）の台風による洪水では、耕地は甚大な被害を受けたが死者が少ないと注目され^[20]、気候変動の影響も一定織り込みながら、低地開発は進展していく。

一方、先史時代の気候変動についても、紀元前2300年ごろの寒冷化、いわゆる「4.2～4.3Kaイベント」などの顕著な気候変動の影響だけでなく、より細かな數十年周期の変動も視野に入れ、基盤層の形成過程や縄文～古墳時代遺構の動向を照応させていく必要がある。
(櫻井)

註

- (1) 山本威「棚川低地」『松阪市史』第1巻史料編（自然）、松阪市、1977年。
- (2) 水野章二「大国・川合荘」講座日本莊園史 6、吉川弘文館、1993年。
- (3) 『神宮雜令集』（編者未詳、13世紀初頭成立）
- (4) 平松令三編『三重県の地名』平凡社、1983年。
- (5) 三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第1・2次）発掘調査報告』2014年、同『朝見遺跡（第3・4・6次）発掘調査報告』2021年。
本書内で報告書未刊行の発掘調査成果について触れる際は、各年度の現地説明会資料、および三重県埋蔵文化財センター『水と大地といにしえの人びと～松阪市朝見地区の発掘調査から～2015年』に拠る。
- (6) 註5前掲および三重県埋蔵文化財センター『堀町遺跡（第6・7次）発掘調査報告』2018年。
- (7) 明和町教育委員会『西浦遺跡現地説明会資料』2014年。
- (8) 石黒立人「伊勢湾周辺地域における弥生時代の平野地形について」『愛知県埋蔵文化財センター 研究紀要』第7号、愛知県埋蔵文化財センター、2006年。
- (9) 松阪市教育委員会『南山遺跡発掘調査報告』1980年。
- (10) 徳富常昌「伊勢湾西岸域における古墳時代港津の成立」『考古学に学ぶⅡ』同志社大学考古学シリーズ刊行会、2005年、ほか。
- (11) 三重県埋蔵文化財センター『瀬戸遺跡』2000年。
- (12) 註10前掲。
- (13) 松阪市『松阪市史』第二巻史料編考古、1978年（原典は、大西源一「県下における古墳時代遺跡」『三重県史談会誌』第2巻第10号、1911年）。
- (14) 松阪市教育委員会『山添2号墳発掘調査報告書』1998年。
- (15) 奈良歴史博物館『奈王のおひざもと－奈宮をめぐる地域事情－』2006年／星野利幸「神三郡の土地利用について一条里復元を中心に」『奈宮歴史博物館研究紀要』16、2007年。
- (16) 伊藤裕偉「奈宮寮・伊勢道・条里」『奈宮歴史博物館研究紀要』13、2001年。
- (17) 伊藤裕偉「海岸線の変動と交通環境」『環境の日本史』2、吉川弘文館、2013年。
- (18) 註5前掲。
- (19) 三重県埋蔵文化財センター『大瀧寺遺跡（第2次）発掘調査報告』2014年。
- (20) 宇野隆夫氏のいう「有力寺社主導2型」を指す。宇野隆夫『莊園の考古学』青木書店、2001年。
- (21) 三重県埋蔵文化財センター『堀町遺跡』2000年／同『堀町遺跡（第5次）発掘調査報告』2016年／同『堀町遺跡（第6・7次）発掘調査報告』2018年。
- (22) 谷岡武雄「飯野・多気郡の条里制」『伊勢湾沿岸地域の古代条里制』東京堂出版、1979年。
- (23) 稲本紀昭「飯野・飯高郡条里図について」『三重県史研究』26、三重県、2011年。
- (24) 註5前掲。
- (25) 金田章裕『微地形と中世村落』吉川弘文館、1992年。
- (26) 註4前掲。
- (27) 註4前掲。
- (28) 伊藤啓介・田村憲美・水野章二編『気候変動と中世社会』臨川書店、2020年。
- (29) 註2前掲。

III 遺構

1. 基本層序と微地形

(1) 基本層序

当地の基本層序は以下の通りである。調査区間の層序の対比は、土層柱状図（第7図）に示した。

I : 現代作土（耕土）

II : 現代作土（床土等）

III : マンガン粒を多く含む灰褐色シルト

中世以降の水田耕土に由来するものと推測される。弥生時代～中世の遺物を包含。

IV : 弥生時代～鎌倉時代遺構の基盤層

黄褐色系シルトや砂を主体とし、層中・層間に縄文時代中期下葉（啖煙式）～後期前葉（北白川上層式）の遺構・遺物を含む。

縄文時代の遺物は、上位の黒褐色～褐色系シルト（古土壤）の前後に多くみられる。

V : 極細（粒）砂～粗砂層

無遺物層である。

VI : 砂礫層

無遺物で、遺跡中央から東側の基盤層下部に広く認められる。

なお、この基本層序は遺跡中央の微高地を中心としたものであり、遺跡の各所で大きく変化している。

(2) 調査地の微地形・埋没地形

ここでは、ほ場事業に伴うボーリング地質図¹⁰⁾や発掘調査区の土層柱状図から、調査地の微地形・埋没地形について概観する。なお、遺跡周辺の地形環境については、V章（自然科学分析）でも地理学的観点から詳述しているので併せて参照されたい。

①表層の地形

朝見遺跡は、調査地東側の1・2区は地表高約6.5m、調査地西側の8・9区は約5.8m、遺跡南東部の3区は約7.8mで、地形は南東から北西に向かって緩やかに傾斜している（第6図）。今回の調査地は概ね微高地にあたり、遺跡西部の低地（1・2次調査地）とは、約50cm～1mの比高差がある。

現和屋集落付近は旧河道の痕跡などで条里型地割が乱れるが、その他の場所では条里型地割が貫徹さ

れ、水田として利用されている。旧河道付近は畠地もみられる。

②地質ボーリングからみた埋没地形

埋没地形は第6図に示す。遺跡近辺のボーリングデータによれば、標高4～5m付近で「更新統（洪積層）」に達し、これが緩やかに西～北西へと傾斜している。

完新統（沖積層）はシルト・砂などを主体とする上部（Ac・As層）と、標準貫入試験N値50以上の固い砂礫層（Ag層）の下部に大別される（完新統・更新統の区分は註1文献によるが、堆積年代については検討を要する）。

下部砂礫層は厚さ5m以上で、大きくは東から西へと傾斜する。完新統上部は厚さ2～3mほどの砂・シルトで、下部砂礫層の凹地を埋め、現況の平坦な地形を形成している。堀町遺跡・朝見遺跡の発掘調査結果から、完新統最上部は縄文時代中期～弥生時代後期以前の堆積と推測される（VI章）。

こうした完新統の層序は、堀町遺跡付近（松阪市朝田町）¹¹⁾、中坪遺跡付近（松阪市大宮田町）¹²⁾、琵琶島内遺跡付近（松阪市日田町）¹³⁾のほか、櫛田川右岸（松阪市六根町）¹⁴⁾でも確認でき、櫛田川下流平野に概ね共通すると考えられる。

朝見遺跡内では、遺跡東側（1区付近）で下部砂礫層がより高く、遺跡中央（4・9区付近）まで標高0～1m前後の高さを保っているが、朝見遺跡の西から堀町遺跡の南（断面図④⑤地点）は下部砂礫層が落ち込み、上部の砂・シルト層が分厚くなっている。

なお、断面図②③地点（本次調査4・9区付近）は特に砂（As）が卓越しており、微高地の形成過程や旧河道の位置を考える上で示唆的である。

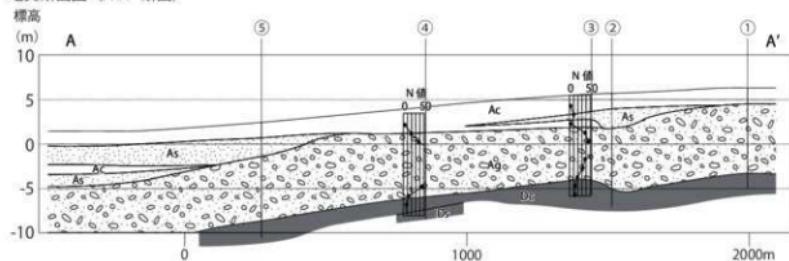
③各調査区の基盤層

次に、各調査区の下層確認や井戸掘削時に確認した基盤層の状況を見ておきたい（第7図）。

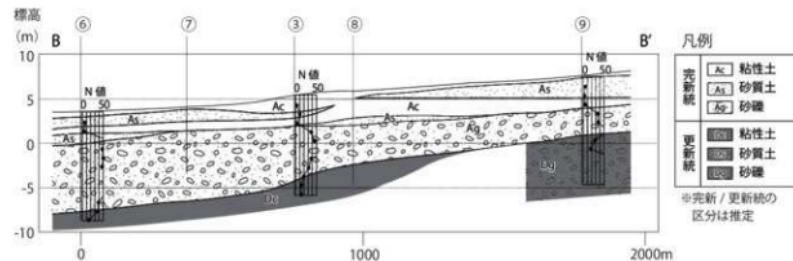
弥生時代～中世の遺構は現代作土・床土のほぼ直下で検出された。7-2区・8区など基本層序Ⅲ層を介在するところもあるが限定的である。基本層序Ⅳ層は



地質断面図（A-A' 断面）



地質断面図（B-B' 断面）



第6図 遺跡周辺のボーリングデータ（縮尺任意）

シルト、砂質シルト、極細砂が主体で、やや上位に腐植質の古土壤（いわゆる暗色带）が認められる。この古土壤前後に縄文時代中・後期の遺構・遺物が認められ、各層下面に植物の生痕もみられる。

3区（柱状図⑩）では、黒ボク土とみられる黒色シルトが厚く堆積しており、同層は遺跡北西の9区南側下層にもみられる。この黒色シルトは1・2次、6次、7次調査でも確認されており、層中に広域テフラK-Ahを含んでいる。6次調査での年代測定結果や本次調査の土壤分析結果（V章）から、縄文時代前半期の朝見遺跡の地形環境を知る上で極めて重要なと考えられるので、これらの詳しい形成過程は、V・VI章で改めて論じたい。

基本層序VI層（砂礫層）は、3区黒色シルトや縄文遺物・遺構との層序関係から、前述のボーリング調査で把握された「下部砂礫層」に相当するものであろう。

基本層序V・VI層は、遺跡中央～東側で把握したが、遺跡西側はシルトや泥炭状の堆積が顕著となり、地形が西側へ落ち込んでいくか、西側へ向かって堆積物が側方細粒化したとみられる。つまり、基本層序V・VI層の時期においても、遺跡中央から東部が微高地、西側が低地であったと推測され、基盤層の埋没地形が現代まで影響していることがわかる。

なお、5区では、標高3m付近で基本層序VI層に対応する可能性のある砂礫層に達したため、直上の堆積物（炭化材）をC14年代測定に供したが、縄文後期相当の年代値が得られたため、当該砂礫層が基本層序VI層に対応するとの確証は得られなかった。5区付近には、局所的な谷（埋積浅谷）が存在した可能性があろう。

基本層序VI層の砂礫層は、古代・中世の井戸の基盤となっているが、遺跡中央から東部は全体的に地下水位が低く、地表から約2m掘り下げなければ湧水がみられない。いったん埋没した遺構は、常に好気的な環境下にあるため、5次調査では有機質遺物が非常に少ない。

航空写真（写真図版1）では、朝見遺跡周辺にやや白く映る箇所があり、基本層序VI層の凸地がソイルマークとして白く表れたものと推測される。

2. 検出遺構の概要

今回の調査では、縄文時代から中世の遺構を約350基検出した。

弥生時代～中世の遺構はすべて基本層序IV層上面で検出し（上層遺構）、IV層中・層間で縄文時代中～後期の遺構・遺物を確認した（下層遺構）。

上層遺構は、遺構検出面までの深度が非常に浅いため、古代・中世の水田畠畔などは削平されたとみられる。また、室町時代（南北朝期含む）～戦国期の遺構は非常に希薄であった。

下層遺構は、大半が土壤化作用により消失したとみられ、層中の遺物集中や埋設土器・石壙炉などの構造物、炉跡（被熱面）として把握したものが多いため、堆積条件により遺構の掘方を明確に認識できた地点もある。

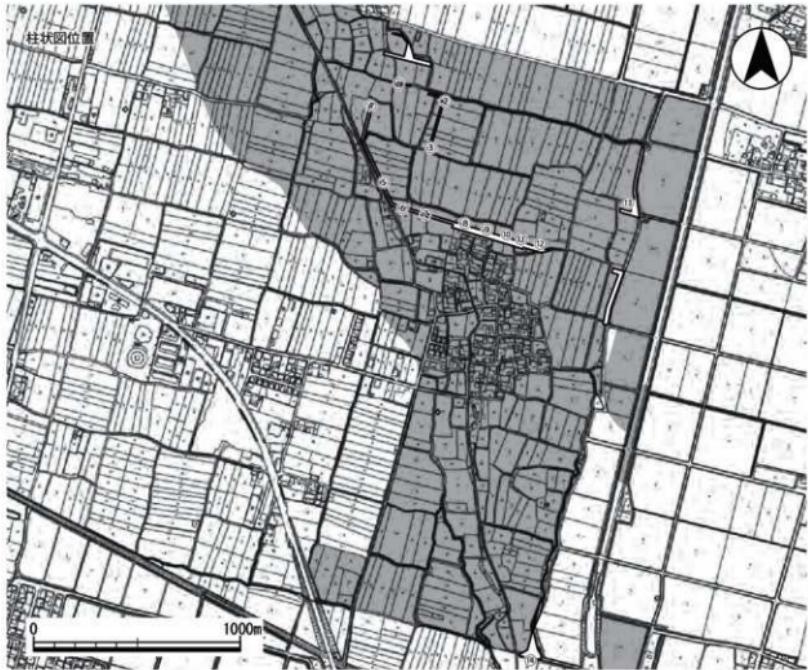
以下、調査区ごと、遺構番号の順に記述する。

なお、文中の時期区分について、弥生・古墳時代移行期の時代・時期区分はやや煩雑なため、濃尾平野の廻間I～II式併行を弥生時代終末期、廻間III式以降を古墳時代前期として扱う。

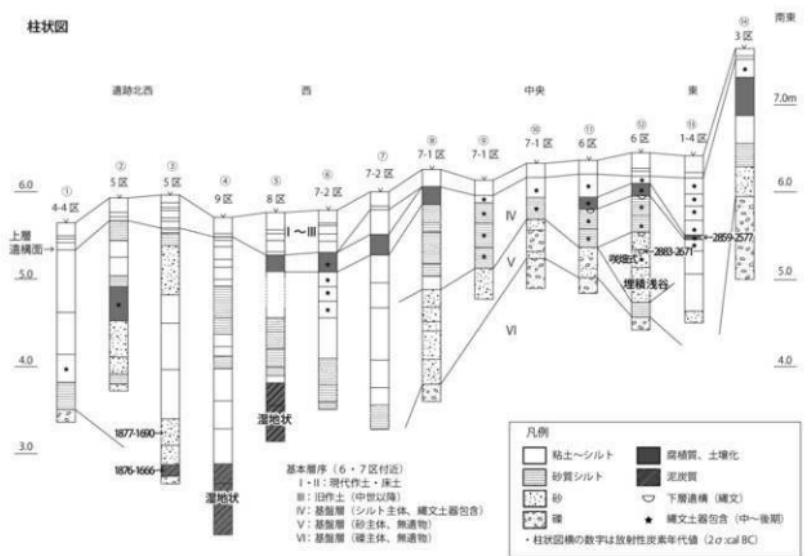
平安時代は斎宮跡の土器編年^⑩に即し、前（II-1～3段階）・中（II-4段階）・後期（III期）に区分する。斎宮跡の土器編年は2018年に更新されたが、朝見上地区遺跡群の既刊報告書との対応を図るために、本書では2001年の斎宮編年を用いたので注意されたい。

平安時代末以降は、南伊勢系土師器を中心とした中世土器の時期区分^⑪に従い、中世I～IV期と表記する。概ね中世I＝平安時代末、II＝平安時代末～鎌倉時代、中世III＝南北朝期～室町時代、中世IV＝戦国期に相当する。詳しい曆年代観などは、凡例にも示したのであわせて参照されたい。遺構の詳細は、末尾の遺構一覧表（第2表）に記した。

掘立柱建物の軸方向を表す際は、飯野郡条里地割（N15° E）との関係を示すため、南北軸を便宜的に主軸とし、北からの東西偏角で示した（例：N 5° E、N 15° W）。棟方向は東西棟、南北棟などと呼称する。



柱状図



第7図 土層柱状図 (縮尺任意)

3. 1区（第8～18図）

（1）概要

遺跡東部の調査区で、南北に長い北側を1-1～1-3区、逆L字形の南端部分を1-4区とした（第8・9図）。7次調査1区が西接する。1-1～1-3区は大半が条里坪境溝であるSD 51002にあたり、東接する現水路への影響が懸念されたため遺構は部分的に掘削に留めた。1-1～1-3区では、他に弥生～古墳時代の溝や方形周溝墓などが認められる。

1-4区は平安時代のピット・条里方向の溝・井戸などが多い数みられたが、掘立柱建物を構成する柱列は明確でない。このほか、同一面上で弥生時代後期～終末期の方形周溝墓を2基確認した。

上層遺構は現代作土・底土直下（地表下30cm）の浅黄色砂質シルト層上で検出した（第10・11図）。

なお、上層遺構掘削中に縄文土器が多数認められることから、下層確認を行い遺物の包含状況を確認した。縄文時代の遺物は1-4区西壁5層以下にみられ、9層（黒褐色砂質シルト、第11図）の前後に特に多かったため、9層上までを重機で除去した後、人力により精査し遺物集中を確認した（S Z 51046）。また、西壁土層から土壤分析・年代測定用サンプルを採取した（V章）。

下層確認は1-4区西端、1-1区北端でも実施したが、黄色系シルト層中に若干の縄文土器片を認める程度であった。1-1区西壁10層は有機物は少ないものの、下面に生痕が著しく認められ、土壤化作用は強かつたようである。なお、西側の7次調査1区でも縄文時代の遺物等を確認している。

（2）上層遺構

SD 51001（第12図、写真図版6）1-4区東側を条里方向に走る大溝で、幅約4m、深さ1.5m前後を測る。北端は中世の溝SD 51002に切られる。断面観察から、3段階の変遷が想定され、徐々に規模を小さくしていくとみられる。

遺物は主に上層から出土した。奈良時代の遺物が目立つが、遺構の切り合いから、平安時代の中で廃絶した溝と考えられる。

SD 51002（第12図、写真図版7）1-1～1-4区を南北に縱断する大溝である。1-4区北側ではT字状に

分岐し、1-3・4区では大きく蛇行する。東岸の大半が調査区外で全幅は不明だが、幅10mを超えるものである。埋土は粗砂や粘砂が主体である。

平安時代末～鎌倉時代の陶器が出土しており、中世に開削された条里坪境溝であろう。現代の水路沿いにあり、長期にわたり機能した水路であったと推測される。

SD 51003 1-4区西端で検出した弧状に巡る溝で、幅40cm、深さ10cm程度の浅いものである。土師器の小片が出土している。

SD 51004 1-4区西端で検出した溝である。両端は調査区外に延びるため全体の形状は不明であるが、若干湾曲する。幅40cm、深さ40～50cmを測る。

SD 51003より後出でSD 51005に切られる。出土遺物はSD 51007からの混入とみられる。

SD 51005（第13図、写真図版7）1-4区で検出した溝である。幅約1m、深さ30cm、深いところで60cmを測る。調査区西端から北東に23m程直進し、L字状に屈曲して北へ向きを変え、調査区北側でSD 51002に切られる。平安時代の土師器杯が比較的多く出土した。

SD 51006 1-4区西端で検出した。SD 51007と完全に重複するが、それより後出のものである。遺構の大半が調査区外にあり詳細は不明である。溝としているが大型の土坑かもしれない。

SD 51007 1-4区西端を北西から南東へ走る溝である。幅1m、深さ50cmを測る。埋土は3層に分かれ、最下層は砂層である（第11図）。

弥生～古墳時代の土師器片が出土している。

SD 51010・51019 1-4区西部で検出した条里方向の溝で、大半をSD 51011に切られる。幅は40～80cm、深さ約20cmと浅い。土師器碗等が出土している。

SD 51011（写真図版6・7）1-4区西部で検出した条里方向の溝である。幅約2m、深さ約1mの深い溝で、西肩部の立ち上がりが非常に急である。砂質シルト・シルトで埋設する（第11図）。比較的多くの遺物が出土している。

SD 51012 1-4区中央部、SD 51001に西接する浅い溝である。幅1～1.5mを測り、深さは東側が1段深く約30cmを測る。土師器甕や須恵器杯・蓋片が出土している。

S D 51016 1-4 区東端を南北に延びる小規模な溝である。深さは 10 cm 程度の浅いものである。付近に S D 51014・51015 など同種の素掘溝がみられる。

山茶碗などが出土しており、中世の耕作に伴う遺構と考えられる。

S X 51017 (第 14 図、写真図版 8) 1-4 区東部で検出した弥生時代後期後半～終末期の方形周溝墓である。東半は S D 51002 に切られる。

周溝は幅約 1.5 m、深さ約 70 cm で、墳丘側が一段深く、肩部の立ち上がりも墳丘側が非常に急である。周溝内寸で一辺約 6.5 m、周溝の外寸で約 9 m を測る。陸橋部は未検出で、埋葬施設および墳丘は残存しない。周溝北側は S D 51024 と重複しており、S D 51024 付近に別の方形周溝墓が存在した可能性もある。

遺物は上～中層（第 14 図 1・7・8 層）から出土しており、西周溝・南周溝では高杯脚部が出土した。

S K 51018 1-4 区中央部で検出した土坑である。西半を S D 51001 に切られ全形は不明であるが、一辺約 1 m の方形土坑であろう。

埋土には土器を含まず、炭を多量に含む。注意深く精査したが、火葬骨片などはみられなかった。

S D 51019 1-4 区西で検出した溝である。大半を S D 51011 に切られているが、幅 40 cm、深さ 20 cm 程度で、弧状に湾曲する。S D 51010 と同類の溝であろう。

S D 51020 (第 13 図、写真図版 7) 1-4 区中央で検出した溝で、S D 51005 に切られる。S D 51011 付近から S D 51029 付近へ向かっている。幅は約 1 m、深さ 40 ~ 60 cm で、下層は砂・上層はシルトで埋没する。

主に下層から、弥生時代後期の土器や古墳時代中・後期の台付甕が出土しており、古墳時代の遺構とみられる。

S D 51021 (第 13 図) 1-4 区で検出した浅い溝である。S D 51011 から派生して屈折しながら、東端は S D 51001 にぶつかる。埋土は極細砂やシルトで、土師器小片が若干出土した。

S Z 51023・S D 51024 S D 51017 北端付近は遺構が錯綜しており、当初、奈良時代の遺物を含む S

Z 51023 として全体の精査を進めた。その後、S D 51017 の北端部及び S D 51024 を検出した。

S D 51024 は延長約 2 m、幅 40 cm、深さ 40 ~ 70

cm の溝である。

S K 51025 1-4 区中央部で検出した直径 60 cm の不整円形を呈する土坑である。深さ 10 cm 程度の浅いものである。埋土には若干の土師器片の他に炭を含む。

約 5 m 南東に位置する S K 51018 も炭を含むことから、それと同様の遺構かもしれない。

S E 51028 (第 16 図、写真図版 5) 1-4 区北西端で検出した平安時代前期の井戸で、最上部は S D 51002 に切られる。掘方は直径約 3 m の不整円形で、中央やや東に一辺約 60 ~ 70 cm の方形井戸枠を設ける。

井戸枠は上部の井戸枠・土居枠とやや向きの異なる土居枠が下部に別にあり、掘方埋土にも井戸枠材が含まれていることから、当井戸は一度改修された可能性が高い。

井戸枠上部は縱板・横板組で、三枚組接ぎの土居枠の外側に縱・横板を添えたものである。井戸枠材は腐食著しいが、建築部材からの転用が一定含まれるとみられる。下部は土居枠のみ残存し、丁寧に表面調整された板材を相欠きして組み合わせ、その上に欠き込み仕口のある横板ないし横桟を組んでいる。下部西側には、井戸枠製作時に切断した端材を裏込めとして充填していた。

枠内の中央には直径約 60 cm のニッケイ属を割り抜いた水溜を設置する。最下部はチョウナで薄く削られ、湧水層に打ち込んだようである。また、西側 1ヶ所に水通しの欠き込みがある。水溜と土居枠の間は裏込めの礫を充填している。

掘方・井戸枠内埋土から 9 世紀前半の土師器や灰釉陶器など多くの遺物が出土している。また、井戸枠内から比較的残りの良い球胴の土師器壺が出土しており、釣瓶として用いられたものかもしれない。

なお、井戸枠内埋土を土壤分析に供した（V 章）。

S X 51029 (第 15 図、写真図版 9) 1-4 区北部で検出した方形周溝墓である。西半分は調査区外にあり、北端は S D 51002 に切られ全形は不明だが、南周溝が西壁付近で途切れおり、南側に陸橋部が想定できる。このことから、周溝内寸で一辺約 7 ~ 8 m の規模に復原できよう。

南側周溝は深さ約 70 cm で、東側周溝中央で深さ約 40 cm と浅くなり、北側へ向かって再度深くなる。

埋土は砂質シルトで、中層はマンガンを多く含む。

南側周溝中層から広口壺（100）が出土した。

S D 51031 1-1 区中央部を南西から北東へ直線的に延びる小溝である。幅 40 cm、深さ 20 cm で土師器小片が出土した。

S D 51032 - 51035 - 51037 1-1 区中央部で検出した小溝群で、耕作に伴う素掘溝であろう。

S E 51036 (第 16 図、写真図版 7) 1-1 区で検出した遺構で、埋土断面観察の結果、戸門の可能性が高いと判断した。東側は S D 51002 に切られ不明であるが、掘方は一辺 3 m の不整形である。

井戸枠は抜き取られ残存しないが、埋土の状況から幅 1 m 程度の規模と推測され、南側には別の掘方埋土が認められることから、1 度以上の改修を経ている可能性が高い。

出土遺物はいずれも先行する S X 51042 からの混入とみられ、遺構の時期は明確にしがたい。

S D 51038 - 51039 1-1 区南部で検出した。調査区の大半を S D 51002 が切るため、確認できた範囲は狭いものの、S D 51038 は北西から南東へ延びる溝と思われる。幅は約 2 m、深さは 20 cm 程度と浅い(第 10 図)。土師器片が若干出土した。

南側の S D 51039 とは方向を直角に違えるため、一連の溝である可能性が高い。

S D 51040 1-1 区南部で検出した。南西から北東に延びる溝で、形状や埋土は S D 51038 と酷似する。

S X 51042 (第 17 図、写真図版 4) 1-1 区で検出した弥生後期後半の方形周溝墓である。

S D 51002 や S E 51036 により大半が失われ、全形は不明であるが、西側周溝と北側周溝の一部が残存しており、周溝北西隅が途切れるタイプの方形周溝墓と判断した。

規模は周溝内寸で一辺約 8 m と推定され、1-4 区で検出した 2 基の方形周溝墓よりもやや大きいものである。周溝は幅約 2.3 m、深さ 80 cm で、埋土はシルト単層である。

溝底からわずかに浮いた状態で多くの土器が出土している。高杯や短頸壺・直口壺は完形またはそれに近いものが含まれる。

S D 51043 (第 12 図) 1-3 区で検出した。大半を S D 51002 に浸食されているため、その掘削の途中で検出することができた。

幅は 6 m 以上、検出面からの深さは 60 cm 程度で、幅に比してかなり浅いものである。S D 51002 が大きく蛇行する地点であり、出土遺物の時期差もないため、S D 51002 の一時期の流路筋と考えられる。

S D 51044 (第 12 図) 1-3 区東側で検出した。大半が調査区以外で、上部は S D 51043・S D 51002 に切られており詳細は不明である。溝ではなく土坑かもしれない。埋土は S X 51042 と同じ褐色シルトで、弥生～古墳時代の遺構である可能性が高い。土師器小型器台や 6 ~ 7 世紀の甕が出土している。

(3) 下層遺構

S Z 51046 (第 18 図、写真図版 10・11) 1-4 区北部で確認した縄文時代中～後期の遺物集中である。

遺物は、1-4 区西壁 9 層（黒褐色砂質シルト）と直下の 10 層（明黄褐色シルト）に多く含まれているが、層の上下関係と遺物の時期の前後関係、黒褐色砂質シルトの範囲と遺物の出土範囲は一致しない。

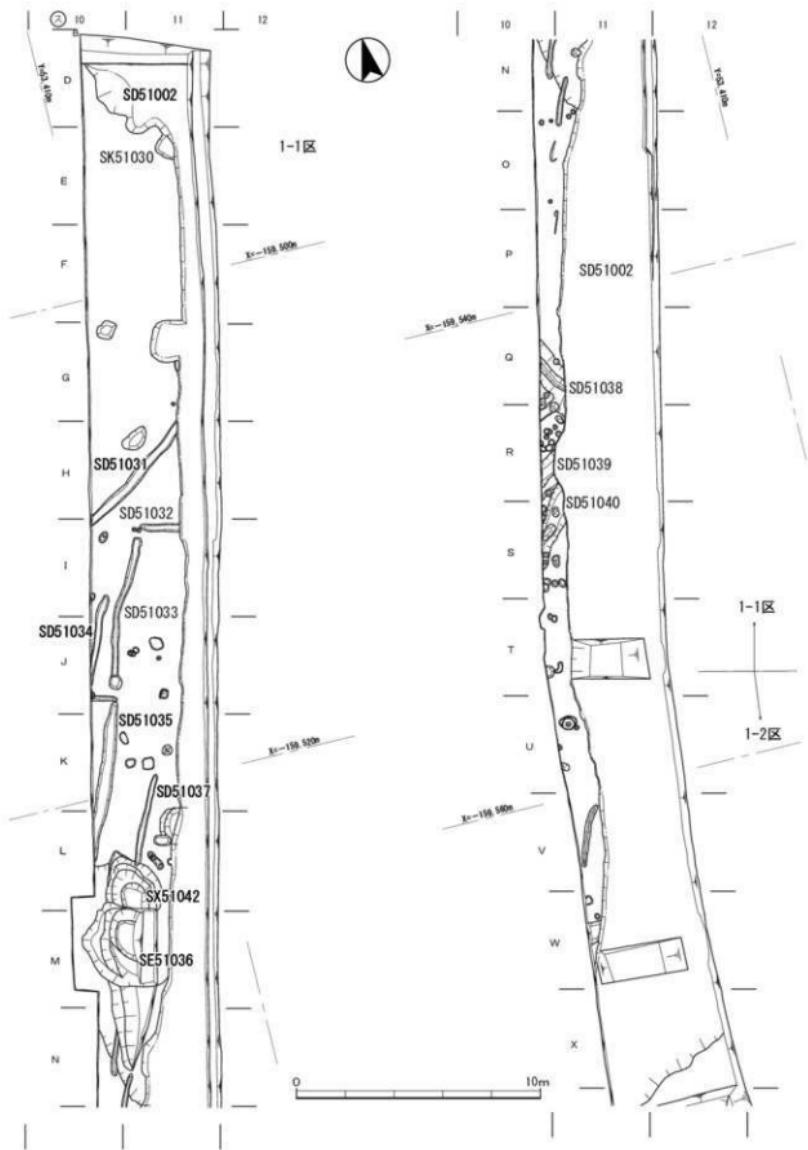
南北 10 m、東西 6 m の範囲に土器や礫が散布するが、小規模な土器集中ないし環状の遺物散布が複数あり、本来は竪穴住居や土坑、石窯などが存在したと推測される。特に取上 No 22 周辺は遺物量が多く、残りの良い土器が複数みられる。取上 No 7 付近も土器が多い。礫群 1・4・5 は 10 ~ 20 cm 大の礫集中で、石窯の残渣などであろう。礫群 2・3 は小礫の集中である。取上 No と遺物番号の対応は第 18 図を参照されたい。

土器は縄文時代中期末が主体で、後期初頭～前葉のものも若干認められる。礫は全て回収し、室内で選別したが、石器は數点しか含まれていなかった。

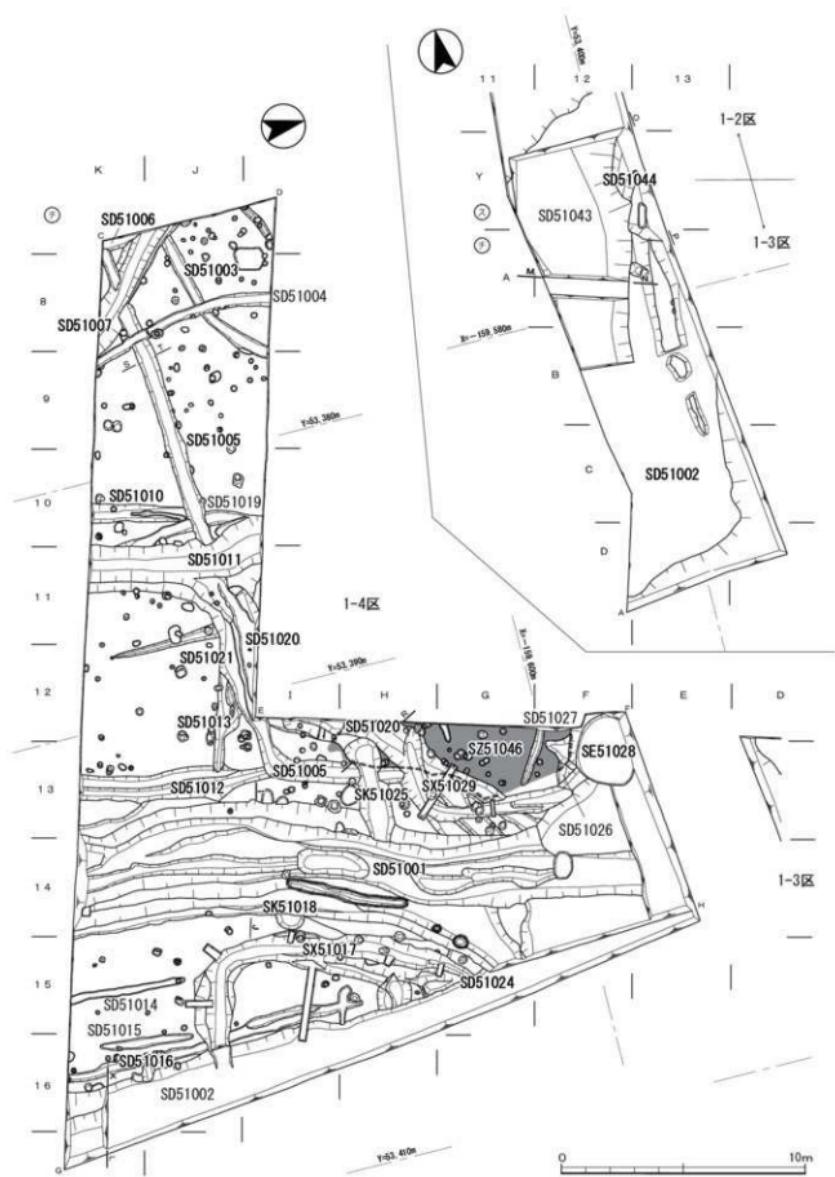
西壁 9 層除去後、10 層（明黄褐色シルト）上面を精査したが、遺構の平面プランを確認することはできなかった。11 層以降は遺物が出土しなかったため、重機で掘り下げ、13 層（基本層序 VI 層の砂礫層）に達したところで下層調査を終了した。

1 区調査の時点では、縄文時代の遺跡形成過程に関する知見が不足していたため、6 区のような各層の上面精査は実施していないが、11 層上で遺構が検出できた可能性があろう。

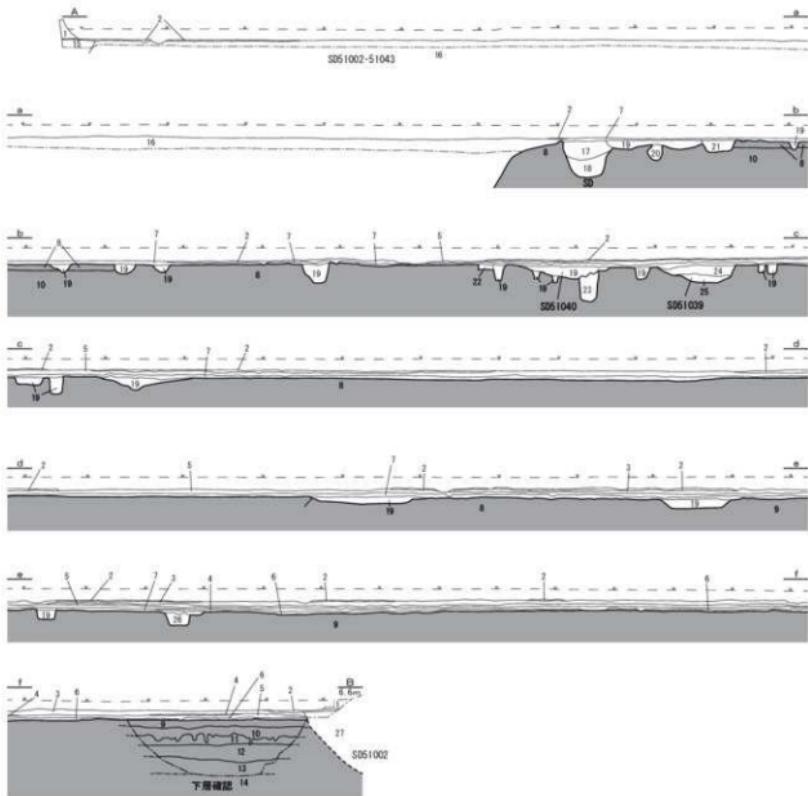
なお、S Z 51046 掘削中に 9 層から回収した炭化材を C 14 年代測定に供し、 $4105 \pm 25 \text{ yr BP}$ ($2859 \pm 257 \text{ cal BC} \pm 2 \sigma$) の年代値を得た (V 章)。



第8図 1区構造全体図① (1:200)



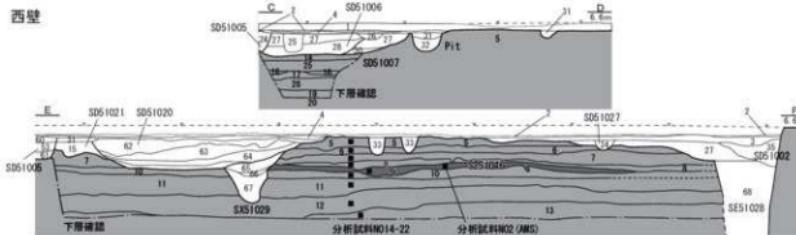
第9図 1区造構全体図② (1:200)



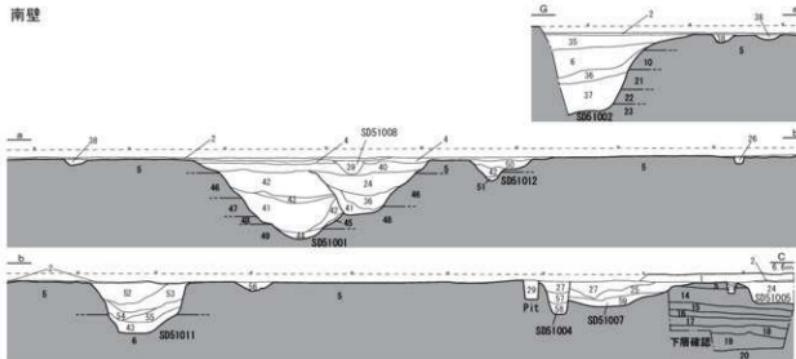
1. 2.5Y5/2 晴灰黄色粘质土<耕作土>
 2. 10Y8E/6 明黄褐色沙质土<底土>
 3. 2.5Y7/2 晴黄色砂质土 (マンガン多含) <旧耕作土>
 4. 2.5W/6 明黄褐色沙质土<旧底土>
 5. 2.5W/1 黄灰色沙质土 (マンガン多含) <旧々耕作土>
 6. 2.5W/4 にぶい黄色沙质土<旧々底土>
 7. 2.5Y5/2 增灰黄色沙质土 (マンガン多含) <旧々耕作土>
 8. 10Y8E/1 鹅灰色粘土质沙质土<基盤層>
 9. 10Y8E/1 鹅灰色粘土质沙质土 (上面に鉄分集積・織文土器含)
 10. 2.5Y5/3 にぶい黄色沙质土 (生痕著しい・織文土器含)
 11. 2.5W/4 にぶい黄色沙质土 (マンガン多含・織文土器含)
 12. 2.5Y5/3 黄褐色沙质土
 (直徑1cmの侵化物主ばらに含む・織文土器含)
 13. 2.5Y4/2 晴灰黄色粘质土
 14. 2.5Y5/1 黄灰色粘质土 (直徑3cmの大縫多含)
 15. 10Y5/1 灰色粘质土 <SB51002・51043底土>
16. 2.5Y6/2 灰黄色细砂 <SD51043埋土>
 17. 10Y8E/2 灰黄褐色粘质土 (マンガン多含)
 18. 10Y8E/2 灰黄褐色沙质土
 19. 2.5Y6/2 灰黄色粘质土
 20. 10Y8E/1 棕灰黄色粘质土
 21. 2.5Y6/2 灰黄色粘质土 (マンガン多含)
 22. 2.5Y7/2 灰黄色粘质土
 23. 2.5Y6/4 にぶい黄色粘质土
 24. 2.5Y6/3 にぶい黄色粘质土 (マンガン多含) <SD51039埋土>
 25. 2.5Y6/2 灰黄色粘质土沙质土 <SD51039埋土>
 26. 10Y8E/1 鹅灰色沙质土 <SD51031埋土>
 27. 2.5Y6/1 黄灰色粗~細砂 <SD51002埋土>



第10図 1-1 ~ 1-3区西壁土層断面図 (1:100)



南壁



1. SY5/1 黄灰色粘質土(鉢作土)

2. SY5/6 明黄色色シルト(床土)

3. 2.SY5/2 灰黄色砂質土(下耕作物)

4. 10Y5/5 暗灰色シルト(マンガン多含)(包含層)

5. SY7/4 淡黄色砂質シルト(マンガン多含)(基盤層)

6. 2.SY6/2 灰黄色砂質シルト

7. 2.SY5/4 黄褐色色砂質シルト

8. 10Y5/3 にぶい黄褐色シルト(0.5cmの炭・礫・織文土器含)

9. 10Y5/1 黑褐色色砂質シルト(0.5cmの炭・礫・織文土器含)

10. 2.SY6/6 明黄色色シルト

11. 2.SY6/3 オリーブ黄色細緻砂

12. 2.SY5/3 黄褐色色シルト(下部は極細砂多含)

13. 2.SY5/3 黄褐色色細砂(3~5cmの炭多含)

14. 2.SY6/2 にぶい黄褐色砂質シルト(マンガン多含、炭化物まばらに含)

15. 2.SY6/3 にぶい黄褐色砂質シルト

16. 2.SY6/3 にぶい黄褐色砂質シルト(砂は少ない)

17. 2.SY6/2 灰黄色シルト

18. 2.SY7/6 明黄色色シルト(よく縮まる)

19. 2.SY5/2 増灰黄色細緻砂

20. 2.SY5/2 增灰黄色色細砂

21. 10Y5/6/4 にぶい黄褐色色細緻砂

22. 10Y5/6/2 灰黄色色細緻砂(マンガン多含)

23. 10Y5/6/4 にぶい黄褐色色シルト(鉢分含)

24. 2.SY5/2 增灰黄色色砂質シルト

25. 2.SY5/2 增灰黄色粘質土(黄褐色色シルト複合)

26. 2.SY6/1 黄褐色粘質土

27. 2.SY5/2 增灰黄色粘質土(マンガン多含)

28. 2.SY6/4 にぶい黄褐色砂質シルト(SD51006埋土)

29. 2.SY5/2 增灰黄色粘質土

30. 2.SY6/1 黄褐色粘質土シルト(SD51007埋土)

31. 2.SY5/2 增灰黄色粘質土

32. 2.SY5/2 增灰黄色粘質土

33. 2.SY5/3 にぶい黄褐色粘質土

34. 2.SY5/2 增灰黄色粘質土(SD51027埋土)

35. SY6/2 灰オリーブ色砂質シルトへ細砂(黄褐色シルト複合)

(SD51002埋土)

36. 2.SY5/1 黄灰色極細砂(灰黄色シルト複合)

37. 10Y6/1 灰色粘細砂(植物遺体含) (SD51002埋土)

38. 10Y6/1 灰色粘質土

39. 10Y6/1 オリーブ色細緻シルト(マンガン多含) (SD51008埋土)

40. 2.SY6/2 灰黄色砂質シルト(上面にマンガン集積) (SD51001埋土)

41. 2.SY6/1 黄灰色極細砂シルトの互層(SD51001埋土)

42. 10Y5/2 灰黃褐色色砂質シルト

43. 10Y6/1 灰色砂質シルト

44. 2.SY5/1 黄灰色粘砂(土器多含) (SD51001埋土)

45. 2.SY6/2 灰黄色粘土質シルト(マンガン多含) (SD51001埋土)

46. 2.SY6/3 にぶい黄色シルト(織文土器若干含)

47. 10Y6/1 灰色粘細砂(黄褐色シルト複合)

48. 2.SY7/4 浅黄色粘土質シルト

49. 10Y7/2 浅黄色粘土質シルト(鉢分含)

50. 2.SY6/1 黄灰色粘土(マンガン多含) (SD51012埋土)

51. 2.SY5/2 增灰黄色粘土質シルト(SD51012埋土)

52. 2.SY5/2 增灰黄色シルト(黄褐色シルト複合) (SD51011埋土)

53. 10Y5/2 灰黄色色シルト

54. 10Y5/3 にぶい黄褐色シルト(土器多含) (SD51011埋土)

55. 10Y5/3 灰褐色色シルト(粗砂多含) (SD51011埋土)

56. 2.SY5/1 黄灰色粘質土(黄褐色色複合) (SD51010埋土)

57. 10Y6/4 にぶい黄褐色シルト(SD51004埋土)

58. 2.SY6/2 浅黄色粘土質シルト(SD51004埋土)

59. 2.SY6/1 黄灰色粘土(鉢分含)

60. 10Y5/2 增灰黄色シルト(マンガン多含) (SD51005埋土)

61. 2.SY6/2 黄褐色シルト(SD51005埋土)

62. 10Y8/1 增灰黄色シルト(SD51020埋土)

63. 10Y5/3 にぶい黄褐色シルト(SD51020埋土)

64. 10Y6/1 增灰黄色粘細砂(鉢をまばらに含む) (SD51020埋土)

65. 10Y6/2 增灰黄色砂質シルト

66. 10Y6/2 增灰黄色色砂質シルト(增灰色シルト複合) (SY51029埋土)

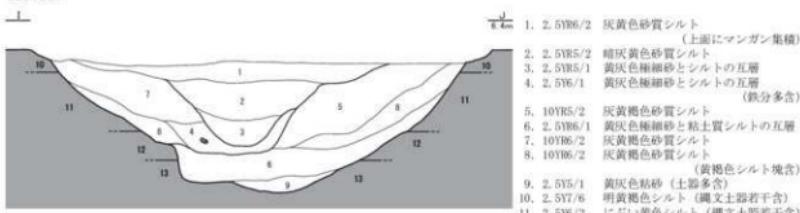
67. 2.SY6/4 にぶい黄色シルトと極細砂の互層

68. 7.SY5/2 灰褐色色シルト(黄褐色色シルト複合) (SE51028埋土)

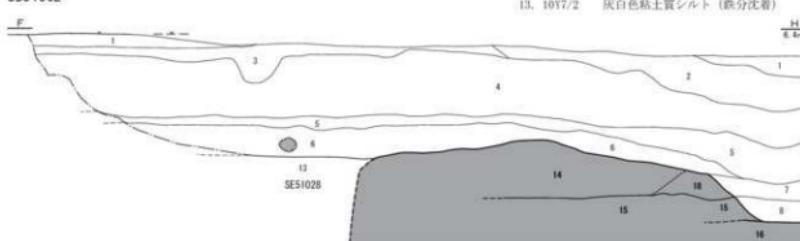


第11図 I-4区西壁・南壁土層断面図 (1:100)

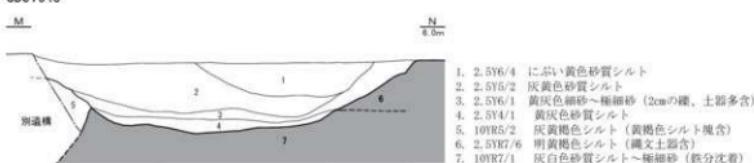
SD51001



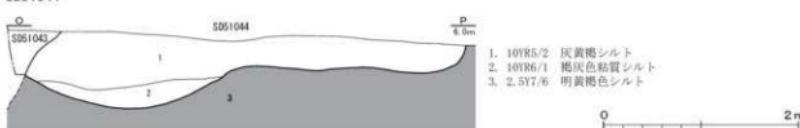
SD51002



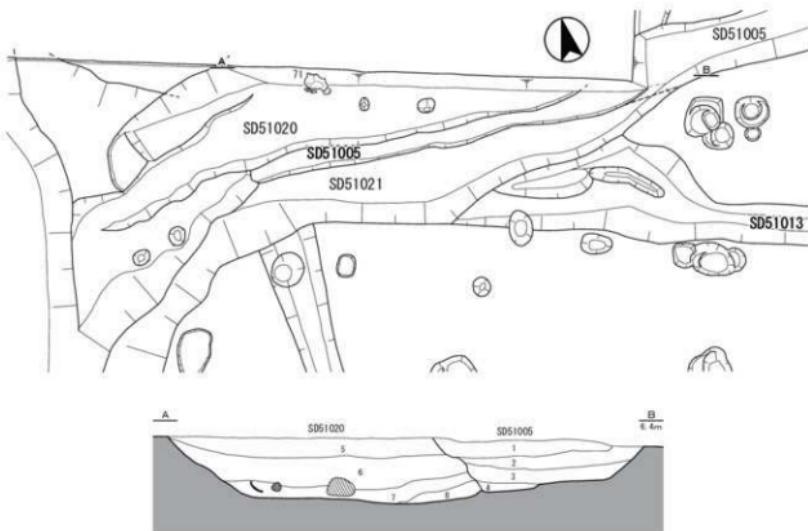
SD51043



SD51044

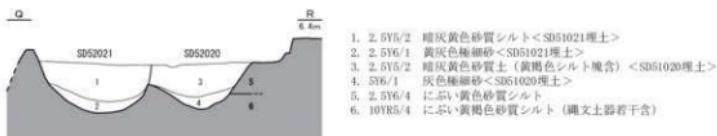


第12図 SD 51001・51002・51043・51044 断面図 (1:50)



- | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 10YR5/2 噴灰黄色シルト（マンガン多含）<SD51005埋土> | 5. 10YR4/1 鷺灰色シルト<SD51020埋土> |
| 2. 10YR5/2 噴灰黄色シルト<SD51005埋土> | 6. 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト<SD51020埋土> |
| 3. 2.5Y6/1 黄灰色シルト<SD51005埋土> | 7. 10YR5/1 鷺灰色極細砂（炭若干含）<SD51020埋土> |
| 4. 2.5Y6/3 にぶい黄色極細砂<SD51005埋土> | 8. 2.5Y5/3 黄褐色極細砂<SD51020埋土> |

SD51020・SD51021



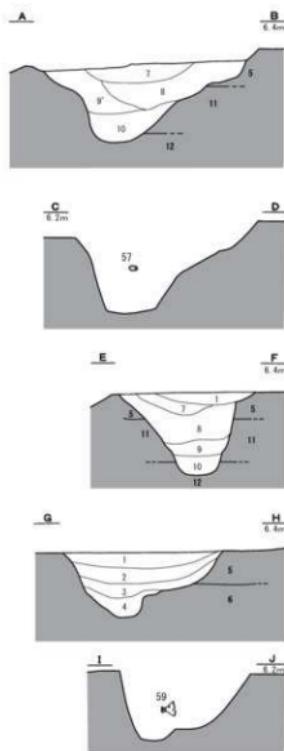
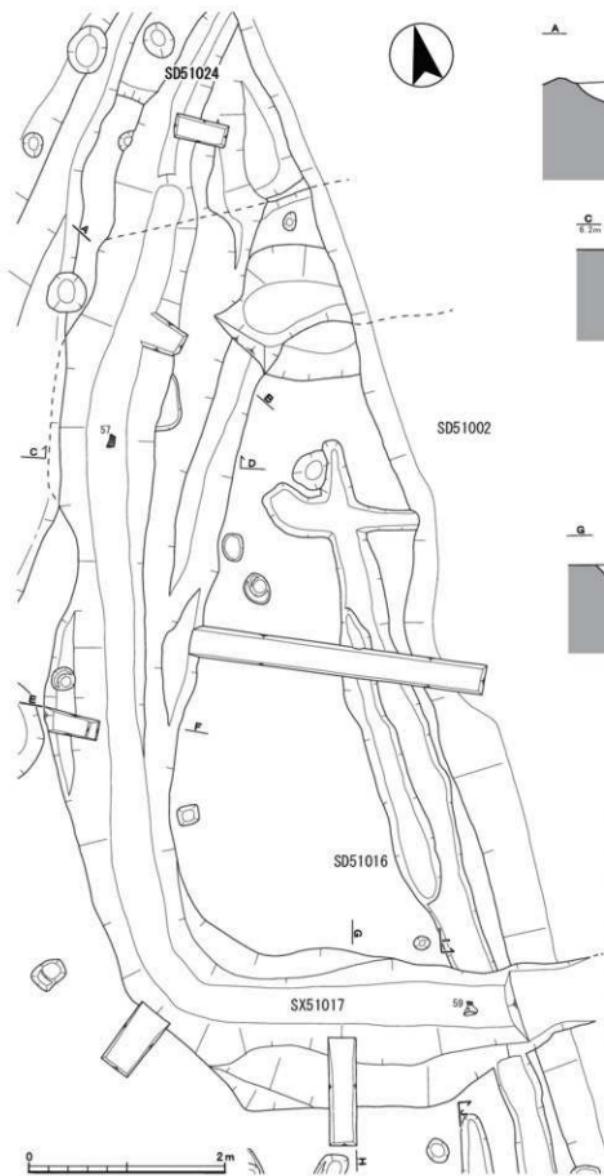
- | |
|---|
| 1. 2.5Y5/2 噴灰黄色砂質シルト<SD51021埋土> |
| 2. 2.5Y6/1 黄灰色極細砂<SD51021埋土> |
| 3. 2.5Y5/2 噴灰黄色砂質土（鷺灰色シルト飛含）<SD51020埋土> |
| 4. 2.5Y6/1 灰色極細砂<SD51020埋土> |
| 5. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質シルト |
| 6. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト（縞文土器若干含） |

SD51005



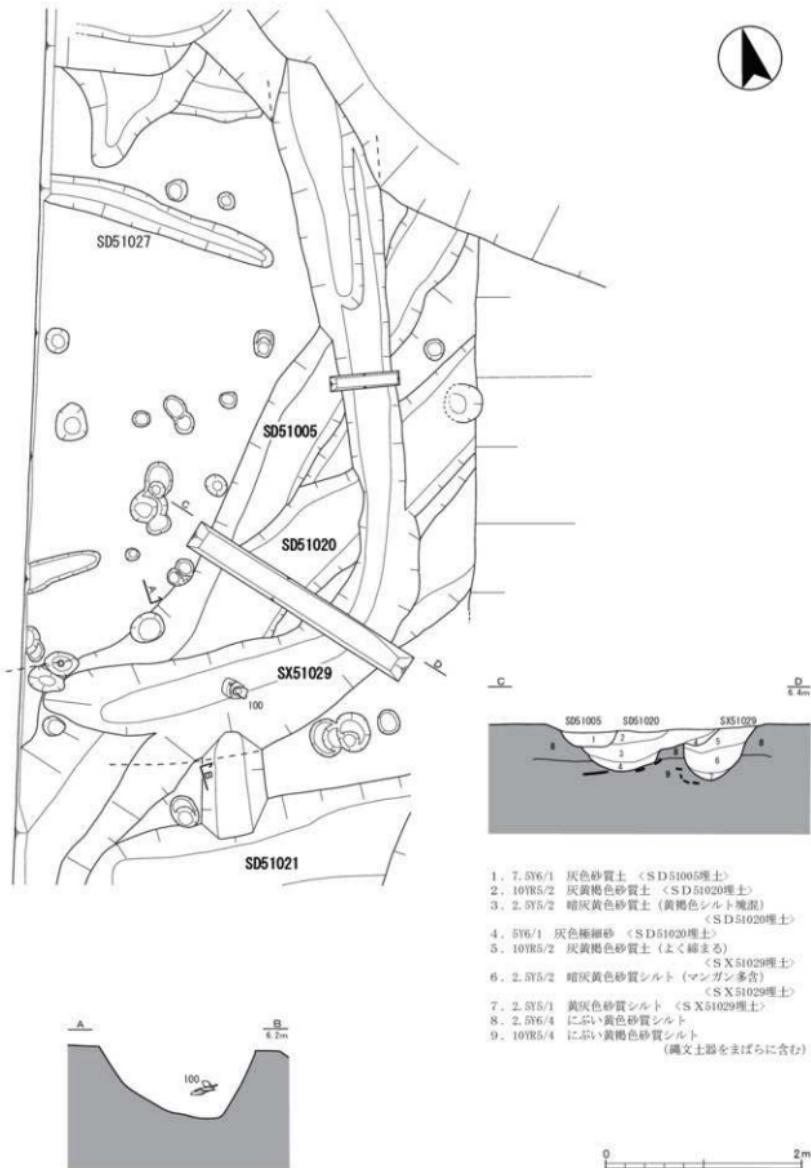
- | |
|---------------------------|
| 1. 2.5Y6/2 灰黄色シルト（マンガン多含） |
|---------------------------|

第13図 SD 51005・51020・51021 (1:50)

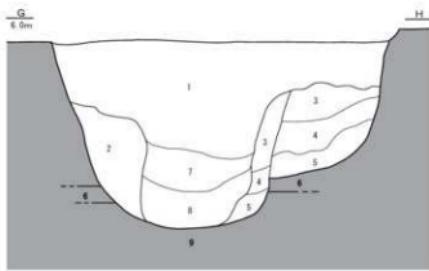
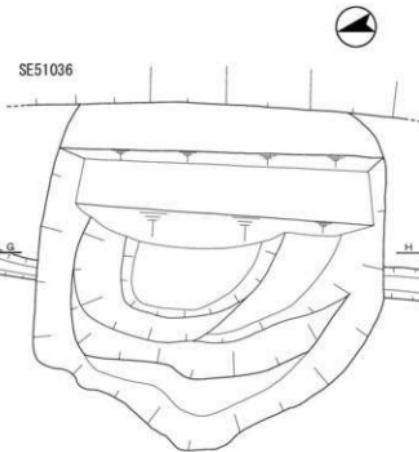
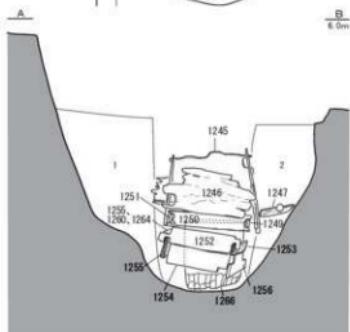
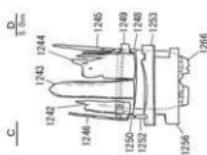
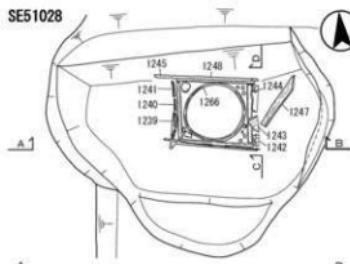


1. 2. SY5/2 増灰黄色砂質土
 2. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト
 3. 10YR4/2 灰黄褐色砂質シルト
 (黄褐色シルト塊含)
 4. 2. SY5/2 黄褐色シルト
 (灰黄褐色シルト塊多含)
 5. 5Y6/4 オリーブ黄色砂質シルト
 6. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
 (織文土器含)
 7. 2. SY7/11 浅黄色シルト
 8. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト
 9. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト
 9'. 2. SY5/2 増灰黄色砂質シルト
 (灰色粗→細砂多含)
 10. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト
 (黄褐色シルト塊含)
 11. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
 12. 10Y6/1 灰色細砂

第14図 SX 51017 (1:50)



第15図 SX 51029 (1:50)



- L. 10TRES/2 灰黄褐色シルト
(オーラビア灰褐色シルト塊、黄褐色シルト塊、灰色極粗砂塊多含)

2. 灰色極粗砂 (黄褐色シルト塊、5cm程度の纏多含)

3. 10TRES/2 灰黄褐色シルト

4. 10TRES/4 に 黄褐色シルト

5. 10TRES/4 灰黄褐色砂質シルト (やや締りが弱い)

6. 2.5TS/1 黄褐色細砂

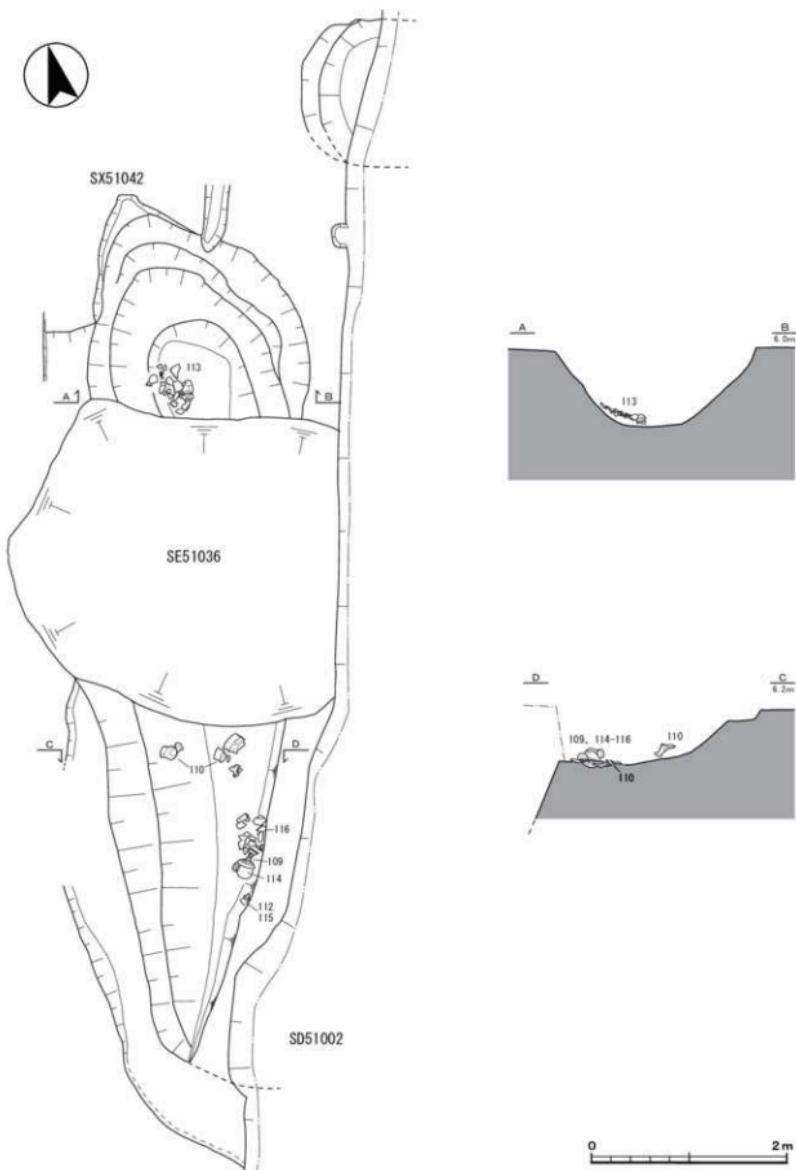
7. 2.5TS/3 黄褐色粘土質シルト (5cm程度の纏多含)

8. 2.5TS/2 灰暗黄色粘土質パルト

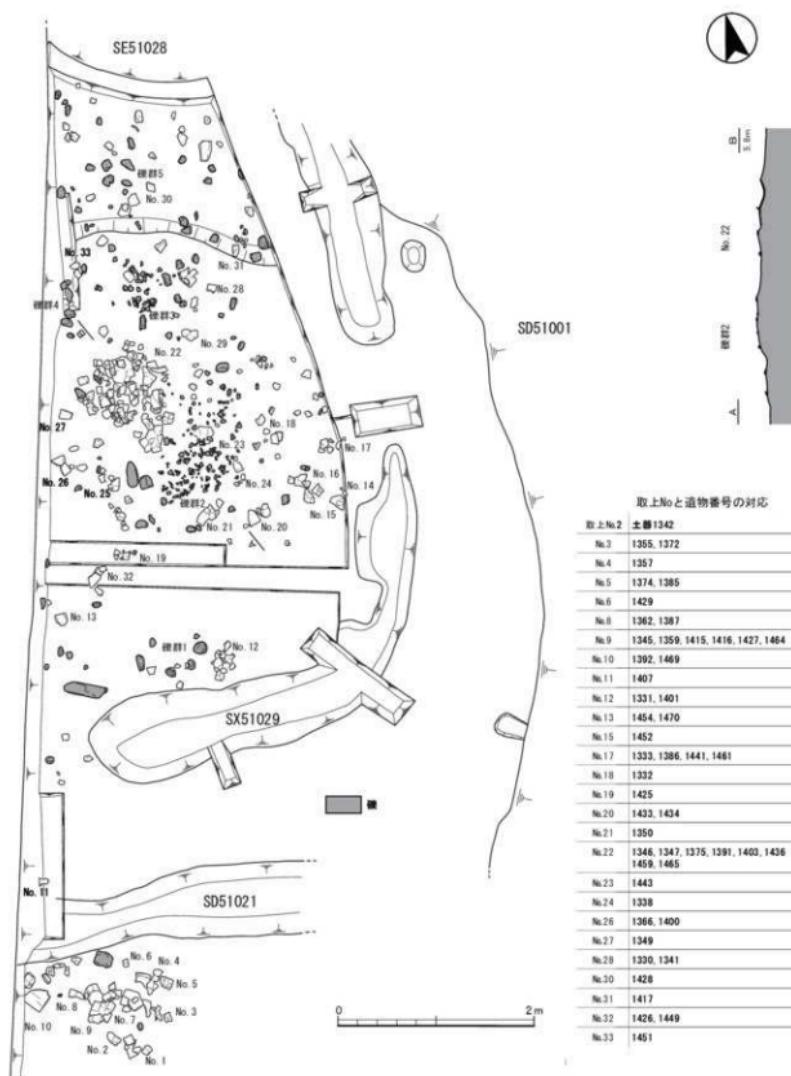
9. 2.5TS/3 黄褐色極粗砂 (5cm程度の纏多含)



第 16 図 S E 51028・S E 51036 (1:50)



第17図 SX51042遺物出土状況図 (1:50)



第18図 S Z 51046 遺物出土状況図 (1:50)

4. 2区（第19～23図）

（1）概要

遺跡東部の調査区で、1区の南側にあたる。また、6次調査6区が南接する。便宜的に北端を2-1区、南北直線部分を2-2区、南端を2-3区と分けて調査にあたった（第19～21図）。

東側は大半が条里坪構溝であるS R 52003・SD 52022にあたり、当該遺構は東接する現水路への影響が懸念されたため、部分的な掘削に留めた。他に南北方向に走る古墳時代の大溝SD 52004と、そこから派生する構群（SD 52005・52006・52016～018）、弥生時代終末期の方形周溝墓（SX 52019）などがある。溝以外の遺構は希薄であった。

古墳時代から現代まで水路がよく似た位置・方向をとるが、これは基幹水路となった放棄流路ないし名残川が、微高地の東縁辺である当地付近を流れ続けていたためであろう。

こうした遺構の分布状況から、2区付近は水田等の食糧生産域が広がっていたと推測される。

本調査区では、基盤層中に縄文時代の遺物がみられなかったため、下層確認は実施していない。

（2）遺構

S D 52001・52002 2-3区の南端～南東端付近の不定形な遺構で、底面は複数の溝や土坑状となる。

中世の鍋片や陶器片が出土している。

S R 52003（第20図） 調査区東端を南北に流れる自然流路または溝で、東岸は調査区外である。やや蛇行しながら南から北に向かって流れたものと考えられ、概ね条里や現代の水路に沿う。このまま北流し、1区のSD 51002に繋がる可能性がある。

幅は調査区内で5m以上あり、深さは1m以上あるが、農業用水路が近接するため、完掘はしていない。

埋土はシルトと砂の互層である（写真図版17）。

中世後期～近世の土師器鍋や天目茶碗などが出土しており、16世紀以降に埋没したとみられる。

S D 52004（第21図、写真図版14・15） 2-3区を南北に流れる大溝である。2-2区でやや東に向きを変え、SR 52003に切られ消滅している。

幅は3～4m、深さ約1mを測る。土層断面観察から、大きく3～4段階の変遷が想定され、中層や

下層は砂が主体でやや流速が早く、上層はシルト等泥質の浮遊堆積物が主体となる。埋没とともに順次幅を狭めている。

古墳時代前～後期の土師器壺・甕、台付甕、須恵器、飛鳥時代の土師器などが出土した。

S D 52005・52016・52017・52018（第20図、写真図版14） SD 52004西肩には、東西方向の溝が等間隔でほぼ直角に接続されており、西側へ分水されていたとみられる。

S D 52005は幅約3mで埋土は上下2層に大別され、いずれもシルトである。

S D 52016・52017・52018はほぼ同規模の溝で、いずれも埋没はSD 52004より早い。SD 52004中層埋没時には完全に廃絶しており、これらの上面にSD 52006が新たに掘削される。このSD 52006とSD 52004上層が並走するようである。

いずれの溝からも古墳時代の遺物が出土している。

S D 52006（第20図、写真図版15） 2-2～2-3区を南北に走る古墳時代の溝で、緩やかに北西へ湾曲していく。

幅約1m、深さ約60cmで、埋土は3層に分かれ、上層の2層はシルト、下層は粗砂を含むシルトである。SD 52005・52016・52017廃絶後にも機能しており、SD 52004上層と並走する水路として利用されていたようである。

弥生時代終末期～古墳時代の土師器壺、台付甕などが出土しており、SX 52019からの混入とみられる遺物もある。

S D 52008 2-3区の南端から北上する幅60cm、深さ20cm未満の小規模な溝である。SD 52009の上面にあり、耕作痕ないしSD 52009の最終埋没時に形成された浅い溝状のたまりであると推測される。

中世の遺構である可能性が高い。

S D 52009 2-3区南部で検出した浅い溝である。幅は約1m、深さは10～20cmの浅いもので、埋土はシルトである。

完形の土師器杯（154）が出土している。

S A 52011 2-3区南端で3箇所を検出した柱列である。ピットは2基ずつが重複しており、わずかに20cmほど北側へずらして柵を更新したものと考えられる。

ピット掘方は直径 20 cm の円形を呈し、検出面から
の深さは 20 cm 程度、柱間は 66 cm の等間である。南東
から北西へ延び、東端は SD 52009・SD 52001 付近
で途切れる。

この柱列から 90 m 北側に、並列する SA 52024 が
あり、同時期の遺構である可能性が高い。

SD 52012 2-3 区南で検出した。SD 52010 の 2 m
北側を並走するが、それより長い溝で、SR 52003 に
切られるまで東進する。

溝の断面形や埋土は SD 52010 に類似するが、幅、
深さともにひとまわり小規模である。

古代の土師器杯・長胴甕片が若干出土している。

SD 52013 2-3 区で検出した東西方向の溝で、南側
に SD 52010・SD 51012 など似た溝がみられる。S
R 52003 に切られるが、その前身の水路から分水する
ための溝であろう。

平安時代の土師器杯、灰釉陶器等が出土している。

SD 52014 2-3 区の SD 52012 や SD 52015 の東端
で逆 L 字状に曲がる、不定形な溝である。底面は土
坑のような凹みが複数ある。

一帯の削平により、耕作に伴う溝の深い部分だけ
が残存していたものと考えられる。

SD 52015 SD 52012 のすぐ北側を東進するが、そ
れに切られ大部分が不明である。溝の規模や埋土は
SD 52012 に酷似する。

わずかに土師器の小片が出土した。

S X 52019 (第 19 図、写真図版 13・17) 2-2 区で
検出した弥生時代終末期の方形周溝墓である。周溝
は逆 L 字状に屈曲し、南側に陪塚部が開口するとみ
られる。西半は調査区外にあり、東半は SD 52006・
52020 に切られる。

規模は周溝内寸で一辺約 8 m に復原できよう。削
平により埋葬施設や墳丘は残っていない。

周溝幅は 1.0 ~ 1.4 m、深さは 75 cm で、南東隅は
幅 70 cm 程度まで狭くなり、深さ 50 cm と若干浅い。

埋土は下層が砂・砂質シルトの互層、上層はシル
トである。

南側周溝中層で内湾口縁壺 (165) が出土している。

なお、本遺構と SD 52006 が交差した地点で、S
D 52006 底面から内面に水銀朱が付着した高杯 (118)
が出土したが、本来は当遺構に伴うものの可能性が

高い。

SD 52020 (写真図版 13) 2-2 区で検出した南北方
向の溝である。調査区内では直線的であるが、北側
の延長部分は 2-1 区で確認できず、緩やかに西へ曲
がっていくとみられる。

幅 40 cm 前後、深さは約 30 cm で、埋土にはマンガン
を多く含む (第 22 図)。

土師器高杯等が若干出土している。

**SD 52022・52026・52027・52028 (第 19 図、写真図
版 16)** 2-2 ~ 2-1 区にある南北方向の大溝群で、東
側の大半を SR 52003 に切られる。

SD 52022 は東側の SD 52027 と西側の SD 52026
に分かれ、SD 52028 は SD 52026 が西へ弯曲したもの
である。SD 52026 は深さ 1.2 ~ 1.5 m を測る。埋
土はシルトと砂の互層で、一定埋没後は SD 52027 に
移流し、幅約 2 m、深さ 60 cm と規模は縮小する。

古代の土師器長胴甕や古墳時代の台付甕、須恵器
等多くの遺物が出土している。

SD 52023 2-1 ~ 2-2 区を南北に流れる、幅約 50 cm、
深さ約 10 cm の小溝である。緩やかに弯曲し、SD
52022 に合流する。

土師器壺片等が若干出土している。

SA 52024 2-1 区で 26 間分を検出した東西方向の柱
列である。延長約 20 m で、東端は SR 52003 に切ら
れるが、SD 52022・SD 52025 等の溝群よりも後出
の遺構である。

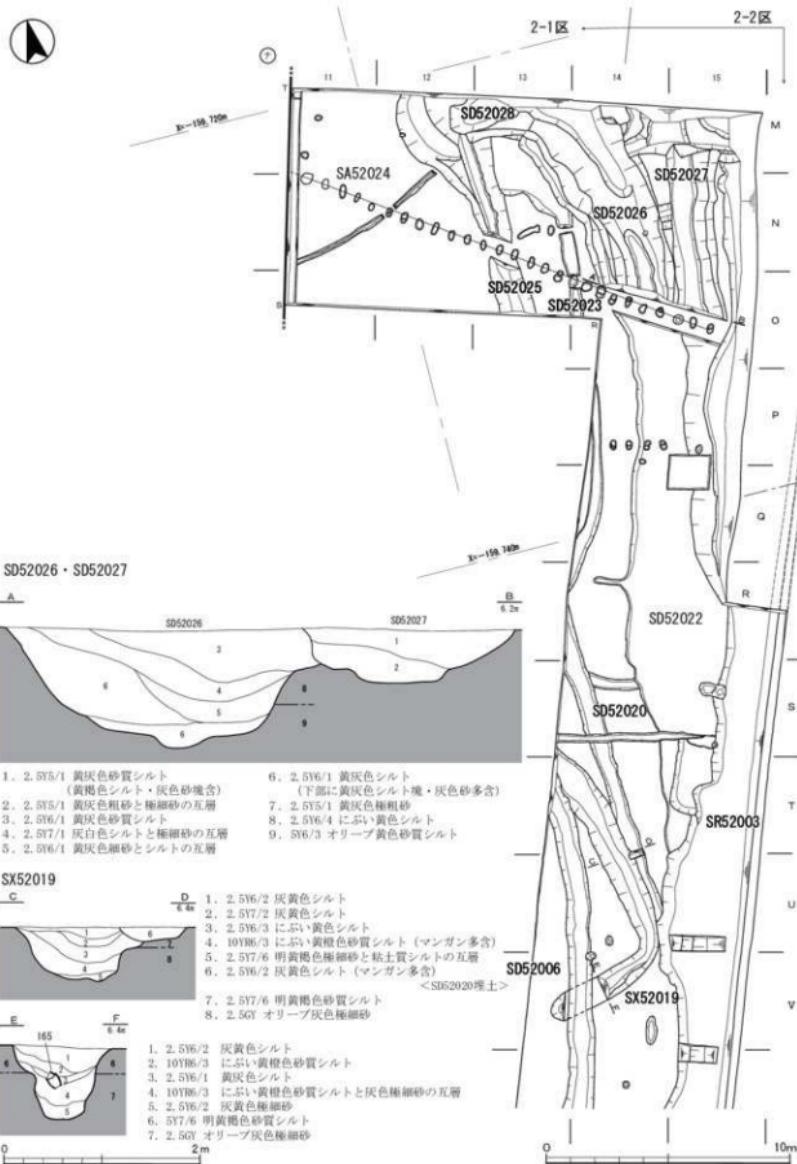
ピット掘方は直径 20 cm の円形で、ピットの重複か
ら 1 度更新したと考えられる。ピットの深さは 40 ~
20 cm で、不揃いである。柱間寸法も 60 cm と 75 cm が
混在し不統一である。また、約 4 m 南と、約 90 m 南
に離れて同様な柱列 (SA 52011) がある。

遺構埋土の色調や溝との前後関係などから、中世
末から近世の遺構と判断している。

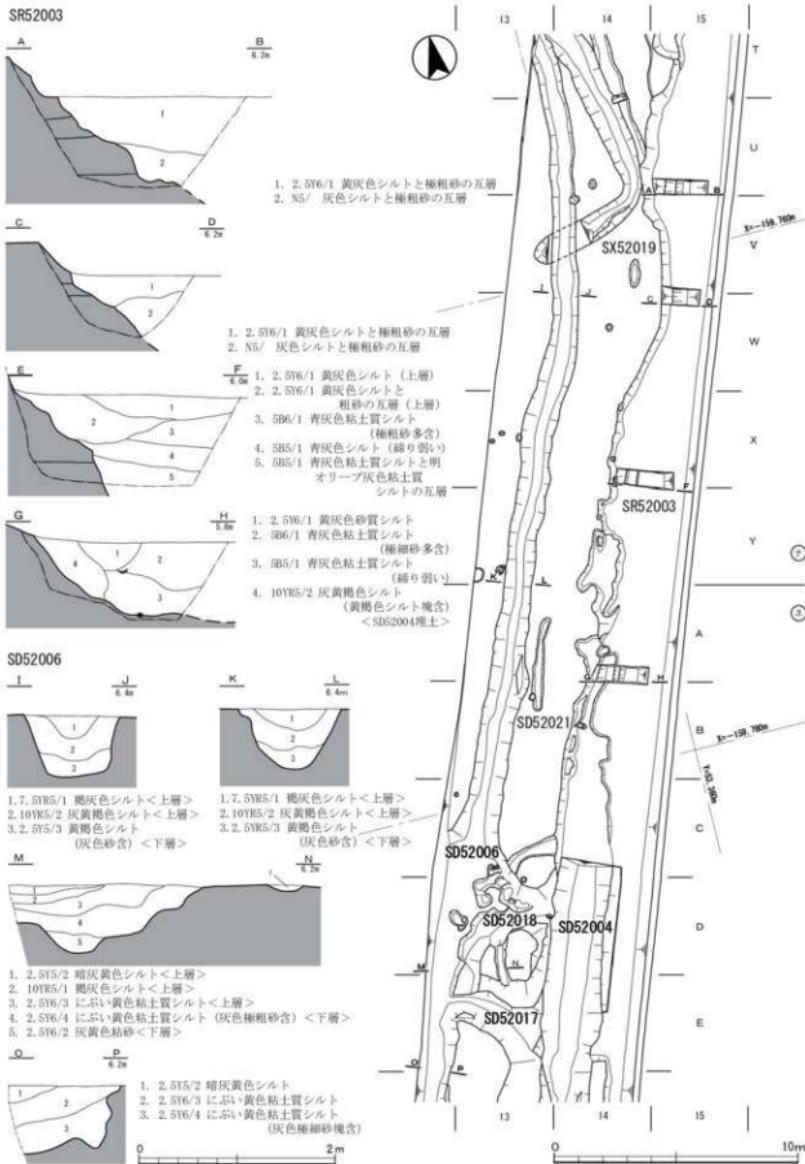
SD 52025 (写真図版 16) 2-1 区で検出した溝で、
北端を SD 52028 に切られる。SD 52023 と並走する
水路であろう。

幅 1.3 m、深さ 50 cm で、埋土は 3 層に分かれ (第
23 図)、最下層は細砂がみられる。

遺構の切り合いから、古代の遺構である可能性が
高い。

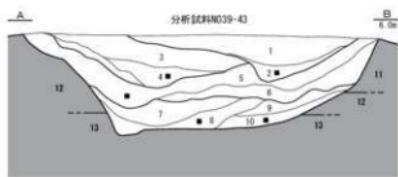


第19図 2区遺構全体図①(1:200)、S X 52019・SD 52026・52027断面図(1:50)



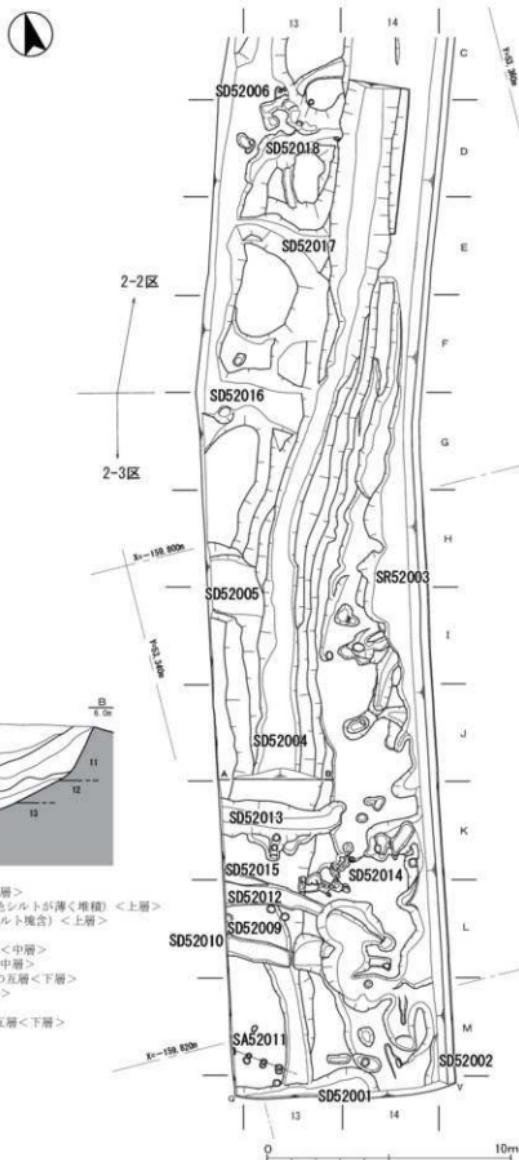
第20図 2区遺構全体図②(1:200)、SR 52003・SD 52006断面図(1:50)

SD52004

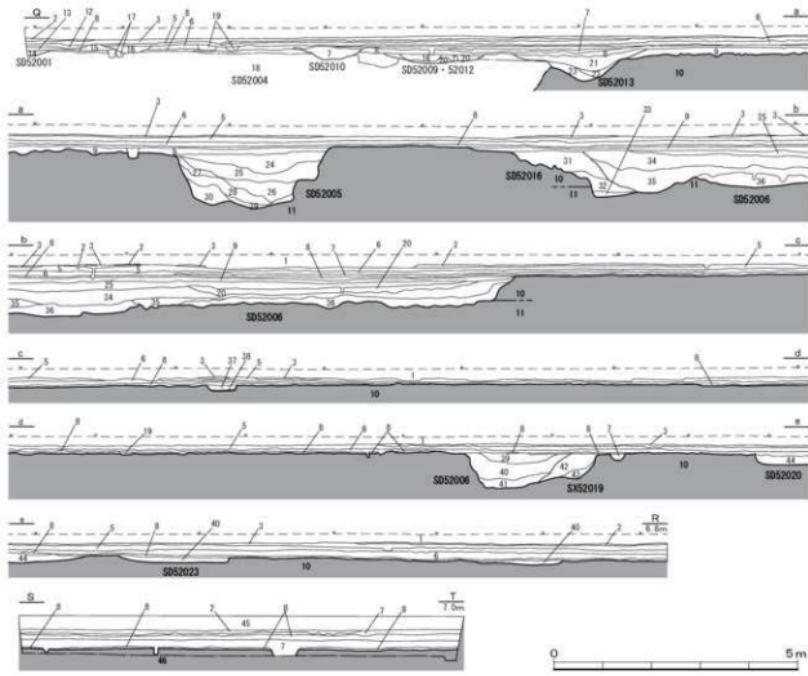


1. 7.SYRA/1 暗灰色粘質土 (マンガン多含) <上層>
2. 7.SYRA/1 暗灰色粘質土 (上面に10YR5/2黄褐色シルトが薄く堆積) <上層>
3. 10YR5/1 暗灰色粘質土 (マンガン・黄褐色シルト塊含) <上層>
4. 10YR6/2 底 黄褐色シルト <上層>
5. 10YR6/1 暗灰色極細砂 (底黄褐色シルト塊含) <中層>
6. 10YR6/1 暗灰色細砂 <中層>
7. 10YR6/1 暗灰色中粒砂と10YR5/1褐色シルトの互層 <下層>
8. 10YR5/1 暗灰色極細砂 (縫りが弱い) <下層>
9. 2.SYR/1 黄灰中粒砂 (縫りが弱い) <下層>
10. 2.SYR/1 黄灰中粒砂と10YR5/1褐色シルトの互層 <下層>
11. 2.SYR/4 にぶい黄色極細砂 (縫りが強い)
12. 2.SYR/4 にぶい黄色粘土質シルト
13. 6G7/1 明緑灰シルト

0 2m



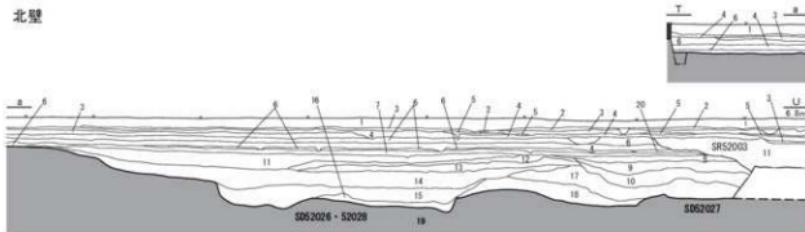
第 21 図 2 区造構全体図③ (1:200)、SD 52004 断面図 (1:50)



1. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質<耕作土>
 2. 2.5Y5/2 灰暗黄色粘土質<近現代、旧耕作土>
 3. 2.5Y6/6 明黃褐色シルト(よく緑色る)<床土>
 4. NS 灰色粘土質<旧耕作土>
 5. 2.5Y6/1 黄灰色シルト(マンガン多含。下面に鉄分沈着)<中世耕作土・床土>
 6. 2.5Y6/1 黄灰色シルト(マンガン若干)<中世耕作土・床土>
 7. 2.5Y6/2 灰黃色シルト<中世耕作土・床土>
 8. 2.5Y6/6 明黃褐色シルト<中世耕作土・床土>
 9. 2.5Y5/1 黄灰色シルト(マンガン多含)
 10. 2.5Y7/6 明黃褐色砂質シルト<基盤層>
 11. 2.5G5/6/1 オリーブ灰褐色細砂
 12. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質土
 13. 10YR5/1 鵝灰色粘土質土
 14. 2.5Y6/1 黄灰色粘土質シルト(緑り弱い)<SDS2001埋土>
 15. 2.5Y6/1 黄灰色粘土質シルト(マンガン多含)
 16. 2.5Y5/1 黄灰色シルト
 17. 10Y6/2 オリーブ灰褐色シルト
 18. 10YR5/1 鵝灰色シルト(マンガン多含)
 19. 2.5Y6/1 黄灰色シルト
 20. 10YR5/1 鵝灰色シルト
 21. 2.5Y6/1 黄灰色シルト(やや緑る)
 22. 2.5Y6/1 黄灰色、砂質シルト
 23. 7.5GY6/1 緑灰色粘土質シルト
 24. 2.5Y5/2 緑灰色粘土質シルト(黄褐色シルト塊含)
25. 2.5Y5/2 晴灰黄色シルト
 26. 2.5Y6/2 灰黄色粘土質シルト
 27. 2.5Y5/2 晴灰黄色シルト(黄褐色シルト塊若干含)
 28. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト(灰色砂多含)
 29. 2.5Y5/2 晴灰黄色粘土質シルト(灰色砂多含)
 30. 2.5Y7/4 浅黄色シルト(灰色砂多含)
 31. 2.5Y6/2 灰黄色シルト(やや緑る)
 32. 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト(マンガン多含)
 33. 2.5Y6/1 黄灰色粘砂(緑り弱い)
 34. 2.5Y6/3 にぶい黄色粘土質シルト
 35. 2.5Y6/1 黄灰色粗砂
 36. 2.5Y6/4 にぶい黄色粘土質シルト(灰色砂粗砂多含)
 37. 10YR6/1 鵝灰色シルト
 38. 黄、褐土
 39. 7.5YR5/1 鵝灰色シルト
 40. 10YR5/2 灰黃褐色シルト
 41. 2.5Y8/3 黄褐色シルト(灰色砂含)
 42. 2.5Y6/3 にぶい黄色シルト
 43. 10YR6/3 にぶい黃褐色砂質シルト
 44. 2.5Y6/2 灰黄色シルト(マンガン多含)
 45. シンクリート
 46. 5Y6/3 オリーブ黄色シルト(マンガン沈着)

第 22 図 2 区西壁土層断面図 (1:100)

北壁

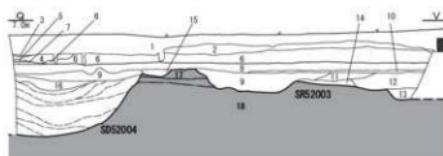


- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1. 5Y4/1 灰色粘質土<耕作土> | 11. 2.5Y6/2 灰黄色砂質シルト(粗砂多含) < SRS2003埋土 > |
| 2. 2.5Y6/2 灰黄色シルト<床土> | 12. 2.5Y5/1 黄灰色粗砂 |
| 3. 2.5Y6/2 灰黄色シルト | 13. 2.5Y6/2 黄灰色シルト |
| 4. 2.5Y6/2 灰黄色シルト<中世耕作土・床土> | 14. 2.5Y6/1 黄灰色砂質シルト |
| 5. 2.5Y6/6 明黄色シルト(鉄分沈着) | 15. 2.5Y6/1 黄灰色シルト(下部に黄灰色シルト塊、灰色砂多含) |
| 6. 2.5Y6/6 明黄色シルト<中世耕作土・床土> | 16. 7.5GY6/8 明緑灰色細砂 |
| 7. 2.5Y6/2 灰黄色シルト(下面に鉄分沈着) | 17. 2.5Y5/1 黄灰色極細砂 |
| 8. 2.5Y5/2 灰黄色砂質シルト | 18. 2.5Y6/2 灰黄色粘質シルト |
| 9. 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト(褐色色シルト、灰色砂塊若干含) | 19. 7.5Y5/2 灰オリーブ色砂質シルト<基盤層> |
| 10. 2.5Y5/1 黄灰色粗砂と極細砂の互層 | 20. 2.5Y6/8 明黃褐色シルト(鉄分沈着) |

南壁



- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 2.5Y7/1 黄白色シルト<近現代耕作地> | 6. 5Y6/3 オリーブ黄色シルト(マンガン多含、局的に灰色極細砂) |
| 2. 5Y6/1 黄褐色シルト(マンガン多含) <床土> | 7. 10Y5/2 黄黄褐色砂質シルト(マンガン多含) |
| 3. 2.5Y6/3 に近い黄色シルト<中世耕作土・床土> | 8. 10Y4/2 黄黄褐色粘土質シルト(やや繊りが弱い) |
| 4. 2.5Y6/2 灰色粘質土<中世耕作土・床土> | 9. N5 灰色細砂 |
| 5. 2.5Y6/8 明黄色シルト(鉄分沈着) <中世耕作土・床土> | 10. 10Y5/2 黄黄褐色シルト |



- | | |
|--|--|
| 1. 2.5Y5/1 黄灰色粘質土<耕作土> | 15. 2.5Y5/1 黄灰色シルト(やや繊る) < SRS2008埋土 > |
| 2. 2.5Y5/2 單色黃褐色粘質土<近現代耕作土> | 16. 10Y5/2 黄黄褐色砂質シルト(マンガン多含) < SRS2004埋土 > |
| 3. 2.5Y6/6 明黄褐色シルト(よく締る) <家土> | 17. 2.5Y7/6 明黄褐色砂質シルト<基盤層> |
| 4. NS 灰色粘質土<旧耕作土> | 18. 2.5G6/1 オリーブ灰色細砂<基盤層> |
| 5. 2.5Y6/1 黄灰色シルト(マンガン若干含、下面に鉄分沈着) | |
| 6. 2.5Y6/2 黄黄色粘質土 | |
| 7. 2.5Y5/1 黄褐色粘質土< SRS2001埋土・極出面 > | |
| 8. 10Y5/1 地下水粘質土< SRS2001埋土・極出面 > | |
| 9. 2.5Y6/1 黄褐色粘質土シルト(繊りが弱い) | |
| | < SRS2001・SRS2003埋土 > |
| 10. 10Y5/6 黄褐色粘質土シルト(鉄分多含) < SRS2003埋土 > | |
| 11. 2.5Y6/1 黄褐色粘質土シルト(灰色極細砂多含) | |
| 12. 2.5Y6/1 黄灰色極細砂(灰色シルト塊含) < SRS2003埋土 > | |
| 13. 2.5Y6/1 黄灰色粘砂(繊りが弱い) < SRS2003埋土 > | |
| 14. 2.5Y6/2 黄黄色粘土質シルト(繊りが弱い) < SRS2003埋土 > | |



第23図 2区北壁・南壁土壌断面図 (1:100)

5. 3区（第24～30図）

（1）概要

遺跡南東部の調査区で、約300m東側に大蓮寺遺跡が所在する。調査区北側（第24図）は、全体が条里坪境溝（SD 53011）にあたり、埋没単位ごとにSD 53015・53016などの溝が錯綜している。調査区南側（第25図）には南北方向の大溝SD 53002やSD 53001があり、これらは当地から遺跡北西側へ向かう基幹水路であったとみられる。

SD 53002からは青銅鏡が3面出土し、うち2面は表土掘削中に遺構上面で並んで出土したため、調査区を一部拡張し、溝の延長と上層包含遺物の確認をおこなった。

他に中世の井戸（SE 53004）があるが、ピットなど住居関連遺構は希薄である。数條の中世素掘溝が並ぶ状況から、この付近に水田が想定できる。

遺構は現代作土・床土直下（地表下40cm）のにぶい黄色シルトないし褐色シルト層（南壁6・7層）上で検出した。西半はより下位の7層が露出することから、本来は西側が微高地にあたるとみられる。

南壁7層の褐色シルト以下は、黒褐色シルト（南壁8層）、にぶい褐色シルト（南壁9層）で、さらに下位は基本層VI層の砂礫層となる（SE 53004基盤層で確認）。

基盤層に黒ボク土ないし二次堆積とみられる黒褐色シルトがみられたことから、南壁中央で下層確認を実施するとともに、土壤分析用サンプルを採取した（第28図、写真図版22）。黒褐色シルト（南壁8層）は層中に広域火成灰K-Ahの降灰層準を含む可能性があるため、さらに上・中・下位に細分した。

南壁7層中に土器が若干介在していたものの、基盤層中に縄文時代の遺物はあまり見られなかった。

（2）遺構

SD 53001（第25図、写真図版21）南北方向の溝で、主軸はN15°Wである。幅は1.5～1.8m、深さ約1mである。溝断面は逆台形で、埋土は4～5層に分かれ、いずれもシルト質であるが、下層は砂層との互層で流理が顕著である。3層下で再掘削されている。

土師器杯・甕、灰釉陶器等、平安時代後期～末の

遺物が出土した。

SD 53002（第30図、写真図版19・20）3区西部を南東から北西に走る大溝で、上面幅約6.5m、底面幅約5.5m、深さは最深部で約1mを測る。

溝の底面はやや平坦で、両肩寄りと中央の底面に幅20～50cmの小溝がある。断面形は切り通し状の道路遺構に似るが、硬化面などは認められない。

弥生時代終末期、古墳時代から中世前期の遺物を層位的に含むことから、長期にわたり機能した基幹水路だったとみられる。

埋土は最下層が土器片を多く含む砂礫、中位付近は砂や礫を含む砂質シルトである。特に北壁5・7層はラミナが顕著で、肩側を抉るような激しい水流があつたと推測される。上層は黄灰色シルト～砂質シルトで、浮遊堆積物が主体となり、溝の規模も小さくなっていたようである。溝底面は常に酸化状態にあり、有機質遺物が残る環境ではなかった。

当遺構では、青銅鏡が3面出土した（巻頭図版4）。うち2面は平安時代後期（10世紀後半）に製作された鏡である（瑞花円鏡212・瑞花双鳥八稜鏡213）。2面は近接し（約50cm間隔）、溝東肩から約1m西から、ともに鏡面を天に向け、水平を保った状態で出土した（写真図版20）。重機による表土除去時、溝上面（第30図3・5層相当）から出土したもので、当溝がほぼ埋没した段階で、同時か大きな時期差なく水辺の祭祀に供されたと推測される。八稜鏡が北側、円鏡が南側に置かれる。重機掘削で一部を欠失したが、本来は完形であったとみられる。

鏡の周囲は腐蝕により若干変色していたが、木箱や布袋など有機質容器の痕跡は認められなかった。鏡は裸で置かれ、太陽光を反射する視覚的効果が求められたのであろう。円鏡の下には約10cm大的の礫があり、石の上に置いた可能性がある。

もう1面は素文鏡（187）で、溝底（第30図12層）から、鏡面を上にして出土した。全体が著しく腐蝕しており、残りは非常に悪い。下層の共伴遺物から、古墳時代以降の小型仿製鏡の可能性がある。

なお、鏡の取り上げにあたり、八稜鏡は全体に割れ、素文鏡はきわめて脆弱な状態であったため、バラロイドB-72（5～10%キシレン溶液）を数回塗布した後、表面に両面紙を貼り付けて補強し、周囲の土ごと切

り取って回収した（写真図版21）。

その他の出土遺物は、大きく上層（第30回北壁1～6・9・10層中心）・下層（7・8・11・12層中心）に分けて取り上げた。

上層は平安時代前～中期の土器や中世の山茶碗を含むが、西肩付近（6層）は7世紀代の甕がまとまって出土しており、この時期に構が一度埋没し、その後改修されたとみられる。下層は弥生時代終末期～古墳時代の遺物が主体であるが、底面付近（12層）から7世紀後半代の須恵器短頸壺（196）がほぼ正位で出土している（写真図版21）。

下層埋土は砂礫を主体とすることから、下層出土の素文鏡や土器片などは、より上流側から流入した可能性が高い。

なお、3区周辺に弥生～古墳時代の遺構はないが、本溝の上流側には琵琶塙内遺跡（松阪市豊原町）があり、古墳時代から古代の溝が複数みられ、遺物相も類似することから、当溝との関連が推定できる。

S D 53003 3区南東端で延長約12mを検出した南北方向の溝で、東半分は調査区外にある。当地の地境を流れる構ないし自然流路と推測され、2区S R 52003や1区S D 51002へつながる可能性が高い。

古代の土器器甕、瓦片や中世の山茶碗等が出土している。

S E 53004（第29図、写真図版22） 3区南で検出した直径2.5m、深さ2.5mの円形井戸である。

深さ約2mで湧水層に達し、この付近で直径約50cmの円形掘方となった。この部分から曲物片が出土しており、水溜めの曲物を据えていたようである。

井戸枠・曲物とも抜き取られ残存していない。

埋土各層から、灰釉陶器や山茶碗、瓦片が出土しており、平安時代後期～末にかけて機能・廃絶したとみられる。山茶碗は煤が付着するものが多くみられた。瓦片は細かく破碎された形跡がある。

S D 53005（第25図、写真図版21） S D 53001・53002と並行する幅60cm、深さ15cmの細い溝である。

平安時代後期～中世I期の土器器が出土した。

S D 53006・53007（第25図） S D 53006は3区東側で検出した幅30cm、深さ10cmの素掘溝で、S D 53001・53005に並行する。平安時代末の土器器等が出土した。

S D 53007は幅90cm、深さ30cmの浅い溝で、S D 53003から派生し、S D 53001に合流する。埋土は下層が砂、上層がシルトである。平安時代後期～末の土器が出土している。

S D 53008 3区中央で検出した東西方向の溝である。S D 53001より後出の遺構で、幅約1m、深さ60cmで、平安時代末の山茶碗などが出土した。

S D 53009 3区中央東端で溝西肩の一部を検出した。詳細は不明であるが、S D 53003と一連の溝である可能性が高い。

中世の遺物が出土している。

S D 53010 3区北、S D 53011の上面で検出した東西方向の溝である。平安時代末～鎌倉時代の土器器などが出土した。

S D 53011・53013・53015・53016（第24図、写真図版23） S D 53011は3区北を南北に走行する溝または流路である。調査区全体が溝にあたり、幅は4m以上、深さ1m以上に及ぶ（第27図）。

溝内の埋没単位ごとに細い溝や土坑状の溜まり（S D 53013・53015・53016、S K 53012）が認められ、砂やシルトで一定埋没後、上面に溝や流路が形成されたとみられる。

各遺構から馬鹿の小片、完形の土器器皿、山茶碗、白磁碗など、主に平安時代末の遺物が出土している。他に、弥生～古墳時代の土器や管玉もみられた。

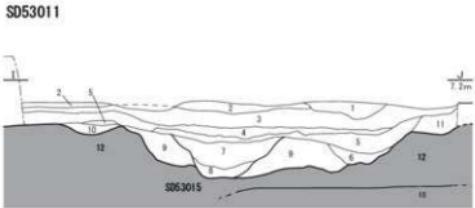
S K 53012 3区北、S D 53011内で検出した不整形土坑である。埋土はシルトと砂層が混在し、上面から60cmほどで底部に至る。S D 53011埋没の過程で形成された遺構であろう。

S D 53013 3区中央で検出した溝である。幅80cm前後、検出面からの深さは20cm程度である。

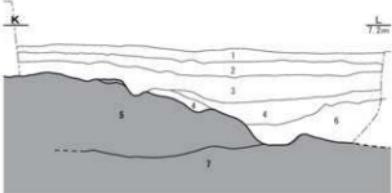
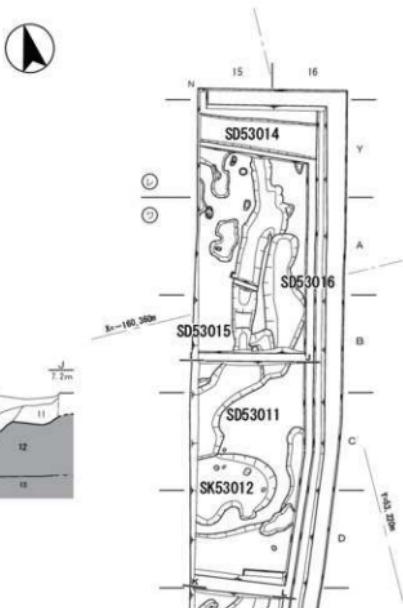
東側調査区外から弧を描きながら北流し、再び東側調査区外へ延びるため、全長10mほどを確認したにとどまる。S D 53011等と一連の流路であるものと推測される。

S D 53014 3区北端で検出した東西方向の溝で、S D 53011等が埋没した後に掘削された遺構である。幅1.6m、深さ60cmを測る。埋土は3層に分かれ、中層がシルトの他は砂層である（第27図）。

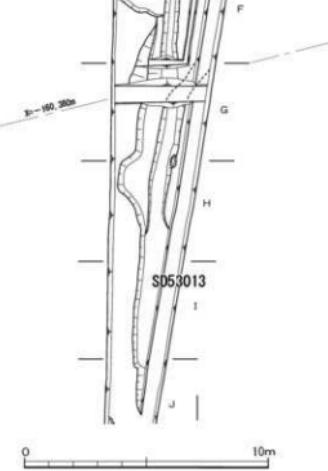
平安時代末の土器器や山茶碗が出土しているが、遺構の年代は室町時代以降に下る可能性がある。



1. 2.5%/₁ 黄色色砂シルト
 2. 2.5%/₂ 暗黄色色砂質シルト（黄褐色シルト塊若干存）
 3. 2.5%/₂ 暗褐色色砂質シルト
 4. 2.5%/₂ 暗褐色細砂（1cm大塊、遺物多含）
 5. 5%/₂ 底ナリーザー色砂質シルト
 6. 2.5%/₁ 黄褐色色砂（SDS5016堆土）
 7. 2.5%/₂ 暗灰褐色粘土質シルト（SDS3015堆土）
 8. 2.5%/₂ 灰褐色粘土質シルト（SDS3015堆土）
 9. 2.5%/₂ 暗褐色色砂質シルト
 10. 10%/₄ 黄褐色色細砂
 11. 2.5%/₁ 黄褐色色細砂
 12. 10%/₆ 黄褐色ヘオリマー黄色色細砂（上面に鉢分集積）
 13. 2.5%/₇ 浅褐色粘土質シルト

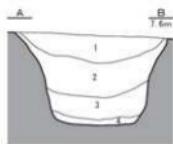


1. 2. 5t6/1 黄灰色砂質シルト (黄褐色シルト塊含)
 2. 2. 5t5/1 黄灰色砂質シルト
 3. 2. 5t5/1 黄灰色砂質シルトと粗砂の互層
 4. 2. 5t6/1 黄灰色粘土質シルトと粗砂の互層
 5. 5t6/3 オリーブ色黃褐色細砂 (基盤層)
 6. N5 灰色粘土質シルトと極細砂の互層
 7. 2. 5t7/4 淡黄色粘土質シルト

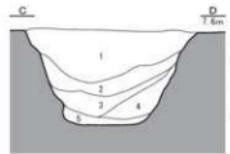


第24図 3区遺構全体図①(1:200)、SD53011断面図(1:50)

SD53001

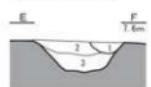


1. 2. 5Y6/2 灰黄色砂質シルト
2. 2. 5Y6/1 黄灰色粘土質シルト
3. 2. 5Y5/1 黄灰色粘土質シルト (流理目立つ)
4. 2. 5Y6/1 黄灰色粘土質シルトと極細砂の互層



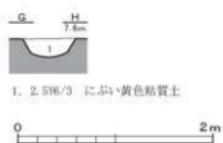
1. 2. 5Y6/2 喧灰黄色砂質土(上層)
2. 2. 5Y6/1 黄灰色砂質シルト<上層>
3. 2. 5Y6/1 黄灰色粘土質シルト<下層>
4. 2. 5Y6/4 にぶい黄色極細砂
(極灰色シルト混含)<下層>
5. 2. 5Y6/1 灰色砂質シルト
(繋りが弱い)<下層>

SD53006・53007



1. 2. 5Y6/3 にぶい黄色粘土質土(SD53006埋土)
2. 2. 5Y6/1 黄灰色砂質シルト(SD53007埋土)
3. 2. 5Y5/1 黄灰色極細砂(SD53007埋土)

SD53005

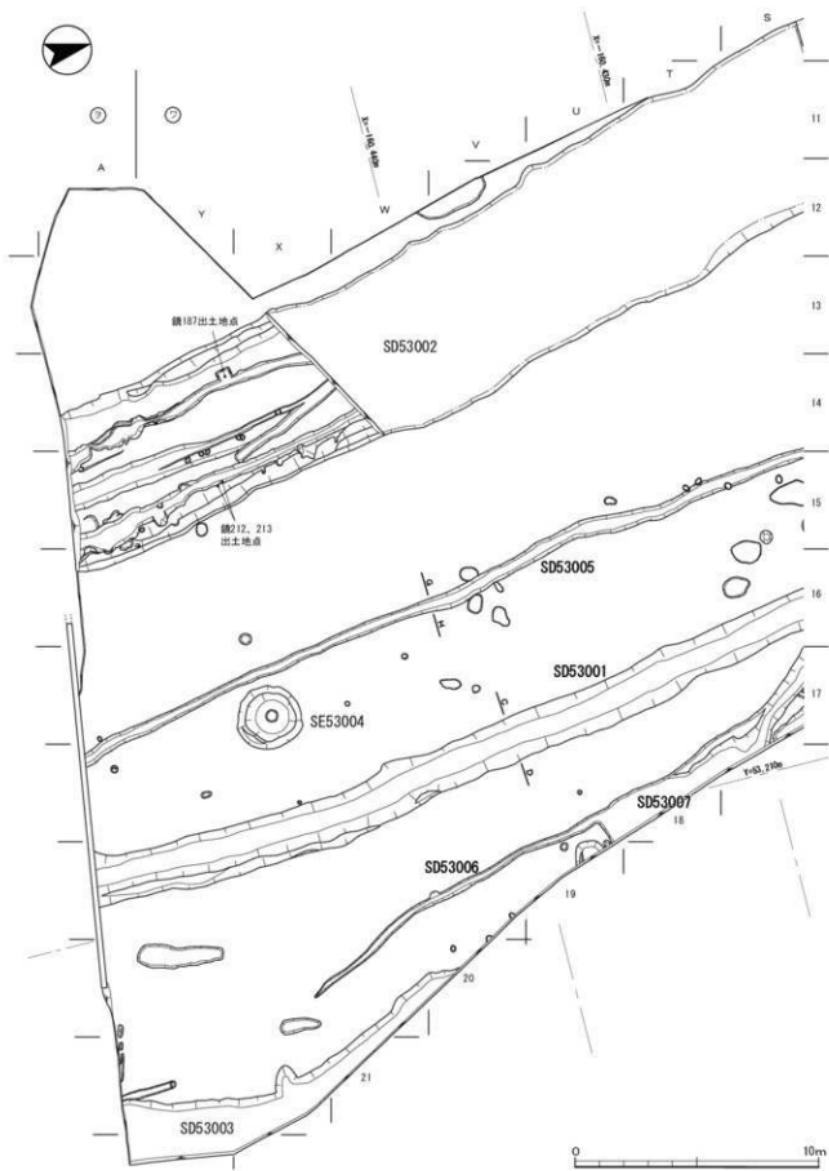


1. 2. 5Y6/3 にぶい黄色粘土質土

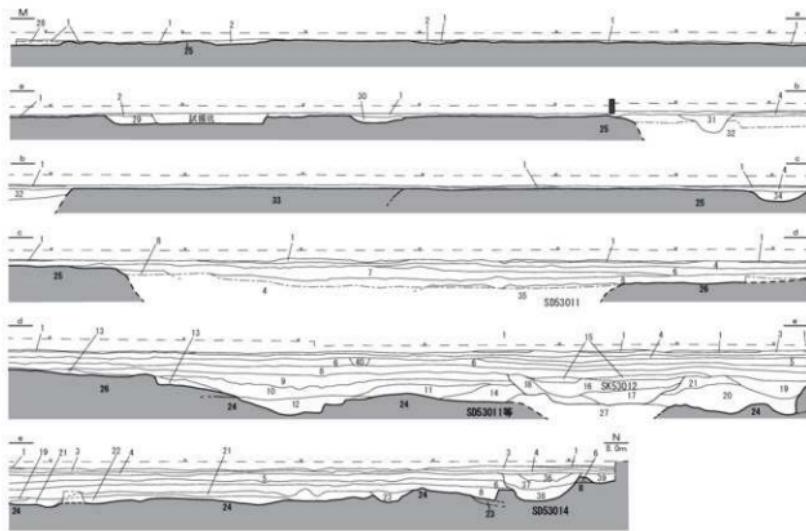
0 2m

0 10m

第25図 3区造構全体図② (1:200)、SD53001・53005～53007断面図 (1:50)



第26図 3区遺構全体図③ (1:200)

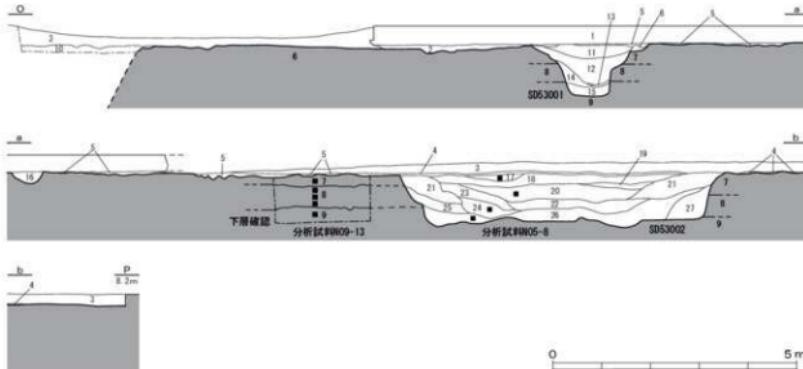


- | | | | |
|-------------|--------------------------------|--------------|------------------------------|
| 1. 2.5%6/6 | 明黄色褐色シルト(床土) | 21. 2. 5%6/1 | 黄灰色细砂(黄褐色シルト塊若干含) |
| 2. 5%5/2 | 灰褐色シルト | 22. 2. 5%5/2 | 暗灰黄色粗砂(0.5cm繊維多含) |
| 3. 5%6/1 | 灰褐色シルト(下面に鉄分沈着) | 23. 2. 5%6/2 | 黄灰色细砂(マンガン多含) |
| 4. 5%6/1 | 灰褐色シルト | 24. 10YR5/4 | にぶい黄褐色細砂(鐵細砂少) |
| 5. 2.5%6/2 | 灰黄色細粒質シルト(下面に鉄分沈着) (SD53011上層) | 25. 10YR4/1 | 褐色細粒土シルト(地山) |
| 6. 2. 5%6/1 | 灰黄色シルト(下層に鉄分沈着) (SD53011上層) | 26. 5%6/2 | 灰オーリープ土質シルト(褐色砂含) |
| 7. 10YR6/2 | 灰褐色シルト(下層に鉄分沈着) (SD53011上層) | 27. 5%7/2 | 灰白色シルト |
| 8. 2.5%6/1 | 灰黄色細粒質シルト(マンガン多含) | 28. 10YR5/2 | 褐色細砂質シルト(SD53002理土) |
| 9. 2.5%6/2 | 黄褐色シルト(黄褐色シルト塊含) | 29. 10YR6/3 | にぶい黄褐色細粒土(SD53005理土) |
| 10. 2.5%5/1 | 灰黄色細粒質シルト | 30. 10YR5/1 | 褐色細粒土シルト(SD53005理土) |
| 11. 2.5%6/2 | 灰黄色細粒質シルト(にぶい黄褐色細砂塊含) | 31. 2. 5%6/3 | にぶい黄褐色砂質土 |
| 12. 2.5%6/1 | 黄褐色細砂と中砂の互層 | | (上部にマンガン沈着) (SD53008理土) |
| 13. 5%6/2 | 灰褐色シルト粘土質アルト | 32. 2. 5%5/1 | 黄灰色砂質シルト(マンガン多含) (SD53001理土) |
| 14. 2.5%7/2 | 灰褐色土質シルト(黄褐色色シルト含) | 33. 2. 5%5/2 | 暗灰黄色細砂質シルト(地山) |
| 15. 2.5%7/3 | 淡黄色シルト(SK53012上層) | 34. 2. 5%5/2 | 暗灰黄色粗粒土シルト |
| 16. 2.5%6/2 | 灰褐色シルト(SK53012理土) | 35. 10YR6/2 | 灰黄褐色細粒土質シルト(SD53011上層) |
| 17. 2.5%6/3 | にぶい黄色粗砂(1cm以上多量) (SK53012埋土) | 36. 2. 5%6/2 | 灰黄色細粒土(SD53014理土) |
| 18. 2.5%6/2 | 灰褐色細粒質シルト(粗砂多含) (SK53012理土) | 37. 2. 5%5/2 | 灰褐色細砂(SD53014埋土) |
| 19. 10YR6/2 | 灰褐色細粒シルト(黄色粗砂含) (SD53015埋土) | 38. 2. 5%5/1 | 灰褐色細砂(0.5cm繊維多含) |
| 20. 10YR6/2 | 灰褐色シルト | 39. 2. 5%5/2 | 灰褐色シルト |
| | (にぶい黄色細砂、黄褐色シルト塊含) | 40. 5%6/3 | オーリープ質シルト(SD53010理土) |

(にぶい黄色極細砂、黄褐色シルト塊含)

0 5 m

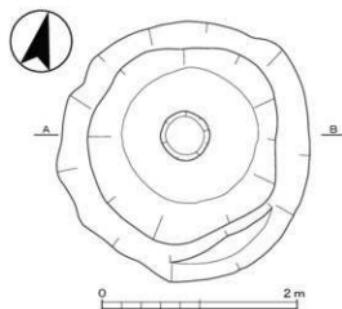
第27図 3区西壁土層断面図 (1:100)



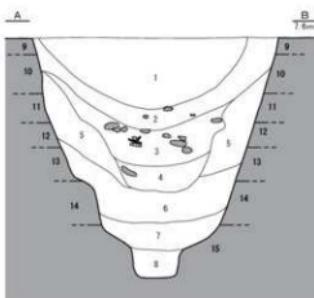
1. コンクリート
 2. 横堀
 3. 5Y4/1 灰色粘土質シルト(耕作土)
 4. 2. 5Y6/6 明黄褐色シルト(耕土)
 5. 5Y5/2 灰オリーブ色シルト
 6. 2. 5Y6/4 にぶい黄色シルト～砂質シルト(基盤層)
 7. 10Y4/1 暗灰色粘土質シルト(基盤層)
 8. 10Y3/1 黒褐色粘土質シルト(基盤層)
 9. 7. 5Y5/4 にぶい褐色シルト(基盤層)
 10. 2. 5Y6/3 にぶい黄色粘土(SD53003埋土)
 11. 10Y6/2 灰褐色粘土質土(SD53002埋土)
 12. 10Y4/2 灰褐色粘土質土(黄褐色～黒褐色シルト塊含)
 (SD53001埋土)
 13. 7. 5Y5/1 灰色粘土質シルトと細砂の互層(SD53001下層)
 14. 5Y6/1 灰色粘土質シルト(明黄褐色シルト塊含)
 (SD53001下層)
15. 5Y6/1 灰色粘砂(縫隙が弱い) (SD53001下層)
 16. 2. 5Y6/2 灰黄色シルト(SD53002埋土)
 17. 2. 5Y6/2 黄褐色砂質シルト(マンガニヤや多含) (SD53002最上層)
 18. 2. 5Y5/2 噴灰黄色砂質シルト(SD53002最上層)
 19. 2. 5Y7/1 灰白色粘土質シルト(SD53002上層)
 20. 2. 5Y5/2 噴灰黄色砂質シルト(暫側ほど粘土質傾向)
 (SD53002上層)
 21. 10Y5/1 噴灰黄色砂質シルト(1cm縫隙多含) (SD53002上層)
 22. 2. 5Y5/1 黄褐色粘土質シルト(SD53002上層)
 23. 2. 5Y5/2 噴灰黃褐色細砂(SD53002上層)
 24. 2. 5Y6/1 黄褐色粘土質シルト
 25. 2. 5Y6/2 灰黃褐色粘土質シルト(1cm縫隙多含) (SD53002上層)
 26. 2. 5Y5/2 噴灰黄色砂質(SD53002下層)
 27. 2. 5Y4/2 噴灰黄色シルト(黒褐色シルト・褐色シルト含)
 (SD53002下層)

第28図 3区南北壁土層断面図 (1:100)

SE53004

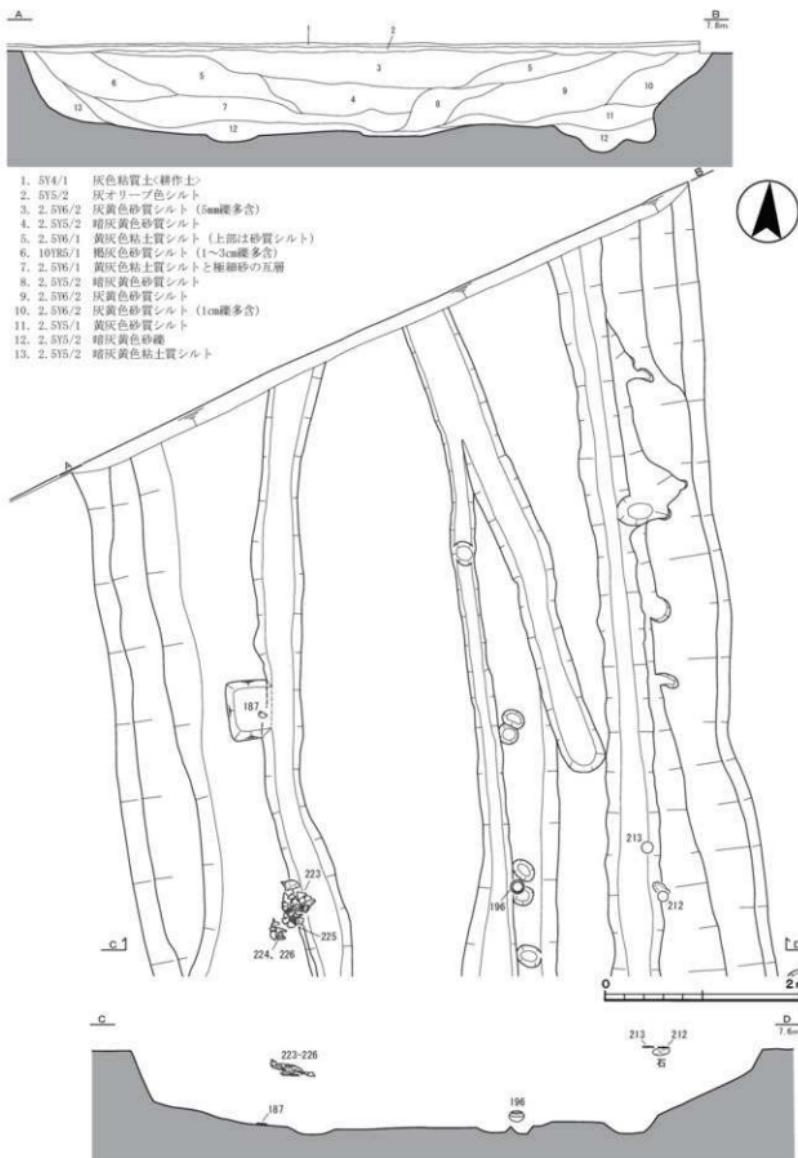


1. 2. 5Y6/3 にぶい黄色粘土質土
 2. 10Y5/2 明黄褐色粘土質土(5～10cmの大塊含)
 3. 2. 5Y5/2 噴灰黄色シルト(5～10cmの大塊多含)
 4. 2. 5Y4/1 黄褐色粘土質シルト(緑灰色・黒褐色シルト塊含)
 5. 2. 5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト(褐色・黒褐色シルト塊含、または互層)
 6. 7. 5Y6/1 緑灰色粘土質シルト～10Y6/5/1青灰色粘土質シルト
 7. 10Y5/1 黄褐色粘土質シルト(黒色粘土質シルト含)
 8. 2. 5Y4/1 黄灰色粘土質シルト(物片含)



- <9～15層：基盤層>
 9. 2. 5Y5/2 黄褐色シルト
 10. 10Y3/1 黑褐色粘土質シルト
 11. 2. 10Y6/4 にぶい黄褐色粘土質シルト(やや縫りが弱い)
 12. 2. 5Y6/4 にぶい黄色砂質シルト
 13. 2. 5Y6/2 黄褐色砂質
 14. 10Y5/2 黄褐色砂礫
 15. 2. 5Y6/3 にぶい黄色砂礫(5cmの大塊多含、湧水層)

第29図 SE53004 (1:50)



第30図 SD 53002 断面図・遺物出土状況図 (1:50)

6. 4区（第31～40図）

（1）概要

遺跡北部の調査区で、南側を4-1、北東を4-2、北側を4-3、南側離れを4-4区と呼称し調査にあたった（第31～33図）。西側を6次3区、7次10区、東側を7次8区と接する。

調査区西側に自然流路SR 54035、中央にSD 54011、54012など南北方向の溝、東側に区画溝SD 54003などがある。他に掘立柱建物数棟、井戸4基などがある。弥生時代終末期～古墳時代の自然流路（SR 54035）は、断ち割りにより堆積状況と包含遺物を確認した。

遺構の主軸は各時代とも微地形に即したN10°W前後をとり、条里方向の遺構は確認できない。

全体的に遺構はやや希薄であるが、掘立柱建物のピットを見る限り、遺構面が50～60cm程度削平されている可能性が高く、遺構の分布や建物配置を検討する際は、この点を十分に考慮する必要がある。また、朝見遺跡の中では、中坪遺跡に近いこの4区・9区付近で飛鳥～奈良時代の遺構が比較的多く認められる傾向がある。

遺構は明黄褐色シルト層上で検出したが、西側は砂質シルトとなっている（第31・35図）。

4カ所で下層確認を実施したが、縄文時代の遺物は希薄であった（写真図版30）。4-4区北壁5層から若干縄文土器が出土した。

（2）遺構

SD 54001・54002 4-1区東端で検出した溝で、複数の遺構が錯綜しており、SD 54002がより新しい。当地には地堀となる水路があり、その前身となる遺構であろう。調査区内で幅1m以上、深さ30cmを測る。SD 54001から平安時代末～鎌倉時代の遺物が出土している。

SD 54003 4-1区で検出した幅40cm、深さ10cm程度の細い溝で、2ヶ所でS字状に屈折する。1区SD 51005と溝のあり方はよく似ており、区画溝あるいは耕作に伴うものとみられる。SD 54007より後出の遺構である。

奈良時代の土師器片が多く出土した。

SK 54004（第36図、写真図版29） 4-1区東で検出

した長径1.4m、短径1m、深さ70cmの楕円形土坑である。

平安時代後期の土師器杯などが出土した。

SE 54005（写真図版29） 4-1区南壁付近で検出した円形の井戸である。掘方は直径2.5～2.7mの不整円形、深さ1.8mを測る。

井戸枠は検出されていないが、土層断面（第34図）の観察では下層に掘り返した形跡があり、井戸枠等は抜き取られたと考えられる。

埋土から奈良時代の遺物が多く出土しており、廃絶後は廐棄土坑となったようである。

SK 54006（第36図、写真図版29） 4-1区東で検出した長径1.1m、短径80cm、深さ40cmの楕円形土坑である。埋土は砂質土と粘質土が互層となる。

中世IV期の土師器鍋等が出土した。

SD 54007 4-1区で検出した幅30cm、深さ10cm前後的小規模な溝で、約3m西にも同様の溝が並行する。ともに条里方向に沿うが、奈良時代のSD 54003、SE 54005に先行する遺構である。

古代の土師器片が出土した。

SK 54008 4-1区南壁付近で検出した。調査区端での検出のため全体の形状は不明確であるが、一辺70cmの隅丸方形を呈するものと思われる。深さは検出面から25cm程度であるが、埋土には繩を多く含む。

SD 54009・54016（第36図） SD 54009は4-1区で検出した小規模な素掘溝で、幅35cm、深さ10cmを測る。北側のSD 54016は延長部分であろう。

溝の走行方向はN10°Wで、西側にあるSD 54011と並行する。

SD 54009から、平安時代後期の土師器碗などが出土している。

SK 54010 4-1区南壁付近で検出した。調査区端での検出のため全体の形状は不明であるが、幅50cmの溝状を呈する。深さは20cm程度で、埋土は繩である。

SD 54011・54014（第37図、写真図版29・30）

SD 54011は4-1区・4-3区で検出した直線的な溝で、幅1.5～3m、深さ50～60cmを測る。北側がより幅広である。溝の走行方向はN10°Wで、粗砂や砂礫で埋没後、改修されている。

SD 54014はSD 54011と重複する溝で、幅70cm、深さ30cmである。SD 54014が後出であるが、出土

遺物に大きな時期差はない。

ともに弥生時代終末期～古墳時代、飛鳥時代の土器が出土した。

S D 54012 (写真図版 29) 4-1 区西で検出した溝で、幅 2.2 m、深さは 60 cm～1.1 m を測る。断面形は V 字形で、埋土は砂ないし砂質土が主体である（第 34 図）。南西から北東へ走行するが、北東の延長部分が確認できることから、S D 54011・54014 に合流する溝の可能性がある。

古代の土師器壺などが出土した。

S D 54013・54015・54017 4-1 区で検出した幅 20～40 cm、深さは 5 cm 前後の素掘溝で、S D 54009・54016 と直交する。S D 54015 から室町時代の土師器片が出土した。

奈良・平安時代の遺物も含むが、中世の素掘溝と考えられる。

S K 54020 4-1 区の調査区端で検出したため全形は不明であるが、直径約 2 m の円形で、深さは 30 cm に満たない。

中世の山茶碗が出土した。

S D 54021・54024・54025・54027 4-2 区から 4-1 区の調査区北東端で検出した中世の溝で、一連のものと思われる。

山茶碗や常滑など中世の陶器が出土している。

S K 54022 4-1 区の調査区北東端で検出した、直径 1.5 m、深さ 30 cm の円形土坑で、中央部は深さ 50 cm と 1 段下がる。S D 54021 より後出の遺構で、中世の山茶碗などが出土した。

S K 54023 4-1 区東で検出した長径 1 m、短径 60 cm の梢円形の土坑である。深さ 30 cm で、北半は深さ 10 cm と段差がある。中世 III 期の土師器が出土している。

S D 54026 4-3 区で検出した幅 30 cm、深さ 10 cm 未満の小規模な溝である。調査区外から 2 m ほど南下して途切れる。S D 54016 等と同様に耕作に関する素掘溝であろう。

S K 54030 4-3 区西で検出した直径 90 cm～1.5 m の梢円形土坑で、深さは 5 cm に満たない。中央部は円形に若干凹む。

S E 54031 (第 38 図、写真図版 27) 4-1 区西端で検出した平安時代中期の井戸である。掘方は一辺 2.7 m の方形で、深さ 2.5 m で底に至る。深さ 1 m 以下はグ

ライ層となり涌水がみられた。掘方中央部に木製井戸枠を据えるが、水溜めはない。

井戸枠は縦板・横板組で、内寸が一辺 75 cm の方形である。最下段に土居枠を組み、その外側南北に縦板を 5 枚、東西に横板を充て、高さ 90 cm 付近に横桟を設ける。

井戸枠材は同一母材を割り裂くか、長手の部材を半分に切断し、対向する面に配置している。特に横板はそれぞれ対面の部材が接合関係にあり（IV章）、井戸製作時の木材利用状況を詳細に復原することが可能である。この縦板・横板組井戸の製作パターンは堀田遺跡でも確認でき、古代～中世の朝見上地区遺跡群に共通したものといえよう。

井戸枠内から完形の土師器壺（383）や底板付きの曲物（1267）が出土しており、釣瓶として用いられたものかもしれない。他に、井戸枠内・掘方から平安時代中期の土師器や灰釉陶器、志摩式製塙土器などが出土した。

S K 54033 (第 36 図、写真図版 29) 4-1 区西で検出した直径 1.4 m、深さ 30 cm の浅い円形土坑である。遺物は希薄であった。

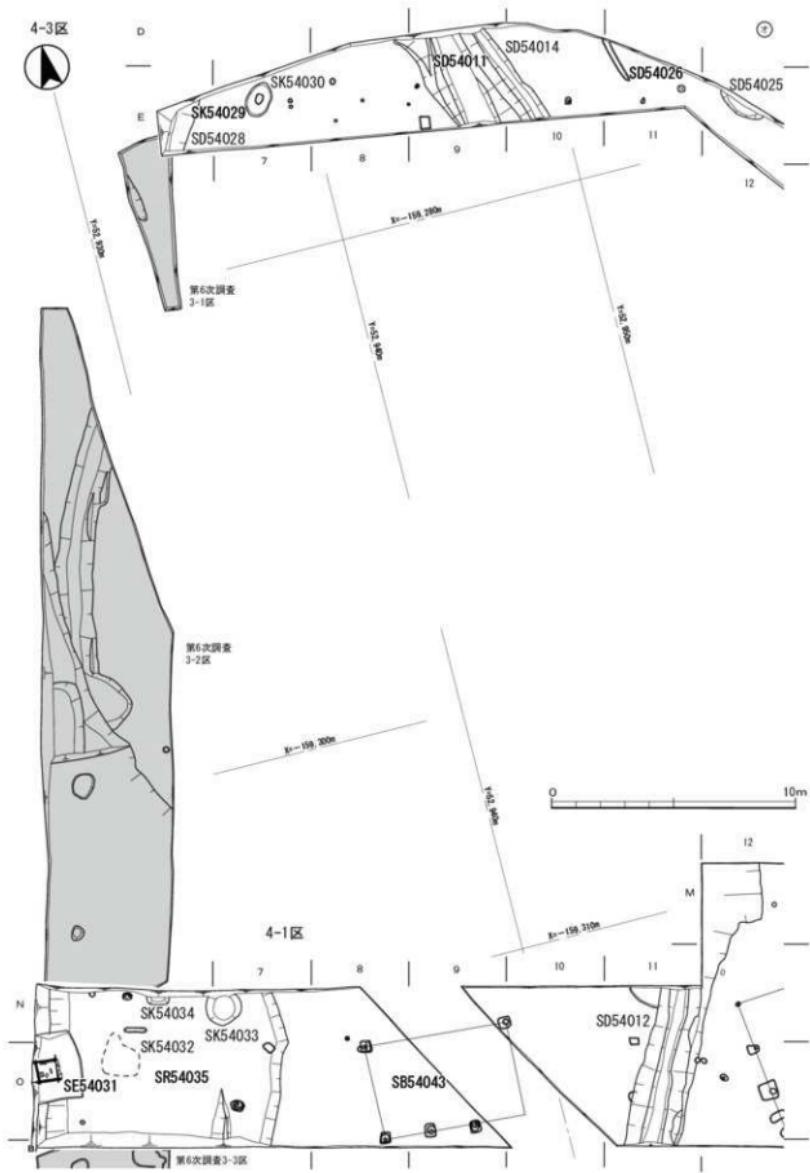
S R 54035 (写真図版 31) 4-1 区西端で検出した弥生時代終末期～古墳時代の自然流路である。全幅は不明であるが、調査区内で幅は 10 m 以上、深さは 1.8 m ある。北側延長は第 6 次調査で検出しており（S R 63008）、南から北へ流れる自然流路と考えられる。また、南は 7-1 区で確認した自然流路（S R 57077）につながる可能性が高い。

埋土は砂礫とシルトが互層をなしており、西側から徐々に幅を狭めつつ埋没していくと考えられる（第 34 図）。

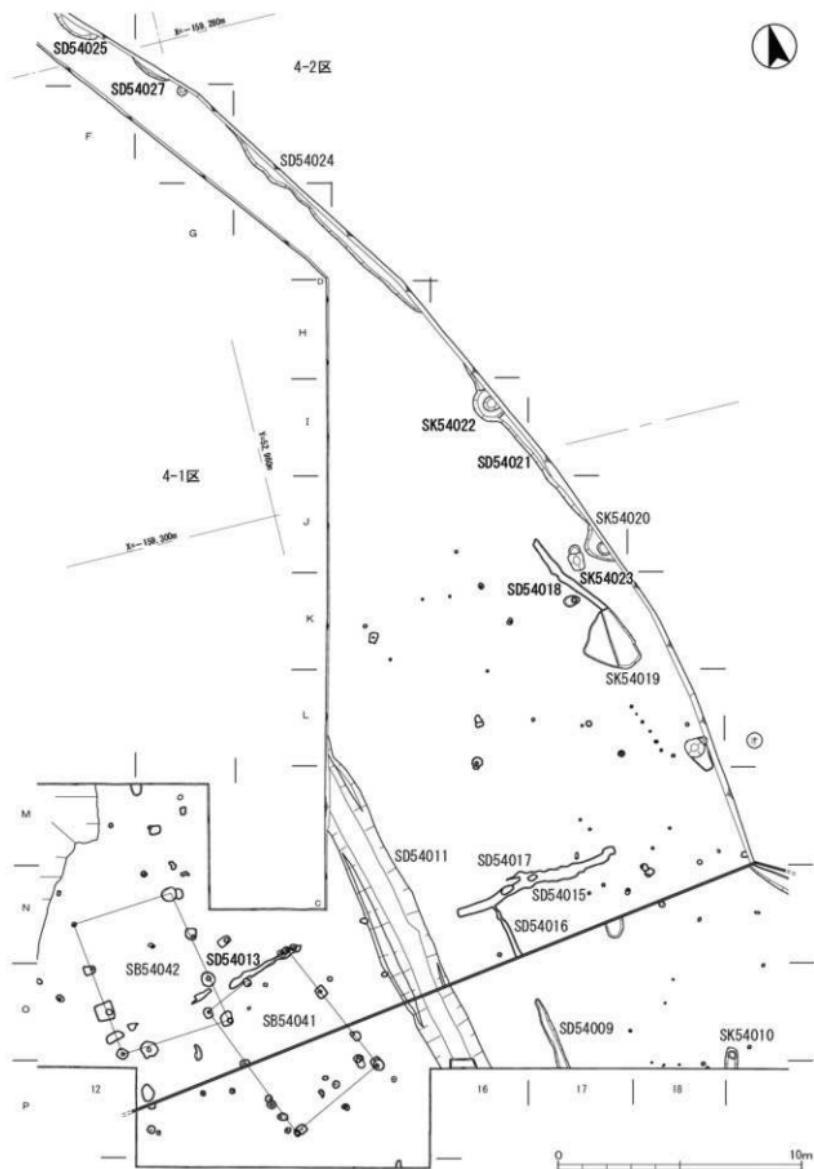
最下層付近で弥生時代終末期～古墳時代前期の土師器が出土した。

S E 54036 (第 39 図、写真図版 28) 4-1 区中央で検出した平安時代後期～末の井戸で、掘方は直径 3.3 m の円形、深さ 2.5 m である。中央に木製の井戸枠を設ける。北東に前身遺構である方形掘方の S E 54040 がある。

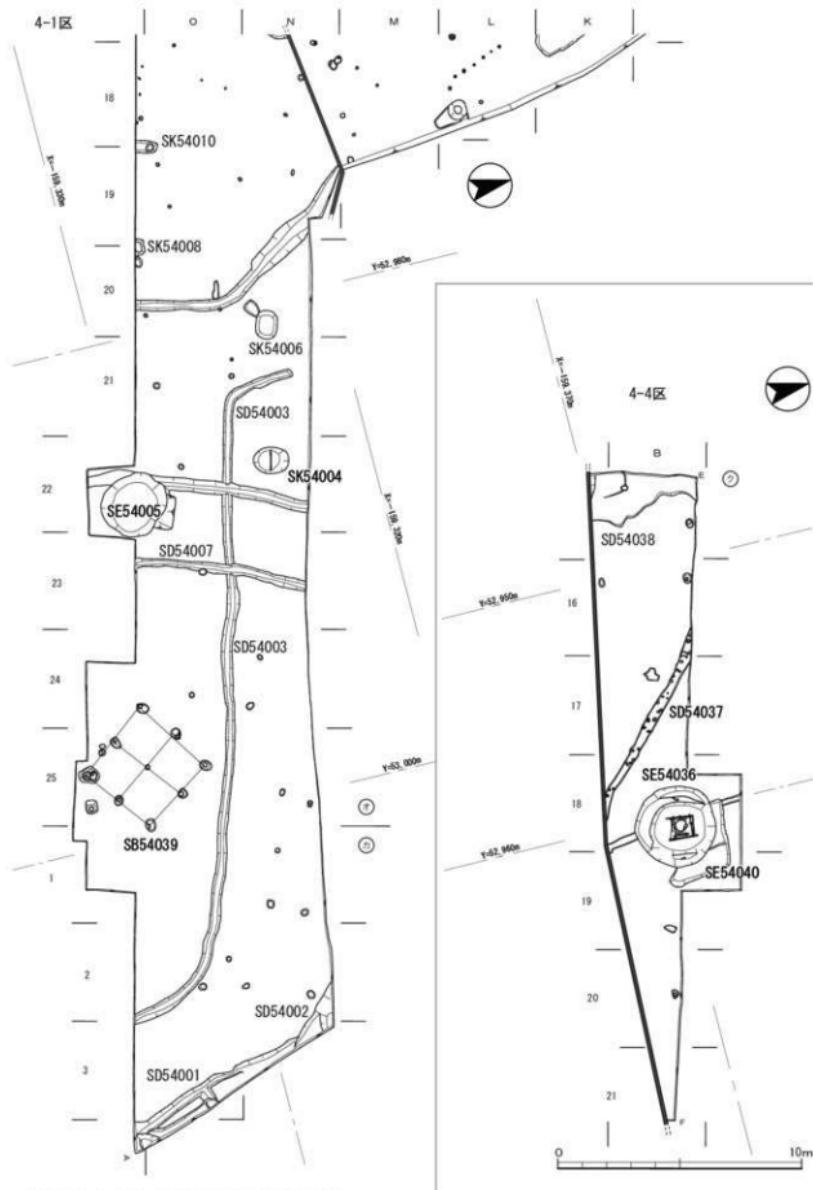
井戸枠は縦板・横板組で、内寸が一辺 90 cm の方形、東西面を横板、南北面を縦板で組み、縦板内側を横桟で留める。横板は長手の同一母材を切断し、対面



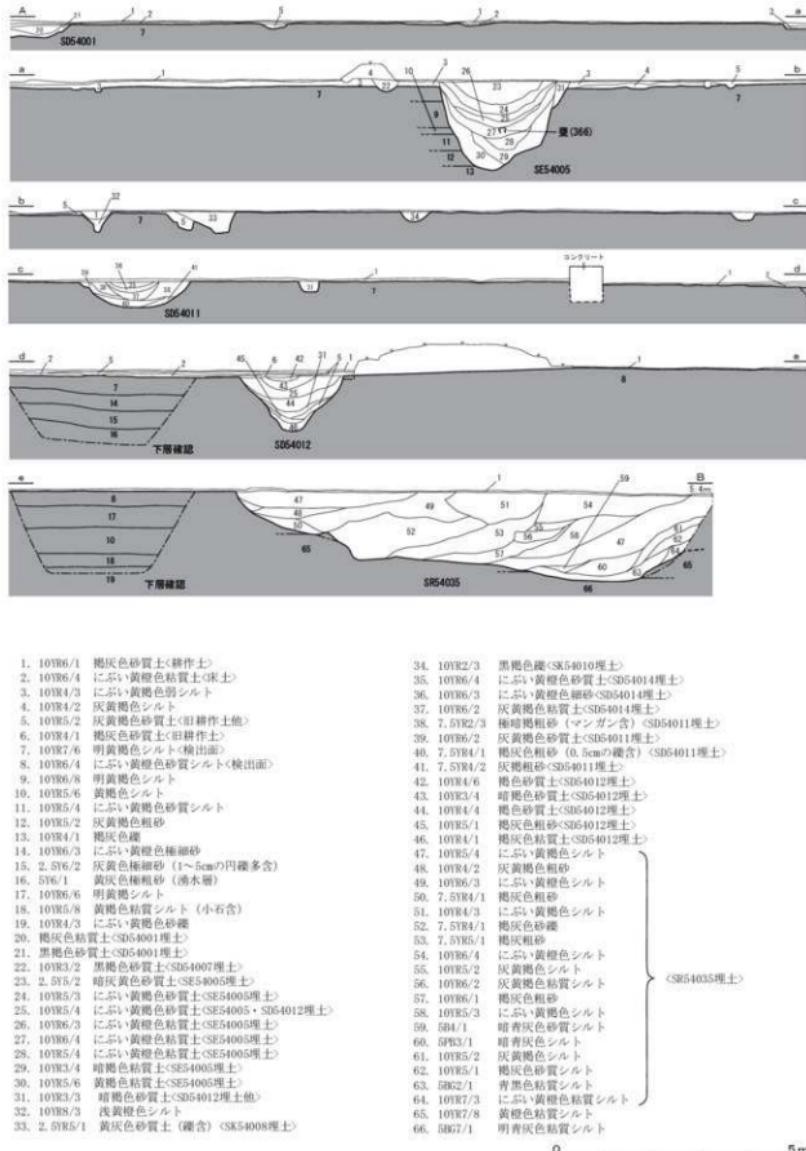
第31図 4-1区、4-3区遺構全体図 (1:200)



第32図 4-1区、4-2区造構全体図 (1:200)

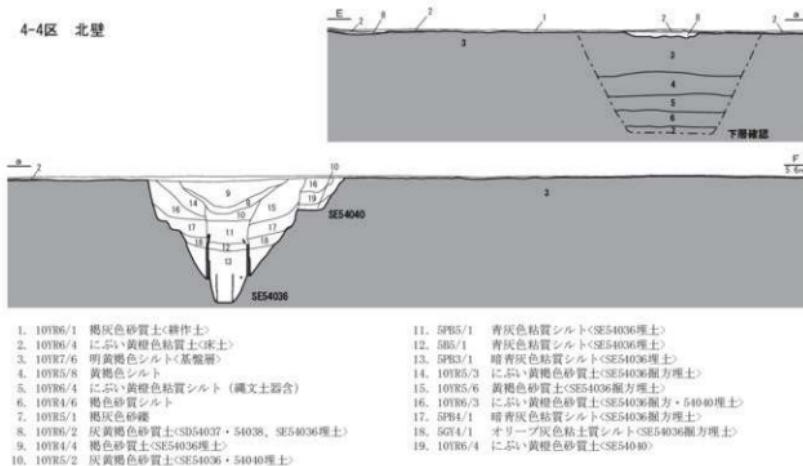


第33図 4-1区、4-4区遺構全体図 (1:200)

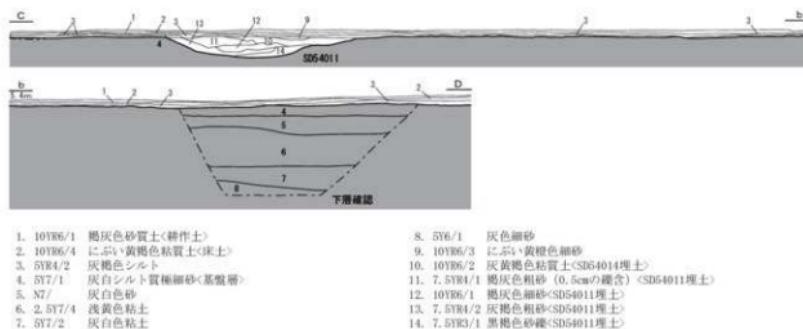


第34図 4-1区南壁土層断面図 (1:100)

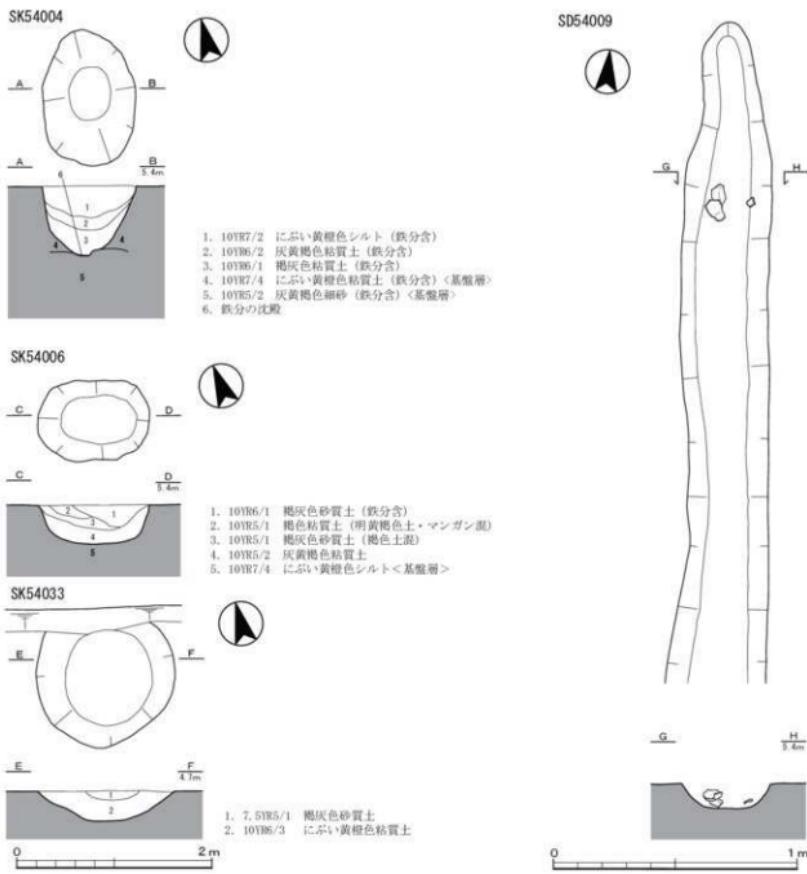
4-4区 北壁



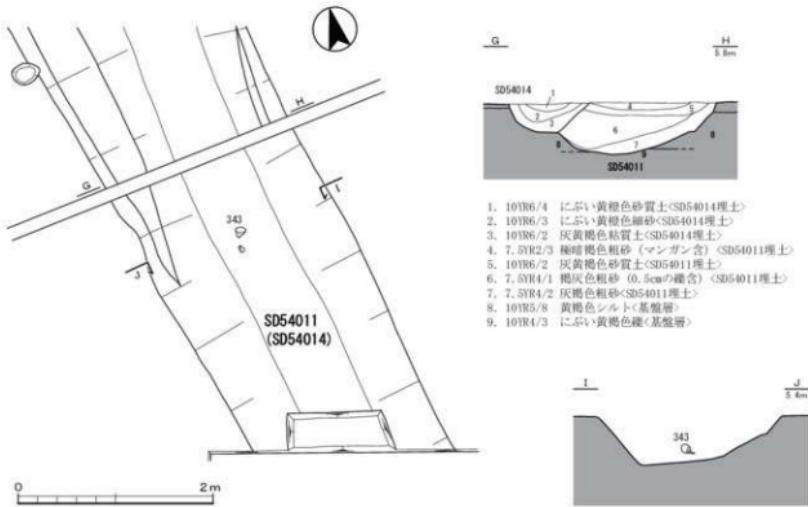
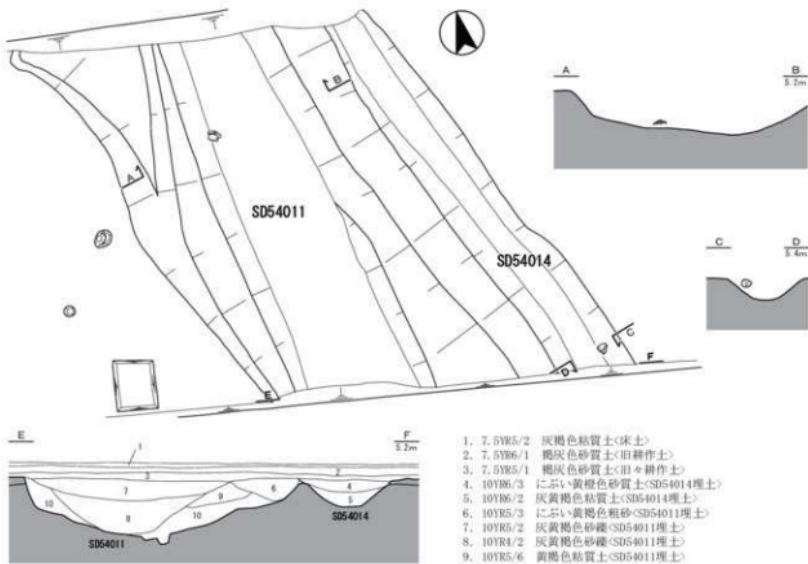
4-1区 西壁



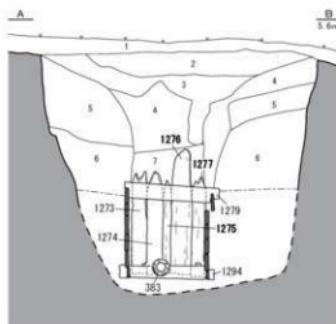
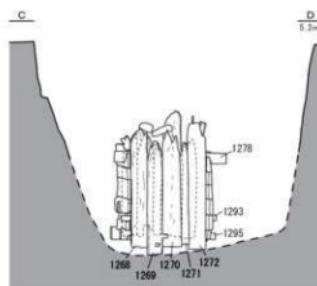
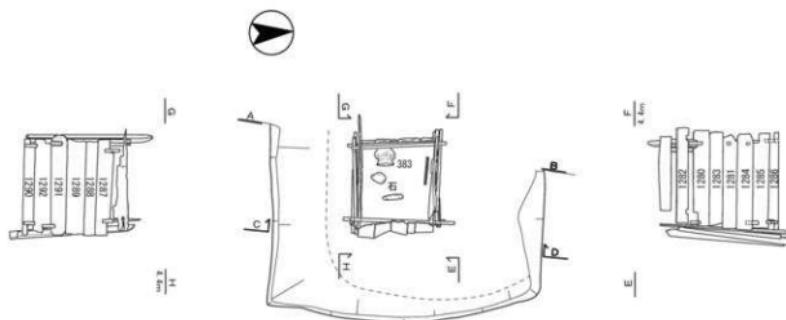
第35図 4-4区北壁、4-1区西壁土層断面図 (1:100)



第36図 SK 54004・54006・54033 (1:50)、SD 54009 遺物出土状況図 (1:20)



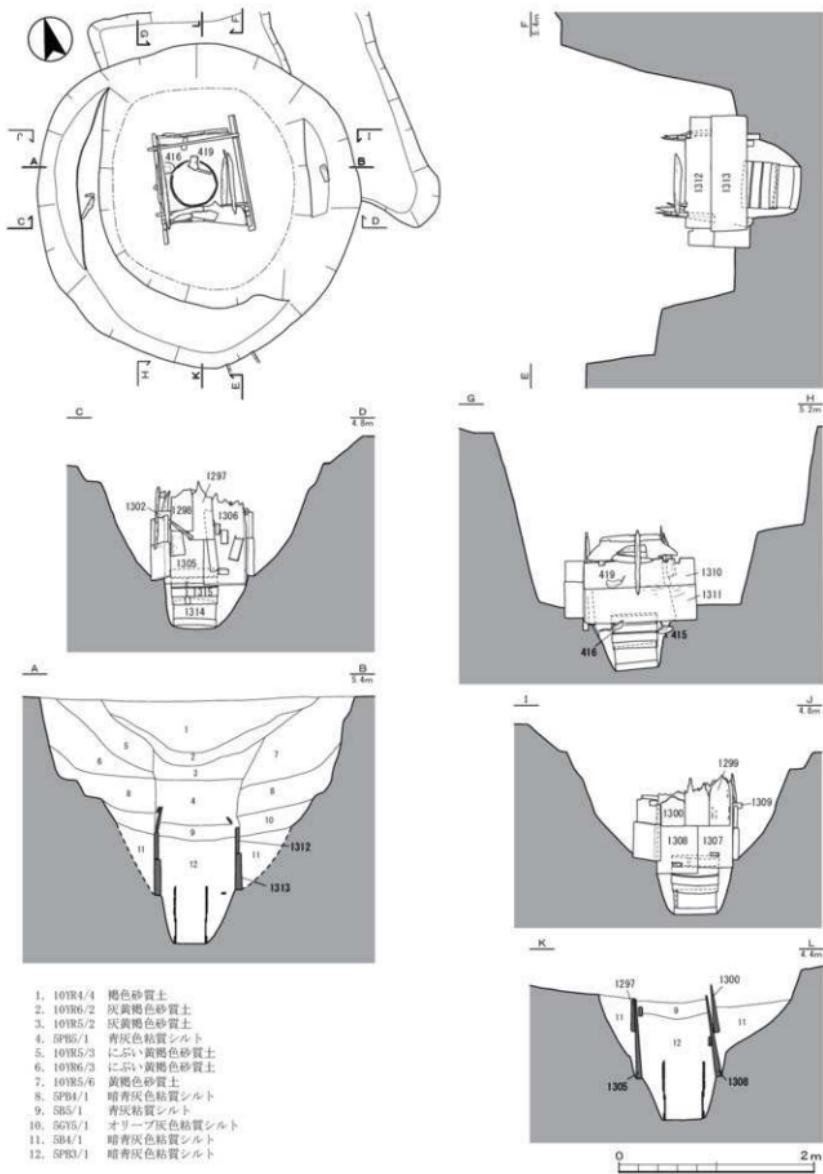
第37図 SD 54011・54014 断面図、遺物出土状況図 (1:50)



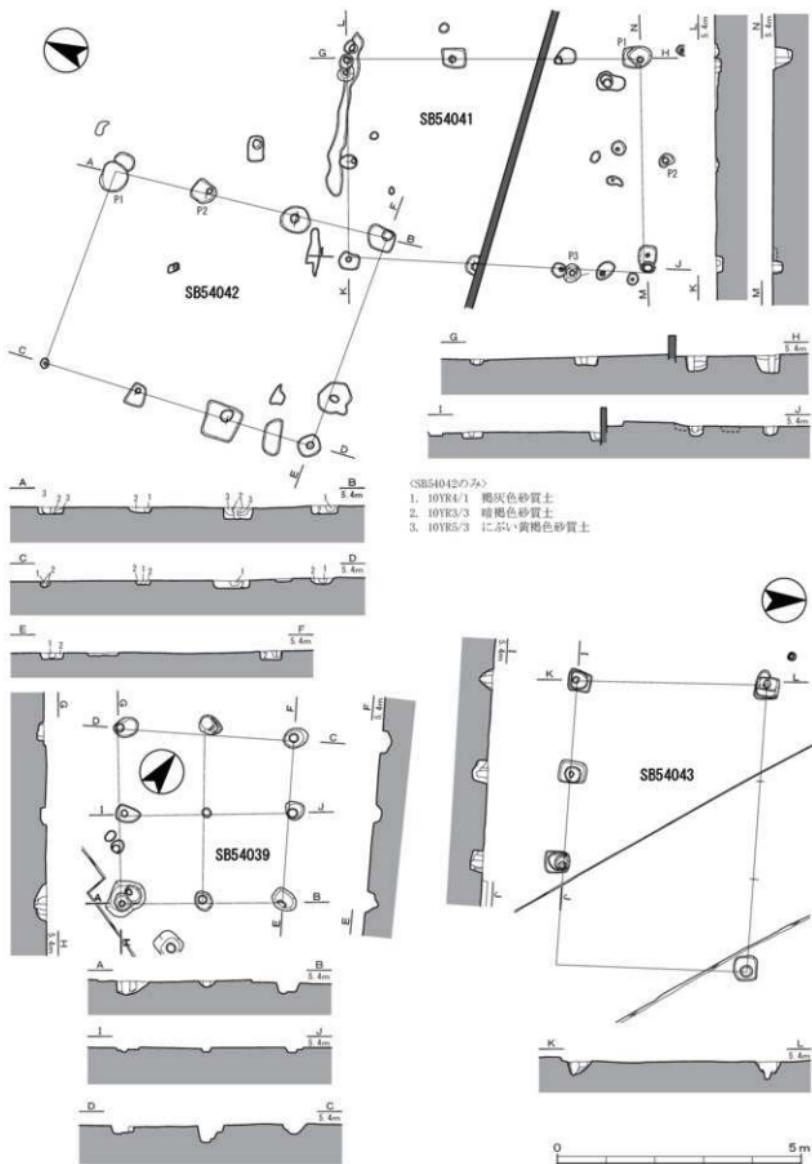
- 1. 10YR5/1 暗灰色土(耕作土)
- 2. 7.5YR5/2 灰褐色粘质土
- 3. 7.5YR6/2 灰褐色粘土
- 4. 10YR7/8 黄褐色粘土
(暗褐色粘土壤多含)
- 5. 7.5YR6/1 暗灰色粘土
- 6. 5Y6/1 暗灰色粘土
- 7. SB6/1 香灰色粘土



第38図 S E 54031 (1:50)



第39図 S E 54036 (1:50)



第 40 図 SB 54039・54041～54043 (1:100)

に配置している。表面はチョウナで整形されており、建築部材からの転用とみられる。板は重厚な柱目材で、いずれも納穴や蟻溝状の加工があり、接合関係こそ不明だが近似した建築部材の転用であろう。板の外側には小さな板材を添えて補強している。

掘方中央は約 50 cm 深く掘り下げ、直径約 50 cm、高さ約 40 cm の曲物を 2 段重ねて水溜めを設ける。

遺物は平安時代後期～末の土師器、灰釉陶器、山茶碗などがある。曲物外側の井戸底部から完形の灰釉陶器ないし山茶碗が 2 点（415・416）出土した。いずれも投げ込まれたものであろう。他に井戸掘方から曲物の残骸が出土しており、重複する S E 54040 の遺物の可能性がある。

S D 54037（写真図版 30）4-4 区で検出した幅 50 cm、深さ 10 cm 未満の浅い溝である。南東から北西へ延び、底面には耕起具の痕跡とみられる多数の凹みがある。

平安時代中～後期の土器が出土した。

S B 54039（写真図版 30）4-1 区区東部で検出した。2 間 × 2 間の総柱建物で、主軸は N39° W である。ピット掘方は直径約 40 cm の不整円形で、削平のためピットの残りは悪い。

柱痕跡は直径 10 ～ 15 cm の円形である。柱間寸法は 1.8 m（6 尺相当）を基本とするが、やや不揃いで、歪んだ平面形を呈する。古代の土師器が出土した。

S E 54040（写真図版 28）4-4 区で一辺 2.8 m、深さ約 70 cm の方形の掘方を検出した。大半を重複する S E 54036 に切られ、詳細は不明である。

平安時代後期～末の土器が出土している。

S B 54041（写真図版 26）4-1 区中央で検出した 3 間 × 2 間の建物で、主軸は N24° W、南北棟である。ピット掘方は一辺 50 cm の隅丸方形である。平行方向の側柱は、柱間が不等間で、相対する側柱も柱筋の通りが悪い。柱痕跡は直径 12 cm ほどの円形である。平安時代末の土師器片などが出土した。

S B 54042（写真図版 26）4-1 区中央で検出した、3 間 × 1 間の掘立柱建物である。主軸 N10° W、南北棟で、ピット掘方は一辺 50 cm ほどの不整方形であるが、削平により規模は不揃いである。また妻側柱のピットは確認できない。

柱痕跡は、直径約 10 cm の円形である。南東側は S B 54041 と重複するが前後関係は不明である。

平安時代後期～末の土師器などが出土した。

S B 54043（写真図版 26）4-1 区西で検出した側柱建物である。建物中央部を現道が横切っており、不明確な部分が多いが、3 間 × 1 間、主軸は N2° E の東西棟とみられる。

柱間寸法は 1.8 m（6 尺相当）の等間で、平面形は若干歪みがある。妻側柱は検出できなかった。ピット掘方は一辆 50 cm 前後の方形で、柱痕跡は直径 15 cm の円形である。平安時代後期の土師器片が出土した。

7.5 区（第 41 ～ 44 図）

（1）概要

遺跡北部、4 区と 9 区の間に南北方向の調査区で、北側を 7 次 8 区、南側を 6 次 4 区に接する。北側で掘立柱建物を確認したことから、周囲を一部拡張した。全体的に遺構は希薄である。

遺構は現代耕土・床土直下（地表下 20 cm）の灰黄褐色シルト層（東壁 12 層）上で検出した。南側は黄褐色シルト（東壁 26 層）が遺構面である。

下層確認は北側・南側の 2 ヶ所で実施し、北側は暗色帶（東壁 37 層）や縄文土器片を確認したが、遺物量は少ない。南側では極細砂や粘土質シルトがみられ、地表下約 3.2 m で砂礫層（東壁 50 層）となった。

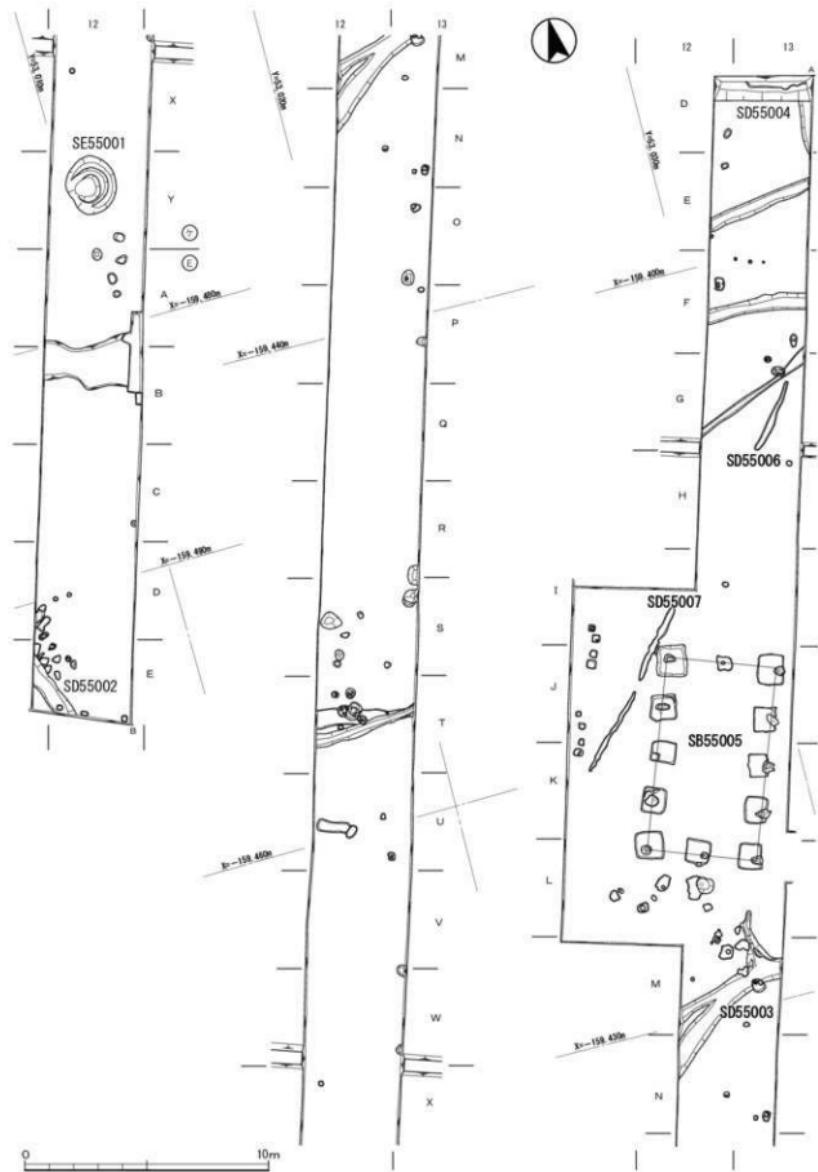
この直上で黒褐色の土壤（東壁 49 層）を検出し、本層とその上層（47 層）で C 14 年代測定用サンプルを採取した。49 層の炭化材（試料 No3）は 3440 ± 25yrBP（1876-1666calBC:2 σ）、47 層の炭化材（試料 No4）は 3450 ± 25yrBP（1877-1690calBC:2 σ）の年代値を得た（V 章）。ともに縄文後期中葉に相当する年代値であり、北側下層確認（37 層）で得られた土器と年代的な齟齬が生じることから、5 区南側に局所的な旧流路や埋積浅谷が存在した可能性がある。

現状では、50 層の砂礫層が 1 区や 6 区で確認した基本層と VI 層の砂礫層と対応するかは確定できない。

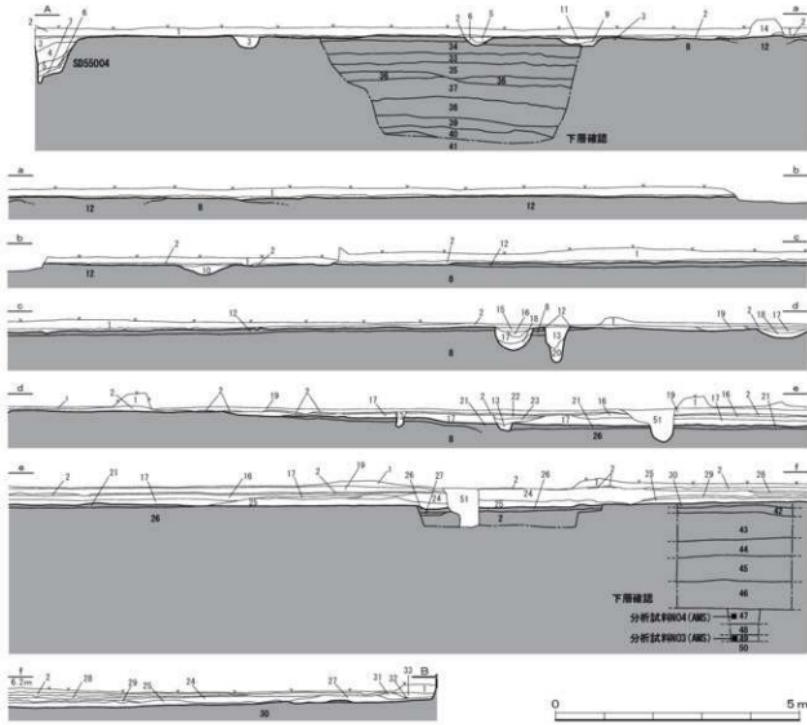
（2）遺構

S E 55001（写真図版 34）5 区南で検出した直径 2 m、深さ 1.8 m の円形井戸である。

深さ 1.2 m ～ 1.6 m で湧水層に達し、埋土も還元状態になる。底面は直径 80 cm 程度の円形にやや深くなつており、この部分に水溜めがあった可能性もあるが、



第41図 5区造構全体図 (1:200)



1. 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色シルト<耕作土他>
 2. 2.5Y5/3 黄褐色粘質シルト<床土他>
 3. 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルト(極細砂含)<SD55004他埋土>
 4. 2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト(極細砂含)<SD55004他埋土>
 5. 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土質シルト<SD55004他埋土>
 6. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト(極細砂含)<SD55004他埋土>
 7. 2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト<SD55004埋土>
 8. 2.5Y5/4 黄褐色粘土質シルト(繊細砂・マンガン含)<基盤層>
 9. 2.5Y4/3 暗灰色粘質シルト
 10. 2.5Y4/3 暗灰色粘質シルト(細砂含)<SD55003埋土>
 11. 2.5Y5/3 暗灰黄色シルト
 12. 10YR5/3 灰黄褐色シルト<基盤層>
 13. 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質シルト
 14. 5Y3/2 オリーブ黒色粘質シルト<堆>>
 15. 2.5Y4/3 暗灰黄色粘質土
 16. 2.5Y5/3 灰黄色粘質土
 17. 2.5Y5/2 灰黄色極細砂
 18. 2.5Y5/3 灰黄色粘質土(極細砂含)
 19. 2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト<床土>
 20. 10YR4/3 にぶい、黄褐色の粘土質極細砂
 21. 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土<基盤層>
 22. 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土
 23. 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質シルト(極細砂含)
 24. 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘土質シルト<旧耕作土>
 25. 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
 26. 10YR5/4 黄褐色シルト
27. 10YR6/3 にぶい、黄褐色シルト
 28. 10YR6/6 明黄褐色シルト(暗灰色シルト塊含)<床土>
 29. 2.5Y5/4 黄褐色シルト<床土>
 30. 10YR4/2 灰黄褐色シルト<基盤層>
 31. 10YR4/4 黄褐色シルト
 32. 10YR5/3 にぶい、黄褐色シルト(細砂含)
 33. 2.5Y5/3 黄褐色シルト
 34. 2.5Y6/6 にぶい、黄色砂質シルト(極細砂・マンガン含)
 35. 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト
 36. 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質シルト
 37. 10YR3/3 暗褐色シルト(鐵文土器・小石含)
 38. 5Y4/2 灰オリーブ褐色極細砂
 39. 2.5Y4/2 暗灰黄色極細砂
 40. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質シルト(細砂含)
 41. 10YR5/1 灰灰色粗砂(湧水層)
 42. 2.5Y6/3 にぶい、黄色砂質シルト
 43. 2.5Y5/3 黄褐色極細砂(綿り弱い)
 44. 2.5Y6/4 にぶい、黄色粘土質シルト(繊りやや弱い)
 45. 2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト
 46. 2.5Y5/3 黄褐色粘土質シルト(砂やや多い)
 47. 2.5Y7/7 明オリーブ灰色極細砂(よく縮まる、塊含)
 48. N6 灰色細～粗砂
 49. 7.5YR3/3 黑褐色粘土質シルト(腐植土・植物遺体含)
 50. 10YR5/1 黑褐色砂礫
 51. 規范

第42図 5区東壁土層断面図 (1:100)

井戸枠等は残骸も含め確認できなかった。下層の埋土が乱れており、井戸枠は抜き取られたとみられる。

飛鳥～奈良時代の土師器・須恵器等が出土した。

S D 55002 5区南端で検出した幅70cm、深さ約10cmの浅い溝である。方向は約N25°Wで、条里方向とも大きく違える。

S D 55003 5区中央部で検出した深さ約20cmの浅い溝である。幅は約90cmで緩やかに北東へカーブしていく。弥生時代終末期の高杯が出土した。

S D 55004 (写真図版34) 5区北端で検出した条里坪境溝で、現況の用水と重複する。深さ約1mに及ぶ。埋土は砂質シルト～シルトで、最下層は極細砂である(第42図)。室町時代の遺物が出土した。

S B 55005 (第44図、写真図版33・34) 5区北側で検出した衍行4間、梁行2間の掘立柱建物で、主軸はN20°Eの南北棟である。

西側で調査区を拡張し、東側は坪掘りにより底の確認を行ったが、東西とも底は付属しない。調査区内に関連する建物はなく、単独で存在する。付近の遺構密度も低い。

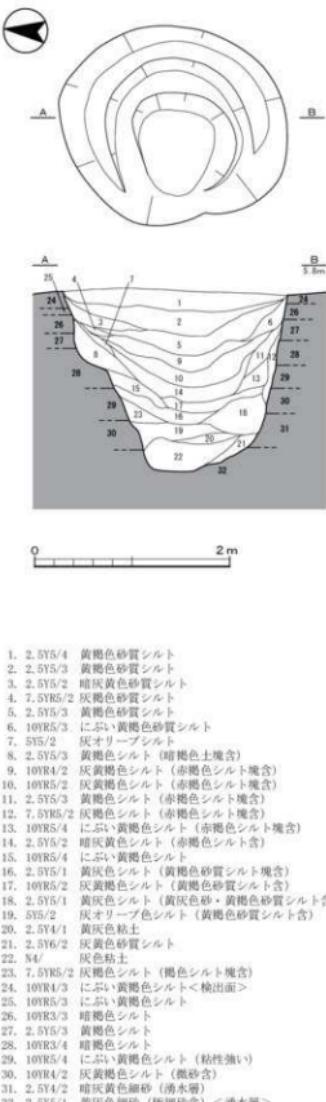
ピット掘方は一辺1m程度の方形で、7区S B 57041等とともに県内屈指の大きさである。ピットの深さは約50cmであるが、妻側柱はごく浅く、南側(P6)は深さ25cm、北側(P12)は痕跡程度が残っているにすぎない。柱間寸法は2.1m(7尺)等間である。

各ピットで柱痕跡や柱抜き取り痕を検出しており、直径約20cmの柱と推定される。東西側柱は外側へ倒して抜き取られるが、掘方は大きく掘り返されていない。柱痕跡は掘方底に達していないものが複数あり、根固めの後に柱を据えたと考えられる。南西隅のP5では、柱抜き取り後に礫を埋めていた。

P3・5・8・10の掘方・抜き取り痕から比較的多くの遺物が出土しており、平安時代前～中期の土師器杯や灰釉陶器がみられた。

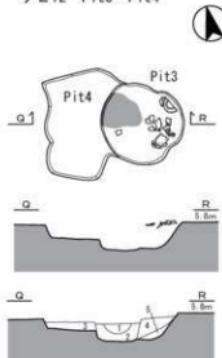
同位置での建て替えの痕跡もなく、比較的短期間のうちに廃絶した建物である。

なお、南妻側柱P6の南側に隣接するピット(ケ-L12Pit 3)では、上層から灰釉陶器皿やほぼ完形の土師器杯などが出土している。S B 55005妻側柱の添柱などであろうか。



第43図 S E 55001 (1:50)

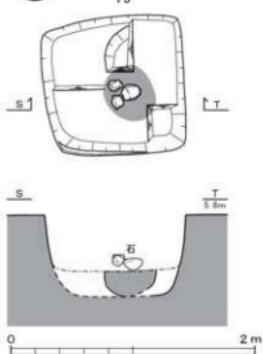
ケ L12 Pit3・Pit4



1. 2.SY5/3 黄褐色シルト (黄褐色シルト含)
2. 2.SY5/2 暗灰黄色シルト
3. 2.SY5/3 黄褐色シルト
4. 2.SY5/4 黄褐色シルト
5. 2.SY4/3 オリーブ褐色シルト



P5



6. 2.SY4/3 オリーブ褐色シルト
7. 2.SY6/3 にぶい黄色シルト (明黄褐色粘土塊含)
8. 2.SY6/2 暗灰黄色シルト
9. 2.SY5/2 暗灰黄色シルト (明黄褐色粘土塊含)
10. 2.SY5/3 黄褐色砂質シルト
11. 10SY5/3 にぶい黄褐色砂質シルト (明黄褐色粘土塊含)

(明黄褐色粘土塊含)

12. 2.SY5/1 黄灰色シルト
13. 2.SY5/3 黄褐色砂質シルト (明黄褐色粘土塊含)
14. 2.SY4/3 オリーブ褐色シルト (明黄褐色粘土塊含)
15. 2.SY5/2 暗灰黄色シルト (極細砂含)
16. 2.SY6/3 にぶい黄色シルト
17. SY4/2 灰オリーブ色シルト
18. SY5/2 灰オリーブ色砂質シルト
19. SY6/2 灰オリーブ色シルト
20. 2.SY5/2 暗灰黄色シルト
21. SY5/2 灰オリーブ色砂質シルト (明黄褐色粘土塊含)

(明黄褐色粘土塊含)

22. SY5/2 灰オリーブ色シルト

(明黄褐色粘土塊含)

23. 2.SY5/2 暗灰黄色砂質シルト (明黄褐色粘土塊含)

24. 2.SY5/4 黄褐色シルト (明黄褐色粘土塊含)

25. 2.SY4/3 オリーブ褐色砂質シルト (明黄褐色粘土塊含)

26. 2.SY4/2 暗灰黄色シルト (明黄褐色粘土塊含)

27. 2.SY5/2 黄褐色シルト

28. 2.SY4/3 暗灰黄色シルト

29. 2.SY4/2 暗灰黄色砂質シルト

30. SY4/3 灰オリーブ色シルト

31. 2.SY5/2 黄褐色砂質シルト

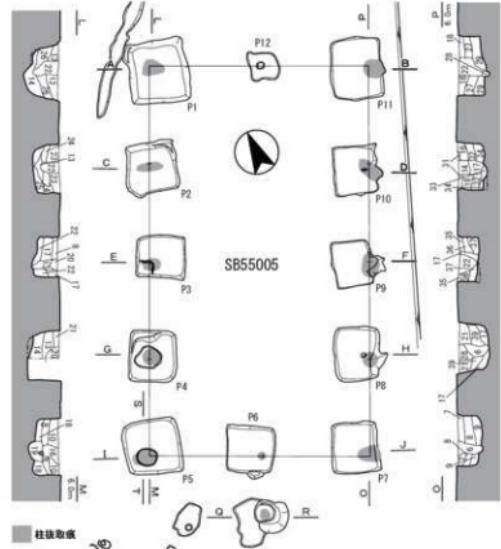
32. SY5/3 灰オリーブシルト

33. 7.SY5/1 黄褐色シルト

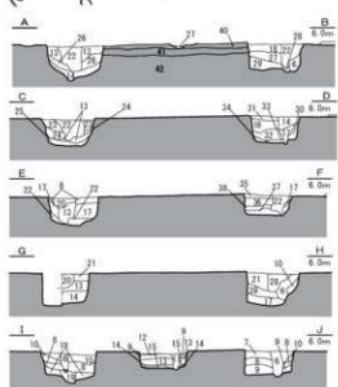
(明黄褐色粘土塊含)

34. 2.SY4/3 オリーブ褐色砂質シルト

(明黄褐色粘土塊含)



柱状取扱



0 5m

10m

第44図 SB 55005 (1:100)、SB 55005 接続ピット遺物出土状況 (1:40)

8. 6区（第45～63図）

（1）概要

遺跡中央部、和屋集落の北東側にある東西方向の調査区である。通称「面塚」が北接し、北側は7次3区、南側は第7次4区と接する。

上層遺構は現耕土・床土直下（地表下15cm）の浅黄色砂質シルト層上で検出した。弥生時代終末期の方形周溝墓や飛鳥時代の溝・井戸、平安時代の掘立柱建物・井戸、平安時代末～鎌倉時代の井戸・土坑などがあり、特に西半は遺構密度が高い。平安時代の掘立柱建物の柱穴は残存深さ20～30cmほどで、上層遺構はおよそ50cm前後削平されているとみられる。

なお、上層遺構の検出・掘削中に埋設土器（S X 56037）をはじめ縄文時代の遺物が多数認められたことから、下層確認を行い遺構・遺物の包含状況を確認した。縄文時代の遺物は北壁7層中に多くみられたが、工期等を勘案し7層までを重機で除去した後、8層以下で遺構検出を試みた（下層遺構）。

下層遺構の詳しい検出状況については後述する。

（2）上層遺構

S K 56001・56002・56021・56022・56024（第48図、写真図版41）6区中央で検出した浅い方形の土坑群で、規模は一辺1～2m、深さ5～15cmを測る。

切り合いからSK 56002が最も古く、SK 56020・56021が新しいが、各遺構から中世の山茶碗が出土しており、大きな時期差はない。

SK 56021では、縄と山茶碗がまばらに散布していた。

S E 56003（第50図、写真図版39）6区中央で検出した掘方直径約4mの不整円形、深さ約3mの井戸である。木製井戸枠は一辺約60cmの縦板・横板組で、下部のみ残存していた。埋土断面の観察から、井戸枠上部は抜き取られたと推測される。

井戸枠は南北方向を横板、東西方向を縦板とし、縦板は内側の横桟で固定する。枠内には、直径約40cmの曲物を据えて水溜めとしている。

埋土から平安時代末（中世I b期）のロクロ土師器や方形の山茶碗などが出土した。

S E 56004（第51図、写真図版39）6区中央で検出した掘方直径2.8～4mの不整円形、深さ約2.6mの

井戸である。井戸枠は石組で、直径0.9～1mの楕円形を呈する。石組は最下段に長さ30cmのやや大ぶりの礫を据え、他は長さ10～20cmの形の礫を小口積で高さ約1.5m積み上げる。上部ほど小さい石を用いる傾向がある。礫は井戸底面の基盤層に多く含まれるため、井戸掘削時に得られた礫を用いた可能性が高い。井戸上部は石組がみられないが、石組を被却して埋め戻した様子もないため、別に木製の井戸枠があったかもしれない。

最下部は、直径約50cmの曲物を一段据えて水溜めとする。曲物の周囲には礫を裏込めに充填している。

埋土から土師器・山茶碗・青磁などが出土しており、中世IIa期の井戸と考えられる。

S E 56006（第52図、写真図版40）6区中央で検出した井戸で、掘方は一辺約4～5mの方形、深さ2.5mを測る。

井戸枠は木製で、長辺約90cm、短辺約60cmの縦板・横板組である。水溜めはみられない。

井戸枠は腐食し最下段の土手筋と縦板のみ残存していたが、井戸枠の痕跡は上層でも確認できることから、抜き取られず原位置のまま腐食していったと考えられる。井戸枠内の埋土最上層には10～20cmの礫が集中し、井戸廃絶時に礫を投棄したようである。深さ2.3mで礫層に達し、湧水がみられた。

井戸枠内の埋土から墨書き土器「七西井」（456）や暗文のある土師器杯、志摩式製塙土器、掘方から縦軸陶器等が出土しており、平安時代中期の井戸と判断される。

S K 56007（第49図）6区中央で検出した土坑で、長辺2.7m、短辺2mの隅丸長方形を呈する。深さ約10cmの浅いもので、平安時代中期の土師器、砥石などが出土した。

埋土に炭や焼土塊を多く含むが、重複するS F 56036からの混入と考えられる。

S K 56012（第49図、写真図版41）6区中央で検出した一辺2.5m、深さ約10cmの不整方形の土坑である。SK 56001等の中世土坑群と同様のものであろう。

S K 56013（第53図、写真図版41）6区東部で検出した、一辺約3mの隅丸方形を呈する土坑である。深さ約1mで底に到達した。水溜めであろうか。

埋土は灰色系砂質シルトで、下層はやや砂が多い。

山茶碗が出土している。

S K 56015 6区中央で検出した一辺約3mの方形土坑である。深さは約20cmで底面は平坦である。S E 56003に南東に切られる。

平安時代の土師器杯等が出土した。

S K 56018 6区中央で検出した一辺約2.5mの不整形土坑で、深さ約10cmと浅い。

平安時代の土師器片や灰釉陶器片が若干出土した。

S K 56019 6区中央で検出した土坑のひとつで、直径約4~5mの不整形円形を呈する。深さ約10cmと浅い。中世の土師器片などが出土した。

S K 56020(第48図) 6区中央で検出した土坑のひとつで、一辺1.3~1.4mの隅丸方形、深さ6cmの浅いものである。中世の山茶碗片が若干出土した。

S D 56023・56025 6区中央で検出した、幅50cm、深さは約10cmの深い溝である。SD 56023は逆L字形に屈曲し、S E 56003に切られるが、一辺6m程度の区画溝とみられる。SD 56025は、SD 56023から派生する東西方向の溝で、50cmほどの途切れる部分がある。

これらの溝から、平安時代前期の土師器杯や灰釉陶器等が出土した。

S X 56026(第51図、写真図版37) 6区中央で検出した弥生時代終末期の方形周溝墓で、北東は調査区外へ続いている。規模は周溝内寸で一辺約8mを測り、南側に幅約1.8mの陸橋部をもつ。墳丘や埋葬施設は残存していない。

周溝幅は75cm~1mで、隅はやや狭く、陸橋部付近は幅広となる。周溝の深さは西側で約25cm、南東部は60cmとやや深い。南東部では下層に砂、上層にシルトが堆積する。下層埋土は基盤層との識別が非常に困難であった。

陸橋部の西側上層で土師器壺(547)、東側周溝下層からも壺(548)が出土している。

S X 56027(第55・56図、写真図版37・38) 6区西で検出した弥生時代終末期の方形周溝墓で、調査区外の西側周溝は7次調査で確認している。陸橋部は未検出であるが、南ないし東側に陸橋部が開口する予想される。

規模は周溝内寸で一辺約13mと比較的大きなものである。墳丘や埋葬施設は残存していない。

周溝幅は80cm~1.3mで、隅はやや狭く、東側は特に幅広となる。周溝の深さは、北側が約1mと深く、西側で約60cm、東側は30cmと浅い。埋土は下層が細砂、上層にはシルトが堆積する。

遺物は周溝上層から弥生時代終末期の土師器が出土している。北側周溝中央では壺(563)、高杯(572)、台付壺(569・571)が個体ごと散在していた。東側周溝では赤彩の壺(566)など多数の遺物が折り重なっており、同一個体が散らばって出土したもの(561)もある。いずれも、周溝がある程度埋没した段階で投棄されたと考えられる。

なお、西側周溝では、埋土上層から完形の須恵器杯(577)や土師器杯(578)、甕(570)など飛鳥~奈良時代の遺物がみられた。墳丘をもつ墓が後世にも一定認識され、祭祀の対象であった可能性がある。

S K 56028(第53図、写真図版41) 6区中央で検出した直径2.6mの円形土坑である。南半分が調査外にあり、深さ1.2mで掘削を断念した。素掘りの水溜めや井戸の可能性が高い。7~8世紀の土師器や須恵器が出土した。

S E 56029(第57図、写真図版40) 6区西で検出した円形の土坑である。直径約2.1m、深さ約2.1mを測る。底面は礫層に達しており、調査中は湧水がなかったが、素掘りの水溜めや井戸の可能性が考えられる。井戸枠の痕跡や抜き取り痕は認められなかった。埋土最上面には破碎された飛鳥~奈良時代の土師器・須恵器が集中的に投棄されていた。

S K 56031(第53図、写真図版41) 6区西端で検出した直径約1.8m、深さ約30cmの円形土坑で、近世の土坑である。

S K 56032(第53図、写真図版40) 6区西で検出した長径1.5m、短径1.1m、深さ1.5mの土坑である。底面は湧水層に達しておらず、水溜めであろうか。埋土は西側を掘り返した形跡がある。

7世紀後半~8世紀の完形土師器杯(543)や残りのよい土師器甕(544)が下層から出土した。

S D 56033(第49図、写真図版41) 6区西を東西に走る溝で、7区S D 57015と一連のものである。幅約3m、深さ約1mを測る。

埋土は上層がシルト、下層には一部に砂が介在する。遺物は非常に少なく詳細な時期は不明であるが、

埋没後に飛鳥～奈良時代の S E 56029・S K 56032 が掘削されており、飛鳥時代以前の遺構であると考えられる。

S B 56034 (第 58 図、写真図版 36) 6 区東で検出した桁行 4 間、梁行 1 間以上、東西棟の掘立柱建物で、南北軸は N13° W である。

柱掘方は一辺 50 ～ 60 cm の隅丸方形で、深さ約 15 cm と上部は相当削平されていると考えられる。柱痕跡は直径 20 ～ 25 cm の円形で、柱間寸法は 2.1 m (7 尺相当) 等間である。

平安時代中期の土師器や灰釉陶器が出土した。

S B 56035 (第 59 図) 6 区中央で検出した掘立柱建物である。ピットは一辺 50 ～ 75 cm の方形で、全体として 4 間 × 5 間程度の柱列がみられるが、中世の井戸などに削平され、詳細は不明である。2 棟程度の側柱建物に分離できるかもしれない。主軸は N7° W である。

柱穴の深さは約 30 cm、柱痕跡は直径約 20 cm である。柱間寸法は 2.7 m (9 尺相当) で、東側と南側は 2.1 m (7 尺相当) とやや狭く、底の可能性がある。

S B 56034・56065・56066 の 3 棟と共に建物群を形成し、その中の主屋的な建物と推測される。

柱穴から平安時代中～後期の土師器や志摩式製塙土器が出土した。

S F 56036 (第 49 図、写真図版 41) 6 区中央で検出した小土坑で、S K 56007・S E 56006 に切れ、約半分が残存する。一辺 40 cm の隅丸方形で、深さ 25 cm を測る。掘方壁は強く被熱し赤化しているが、底は直接火を受けていない。

埋土は炭や焼土を多く含み、奈良時代の土師器杯・皿が出土した。堅穴住居のカマド部分が残存したものであろう。

S B 56063 (第 59 図) 6 区中央で検出した 2 × 2 間以上の掘立柱建物であるが、後世の遺構により周囲が削平され、詳細は不明である。主軸は付近の建物と若干異なる (N20° W)。

柱掘方は直径 50 cm 程度の円形または不整長方形を呈する。柱掘方は深さ 10 cm ～ 50 cm と不揃いである。

ピットから灰釉陶器片が出土しており、平安時代の建物とみられる。

S B 56064 (第 59 図) 6 区中央で検出した桁行 2 間

以上の掘立柱建物で、後世の遺構により周囲が削平され、詳細は不明である。

柱掘方は一辺 80 cm ～ 1 m の長方形を呈する大型のもので、S B 56035 等に比べ一回り大きい。柱痕跡から、直径 25 cm 程度の柱であったと推測される。東側柱からほぼ完形の土師器杯など、平安時代中期の土器が出土している。

S B 56065 (第 59 図) 6 区西端で検出した 2 間 × 1 間の掘立柱建物である。S B 56035 等に伴う小型の建物であろう。柱間寸法は桁行 2.1 m (7 尺相当) の等間である。柱掘方は直径 15 ～ 50 cm の円形で、深さ約 10 cm 程度と浅い。

出土遺物は灰釉陶器等平安時代のものである。

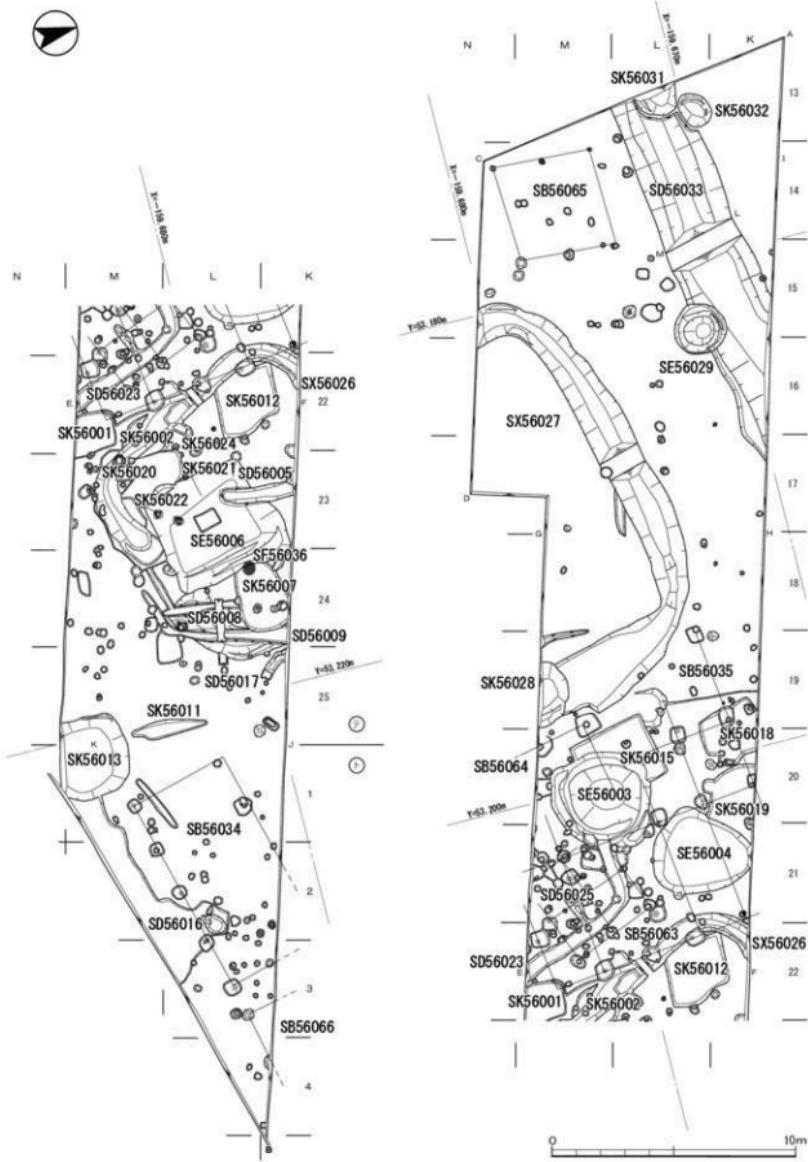
S B 56066 (第 58 図) 6 区東端、S B 56034 の南側柱筋の延長上で 2 基の柱穴を確認した。柱間寸法は S B 56034 と同じであるが、柱掘方の規模は小さく円形である。11 世紀代の土器等が出土した。

(3) 下層遺構 (第 60 図、写真図版 42)

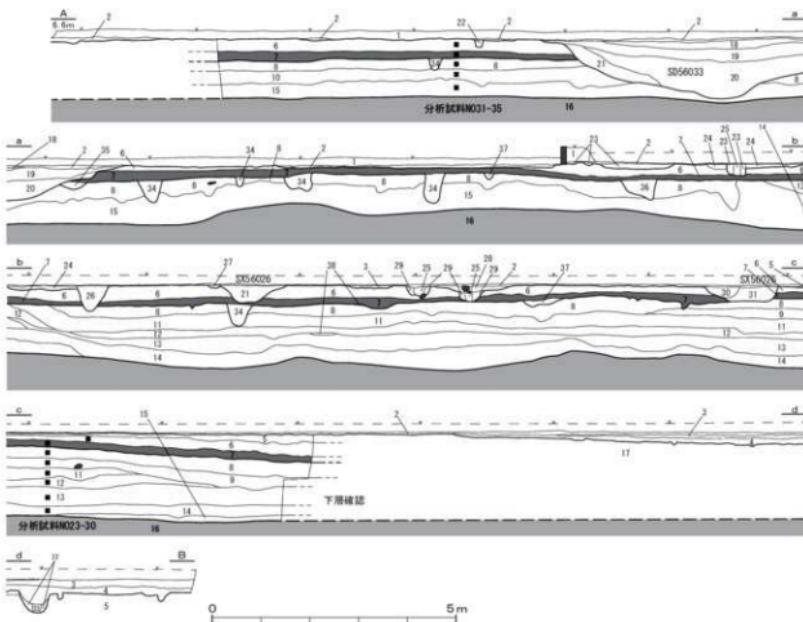
下層確認の当初は、縄文時代中期末～後期前葉の遺物を包含し、有機物の多い古土壤 (北壁 7 層、第 46 図) を除去し、北壁 8 層上面で遺構検出を試みた。その結果、埋設土器や焼土 (被熱) 面、堅穴状の不定形な落ち込みを確認した。

当該面上で検出したこれらは、基盤層の土壤化により、縄文時代中期末～後期前葉の遺構プランが消失し、埋設土器や炉の被熱面など硬質部だけが残ったものである。従って、本来は多数の石圓炉や堅穴住居が存在したとみられる。堅穴状の不定形な落ち込みは、中期末の土器を多く含むが、より下層から S K 56061 など縄文時代後期初頭～前葉の遺構が検出された。埋積浅谷及び北壁 7 層以下の遺物相との比較から、これらは人為的な遺構ではなく、堅穴住居等の埋没過程で生じた、ごく浅い回みに有機物の多いシルトが堆積したものと推測される。

最終的に、詳しい層序のデータを得るために、調査区北壁を中心として埋積浅谷付近を徐々に掘り下げ、遺構検出を試みた。その結果、縄文時代中期前葉 (喫煙式) から後期前葉 (北白川上層式) までの遺構・遺物、埋積浅谷の埋積過程を明らかにすることができた。また、6 区西側の S X 56037 付近でも、土壤化した 8 層を一定掘り下げたところで土坑や石圓炉残欠など



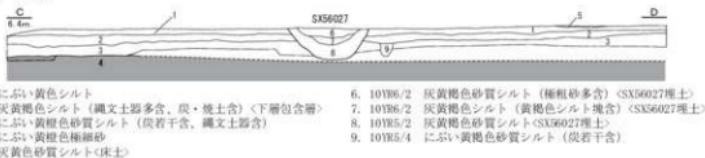
第45図 6区上層造構全体図 (1:200)



1. 2. SY5/1 黄灰色粘土質土(耕作土)
 2. 2. SY6/2 灰黄色砂質シルト(床土)
 3. 2. SY6/2 灰黄色粘土質シルト(耕作土)
 4. 2. SY6/2 灰黄色粘土質シルト(耕作土)
 5. SY6/2 灰オリーブ色細砂(基盤層)
 6. 2. SY6/3 にぶい黄色シルト(基盤層)
 7. 10YR5/5 灰黄色粘土シルト(耕文土器多含)
 8. 2. SY7/2 明黄色粘土質シルト(上面で下層遭構検出)
 9. 10YR5/4 にぶい黄色砂質シルト(耕文土器・炭若干含)
 10. 2. SY5/4 黄褐色砂質シルト
 11. SY6/4 オリーブ色細砂～粗砂
 12. 2. SY6/4 にぶい黄色細砂(黄褐色粘土境含、織文土器・炭若干含)
 13. 2. SY6/3 にぶい黄色砂～粗砂
 14. 2. SY5/3 黄褐色砂質シルト
 15. 10YR6/2 オリーブ色砂砾，砂質シルト，細～粗砂の互層
 16. 2. SY5/2 暗灰黄色砂質土(10～20cmの碳多含)
 17. 2. SY7/1 灰白色粘土質シルト(上面に鉄分集積)
 18. 2. SY6/2 灰黄色粘土質シルト(SD56033埋土)
 19. 10YR5/2 灰黄色粘土質シルト(黄褐色シルト堆多含)〈SD56033埋土〉
 20. 10YR5/2 灰黄色粘土質シルトと2. SY6/2/灰黄色粘土質シルトの互層(SD56033埋土)
 21. 10YR4/2 灰黄色粘土質シルト(SD56026・SD56033埋土)
 22. 10YR5/2 灰黄色粘土質土
 23. 10YR5/1 棕灰色シルト(黄褐色シルト堆含)〈SD56018埋土〉
 24. 10YR5/1 棕灰色シルト(SK56019・SD56015柱杭理土)
 25. 10YR4/2 灰黄色粘土シルト〈SD56025柱杭理土〉
 26. 10YR5/2 灰黄色粘土細砂(黄褐色シルト堆多含)〈SE56004埋土〉
 27. 10YR4/2 灰黄色粘土細砂(黄褐色シルト堆含)
 28. 10YR5/1 棕灰色粘土細砂(SD56005埋土)
 29. 2. SY6/4 にぶい黄色シルト
30. 10YR5/1 黑褐色砂質シルト(燒土・炭多含)〈SK56007埋土〉
 31. 10YR4/2 灰黃褐色砂質シルト～極細砂〈SX56026埋土〉
 32. 2. SY6/2 灰黃褐色シルト(SD56066柱杭力)
 33. 2. SY5/1 黄褐色シルト(SD56066柱杭路)
 34. 10YR6/3 にぶい黃褐色砂質シルト(炭若干含)
 35. 10YR6/3 にぶい黃褐色砂質シルト
 36. 10YR5/4 にぶい黃褐色砂質シルト(炭・燒土若干含)
 37. 10YR5/4 にぶい褐色細砂(被熱または燒土塊)
 38. 7. SY8/3 にぶい褐色細砂

第 46 図 6 区北壁土層断面図 (1:100)

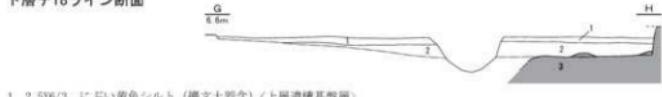
調査区南壁 西部



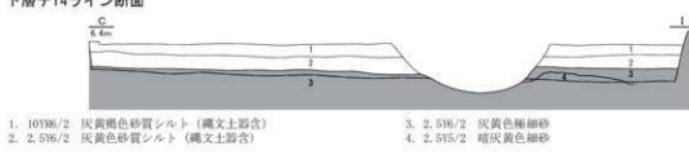
下層テ22ライン断面



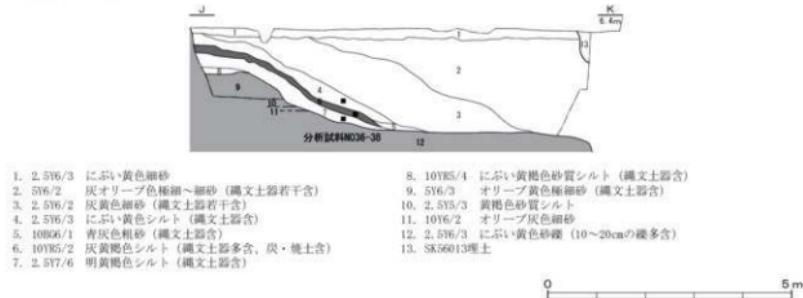
下層テ18ライン断面



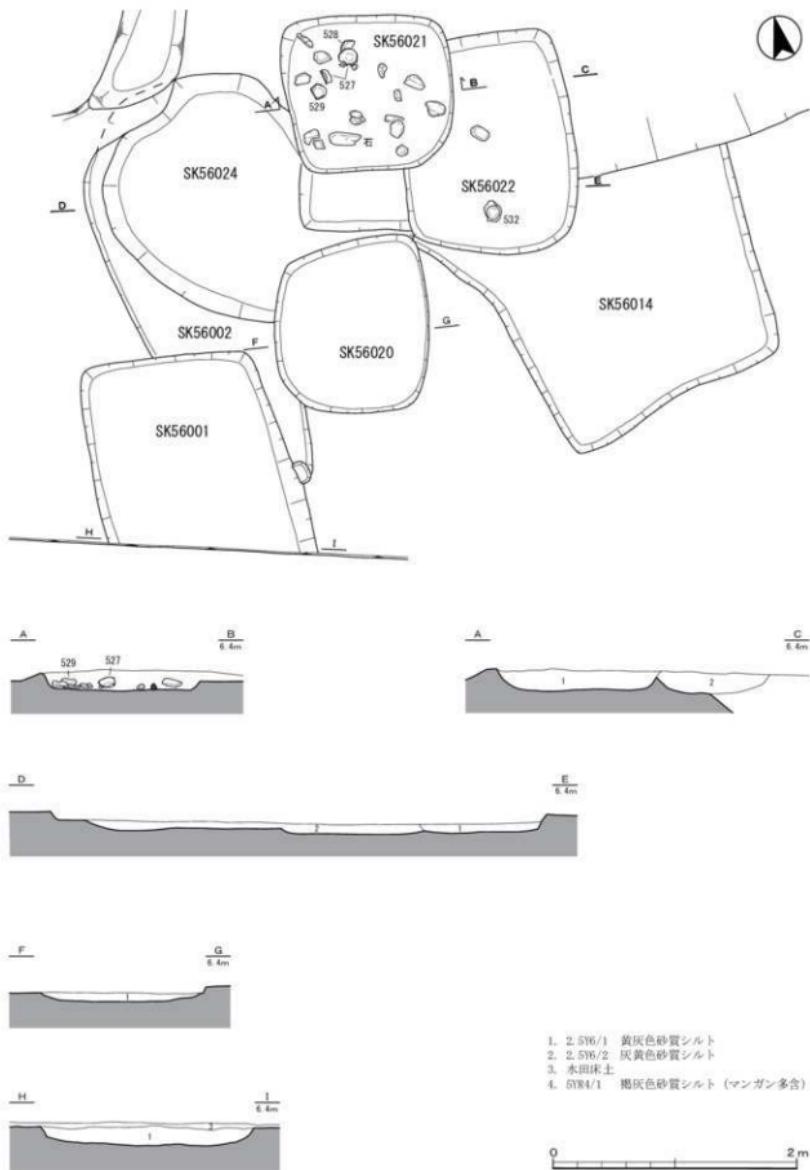
下層テ14ライン断面



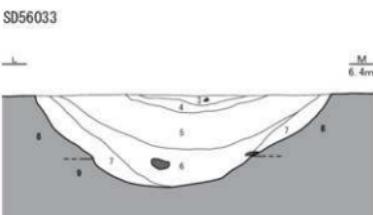
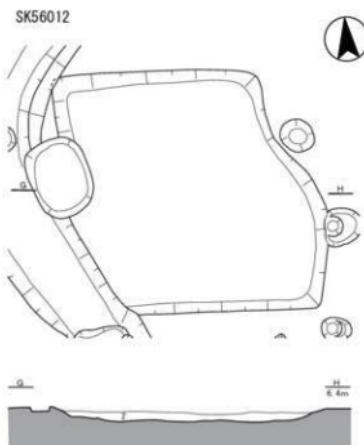
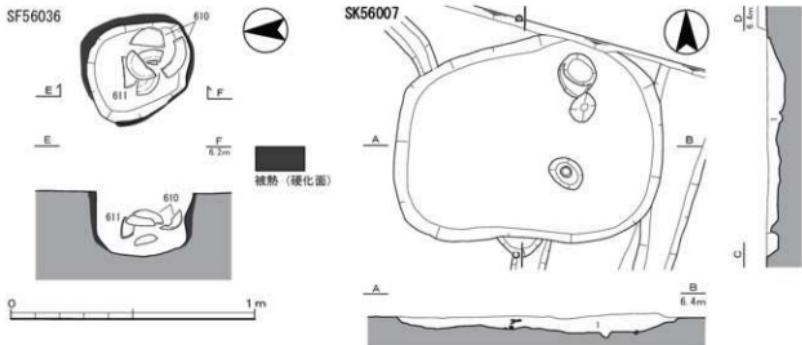
下層埋積浅谷断面



第 47 図 6 区南壁・下層断割土層断面図・下層埋積浅谷断面図 (1:100)



第 48 図 SK 56001・56002・56020～56022・56024、SK 56021 遺物出土状況図 (1:40)

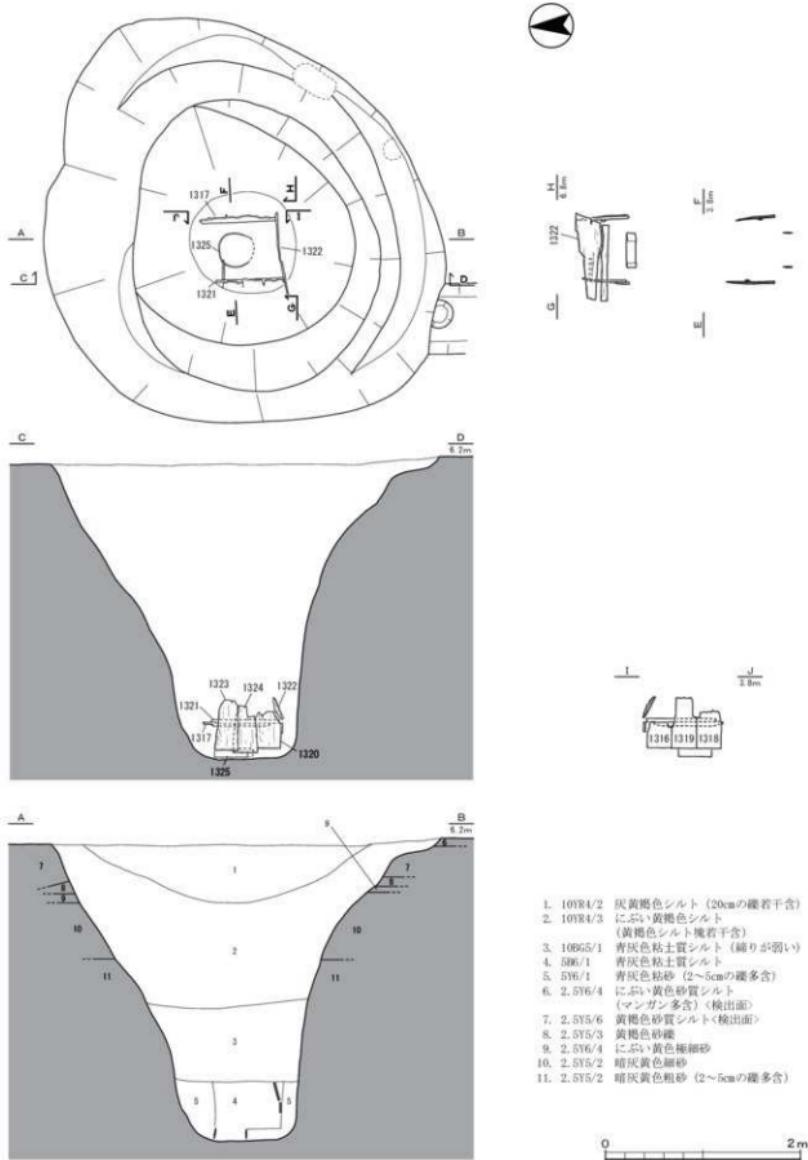


1. 10TE3/1 黒褐色砂質シルト（純土・炭多含）
2. 2.5T6/1 黄灰色砂質シルト
3. 2.5T6/2 灰黄色シルト（マンガン多含）
4. 2.5T6/1 黄灰色シルト
5. 2.5T6/2 灰黄色シルト（黄褐色シルト塊若干含）

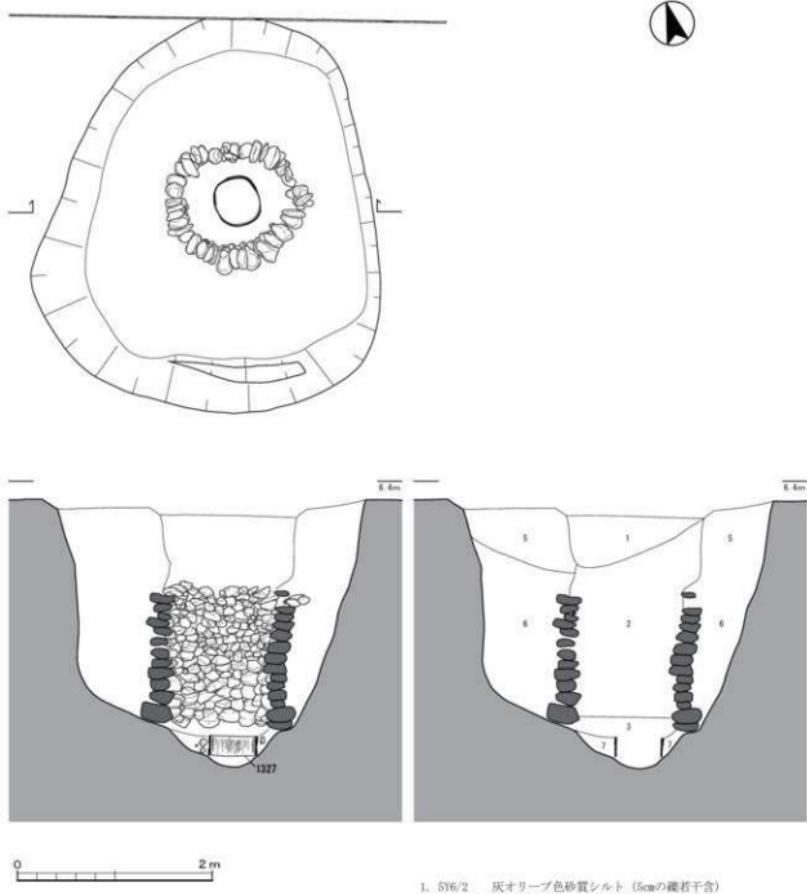
6. 2.5T6/1 黄灰色極細砂と2.5T6/2灰黄色シルトの互層
7. 2.5T6/2 灰黄色シルト（粗砂多含）
8. 5T6/3 オリーブ黄色シルト～極細砂（基盤層）
9. 5T6/2 灰オリーブ色中砂～粗砂

0 2m

第49図 SK 56007・56012 (1:50)、SD 56033 断面図 (1:50)、SF 56036 遺物出土状況図 (1:20)

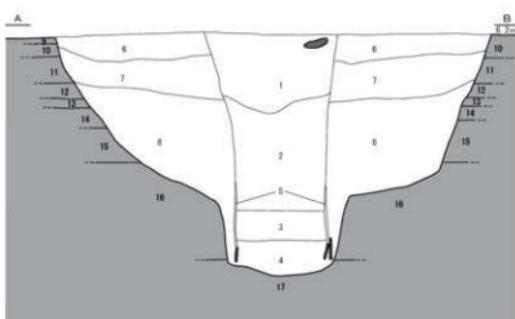
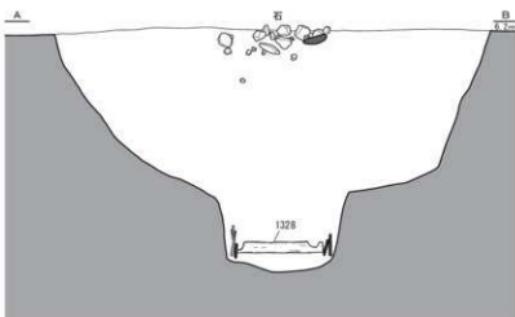
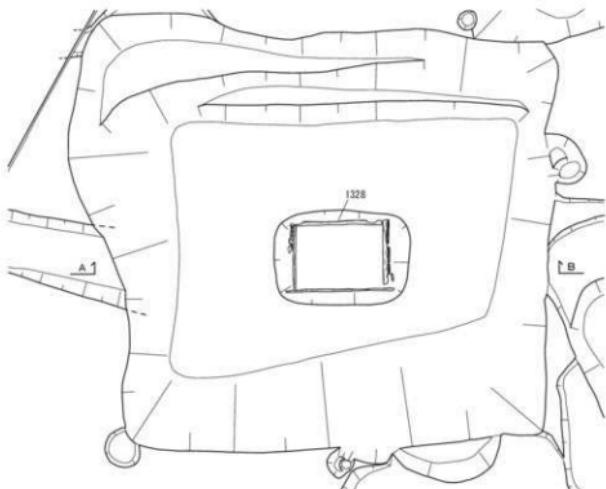


第 50 図 S E 56003 (1:50)



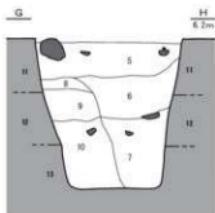
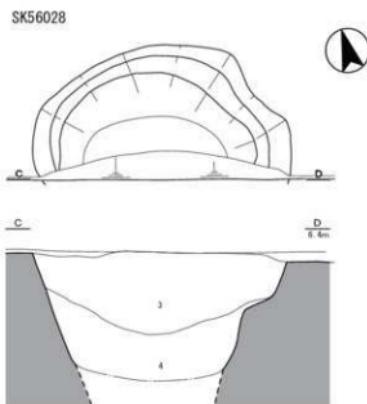
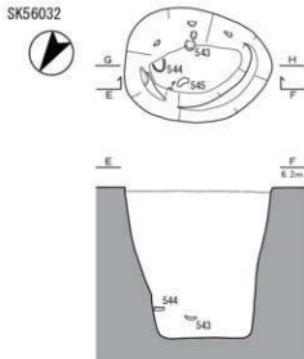
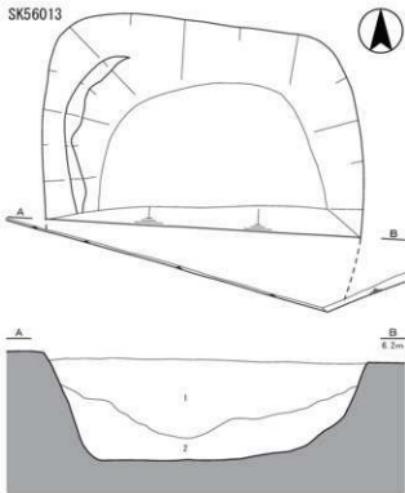
- | | |
|-----------|----------------------------|
| 1. 5Y6/2 | 灰オーブ色砂質シルト (5cmの礫若干含) |
| 2. 10Y6/2 | 灰黃褐色砂質シルト (黄褐色シルト複数) |
| 3. 5B5/1 | 青灰色粘土質シルト (転落石多含) |
| 4. 5B5/1 | 青灰色粘土 |
| 5. 10Y5/1 | 褐色砂質シルト (黄褐色シルト複合・1cmの礫多含) |
| 6. 10Y5/1 | 褐色砂質シルト (砂礫多含) |
| 7. 5B5/1 | 青灰色砂質シルト (礫多含) |

第51図 S E 56004 (1:50)

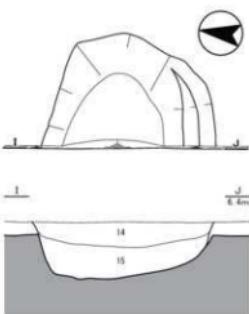


1. 2.5Y5/2 墨灰黄色砂質シルト
(上部に纏集含)
2. 2.5Y5/2 墨灰黄色粘土質シルト
3. 2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト
(淡黄色シルト・極細砂塊含)
4. 5B5/1 青灰色粘砂
<井戸枠内埋土>
5. 2.5Y5/1 黄灰色粘土
<井戸枠底食痕>
6. 5Y6/1 灰色極細砂
(黄褐色シルト塊若干含)
7. 2.5Y6/2 灰黄色極細砂
(黄色シルト塊若干含)
8. 2.5Y6/3 黄褐色シルト
(黄灰色極細砂塊含)
- <基盤層>
9. 2.5Y6/4 にふい黄色砂質シルト
10. 10Y5/2 灰黄褐色砂質シルト
(織文土器含)
11. 2.5Y6/4 にふい黄色砂質シルト
12. 2.5Y5/2 灰灰色極細砂
13. 2.5Y6/3 にふい黄色砂質シルト
(織文土器含)
14. 2.5Y5/2 墨灰黄色極細砂
15. 10Y5/2 にふい黄褐色砂質シルト
16. 5Y5/2 灰オリーブ色粘砂
17. 2.5Y6/3 にふい黄色砂(湧水層)

第 52 図 S E 56006 (1:50)



SK56031

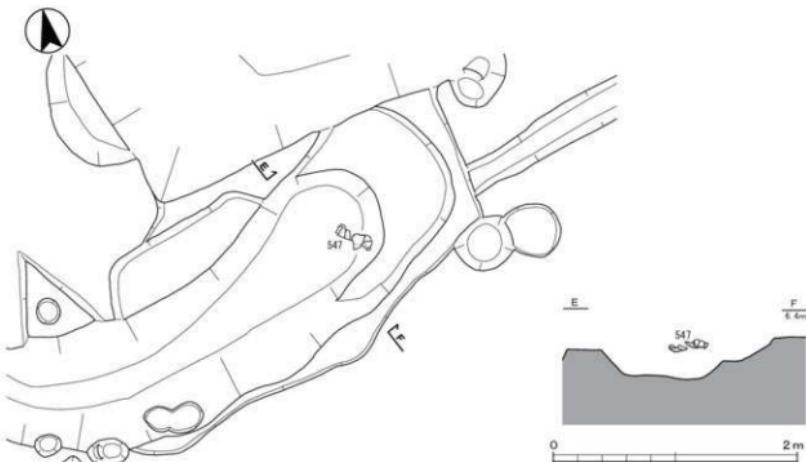
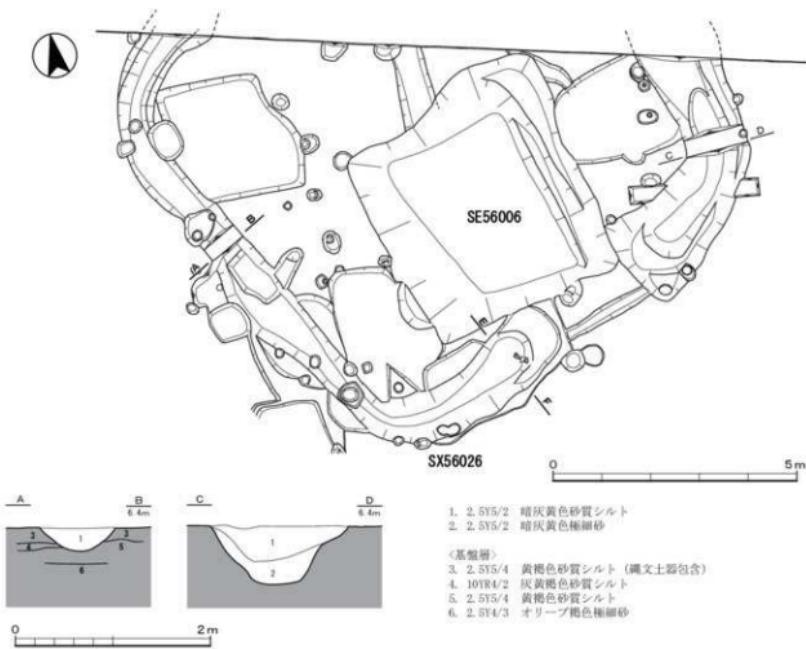


1. 7.5Y4/1 灰色砂質シルト (灰褐色シルト塊若干含)
2. 7.5Y4/1 灰色砂質シルト (砂含)
3. 10Y4/1 灰褐色砂質シルト (2cm以下の塊若干含)
4. 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質シルト (黄褐色シルト塊若干含)
5. 10Y5/2 灰褐色砂質シルト
6. 10Y5/2 黄褐色砂質シルト (褐灰色シルト塊若干含)
7. 2.5Y6/1 黄褐色シルト (黄褐色シルト塊若干含)
8. 2.5Y6/6 明黃褐色砂質シルト (黄褐色シルトと互層)
9. 2.5Y5/1 黄灰色砂質シルト (黄褐色シルトを層状に含む)
10. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質シルト
11. 2.5Y6/4 にぶい、黄色シルト<基盤層>

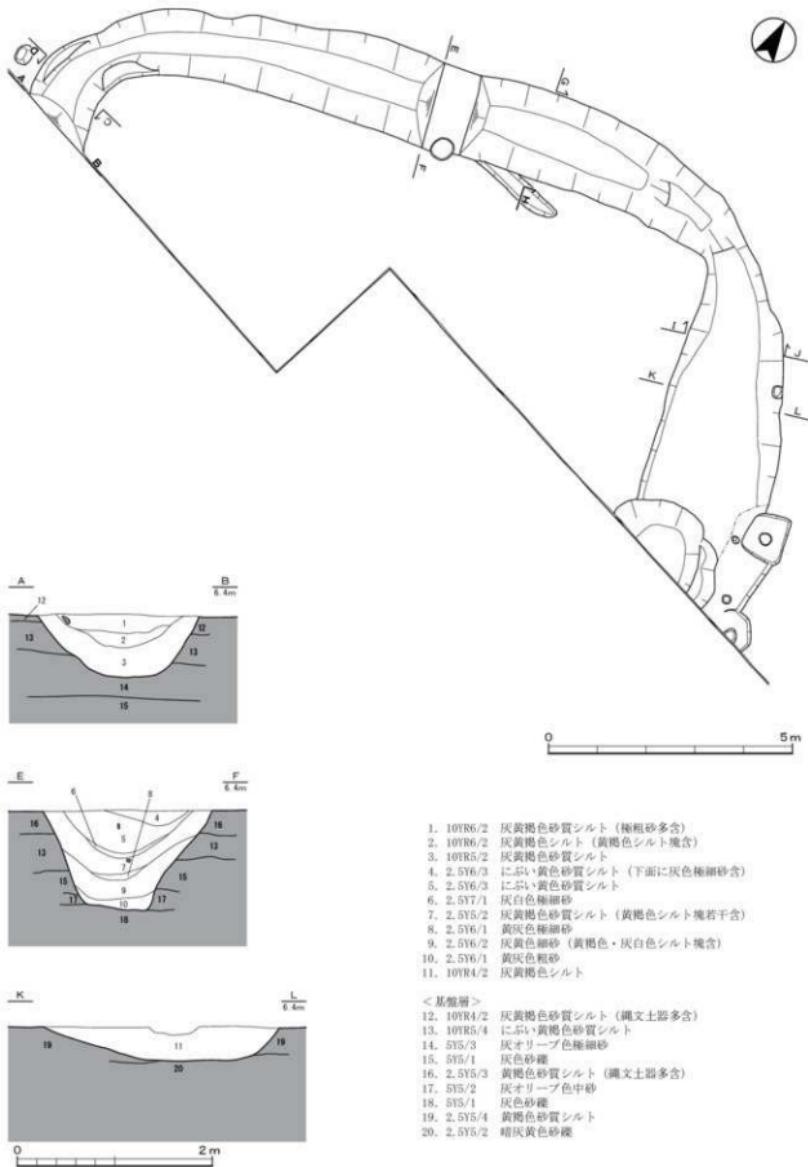
12. 5Y6/4 オリーブ黄色極細砂～砂質シルト
13. 5Y4/2 灰オリーブ色砂礫
14. 7.5Y5/1 灰色砂質シルト
15. 7.5Y4/1 灰色砂質シルト



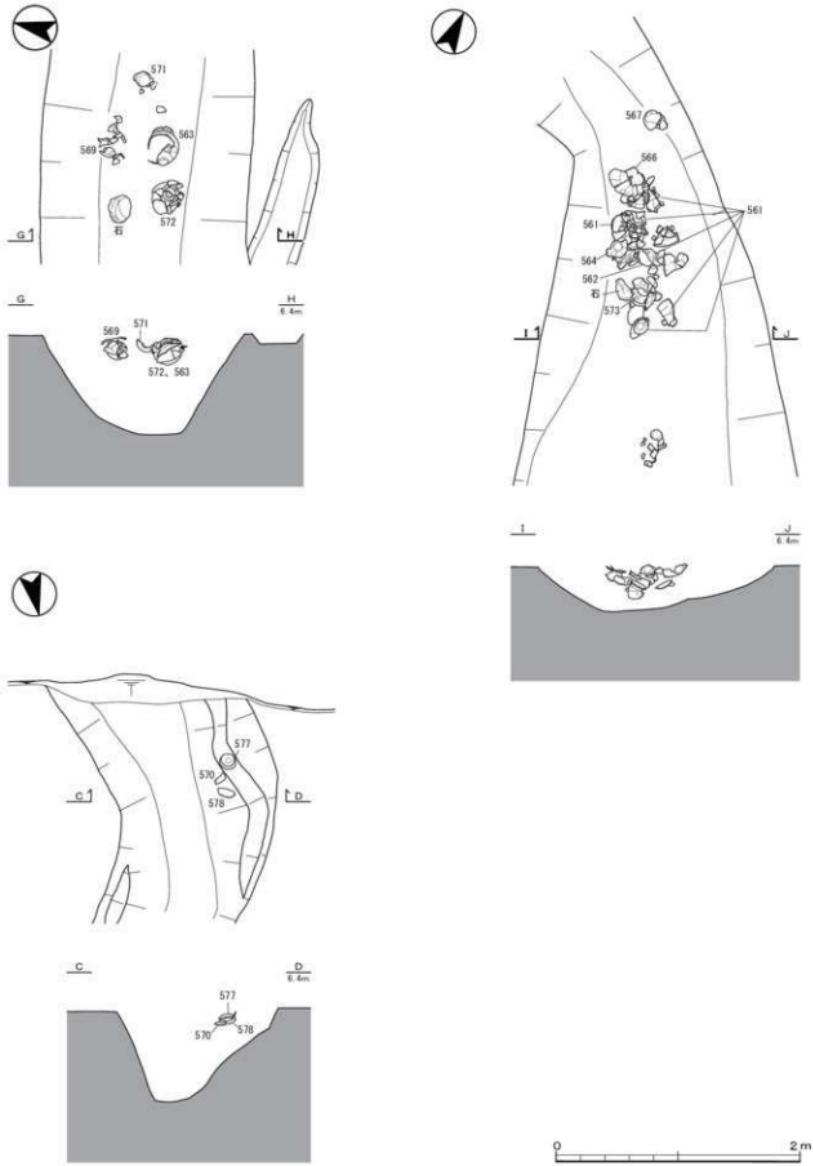
第53図 SK 56013・56028・56031・56032 (1:50)



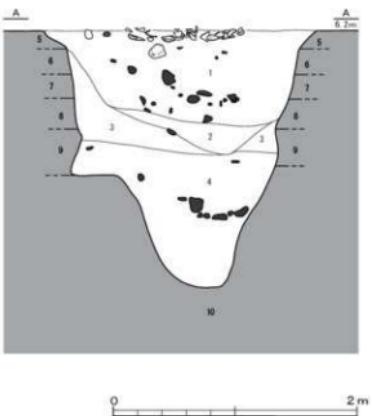
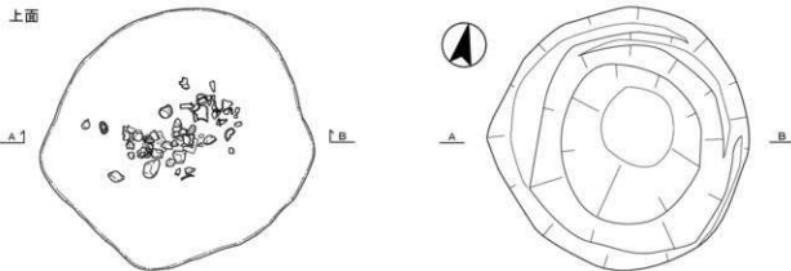
第54図 SX56026 平面図 (1:100)、断面図 (1:50)、遺物出土状況図 (1:40)



第 55 図 S X 56027 平面図 (1:100)、断面図 (1:50)

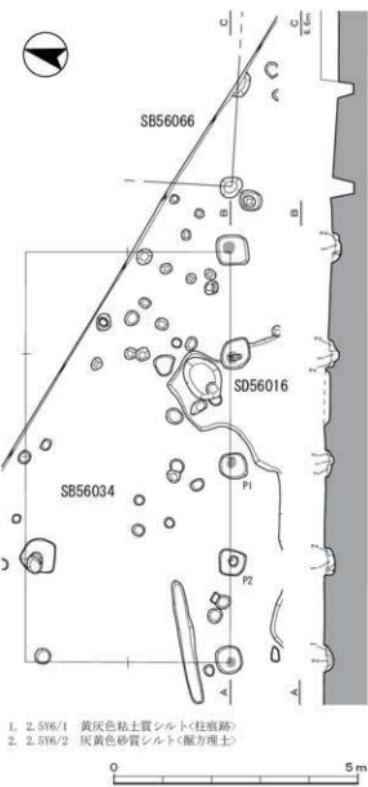
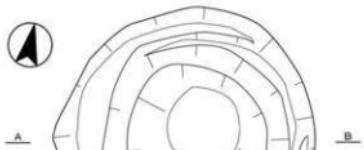


第 56 図 S X 56027 遺物出土状況図 (1:40)



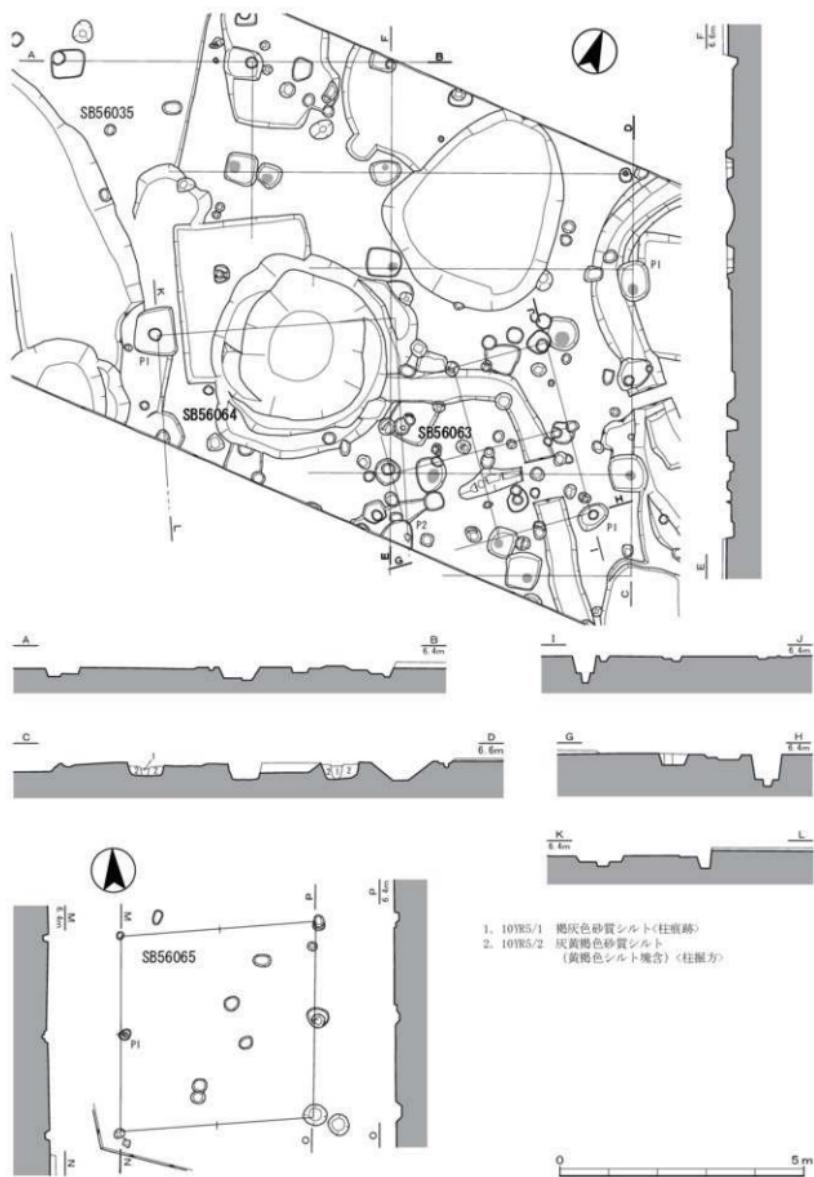
1. 10YR5/2 灰黄褐色シルト (5~10cmの礫多含)
2. 10YR5/2 灰黄褐色シルト
3. 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト (褐灰色シルト塊若干含)
4. 2.5Y6/4 にぶい黄色極細砂と灰色粗砂の混成上

- <基盤層>
5. 2.5Y6/4 にぶい黄色砂質シルト
 6. 10YR5/2 灰黄褐色砂質シルト (炭若干含) <縄文土器包含層>
 7. 2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト
 8. 2.5Y6/4 にぶい黄色極細砂
 9. 2.5Y5/2 暗灰黄色粗砂
 10. 2.5Y5/2 暗灰黄色砂繩

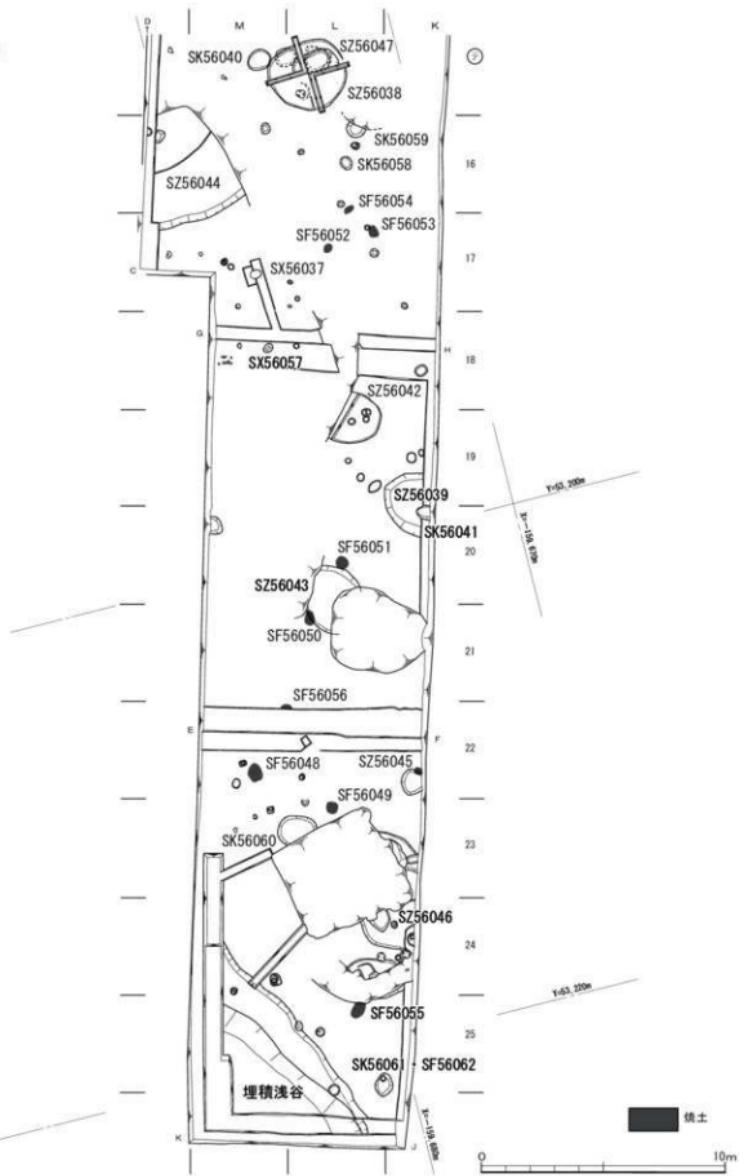


第 57 図 SE 56029 断面図・遺物出土状況図 (1:40)

第 58 図 SB 56034 - 56066 (1:100)



第59図 SB 56035・56063～56065 (1:100)



第 60 図 6 区下層造構全体図 (1:200)

の遺構を明確に識別することができた。

遺構は北壁 13 層上まで認められ、14 層からは無遺物層となつた。

層序と検出遺構・遺物の対応は第 61 図に示す。

S X 56037 (第 62 図、写真図版 45) 上層遺構面で上端を検出した縄文時代中期末の埋設土器である。深鉢を逆位で埋設しているが、掘方は認識できず、土壤化により消失したと推測される (写真図版 45 では掘方相当の分層線を引くが、誤認である)。

遺構上面から約 20 cm 下、基盤層 (第 62 図 1・2 層) の境目付近で、胴部片が外側に倒れこんでいた。このことから、1 層 (北壁 8 層) の堆積時または土壤化の過程で土器の破損が生じたことがわかる。

S Z 56038・56047 (第 63 図、写真図版 46・47) 6 区西侧、北壁 8 層上面で検出した、灰黄褐色シルト (北壁 7 層) の浅い落ち込みである。

長径 3 m、短径 2.8 m の不整楕円形を呈する。深さは約 10 cm で、中央部が若干深い。

北東寄りに土器が出土する地点があり、この付近を S Z 56047 とした。当初、S Z 56047 は竪穴住居の屋内土坑とみて掘り下げたが、基盤層の土質との有り差はなかった。

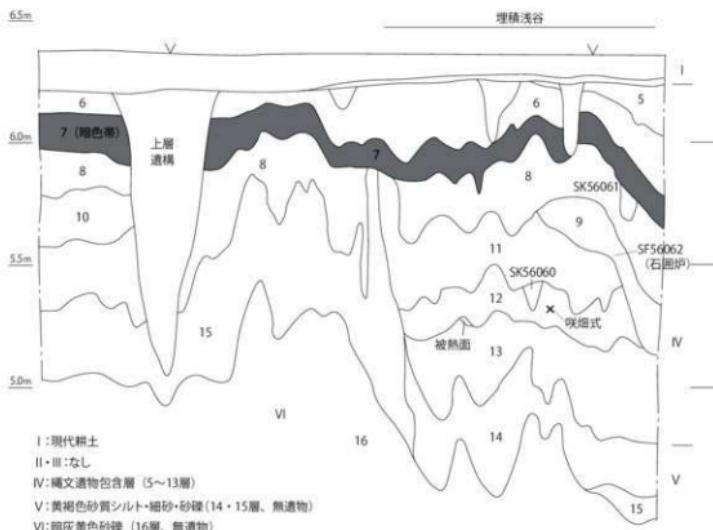
S Z 56047 から縄文時代中期末の土器がまとめて出土したが、S Z 56038 出土土器は後期の土器を含み、年代に齟齬がある。これらから、S Z 56047 は、調査区北壁 8 層以下に包含された土器・繩を遺構と誤認したものと判断した。

S Z 56039 (写真図版 47) 6 区中央で検出した、灰黄褐色シルト (北壁 7 層) の浅い落ち込みである。直径 3 m 前後の楕円形で、深さは 10 cm 未満である。

S K 56040 6 区西部、8 層上面で検出した。直径 90 cm 程度の不整楕円形を呈し、深さ 10 cm 未満の浅いものであるが、S Z 56047 と同様、誤認の可能性がある。

縁帶文成立期の土器が出土している。

S K 56041 S Z 56039 の中央付近、8 層上面で検出した直径 50 cm 前後、深さ 20 cm の楕円形土坑である。



第 61 図 6 区北壁土層断面模式図 (高さ 1:20、幅 1:200)

埋土には焼土が混じる。縄文時代中期末の土器が出土した。

S Z 56042 ~ 56046 いずれも 8 層上面で検出した灰黄褐色シルト（北壁 7 層）の浅い落ち込みである。直径 2.5 m ~ 4 m、深さ約 10 cm 程度のものが多い。落ち込み内や周辺に被熱面がみられるが、明確に関連施設と判断できるものはない。

S Z 56042 から縄文時代中期末、S Z 56046 から後期初頭～前葉の土器が出土したが、S Z 56046 付近は 7 層の重機掘削時に特に土器・石器が多く得られた地点であり、本来はこの付近に多くの遺構が存在したと推測される。

S F 56048 ~ 56056 (第 62 図、写真図版 47) 8 層上面で検出した円形・梢円形の被熱面で、直径 30 ~ 80 cm、厚さ 2 ~ 4 cm である。

元は石閉炉などの火処であったとみられるが、遺構肩部プランが消失し、被熱面が残ったものである。より下層で検出した被熱面に比べると、被熱の痕跡が明確で、これは基盤となった 8 層が粘土質なためであろう。他に、北壁断面 13 層上でも被熱面を確認しており、縄文時代中期前葉の遺構とみられる。

S X 56057 (第 62 図) 6 区中央、8 層掘り下げ時に検出した正立状態の深鉢底部である。

約 3 m 西側に埋設土器 S X 56037 があり、埋設土器の可能性が高い。高さ 10 cm 程度が残存していた（土器 1527）。

S K 56058 (第 63 図、写真図版 45) 6 区西、8 層掘り下げ時に検出した直径 50 cm、深さ 20 cm の円形土坑である。

中央に長径 20 cm のやや扁平な礫が集中しており、石閉炉の残れや礫の廃棄土坑であろう。

S K 56059 (第 62 図、写真図版 45) 6 区西、8 層掘り下げ時に検出した直径 70 cm、深さ 20 cm の円形土坑で、中央部が壘体状に深い。埋土に炭や礫を含む。

S K 56060 (第 63 図、写真図版 47) 6 区東、北壁 12 層上面で検出した長径 1.6 m、短径 1.3 m の梢円形土坑である。深さは 5 cm と浅い。

上層遺構 S E 56006 に東側を削平されており、この掘方で遺構を認識していた。埋土に炭を多く含むことから、炭化材を C 14 年代測定に供し、縄文時代中期前葉相当の年代値が得られている（V 章）。

埋土から咲煙式の土器片が出土した。

S K 56061 (第 63 図、写真図版 45) 埋積浅谷の掘り下げ時に確認した土坑である。

直径 70 ~ 90 cm、深さ 10 cm の不整円形で、南側がより深く、その付近に縄文時代後期初頭から前葉の土器片が集中していた。埋土には炭や焼土を含む。

S F 56062 (第 63 図、写真図版 47) S F 56062 は埋積浅谷の重機による掘り下げ時に検出した石閉炉で、長径 70 cm、短径 60 cm、深さ 7 cm を測る。

検出時に多くの石が外れてしまったが、本来は扁平な礫を 8 個立てていたようである。底部の被熱痕は弱いが、これは基盤が砂のためであろう。

埋積浅谷 (第 47 図、写真図版 43・44) 6 区東側は全体（北壁 5 ~ 13 層）が東側へ落ち込んでいく谷地形であり、これを総称して埋積浅谷と呼称する。

上層遺構面で最上層の細砂（北壁 5 層）を検出しておらず、当初は旧流路と考えていたが、下層確認時に南北方向の断ち割りを実施したところ、旧地表面の土壤（北壁 7 層・第 47 図 6 層）が深く南東へ落ち込んでいくことから、谷であると判断した。

埋積浅谷は調査区南東側へさらに深く続いているが、調査区内で水場や有機質遺物を確認することはできなかった。

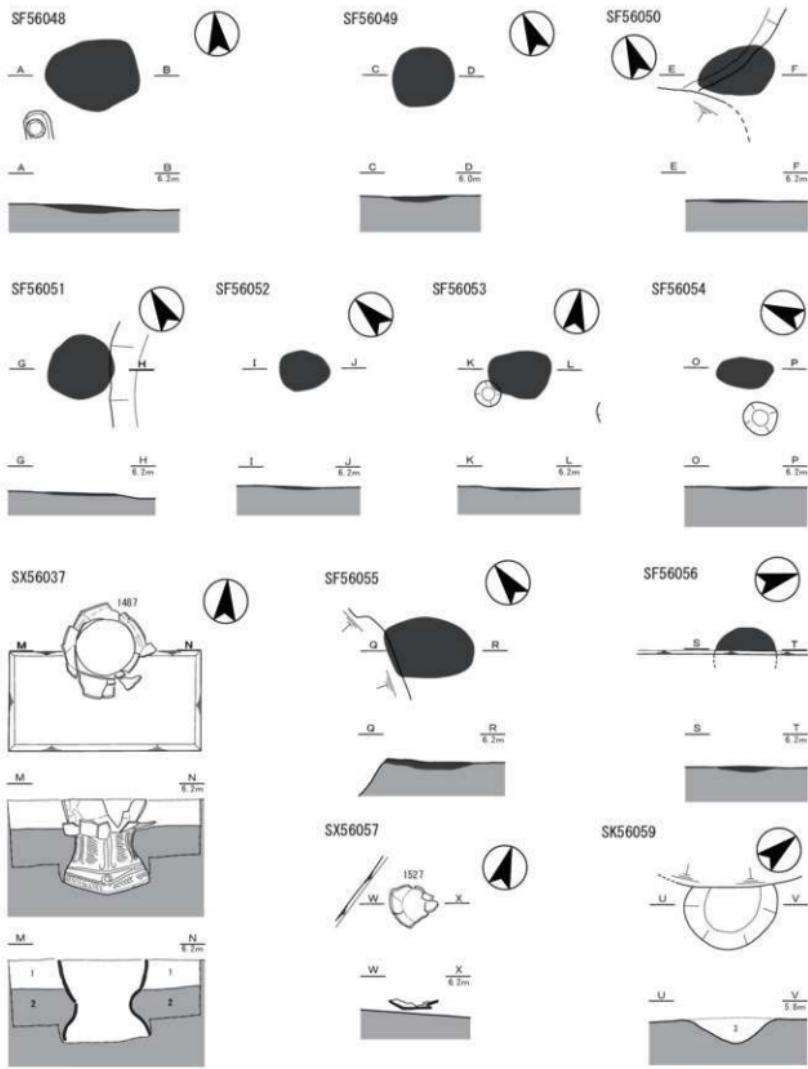
北壁 13 ~ 6 層までは厚さ 20 cm 前後の堆積が間断なく続くが、その後は厚さ約 2 m の細砂で一気に埋積している（第 47 図 1 ~ 3 層）。この細砂はわずかに縄文土器（1552）を含むが、詳細な時期は不明である。谷が完全に埋没後、弥生時代終末期の方形周溝墓 S X 56026 が形成される。

以上から、縄文時代後期前葉～弥生時代終末期の間に、上部の埋積が急激に進むような洪水イベントが生じたとみられる。

発掘調査前に実施した範囲確認調査では、6 区と 2 区の間は弥生時代～中世の遺構が希薄と判断されたが、この埋積浅谷の細砂による埋積が、上層遺構の分布に影響を与えた可能性があろう。

ピット (写真図版 45) 6 区西側、S X 56037 付近では、8 層上面ないし 8 層掘り下げ時に縄文時代のピットを複数検出することができた。

縄文時代中期末から後期前葉の土器や石器が出土している。

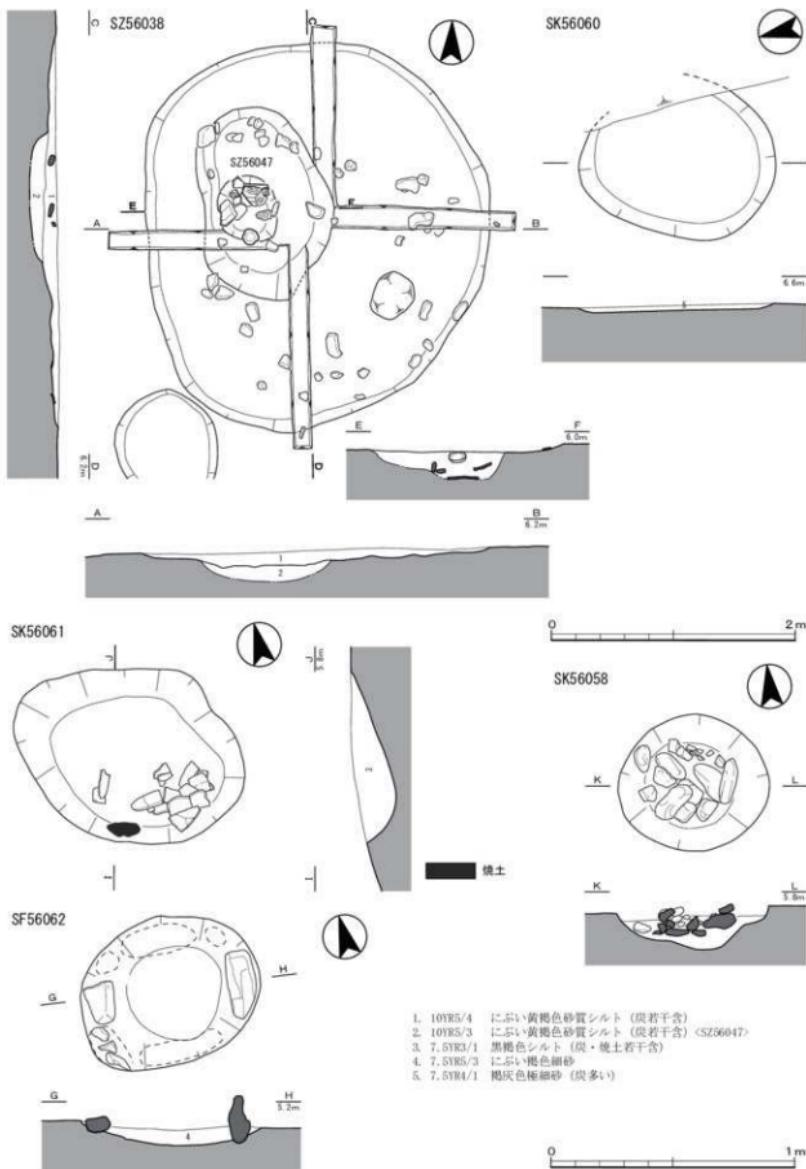


1. 2. 5Y6/4 にぶい黄色砂質シルト(繩文土器包含層)
2. 2. 5Y5/4 黄褐色砂質シルト
3. 10YR1/2 灰黄褐色砂質シルト(灰若干含)

0 1m

0 2m

第62図 SX56037、SX56057、SF56048～56056、SK56059 (1:40)



第63図 SZ 56038・56047・SK 56060 (1:40)、SK 56061・SF 56062・SK 56058 (1:20)

9. 7区（第64～81図）

（1）概要

遺跡中央部、和屋集落の北にある東西方向の調査区である。東側を7-1区、西側を7-2区、西端を7-3区とした（第64～69図）。7-2区南側は6次5区、7-3区は1次2区と接する。

7-1区（第64～67図）は、現耕土・床土直下（地表下20cm）で遺構を検出した。基盤層は、東側が黄色系砂質シルトで若干縄文土器を含む。中央～西側は有機物を多く含む褐灰色砂質シルトである。東側は平安時代の遺構が希薄で、室町時代～戦国期の遺構が散見される。

中央付近は平安時代の掘立柱建物群（S D 57041等）が展開する。二面庇の大型建物S B 57041を含むこの建物群は、S D 57017などの細い溝群で画された東西約50mの地割内にあり、地割の軸は正方位に近い。S D 57030等の区画溝群から西は、再び遺構が希薄となる。なお、建物のピットや木棺墓の残存状況から、一帯は50～60cm程度は削平されている可能性が高く、遺構の分布を考える際には注意が必要である。遺構の時期的な変遷は、VI章で詳述することにしたい（第162図）。

7-1区西側は弥生時代終末期から古墳時代の自然流路（S R 57077）が錯綜しており、この自然流路埋没後にS D 57050、57038など平安～鎌倉時代の遺構が形成されている。S R 57077は複数の流路が重複しており、全体で幅24m以上ある。

7-2区（第68図）も現耕土・床土直下で遺構面に達するが、西半のみ、基本層序Ⅲ層の灰黄褐色シルトが介在している。S D 57051とS D 57058間に多数の溝がみられ、S D 57053は底面に波板状凹凸面をもつ道路遺構と考えられる。S D 57053の東側（7-2区と7-1区の境界）は現在も同方向の里道があり、ほぼ同位置に道路が踏襲され続いたとみられる。

7-2区中央は、大型建物S B 57071を中心とした平安時代の掘立柱建物群が展開する。

7-3区は全体が溝ないし流路に相当する。

下層確認は7-1区西・中央・東で計4ヶ所、7-2区で1ヶ所を行った（第70～72図）。縄文土器は各サブトレンドの上位1mのシルト中にみられ、その前後

は土壤化が進み生痕も多くみられた。しかし、上層遺構掘削中、下層確認中に遺物集中などは確認されなかったため、7-2区で一部を面的に広げ、遺構検出を試みる程度に留めた。基本層序VI層の砂礫層は、6区に近い東側は浅く、西側は深い位置にある。

（2）遺構

S D 57001（第73図、写真図版56）7-1区東を南北に走る溝で、概ね条里地割に即している。幅は1.2m、深さ75～90cmを測る。埋土は4層に分かれ、最上層は砂質シルト、他は粘土質シルトで埋没する。下層から中世IV期の土師器などが出土した。

S D 57002 7-1区東端で検出した深さ30cmの浅い溝で、S D 57015より後出の遺構である。主軸はS D 57001と同じく条里の南北方向をとる。

中世の山茶碗や常滑産陶器などが出土した。

S D 57005 7-1区東部で検出した南北方向の溝で、幅は50～60cm、深さ30cm前後である。中世III期の土師器鍋等が出土しており、4m東側を並走する同時期のS D 57009とともに耕作に関わる溝であろう。

S E 57006（第74図） 7-1区東端付近で検出した、直径約3mの円形井戸である。深さ約2mまで掘削したが、調査区端のため完掘はできなかった。深さ1.2m以下で埋土は還元色となり、湧水がみられる。井戸枠は確認できない。

中世の山茶碗等が出土した。

S D 57007 7-1区東部で検出した南北方向の溝で、幅40cm、深さ5cmである。S D 57009と重複するが、それより後出の溝である。中世IV期の土師器が出土している。

S D 57008 7-1区東で検出した幅60cm～1m、深さ10cm前後の不定形な溝である。調査区南端付近を蛇行しており、S D 57004も関連する溝と考えられる。

中世IV期の土師器が出土した。

S D 57009 7-1区東を南北に走る溝で、若干西へ湾曲する。底面は掘削時の農具痕が顕著である。中世III期の土師器が出土した。

S D 57010・57016 7-1区東で検出した幅40cm、深さ10cmの断続的な溝である。平安時代の土師器が出土している。

S K 57012（第74図、写真図版56） 7-1区で検出した土坑で、平面形は一边約2.7mの方方形である。深さ

は約1.8mの井戸状であるが、調査時点では湧水はなかった。井戸枠を据えた痕跡は確認できない。素掘りの水溜めであろう。埋土上層は2種類の土の混成土で、人為的に埋め戻されている。下層は砂・シルトが互層となる。中世後期の土師器などが出土した。

S D 57015 (第73図、写真図版56) 7-1区南東隅で検出した東西方向の溝で、6区SD 56033の延長にある。幅約3m、深さ1.2mで、断面形はV字形に近くなる。上面には平安時代以降のものと思われるピットがみられた。遺物は土師器小片のほか、下層の繩文土器が混入していた。

S D 57017・57018・57020・57021・57023 (第73図、写真図版56) 7-1区中央で検出した小溝群で、これより西側に掘立柱建物群が展開することから、区画溝と考えられる。幅は40~50cm、深さ10~20cm未満で、やや蛇行しながら南から北へ流れる。特にSD 57018は大きく蛇行する。遺構の切り合いから、SD 57020・57021・57023からSD 57017・57018へと変遷することがわかっている。埋土はシルトであるが、SD 57020は砂が主体である。

SD 57017から平安時代中期の土師器や墨書き土器、灰釉・緑釉陶器などが出土しており、SB 57041~57043と遺物相が共通することから、SD 57017が特に上記建物と関係が深いようである。

S X 57022 (第79図、写真図版54・55) 7-1区中央で検出した平安時代末の木棺墓である。掘方は長辺2.4m、短辺1mのややいびつな長方形である。深さは15~20cmで、上部は大きく削平されたと思われる。埋土上層には木棺腐食後の流入土がみられ、上面から約15cm掘り下げたところで木棺痕跡を確認した。

木棺痕跡は掘方の中央で検出し、長さ180cm、幅60cm、深さ7~10cmを測る。土層断面では、側板・小口の腐食痕が明確で、平面形が整った長方形であることから箱型木棺を想定するが、底板の腐食痕は確認できない。また、側板と小口の結合方法も不明で、板を固定した釘も出土していない。持ち運ぶ棺ではなく、側板・小口板を据えただけの可能性もある。また、木棺痕跡検出時、上面に複数の棒状の腐食痕が見られた。棺上部の排水や、棒と蓋などを組み合わせて棺の蓋をした等が考えられる。

棺内、棺外から供獻土器が出土している。棺内は

中央やや北寄りにクロ土師器小皿(640)を伏せている。また南東には土師器、クロ土師器の皿が5枚埋置されている。皿は棺の南東隅に重ねられ、下位の3枚(639・642・641)は正位、その上に逆位の2枚(641・643)を載せる。皿周囲の埋土は若干黒みがかったり、有機質の容器や遺物を伴っていたと推測される。

棺外は掘方南東隅に土師器小皿を3枚置く。まず逆位の皿(645)を置き、その上に逆位(648)、正位(646)の皿を載せる。これらは掘方底に接しており、棺を埋める前に埋置されたものである。

土師器はいずれもも中世I b期に位置づけられ、本遺構は12世紀前半の木棺墓と考えられる。付近では、SB 57047・57048などが同時期の建物である。

S K 57024 7-1区中央、SB 57075と重複する不定形な落ち込みである。長さ3m、幅1.3m、深さ10cm足らずの浅いもので、埋土はシルトである。山茶碗や土師器鍋など中世の遺物が出土している。

S D 57025 7-1区中央で検出した条里南北方向の溝である。幅2.4m、深さ60cmで、東側が段状に浅くなる。平安末~室町時代の山茶碗や土師器皿等が出土しており、現代の水田畦畔と完全に重複する。現代の耕地割が中世に遡る可能性を示す遺構である。

S K 57026(写真図版56) 7-1区東で検出した長径1.4m、短径1mの長楕円形土坑である。SD 57009に先行する遺構である。深さ20cmで、中央が1段下がる。埋土は砂質シルトの単層である。中世III期の土師器が出土している。

S D 57028 7-1区で検出した条里南北方向の溝である。幅20cm、深さ5cm未満で、平安~鎌倉時代のピットを切る。室町時代の陶器小片が出土している。

S D 57029 7-1区西で検出した条里南北方向の溝で、約3m西に同じく条里方向のSD 57037がある。第6次調査のSD 65010に繋がる。幅1.3m、深さは40cmで、断面形は逆台形である。埋土は3層に分かれているが(第70図)、最下層は砂層で流水があったようである。完形の土師器皿など、中世II~III期の遺物が出土している。

S D 57030 7-1区西部で検出した幅50cm、深さは25cmの溝で、第6次調査のSD 65012に繋がる。幅1.3m、深さ20cm程度の浅い溝が重複する。また、西側

には幅約 50cm の別の溝がある（第 70 図）。遺物は希薄であるが、S B 57041 等の建物群の西側を画する溝群と推測される。

S K 57031 (第 74 図、写真図版 56) 7-1 区西で検出した、一辺約 2.5m、深さ約 20cm の浅い方形の土坑で、底面はほぼ平らである。

埋土上層から完形の土師器碗、甕、灰釉陶器など平安時代後期の遺物が出土している。

S D 57032 (第 74 図、写真図版 56) 7-1 区西部で検出した、幅約 60cm、深さ 30 ~ 40cm の溝である。S D 57033 と直交する東西の溝で、西側が途切れている。上層で遺物が集中的に出土した地点があり、土師器皿や甕、山茶碗等の破片など中世 II 期の遺物が集中していた。

S D 57033 7-1 区西部で検出した南北方向の溝である。第 6 次調査の S D 65011 に繋がる。幅は約 60cm、検出面からの深さは 20cm 程度である。

S K 57036 7-1 区西で検出した長径 1.8m、短径 1.4m の楕円形土坑である。深さは 20cm で、埋土は砂質土である。平安時代末の土師器が出土した。

S D 57037 7-1 区西で検出した条里南北方向の溝で、6 次調査の S D 65029 に繋がる。幅は 1 ~ 1.8m、深さ 60cm である。埋土は砂質シルトで（第 70 図）、S D 57029 と同時期の溝と推測される。

S D 57038 7-1 区西端で検出した幅 1.4 ~ 1.8m、深さ 80cm の南北方向の溝である。

約 3m 東側に S D 57050 が並走する。第 6 次調査の S D 65026 に繋がり、断面形は V 字形で、埋土はシルトと砂の互層である（第 70 図）。

古代の土師器片が出土した。

S K 57039 7-1 区で検出した直径 2.2m の円形土坑である。西側が S D 57025 に切られ、深さ 10cm 程度と浅い。底面で S B 57045 のビットを検出しておらず、S B 57045 より後出の遺構と考えられる。

S B 57041 (第 75 図、写真図版 48 ~ 52) 7-1 区中央の区画で検出した大型の掘立柱建物である。S B 57042・57043 と重複しており、S B 57041 が先行する。付近の建物群の中で、もっとも古い建物であり、かつ朝見遺跡の平安時代建物で最大のものである。

主軸は N8° E の東西棟で、桁行 3 間、梁行 2 間の身舎の西・南側に 1 間分の庇が付く二面庇の建物で

ある。南面にはさらに小ビットの柱列があり、南庇との間隔が 1.2 ~ 1.5m と狭いことから、縁束と考えられる。あるいは底の添柱・孫底の可能性もある。

身舎のビット (P1 ~ 10) は一辺約 1m の方形で、三重県内の平安時代の建物では、斎宮や国庁の建物に比肩する規模である。特に隅柱のビットが大きい。深さは約 20cm で、一帯は約 50 ~ 60cm ほど削平されている可能性が高い。このためか、屋内の床東柱は確認できない。全てのビットで直徑約 25cm の柱痕跡を検出しているが、柱痕跡から拳大の石や土器が出土するものが散見され、5 区 S B 55005 と同じく、掘方を大きく壊さず柱を抜き取ったものが含まれよう。その場合、ビット上部の削平により柱抜き取り痕が不明になったと推測される。柱間寸法は柱芯間で 2.4m (8 尺) 等間である。

南側庇のビット (P15 ~ 18) は身舎と同等の大きさで、柱間は身舎と等間である。西側庇 (P11 ~ 14) は一辺 60 ~ 80cm とやや小さい不整形で、身舎から柱間 2.7m (9 尺) である。

縁束のビット (P19 ~ 23) は、一辺 50cm 前後の不整形で、身舎や庇より小さい。柱間は南側庇から 1.2m (4 尺) である。庇・縁束を含めた建物規模は桁行 10.5m、梁行 9.0m、専有面積は約 94 m² となる。身舎・庇・縁束ビットのいずれも、同位置で建て替えた痕跡は認められず、短期間に廃絶した建物とみられる。

P6・7・16・23 などの掘方・柱痕跡から、平安時代中期 (10 世紀前半) の土師器や灰釉陶器、志摩式製塙土器、土鍤、刀子が出土している。造営と廃絶に大きな時期差はない。P16 掘方では、外面に「保平カ」と墨書きのある土師器杯 (714) を正面で埋置していた。

S B 57042 (第 76 図、写真図版 48 ~ 50・53) 7-1 区中央で検出した桁行 4 間、梁行 2 間の側柱建物である。内部に床東などは確認できない。柱間寸法は柱芯間で 2.4m (8 尺) 等間である。主軸は N17° E の東西棟で、方位が揺る S B 57043 と一緒に存在した建物であろう。また、北・南・東側の S A 57046・57048・57059・57060 は、S B 57042・57043 に伴う櫛や塀などと考えられる。

ビットは一辺 60 ~ 70cm の方形で、大きさや平面形はやや不揃いである。深さは約 30cm であるが、妻

側柱 P6・12 は 10 ~ 20 cm と浅い。この点は 5 区 S B 55005 と共通している。柱痕跡は直径約 20 cm で、柱当たりが掘方底面より若干沈下しているものが多い。柱痕跡から比較的大きな土器の破片が出土したものがあり、柱を抜き取ったものが含まれよう。また、同位置での建て替えの痕跡は認められず、比較的短期間で廃絶したとみられる。

ピット掘方・柱痕跡から、平安中期の土師器、灰釉陶器、綠釉陶器等が出土している。

S B 57043 (第 75 図、写真図版 48 ~ 50) 7-1 区中央で検出した桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物である。主軸は N17° E の南北棟、S B 57041 より後出で、S B 57042 に付属する建物の可能性が高い。

柱間寸法は柱芯心間で 2.1 m (7 尺) 等間である。南側柱はピットが重複し、部分的に改修されたとみられる。ピットは一辺 50 cm 前後の方形または円形で、平面形は不揃いである。深さは約 20 cm で、直径 20 cm の柱痕跡が認められる。

掘方・柱痕跡から平安中期の土師器が出土した。

S B 57044 (第 76 図) 7-1 区中央で検出した桁行 3 間、梁行 2 間の小規模な側柱建物で、S B 57041 ~ 57043 廃絶後に展開する建物のひとつである。

主軸は N7° E の東西棟で、削平のためか検出できないピットも多い。ピットは直径 30 cm 前後の円形で、深さ 20 cm を測る。柱間寸法は 2.1 m (7 尺) 等間である。小穴が重複するものが多く、柱抜き取り痕とみられる。平安時代後期 (11 世紀) の土師器などが出土している。

S B 57045 (第 77 図) 7-1 区中央で検出した桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物で、西側に底が取り付く可能性がある。主軸は N3° E の東西棟で、柱間寸法は 1.8 m (6 尺) 等間である。ピットは直径 30 ~ 40 cm の円形、深さは約 20 cm を測る。柱痕跡は直径約 15 cm の円形である。南側に重複する S B 57044 と同規模であり、建て替えかもしれない。

平安時代後期の土師器、黒色土器、灰釉陶器などが出土している。

S A 57046・57059・57060・57068 (第 76 図) 7-1 区中央で検出した柱列で、S B 57042 の三方をコの字形に囲む取り囲む構造または目隠し棚と考えられる。S A 57046 は東西 4 間の柱列で、柱間寸法は 2.1 m (7

尺) で東端は 2.4 m と広い。平安中期の土師器が出土した。ピット掘方は一辺 40 cm の隅丸方形で、深さ約 15 ~ 20 cm である。

S A 57059 は東西 5 間、重複する S A 57060 は東西 4 間で、切り合ひから S A 57059 が先行する。ピット掘方は一辺 40 cm の隅丸方形で、柱痕跡は直径約 15 cm であった。柱間寸法は 2.1 m (7 尺) で、S A 57060 西端のみ 2.4 m (8 尺) である。

S A 57068 は S B 57042 東側の柱列である。3 間分を検出し、ピット掘方は一辺 25 ~ 40 cm の方形・不整形である。柱間寸法は 2.1 m (7 尺) である。

いずれの遺構からも平安中期の土師器（墨書き土器含む）、灰釉陶器、土鍾などが出土している。

S B 57047 (第 77 図) 7-1 区で検出した 3 間 × 2 間の側柱建物である。主軸は N15° E の東西棟で、条里地割に沿うが、中世の溝 S D 57025 に切られる。ピットは直径 25 ~ 30 cm の円形で、深さは 10 cm 程度である。柱間寸法は 2.1 m (7 尺) 等間である。

北東隅の P1 から、平安時代末の山茶碗が出土している。

S B 57048 (第 78 図) 7-1 区中央で検出した 3 間 × 2 間の側柱建物である。主軸は N10° E の東西棟で、S B 57076 と重複し、S B 57049 とは軒が接するため、それぞれ別時期の建物と考えられる。ピット掘方は直径 25 cm の円形で、深さ 20 cm 程度である。柱痕跡は直径約 15 cm の円形、柱間寸法は 2.4 m 等間で、中世 I 期の土師器が出土している。

S B 57049 (第 78 図) 7-1 区中央で一部を検出した梁行 3 間の側柱建物で、主軸は N12° E の東西棟である。ピット掘方は、一辺約 40 cm の隅丸方形で、深さ 40 ~ 50 cm を測るが、妻柱は極端に浅い。柱痕跡は直径 15 cm 程度の円形である。柱間寸法は 1.8 m (6 尺) であった。平安時代中～後期の土師器が出土している。

S D 57050 (写真図版 56) 7-1 区西端で検出した幅 1.2 m、深さ 50 cm の南北方向の溝で、断面形は逆台形である (第 70 図)。埋土はシルトで、古代の土師器、須恵器が出土した。S R 57077 埋没後の遺構である。

S D 57051・57052・57055 S D 57051 は 7-2 区東で検出した幅 2.1 m、深さ 50 cm の溝である。6 次調査の S D 65001 に続く。埋土はシルトで、山茶碗や中世 IV 期の土師器などが出土している。

SD 57052はSD 57051の西側に並ぶ小規模な溝で、SD 57051とはほぼ同時期の遺構である。この他にも、SD 57055など、同方向に走る中世の溝が認められる(第70図)。

SD 57053(第81図、写真図版59・60) 7-2区で検出した南北方向の溝であるが、6次調査の結果と合わせ、最終的に道路遺構と判断している。当初は一般的な溝として調査を進めたため、欠落した情報が多いが、その反省をもとに6次調査(SZ 65004)により詳細な土層や遺物出土状況の検討を行っているので、最終的な所見はそちらを参照されたい。

SD 57053は幅1.2m、深さは40cmの溝状で、肩は緩やかに立ち上がる。西側にSD 57058・57062、東側にSD 57069が同方向に走る。底面は幅60cm、深さ25cmの小溝状であるが、この埋没後(南壁8層上面)に小土坑が列状に連続して形成され、埋土の様相から、いわゆる波板状凹凸面であると考えられる。

波板状凹凸面は直径40~80cmの不整円形で、深さは5cm前後とごく浅い。凹凸面は2時期のものが重複しており、同時期の凹凸面は約60~90cm間隔で配置されているようである。凹凸面の埋土は砂質シルトで、小礫や土師器・陶器・瓦の小片を中心にはぐくものが多い。また、複数の凹凸面から馬歯が1点ないし複数点出土しており、上下顎の歯が混在するものもみられた。中世における馬に関する祭祀の例として重要である。遺物は平安時代後期~末のものが混在している。

路面とみられるのは南壁7層の粗砂層で、幅約1.2mにわたり硬く締まっている。本次調査時点では、SD 57069の埋没後に7層が形成されたとしていたが(第81図)、6次調査で再検討した結果、SD 57069は道路側溝として機能したと判断している。

上層は細砂で埋没しており、山茶碗がまとまって出土した。上層の堆積前にSD 57058・57062が機能・埋没している。

波板状凹凸面の遺物から、SD 57053は11~12世纪にかけて機能した道路と推測され、13世纪に埋没したとみられる。SD 57053の東側(7-2区と7-1区の境界)は現在も同方向の里道があり、中世以降、ほぼ同じ位置に道路が跡襲され続けたと考えられる。

SD 57064(写真図版61) 7-2区で検出した条里南

北方向の溝である。幅2m、深さ50cmで断面形は逆台形である。埋土上層はシルト、下層は極細砂で埋没する(第72図)。山茶碗など中世I期の遺物が出土しており、当地付近でも平安時代末以降、条里方向の溝が展開していく。

なお、混入遺物であるものの、縄文時代の大型有茎繭(1710)が出土した点は特筆される。

S D 57056・57057・57061 7-2区東で検出した条里南北方向の小溝群で、詳細な時期は不明だが、SD 57053・57055等の道路遺構や溝とは方向を違え、それらに先行する。埋土は粗砂やシルトである(第72図)。

S D 57058(第81図、写真図版59) 7-2区東で検出した幅1.5m、深さ60cmの南北方向の溝である。SD 57062、SD 57053に先行する遺構で、埋土はシルトと礫混じり細砂の互層で、断面形は逆台形である。平安時代後期の土師器などが出土しており、SB 57071を中心とする建物群の東側区画溝と考えられる。

S D 57062(第81図) 7-2区東で検出した南北方向の溝で、SD 57053の西に接する。6次調査SD 65007に繋がる。上面の幅80cm、深さ80cmで、断面形はV字形である。埋土は極細砂で、中世の山茶碗などが出土している。SD 57053と同時期の遺構である。

S D 57065 7-2区西で検出した南北方向の溝である。幅50~60cm、深さは10~20cm程度で、中世以降の耕作に伴う溝であろう。

S A 57066・57067(第77図) 7-1区で検出した2~3間分の柱列である。建物と重複する位置にあり、樋としては不自然な位置にあるため、削平により掘立柱建物の柱列が消失したものと推測されるが、建物を復原するまでに至らない。

S D 57069(第81図) 7-2区東、SD 57053の底面で確認した溝で、SD 57053の道路側溝とみられる。隣接する第6次調査区のSD 65005に繋がる。幅30~50cm、検出面からの深さは30cm前後である。埋土はシルトで、中世の山茶碗などが出土した。

S B 57071(第80図、写真図版57・58・61) 7-2区中央で検出した大型の掘立柱建物である。

6次調査5区も含め周辺は建物が錯綜する上、7-2区西側は中世以降の耕作で全体が削平されているため、建物の平面形は推定によるところが大きいが、SB 57042とほぼ同規模の桁行4間、梁行2間の側柱建

物とみられる。西側柱を中世の溝 S D 57054・57064、東側柱を中世の小溝に切られる。

主軸は N7° E の東西棟で、やや正方位に近く、S B 57042・57043 とも一致している。ピットの切り合いかから、7-2 区付近の建物群では最も先行する、中核的な建物であろう。同位置で建て替えた痕跡はみられず、短期間で廃絶したと考えられる。

ピット掘方は一辺 70 cm から 1 m の方形で、側柱は隅と中央がやや大きく、その間は一回り小さい。直径 25 cm ほどの柱痕跡を検出しているが、上部が削平されているため、抜き取り跡との識別が困難なものが多く、見かけ上は柱筋の通りが悪い。柱間寸法はややプレがあるが、概ね 2.1 m (7 尺) である。S B 55005・57042 等と同じく、妻柱は極端に浅く、西側は削平により消失している。

南側柱に対応するピットが南側に散見され、南面に庇ないし縁が存在した可能性があるが確実でない。また、東面にも側柱に対応するピットが 2 基あり、調査区北側を一部拡張して精査したが、北東隅相当のピットはなかった。建物内西側には、間仕切り状のピットが 2 つあるが、遺物の時期は側柱と異なる。

南東隅の P7 から土師器皿 (811) や上半を欠いた灰釉陶器瓶 (818) が出土しており、柱を抜き取った後に地鎮のため埋納したものであろう。土師器皿は拳大的の縦とともに横向きに立てられていた。瓶は横倒しで、口縁を意図的に打ち欠き仮器化したものであろう。この他に掘方・柱痕跡から平安時代前～中期の土師器や黒色土器、灰釉陶器などが出土している。

S D 57072 (第 69 図、写真図版 62) 7-3 区で検出した大溝ないし自然流路である。調査区が狭いため全体の形状は不明であるが、幅は 4 m 以上、検出面からの深さは 2 m を測る。2 次調査 S D 1 と一連の遺構であろう。肩の立ち上がりは緩やかで、底面は凹凸が激しい。埋土はシルト系であるが、礫や粗砂を含む。平安時代後期～末の土器・陶器が出土した。

S B 57074 (第 80 図) 7-2 区で北半を検出した掘立柱建物である。6 次調査の結果と合わせ、桁行 5 間、梁行 3 間、主軸は N3° E の東西棟と考えた。ピット掘方は直径 30 cm 前後の円形で、柱間寸法は不等間で広く、相対する柱穴も不揃いである。

平安時代後期～末の土師器片が出土している。

S B 57075 (第 77 図) 7-1 区中央で検出した。北半が調査区外のため全体は不明であるが、桁行 2 間以上、梁行 2 間の南北棟と考えられる。柱掘方は直径 30 cm 前後の円形で、柱間寸法は 1.2 m と狭い。

平安時代中期の土師器が出土しているが、平安時代末の S B 57047 と軸方向が一致しており、同時期の建物の可能性がある。

S B 57076 (第 78 図) 7-1 区中央で検出した桁行 2 間以上、梁行 2 間の純柱建物である。主軸は N23° E の南北棟とみられる。ピット掘方は直径 20 ~ 30 cm の円形で、深さ 25 cm 前後である。柱間寸法は 1.5m、2.1 m、3.0 m と不等間となる。

平安時代後期～末の土師器が出土しており、中世 I 期の建物とみられる。

S R 57077 (第 70 図、写真図版 62) 7-1 区西側で確認した弥生時代終末期～古墳時代の自然流路である。全体で幅 24 m 以上、深さ 1.8 m 以上あり、調査区北壁での断剣による土層と規模の確認に留めた。

6 次調査の結果も踏まえると、複数の流路が錯綜しており、最終埋没時には数条の小流路帯となっていたようである。

S B 65016 (第 80 図) 7-2 区で検出した掘立柱建物で、6 次調査の結果と合わせ、3 間 × 2 間の南北棟とした。ピット掘方は直径 40 ~ 50 cm 程度の円形を呈するものが多い。

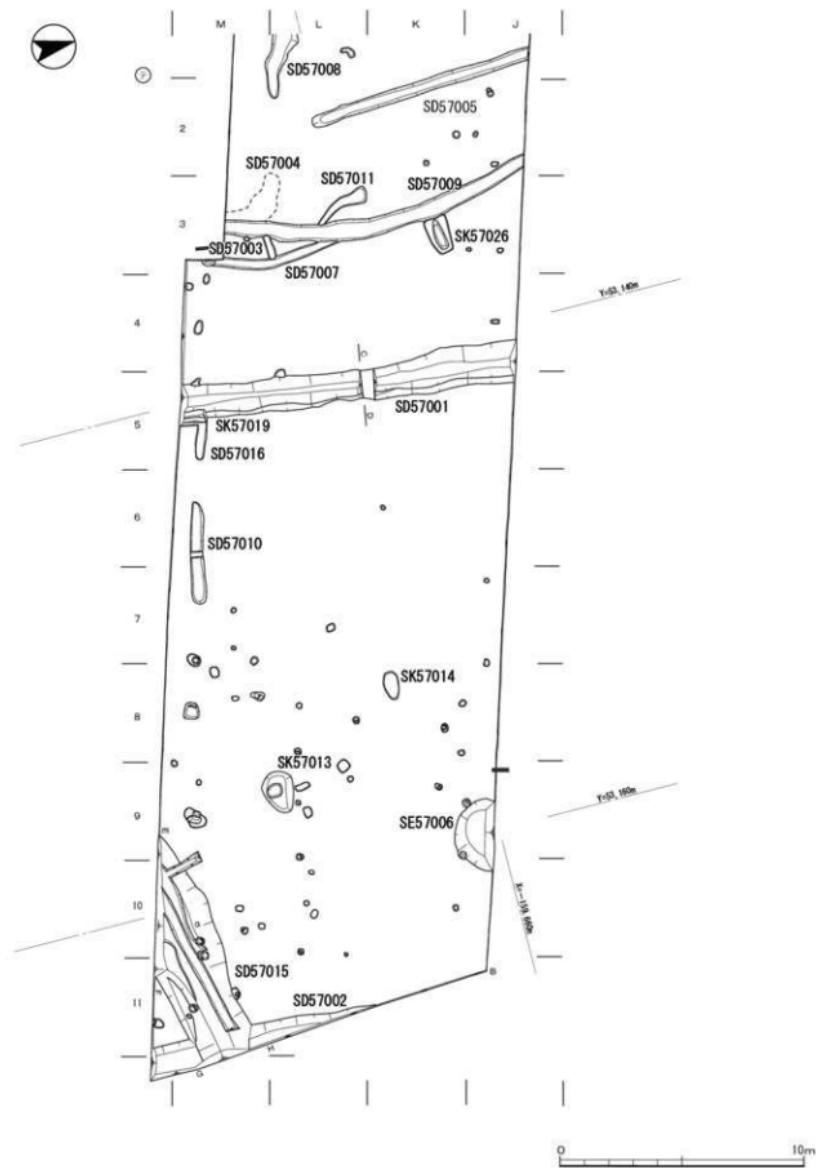
S B 65018 (第 80 図) 7-2 区で検出した掘立柱建物で、6 次調査の結果と合わせ、中央に間仕切りをもつ 5 間 × 2 間の南北棟を想定した。柱掘方は直径 25 cm 程度の円形である。

(3) 下層確認

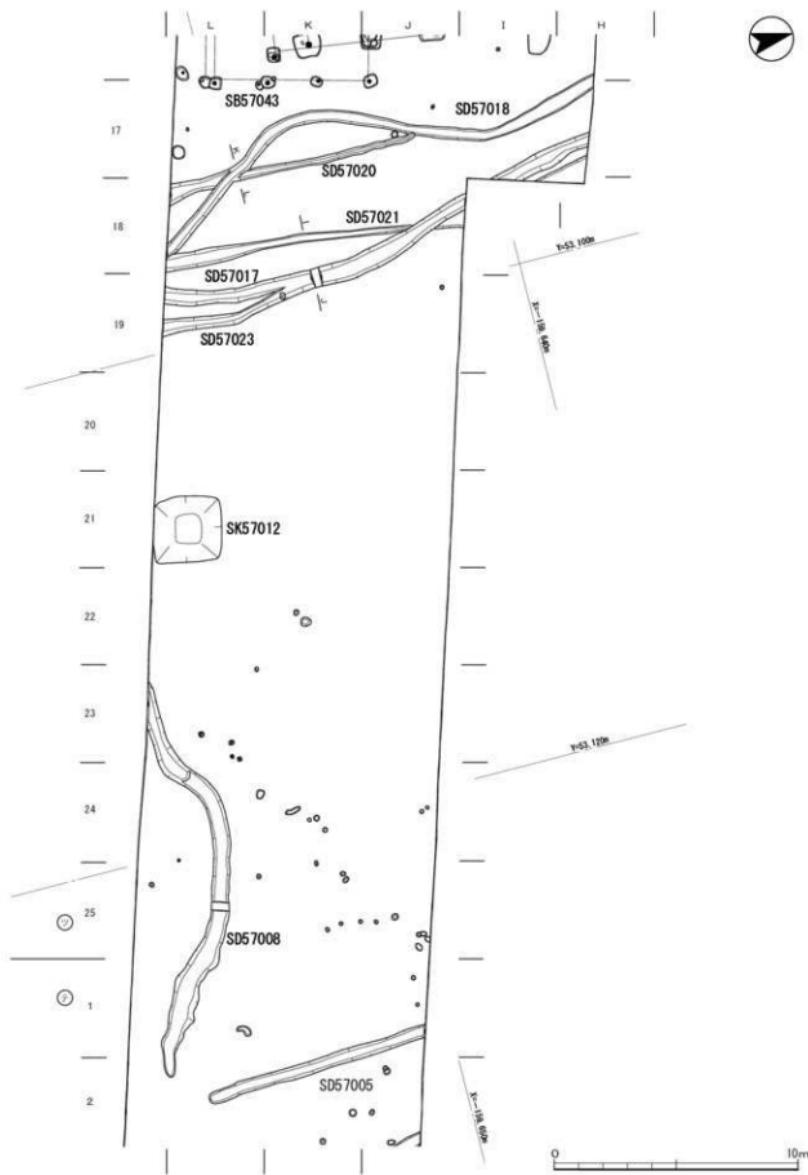
7-2 区下層 (第 69 図、写真図版 62) 遺構面に縄文土器が含まれていたことから、検出面より約 70 cm 下の腐植の少ない褐色シルト層 (第 72 図 17 層) 上面で遺構検出を試みたが、遺構は確認できなかつた。

平面的には不定形な小土坑・ピット状に見えるものもあったが、調査区壁面の観察によると、付近は生痕が非常に顕著であり、人為的な遺構ではないと判断した。遺物の出土もなかつた。

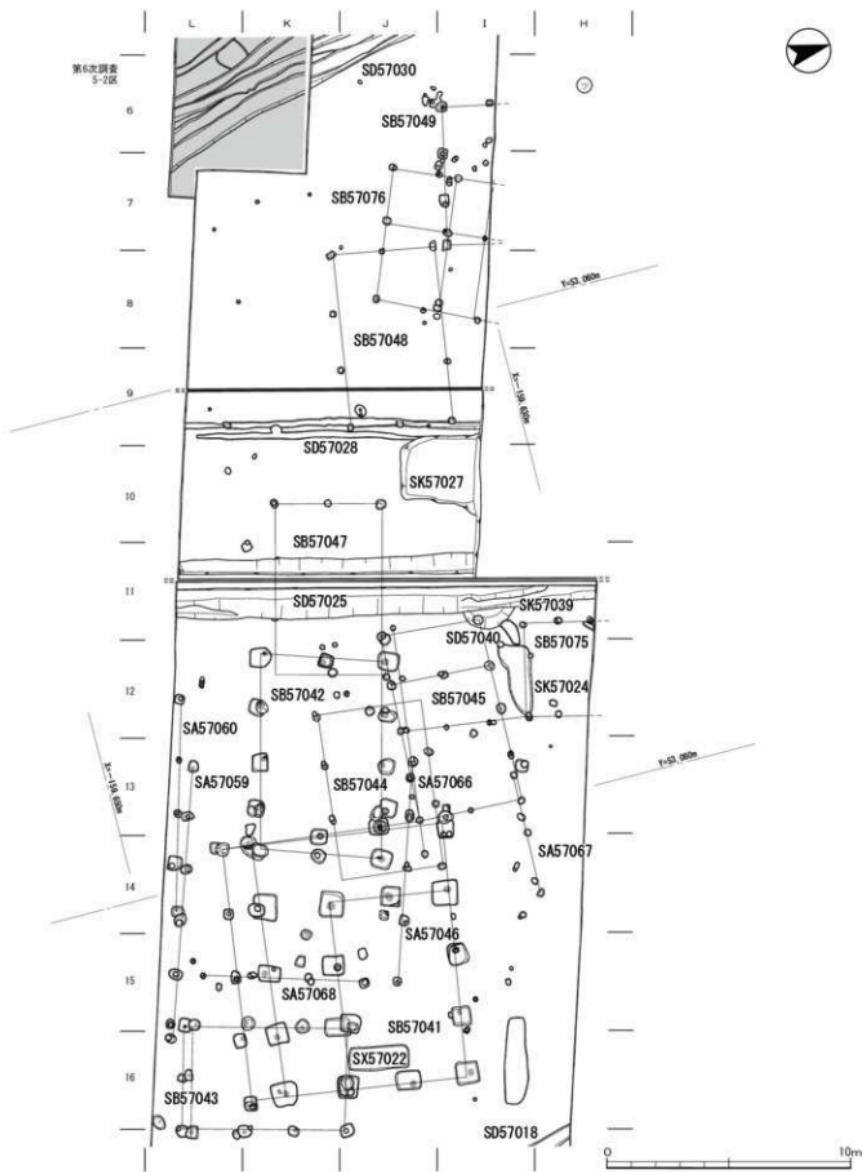
なお、S D 57064 から縄文時代の大型の有茎罐 (1710) が出土しており、縄文時代でも古相の遺構・遺物が付近に存在する可能性がある。



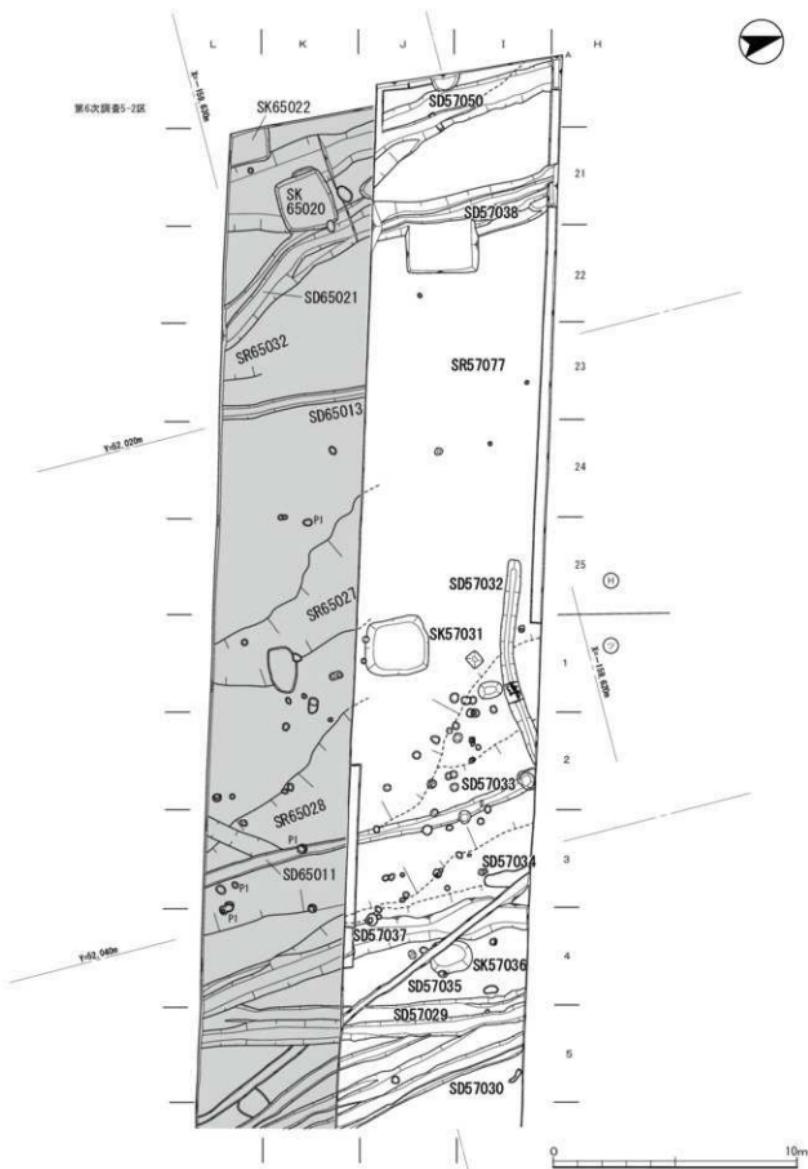
第64図 7-1区造構全体図① (1:200)



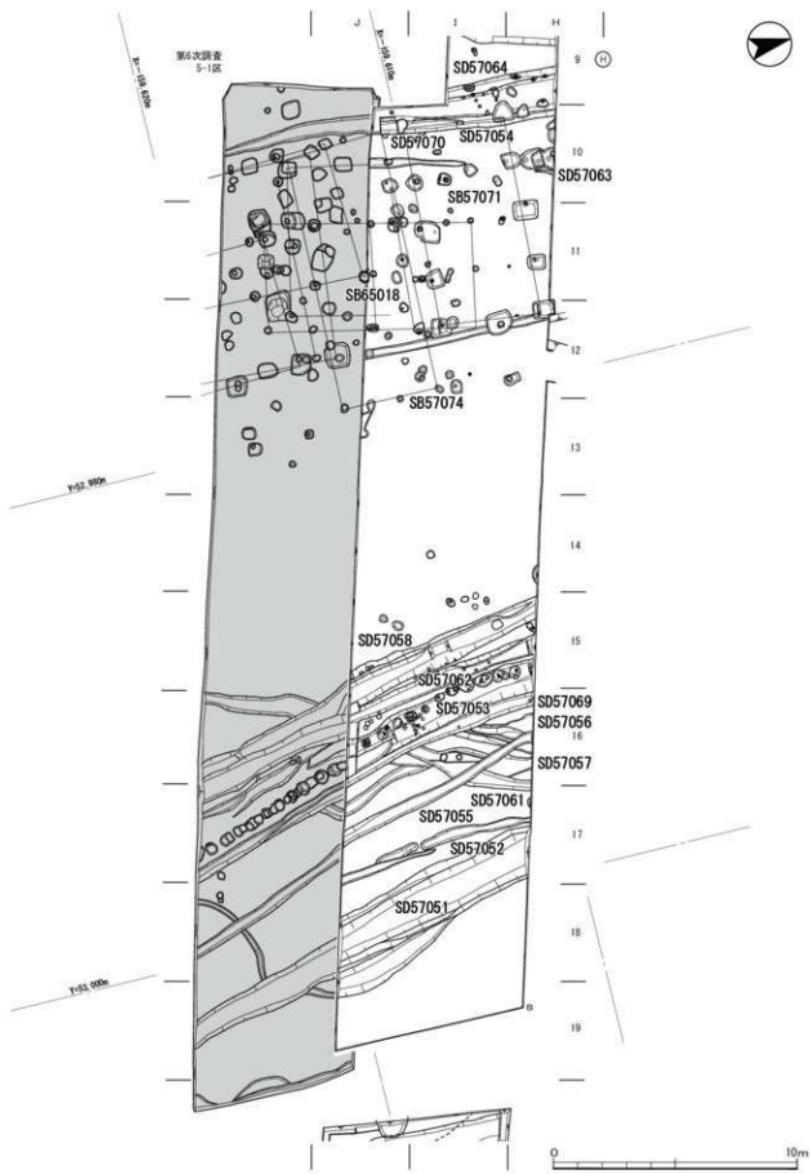
第65図 7-1区造構全体図(②) (1:200)



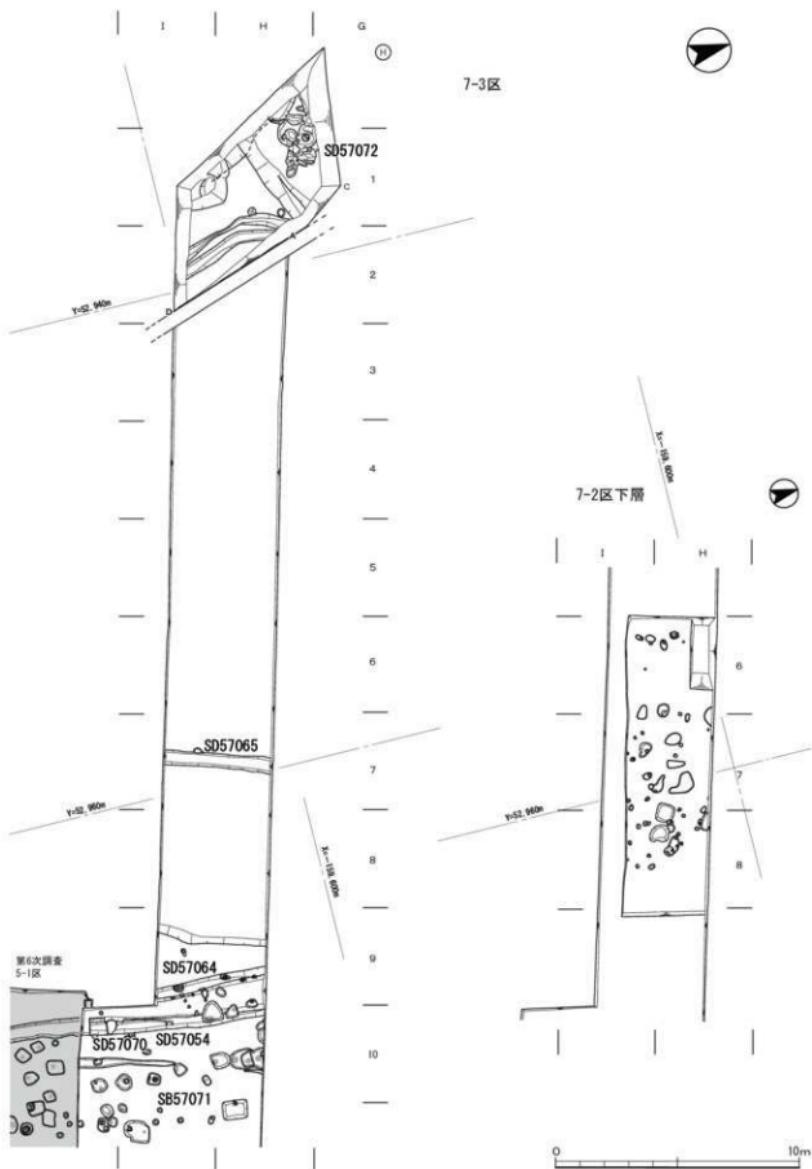
第 66 図 7-1 区構造全体図③ (1:200)



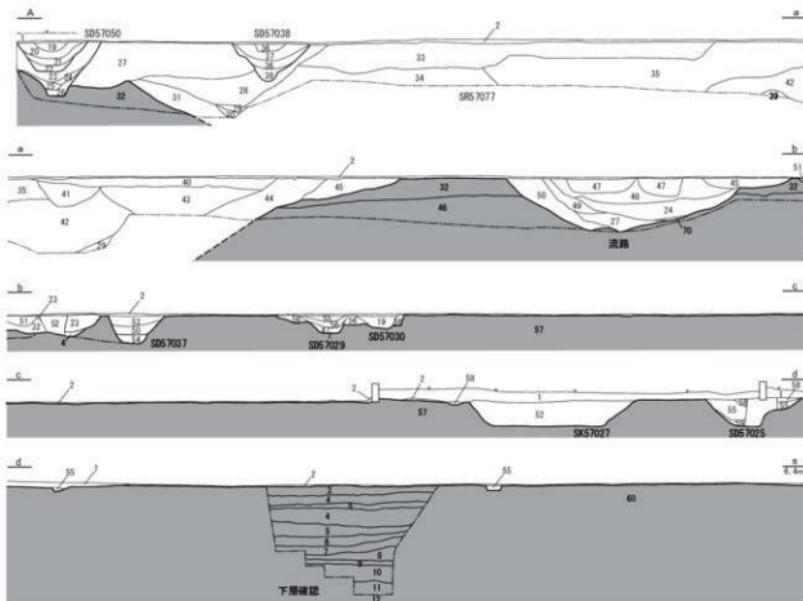
第67図 7-1区造構全体図④ (1:200)



第 68 図 7-2 区造構全体図 (1:200)

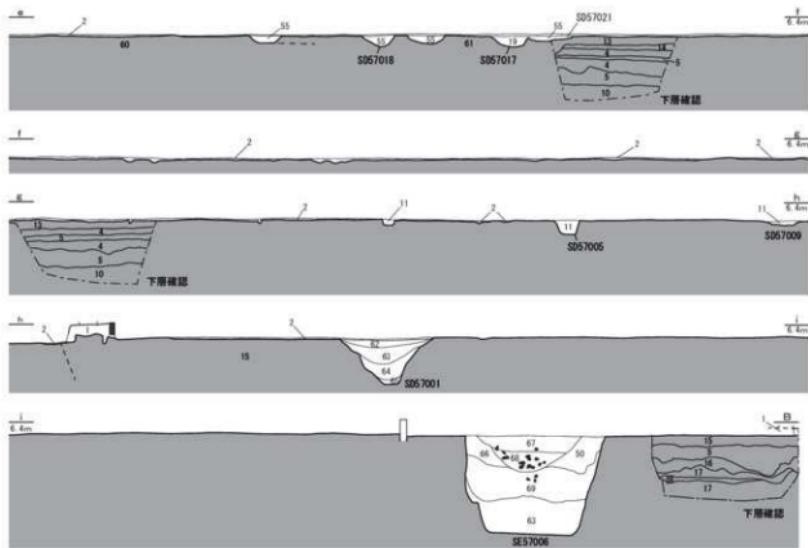


第69図 7-2区、7-3区造構全体図 (1:200)



1. 2. SY6/1 黄灰色粘質土<耕作土>
 2. 2. SY7/6 明黄褐色砂質シルト<底土>
 3. 7. SY6/2 灰褐色砂質シルト（礫文土器含）<基盤層>
 4. 10SY6/4 にぶい黄褐色砂質シルト（礫文土器含）
 5. 2. SY6/4 にぶい黄色砂質シルト（礫文土器含）
 6. 2. SY6/4 にぶい黄色シルト
 7. 2. SY5/7 黄褐色細粒砂～砂質シルト
 8. 2. SY5/7 單灰黃色粗砂
 9. 2. SY6/6 灰黃色粘土
 10. SY5/4 灰オリーブ色細粒砂
 11. SY5/2 灰オリーブ色細粒砂<SD57005・SD57009堆土を含む>
 12. SY5/1 灰色砂礫
 13. 2. SY6/3 にぶい黃褐色細砂（マンガン多含）<基盤層>
 14. 2. SY6/3 にぶい黃褐色細砂（マンガン多含）
 15. 2. SY6/4 にぶい黄色シルト（礫文土器含）<基盤層>
 16. 2. SY6/4 にぶい黄色細粒砂
 17. 2. SY5/2 單灰黃色砂礫（10cmの複多含）
 18. 2. SY5/2 單灰黃色細砂
19. 2. SY6/1 黄灰色シルト<SD57017・SD57030・SD57050埋土上>
 20. 2. SY6/1 黄灰色粘土シルト<SD57050埋土上>
 21. 2. SY6/2 灰黃色砂質シルト<SD57050埋土上>
 22. Ne7 灰色粘土質シルト<SD57050埋土>
 23. 10SY6/3 にぶい黄褐色砂質土（粗砂含）<SD57034埋土を含む>
 24. 10SY4/1 暗色粗砂
 25. 10SY6/4 にぶい黄褐色粗砂
 26. 10SY5/2 單灰黃色粗砂
 27. 10SY4/2 青灰黃褐色粗砂（小石含）
 28. 10SY4/4 暗色粗砂（小石含）
 29. 10SY4/2 青灰黃褐色粗砂
 30. 10SY4/1 暗色粗砂
 31. 10SY4/3 にぶい黄褐色砂礫
 32. 7. SYR4/4 稀色粘質シルト<基盤層>
 33. 7. SYR5/6 明褐色砂質シルト
 34. 10SY5/4 にぶい黄褐色砂質シルトと粘土の互層
 35. 7. SYR5/8 明褐色砂質シルト

第 70 図 7-1 区北壁土層断面図① (1:100)



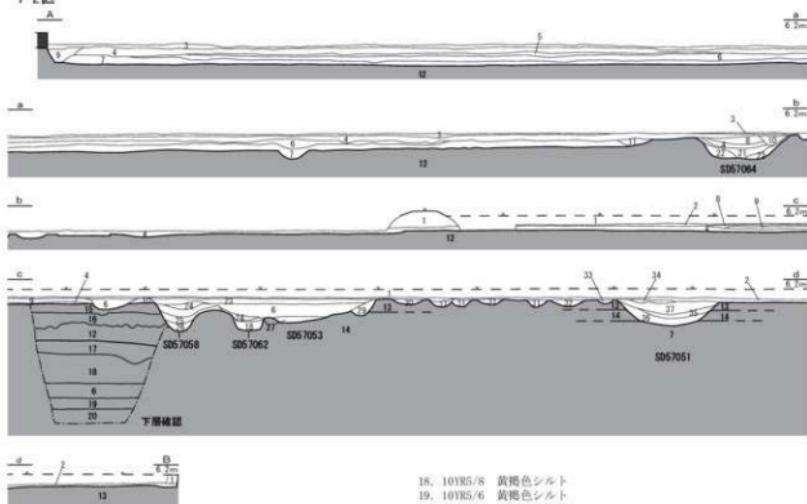
36. 2. 5YR6/1 黄褐色砂質シルト<SD57038埋土>
 37. 2. 5YR6/2 灰黄色砂質シルト(粗砂多含)<SD57038埋土>
 38. 2. 5YR6/1 黄灰色細砂<SD57038埋土>
 39. 10YR4/1 鹿灰色砂質シルト
 40. 2. 5YR5/1 噴灰黄色粗砂
 41. 10YR4/6 鹿色砂質土
 42. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト
 43. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト(小石含)
 44. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト(小石含)
 45. 10YR6/6 明褐色シルト
 46. 7. 5YR5/6 明褐色砂質シルト
 47. 2. 5YR5/2 雀灰黄色極細砂<SD57029・SD57032・SD57033埋土>
 48. 10YR4/4 鹿色砂質シルト
 49. 10YR4/4 鹿色シルト
 50. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト
 <SE57006・SD57037埋土を含む>
 51. 10YR7/2 にぶい黄褐色砂質土(粗砂含)
 52. 深糞<SD57027・SD57035埋土>
 53. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土<SD57037埋土>

54. 10YR5/2 灰黃褐色砂質シルト<SD57037埋土>
 55. 2. 5YR6/2 灰黄色シルト<SD57017・SD57018・SD57021埋土を含む>
 56. 2. 5YR6/3 にぶい黄色シルト<SD57029埋土>
 57. 7. 5Y4/1 鹿灰色シルト<検出面>
 58. 2. 5Y7/2 鹿黄色シルト<SD57025埋土を含む>
 59. 2. 5Y5/1 黄灰色シルト<SD57025埋土>
 60. 10YR5/1 にぶい黄褐色砂質シルト～極細砂<基盤層>
 61. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト<SE57006・SD57001埋土>
 62. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト<SD57001埋土>
 63. 10YR5/2 灰黃褐色粘土質シルト<SE57006・SD57001埋土>
 64. 10YR5/4 にぶい黄褐色粘土質シルト<SD57001埋土>
 65. 10YR4/2 灰黃褐色粘土質シルト<SD57001埋土>
 66. 10YR4/4 にぶい黄褐色粘土質シルト<SE57006埋土>
 67. 10YR4/6 鹿色砂質シルト(5cmの縦若干含)<SE57006埋土>
 68. 10YR4/6 鹿色砂質シルト(15cmの縦含)<SE57006埋土>
 69. 10YR5/3 にぶい黄褐色粘土質シルト(5cmの縦含)<SE57006埋土>
 70. 7. 5Y4/6 鹿色シルト・細砂



第 71 図 7-1 区北壁土層断面図② (1:100)

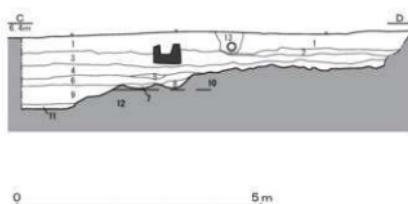
7-2区



1. 2. 5Y5/1 黄灰色粘質土<耕作土>
2. 2. 5Y6/1 黄灰褐色シルト<土上>
3. 10Y8/7/4 にぶい黄褐色極細砂
4. 10Y8/3 にぶい黄褐色シルト<SD57064埋土を含む>
5. 10Y8/3 にぶい黄褐色極細砂
6. 10Y8/3 にぶい黄褐色シルト
<SD57053・57058・57062埋土を含む>
7. 10Y8/5/2 灰黄褐色シルト
8. 10Y8/7/3 にぶい黄褐色シルト<SD57064埋土を含む>
9. 10Y8/4 にぶい黄褐色極細砂
10. 10Y8/2 灰黄褐色シルト<SD57054埋土を含む>
11. 10Y8/6/2 灰黄褐色シルト
12. 10Y8/4 にぶい黄褐色シルト<基盤層>
13. 2. 5Y6/2 灰黄色粘質シルト(マンガン多含) <基盤層>
14. 7. SYR4/1 極灰色シルト(下面生痕著しい)
15. 10Y8/4 にぶい黄褐色シルト
16. 5Y8/4/2 灰褐色シルト
17. 7. SYR4/4 極色シルト<下層検出面>

18. 10Y8/5/8 黄褐色シルト
19. 10Y8/5/6 黄褐色シルト
20. 10Y8/5/2 灰黄褐色砂質シルト
21. 10Y8/4 極色極細砂<SD57064埋土>
22. 10Y8/4 灰黄褐色極細砂<SD57054・57062埋土>
23. 10Y8/5/2 灰黄褐色極細砂<SD57058・57062埋土>
24. 10Y8/5/3 にぶい黄褐色極細砂(小礫含)
<SD57058・57062埋土>
25. 7. SYR5/2 極灰色極細砂<SD57058埋土>
26. 7. SYR5/2 極色シルト<SD57058埋土>
27. 10Y8/3 にぶい黄褐色粗砂(小礫含) <SD57053・57062埋土>
28. 10Y8/4 にぶい黄褐色粗砂<SD57062埋土>
29. 2. 5Y6/2 増灰黄色砂質シルト<SD57054埋土>
30. 2. 5Y6/2 灰黄色砂質シルト<SD57051・57055・57056埋土>
31. 2. 5Y6/2 灰黄色極細砂(粗砂含)
<SD57057・57061埋土を含む>
32. 2. 5Y6/3 にぶい黄褐色砂質シルト
33. 2. 5Y6/3 にぶい黄褐色粗砂<SD57052埋土>
34. 2. 5Y7/2 增灰黄色砂質シルト<SD57051埋土>
35. 2. 5Y5/1 黄灰色シルト<SD57051埋土>
36. 2. 5Y5/2 增灰黄色極細砂(極灰色シルト多含)
<SD57051埋土>
37. 2. 5Y6/2 灰黄色シルト<SD57051・57055埋土>

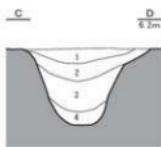
7-3区



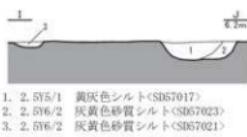
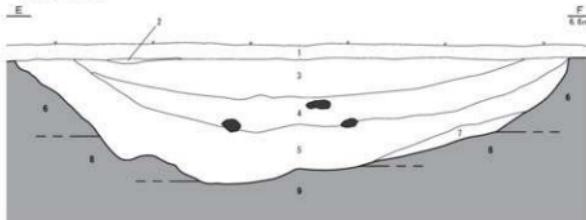
1. 10Y8/6/4 にぶい黄褐色粘質土<表土>
2. 7. SYR7/8 黄褐色粘質土<客土>
3. 10Y8/6/3 にぶい黄褐色砂質土<客土>
4. 10Y8/5/2 灰黄褐色シルト
5. 10Y8/6/2 灰黄褐色シルト
6. 10Y8/5/3 にぶい黄褐色シルト
7. 10Y8/6/3 にぶい黄褐色シルト
8. 10Y8/6/4 にぶい黄褐色シルト
9. 10Y8/5/4 にぶい黄褐色シルト<SD57072埋土>
10. SYR3/3 増赤褐色シルト<基盤層>
11. 10Y8/4/4 極色シルト<SD57072埋土>
12. 10Y8/5/6 黄褐色シルト
13. 慢乱

第 72 図 7-2 区北壁・7-3 区東壁土層断面図 (1:100)

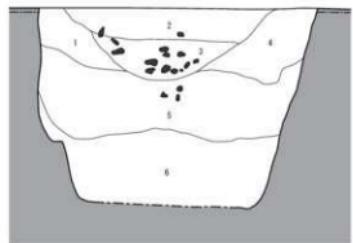
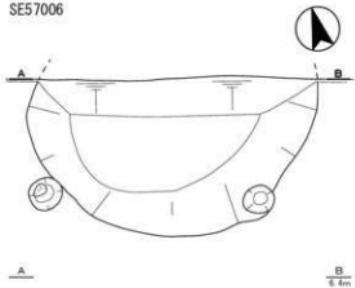
SD57001



SD57017・57021・57023

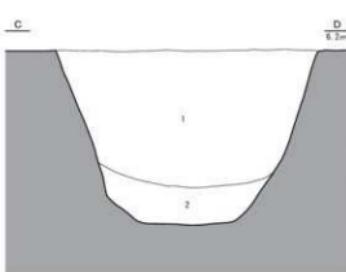
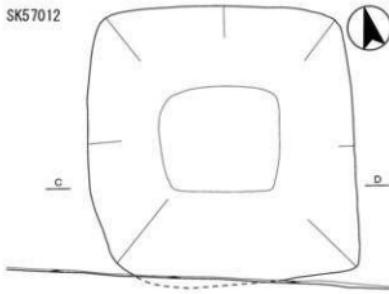
SD57015
(調査区南壁)

SE57006



1. 10T8E/4 にぶい、黄褐色粘土質シルト
2. 10T8E/6 灰色砂質シルト (5cmの繊若干含)
3. 10T8E/6 黄褐色砂質シルト (15cmの繊含)
4. 10T8E/4 にぶい、黄褐色砂質シルト
5. 10T8E/3 にぶい、黄褐色粘土質シルト (5cmの繊含)
6. 10T8E/2 灰黄褐色粘土質シルト

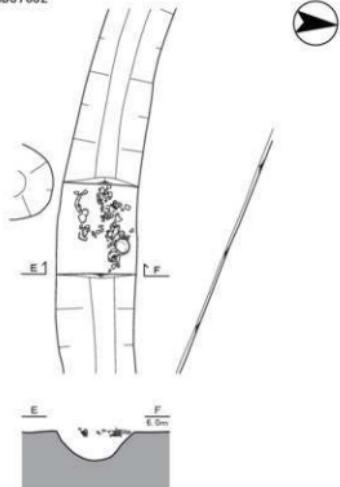
SK57012



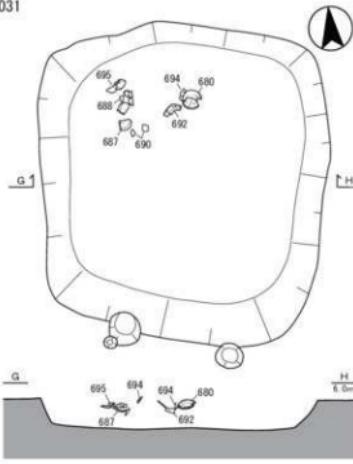
1. 10T8E/2 灰黄褐色シルトと2. 5M/4にぶい黄色シルトの混成土
2. 5M 灰色極細砂と粘土質シルトの互層

0 2m

SD57032

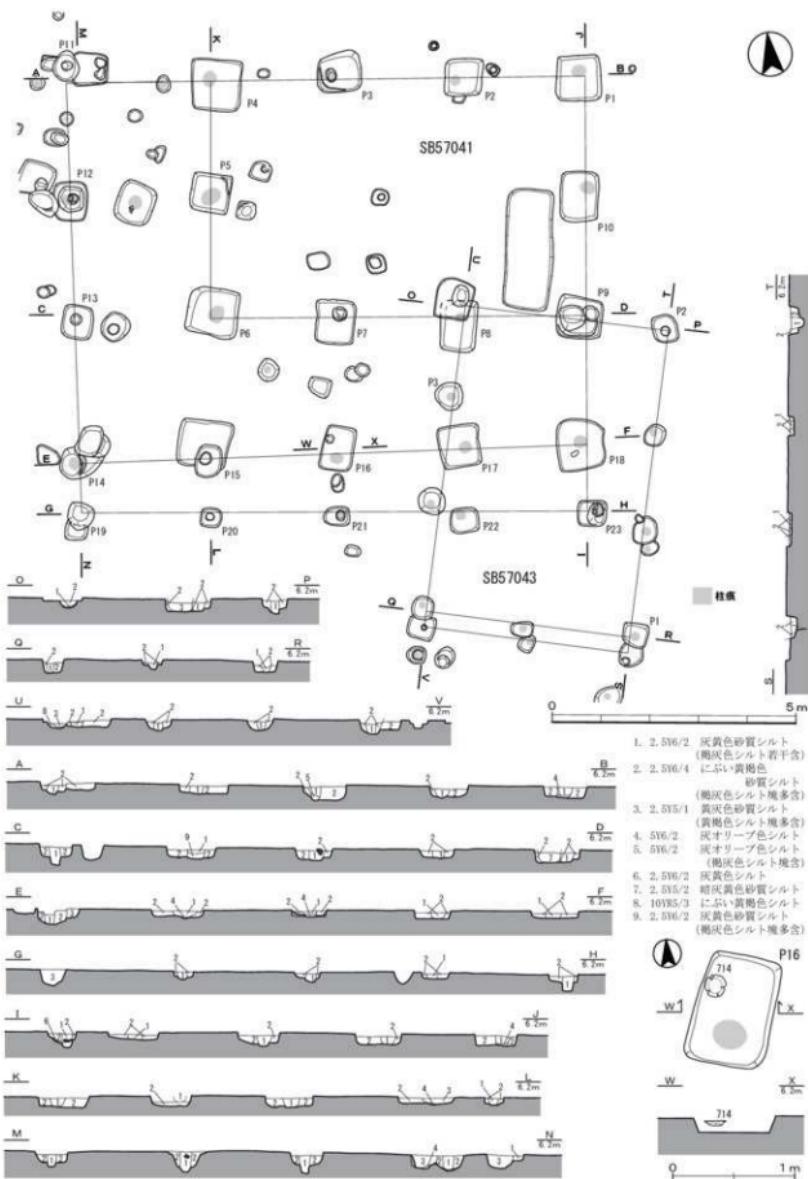


SK57031

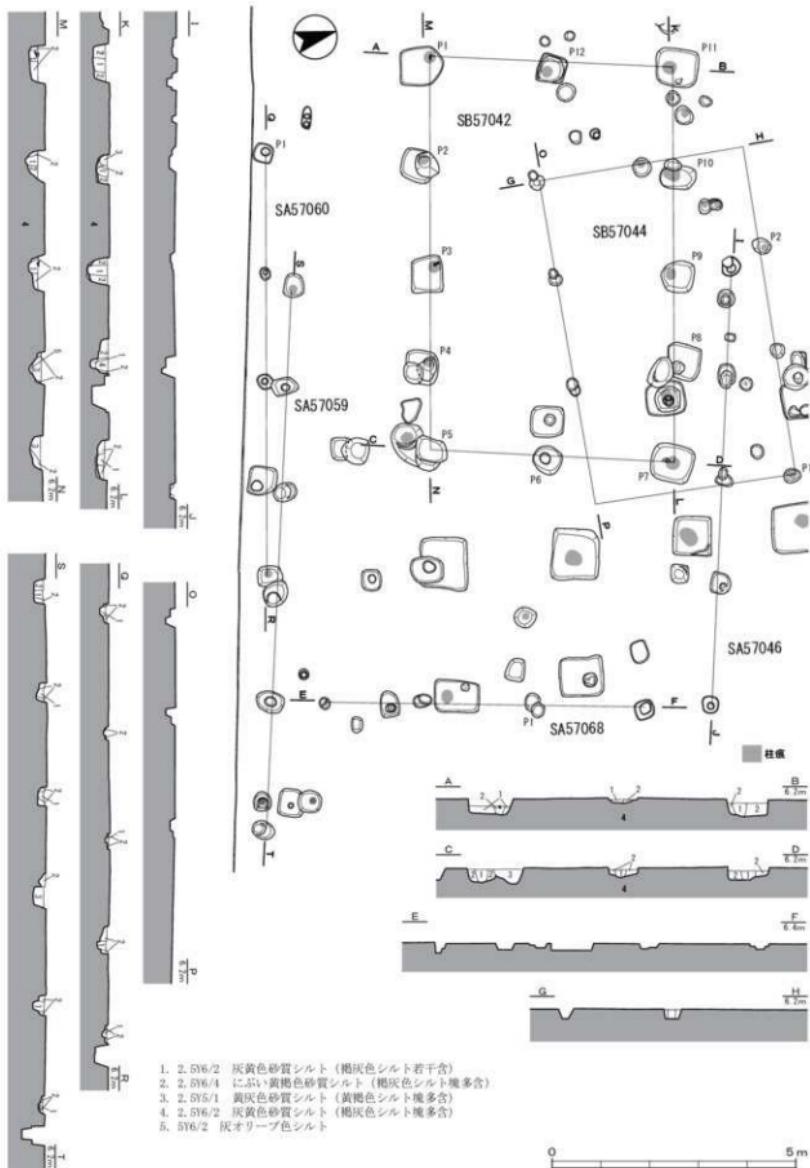


0 2m

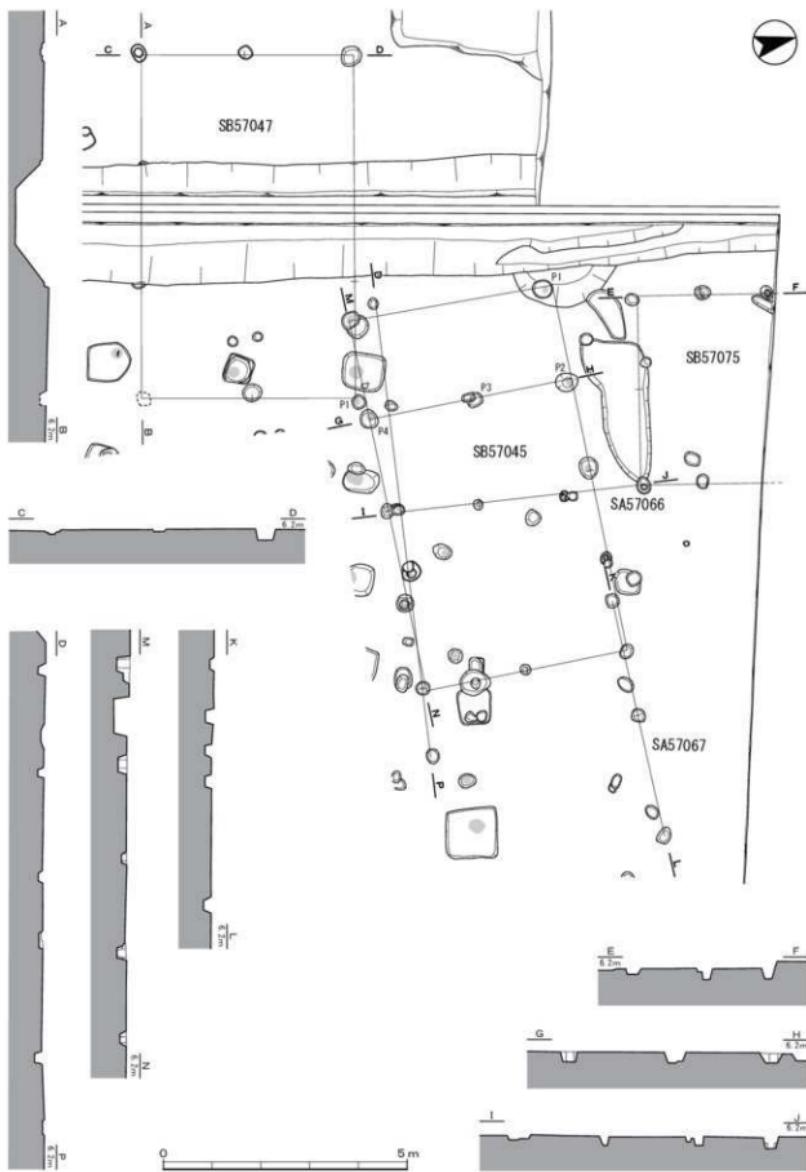
第74図 SE57006・SK57012 (1:50)、SK57031・SD57032 遺物出土状況図 (1:40)



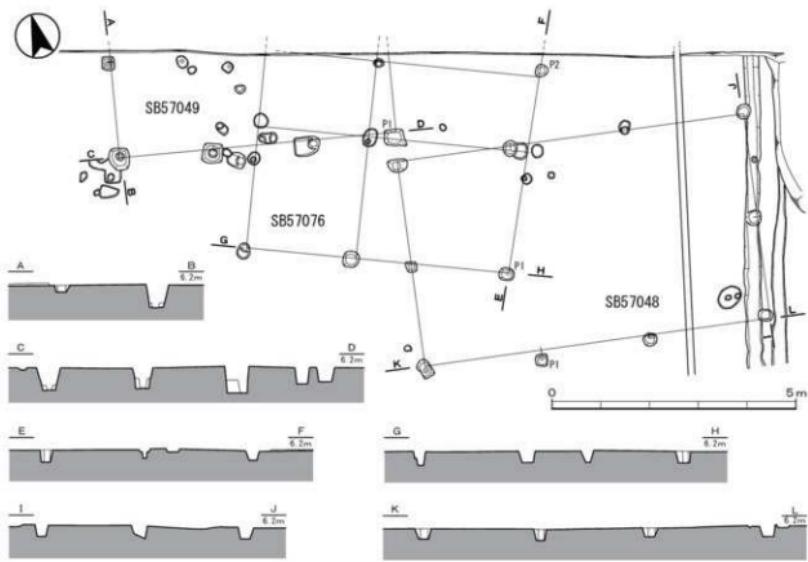
第75図 SB 57041・57043 (1:100)、S857041 ピット遺物出土状況図 (1:40)



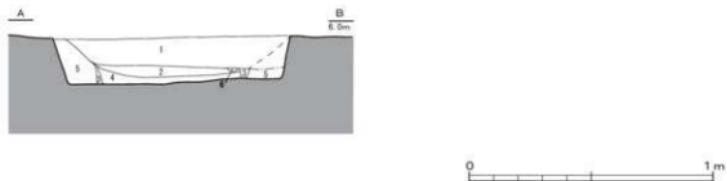
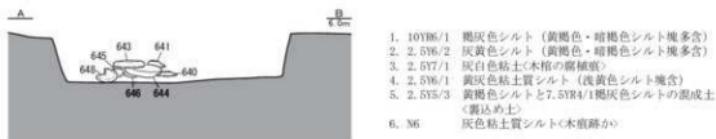
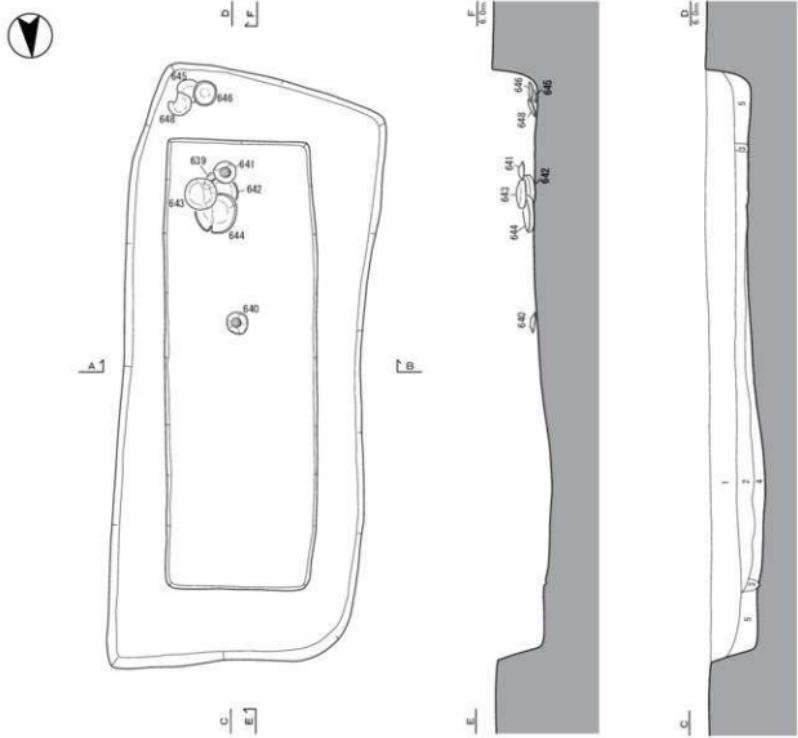
第 76 図 SB 57042・57044、SA 57046・57059・57060・57068 (1:100)



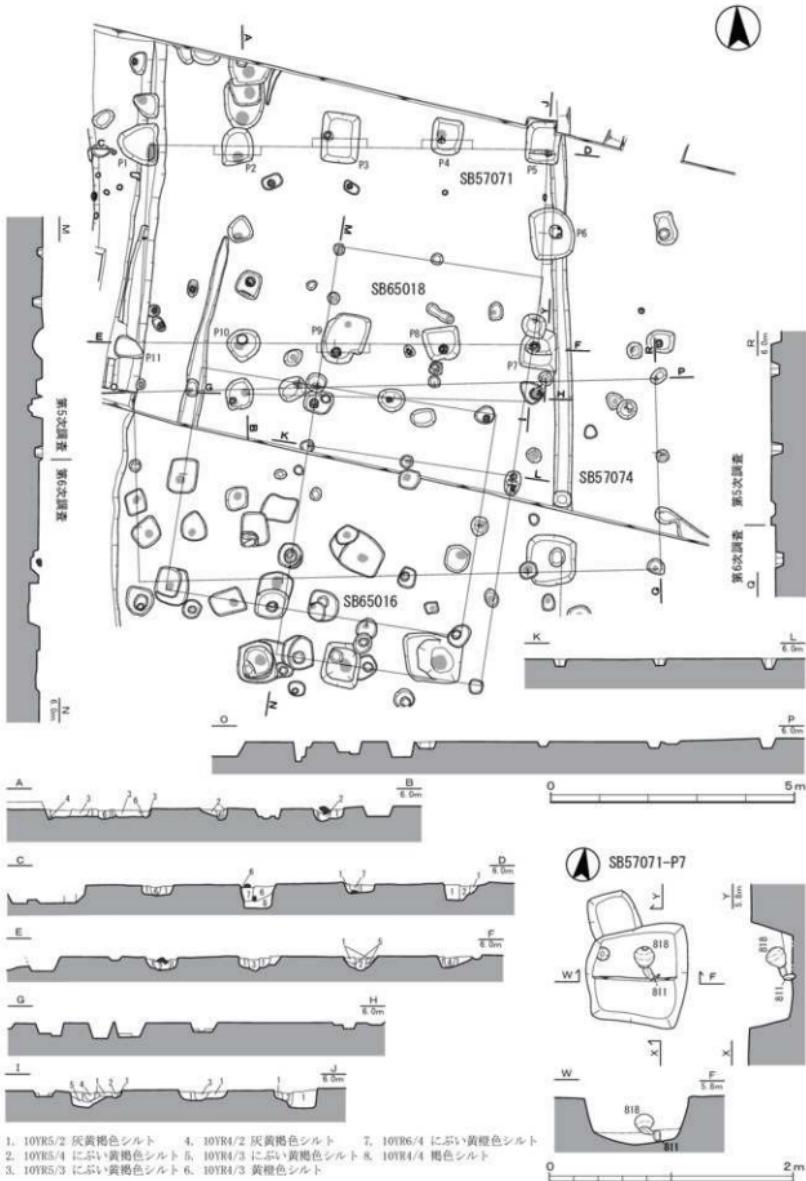
第 77 図 SB 57045・57047・57075、SA 57066・57067 (1:100)

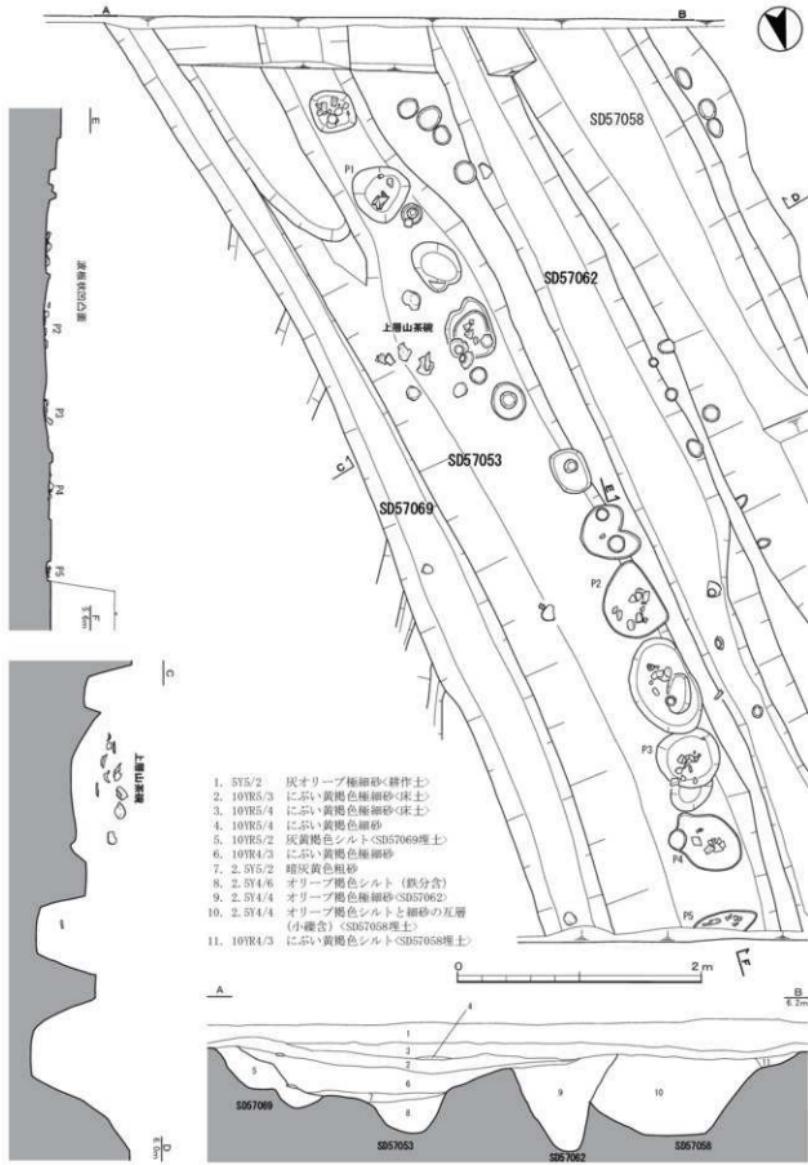


第 78 図 SB 57048・57049・57076 (1:100)



第 79 図 S X 57022 (1:20)





第 81 図 SD 57053・57058・57062・57069 (1:40)

10. 8区（第82～87図）

（1）概要

遺跡西側、現代（ほ場整備前）の基幹水路に平行する、南東-北西方向の調査区である。

遺構は現耕土・床土直下（地表下50cm）の黄褐色シルトまたは褐色シルト層上で検出した。他の調査区に比べ、旧耕作土が何層もあり厚い。また、近世の水田跡もみられる。

全体に平安時代以降の溝や流路が錯綜しており、北西-南東方向の小溝群を南側のS R 58026、北側のS R 58009が分断し、それらの埋没後にS D 58023やS D 58017などの溝が掘削されている。こうした状況から、建物などの住居関連遺構は希薄であった。

下層確認はS R 58026の断ち割りを兼ねて実施した。縄文時代の遺構・遺物は確認できなかつたが、自然木を含む泥炭質の黒褐色へ黒色粘土質シルトがみられ、遺跡中央に比べ低湿な環境であると推測された（第84図83～85層、写真図版65）。

（2）遺構

S D 58001 8区北を条里東西方向に横切る溝で、幅40cm、深さ20cm程度である。S D 58002・58003・58004より後出の遺構である。

S D 58002・58003・58004 8区北で検出した南北方向の溝群で、南側延長上でS D 58005・58007・58008に続くと思われる。S D 58002のみ南端が東へ向きを変えるが、他はS R 58009に切られる。

S D 58002は幅80cm、深さ35cmで、S D 58004は幅80cm、30cmでS D 58002に合流する。

いずれも出土遺物は少なく、白磁片が出土したのみである。

S D 58005・58007（写真図版64） 8区中央の調査区東端で検出した南北方向の溝で、両者は一連の溝と考えられる。深さ40cm未満、埋土はシルトである。

出土遺物は少なく、古代の土師器甕や皿等が出土した。

S D 58006・58008（第86図、写真図版64） 調査区中央で検出した南北方向の溝である。S D 58005・58007も含め、4条のほぼ同規模の溝が並走し、いずれもS R 58009・58026に先行する溝である。

出土遺物は少ない。

S R 58009 8区北で検出した幅8m、深さ1.5m以上の自然流路で、底面の確認には至っていない。埋土はシルト・砂質シルト主体である（第84図）。

8区北の遺構では最も後出で、近世の陶器が若干出土しており、近世に埋没したとみられる。

混入遺物には、縄文土器や古代の土師器・須恵器などがある。

S D 58010 8区中央で検出した東西方向の溝である。直交するS D 58008等より後出で、S D 58006に先行する。幅1m、深さは35cm程度である。

埋土はシルトで、須恵器甕や土師器甕片が出土した。

S K 58012 8区中央で検出した直径80cm、不整円形の土坑である。深さ35cmを測る。

土師器の小片が出土した。

S X 58013（第87図、写真図版65） 8区中央で検出した長方形土坑で、確証は得られていないが、平面形から土壤墓の可能性も考えられる。

掘方は長さ135cm、幅50cmで、深さ22cmを測る。土層観察では、木棺の腐食痕などは確認できなかつた。埋土はブロック土混じりのシルト单層である。

北東隅から平安時代後期の土師器甕（828）、中央から土師器杯（827）が出土しており、両者とも完形に近く、正位で底から若干浮いた位置に置かれる。土師器甕は外面に煤が付着しており、使用されたものである。

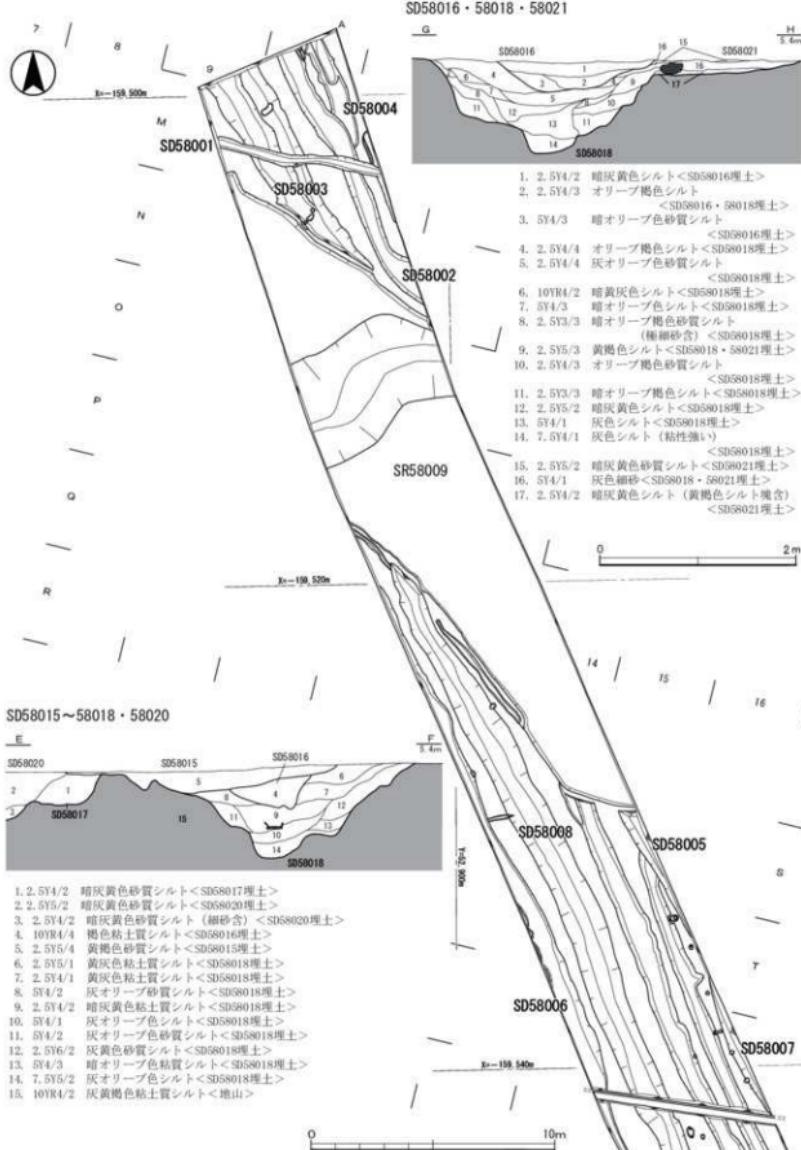
S D 58015（第83図、写真図版65） 8区南端付近に広がる深さ20cmの落ち込みで、条里方向に沿った水田の地割である。一部に幅60cmの畦溝がみられた。

S D 58018・58020等、南側の溝群を覆っており、出土遺物からも近世の水田と考えられる。

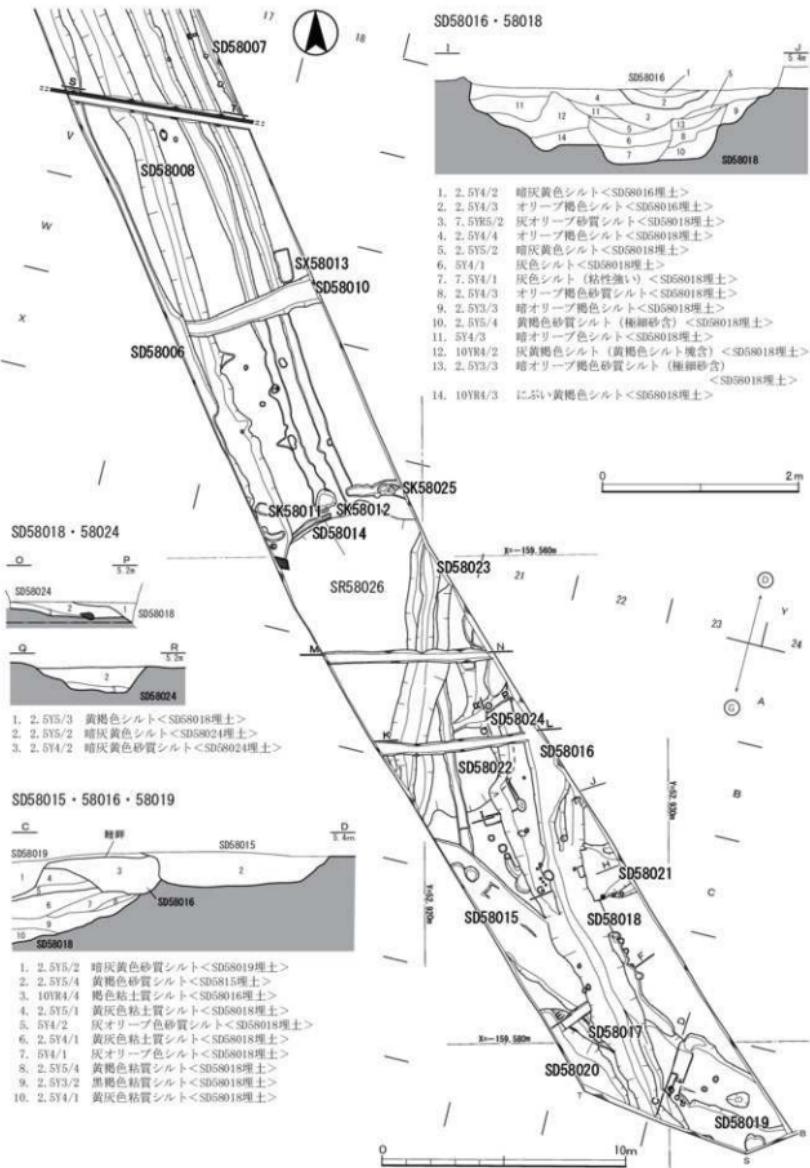
S D 58016（第83図、写真図版63・65） 8区南で検出した浅い南北方向の溝である。S D 58018の上面で検出し、調査区南端付近で途絶える。S D 58018の埋没最終段階を表しているものと考えられる。幅は90cm～1.6m、深さ20cmである。

平安時代の土師器、灰釉陶器、黒色土器等が出土しているが、S D 58018出土遺物より若干時期が後の傾向にある。

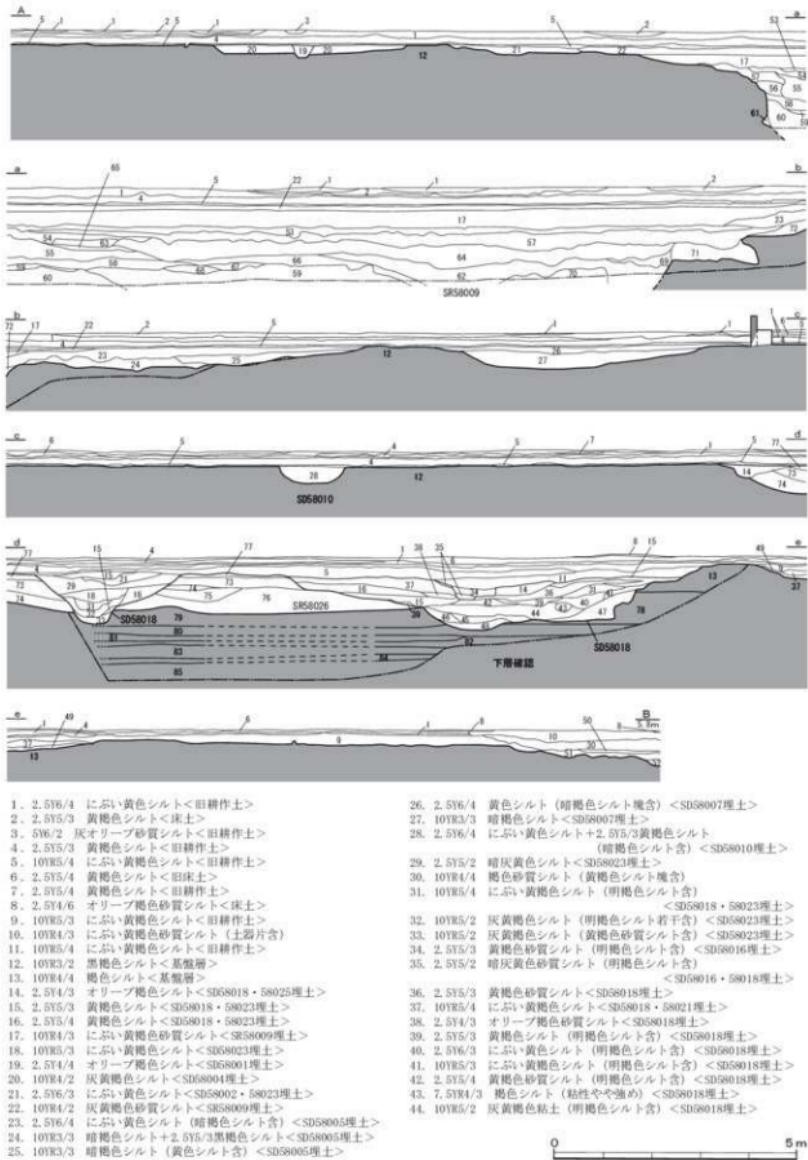
S D 58017（写真図版63） 8区南端で検出した溝である。調査区端にあり、後出のS D 58020に大半を削



第82図 8区透構全体図① (1:200)、SD 58015～58018・58020・58021断面図 (1:50)



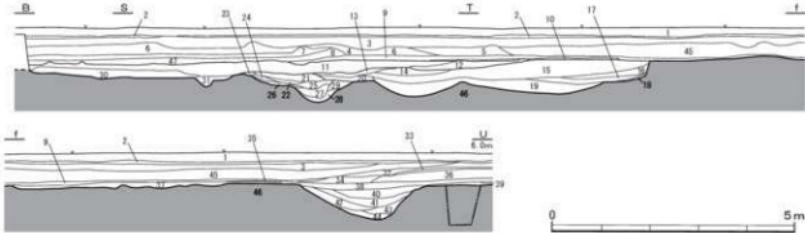
第83図 8区構造全体図② (1:200)、SD 58015・58016・58018・58019・58024断面図 (1:50)



第84図 8区東壁土層断面図(1:100)

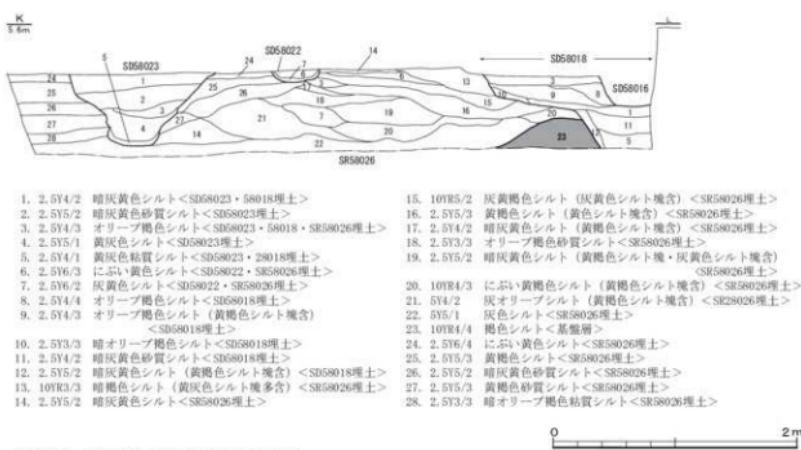
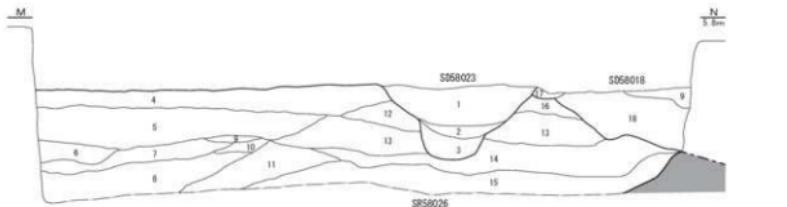
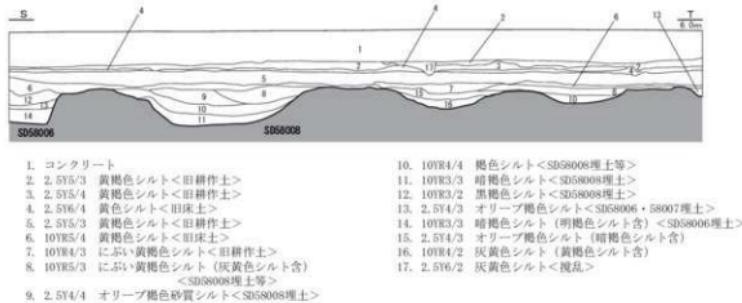
45. 7.5Y3/2 オリーブ黒色シルト（極細砂多含、明褐色シルト含）<SD58018埋土>
 46. 7.5Y3/2 オリーブ黒色シルト（明褐色シルト含）<SD58018埋土>
 47. 7.5Y5/6 明褐色砂質シルト<SD58018埋土>
 48. 7.5Y5/6 明褐色砂質シルト（オリーブ黒色砂質シルト含）<SD58018埋土>
 49. 2.5Y6/1 黄褐色砂質シルト（細砂含）<SD58021埋土>
 50. 2.5Y5/2 増灰黄色砂質シルト（近世耕作土）
 51. 2.5Y5/3 黄褐色シルト（灰色細砂含）<SD58015埋土>
 52. 2.5Y5/3 黄褐色シルト（灰色シルト含）<SD58019埋土>
 53. 2.5Y4/1 オリーブ褐色シルト（黄褐色砂質シルト含）<SD58009埋土>
 54. 2.5Y4/1 黄褐色シルト（黄褐色砂質シルト含）<SD58009埋土>
 55. 10YR4/1 黄褐色砂質シルト（黄褐色砂質シルト含）<SD58009埋土>
 56. 10YR4/2 灰褐色シルト（粘性強め）<SD58008埋土>
 57. 2.5Y4/2 增灰黄色シルト（黄褐色砂質シルト含）<SD58009埋土>
 58. 10YR4/2 增灰黄色砂質シルト<SD58009埋土>
 59. 5BG4/1 增青灰色砂質シルト<SD58009埋土>
 60. 7.5Y5/3 灰色粘土（暗褐色+黄褐色シルト含）<SD58009埋土>
 61. N/6/1 灰色砂質シルト<SD58009埋土>
 62. 2.5Y4/2 增灰黄色砂質シルト<SD58009埋土>
 63. 2.5Y5/1 黄褐色シルト（黄褐色砂質シルト含）<SD58009埋土>
 64. 10YR4/1 黄褐色シルト（黄褐色砂質シルト含）<SD58009埋土>
 65. 5Y4/2 灰オリーブ砂質シルト（黄褐色砂質シルト含）<SD58009埋土>

8区南～西壁



1. 5Y3/2 オリーブ黒色砂質シルト<耕作土>
 2. 2.5Y5/4 オリーブ褐色砂質シルト<床土、東壁の8に対応>
 3. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト（土器片含）<東壁の10に対応>
 4. 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト
 5. 5BG4/4 オリーブ黄色砂質シルト（灰色シルト含）
 6. 10YR4/4 黄褐色砂質シルト（黄褐色シルト塊・土器片含）<東壁の30に対応>
 7. 2.5Y5/2 増灰黄色砂質シルト（寛永通宝出土）<東壁の50に対応>
 8. 2.5Y5/3 黄褐色シルト（灰色細砂含）
 9. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト<SD58015埋土>
 10. 2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト<旧耕土下><SD58015埋土>
 11. 2.5Y5/3 黄褐色シルト（灰色シルト含）<SD58019埋土、東壁の52に対応>
 12. 5Y5/2 灰オリーブ色砂質シルト<SD58020埋土>
 13. 5Y5/2 灰オリーブ色シルト（黄褐色シルト・暗褐色シルト含）<SD58020埋土>
 14. 2.5Y6/2 灰黄色シルト（黄褐色シルト塊含）<SD58020埋土>
 15. 2.5Y5/2 増灰黄色シルト（黄褐色シルト塊含）<SD58020埋土>
 16. 2.5Y4/2 増灰黄色砂質シルト<SD58020埋土>
 17. 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質（鉄分沈析）<SD58020埋土>
 18. 2.5Y4/1 黄褐色シルト（細砂含）<SD58020埋土>
 19. 2.5G6Y5/1 オリーブ灰色シルト（細砂含）<SD58020埋土>
 20. 10YR4/2 増灰黄色砂質シルト<SD58020埋土>
 21. 2.5Y4/2 増灰黄色砂質シルト<SD58018埋土>
 22. 5Y4/1 灰色砂質シルト<SD58018埋土>
 23. 2.5Y4/3 オリーブ褐色シルト<SD58018埋土>
 24. 2.5Y5/2 増灰黄色シルト（粘性あり）<SD58018埋土>
 25. 2.5Y4/2 増灰黄色シルト<SD58018埋土>
 26. 10YR3/3 黄褐色シルト<SD58018埋土>
 27. 10YR5/1 黄褐色シルト（粘性あり）<SD58018埋土>
 28. 10YR5/2 黄褐色シルト<SD58018埋土>
 29. 2.5Y5/3 黄褐色シルト（粘性あり）<SD58018埋土>
 30. 2.5Y4/3 にぶい黄色シルト（灰色シルト塊含）<SD58019埋土>
 31. 5Y5/1 黄褐色シルト<SD58019埋土>
 32. 2.5Y5/2 増灰黄色砂質シルト<旧耕作土>
 33. 2.5Y5/3 黄褐色砂質シルト<旧耕土>
 34. 5Y5/2 灰オリーブ砂質シルト<旧耕作土>
 35. 2.5Y5/4 黄褐色砂質シルト<SD58015埋土>
 36. 2.5Y6/2 増灰黄色砂質シルト<旧耕作土上>
 37. 5Y5/2 灰オリーブシルト（黄褐色シルト塊含）<SD58015埋土>
 38. 2.5Y5/3 黄褐色シルト<河川堆積層>
 39. 2.5Y5/6 黄褐色シルト<河川堆積層>
 40. 2.5Y5/2 増灰黄色シルト<SD58023埋土>
 41. 2.5Y5/2 増灰黄色シルト（微砂含）<SD58023埋土>
 42. 2.5Y5/1 黄褐色砂質シルト<SD58023埋土>
 43. 2.5Y5/1 黄褐色シルト（粘性あり）<SD58023埋土>
 44. 10YR5/1 黄褐色シルト（粘性あり）<SD58023埋土>
 45. 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質シルト（黄褐色シルト塊含）
 46. 10YR4/4 黄褐色シルト<基盤層>
 47. 2.5Y5/3 黄褐色シルト<SD58015埋土、東壁の51に対応>

第 85 図 8 区東壁土層断面図②、8 区南～西壁土層断面図 (1:100)



第86図 8区東西土層断面図 (1:100)

平されるため詳細は不明である。埋土は砂質シルトで、深さは検出面から 30 cm 程度である。

S D 58018 (第 83 図、写真図版 63・65) 8 区南で検出した南北方向の溝で、S R 58026 の埋没後に掘削されている。幅は 1.2 ~ 2.2 m で、北東へ向かうにつれ幅を広げる。深さは 70 cm 前後である。埋土はシルト主体で、砂は含まれない。

土層断面観察によれば、一定埋没が進むごとに再掘削され、次第に規模を縮小させている。最終的に、最上層に S D 58016 が形成される。

出土遺物は、飛鳥～奈良時代から平安時代末のものと含むが、主体は平安時代中期の土師器、黒色土器、灰釉陶器等である。なかでも、墨書き器「平成」(876) の出土が特筆されよう。志摩式製埴土器や土壺なども出土した。

以上から、平安時代中期以降に機能した溝と考えられるが、先行する S R 58026 との時期差はほとんどなく、S R 58026 埋没後、間もなく S D 58018 が掘削されたと考えられる。

S D 58019 (第 83 図) 8 区南端で検出した浅い溝である。調査区内で幅 1.5 m、深さ 30 cm 程度である。

土師器や山茶碗が出土した。

S D 58020 (第 82 図) 8 区南西端で検出した溝である。調査区内で幅 2 m、深さ 50 cm 以上である。埋土は、2 層に分かれ、下層には細砂を含む。

中世 IV 期の土師器鍋等が出土している。

S D 58021 (第 82 図、写真図版 65) 8 区南で検出した東西方向の溝で、S D 58018 に合流する。深さは 15 cm と浅い。

平安時代後期の遺物が出土している。

S D 58022 (第 86 図) 8 区南部で検出した溝で、S D 58023 と合流している。S R 58026 埋没後に形成された遺構である。幅 50 cm、深さ 10 cm である。

埋土はシルト主体で、中世の陶器鉢などが出土している。

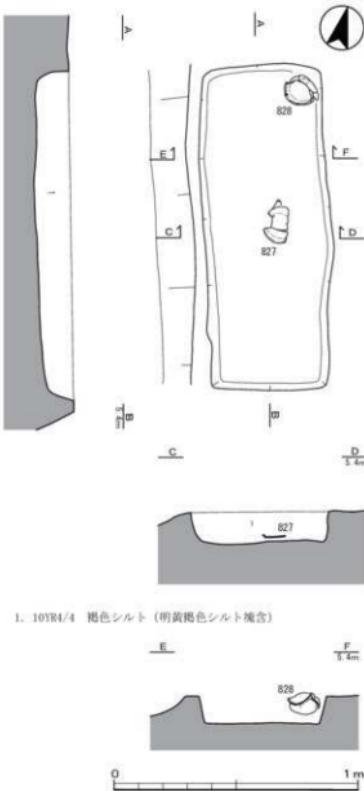
S D 58023 (第 86 図、写真図版 65) 8 区南で検出した条里南北方向の溝である。幅 1.6 m、深さ 70 cm で、中央が一段深く、一定埋没した後に拡張されたとみられる。

中世の山茶碗等が出土している。

S R 58026 (第 86 図) 8 区南で検出した自然流路で

ある。幅約 13 m、深さ 1 m 以上で、完掘は断念した。東西方向の流路にみえるが、調査区東壁付近は浅くなり、この付近で大きく蛇行している可能性が高い。埋土はシルト～砂質シルトで、砂や礫は少ない。埋没後、S D 58018・58023 等の溝群が形成される。

埋土から平安時代中期の土師器が出土した。



1. 10Y84/4 褐色シルト (明黄褐色シルト塊含)

第 87 図 S X 58013 (1:20)

11. 9区（第88～93図）

（1）概要

遺跡北部、立田集落の南側にある南北方向の調査区で、北側は6次3-4区、西側は7次9区、南側は1次4区と接する。

遺構は現代耕土・床土直下（地表下30cm）のにぶい黄橙色砂質シルト層上で検出した。調査区南側は有機物の多い褐色シルト層が遺構面で、南東-北西方向に走る溝が多数みられる。また、SD 59010以北は平安時代の掘立柱建物や土坑が多数認められる。建物には大型建物SB 59044が含まれ、ピットからの遺物量も多く、6区・7区と並んで建物が密集するエリアである。ただし、SB 59044ピットの遺存状況から、一帯は50～60cm程度削平されているとみられ、小規模な建物や一部の柱列は把握しがたい。

調査区中央は弥生時代終末期～古墳時代の自然流路SR 59020・59055が南東-北西方向に走る。SR 59055は、幅約22mの大規模な流路である。同方向の溝は、奈良・平安時代にも多数存在しており、水路が長期にわたり階襲され続いたことがわかる。

下層確認は調査区東壁沿いの南北2ヶ所で実施した。北側は遺構面から約3m下で自然木を多く含む暗色の泥層となった（東壁北部20・21層）。湿地の堆積であろう。南側（写真図版70）は遺構面から2.6m下で礫層（東壁南部37層）に達し、やや上位に黒色シルトの暗色帶（同35層）がみられた。

各層とも縄文時代の遺物は希薄であった。

（2）遺構

SD 59001 ク-O5グリッドで検出した、長さ3mほどの溝である。幅60cm、深さは検出面から10cmに満たない浅いものである。方向は条里に沿う。

平安時代末の遺物が出土した。

SD 59002 調査区北東端をやや蛇行しながら北流する溝である。幅30～40cm、深さは25cm程度で、断面形はV字にちかい。

平安時代後期の土師器が出土している。

SD 59003 調査区北部で検出した延長約6m、幅1m前後、深さ10cm未満の溝である。北東の延長上にあるSD 59004と一連の溝である可能性が高い。鉄滓（909）が出土している。

SD 59004 SD 59003の延長にあたる溝である。幅約50cm、深さ約10cmを測る。SD 59003・59004とも平安時代後期の土師器が出土した。

SD 59005・59008 9区北東端で検出した溝である。当初、2条の溝として把握したが、掘削の過程で同一のものであることが分かった。調査区端のため、全幅は不明であるが、断面形からの推測で幅3mに達するとみられる。深さも1mに及ぶ大規模な溝である。6次調査で延長を確認している。

平安時代末～鎌倉時代の遺物が出土した。

SD 59006 9区北で検出した東西方向の小溝で、調査区東端付近で鈎状に屈曲する。幅20cm、10～20cmを測る。SD 59007より後出の遺構である。

平安時代後期～末の遺物が出土した。

SD 59007（第93図） 9区北で検出した東西方向の溝である。幅30cm、深さ20cmを測り、断面形はV字形である。SB 59051、SD 59006に先行する遺構で、南にあるSB 59041と方位が揃い、区画溝の可能性があるが、主体となる遺物の時期は若干異なる。

完形の土師器など、平安時代後期の土師器が出土した。

SD 59009 ク-S5グリッドで検出した不定形な溝である。大半が調査区外にあり、土坑の可能性もある。幅約50cm、深さは10cm未満の浅いもので、方向は条里に沿う。

SD 59010 9区中央部を東西に横切る溝で、SR 59055の上面にある。幅1.5m前後、深さ約40cmを測る。埋土は粗砂や小砾を含むシルトが主体で、急激に埋没したようである。古墳時代の土器が出土している。

SD 59011（写真図版68） 9区中央を東西に横断する溝で、SR 59055の上面にある。幅1.5m、検出面からの深さは50cmを測る。埋土は3層に分かれ、いずれもシルトである。

飛鳥～奈良時代の遺物が出土した。

SD 59012（写真図版68） 9区中央を東西に横切る溝で、SR 59055の上面にある。幅は3m、深さ40cmで、幅に比して非常に浅いものである。

平安時代後期の土師器などが出土した。

SK 59013 9区中央東端で検出した不整形土坑である。深さは5cm未満の浅いものであるが、奈良時代の土師器などが比較的多く出土した。

S D 59014 調査区中央部を東西に横断する溝であるが、北岸は後世の溝に浸食されている。深さは約25cmで溝底は平坦である（第89図）。埋土はシルトの単層である。

S K 59015 調査区南で検出した長さ2.2m、幅80cmの梢円形土坑である。深さは約20cmの浅いものである。長軸方向は条里に沿う。平安時代中期の土器が出土した。

S D 59016 調査区南、ク-Yラインで検出した東西方向の大溝である。南岸はSD 59017に切られるが、幅3~4m、深さは90cmに達する。

埋土は上下2層に分かれ、砂または砂質土で埋没する。古墳時代、古代の土器が出土した。

S D 59017 9区南、D-Aラインで検出した東西南向の溝である。SD 59016より後出の遺構で、幅2.6m、深さは80cmで、断面形はV字状にちかい。埋土には砂や小礫を含む。

古代の土師器などが出土した。

S D 59018 調査区南端で検出した南北方向の溝である。SD 59023に切られる。幅60~30cm、深さは10cmに満たない。平安時代の灰釉陶器が出土した。

S D 59019 9区南、D-Aラインで検出した東西南向の溝である。幅70cm、深さは24cmで、緩やかにカーブする。埋土は上下2層に分かれ、いずれもシルトである。古代の土師器片が出土している。

S R 59020 9区中央、ク-Xラインで検出した流路または溝である。幅1.5~2.5m、深さ約70cmを測る。埋土はシルトで、最下層は還元色を呈する。上面に奈良時代のS B 59049・59050があり、それ以前の遺構と推測される。

S F 59021 (第93図、写真図版70) 9区南で検出した隅丸長方形の火處で、掘方は長さ90cm、幅60cm、深さが5cmである。底面中央が直径30cmの円形に被覆する。土坑西側から奈良時代の長胴壺などが出土しており、堅穴住居のカマド残れの可能性が高い。

本遺構に重複して不定形土坑S K 59013があり、付近に奈良時代の堅穴住居が存在したとみられる。

S D 59022 (写真図版68) 調査区中央、ク-Vラインで検出した溝である。当初、SD 59012と一緒にしていたが、断面観察の結果、別遺構と判断した。北側がSD 59012に切られるが、幅2.5m前後と推測さ

れる。深さは約50cmで、埋土はシルト主体である。古代の土師器などが出土している。

S D 59023 (第93図、写真図版69・70) 9区南端で検出した溝で、並行する3条(S D 59027・59035)の内で最も後出の溝である。幅1.4m、深さ40cmを測る。埋土は最下層が砂、他はシルトで、一定埋設した後に掘り返されている。

平安時代後期~末の土師器や灰釉陶器が出土した。

S K 59024・59025 9区中央、ク-W 6グリッドで検出した、隣接する2基の土坑である。直径60cm~1.5mの梢円または不整円形を呈し、深さは約10cmと浅いものである。

いずれも奈良時代の遺構と考えられる。

S K 59026・59028 9区中央、ク-X 6グリッドで検出した2基の土坑である。直径60cm~90cmの不整円形を呈し、深さは10~20cm程度の浅いものである。

S K 59024・59025と同じく、奈良時代の遺構と推測される。

S D 59027 (第93図、写真図版69・70) 9区南端で検出した南北方向の溝である。幅約2m、深さ40~50cmを測り、溝肩は緩やかに立ち上がる。近接して同方向の溝S D 59035・59023があり、遺構の形成はSD 59035、SD 59027、SD 59023の順である。

北岸を中心に杭の痕跡が無数にあり、護岸がなされていたとみられる。

埋土はシルトが主体で、遺物は奈良時代・平安時代前~中期のものが混在しており、完形品など比較的の残存度の良い良好な土師器碗や皿が出土している。「平」を記した墨書き器が、複数出土した点は特筆されよう。

S D 59029 調査区南端を東西に横切る小規模な溝である。幅40cm、検出面からの深さは10cmに満たない。条里方向に沿っており、中世の遺構である可能性が高い。SD 59018より後出の遺構である。

S K 59030・59031 調査区南で検出した、隣接する2基の土坑である。両者ともSD 59023により北半を欠失している。短径は60cm、長径は1m以上に及ぶものと推測されるが、溝の可能性もある。深さは20~40cmを測る。古代の土師器片が出土した。

S D 59032 調査区南西、D-C 5グリッドで一部を検出した溝である。深さ10cm程度の浅いものである。

奈良時代から平安時代後期の遺物が混在しており、墨書き器「口平」などが出土している。

S K 59033・59041（第93図、写真図版70） 調査区北部で検出した重複する2基の小土坑である。S K 59033は直径60cmの円形で、深さ50cmを測る。S K 59041は平面形直径70cm、深さ40cmで、遺構の切り合いでS K 59041が先行する。

両者とも埋土下層に薄い炭層が認められ、S K 59033から焼片が出土しているが、側壁や底面は赤化しておらず、火を用いたとしても弱いものであろう。

S K 59033上層では土師器杯がみられたが、他にも平安時代後期の土師器、黒色土器、灰釉陶器、緑釉陶器、土錐6個体などが出土した。この2基の土坑は、建物廃絶時の地鎮がみられるS B 59051の内部にあることから、地鎮間連遺構の可能性があろう。

S K 59034（第93図） 9区北で検出した長さ1.9m、幅90cmの不整形な土坑である。深さ10cm程度と浅い。大型建物S B 59044内に位置し、小片ではあるが緑釉陶器の皿（1022）が出土している。他に、土錐が7個体出土しており注目される。

S D 59035（第93図、写真図版69） 9区南端。S D 59027と一緒に重複する溝で、S D 59027に先行する。幅1.2m、深さ40cmを測る。埋土はシルト・砂質シルト主体で、奈良～平安時代前期の土師器が出土した。

S D 59036 調査区中央で検出した溝である。調査区外から南西へ3mほど延びた地点で途切れる。幅20cm、深さは10cm程度である。同様な規模のS D 59006と直交しており、関連する区画溝の可能性がある。

平安時代の土師器片が出土した。

S K 59037 調査区北部で検出した不定形な土坑である。深さは5cm未満で削平により痕跡をとどめる程度である。古代の長胴甕片が出土しており、S K 59013と同様に、竪穴住居の痕跡かもしれない。

S K 59039（第93図、写真図版67） 9区中央、S B 59045内で検出した長さ2.1m、幅1.5mの隅丸長方形の土坑である。深さ20cm程度で、埋土は砂質土とシルトの上下2層に分かれる。平安時代後期の土師器や灰釉陶器が出土した。なお、北側と南西側に、不定形なS K 59040・S K 59038が接する。

S B 59042（第91図） 9区北で梁行2間、桁行1間分を確認した側柱建物である。主軸はN22°E、ビッ

ト掘方は直径20～30cmの円形で、柱間寸法は2.1m（7尺）である。

平安時代後期の土師器や灰釉陶器が出土した。

S B 59043（第91図、写真図版68） 9区北で梁行2間、桁行1間分を確認した建物である。主軸はN11°Eをとる。ビット掘方は直径20～30cmの円形で、柱間寸法は2.1m（7尺）の等間である。

平安時代中期の土師器が出土しており、重複するS B 59042に先行する建物とみられる。

S B 59044（第92図、写真図版67） 9区中央で検出した大型の掘立柱建物である。身舎は3間以上×2間、主軸はN5°Eの東西棟で、北側に庇が付く。建物の規模や出土遺物から、この付近の中心的な建物と推測される。

身舎のビット（P1～P8）は掘方一辺80cm～1mの方形で、妻側柱P4は一辺45cmである。間仕切りや束柱は確認できない。ビットは深さ15～25cm程度しか残存せず、一帯は大きく削平を受けた可能性が高い。柱痕跡は直径約25cmで、抜き取り痕もみられるが、同位置で建て替えた跡はない。柱間寸法は2.1m（7尺）等間である。

北側の庇（P9～12）は、直径30cmのビットで構成される。庇の北側には平行する溝S D 59007があり、S B 59044に対応する区画溝の可能性がある。

ビット掘方・抜き取り痕から、平安時代中期の土師器や灰釉陶器、緑釉陶器が出土した。

S B 59045（第92図） 9区中央で検出した2間以上×2間の側柱建物である。主軸はN21°Eの東西棟で、9区の建物のなかでは条里方向に比較的近く、15m北にあるS B 59042と棟方向が揃う。

ビット掘方は直径25cmの隅丸方形で、柱痕跡は直径15cmの円形である。柱間寸法は2.1m（7尺）等間である。ビットから平安時代後期の土師器、土錐が出土している。建物内にはS K 56038・59039などの不定形な土坑があり、概ね同時期の遺構である。

S D 59046 調査区北東端付近を蛇行する溝である。幅25cm、深さは検出面から10cm程度の浅いもので、古代の土師器片が出土している。

S K 59047 調査区北端で検出した土坑である。調査区端のため全形は不明であるが、隅丸方形を呈すると推測される。

S A 59048 (第 92 図) S B 59044・59045 付近で 4 間分を検出した条里南北方向の柱列である。調査区外へ続き、掘立柱建物となる可能性もある。主軸は N15° E で、ピット掘方は直径 35 ~ 50 cm の円形または隅丸方形である。直径 15 cm の柱痕跡を検出しているが、上部に拳大の礫を置くものが多いことから、柱は抜き取られたと考えられる。柱間寸法は 2.4 m (8 尺) 等間である。ピットから平安時代後期の土師器等が出土した。

S B 59049・59050 (第 91 図) 9 区中央で検出した桁行 3 間、梁行 2 間の側柱建物である。主軸は N20° W の南北棟で、2 棟が重複しており、同位置での柱替えとみられる。ピットは直径 35 ~ 50 cm の円形で、柱間は 1.5 m (5 尺) の等間である。

古墳時代の溝 S D 59016 埋没後の遺構で、奈良時代の土師器が出土している。

S B 59051 (第 92 図、写真図版 70) 9 区中央で検出した梁行 2 間、桁行 1 間以上の側柱建物で、主軸は N4° E の東西棟とみられる。ピット掘方は直径 30 ~ 50 cm の円形で、柱痕跡は直径 20 cm 前後、柱間寸法は 2.4 m (8 尺) である。

主に西側柱のピット 3 基 (P1 ~ P3) から平安時代後期の土師器が出土しており、いずれも建物廃絶時の地鎮に伴う土器の埋納であろう。特に北西隅の P1 では、上層から完形の土師器杯 17 枚、ロクロ土師器皿 1 枚が折り重なるように出土した。また、最下層の柱当たり付近に正位で 1 枚を置く。土器は正位のものが多いが、逆位のものも含まれる。この他にも土師器杯片が多数出土しており、埋納された土師器杯の数はさらに多かったと推測される。

P2・P3 でも、柱抜き取り後とピット埋没後に土師器杯を埋置したとみられる。

S K 59052 (第 93 図) 調査区中央部で検出した小ピットで、直径 30 cm、深さ 20 cm を測る。

底部から土師器杯と黒色土器碗 (1102・1103) が出土した。

S K 59053 (第 93 図) 9 区北、S B 59043 の内側で検出したやや大型のピットである。一辺 80 cm の方形で、柱痕跡に相当する位置から拳大の石が出土している。周間に並ぶピットはない。平安時代後期の土師器などが出土した。

S K 59054 調査区中央で検出した、南北に 2 m ほど延びる溝状の不定形な土坑である。幅は南端で 40 cm を測るが、北端では 10 cm 未満まで狭まる。深さも検出面から 10 cm 未満の浅いものである。

S R 59055 9 区中央で確認した幅約 22 m の自然流路で、南東ー北西方向に流れる。調査区東壁での断ち割りによる土層の確認に留め、完掘はしていない。

埋土は下層が細砂と粗砂の互層、上層が細砂で (第 89 図)、埋没の最終段階には、上面に数条の構が形成されたようである。南側に接する S R 59020、SD 59016 もこうした構のひとつであろう。

遺物は出土していないが、7-1 区や 4 区でも確認した、弥生～古墳時代の自然流路とみられる。

9 区北の平安ピット・土坑埋土に砂が多く混じるのは、本流路のオーバーフローが基盤となったためであろう。

(櫻井・森川)

註

(1) 三重県松阪農林商工環境事務所・協和地研株式会社『朝見上地区県営経営体育成基盤整備事業地質調査業務委託報告書』2011 年。

(2) 三重県埋蔵文化財センター『堀町遺跡 (第 5 次) 発掘調査報告』2015 年。

同書中で遺跡周辺のボーリングデータを示している。

(3) 松阪市建設部建築課・協和地研株式会社『松阪市立朝見小学校校舎改築工事に伴う地質調査』1998 年。

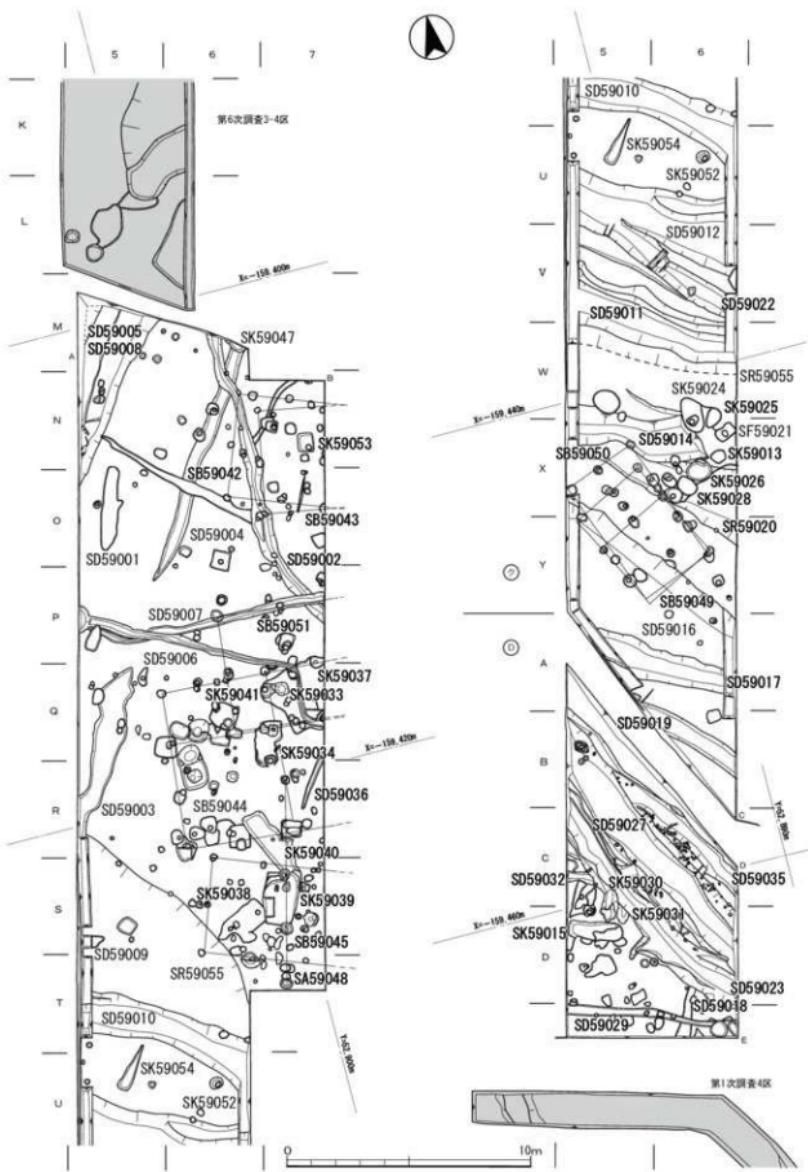
(4) 松阪市建設部建築住宅課・協和地研株式会社『松阪市立排水小学校校舎改築に伴う地質調査報告書』1999 年。

(5) 丸栄調査設計株式会社『松阪市立橿殿小学校屋内運動場新築に伴う地質調査報告書』松阪市、1981 年。

なお、註 3 ~ 5 のボーリングデータは松阪市教育委員会教育総務課および松阪市營繕課より提供を受けた。

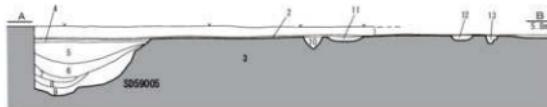
(6) 斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告 I』2001 年。

(7) 伊藤裕偉『南伊勢・志摩地域の中世土器』『三重県史』資料編考古 2、2008 年。



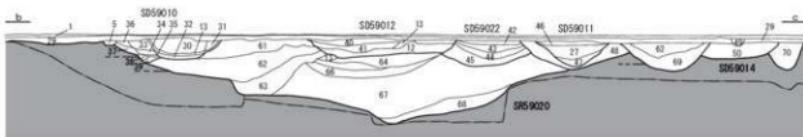
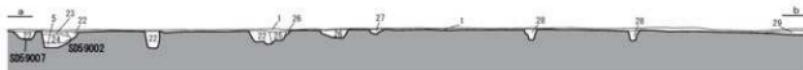
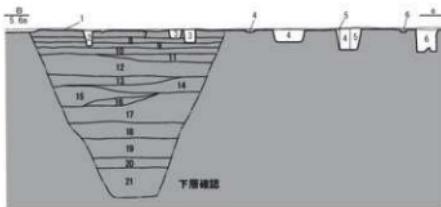
第 88 図 9 区遺構全体図 (1:200)

北壁



1. 10YR5/1 暗灰色砂質土<耕作土>
2. 7. SYR6/8 橙色粘質土<底土>
3. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質シルト<基盤層>
4. 10YR6/4 にぶい黄褐色砂質土<SD59005埋土>
5. 10YR6/3 にぶい黄褐色砂質土<SD59005埋土>
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト<SD59005埋土>
7. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト<SD59005埋土>
8. 10YR6/2 灰黃褐色粘質シルト<SD59005埋土>
9. 10YR4/6 黄褐色砂質シルト<SD59005埋土>
10. 10YR4/6 にぶい黄褐色砂質シルト<SD59002埋土>
11. 10YR5/4 明黄褐色シルト<SD59004埋土>
12. 10YR5/2 灰黃褐色シルト<SD59004埋土>
13. 10YR5/2 黄褐色砂質土

東壁北部



1. 7. SYR6/8 橙色粘質土<底土>
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
3. 10YR5/2 黄褐色砂質土
4. 10YR3/2 黑褐色砂質土<SD59043埋土>
5. 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト<SD59002埋土他>
6. 10YR3/4 喀爾色砂質土
7. 10YR7/3 にぶい黄褐色シルト<基盤層>
8. 10YR7/8 黄褐色シルト
9. 10YR7/2 にぶい黄褐色シルト
10. 7. SYR4/3 橙色シルト
11. 10YR7/4 黄褐色シルト
12. 10YR4/4 黄褐色シルト<SD59012埋土>
13. 10YR4/3 にぶい黄褐色砂質シルト<SD59010・SD9012埋土>
14. 10YR6/6 明黄褐色粘質シルト
15. 10YR6/8 明黄褐色粘質シルト
16. 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質シルト<SD59017埋土他>
17. 10YR5/8 黄褐色粘質シルト
18. 10YR4/6 黄褐色粘質シルト
19. 10YR5/1 綠灰褐色シルト
20. 5G3/1 緑青灰褐色砂質シルト
21. 5P3/1 綠帶色砂質シルト (自然木含)
22. 10YR4/1 黃褐色シルト<SD59002・59007, SD59044穴埋土他>
23. 10YR5/6 黄褐色シルト<SD59002埋土>
24. 10YR5/2 にぶい黄褐色シルト<SD59002埋土>



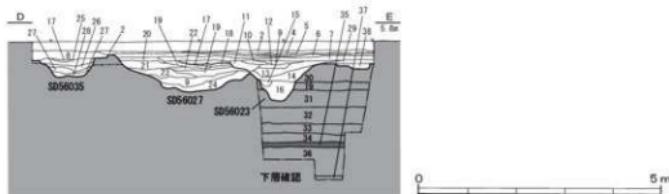
第89図 9区北壁・東壁土層断面図① (1:100)

東壁北部

25. 10YR4/2 黄褐色シルト <SD59004埋土>
26. 10YR4/3 にぶ、黄褐色シルト <SK59037, SD59036埋土>
27. 10YR5/3 にぶ、黄褐色シルト <SD59011埋土他>
28. 10YR3/3 喀斯特地質上
29. 10YR5/4 にぶ、黄褐色粗砂 (小石含) <SD59010埋土>
30. 10YR5/3 にぶ、黄褐色粗砂 (小石含) <SD59010埋土>
31. 10YR5/2 成黃褐色粗砂 (小石含) <SD59010埋土>
32. 10YR4/4 塗褐色砂質土 (粗砂組) <SD59010埋土>
33. 10YR4/2 黄褐色褐色土 (小石含) <SD59010埋土>
34. 10YR4/6 塗褐色シルト <SD59010埋土>
35. 10YR3/4 喀斯特地質上 <SD59010埋土>
36. 10YR4/4 塗褐色粗砂 (小石含) <SD59010埋土>
37. 10YR4/1 塗褐色砂質土 <SD59010埋土>
38. 10YR3/2 黑褐色砂質シルト (小石含) <SD59010埋土>
39. 10YR4/3 にぶ、黃褐色シルト (小石含) <SD59010埋土>
40. 10YR5/3 にぶ、黄褐色沙質シルト (小石含) <SD59010埋土>
41. 10YR4/6 塗褐色砂質シルト <SD59012埋土>
42. 10YR7/4 にぶ、黃褐色シルト (小石含) <SD59022埋土>
43. 10YR4/6 にぶ、黃褐色シルト (小石含) <SD59022埋土>
44. 10YR6/3 にぶ、黃褐色シルト (小石含) <SD59022埋土>
45. 10YR5/4 にぶ、黃褐色シルト (小石含) <SD59017 - 59022埋土>
46. 10YR6/5 黄褐色砂質シルト <SD59011埋土>
47. 10YR5/2 成黃褐色沙質シルト <SD59011埋土>
48. 10YR4/4 塗褐色砂質土

- 55/5/6 明赤褐色砂質土（燒土含）<SD59021埋土>
56. 7.SYR5/3 にぶく褐色シルト<SD59014埋土>
57. 7.SYR5/4 にぶく褐色砂質土<SD59020埋土>
52. 7.SYR5/2 灰褐色土質シルトと粘質シルトの互層<>SD59020埋土>
53. 7.SYR6/2 灰褐色土質シルト<SD59020埋土他>
54. 10YR6/3 にぶく黃褐色シルト（粗砂含）<SD59016埋土>
55. 10YR6/1 にぶく黃褐色土質<SD59016埋土>
56. 10YR5/2 灰黃褐色シルト（小石含）<SD59017埋土>
57. 7.SYR5/2 灰褐色土質シルト（砾砂含）<SD59017埋土>
58. 10YR6/3 にぶく黃褐色砂質シルト（粗砂含）<SD59017埋土>
59. 10YR6/2 灰黃褐色シルト<SD59019埋土>
60. 10YR7/3 にぶく黃褐色シルト<SD59019埋土>
61. 10YR7/4 にぶく黃褐色砂
62. 7.SYR4/4 棕褐色細砂
63. 10YR4/2 棕褐色細砂
64. 10YR4/2 灰黃褐色細砂
65. 10YR3/4 粘褐色細砂
66. 10YR1/1 粘褐色細砂（砂硬含）
67. 10YR5/2 灰黃褐色細砂（粘質シルト含）と粗砂の互層
68. 7.SYR5/4 にぶく褐色土質シルトと細砂の互層
69. 7.SYR4/3 棕褐色砂質シルト
70. 7.SYR6/2 灰褐色シルト
71. 7.SYR5/3 にぶく褐色粘質シルト
72. 7.SYR4/2 灰褐色シルト<木基盤>

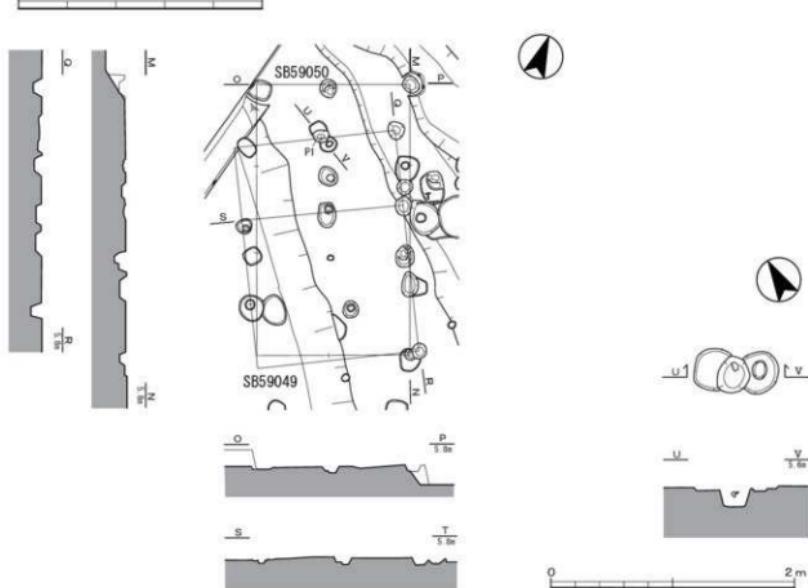
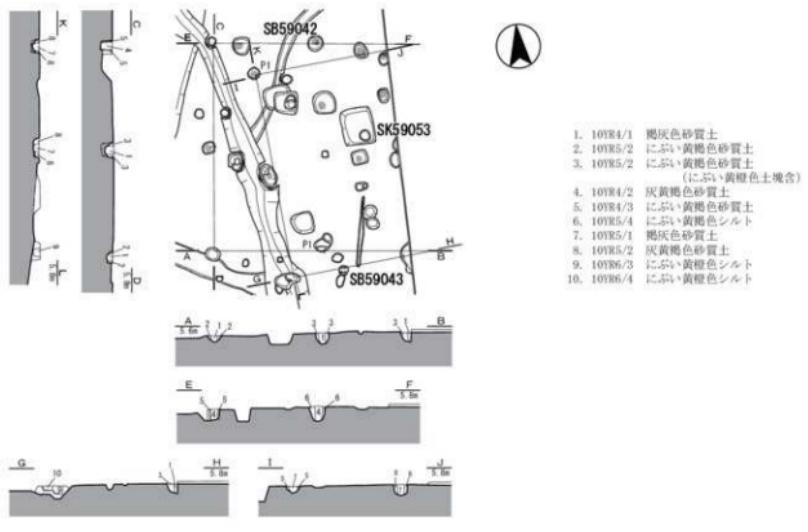
東壁南側



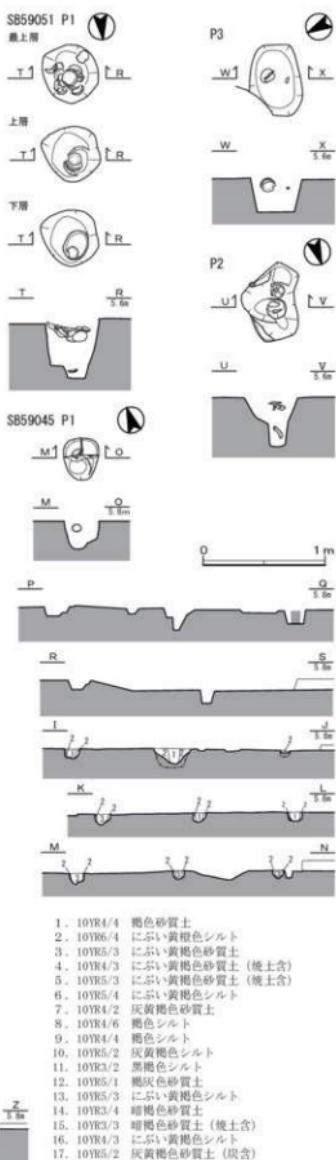
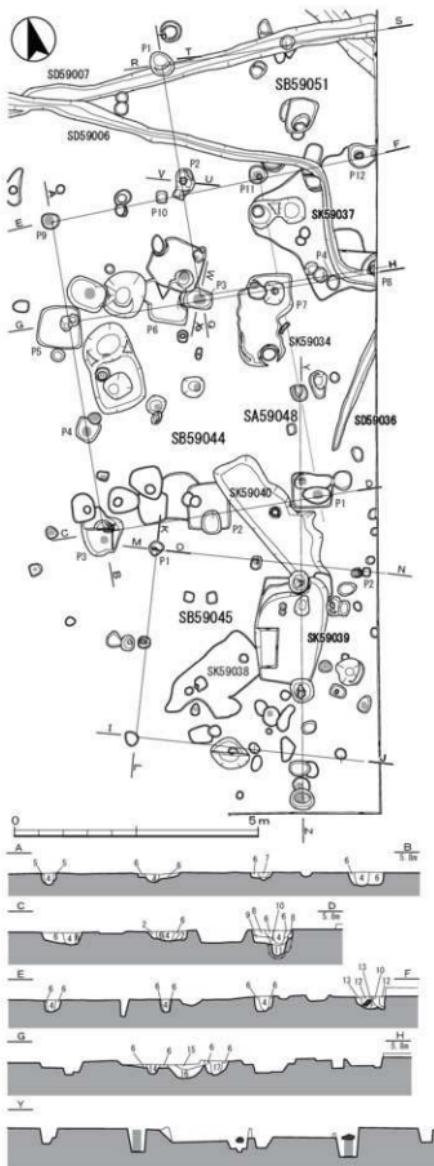
1. 10TRG/1 暗褐色砂質土<耕作土>
2. 10TRG/3 にぶい黄褐色粘質土<床土>
3. 7.5TRG/6 橙色シルト
4. 7.5TRG/2 暗褐色シルト
5. 7.5TRG/1 暗褐色シルト
6. 10TRG/4 にぶい黄褐色シルト
7. 10TRG/4 にぶい黄褐色シルト
8. 10TRG/4 にぶい黄色砂質土（小石含）
9. 10TRG/4 にぶい黄色シルト（細砂含）<SD59023・59027埋土>
10. 10TRG/3 にぶい黄色シルト（細砂含）<SD59023埋土>
11. 10TRG/4 にぶい黄色シルト（細砂含）<SD59023埋土>
12. 10TRG/3 にぶい黄色シルト（細砂含）<SD59023埋土>
13. 10TRG/2 暗黃褐色シルト<SD59023埋土>
14. 10TRG/1 暗褐色シルト<SD59023埋土>
15. 10TRG/1 暗褐色砂質シルト<SD59023埋土>
16. 10TRG/4 黄褐色砂質土<SD59023埋土>
17. 10TRG/2 暗黃褐色シルト（小石含）<SD59027・59035埋土>
18. 10TRG/4 にぶい黄色シルト（粗砂含）<SD59027埋土>
19. 10TRG/3 にぶい黄色砂質シルト<SD59027埋土他>

20. 10YR7/7 にぶ・黄色系シルト（砂利含）<SD59027埋土>
21. 10YR7/3 黄褐色粘質シルト<SD59027埋土>
22. 7.5YR5/6 明褐色粘質シルト<SD59027埋土>
23. 10YR5/2 黄褐色細砂粘土<SD59027埋土>
24. 10YR7/2 にぶ・黄色系粘質シルト（小石含）<SD59027埋土>
25. 10YR5/4 にぶ・黄色系シルト（砂利含）<SD59035埋土>
26. 10YR4/4 黄褐色シルト（砂利含）<SD59035埋土>
27. 10YR5/3 にぶ・黄色系砂質シルト（粗砂含）<SD59035埋土>
28. 10YR4/4 にぶ・黄色系シルト<SD59035埋土>
29. 10YR5/1 黄褐色粗砂
30. 7.5YR4/3 黄褐色シルト[基盤層]
31. 10YR6/4 にぶ・黄色系砂質シルト
32. 10YR5/4 にぶ・黄色系粘質シルト
33. 10YR5/4 にぶ・黄色系砂質シルト
34. 10YR6/4 明黄色粘質シルト
35. 10YR2/1 黑色粘質土（小石含）
36. 10YR5/3 にぶ・黄色系粘質シルト
37. 2.5G9E/1 オリーブ灰色縞
38. 橙灰色土

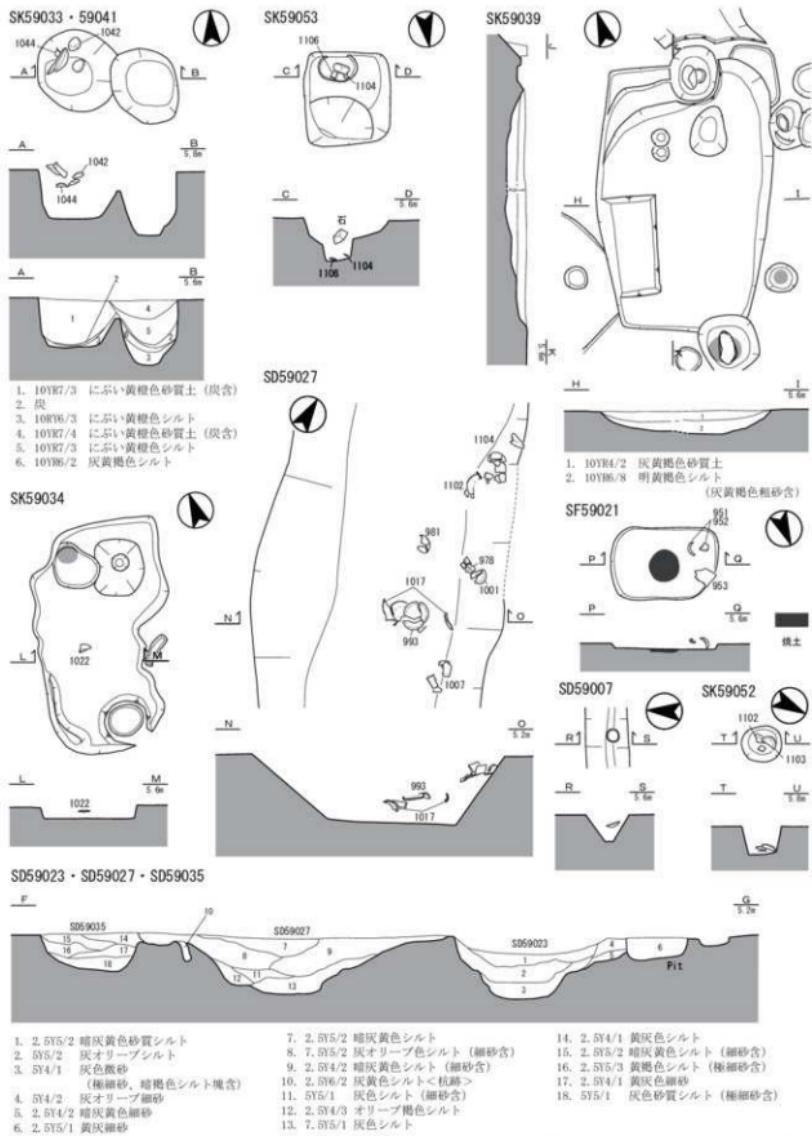
第90図 9区北壁・東壁土層断面図② (1:100)



第 91 図 SB 59042・59043・59049・59050 (1:100)、ピット遺物出土状況図 (1:40)



第92図 SB 59044・59045・59051、SA 59048 (1:100)、ピット遺物出土状況図 (1:40)



第93図 SK59033他遺物出土状況、SD59023・59027・59035断面図 (1:40)

第2表 造構一覧表

番号	調査区	グリッド	時代	主な出土遺物	備考 切り分け(音一覧)
SD 51001	1-4	チ-K16他	奈良～平安	奈良土師器・須恵器	→SD51008・51009・51012・51021・SK51018
SD 51002	1-1～1-4	チ-K16他	平安末以降	山茶碗、平瓦	現水路の前身か、 柔らか模様、横出造構で最も新しい、
SD 51003	1-4	チ-18・9 J7・8	平安	土師器片	SD51004・51007～SD51003
SD 51004	1-4	チ-13B K8・9	平安	古墳時代土師器(混入)	荀屋に状の譜 SD51003～SD51004
SD 51005	1-4	チ-87～9 J9～12 他	平安中	土師器、須恵器	SD51004・51007・51010・51011・51013・ 51020・51021・51029～SD51005～SD51002
SD 51006	1-4	チ-J87			大型土壙の可能性あり。SD51007～SD51006～SD51005
SD 51007	1-4	チ-JK7・8	弥生～古墳	土師器	SD51007～SD51003・51005
SD 51008	1-4	チ-G～K14	中世？	土師器、須恵器(混入)	幅60cm、深さ30cm、SD51001上面で検出、中世耕作溝か
SD 51009	1-4	チ-J14	中世？		幅20cm、SD51001上面で検出、中世耕作溝か
SD 51010	1-4	チ-JK10	奈良	土師器	SD51010～SD51019・51005
SD 51011	1-4	チ-JK10・11	奈良	土師器	SD51011～SD51005
SD 51012	1-4	チ-I～K13	平安	土師器・須恵器	→SD51005・51013 SD51001～
SD 51013	1-4	チ-J12・13	平安	土師器	SD51021から派生する譜 SD51012～
SD 51014	1-4	チ-JK15	中世？		中世耕作溝か
SD 51015	1-4	チ-JK16	中世？		中世耕作溝か
SD 51016	1-4	チ-IJ15・16 HK16	鎌倉	山茶碗	
SK 51017	1-4	チ-IR5 J15・16	弥生後～終末期	土師器高柄、台付甕	方形圓底 →SD51024・51002
SK 51018	1-4	チ-I14	中世？		炭を多く含む →SD51001
SD 51019	1-4	チ-IJ10 K10・11			→SD51005・51011 SD51010～
SD 51020	1-4	チ-I11・12 G13、J11・他	弥生～古墳	弥生後上期、土師器台付甕	SD51011底面で確認した譜 →SD51029・51005・51001、SD51021～
SD 51021	1-4	チ-I12・13 J11・12	平安	土師器小片	丸い、SD51011から派生 SD51013～
SD 51022	1-4	チ-G14・15	中世？	須恵器	中世耕作溝か SD51008・51001～
SK 51023	1-4	チ-GR5		土師器	→SD51002
SD 51024	1-4	チ-GR5	弥生？		→SD51002・51017
SK 51025	1-4	チ-H13		土師器片、砾石	炭混り SD51021～
SD 51026	1-4	チ-F13	中世？		中世耕作溝か SE51028～SD51026～SD51002
SD 51027	1-4	チ-F12・13 G12・13	中世？		中世耕作溝か →SD51002・51026
SK 51028	1-4	チ-F12・13	平安前	土師器、灰釉陶器、井戸枠材	丸い、模様組合せ、水韻は割り抜き 一度改修された可能性が低い
SK 51029	1-4	チ-G～H13	弥生 終末期	土師器広口甕	方形圓底 →SD51002・51005・51020
SK 51030	1-1	ス-E11		土師器片	→SD51002
SD 51031	1-1	ス-I10・11 110		土師器小片	→SD51002
SD 51032	1-1	ス-I11			→SD51002
SD 51033	1-1	ス-I10・11 J10			
SD 51034	1-1	ス-IJ10	鎌倉		
SD 51035	1-1	ス-JL10			
SE 51036	1-1	ス-LM10・11	古代？	弥生土器(混入)	井戸枠抜き取り SD51037～SE51036
SD 51037	1-1	ス-KL11			SK51042～ →SK51036
SE 51038	1-1	ス-W10・11			

番号	調査区	グリッド	時代	主な出土遺物	備考 切り分け(音一覧)
SD 51038	I-I	S-R10・11			→SD51002
SD 51029	I-I	S-R10・11			→SD51002
SD 51040	I-I	S-RS 10~11	古代	須恵器	→SD51002
SK 51041	I-I	S-KLII		土師器杯(混入か)	→SD51002 SK51042に統合、北側周溝か
SK 51042	I-I	S-L10・11 他	弥生後期 後半	弥生土器(完形多い)	方形周溝窓の西側周溝、7. SYRS/1窓灰色シルト單層、→ SD51037・SK51036
SD 51043	I-3	チ-B12 B12・13	縄 世紀II	山茶碗、青磁碗、嘉祥通宝	SD51001の延長? SD51044→、→SD51002
SD 51044	I-3	S-Y13・14 チ-A13・14	弥生～ 古墳	土師器小型器台、甕	SD51043・51002下で確認
SD 51045	I		平安	土師器、瓦	SD51001より派生する様
SZ 51046	I-4	チ-H・G13	縄文中期末～ 後期初期	縄文土器、石器	下層遺構、土器・縄の集中
SD 52001	2	ネ-N12～15 M13～16	中～ 近世		不定形な遺構、SD52003・SD52004・52008～52009→
SD 52002	2	ネ-LM14	中～ 近世	土師器、瓦(混入)	不定形な遺構、→SD52001
SK 52003	2	ネ-M14・15 他	中世IV 以前	16c 以降の土師器鍋 大皿系碗	東面の周溝、砂で埋没。→SD52001 SD52006・52013・SD52019・52020・52022→
SD 52004	2	ネ-LM13 他	古墳 ～飛鳥	土師器、須恵器	幅4m。中層から須恵器。→SD52001・52008・52009・ SA52011・SD52012・52013・52015
SD 52005	2	ネ-HU12 他	古墳	土師器	
SD 52006	2	ネ-C12・13 E12・13 他	古墳	朱付着土器(混入か)、S字甕	南北方向の溝 SD52016→52006
- 52007	2	-	-	-	欠番
SD 52008	2	ネ-MN13	中～近世		幅60cm、深さ20cm未溝 SD52001・52004・52009→
SD 52009	2	ネ-MN13 L12・13	平安前	土師器杯	SD52004→SD52009→SD52010
SD 52010	2	ネ-L12・13	中世か		SD52009→
SA 52011	2	ネ-M12・13	近世か		3分間の柱列 SD52004→
SD 52012	2	ネ-L12・13	中世か	土師器	SD52004・52009・52015→
SD 52013	2	ネ-K12・13	平安前 ～中	土師器、灰釉陶器	→SD52003 SD52004→
SD 52014	2	ネ-L13・14 他	中～近世		不定形な溝 SD52015→
SD 52015	2	ネ-L13 K13他		土師器小片	SD52004→ →SD52009・52012・52014
SD 52016	2	ネ-F12・13 G12・13他	古墳	土師器	→SD52006
SD 52017	2	ネ-E13他	古墳	土師器	→SD52006
SD 52018	2	ネ-D13他	古墳	土師器壺、台付甕	→SD52006
SK 52019	2	ナ-T13・14 V13・14 他	弥生 終末期	土師器台付甕、内窓口縁蓋	方形周溝窓、南側に跡構部か SD52019 → SD52020・52006
SD 52020	2	ナ-RS13・14, TU14	古墳	土師器高杯	SD52019 → SD52020
SD 52021	2	ネ-A813			幅30～40cm、深さ10cmの素掘窓
SD 52022	2	ナ-M12～15 T14～15 他	古代	土師器、須恵器	→SR52003 SD52023・52025→
SD 52023	2	ナ-N13～14 O13～14			→SD52022・SA52024
SA 52024	2	ナ-N11～13 O13～15	中世末 ～近世		26間の柱列 SD52022・52023・52025→
SD 52025	2	ナ-N12・13 O13	古代?		→SD52022・SA52024
SD 52026	2	ナ-M60 13・14	古代	土師器	SD52022の西側
SD 52027	2	ナ-M60 14～15			SD52022の東側
SD 52028	2	ナ-M12～15 N12～15		土師器	

番号	調査区	グリッド	時代	主な出土遺物	備考 切り分け(首一覧)
SD 53001	3	ワ-T15・16 ヲ-A19他	平安後 ～末	土師器、灰釉陶器	SD53007→ →SD53008
SD 53002	3	ワ-T13～15 他	弥生終末期 ～中世	青銅鏡3、弥生～古墳時代土器 古代～中世土器・陶器	
SD 53003	3	ワ-T21～22 他	鎌倉	山茶碗、瓦等	
SE 53004	3	ワ-X17	平安後 ～末	灰釉陶器、山茶碗、瓦	円形 水溜は曲物か
SD 53005	3	ワ-T16他	平安末	土師器	素面唐
SD 53006	3	ワ-V19他	平安末	土師器	素面唐 SD53007→ →SD53008
SD 53007	3	ワ-T18他	平安後 ～末	土師器	二段に分岐するSD →SD53001・53006
SD 53008	3	ワ-014～16	平安末	山茶碗	東西窓 SD53001・53006・53009→
SD 53009	3	ワ-015	鎌倉	灰釉陶器	SD53003の延長か →SD53009
SD 53010	3	ワ-E15・16	平安末	土師器	SD53011→
SD 53011	3	北端～ ワ-G15	平安後 ～末	山茶碗、土師器、白磁碗 馬鹿、管玉	→SD53010・SK53012・SD53014
SK 53012	3	ワ-CD9	平安末 中世Ib	瓦、山茶碗、土師器	SD53011→
SD 53013	3	ワ-G15・16 J15	平安後 ～末	瓦、山茶碗	
SD 53014	3	ワ-Y15・16	室町以降	土師器、山茶碗	SD53011・53015→
SD 53015	3	ワ-Y15 ワ-C15	平安末 中世I	土師器瓦	SD53011内木路 →SD53014
SD 53016	3	ワ-I15・16 ワ-A15・16			SD53011内木路
SD 54001	4-1	カ-N2・3 03・4、P4	平安末 ～鎌倉	山茶碗	→SD54002
SD 54002	4-1	カ-N2・3		土師器	SD54001→
SD 54003	4-1	オ-N021 カ-OF2 他	奈良	土師器	SD54007→
SK 54004	4-1	オ-N22	平安後	土師器	
SK 54005	4-1	オ-022 P22・23	奈良	土師器、須恵器	
SK 54006	4-1	オ-N20・21	室町 中世IV	土師器鐵	
SD 54007	4-1	オ-N0P23	古代	土師器片	→SD54003
SK 54008	4-1	オ-N19・20 P19・20			一边70cmの楕丸方形、深さ25cm、埋土に雜を多く含む
SD 54009	4-1	オ-017	平安後	土師器	
SK 54010	4-1	オ-N18・19 P18・19			幅50cm、深さ20cm、埋土は雜
SD 54011	4-1 4-3	オ-M14・15 015・16 他	飛鳥	土師器（弥生～飛鳥）	→SD54014
SD 54012	4-1	オ-N11・12 0P11	古代	土師器	
SD 54013	4-1	オ-N14 013・14	中世		→SD54041
SD 54014	4-3	オ-LM515 N0P16他	古墳～ 飛鳥	土師器	SD54011→
SD 54015	4-1	オ-M17 N16～17	室町		SD54017・54016→
SD 54016	4-1	オ-N16			→SD54015
SD 54017	4-1	オ-N16	中世		→SD54015
SD 54018	4-1	オ-JK17			
SK 54019	4-1	オ-K17・18 L17	平安後		直径2m、深さ10cm前後の不定形な落ち込み
SK 54020	4-1	オ-J17	平安末 ～鎌倉	山茶碗、需滑	
SD 54021	4-1	オ-H16 J17	室町		→SK54022

番号	調査区	グリッド	時代	主な出土遺物	備考 切り分け(音一覧)
SK 54022	4-1	オ-116	平安末～鎌倉	山茶碗	SD54021→
SK 54023	4-1	オ-117	室町		
SD 54024	4-2	オ-114 G14・15, H15	鎌倉	山茶碗	
SD 54025	4-2	オ-112	平安後～末	土師器	
SD 54026	4-3	オ-DE11	中世？		幅30cm、深さ10cm未満
SD 54027	4-2	オ-E13			
SD 54028	4-3	オ-E6	室町		→SK54029
SK 54029	4-3	オ-E6			SD54028→
SK 54030	4-3	オ-E7	室町		直径90cm～1.5mの楕円形、深さ5cm未満
SE 54031	4-1	オ-N05	平安中	土師器、灰釉陶器 志摩式製壺土器、曲物	板板・横板組
SK 54032	4-1	オ-O5	平安前	土師器	直径121.5cm
SK 54033	4-1	オ-N6・7		土師器	SD54035→
SK 54034	4-1	オ-N6	平安後～末	土師器	一边1m、深さ30～40cm
SK 54035	4-1	オ-NEP 5～7	弥生～古墳	土師器	→SE54033 幅10cm以上、延長部126cm(SR63008)
SE 54036	4-4	タ-A18 B18～19	平安後～末	土師器、灰釉陶器、山茶碗 井戸枠材	板板・横板組
SD 54037	4-4	タ-B16～18	平安中～後		
SD 54038	4-4	タ-C15			深さ2～3cmの不定形な落ち込み
SE 54039	4-1	オ-024・25 F24・25	古代	土師器	2間×2間の純柱建物 N39° W
SE 54040	4-4	タ-A18 B18～19	平安後～末	楕円形	→SE54036
SE 54041	4-1	オ-0F15 N0F14, S13	平安後～末	土師器	3×2間、N24° W、南北棟 SD54013→
SE 54042	4-1	オ-N12・13 O12・13	平安後～末	土師器	3間×1間、N10° W、南北棟
SE 54043	4-1	オ-08・9 P8	平安後	土師器	3間×1間、N2° E、東西棟
SE 55001	5	ケ-Y12	飛鳥～奈良	土師器、土鍬	円形
SD 55002	5	E-E12・13			
SD 55003	5	ケ-N12・13 N12			
SD 55004	5	ケ-B12～13	室町 中世IV	山茶碗、常滑片口鉢、土師器	条形埋漬
SD 55005	5	ケ-H3, 12～13	平安前 ～中	土師器杯、灰釉陶器	4間×2間、N20° E、南北棟、大型ビット →SD55007
SD 55006	5	ケ-G13	中世？		幅20cm、深さは10cm未満の浅い素掘溝
SD 55007	5	ケ-I12 J11・12, K11	中世？		SD55006の延長部分か SB55005→
SK 56001	6	テ-M22・23	平安末	土師器、灰釉陶器	SK56002・56024→
SK 56002	6	テ-M22・23	中世前期		→SK56001・56020 SK56024→
SE 56003	6	テ-LM20・21	平安末 中世Ib	土師器、山茶碗	板・横板組井戸、水溜めは曲物 SK56015→
SE 56004	6	テ-KL20・21	鎌倉 中世IIa	土師器、山茶碗、青磁	石割井戸、水溜めは曲物 SK56019→
SD 56005	6	テ-KL23	中世？		SE56006→
SE 56006	6	テ-KLM 23・24	平安中	墨書き器「七西井」、土師器、綠釉陶器、志摩式製壺土器	板・横板組井戸 →SD56005・SK56022・56007
SK 56007	6	テ-KL24	平安中	土師器、砥石	縦1多い、SE56006→ →SD56008・56009
SD 56008	6	テ-KL24	中世 後期？		SK56007→

番号	調査区	グリッド	時代	主な出土遺物	備考 切り分け(音一覧)
SD 56009	6	テ-KL24・M25	中世 後期?		幅20~60cm、5cm未溝 SK56001・SB5017→
SK 56010	6	テ-M22・23	平安末 中世 I	土師器、山茶碗	SK56001・56002・56014・56020~56022・56024の集合体
SK 56011	6	テ-LM25	奈良~ 平安前	土師器皿・甕	浅い溝状の落ち込み。短径50cm、長さ3m、深さ約10cm
SK 56012	6	テ-KL22	平安末 中世 I	土師器	浅い土坑、SD56026・SB56035→
SK 56013	6	テ-M25 ト-M21	中世 後期	土師器、山茶碗	耕土下から漏れる。SD56016→
SK 56014	6	テ-M23・24		土師器	
SK 56015	6	テ-LM19・20	平安	土師器	方形。→SE56003・SB56035
SD 56016	6	ト-L2・3 M1~3			浅い落ち込み、下面にPit。→SB56034
SD 56017	6	テ-K24・25		須恵器	浅いシミ状。→SD56009
SK 56018	6	テ-KL19・20	平安	土師器、灰釉陶器	浅い土坑、SB56035→
SK 56019	6	テ-K20・21 L20	中世	土師器、志摩式製埴土器	→SE56004 SB56035→
SK 56020	6	テ-M22・23	中世	山茶碗	方形。SK56002・56024・SD56036→
SK 56021	6	テ-LM23	中世	山茶碗、土師器	方形。SK56022→
SK 56022	6	テ-LM23	中世	山茶碗	方形。→SK56021 SE56006→
SD 56023	6	テ-L21 M21・22	平安	灰釉陶器、須恵器、土鍤	浅い(Y09RS/1褐色灰色砂質シルト单層)、SB56035→ →SE56003
SK 56024	6	テ-M22・23	中世	土師器、山茶碗	→SK56001・56002・56020 SD56026→
SD 56025	6	テ-M21		瓦	→SB56064
SK 56026	6	テ-KL21・22 M22~24 他	弥生 終末期	土師器壺	方形環状溝 →SK56012・56020・56024・SB56035
SK 56027	6	テ-M15~17 L16~19 他	弥生 終末期	土師器付竹筒、赤彩壺、高杯 上層に7世紀土器	方形環状溝、延長部分を7次調査で確認。 →SK56023・SB56064
SK 56028	6	テ-M19	飛鳥~ 奈良	土師器、須恵器	SD56027→
SK 56029	6	テ-KL15・16	飛鳥~ 奈良	須恵器、土師器、碗形坪 砾石	上層に土器集中 SD56033→
- 56030	6	-	-	-	欠番 SD56033に統合
SK 56031	6	テ-L13	近世	土師器熔造、常滑火鉢	SD56033→
SK 56032	6	テ-L13	飛鳥~ 奈良	土師器	SD56033→
SD 56033	6	テ-K1~17 L13~16	古墳~飛鳥	土師器杯(混入か)	→SE56029・SK56031・SK56032
SB 56034	6	ト-L2・3 M1・2	平安中	土師器、灰釉陶器	4間分の柱跡。N13° W、東西棟か。 SD56016→
SB 56035	6	テ-L22	平安中~ 後期	土師器、志摩式製埴土器	やや柱穴大、複数棟重複か。SK56015・SK56063・ SB56035~SK56012・56018・56019・SB56023
SF 56036	6	テ-L24	奈良	土師器皿・甕	施土坑(カマド残穴)
SK 56037	6	テ-M17	绳文 中期末	绳文土器深鉢	埋土器(逆位)、検出面や下で、脇部が外側に倒れて いる
SZ 56038	6	テ-LM15	绳文 後期初頭~ 盛唐	绳文土器	下層 浅い落ち込み
SZ 56039	6	テ-K19・20	绳文		下層 浅い落ち込み
SK 56040	6	テ-M15	後期初頭~ 盛唐	绳文土器	下層
SK 56041	6	テ-K20	绳文	绳文土器	下層 地盤じる
SZ 56042	6	テ-L19	绳文	绳文土器	下層 浅い落ち込み
SZ 56043	6	テ-L20	绳文		下層 浅い落ち込み
SZ 56044	6	テ-MN16	绳文		下層 浅い落ち込み
SZ 56045	6	テ-K22	绳文		下層 浅い落ち込み

番号	調査区	グリッド	時代	主な出土遺物	備考 切り分け(第一巻)
SZ 56046	6	テ-L13・24	縄文後期 初期～泊遺	縄文土器	下層 浅い落ち込み
SZ 56047	6	テ-L15	縄文 中期末	縄文土器	下層 包含層内の遺物集中を層内土坑と誤認
SF 56048	6	テ-M22	縄文		下層 炒跡の被熱面のみ
SF 56049	6	テ-L23	縄文		下層 炒跡の被熱面のみ
SF 56050	6	テ-L21	縄文		下層 炒跡の被熱面のみ
SF 56051	6	テ-L20	縄文		下層 炒跡の被熱面のみ
SF 56052	6	テ-L17	縄文		下層 炒跡の被熱面のみ
SF 56053	6	テ-L17	縄文		下層 炒跡の被熱面のみ
SF 56054	6	テ-L16	縄文		下層 炒跡の被熱面のみ
SF 56055	6	テ-L25	縄文		下層 炒跡の被熱面のみ
SF 56056	6	テ-LM22	縄文		下層 炒跡の被熱面のみ
SX 56057	6	テ-M18	縄文	縄文土器	下層 深鉢底部が正位置で出土。埋設土器か
SX 56058	6	テ-L16	縄文		下層 石器が幾つか。被熱は不明瞭
SX 56059	6	テ-L16	縄文		下層 土器多い
SX 56060	6	テ-L23	縄文 中期中堅	縄文土器(灰焼式)	下層、SE56006西肩で確認していた浅い土坑。炭化物の年代測定実施
SX 56061	6	テ-KL25 ト-KL1	後期初頭～ 前葉	縄文土器	埋積溝谷の跡跡。後土含む。直下にSF56062
SF 56062	6	テ-KL25	縄文		石器群
SF 56063	6	テ-L21 M21・22	平安	灰釉陶器	-SB56035 SD56023→、2×2間以上、N20° W
SF 56064	6	テ-M19～21	平安中	土師器	SD56027・56025→ 横行2間以上、N10° E、南北揃か
SF 56065	6	テ-L15 M14・15	平安	土師器、灰釉陶器	2間×1間、N3° E
SF 56066	6	ト-L3	平安後		1間以上
SD 57001	7-1	テ-JK4・5 LM5	室町 中世IVa	土師器、青磁片、山茶碗 桜形浮	箱型立状、条里方向
SD 57002	7-1	テ-L11・12 M11, N11・12	鎌倉 中世II	山茶碗、常滑製品、砾石	SD57015→
SD 57003	7-1	テ-LM3		山茶碗	複数か
SD 57004	7-1	テ-L2・3 M2・3			浅い溝で痕跡程度を検出。SD57003→ →SD57009
SD 57005	7-1	テ-JI K1・2, L2	室町 中世Ⅴ	16c 土師器	
SE 57006	7-1	テ-J9・10 9.	鎌倉 中世II	山茶碗、白磁 醍醐美濃器、山茶碗	円形
SD 57007	7-1	テ-J2・3 KLM3	室町 中世IV	土師器、山茶碗、土鍬	-SD57003 SD57009→
SD 57008	7-1	テ-L23・25, テ-L1他	室町 中世IV	土師器	
SD 57009	7-1	テ-J2・3 KL M3	室町 中世IV	土師器	底面磨具直輪裏 SD57004・57911・SE57026→SD57009→SD57003・57007
SD 57010	7-1	テ-M6・7	中世	土鍬	
SD 57011	7-1	テ-L3	中世?		幅60cm、深さ5cmの不規形な構 →SD57009
SK 57012	7-1	テ-LM21	中世 後期		井戸状の土坑
SK 57013	7-1	テ-LM9			長径1.8m、短径1.3m、深さ10～20cmの楕円形 10YRS/2灰黄褐色シルト單層
SK 57014	7-1	テ-K8		縄文土器、製塩土器片	長径1.2m、短径60cm、深さ10cmの楕円形
SD 57015	7-1	テ-M9～11 N9～11		土師器	-SD57002
SD 57016	7-1	テ-M5			-SD57001・SK57019

番号	調査部	グリッド	時代	主な出土遺物	備考 切りかは(古→新)
SD 57017	7-1	フ-H17 J19地	平安中	土師器、灰釉陶器、綠釉陶器 墨書き「保平カ」	SB57041～57043の区画横か
SD 57018	7-1	フ-H-L17 L18			SD57029・57021→
SK 57019	7-1	テ-M5			→SD57001 SD57016→
SD 57020	7-1	フ-JKL17 L18			→SD57018
SD 57021	7-1	フ-JKL18			→SD57017・57023・57018
SK 57022	7-1	フ-J16	平安末 中世 1b	土師器皿	木棺墓。供獻土器あり
SD 57023	7-1	フ-JK18 KL19		土師器壺	→SD57017 SD57021→
SK 57024	7-1	フ-I12	平安末	鉄洋、灰釉陶器	→SD57075 2.5Y6/2灰黃色シルト單層
SD 57025	7-1	フ-H-L11	室町	山茶碗、瓦	SK57039・SB57047→
SK 57026	7-1	テ-K3	室町	土師器	5Y5/2灰オーリーブ砂質シルト單層 →SD57009
SK 57027	7-1	フ-19～10 J9～10			搅乱
SD 57028	7-1	フ-IJKL9			→SK57027
SD 57029	7-1	フ-IJK4～5	室町	土師器、青磁、山茶碗	→SD57035
SD 57030	7-1	フ-IJ5 K5・6			
SK 57031	7-1	フ-J1	平安後	土師器、黒色土器 灰釉陶器	10YR4/2灰黃色砂質土單層
SD 57032	7-1	フ-I1・2 H-125	舞舎 中世 IIa	土師器、瓦器、山茶碗 土瓶	
SD 57033	7-1	フ-I2・3 J2・3、K3			
SD 57034	7-1	フ-I3	中世	山茶碗	深さ10cm未満の不定形な甕 →SD57035
SD 57035	7-1	フ-I3・4 J4、K4・5			搅乱 (旧水道管の掘方)
SK 57036	7-1	フ-I4		土師器	→SD57035 10YR7/2にぶい黄褐色砂質土單層
SD 57037	7-1	フ-IJ3・4			→SD57035
SD 57038	7-1	H-H21 IJ21～22			
SK 57039	7-1	フ-I11			→SD57025 SD57049・SB57045→
SD 57040	7-1	フ-I11・12			幅40cm、延長1m、深さ5cm未満 →SK57039
SB 57041	7-1	フ-K14～16 J13～16	平安中	墨書き「保平カ」、灰釉陶器 志摩式製塗土器、土瓶、鉄刀子	身合2×3間、N8° E、東西棟、→SB57042・57043 二面庇+南面に縁ないし庇庇、大型ビット
SB 57042	7-1	フ-JK12～14	平安中	土師器、绿釉陶器 灰釉陶器	2×3間、N17° E、東西棟、大型ビット SB57041→
SB 57043	7-1	フ-JL 15～17	平安中	土師器	2×3間、N17° E、南北棟、大型ビット SB57041→
SB 57044	7-1	フ-I14 JK12～14	平安後 ～末	土師器	2×3～4間?、N17° E、東西棟
SB 57045	7-1	フ-IJ12・13	平安後	土師器、灰釉陶器 黒色土器	2×3間、N3° E、東西棟 →SK57039
SA 57046	7-1	フ-IJ 13～15	平安中		2×3～4間?
SB 57047	7-1	フ-JK 10～12	平安末	山茶碗	2×3間、N15° E、東西棟
SB 57048	7-1	フ-I8～9, J7～9、K8～9	平安末	土師器	2×3間、N10° E、東西棟
SB 57049	7-1	フ-I6～7	平安後	土師器	2×3間、N12° E、東西棟
SD 57050	7-1	H-H120 J20～21			
SD 57051	7-2	H-H12 17～18	室町	山茶碗	
SD 57052	7-2	H-H1J17	室町		
SD 57053	7-2	H-H15～16 J16	平安末	瓦器、土師器、绿釉陶器 山茶碗、瓦、馬鹿	渡板状回凸面を持つ道路塗構、延長は6次SZ265004(両側側溝)、馬廐出土

番号	調査区	グリッド	時代	主な出土遺物	備考 切り分け(西→東)
SD 57054	7-2	H-H9・10 J10	平安末	山茶碗	SD57064・57070・5B57073→
SD 57055	7-2	H-H16 116・17、J17			SD57056・57057・57061→
SD 57056	7-2	H-H16			→SD57055・57069
SD 57057	7-2	H-H16			→SD57055・57061・57069
SD 57058	7-2	H-H15 J15・16	平安後	黒色土器、土師器 灰釉陶器	
SA 57059	7-1	フ-L13~15			SA57060→
SA 57060	7-1	フ-L12~14		土師器、土鍤	→SA57059
SD 57061	7-2	H-H116 H117			→SD57055・57069 SD57057→
SD 57062	7-2	H-H115 J16	平安末 ~鎌倉	山茶碗、土師器	
SD 57063	7-2	H-H110	室町		幅20cm
SD 57064	7-2	H-H9 19・10、J10	平安末	石織(混入)、楕形浮 山茶碗、灰釉陶器	→SD57054
SD 57065	7-2	H-H17	中世?		
SA 57066	7-1	フ-H12 J11~14			2~3間分の柱列 SA57046→
SA 57067	7-1	フ-B13 112~14			
SA 57068	7-1	フ-JKL15	平安中	土師器、墨書き土器「十」	
SD 57069	7-2	H-H116	平安末	山茶碗	SD57056・57057・57061→
SD 57070	7-2	H-J10	平安中	灰釉陶器壺、土師器杯	SD57064底面で確認した浅い不定形な溝 幅10cm、深さ10cm程度
SD 57071	7-2	H-110	平安中	土師器、灰釉陶器壺 黒色土器	4×2間、N° E、東西棟。大型ビット →SB57074・SD57054・57064
SD 57072	7-3	H-GH1 G-GH25	平安末	土師器	
- 57073	7	-	-	-	欠番 SB57071北西に建物を想定したが、抹消
SB 57074	7-2	H-H11他	平安後 ~末		5×3間、N° E、東西棟 SB57071→
SB 57075	7-1	フ-H11・12 112	平安末		桁行2間以上、梁行2間、N12° E、南北棟 SK57024→
SB 57076	7-1	フ-J18	平安末 中世?	土師器、黒色土器	桁行2間以上、梁行2間の純柱建物 N23° E、南北棟
SB 57077	7-1	H-123他	弥生~ 古墳		幅24m以上の自然道路、上面に平安遺構 延長は6次SB65027・65028・65032
SD 58001	8	D-M9~11			SD58002・58003・58004→
SD 58002	8	D-L10 M10・11、N11			→SD58001
SD 58003	8	D-LM9・10 N10・11		弥生土器	→SD58001・58003
SD 58004	8	D-M11	鎌倉		
SD 58005	8	D-S15 T15・16	古代		→SR58009
SD 58006	8	D-QR12, RS13他			SD58008・58010→ →SK58011
SD 58007	8	D-T16 U16・17	古代	土師器	
SD 58008	8	D-R12~14 S13~15他			→SD58006・SR58009・SD58010・SK58011
SK 58009	8	D-M9・10 N101~12他	近世	土師器	SD58003・58005・58008→
SD 58010	8	D-WX17・18	古代	土師器、須恵器	→SD58006・58008
SK 58011	8	D-Y18			複数
SK 58012	8	D-Y19			
SA 58013	8	D-W18	平安後	土師器皿・甕	土器墓の可能性あり

番号	調査部	グリッド	時代	主な出土遺物	備考 切り分けは(古→新)
SD 58014	8	G-T19 G-A19	平安後	土師器片	幅20~30cm、深さは5cm
SD 58015	8	G-C21 E21~23他	近世		近世の水田跡、SD58016・58018・58022→ →SD58019
SD 58016	8	G-D23 E23・24	平安後	土師器、黒色土器、墨書き土器 灰釉陶器、志摩式製塙土器	SD58015の下層中央部 SD58018→SD58016→SD58015
SD 58017	8	G-E22~24			SD58020→
SD 58018	8	G-A20・21 B22・23他	平安中	墨書き土器「平成」他、 灰釉陶器、志摩式製塙土器 陶片等、46石	SD58021・58024→ →SD58015・58016
SD 58019	8	G-E24・25 F24・25	室町		SD58018の動きか? SD58015→
SD 58020	8	G-E22・23	室町 中世IV	土師器鍋	SD58017の下層
SD 58021	8	G-C22・23	平安後	土師器	→SD58018
SD 58022	8	G-B20・21 C21	鎌倉	土師器、陶器	SD58023・58024→ →SD58015
SD 58023	8	G-ABC20 D-Y20	平安末	山茶碗、土師器	SR58026→ →SD58022
SD 58024	8	G-B21	平安中		幅1.1m、深さ25cm →SD58018・58022
SK 58025	8	D-Y19・20			
SK 58026	8	G-A19・20 B19~21他	平安中		断削で確認 →SD58023
SD 59001	9	ク-N05	平安末	土鍋	
SD 59002	9	ク-MN06 OP7	平安後	土師器	SD59004・59046→ →SD59007・SB59042・59043
SD 59003	9	ク-Q85	平安	鉢	
SD 59004	9	ク-MN6 OP5・6	平安		→SD59002・SK59047
SD 59005	9	ク-MN05	鎌倉	土師器、黒色土器 山茶碗、瓦	SD59008と同一
SD 59006	9	ク-PS~7 Q7	平安後 ~末	灰釉陶器	SD59007・SK59037→
SD 59007	9	ク-P5~7	平安後 ~末	土師器、灰釉陶器 土鍋	→SD59051 SD59002→
SD 59008	9	ク-N5	平安末 ~鎌倉	土師器・山茶碗	SD59005と同一
SD 59009	9	ク-S5			
SD 59010	9	ク-T5・6 L6	古墳		
SD 59011	9	ク-V5・6 W5・6	飛鳥~ 奈良	土師器、須恵器	
SD 59012	9	ク-U5・6 VS・6	平安後		
SK 59013	9	ク-W6	奈良	土師器	→SD59014
SD 59014	9	ク-W5・6 X5・6、Y6		土師器広口壺	→SB59050・SK59013
SK 59015	9	D-D5	平安		SK59030→
SD 59016	9	ク-X5、Y5・6 D-A5・6、B6	古代		→SB59049・59050
SD 59017	9	D-A5・6	古代	土師器	
SD 59018	9	D-DE6	平安中		→SD59023 SD59029→
SD 59019	9	D-A5・6 B6	古代		
SK 59020	9	ク-R5 S-X5・6	弥生~ 古墳		
SF 59021	9	ク-X6	奈良	土師器	埴土
SD 59022	9	ク-U5 V5・6	飛鳥	土師器	
SD 59023	9	D-BC5 DS・6	平安後 ~末	須恵器、灰釉陶器、鉢	SD59018・59027・59032・SK59030・SK59031→
SK 59024	9	ク-W6	奈良	土師器	

番号	調査部	グリッド	時代	主な出土遺物	備考 切りさいは(古→新)
SK 59025	9	ク~X6	奈良	土師器長胴甕	
SK 59026	9	ク~X6	奈良	須恵器	
SD 59027	9	D-C5・6 B5, B6	奈良～平安	墨書き土器「平」	→SD59023 SD59035→
SK 59028	9	ク~X6	奈良		
SD 59029	9	D-E5・6	中世？	土師器	→SD59018
SK 59030	9	D-CD5	奈良		→SD59023・SK59015
SK 59031	9	D-D5	奈良		→SD59023
SD 59032	9	D-C5	奈良～平安後期	土師器、墨書き土器「口平」 須恵器	→SD59023
SK 59033	9	ク~Q7	平安後	土師器、綠釉陶器、土鍋	SK59037→ 施青釉あり
SK 59034	9	ク~Q65・7	平安中～後	土師器、須恵器、綠釉陶器 鉄鋤	
SD 59035	9	D-BCD5・6	平安前	土師器、須恵器	→SD59027
SD 59036	9	ク~QR7	平安中?		
SK 59037	9	ク~PQ7	奈良?		→SD59006・SK59033・59041・SB59044 施土あり
SK 59038	9	ク~S6・7	平安後		SK59039→
SK 59039	9	ク~S7	平安後	鉄打片、土師器	→SK59038・SA59048 SK59040→
SK 59040	9	ク~R6・7	平安後		→SK59039
SK 59041	9	ク~Q6・7	平安後	土師器、黒色土器、綠釉陶器 灰釉陶器	SK59037→
SB 59042	9	ク~N06・7	平安後	土師器	SD59002→
SB 59043	9	ク~N05・7	平安中	土師器鍋、土鍋	梁行2間、桁行1間 SD59002→
SB 59044	9	ク~Q6～7 B6・7, P7	平安中	土師器、綠釉陶器、灰釉陶器 土鍋	3間以上×2間+北庇、N26° E、東西棟、大型ビット SK59037・SB59044・SB59051
SB 59045	9	ク~S6・7 B6, T7	平安後	土師器、土鍋	2間以上×2間、N21° E、東西棟
SD 59046	9	ク~N6・7			→SD59002
SK 59047	9	ク~B6			SD59004→
SA 59048	9	ク~R7他	平安後		4間分 SK59039・SB59044→
SB 59049	9	ク~XY5他	奈良	土師器	桁行3間、梁行2間、N26° E、南北棟 SD59016・SB59050→
SB 59050	9	ク~X5・6他	奈良		桁行3間、梁行2間、N20° E、南北棟 SD59014・59016・SB59050→SB59049
SB 59051	9	ク~PQ6・7	平安後	土師器、灰釉陶器、土鍋	梁行2間、桁行1間以上、N4° E、東西棟 北西隅(P1)に土源埋納。SD5907・SB59044→
SK 59052	9	ク~E6	平安	土師器、黒色土器	小ピット (O6-P1t2)
SK 59053	9	ク~S7	平安後	土師器	小ピット (N7-P1t5)
SK 59054	9	ク~U5			幅10～40cmの構状
SK 59055	9	ク~S5～W6	秀生～古墳		幅22mの自然流路

IV 遺 物

1. 出土遺物の概要

第5次調査の出土遺物は縄文～室町時代の土器・陶磁器・瓦・石製品・鉄製品・木製品などで、総量はコンテナ換算で286箱(756.5kg)（整理前、木製品を除く）である。そのほか、井戸枠材を中心とする大量の木製品がある。

ここでは、上層で検出した弥生時代以降の土器・陶磁器等（土製品・石製品・金属製品等を含む）と木製品、下層出土の縄文土器・石器の順に示す。各遺物の詳細は遺物観察表（第4表）を参照されたい。

出土遺物の概略は以下のとおりである^⑩。

縄文時代 遺構一括資料はないものの、1区・6区下層包含層から縄文時代中期～後期前葉の土器・石器が一定量出土している。

弥生・古墳時代 弥生時代後期・終末期の方形周溝墓出土土器が特筆される。他に溝や流路出土の弥生～古墳時代の土器類・須恵器がある。弥生時代後期の遺物は少なく、弥生時代前～中期の遺物はない。

飛鳥・奈良時代 飛鳥時代はS-E 56029上層出土遺物が良好な資料である。暗文を施す土師器杯A・C、皿Aなど精製品のほか、無文粗製の杯G（いわゆるいなか椀）の出土も目立つ。飛鳥・奈良時代の遺物は、主に4区や9区にみられる。

平安時代 3区出土の青銅鏡2面が特筆される。

土器は平安時代前・中期（9～10世紀前半）の土師器杯が多く、「平」を記した墨書き土器が複数みられる。黒色土器のほか、中・南勢地域では珍しい瓦器も若干出土している。

施釉陶器は、緑釉陶器が各区で散見され、第2次調査地のようなまとまった量はないものの、取手付瓶などの優品が含まれる。

古代の瓦片は各調査区で出土するが、特に遺跡南東の3区に多い。3区出土の軒平瓦2点はいずれも付近に存在した大雷寺廐の軒平瓦と同型式である。平安時代末以降：土師器は中世Ⅰ期（11世紀後半～12世紀）が主体で、山茶碗は藤澤編年第4・5

型式が圧倒的多数を占めており、いずれも渥美型である。

第6型式以降の山茶碗、中世Ⅱ期（13世紀）の土器や常滑製品は少なく、室町時代や戦国期の遺物もほとんどない。これは朝見上地区遺跡群のなかでも堀町遺跡・中坪遺跡と大きく異なる点である。

2. 弥生時代以降の遺物

（1）土器・陶磁器等

①遺構

S D 51001（第94図） 大半が上層出土で、奈良時代を中心とする遺物である。

1・2は土師器杯A。1は内面に螺旋状暗文、外面上半はケズリを施す。2はナデ調整の杯である。3～6は土師器甕で、3・4は内面上半までヘラケズリが及ぶ。3は外面にヘラ描きがある。9は土師器杯あるいは皿片で外面に記号状の線刻を施す。10は土師器高杯。11は土師器甕または鍋で外面にヘラ描きがある。7は外面に波状文を施す須恵器甕、8・12は須恵器瓶類である。12はフランコ瓶か。肩部に円形浮文と柳葉刺突文がみられる。13・14は平瓦。ともに凹面は布目痕、凸面にタタキ具の綿目痕を残す。

S D 51002（第95図） 下層出土遺物が多いが、26～28、32・33など古代の土器と、30・31など中世の遺物が混在している。

26～28は土師器杯。26は内面に放射状暗文を施し、外面上半はケズリ。26は斎宮Ⅰ期、27・28はⅡ期の杯・皿である。29～31は山茶碗で、30・31は第4型式の山茶碗。33は陶器瓶類。34・35は平瓦で、34の凹面はタタキ後ケズリで仕上げる。

S D 51004（第94図） いずれもSD 51007からの混入遺物とみられる。

15は短く外反する弥生時代後期の高杯、16は古墳時代中・後期の土師器高杯脚部である。

S D 51005（第94図） 平安時代前・中期の土師器が主体である。18～22は土師器杯で斎宮Ⅱ～3～4

段階のもの。23～24は土師器甕で同じく斎宮II～3～4段階、17は8～9世紀前半の須恵器杯蓋である。

S D 51007 (第95図) 36は土師器高杯。外面にまばらなミガキを施す。古墳時代初頭～前期のもの。

S D 51008 (第95図) 37・38は斎宮I期の土師器甕である。とともにSD 51001からの混入か。

S D 51010 (第95図) 39は土師器杯。7世紀末から8世紀初めごろのもの。

S D 51011 (第95図) 図示したのはすべて上層出土の土師器である。

40・41は杯Cで、内面に放射状暗文を施す。40は暗文と見込み中央の境界に線刻を入れ、底部外面はケズリ、41は外面ケズリ後ミガキとする。42～44は粗製の土師器杯で、42は見込みに線刻を施す。いずれも7世紀末から8世紀初めごろのもの。45～47は土師器甕で、球胴の47は底部外面にヘラ書きを施す。48は土師器鍋。

S D 51012 (第96図) 49は斎宮II～4～III期の土師器甕。10世紀代のもの。

S D 51013 (第96図) 50は土師器杯。斎宮II～4段階にあたり、10世紀前半のもの。

S X 51017 (第96図) 57～61は周溝上層の出土遺物であるが、山中式の高杯脚部（57）や有稜高杯（58）、廻間I～II式併行の高杯（59）、古墳時代前期のS字甕D類（60）と様々な時期のものがある。61は砥石の小片である。

S D 51020 (第96図) 様々な時期の土器が混在している。64・66～70・72は弥生時代後～終末期の土器で、68の受口状口縁甕など後期のものが多い。壺72は、肩部を刻み状の刺突文で区画し、その内部を細かい柳状具で横位に施文する。63・65は楕形高杯、71は肩部にヘラ書き沈線のある宇田型甕で古墳時代中～後期のもの。62は平安時代の土師器杯Aで斎宮II～3段階、9世紀後半のもの。

S D 51022 (第96図) 55は須恵器瓶類で、SD 51001出土の12と調整や胎土、文様が類似しているため、同一個体の可能性がある。

S Z 51023 (第96図) 51・52は土師器杯G。いずれも斎宮I～2段階のもので、8世紀前半のもの。54も同時期の土師器甕である。53は弥生時代後期の台付鉢でSD 51020等からの混入である。

S D 51024 (第96図) 73は弥生時代後～終末期の高杯である。

S K 51025 (第96図) 56は砥石としたが、下層の縄文時代石皿の混入かもしれない。

S E 51028 (第96図) 77・83は掘方、79・86・87は井戸枠内、他は井戸枠検出前の出土遺物である。

78～80・82は土師器杯A、81は土師器杯Cで、81は内面に放射状暗文、82は内面に放射状、口縁内面には螺旋状暗文を施す。いずれも斎宮I～4～II～1段階のもの。77は土師器皿で、見込みに螺旋状暗文を施す。内面は煤が付着している。83・84は土師器皿で、83は内面に線刻がある。85は灰釉陶器中挽で、灰釉はハケ塗りとする。86～90は土師器甕で、井戸枠内出土の球胴甕86・87は釣瓶かもしれない。

以上は8世紀末～9世紀前半の遺物群である。

S X 51029 (第97図) 方形周溝墓周溝の土器である。100は広口壺で、胸部下半はケズリ・ミガキとし、肩部に櫛描文と櫛歯による羽状文がある。101は混入の甕である。

S E 51036 (第96図) 74～76はいずれもSX 51042から混入した弥生時代後～終末期の土器であろう。内湾口縁壺74はやや時期が下がり終末期のもの。甕76は外腹下半をケズリとする。

S D 51040 (第97図) 108は古代の須恵器甕。

S K 51041 (第97図) 99は土師器杯。斎宮II～3段階、9世紀後半のもの。

S X 51042 (第97図) 下層出土遺物が主体である。いずれも弥生時代後期後半の土器で、完形やそれに近いものを含む。

109・110・111は有稜高杯。内外面を密なミガキで調整する。109は杯部が深く柱状部は広がり気味である。112～114は無文の壺、116は有文の壺である。114は丸底であるが、底部は分厚く粗い作り。115はく字状口縁の台付甕である。

S D 51043 (第97図) 平安時代末～鎌倉時代の遺物を中心に、古代の土師器や須恵器が混じる。

92・93は山茶碗。92は藤澤編年の第6型式、93は第4・5型式ごろにあたり、12世紀後半から13世紀前半ごろのもの。95は青磁碗で、見込みに片彫りの花文がみられる。98は北宋銭（嘉祐通宝）

で初鉄年は1056年。94・96は須恵器杯で7～9世紀のもの。97は古代の土師器甕である。

S D 51044 (第97図) 105・106は土師器甕である。107は土師器の器台か。

S D 51045 (第97・98図) 104は斎宮I - 2段階の土師器皿A。内面にまばらな放射状暗文を施す。102・103は土師器甕である。117は古代の平瓦片。

S R 52003 (第98図) 123は平安時代中～後期の土師器杯、124は灰釉陶器椀である。125は瀬戸美濃天目茶碗で、大窓期のものか。構の機能・廃絶時期を示す。126は中世IV期の土師器鍋で、図示したもの以外にも16世紀以降の土師器鍋がある。

S D 52004 (第98図) 古墳時代を中心に、飛鳥時代の遺物もみられる。130・131・133は土師器高杯脚部で古墳時代のもの。134は高杯としたが、壺かもしれない。135・136・141・142は壺で、142は二重口縁壺である。132・138・139・140は土師器甕で、132は台付甕の台部、137はいわゆる宇田型甕、140はS字甕C類である。127は椀、128・129は7世紀末の土師器杯Gである。

S D 52005 (第98図) 143は台付甕で古墳時代中・後期のもの。

S D 52006 (第98図) 弥生時代終末期～古墳時代前期の土師器がみられる。118は高杯で、SD 52019から混入した可能性が高い。杯部内面に水銀朱が付着している。119は高杯または台付鉢。120は小型壺である。121は壺片で、肩部に櫛描文・刺突文を施す。122は短い台部の付く甕である。

S D 52008 (第98図) 153は土師器杯A。斎宮II - 3段階ごろのもの。

S D 52009 (第98図) 154は土師器杯A。153と同じくII - 3段階にあたり、9世紀後半ごろのもの。

S D 52013 (第98図) 150・151は斎宮II - 3段階の土師器杯A。152は053号窯式の灰釉陶器椀である。

S D 52016 (第98図) 古墳時代の土師器がみられる。144は丸底鉢で内外面を密なミガキで調整する。145は土師器椀。146・147は台付甕で端部を折り返す。148は広口壺で、148は内外面にミガキ調整を施す。

S D 52017 (第98図) 古墳時代前期の土師器がみ

られる。156・157は台付甕で、156はS字甕D類、157はC類である。158は広口壺で、口縁部外面と端部に刺突文を施す。

S D 52018 (第98図) 167は古墳時代前期の小型丸底壺である。

S X 52019 (第98図) 遺物は上層から出土した。弥生時代終末期の土師器がみられる。164は台付甕。165は内湾口縁壺。内外面に密なミガキ調整を施す。166は緑泥片岩の板材で、使用痕はないが大型石包丁や砥石などの破片であろうか。

S D 52020 (第98図) 弥生時代終末期の高杯脚部(155)がある。

S D 52022 (第98図) 古墳時代中期以降の土器がみられる。160は高杯で、古墳時代中・後期のもの。161は須恵器杯蓋で5世紀末。162・163は6世紀以降の土師器甕である。

S D 52026 (第99図) 古墳時代の土師器がみられる。168は椀で中期以降。169・170は台付甕で、169はS字甕D類にあたる。

S D 52027 (第99図) 171は土師器杯G。斎宮I期、7世紀後半から8世紀ごろのもの。172は土師器高杯。173は台付甕でS字甕C類にあたる。古墳時代前期のもの。174は6～7世紀の土師器甕。

S D 52028 (第98図) 159は土師器台付甕。S字甕C類か。古墳時代前期のもの。

S D 53001 (第99図) 175～178は土師器杯A。175・177は斎宮II - 4段階、176はIII - 2段階。179は須恵器瓶。斎宮II - 1・2段階、9世紀前半ごろのもの。180は土師器甕で斎宮III - 2段階、11世紀中ごろのもの。181は刀子で、先端部は欠損している。182は鉄釘。183は扁平な砥石である。184～186は古代の平瓦で細かく破碎される。いずれも裏面に布目痕が残る。

S D 53002 (第99～100図) 最下層(187)、下層(188～211)、上層(214～233)、最上層(212・213)に分けて記述する。

187は最下層、溝の底面付近で出土した素文鏡で、直径7cm、鏡胎は厚さ2mmと非常に薄く、プロンズ病が進行し残りが悪い(写真図版80)。外縁は平縁、紐は輪郭の薄さに反して半球形のしっかりしたものである。鏡面の反りは失われ、潰れた状態であつ

た。紐の特徴や下層出土土器の年代から、弥生時代終末期～古墳時代の小型仿製鏡の可能性が高いが、素文鏡としては面径が大きく、外縁の断面形状もやや違和感がある。蛍光X線による成分分析⁽³⁾（第3表）の結果、銅・錫・鉛が主成分で、わずかにヒ素が含まれることがわかった。

188～211は下層の遺物である。弥生時代終末期から古墳時代前期を中心に、5～7世紀代の土器もみられる。土師器は弥生時代終末期から古墳時代前期のものが多い。188・189・191・192は高杯、190は小型器台である。193・194は小型壺。壺はS字彫B・C類（201・202）の他、布留系の壺（197）もみられる。198・207～211は壺で、211は櫛描文と同工具の刺突文を施す。須恵器は陶邑TK47型式の蓋杯（195）や、溝底付近から出土した7世紀後半の短頸壺（196）がある。

214～233は上層の遺物で、様々な時代の遺物が混在しているが、9世紀から中世前期（214～217）、西肩部土器集中および同時期の遺物（223～226・228・231・232）、下層と同様の弥生時代終末期～古墳時代の土師器・須恵器（220～222・227等）の3群に大別される。平安時代以降の遺物は黄灰色シルト出土で、214・215は斎宮II-3段階の土師器杯、灰釉陶器皿217は9世紀後半のもの。216は第5型式の山茶碗。他は褐色砂中の遺物である。223～226は7世紀末の土師器壺で、西肩部からまとまって出土した。223・226は外面にヘラ描きがある。218は須恵器杯で5世紀後半。219は輪羽口。220は土師器台付壺、227は布留系壺か。221は高杯あるいは小型器台脚部。222・230は壺で、222は小型壺である。233は土鍤。

212・213は最上層出土の青銅鏡である。212は瑞花円鏡で、面径10.2cm、鏡胎厚さ0.7cm、重さ191.6g、ほぼ完形である（写真図版78）。円形の青銅鏡で、外縁は三角縁、外区に唐草、やや狹めの内区には瑞花文の花を省略し、葉のみを描く。界隈は段がつき、外区の唐草文は偏向唐草に近い。紐座は花形座で先端は平坦である。鏡胎は重厚で鋳上がりは良好である。図上方に鋳掛けの湯口が残り、透過X線画像ではこの付近にスがが多く認められる（写真図版78）。また、外縁端面や鏡背面に粗い研磨痕が

残り、鏡として実用に至らず埋置されたとみられる。

212と同文様の八稜鏡は日光男体山山頂跡⁽³⁾などに例があり、八稜鏡を元に同一工房で製作された変形鏡とみられるが、円鏡とするものは全国的にも希少である。平安京内の鏡物工房だけではなく、地方の工房で独自に鏡生産が行われていた可能性も考えられよう。文様など細部の特徴から、213とほぼ同時期（10世紀後半）の製作とみられる。

蛍光X線による成分分析（第3表）の結果、銅・鉛・ヒ素が主成分で、特に鉛の含有率が高いことが判明している。また、錫はほとんど含まれない。

213は瑞花双鳥八稜鏡（写真図版79）で、面径8.7cm、重さ35.6gを測る。外縁の一部が欠損している。全体にひび割れて出土したため、保存処理にあたり欠損部を埋め、外縁部も補って補強・復元した。内区には瑞花文と2羽の鳥（鳳凰）をあしらう。鳥文は、それぞれ天地を逆位とし、頭一体一尾が直線的となっている。二羽の尾羽の表現が異なっており、離雄を表現している可能性がある。外区の唐草文は点文となって形態化している。杉山洋氏の八稜鏡編年⁽⁴⁾ではIV期（10世紀後半）に相当し、長野県吉田川西遺跡などに類似例がある。212に比べて薄手のつくりで、錫や割れはあるものの、鋳上がりは良い。八稜鏡の出土は県内24例目（発掘調査では4例目）である⁽⁵⁾。

蛍光X線による成分分析によれば、銅・鉛・ヒ素が主成分で、錫をほとんど含まない（第3表）。また、212に比べ銅の比率がやや高い。

第3表 青銅鏡の蛍光X線分析結果

（wt%）

元素	瑞花円鏡 212		瑞花双鳥八稜鏡 213		素文鏡 187
	鏡背	鏡面	破面	鏡背	
Cu	23	19	51	48	49
Pb	49	52	33	32	15
Sn	5	6	0	0	25
As	20	21	14	14	6
Hg	0	0	0	0	0
Fe	1	1	1	4	0
Ni	0	0	0	0	0
Bi	1	1	0	0	0
Ag	1	1	0	1	1
Sb	0	0	0	0	1

S D 53003 (第 100 図) 234 は丸瓦。235 は第 6 型式の山茶碗。236 は平安時代の土師器甕である。主に 12 ~ 13 世紀の遺物がみられる。

S E 53004 (第 101 ~ 102 図) 上層から下層まで、12 世紀 ~ 13 世紀の遺物がみられる。

251 は最下層の遺物で、第 5 型式の山茶碗。底部外面に「大」の墨書がある。252 ~ 257 は中・下層出土。252 は白磁椀である。253 ~ 256 は山茶碗。253 のみ藤澤編年の第 3 型式、それ以外は第 5 型式である。257 は古代の平瓦。

258 ~ 296 は中層以上の遺物で、258 はロクロ土師器台付小皿。斎宮 III 期のもの。259 は平安時代後期のロクロ成形土師器椀である。灰釉陶器椀 264 も同時期のもの。260 ~ 263・265 ~ 276 は第 4・5 型式の山茶碗で、263 は高台内に「〇」の墨書がある。なお、山茶碗は内面に模が付着するものが複数ある。277 は渥美長頭盃、278・279 は片口鉢であろう。280 も格子目叩きのある壺片。281・282 は鉄製釘。283 ~ 285・287 ~ 292・294・295 は古代の平瓦で、打ち欠き痕があり細かく破碎されたようである。286・293 は丸瓦、296 は軒平瓦。内区に変形均整唐草文、外区下縁には縮文を施す。同型のものが大雷寺廢寺で出土している⁽⁶⁾。

S D 53005 (第 100 図) 237・238 は斎宮 III 期の土師器甕である。

S D 53006 (第 101 図) 248 は中世 II 期の土師器皿。

S D 53007 (第 101 図) 247 は斎宮 III 期の土師器甕。

S D 53009 (第 101 図) 249 は 053 号窯式の灰釉陶器皿で 10 世紀前半のもの。他に中世の遺物片がある。

S D 53010 (第 101 図) 250 は中世 I 期の土師器甕で 12 世紀以降のもの。

S D 53011 (第 103 図) 平安時代後期~末の遺物が混在している。297 ~ 304 は土師器杯・皿で斎宮 III - 1・2 段階。305 はロクロ土師器皿である。306 ~ 308 は土鍤。309・310・311 は H72 号窯式の灰釉陶器椀・皿である。312 は青磁椀。313・314 は第 5 型式の山茶碗。315 は管玉である。316 は須恵器壺。317 ~ 319 は陶器壺類、320 は陶器壺で渥美産か。

S K 53012 (第 101 図) 239 は中世 I 期の土師器皿、243 は中世 I b 期の土師器甕である。240 ~ 242 は第 4 型式の山茶碗。244 は土鍤。245・246 は平瓦。

S D 53013 (第 103 図) 327 ~ 329 は第 4 型式の山茶碗。330 は平瓦。

S D 53014 (第 103 図) 325 はロクロ成形の土師器椀で斎宮 III 期のもの。

S D 53015 (第 103 図) 326 は中世 I 期の土師器皿。

S D 54001 (第 103 図) 331 は第 4 型式の山茶碗。332 は平瓦である。

S D 54002 (第 103 図) 333 は土師器皿 G。斎宮 I - 2 段階、8 世紀前半のもの。

S D 54003 (第 103 図) 334 は土師器皿 A。斎宮 I - 3 段階、8 世紀後半のもの。

S K 54004 (第 103 図) 335 は土師器皿、336 は土師器鍋で中世 I 期のもの。

S E 54005 (第 104 図) 7 世紀中葉から 8 世紀前半の遺物群である。

348 ~ 350・352 ~ 354・357 は土師器皿 G。352 は外面にヘラ描きがみられる。351 は土師器皿 A である。355 は混入の土師器高杯。356 は土師器皿で斎宮 I - 2・3 段階のもの。362 は甕で、内面に縱方向のケズリがみられる。364 ~ 366 は土師器甕。367 は土師器甕。358 ~ 361・368・369 は須恵器で、358 は杯 H 盖。359 は高杯蓋、360 は有蓋高杯である。361 は杯蓋で 8 世紀のもの。368 は甕で頭部が直立ぎみに立ち上がる。369 は甕である。

S K 54006 (第 103 図) 337 は K90 号窯式の灰釉陶器皿。9 世紀後半のもの。

S D 54009 (第 103 図) 338 は土師器皿。斎宮 I - 2 段階ごろのもの。

S D 54011 (第 103 図) 339 は土師器皿。347 は土師器甕。いずれも斎宮 I - 2・3 段階、8 世紀のもの。340 ~ 346 は弥生時代終末期~古墳時代の土師器である。345 は台付甕で、S 字甕 B 類か。346 は口縁部がやや内湾する鉢である。

S D 54014 (第 104 図) 弥生時代終末期~古墳時代の土師器がみられる。370 は甕、371・372 は台付甕で、371 は S 字甕 B 類。373 は有段高杯か。

S K 54020 (第 105 図) 390 は第 4 型式の山茶碗。

S D 54021 (第 105 図) 平安時代前・中期の土師器甕 391・392 が出土している。

S K 54022 (第 105 図) 393 は山茶碗で、見込みに重ね焼き痕がある。

S D 54023 (第 105 図) 394 は第 5 型式の山茶碗である。

S D 54024 (第 105 図) 395 ~ 397 は第 5 型式の山茶碗。397 は下層出土である。

S D 54025 (第 105 図) 398 は古代の土師器高杯。

S E 54031 (第 104 図) 374 は掘方出土の灰釉陶器椀。375 ~ 386 は井戸枠内出土遺物で、375 ~ 380 は土師器杯 A で斎宮 II - 4 段階。375 の外面部に吉祥句の墨書があるが判読できない。381 ~ 382 は志摩式製塙土器である。383 ~ 386 は斎宮 II - 4 段階の土師器甕。他に、土師器 387 ~ 388、須恵器壺 389 などがある。概ね 10 世紀前半の遺物群であろう。

S K 54032 (第 105 図) 399 は土師器杯で、斎宮 II - 4 段階、10 世紀前半ごろのもの。

S K 54033 (第 105 図) 400 は平底の土師器壺または鉢で古代のものか。

S R 54035 (第 105 図) 下層・最下層から弥生時代終末期～古墳時代の土師器が出土している。

401 は壺または高杯で、内面をベンガラで彩色する。402 は高杯か。403 はく字状口縁の甕である。404 は広口壺で口縁部内面と端部に刺突文を施す。405 は甕で、口縁部および肩部に刺突文を施す。

S E 54036 (第 105 図) 井戸枠内、掘方ともに斎宮 III 期の土師器や百代寺窯式の灰釉陶器、初期山茶碗がみられる。

406 ~ 407 は斎宮 III 期のロクロ土師器で、406 は椀である。408 は輪羽口の先端付近で黒色に変化している。409 ~ 410 は陶器壺・須恵器甕である。413 は土師器甕で斎宮 III - 2 段階、414 は灰釉陶器椀。

415 ~ 419 は井戸枠検出後、枠内から出土した遺物である。415 は無袖の山茶碗、416 ~ 417 は百代寺窯式の灰釉陶器である。418 はロクロ土師器の椀である。419 は古代の平瓦で、凸面に煤が付着する。

S E 54040 (第 105 図) 425 は斎宮 II - 4 ~ III - 1 段階の土師器甕。426 は椀形済の小片である。

S B 54041 (第 105 図) 422 ~ 424 は土師器皿・杯で斎宮 III 期、平安時代後期のもの。

S B 54042 (第 105 図) 420 は土師器杯 A。421 は土師器甕で斎宮 III - 2 段階、11 世紀中ごろのもの。

S E 55001 (第 105 図) 445 は寸胴形の鉢である。448 ~ 449 は土師器甕で、7 世紀後半から 8 世紀ご

うのもの。450 は土鍤。446 ~ 447 は混入であるが、付近に古墳時代遺構の存在を示唆する。

S D 55004 (第 105 図) 427 は第 5 型式の山茶碗である。428 は常滑片口鉢で第 8 型式以降のもの。図示したもの以外に、中世後期の土師器鍋片がある。

S B 55005 (第 105 図) 429 ~ 430 ~ 432 ~ 435 ~ 436 ~ 438 ~ 442 は掘方、他は柱抜き取り痕出土であるが、遺物相に明確な差は認められないため、一括して記述する。出土ピットは観察表を参照されたい。

土師器杯・甕は概ね斎宮 II - 4 段階に位置づけられる。436 ~ 440 は灰釉陶器椀で K90 ~ 053 号窯式。土器・陶器の時期は 10 世紀前半を主体とするが、灰釉陶器の一部は 9 世紀後半に遡る可能性がある。

S K 56001 (第 106 図) 451 は斎宮 III - 2 段階のロクロ土師器椀である。452 は山茶碗で 11 世紀中ごろから 12 世紀のもの。

S K 56002 (第 106 図) 453 は陶器壺類。中世のものか。

S E 56003 (第 106 図) 上層出土の遺物が多い。485 ~ 487 はロクロ土師器皿である。488 はロクロ土師器皿か。いずれも中世 I 期のもの。490 は大ぶりの土鍤である。491 ~ 493 ~ 496 ~ 499 ~ 503 は第 4 ~ 5 型式の山茶碗で、492 は無袖の耳皿。497 は灰釉陶器椀、504 は中世 I b 期の土師器鍋である。

S E 56004 (第 106 図) 中世 II 期の南伊勢系土師器、第 6 型式の山茶碗などがみられる。505 ~ 508 は土師器皿で中世 II a 期。509 ~ 512 ~ 514 は山茶碗で、第 5 ~ 6 型式がみられる。511 の高台内には墨書「十」とある。513 は薄手の白磁椀。515 は青磁碗で見込みに花文がみられる。516 は陶器鉢。517 は中世 II a 期の南伊勢系土師器鍋である。

S E 56005 (第 106 図) 454 は陶器壺の底部である。455 は第 4 ~ 5 型式の山茶碗。

S E 56006 (第 106 図) 456 ~ 459 は土師器杯で、斎宮 II - 4 段階に位置づけられる。456 ~ 457 は井戸枠痕内の上層から出土した。杯 456 の底部外面には野太く「七西井」の墨書がある。

458 は井戸枠内下層出土で内面に放射状暗文、見込みに螺旋状暗文を施す。他に志摩式製塙土器(464)を作う。

絆釉陶器椀(460)、土師器甕(462)は掘方上層

からの出土である。461は須恵器壺、463は甕である。
S K 56007 (第106図) 平安時代後期から末の遺物が混在している。465～467・469～471は土師器杯で、斎宮II-4～III-1段階のもの。皿468は中世のものであろう。472は台付鉢。473は第4型式の山茶碗である。474・475は土師器鉢である。476は粗目の砥石で、非常に重量がある。

S K 56010 (第106図) 中世I期の土師器や山茶碗などがみられる。480は土師器皿、482は土師器鏡である。481は第4型式の山茶碗である。

S K 56011 (第106図) 483・484は土師器甕で、いずれも斎宮II期、8世紀末から9世紀初めごろのものであろう。

S K 56012 (第107図) 531は中世I期の土師器鍋である。

S K 56013 (第106図) 477は灰釉陶器椀。10世紀後半ごろのもの。

S K 56014 (第106図) 478は土師器皿A。内面にまばらな放射状暗文を施す。斎宮I-3段階、8世紀後半ごろのもの。479は土師器壺。

S K 56015 (第107図) 518は土師器杯A。519・520は土師器甕。いずれも斎宮II-1段階、8世紀末から9世紀初めごろのもの。

S K 56018 (第107図) 521は土師器瓶の底部である。522は灰釉陶器椀で、053号窯式前後のもの。526は須恵器杯B。斎宮編年I-1・2段階、8世紀ごろのもの。

S K 56019 (第108図) 580は志摩式製塙土器。581は古代の土師器甕である。

S K 56020 (第107図) 546は土師器甕。口縁部の形状からみて、斎宮II-2段階、9世紀中ごろのもの。

S K 56021 (第107図) 527～529は第4型式の山茶碗で、527は輪花・灰釉がみられる。530は中世I期の土師器鍋である。12世紀中葉のもの。

S K 56022 (第107図) 532は第4型式の山茶碗。

S D 56023 (第107図) 539はK90号窯式の灰釉陶器皿である。540・541は須恵器瓶類。542は土鍤。

S K 56024 (第107図) 523は土師器皿。524は山茶碗。藤澤編年第5型式にあたり12世紀後半ごろのもの。525は土師器鍋。口縁端部を内側へ折り込む形状からみて南伊勢中世I期にあたり、12世紀

中ごろのもの。

S D 56025 (第108図) 繩叩きの平瓦579がある。
S X 56026 (第107図) いずれも周溝出土の弥生時代終末期の土師器壺である。547は南側周溝出土で、ハケ調整・無文の広口壺である。548は下層確認中に東側周溝底の掘り残しから出土した。外面はミガキ、肩部に櫛描文を施す。

S X 56027 (第108図) 565は西側周溝、563・569・571・572は北側周溝、561・562・564・566・567・573は東側周溝のそれぞれ上層から出土した、弥生時代終末期の土師器である。

無文ないし装飾の少ない広口壺561～564が主体で、561・563は下半をミガキで仕上げるが、他はハケ調整のみである。561・562は口縁端部を拡張し、561は刺突で施文するが、562は無文で、頭部は強く立ち上がる。566は赤彩のある広口壺で、肩部に櫛描直線文・刺突による縦衛文・円形浮文がある。肩～胴部と口縁内面をベンガラで赤彩し、肩部の縦衛文・円形浮文にも赤彩がある。

台付甕はく字状口縁の571、S字甕B類569がある。高杯は有稜高杯572、楕形高杯573・574がみられる。568は平底の鉢である。有稜高杯572、S字甕B類569などから、概ね濃尾平野の廻間II式前半に併行する土器群とみられる。

570・577・578は西側周溝上層出土の土器群で、7世紀後半の土師器杯(578)、甕(570)、須恵器杯ないし皿(577)である。

S K 56028 (第107図) いずれも8世紀前後のもので、上層出土遺物が多い。土師器は杯(533)、瓶(535・536)、甕(537・538)があり、斎宮I-2～II-1段階のものである。534は須恵器杯蓋である。

S E 56029 (第109図) 582～602・607は最上層土器集中の遺物である。582は土師器杯C。582の内面に放射状暗文を施す。583～595は土師器杯G。いずれも斎宮I-1段階、7世紀末から8世紀初頭のもの。583の底部外面には線刻を施す。

596～601は須恵器杯。599は須恵器杯蓋で口縁部にかえりをもつ。601は須恵器杯B。須恵器も土師器と同じく、7世紀末から8世紀初頭ごろのものである。

602は土師器甕。603～606は上層出土の土師器

甕である。607は須恵器甕。608は砂岩製の砥石で、土器と同じく破碎されている。609は薄い楕形片の小片である。

S K 56031 (第107図) 556は土師器皿、557は常滑製品で火鉢か。558は南伊勢系土師器の焰焰である。いずれも近世の遺物である。

S K 56032 (第107図) 543は土師器杯G。544・545は土師器甕で、いずれも外面にヘラ描きがある。

斎宮I-1・2段階、7世紀後半から8世紀中葉のものである。

S D 56033 (第107図) 549はピット等からの混入である。平安時代前～中期の土師器杯で、底部内面に螺旋状暗文を施す。

S B 56034 (第107図) 559は土師器杯で、斎宮II-4段階。560はやや深さのある灰釉陶器段皿である。

S B 56035 (第107図) 550～552は土師器杯、554は土師器甕で、斎宮II-3・4段階に位置づけられる。553は志摩式製塙土器の底部である。

S F 56036 (第109図) 610・611は奈良時代の土師器杯である。610は内面に放射状暗文、見込みに螺旋状暗文を施す。611は内面に二段の放射状暗文、見込みに螺旋状暗文を施す。いずれも底部外表面をケズリとする。斎宮I-2段階、8世紀前半のもの。

S B 56063 (第109図) 混入遺物のS字甕(612)がある。

S B 56064 (第109図) 614～617は土師器杯で、いずれも斎宮II-3・4段階、9世紀後半～10世紀前半のもの。617は内面に放射状暗文を施す。

S B 56065 (第109図) 613は土師器杯で、斎宮III-1段階、10世紀後半ごろのもの。

S D 57001 (第109図) 中世IV-a期(15世紀末)の南伊勢系土師器がみられる。630は口径9cmの土師器皿、634は小型の鍋、635は下層出土の羽釜で器壁はごく薄い。

山茶碗(633)や青磁(632)など、中世II期の遺物も下層に一定量みられる。636は小型の楕形片である。631は古代の土師器碗で混入であろう。

S D 57002 (第109図) 618は第6型式の山茶碗。619は古代の土師器甕である。620は砂岩製の砥石。

S D 57005 (第109図) 中世IV期の土師器鍋類(629)がある。また、図示したもの以外に中世III期

の土師器などが出土している。

S E 57006 (第109図) 621は中世II期の土師器皿である。622は白磁碗で薄手のもの。623は渥美産の陶器鉢、624・625は第5型式の山茶碗である。

S D 57007 (第109図) 626は第5型式の山茶碗。627は土鍤である。

S D 57010 (第109図) 土鍤(637)などが出土地である。

S D 57017 (第110図) 653・654は斎宮II-3・4段階の土師器杯である。655は土師器杯または皿の底部片で、外面に墨書がある。字下半が欠けているが、「美々」。なお、「美」は1・2次調査でも出土している。656は土師器甕である。657は須恵器瓶類。

この他、猿投産の綠釉陶器把手付瓶(658)は特筆すべき遺物である。摩滅により釉は剥落している。

S X 57022 (第110図) 639～644は棺内供獻土器で、小皿(639～641)のうち、640・641はロクロ土師器である。642～644は口径15cm前後の皿。

645～648は棺外供獻土器である。すべて小皿で、口縁端部を強くヨコナデする。

棺内・棺外ともに中世I b期(12世紀後半)に位置づけられる。649は上層出土の土師器鍋である。

S D 57023 (第110図) 650は混入遺物で、古墳時代前期のいわゆる柳ヶ坪型蓋である。

S K 57024 (第110図) 666はK90号窯式の灰釉陶器皿である。

S D 57025 (第110図) 667・668は第4型式の山茶碗である。669は古代の平瓦で細かく破碎される。

S K 57026 (第110図) 651は口径11cmの土師器皿で中世III期のもの。652は陶器の瓶類あるいは鉢。

S D 57029 (第110図) 659は中世の土師器小皿である。660は同安窯系の青磁碗で外面に柳目文がみられる。661～663は第4・5型式の山茶碗。664は南伊勢系土師器鍋で中世II-a期。665は中世I期の土師器鍋である。

S K 57031 (第110図) 680は土師器台付椀。斎宮III期のもの。681はロクロ土師器の台付椀である。

682・683は斎宮III-2段階のロクロ土師器杯で、683はごく短い台が付く。684は内黒の黒色土器台付椀で、見込みに螺旋状暗文がみられる。685は灰釉陶器深碗で、底部に焼成後穿孔を施す。686～689

は百代寺窯式の灰釉陶器碗である。690も碗。691は大型の土師器鉢である。692～695は土師器甕で、斎宮III-2段階ごろのもの。

全体として11世紀前半代の遺物が多くみられる。

S D 57032(第110図) 696～698は土師器皿、703は中世II-a期の南伊勢系土師器鍋である。699は瓦器碗である。700～702は第4・5型式の山茶碗。704・705は土鍤である。

12世紀後半から13世紀前半の遺物群である。

S D 57036(第110図) 679は斎宮III期の土師器皿。S B 57041(第111図) 706・708・714・724・726・727・730は掘方、707・710・722・723・728・729は柱痕出土遺物であるが、遺物の時期に大きな差は認められないため、一括して記述する。出土ピットの詳細は遺物観察表を参照されたい。

706～716は土師器杯で、706の体部内面にまばらな放射状暗文を施す。714は掘方出土で底部外面に「保平」の墨書がある。1文字目が不鮮明である。717は土師器杯あるいは皿。外面に墨書があるが判読できない。722～726は土師器甕。727は瓶である。これらは斎宮II-4段階に位置づけられる。

718～720は053号窯式の灰釉陶器皿・碗である。721は志摩式製塙土器。728・729は土鍤である。730は鉄刀子で先端は欠損する。

土器、陶器の時期は概ね10世紀前半に位置づけられよう。また、志摩式製塙土器や土鍤の出土は、建物の性格を考える上で重要である。

S B 57042(第110図) 673～675は土師器杯、678は土師器甕で斎宮II-4段階。676は縁釉陶器の皿、677は三日月高台の灰釉陶器皿で、K90～053号窯式のもの。675は掘方、674・676は柱痕から出土した。

S B 57043(第110図) 670～672は土師器杯で斎宮II-4段階。670・672は柱痕出土である。

S B 57044(第112図) 771～774は土師器杯で、同一ピットの柱痕から出土した。斎宮III-1段階のもの。775は口縁部が直立する土師器甕である。

S B 57045(第112図) 776は斎宮III期の土師器杯である。777は灰釉陶器碗で灰釉は漬け掛け。10世紀代のものであろう。778・779は黒色土器で、778は杯、779は台付碗でともに両黒である。いずれも斎宮III-1段階、10世紀後半ごろのもの。

S B 57047(第112図) 780は初期の山茶碗である。

S B 57048(第112図) 781は斎宮III期の土師器皿。

S B 57049(第112図) 782は斎宮II-4～III-1段階の土師器杯である。

S D 57051(第112図) 783は第5型式の山茶碗。

S D 57053(第111図) 平安時代末の遺物を主体として、平安時代後期の遺物が若干混じる。

732・733は土師器皿・杯、734～736はロクロ土師器杯等で、斎宮III～中世I期のもの。731は瓦器碗である。738～758は上層から出土した涅类型第4・5型式の山茶碗である。739・740・745など輪花や灰釉漬け掛けのものが含まれる。皿755・756は無高台である。759は陶器鉢。760～763は中世I-b期の土師器鍋で12世紀ごろのもの。764は古代の平瓦である。737は磁器皿だが近世の混入か。

765～770は波板状凹凸面(溝内ピット)の遺物で、細かく破碎されている。上層遺物に比べ古相の遺物が多い。765は縁釉陶器瓶類で、外面は著しく摩滅する。766・767は第3・4型式の山茶碗である。768は涅美座甕。769は須恵器ないし中世の陶器甕である。770は古代の平瓦片である。

S D 57054(第112図) 784・785は第4型式の山茶碗で、784は輪花がみられる。

S D 57058(第112図) 786は内黒の黒色土器台付碗で、内面に螺旋状暗文がみられる。斎宮III-1段階、10世紀後半ごろのもの。787はロクロ土師器皿で柱状の台が付く。788は灰釉陶器碗である。789は土師器甕。灰釉陶器を除き、いずれも平安時代後期、斎宮III期のものである。

S A 57060(第112図) 790は土師器杯で、斎宮II-3・4段階のものか。791は土鍤である。

S D 57062(第112図) 792は土師器小皿、793はロクロ土師器皿で中世I-b～II-a期のもの。794は山茶碗第4型式、795は口縁部が直立する土師器鍋である。12世紀後半ごろの遺物群であろう。

S D 57064(第112図) 796はロクロ土師器の台付皿、797～801は第4型式の山茶碗である。802・803は灰釉陶器瓶類。804は小ぶりの椀形盤である。

S A 57066(第112図) 805は土師器杯あるいは皿・小片。外面に「十」とみられる墨書がある。

S D 57068(第112図) 806はロクロ土師器碗であ

る。胎土は精良で白色のもの。807は第4型式の山茶碗である。

S B 57071 (第112図) 808～810は土師器杯、815・816は土師器甕で、斎宮II-3・4段階のもの。813は内黒の黒色土器椀で、放射状・螺旋状暗文がみられる。814は土鍤。817・818は灰釉陶器瓶類で、K90号窓式ごろのものか。818は灰釉ハケ塗り、口縁部を打ち欠いている。土師器・灰釉陶器とも、概ね9世紀後半から10世紀前半に位置づけられよう。出土ピットの詳細は遺物観察表を参照されたい。

ロクロ土師器812のみ、側柱以外のピットから出土しており、他と時期が異なる遺物である。

S D 57072 (第112図) 819はロクロ土師器杯、820は土師器甕で斎宮III-2段階、11世紀中ごろのもの。

S B 57076 (第112図) 821は土師器杯、822は内黒の黒色土器台付椀で、斎宮III-1段階、10世紀後半ごろのもの。

S D 58003 (第112図) 823は弥生土器の甕底部で中期以前のものであろう。

S D 58007 (第112図) 824は土師器杯の小片で、斎宮III期のものである。

S D 58009 (第112図) 825は弥生土器鉢か。

S D 58010 (第112図) 826は弥生時代後期のく字状口縁甕で、口縁端部に刻みを施す。

S X 58013 (第112図) 827は土師器杯で、斎宮II-4～III-1段階、10世紀のもの。828は小型の土師器甕で底部をわずかに欠くが、完形に近い。外面に煤が付着する。

S D 58015 (第112図) 829は三日月高台の灰釉陶器椀ないし皿である。

S D 58016 (第112図) 平安時代中～後期の遺物群である。830～841は土師器杯で、斎宮II-3～4段階。835・840のように薄手で二段ナデ状のものが目立つ。843は土師器台付椀で斎宮III-1段階。844は内黒の黒色土器で、ごく低い高台が付く。斎宮II-4段階ごろのもの。845は土師器杯あるいは皿片で外面に墨書がある。846は三日月高台の灰釉陶器椀である。847・848は志摩式製塙器で口縁部が分厚いもの。849・850は土師器甕である。

S D 58018 (第113図) 平安時代中期を主体としつつ、様々な時代の遺物が混在している。853～

876は土師器杯で、853は内面底部に螺旋状暗文を施す。854・855は内面に放射状暗文、854の見込みに螺旋状暗文を施す。876の外面底部には「平成」の墨書がある。これらは斎宮II-4段階、10世紀前半に位置づけられよう。877・878・879は土師器杯あるいは皿片で、877の外面には「乃」と、878の外面には「平」、879の外面には「大」の墨書がある。

880は内黒の黒色土器椀である。881は土師器台付椀。882・883は灰釉陶器椀、884は深碗で、灰釉陶器は053号窓式以降のものが主体である。885・886は土師器鉢である。

887～889は志摩式製塙器で、口縁部が大きく肥厚するものと先ずぼみのものがある。890は須恵器甕または瓶。891～899は土師器甕で、平安時代前期までのもの(891～893)と、平安時代中期以後のもの(894～899)がある。900は古代の平瓦。

901は小ぶりの楕形甕である。902は砂岩製の砥石で、正面・側面に使用痕光沢がみられる。

S D 58020 (第112図) 851は土師器鍋で中世I期のもの。852は第4型式の山茶甕である。

S D 58021 (第114図) 904は土師器杯、905は土師器甕で、いずれも斎宮III-2段階のもの。

S D 58022 (第114図) 903は斎宮II期の土師器甕。

S D 58023 (第114図) 906は第4型式の山茶甕、907は中世I期の土師器鍋である。

S D 58026 (第114図) 土鍤908が出土している。

S D 59002 (第114図) 913は土師器杯で口径が小さい。図示したもの以外に平安時代前～後期の遺物がある。

S D 59003 (第114図) 909は鉄滓なしし鉄塊系遺物で、酸化土砂が付着し、球形を呈する。

S D 59005 (第114図) 平安時代後期や中世I b～II a期の遺物が混在している。917は中世I期のロクロ土師器皿である。918は丸底の土師器の蓋で古代のものか。919は内黒の黒色土器椀で斎宮III期のもの。920～923は第4・5型式の山茶甕である。924～926は中世I b～II a期の土師器鍋。927は陶器鉢か。928・929は古代の瓦片である。

S D 59006 (第114図) 910は灰釉陶器椀で053号窓式のもの。

S D 59007 (第114図) 平安時代後期の遺物がみ

られる。930は土師器碗で斎宮III-2段階、932～935は土師器杯で斎宮III期のもの。936もこの時期のロクロ土師器杯である。937は土鍤。938は灰釉陶器深碗で、H72号窓式であろう。

S D 59008 (第114図) 939・941は中世I b期の土師器皿・鍋である。942～946は山茶碗で、初期のものから第6型式まで時期幅がある。945は内面に煤が付着する。

S D 59011 (第114図) 911は土師器杯G。斎宮II期以前か。912も同時期の須恵器杯蓋である。

S D 59012 (第114図) 914は斎宮II期の土師器甕である。国示したもの以外に、平安時代後期の遺物がある。

S K 59013 (第114図) 915・916は斎宮I期の土師器杯で奈良時代のもの。

S D 59014 (第114図) 947は弥生時代後期の広口壺で、口縁端部を拡張、垂下させる。

S D 59017 (第114図) 948は弥生土器高杯で弥生後期後半のもの。949は古代の土師器甕である。

S F 59021 (第114図) いずれも奈良時代の土師器である。950は皿で、内面に放射状暗文を施す。斎宮I-3段階、8世紀後半ごろのもの。951～952は土師器甕、953は瓶または長胴甕である。952・953は内面に幅狭のケズリがみられる。

S D 59022 (第114図) 954は粗製の土師器杯Gで、斎宮I期、7世紀後半ごろのもの。

S D 59023 (第114図) 955は須恵器瓶の頸部片で平安時代以降のもの。956は053号窓式以降の灰釉陶器碗で、内面に煤が付着する。

S K 59024 (第114図) 957は土師器皿で、見込みに線刻を施す。斎宮I-3段階、8世紀後半のもの。

S K 59025 (第114図) 958は古代の長胴甕である。

S K 59026 (第114図) 959は高台を付した須恵器碗である。奈良時代のもの。

S D 59027 (第115図) 様々な時期の遺物がみられるが、平安時代前～中期の遺物を主体とし、飛鳥・奈良時代のものも一定みられる。

978・989～993は土師器皿で、978は内面に放射状暗文、見込みに螺旋状暗文、底部外面に線刻を施す。斎宮I期のもの。979・980・982・984～988は土師器杯Aで、いずれも斎宮II期におさまるもの

である。979・980は内面に放射状暗文を施す。

981は土師器杯Gで内面に煤が付着する。7世紀後半から8世紀前半ごろのもの。1010もこの時期の甕である。983は杯類のなかでは新しく、斎宮III期以降。987も斎宮III期以降のものか。994・995は土師器杯あるいは皿片。いずれも外面に「口平」の墨書きがある。996は土師器杯蓋の摘み部。997は土製品で使途は不明。元の形状も不明確である。998～1000は須恵器杯蓋、1001～1004は須恵器杯で8～9世紀前半のもの。1005は土師器瓶、1006は鉢、1007～1013は土師器甕で、斎宮II期のもの。1014は土師器鍋、1015～1018は須恵器の貯蔵具類で、1015・1017は甕。1017は口縁部内面に線刻を施す。1016は短頸甕、1018は横瓶である。

S K 59033 (第114図) 960～966は土師器杯あるいは皿、969は甕、967は台付碗で斎宮III-1・2段階、10世紀後半から11世紀中ごろのもの。968は緑釉陶器碗で近江産か。

970～977は土鍤で、9区の土坑・ピットには土鍤が多くみられる。

S K 59034 (第116図) 1019・1020は斎宮III-1段階の土師器杯、1021は須恵器杯蓋で内面に線刻を施す。1022は緑釉陶器皿でK90号窓式。緑釉の色調は薄い。1023・1024は土師器甕で、1023は土師器杯と同時期のもの。

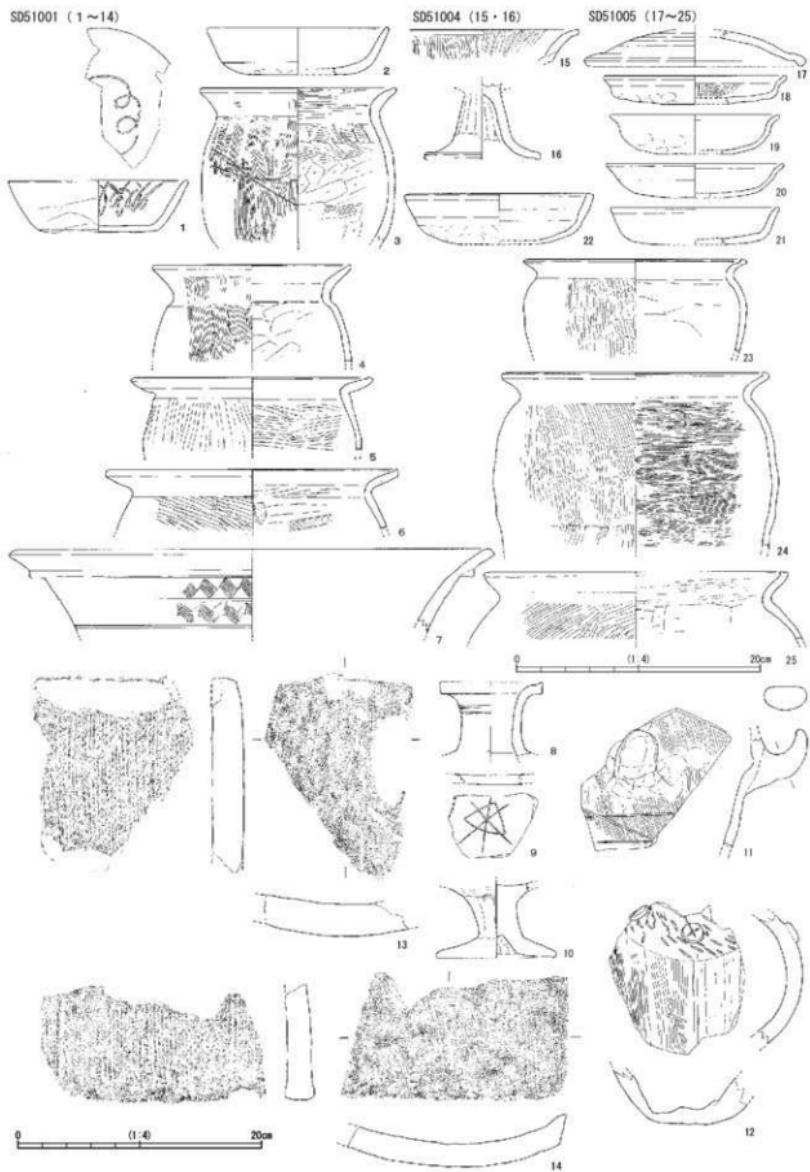
1025～1029は土鍤である。

S D 59035 (第116図) 1030は土師器杯A。斎宮II-1段階、8世紀末から9世紀初めごろのもの。1031は須恵器杯蓋。9世紀以降のもの。1032は土師器皿A。斎宮II-1段階ごろのもの。

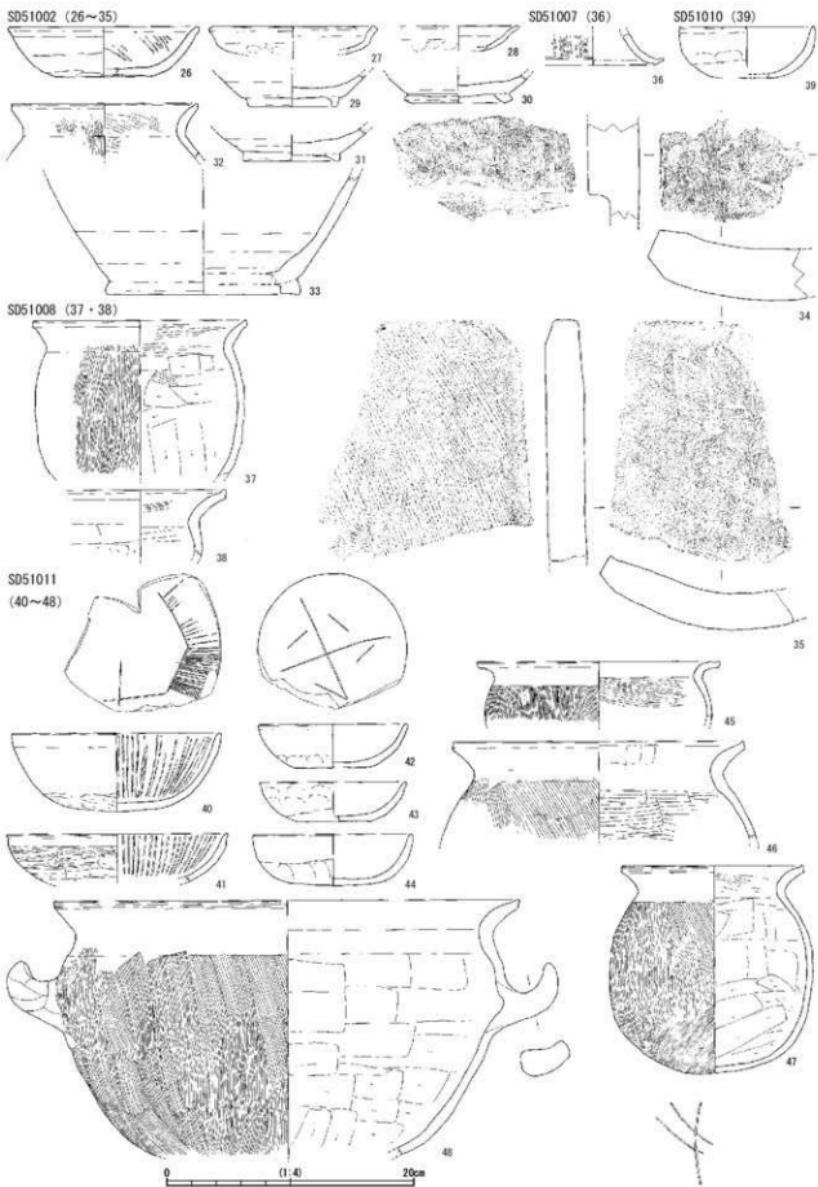
S K 59039 (第116図) 1033はロクロ土師器碗。1034は土師器杯で斎宮III-2段階、11世紀中ごろのもの。1035は土師器甕。

S K 59041 (第116図) 1036～1040は斎宮III期の土師器杯。1041・1042は黒色土器碗で、1041は両黒、1042は内黒である。いずれも斎宮III-1～2段階のもの。1043は近江産の緑釉陶器小碗、1044はH72号窓式の灰釉陶器碗である。これらは10世紀後半から11世紀初頭ごろの遺物群である。

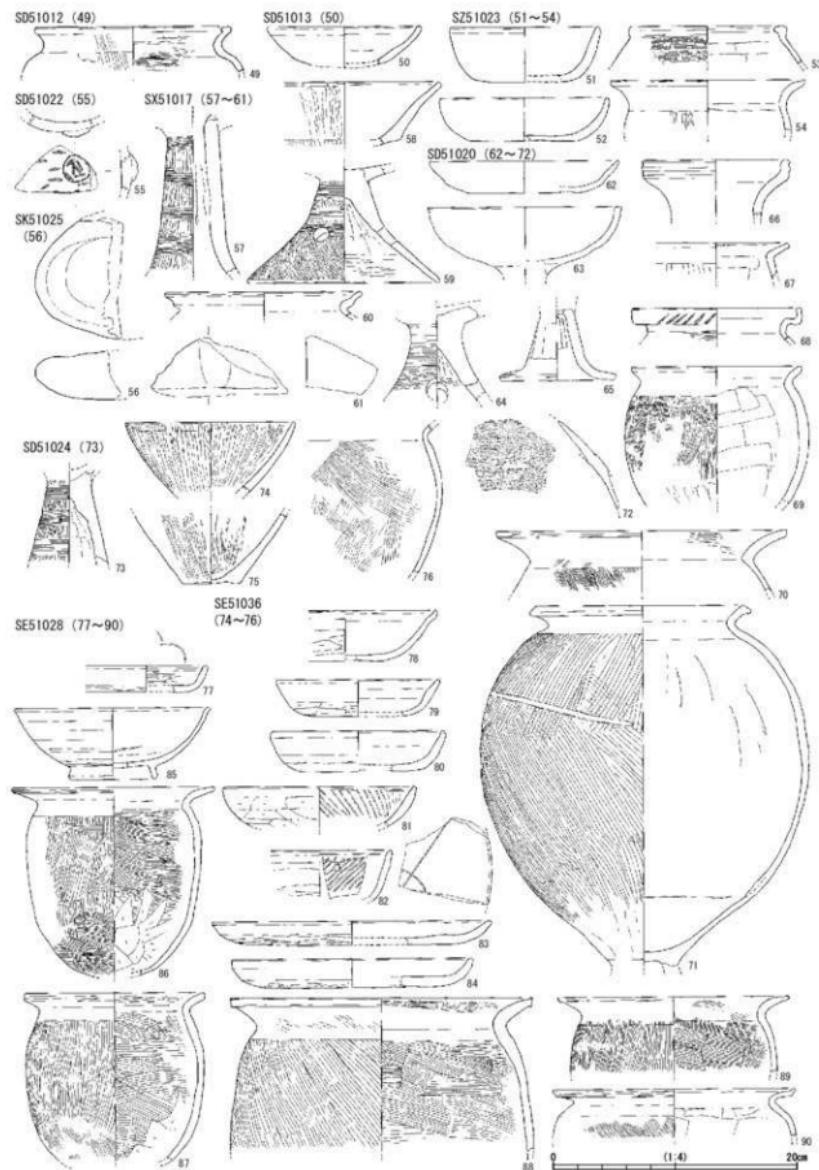
S B 59042 (第116図) 1045は掘方出土の土師器杯で、斎宮III期。



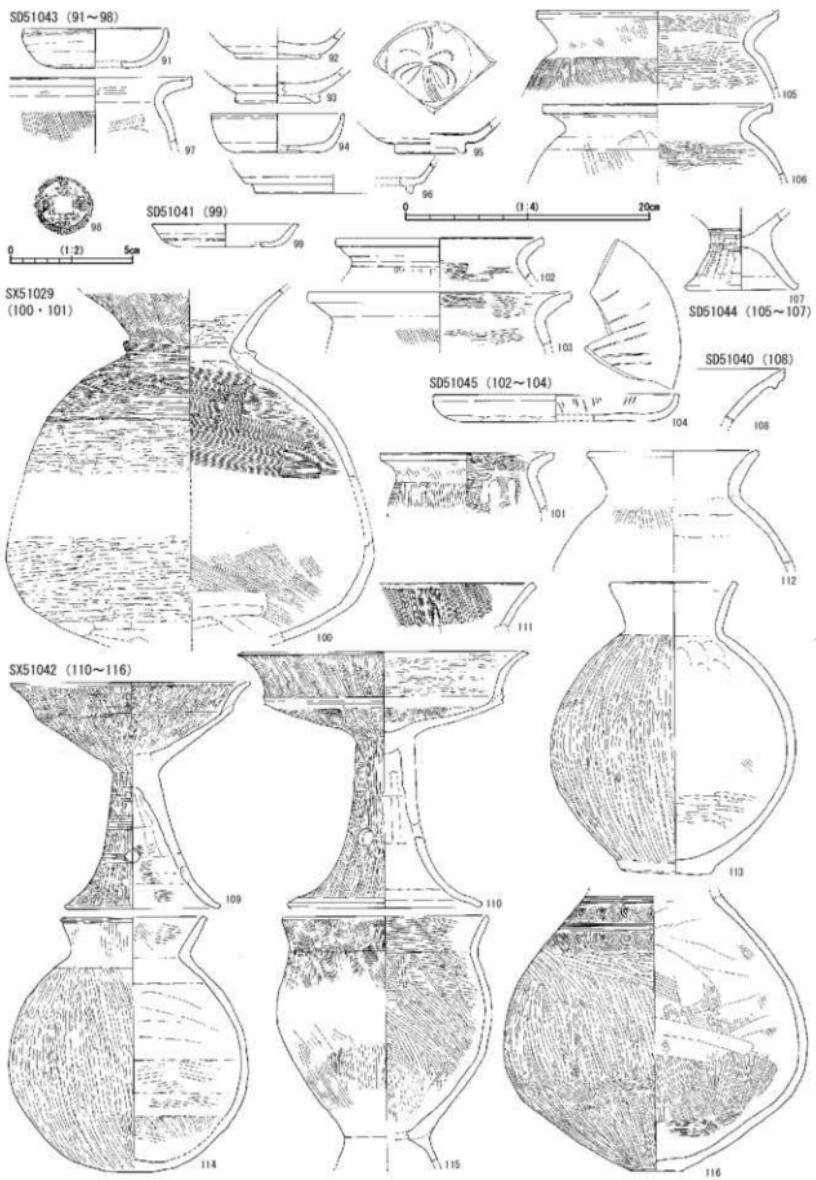
第94図 土器・陶磁器等 1区① (1:4)



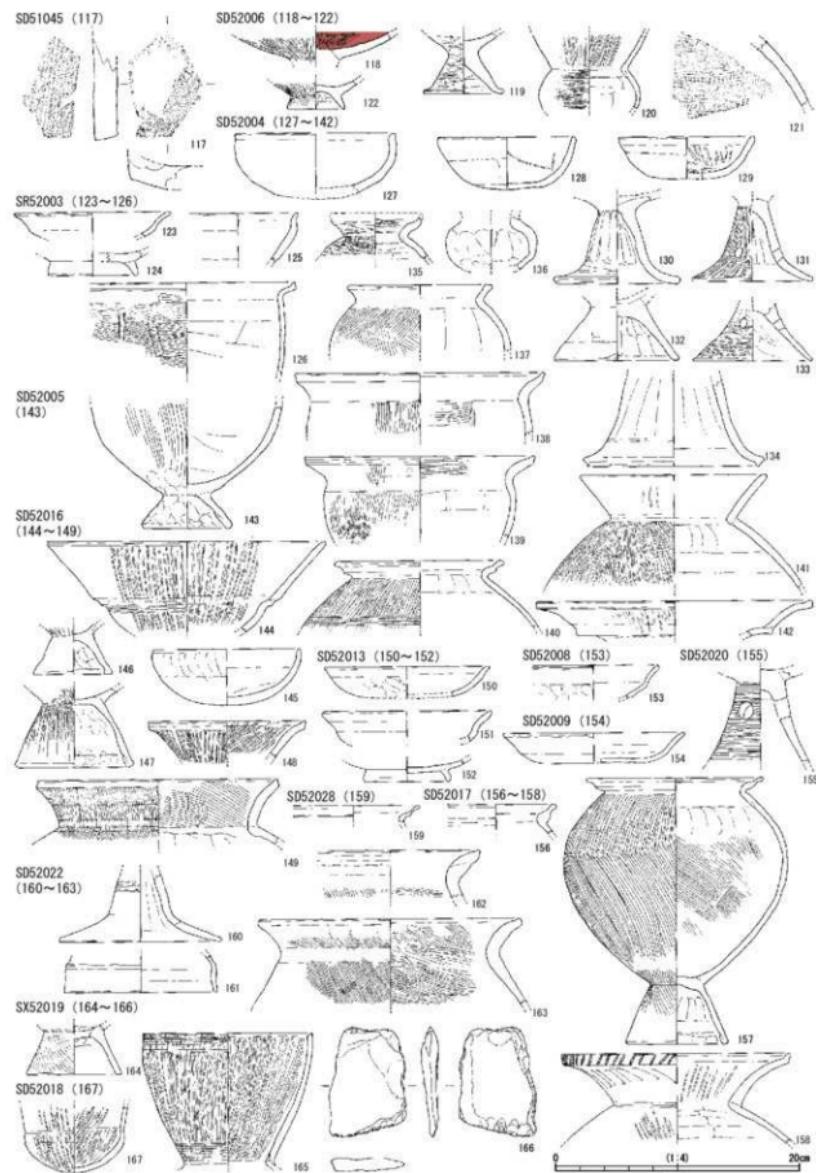
第95図 土器・陶磁器等 1区(2) (1:4)



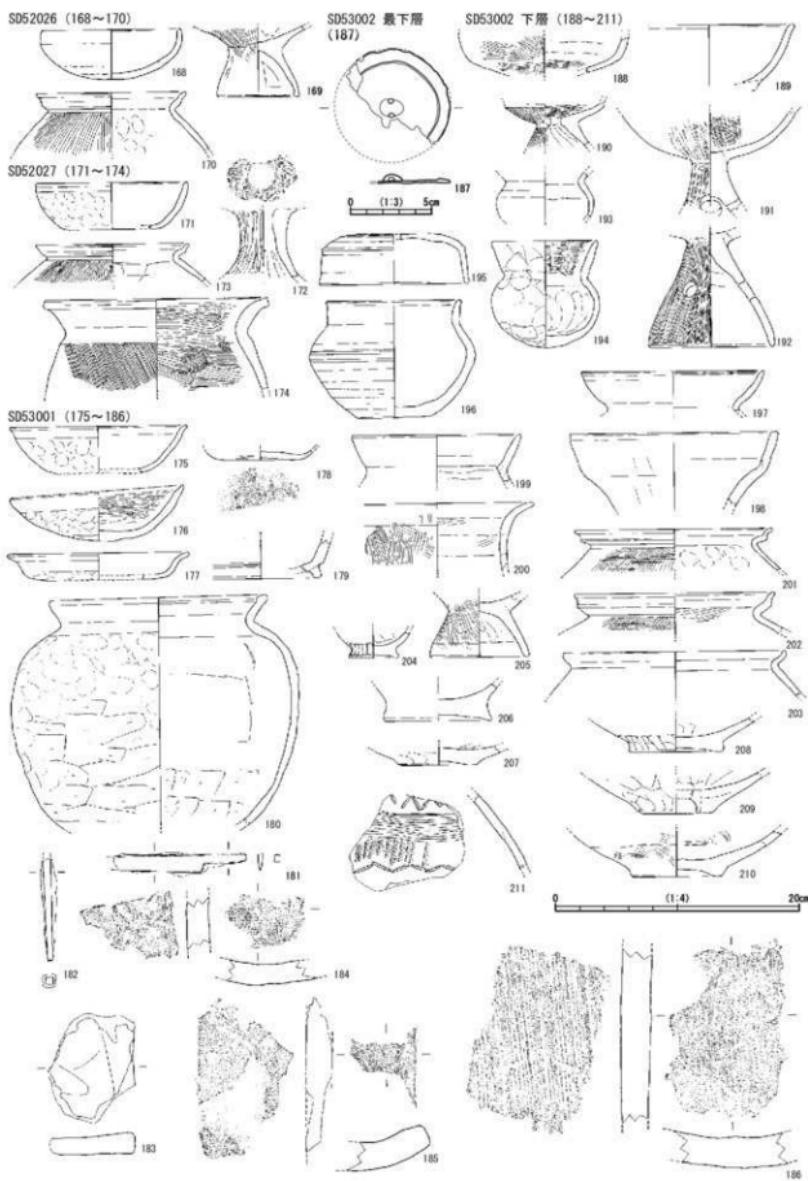
第96図 土器・陶磁器等 1区③ (1:4)



第 97 図 土器・陶磁器等 1区④ (1:4, 98 は 1:2)



第98図 土器・陶磁器等 1区⑤・2区① (1:4)

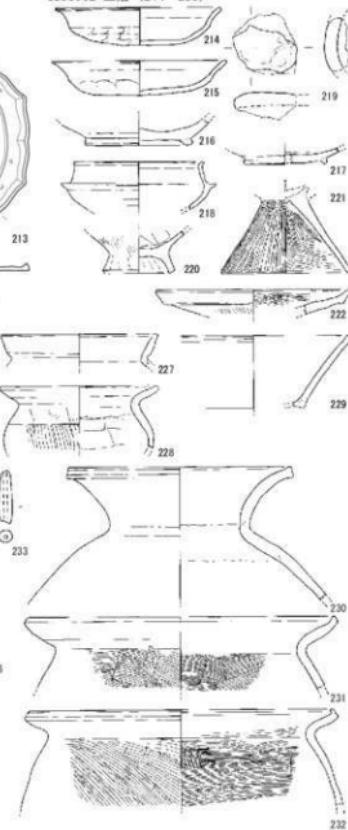


第99図 土器・陶磁器等 2区②・3区① (1:4, 187は1:3)

SD53002 最上層 (212・213)



SD53002 上層 (214~233)



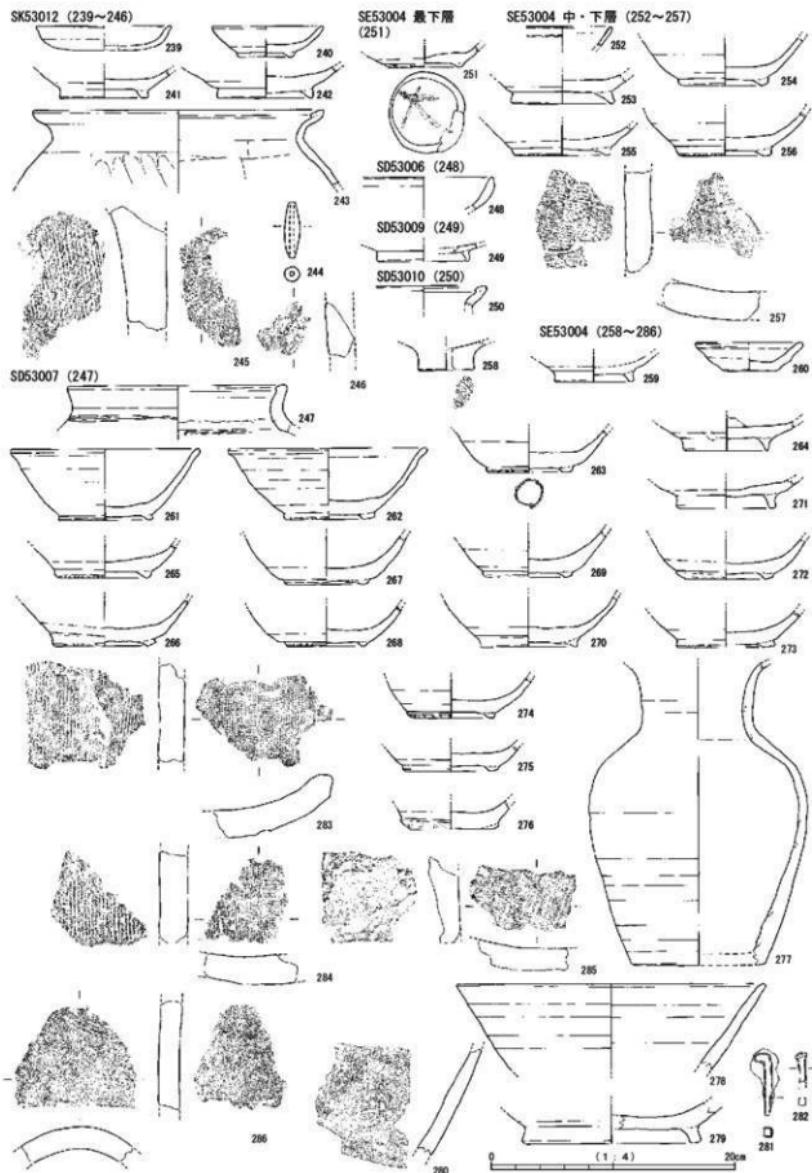
SD53003 (234~236)



SD53005
(237・238)

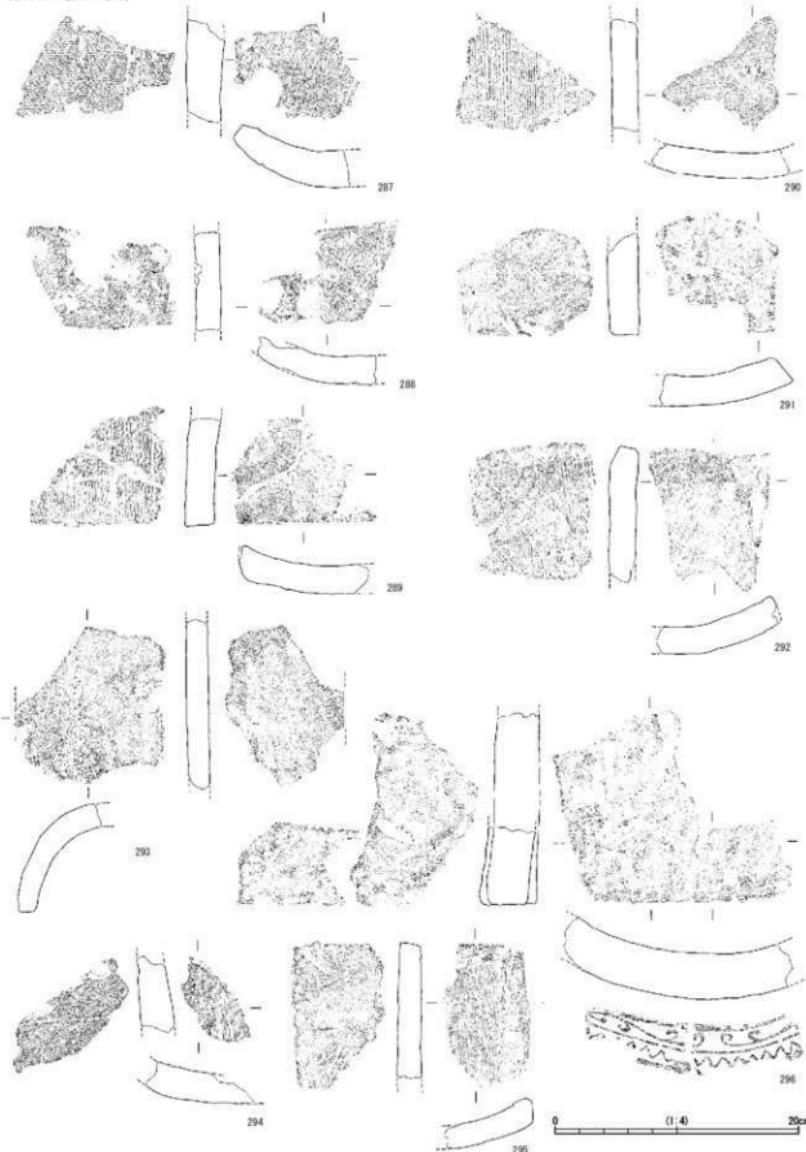


第100図 土器・陶磁器等 3区(2) (1:4、212・213は1:2)

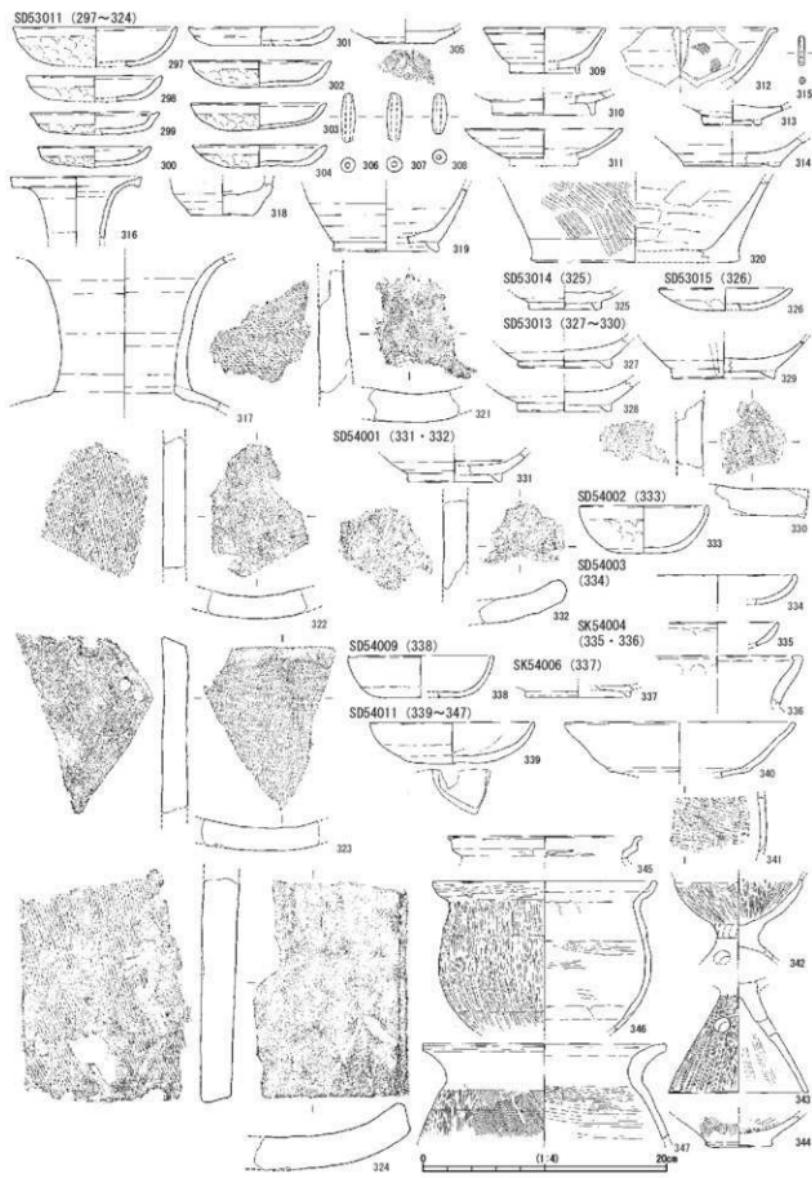


第101図 土器・陶磁器等 3区③ (1:4)

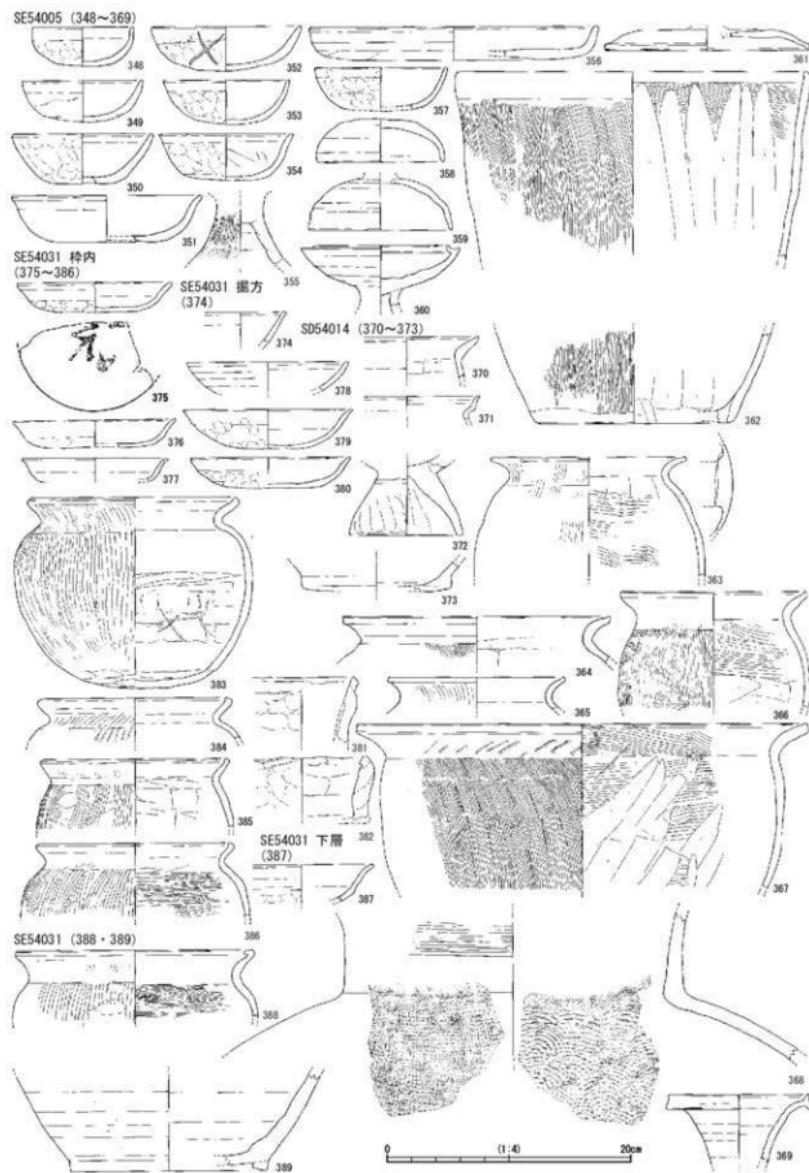
SE53004 (287~296)



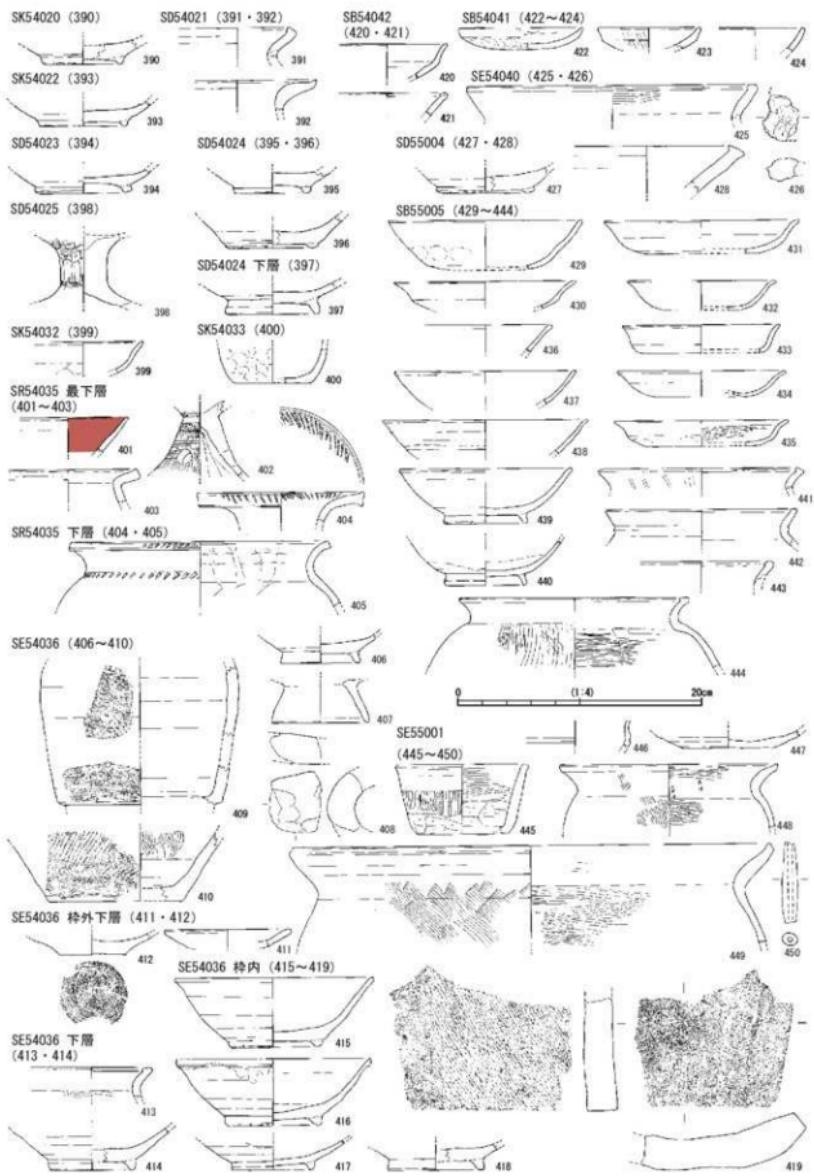
第102図 土器・陶磁器等 3区④ (1:4)



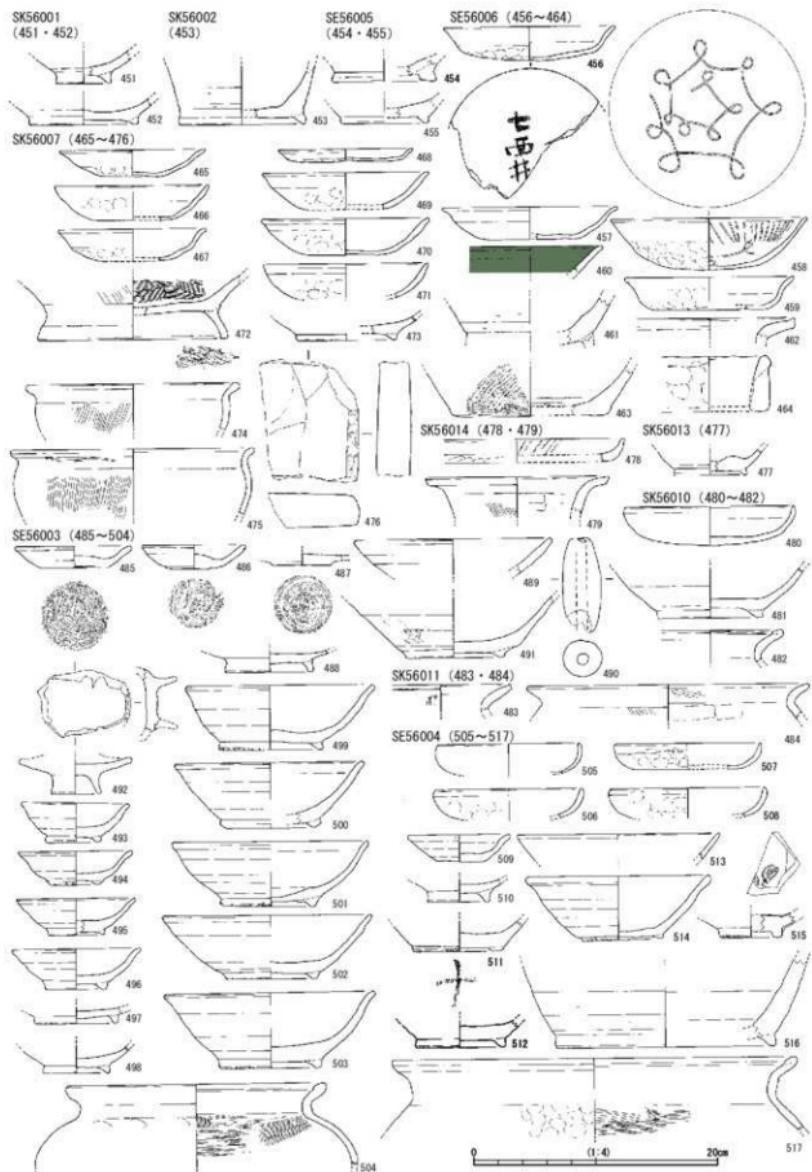
第 103 図 土器・陶磁器等 3 区⑤・4 区① (1:4)



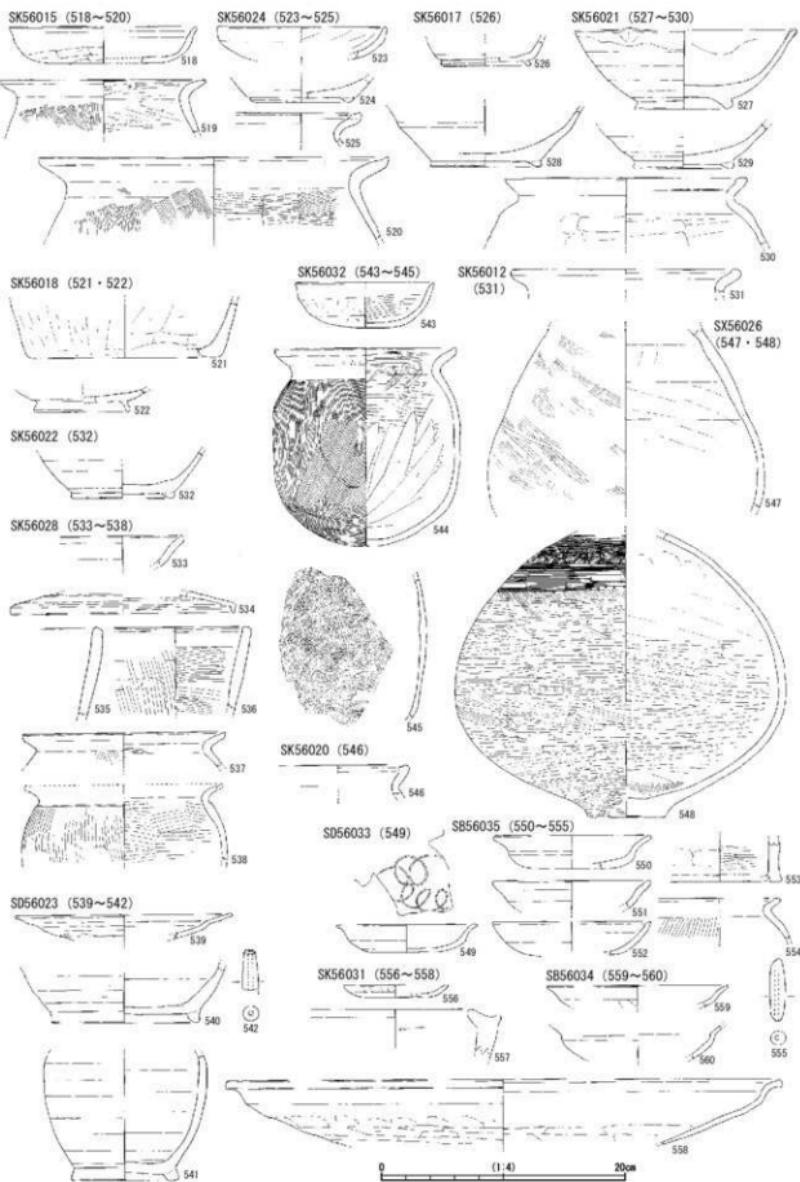
第104図 土器・陶磁器等 4区(2) (1:4)



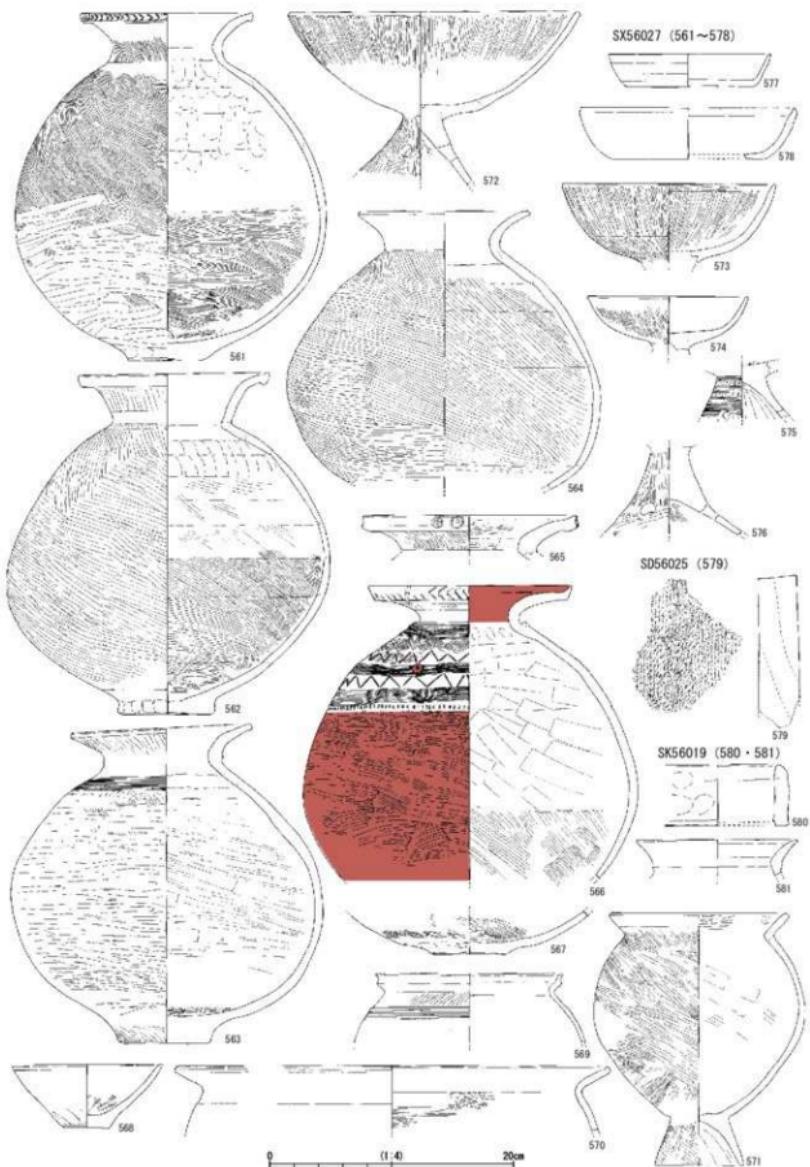
第105図 土器・陶磁器等 4区③・5区 (1:4)



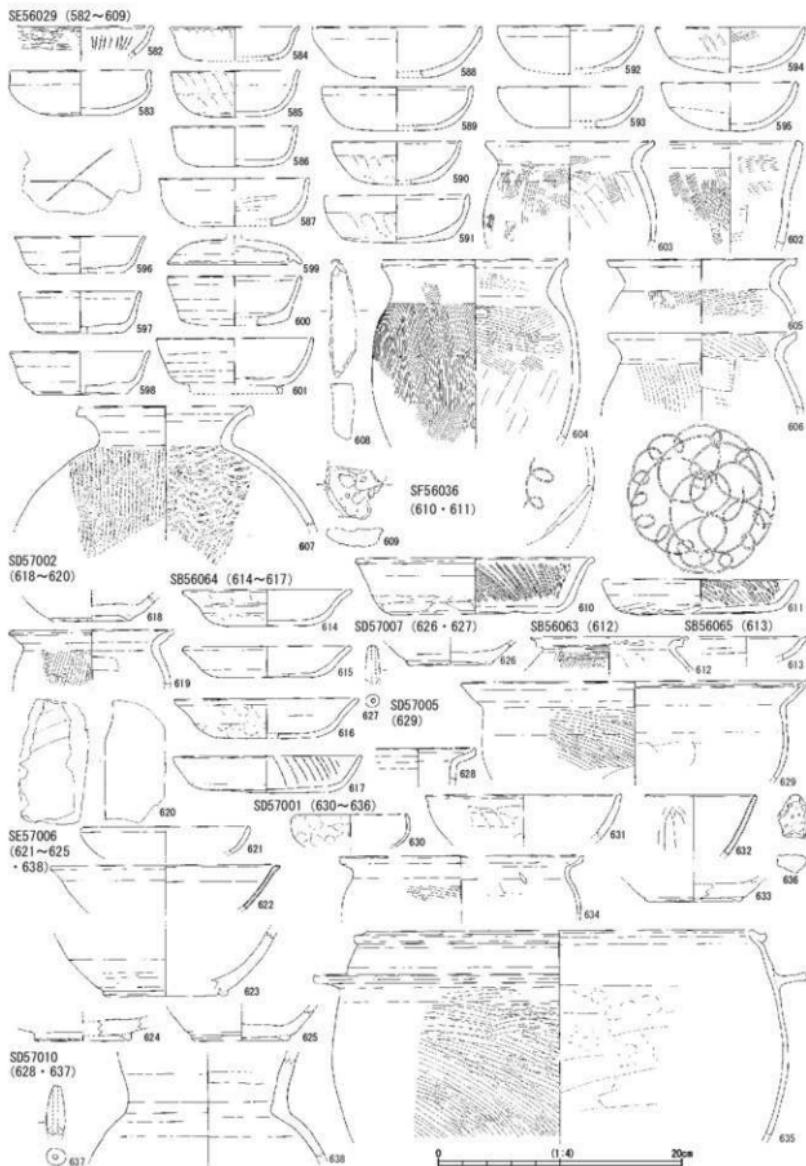
第106図 土器・陶磁器等 6区① (1:4)

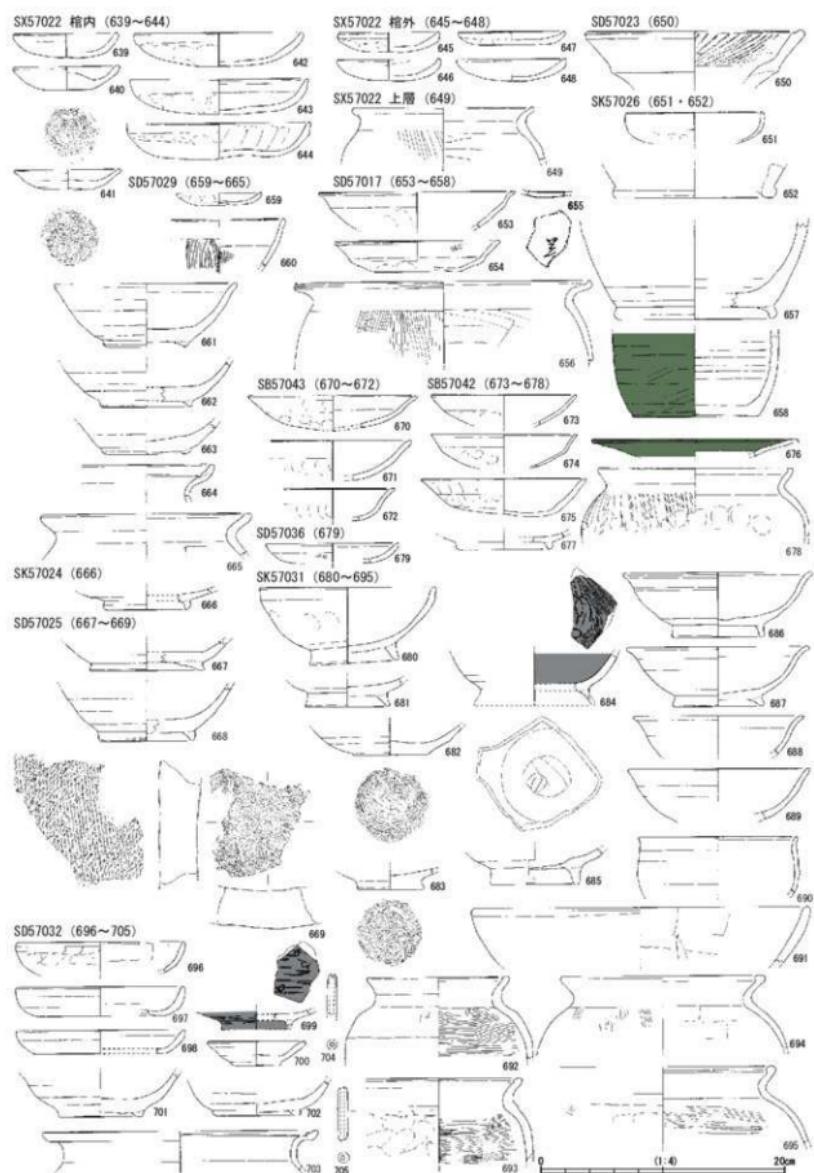


第 107 図 土器・陶磁器等 6 区② (1:4)



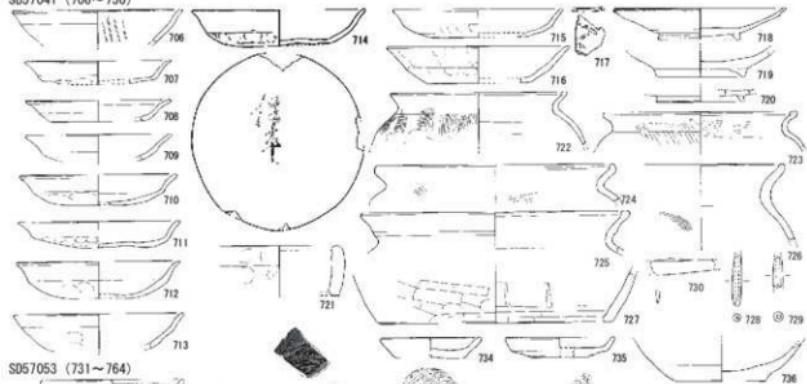
第108図 土器・陶磁器等 6区(3) (1:4)



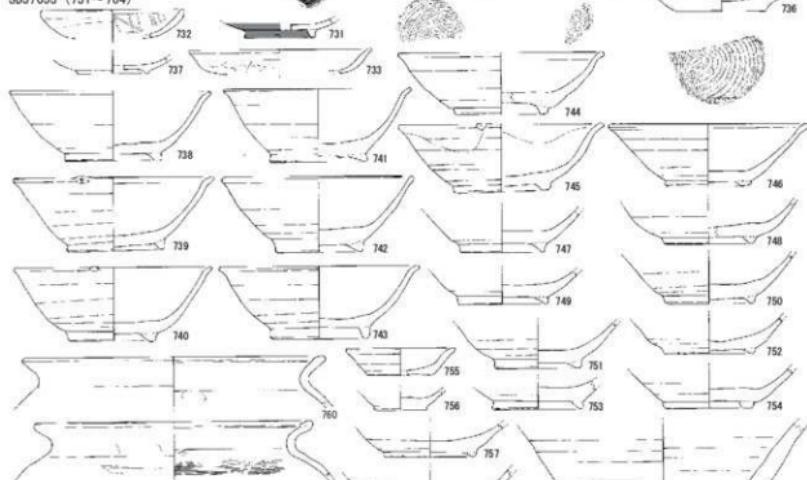


第110図 土器・陶磁器等 7区(2) (1:4)

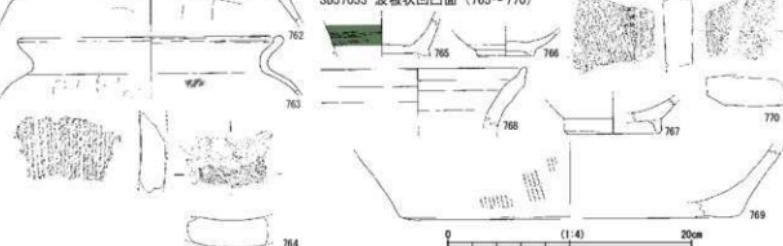
SB57041 (706~730)



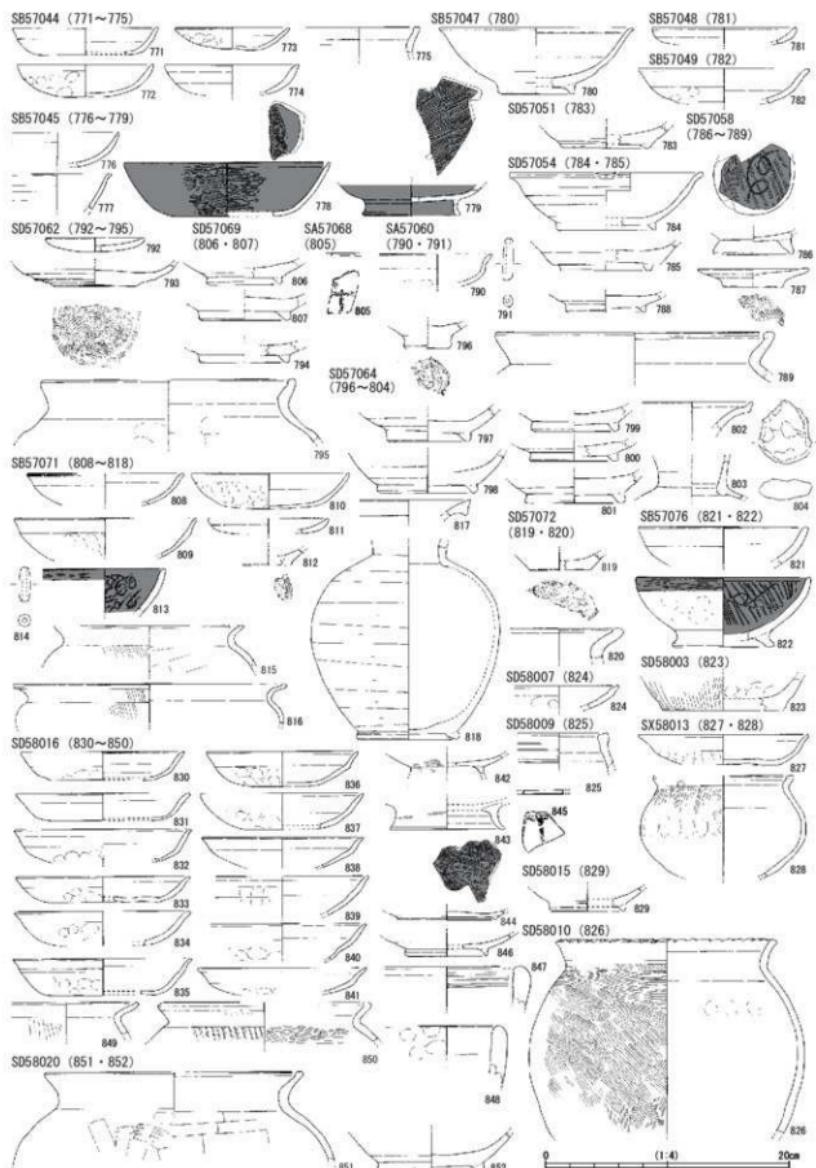
SD57053 (731~764)



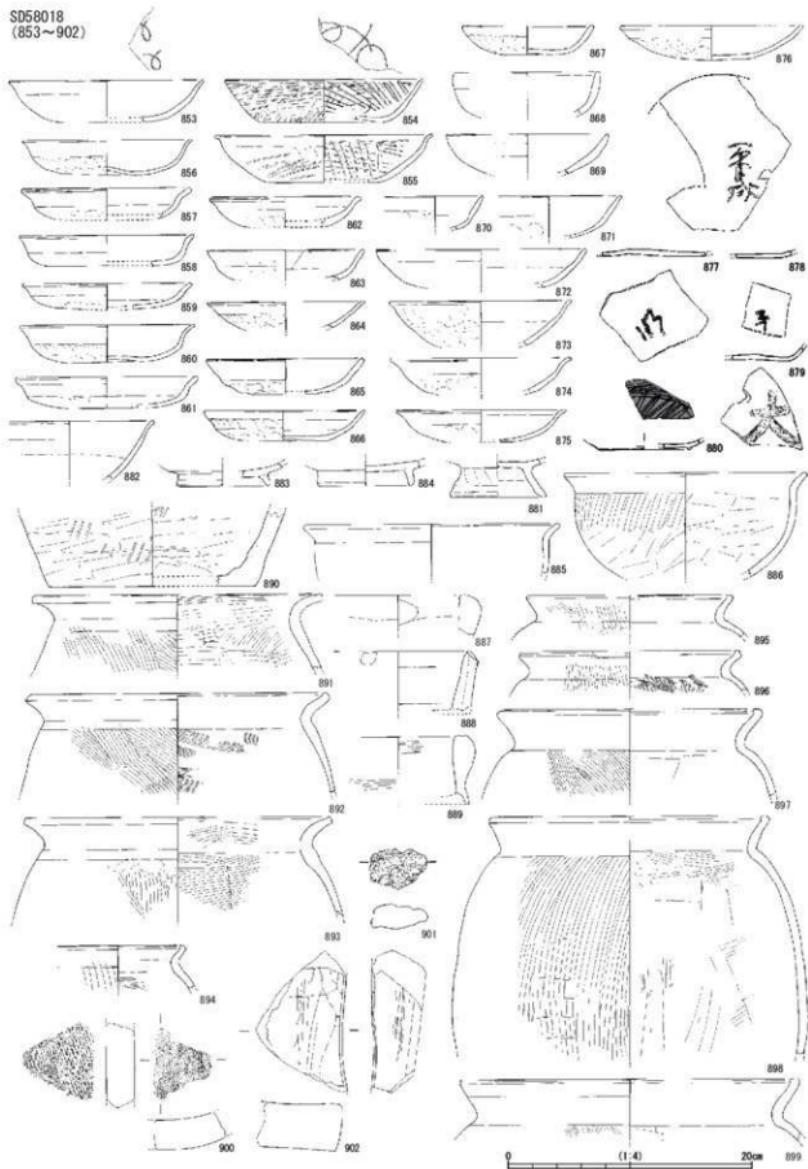
SD57053 波板状凹凸面 (765~770)



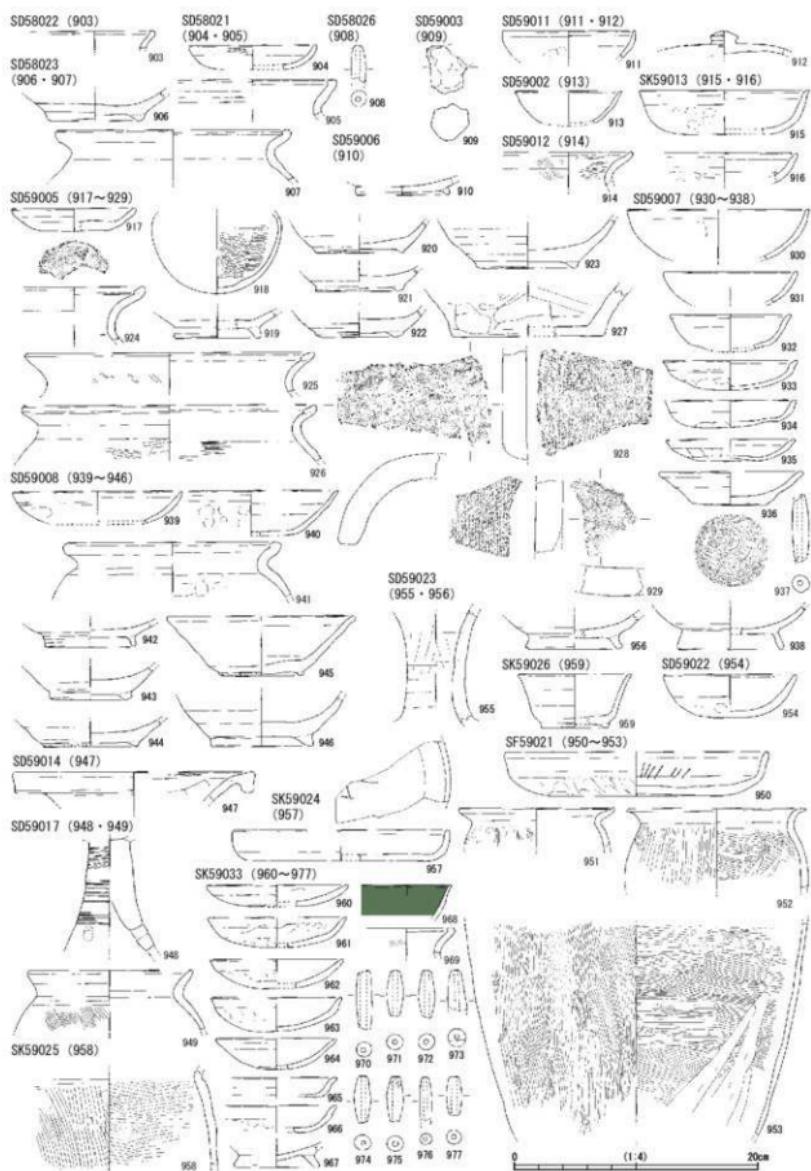
第 111 図 土器・陶磁器等 7 区③ (1:4)



SD58018
(853~902)

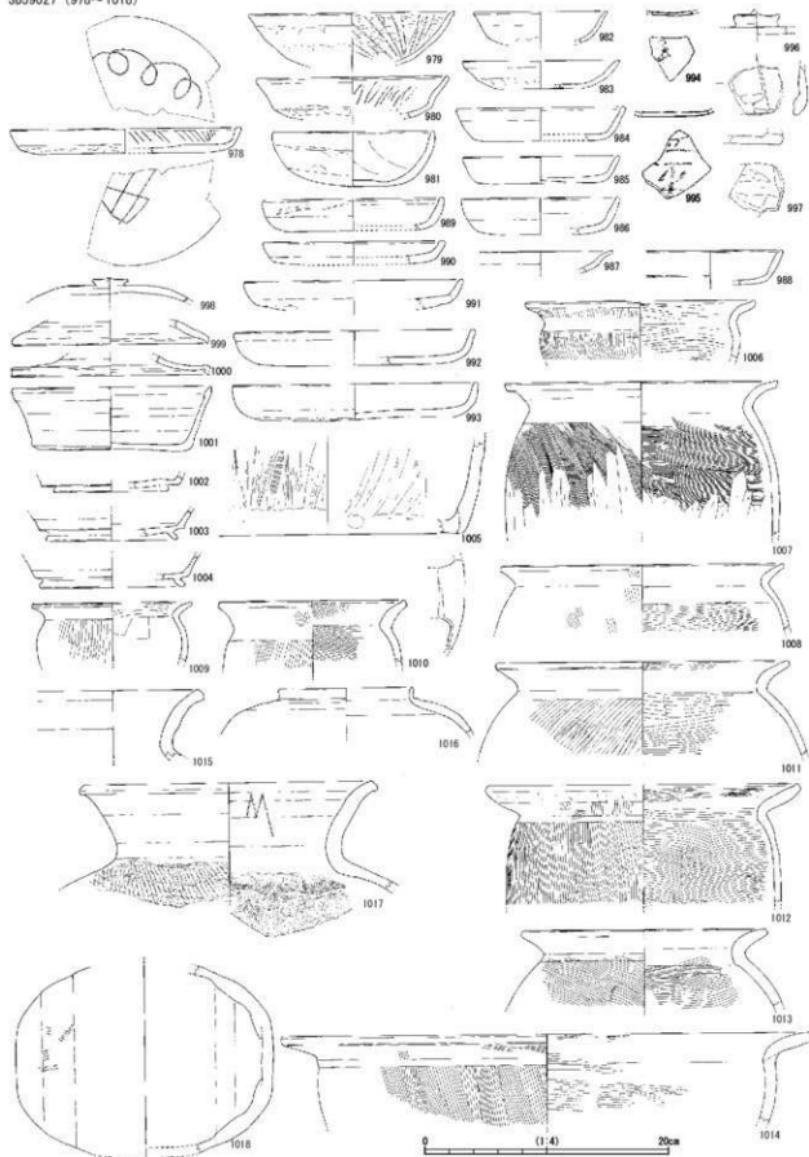


第 113 図 土器・陶磁器等 8 区(2) (1:4)

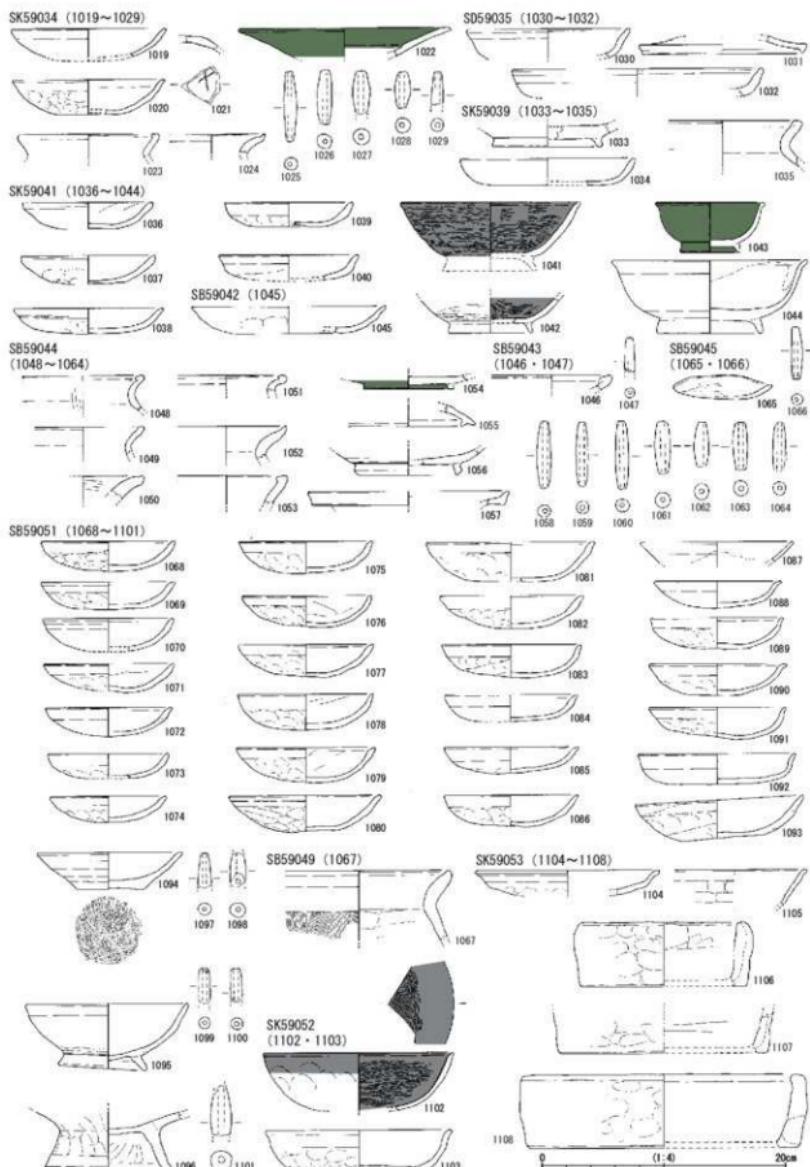


第114図 土器・陶磁器等 8区③・9区① (1:4)

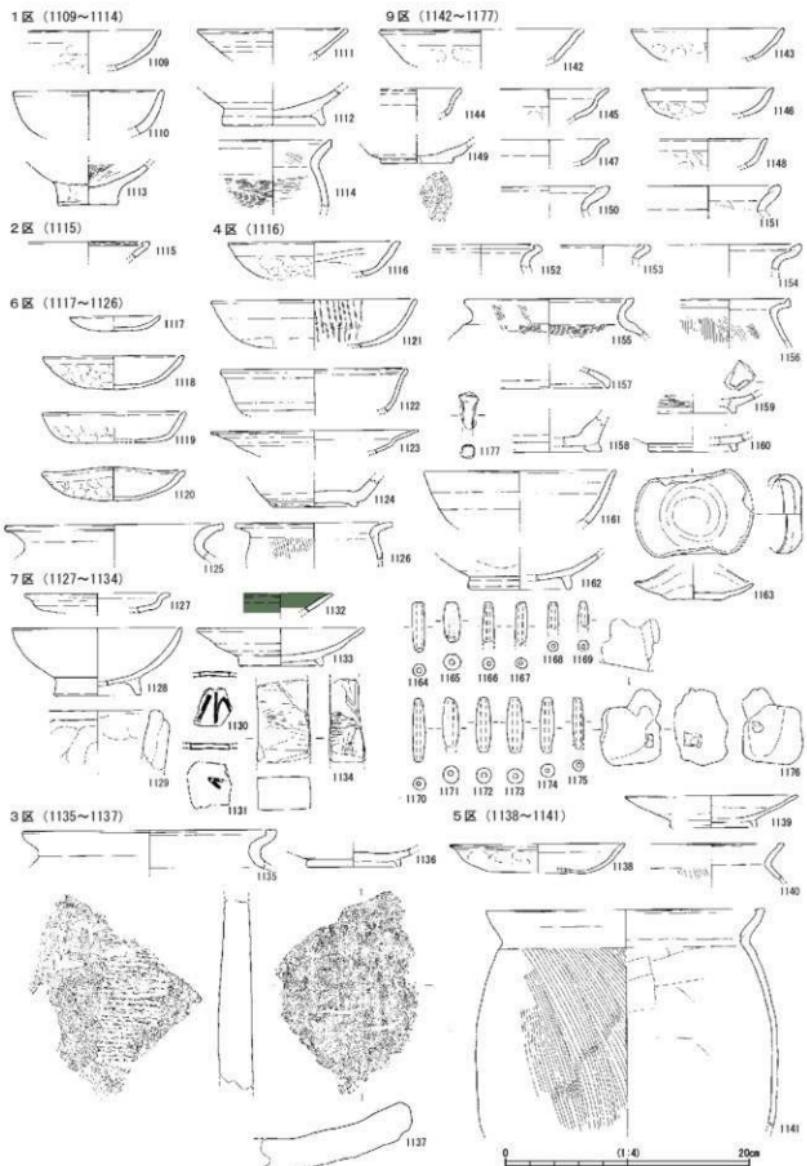
SD59027 (978~1018)



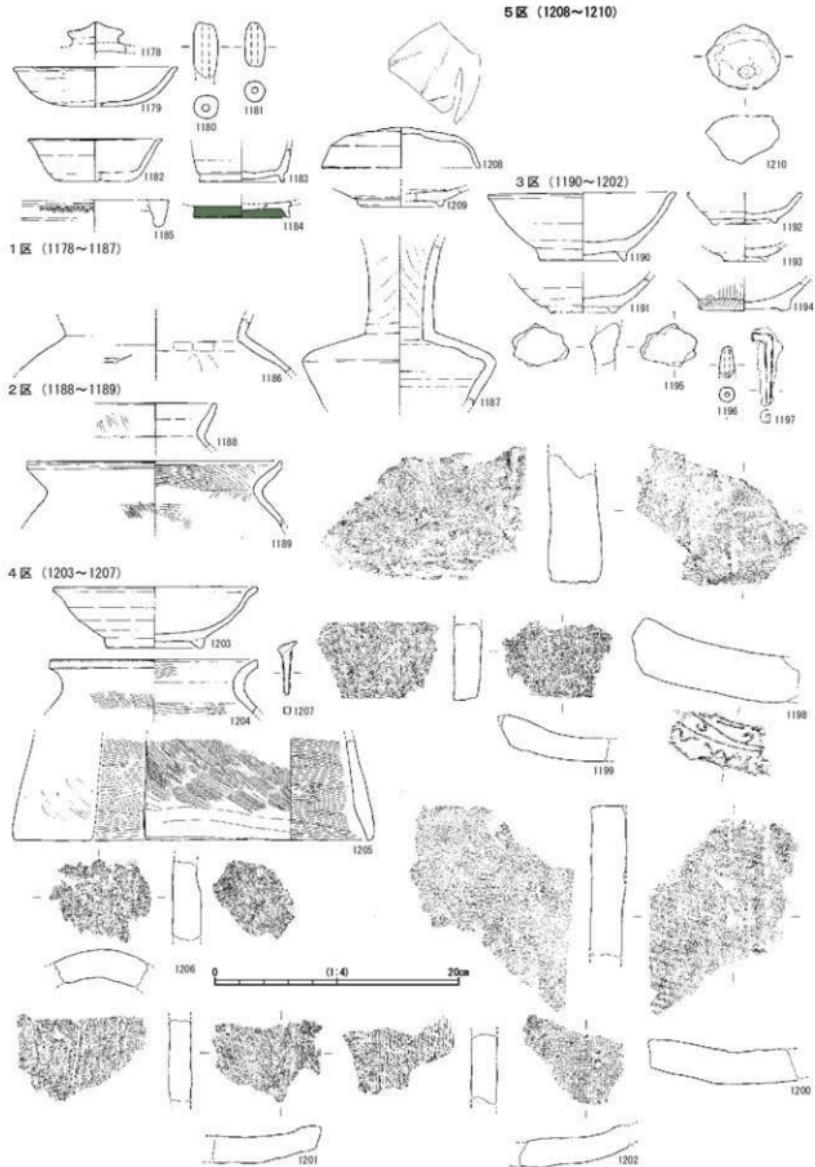
第115図 土器・陶磁器等 9区(2) (1:4)



第116図 土器・陶磁器等 9区(3) (1:4)



第117図 土器・陶磁器等 その他ピット (1:4)



第118図 土器・陶磁器等 包含層等① (1:4)

S B 59043 (第 116 図) 1046 は土師器甕あるいは鍋。1047 は土鍤。

S B 59044 (第 116 図) 平安時代中期とその前後の遺物がみられる。

1048 ~ 1053 は土師器甕で、斎宮 II - 3 ~ III - 1 段階までやや時期幅がある。1054 は縁付陶器碗で、高台疊付も施釉される。1056 は 053 号窯式の灰釉陶器瓶、1057 は灰釉陶器甕の口縁端部である。1058 ~ 1064 は土鍤で、長さ 4 cm を境として 2 種類に分けられる。

須恵器杯蓋 (1055) は周辺からの混入であろう。

S B 59045 (第 116 図) 1065 は土師器皿で斎宮 III 期のもの。1066 は土鍤である。

S B 59049 (第 116 図) 1067 は土師器甕。斎宮 II 期のもの。図示したものの他にも、奈良時代とみられる土師器甕片が出土している。

S B 59051 (第 116 図) 1068 ~ 1069・1099・1101 は P2、1080・1096 は P3、1087・1097・1100 は P4、

他は P1 の一括埋納遺物である。

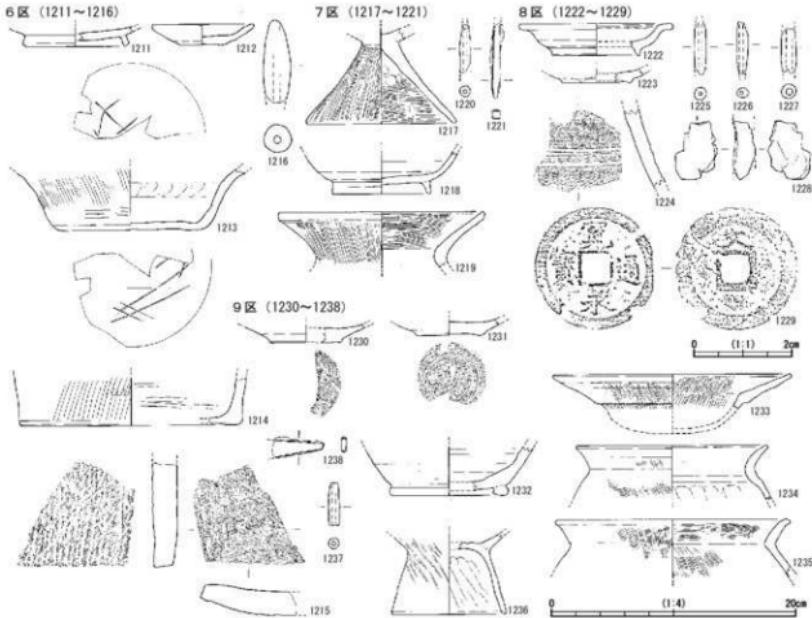
1068 ~ 1086・1088 ~ 1093 は土師器杯で、いずれも斎宮 III - 2 段階のもの。油煙や煤などの使用痕はない。1094 はロクロ土師器杯、1095・1096 は土師器台付椀である。1087 は灰釉陶器瓶で釉は潰け掛け。概ね平安時代後期、11 世紀前半の遺物群であろう。

1097 ~ 1101 は土鍤で、各ピットにみられる。

S K 59052 (第 116 図) 1102 は内黒の黒色土器杯、1103 は土師器杯で斎宮 II - 4 段階のもの。10 世紀前半の土器である。

S K 59053 (第 116 図) 1104・1105 は土師器杯で斎宮 II - 3 ~ 4 段階、9 世紀後半から 10 世紀前半ごろのもの。1106 ~ 1108 は志摩式製塗土器。

その他ピット (第 117 図) 1109 ~ 1177 は掘立柱建物以外の各区ピットの遺物である。1109 ~ 1116 は 1 ~ 4 区ピットの遺物で、1 区は建物が明確でないが、飛鳥～奈良、平安、中世各期の遺物がある。



第 119 図 土器・陶磁器等 包含層等② (1:4、1229 は 1:1)

1138～1141は5区S B 55005南妻側柱に隣接するピットから出土した遺物で、9世紀後半から10世紀前半のものである。

1117～1125は6区ピット出土である。1121は土師器杯で内面に放射状暗文を施す。須恵器杯(1122)や灰釉盤皿(1123)のほか、中世の山茶碗(1124)などがある。1125・1126は古代の土師器甕。

1128～1134は7区建物付近のピット出土遺物で、1127土師器皿は口縁部を強くヨコナデする。1128は、糸切り底の土師器台付椀。1129は志摩式製塙土器。1130・1131は平安時代の土師器杯あるいは皿片で、いずれも外面に墨書きがあるが判読できな^いい。1132は緑釉陶器皿、1133は灰釉陶器皿である。1134は白色の凝灰岩製砥石で、ノミによる成形痕と使用痕光沢がみられる。

1142～1177は9区ピット出土遺物で、平安時代前～後期の土師器・須恵器・灰釉陶器がまんべんなく出土している。またピット出土の土鍤(1164～1175)が多い点も特筆される。灰釉陶器1159は陰刻花文がある。1163は無高台の耳皿である。1176は円孔のある土製品で、用途は不明。

②包含層等（第118・119図）

完形に近いもの、出土数の少ない遺物、遺構との関係がうかがえるものを中心に図示した。

1184は緑釉陶器で皿か。1194は白磁椀の底部である。1195・1228は治金関係遺物で、1195は3区で出土した溶解炉の炉壁片、5区の1210は塊状の土製品である。1228は8区の鉄造関連遺物で、坩堝ないし溶解炉の小片。

古代の瓦は主に3区のものを図示した。なお、今回の調査では中世の瓦はまったく出土していない。1198は軒平瓦で、SD 53004出土軒平瓦同様、大雷寺魔寺と同型式である。1199～1202は平瓦。1206は4区、1215は6区出土の瓦片である。

1208は5区出土の須恵器杯蓋で、外面に火拂の痕跡が残る。1213は6区出土の土師器鉢で、見込みに線刻がある。底部外面は線刻状の痕跡があるが、作業台等の圧痕かもしれない。1222は大窓期の瀬戸美濃灰釉折縁皿で、条里坪境付近の搅乱から出土した。

1217・1219は7-1区、1233～1236は9区の自然流路 S R 59055周辺から出土した弥生時代終末期～

古墳時代の土器で、流路の時期を示す遺物である。

(土橋・櫻井)

(2) 木製品

今回の調査地は基盤層の地下水位が低く、遺構内は好気的な環境にあったため、木製品の残りは悪い。回収した木製品は井戸枠材が大半で、その中には建築部材の転用品が含まれる。井戸枠材の樹種はスギが多く、若干ヒノキ属がみられる。このうち、加工痕や部材の特徴がよく残るものを中心に図化した。

なお、井戸枠は材同士の接合関係が判明するものがあり、井戸製作や木材の転用プロセスを詳細に把握できる点は特筆される。

日常雜器は井戸水溜や釣瓶に転用された曲物、曲物底板がある程度で、他の道具は出土していない。

以下、遺構ごとに説明する。

S E 51028（第120・121図） 1239～1244は井戸枠縱板で、上部は腐食で失われる。いずれも板目の割材で、表面・側面は割肌のままでし、下端をオノ(チヨウナまたはヨキ)で粗く削ぎ落とす。1241・1242は下部に槽穴や溝状加工がみられ、垂直材など建築部材を分割した可能性がある。

1245・1246は横板で、同一母材から分割されたものか。腐食が著しいが、表裏にチヨウナの加工痕がみられ、それぞれ一か所に枘穴がみられる。

1248～1251は相欠き仕口をもつ土居板で、両面をチヨウナで粗く加工する。1247は掘方出土の井戸枠材で、前身井戸に伴うものであろう。

1252・1254～1256は下部横板で、追柾目～柾目板の両端をノコギリ等で欠き込んでいる。比較的表面調整が丁寧で、建築部材の転用かもしない。

1253は横桟で、仕口付近の木表を半円形に薄く削ぐ。同様の加工は、中坪遺跡1次 S E 52(奈良時代)などにもみられ、仕口の噛み合せを調整したものであろうか。

1257～1265は井戸枠最下部の補強材(裏込め)で、板の端材が多く一端にオノの切断痕、もう一端にノコギリの切断痕がみられる。1265は欠き込み仕口がある転用材である。これらは、井戸枠製作時に板材や建築部材を現地合わせて切断した際に生じた残材の可能性があろう。

1266は井戸最下部の水溜で、直径約62cm、高さ

約71cmのクスノキ科ニッケイ属材を削り抜く。地面上に打ち込むため下端を薄く削ぎ、表面は内外面ともチョウナで粗く加工し仕上げている。下端には1ヶ所、水通しのための欠き込みがある。上端はやや丸みがあり、円筒形の同材を積んだ当たり痕であろうか。前身井戸からの転用の可能性がある。

S E 54031 (第121~123図) 1267は井戸枠内出土の曲物で、底板が残る。釣瓶に用いたものか。

1268~1277は縦板である。主として割肌のままの板目材を用い、同一母材から割り裂いた兄弟材が含まれ、以下のものは接合も可能である。

• 1269 - 1273

• 1270 - 1277

他に、1274も1269-1273と類似し、同一母材の可能性がある。1275のみヒノキ属。

1278~1295は横桟・横板で、割肌のままの板目材にノミ・ノコギリで欠込仕口を設ける。1285のみヒノキ属で他はスギ。長手の母材を中央で半裁したものや、厚手の母材を割り裂いたものも含まれ、接合するものがある。堀町遺跡にもみられた兄弟材を対向して配置する井戸枠製作パターンが朝見遺跡でも採用されていることがわかる。材の兄弟関係は以下のとおりである。

鐵板

• 1269 - 1273 - 1274 ? (割裂)

• 1270 - 1277 (割裂)

横桟・横板

• 1278 - 1282 (切斷か)

• 1280 - 1287 (切斷か)

• 1281 - 1289 (切斷か)

• 1283 - 1288 (切斷か)

• 1284 - 1291 (割裂)

• 1286 - 1290 (切斷か)

• 1294 - 1295 (切斷か)

S E 54036 (第124・125図) すべて井戸の部材である。1296~1304は上部縦板で、絶じて残りが悪い。主にスギの板目材を用いるが、1296・1299・1303はヒノキ属、1304はコウヤマキである。1300はチョウナで丁寧に加工されており、建築部材を割り裂いた可能性がある。

1305~1308は下部縦板で、厚さ約6cm、幅約

80cm(年輪数160前後)の重厚なスギ粧目材である。小口はノコギリで整えられ、表裏と側面をチョウナで丁寧に加工する。小口付近に納穴と蟻溝状の加工がみられ、建築部材(床板等)の転用と考えられる。腐食のため接合関係は判然としないが、木取りや加工の特徴は酷似しており、兄弟材ないし使用位置が近しい建築部材の可能性が高い。1309は横桟である。

1310~1313は横板で、1310・1312はヒノキ属。いずれもチョウナで表裏・側面を丁寧に加工しており、横桟を掛けるための欠き込みを設ける。長手の板材をノコギリで2分割して対向配置しており、以下のとおり接合する。

• 1310 - 1312

• 1311 - 1313

1314・1315は水溜として積み上げられていた曲物で、共にスギ製の板目材を用い、タガは端部面取りのないものである(堀町遺跡分類のI類)。1314は下段の曲物で、下部のタガが1段残り、底板固定の木釘穴はない。1315は上段の曲物で、3段のタガを2本の楔で固定する。底板固定の木釘のほか、各タガにもタガと側板を固定した木釘がみられ、度々補修された後、井戸に用いられたと推測される。

S E 56003 (第126図) すべて井戸材で、腐食のため残りは悪い。1316~1322は縦板でスギ板目材を用い、下端はオノで粗く裁ち落とす。1323・1324は横板ないし土居桁で、腐食著しい。

1325は水溜に用いた曲物の残骸である。樹種はスギで木釘穴が複数みられる。

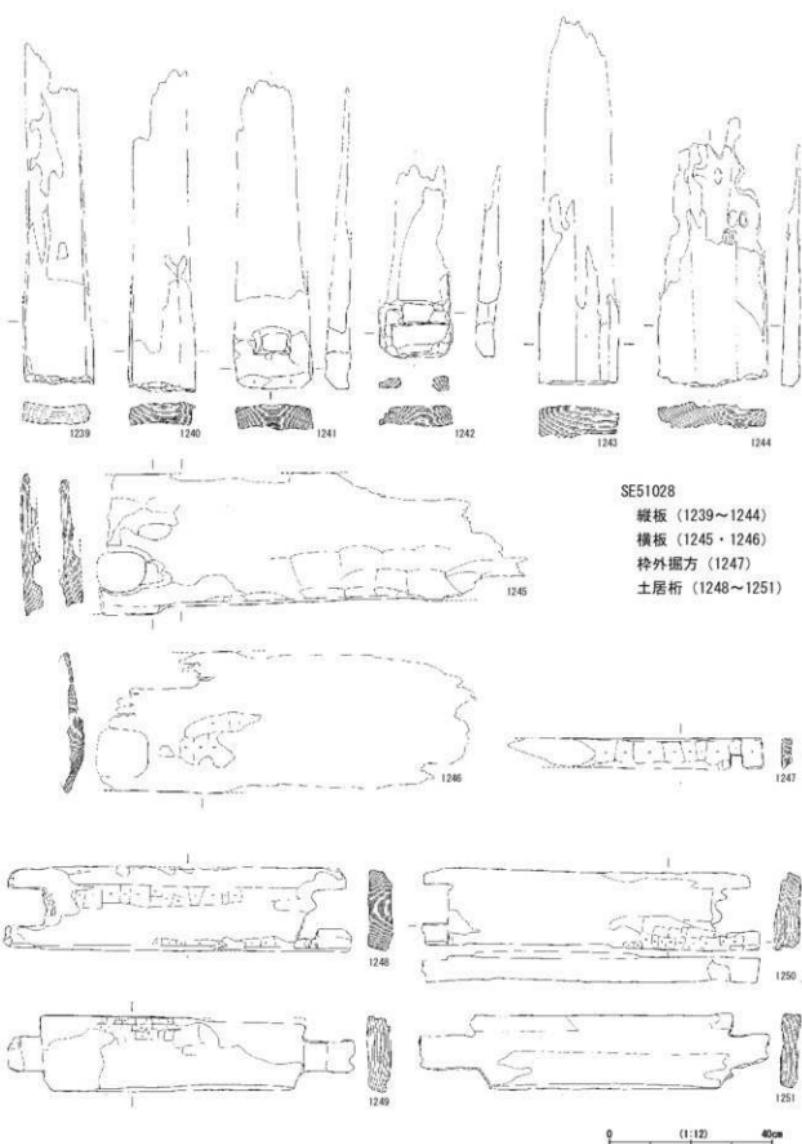
S E 56004 (第126図) 1326は最下部の水溜に用いた曲物で、下段のタガ付近が残る。下端に木釘穴が多数あり、補修を繰り返した後、井戸に供されたとみられる。1327は曲物底板で、平面形は梢円形である。内面側に黒色の付着物がみられる。

S E 56006 (第126図) 1328は土居桁で、両端に欠き込み仕口を設ける。樹種はヒノキ属。

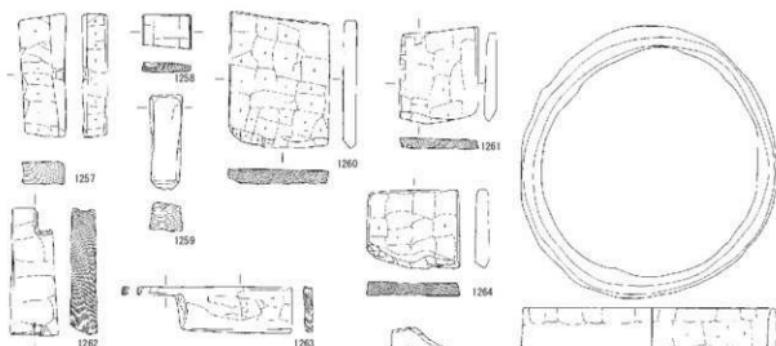
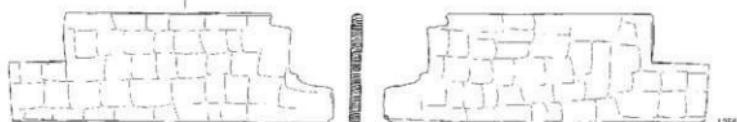
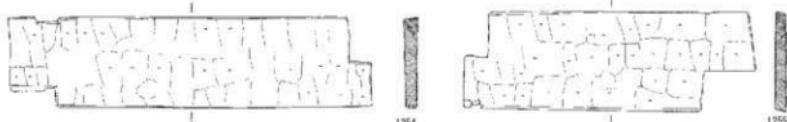
(3) 動物遺体

3・7・9区でウマ臼歯などが出土している¹⁷⁾。いずれも細かく割れ、残りは悪い(写真図版98)。調査区ごとに概要を記述する。

3区 SD 53011や溝内堆積であるSK 53012から大型哺乳類の骨や臼歯が出土しているが、同定は困



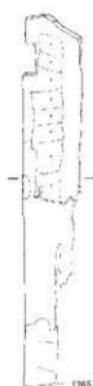
第120図 木製品 1区① (1:12)



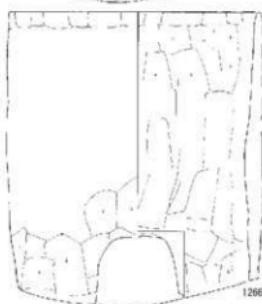
SE54031
井戸枠内
(1267)



0 (1:4) 20cm



0



SE51028

模板・横棟 (1252~1256)

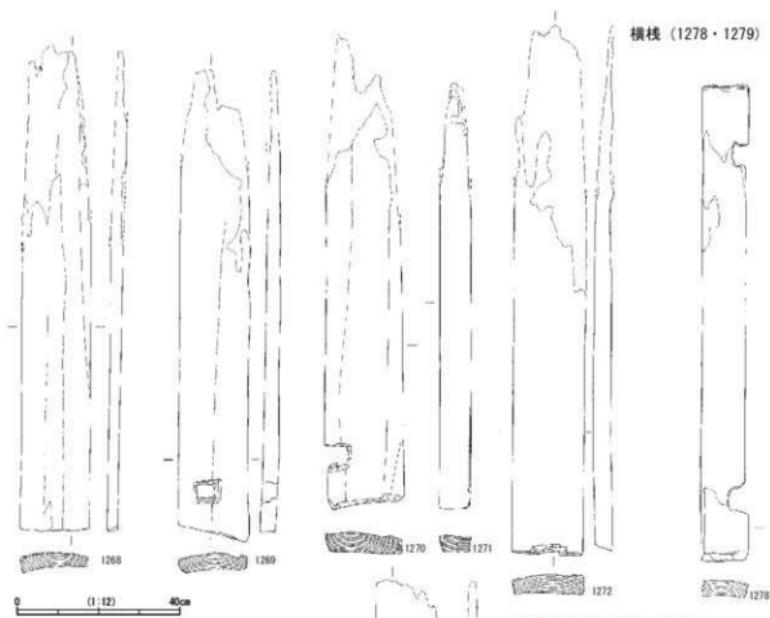
補強材 (1257~1265)

水溜 (1266)

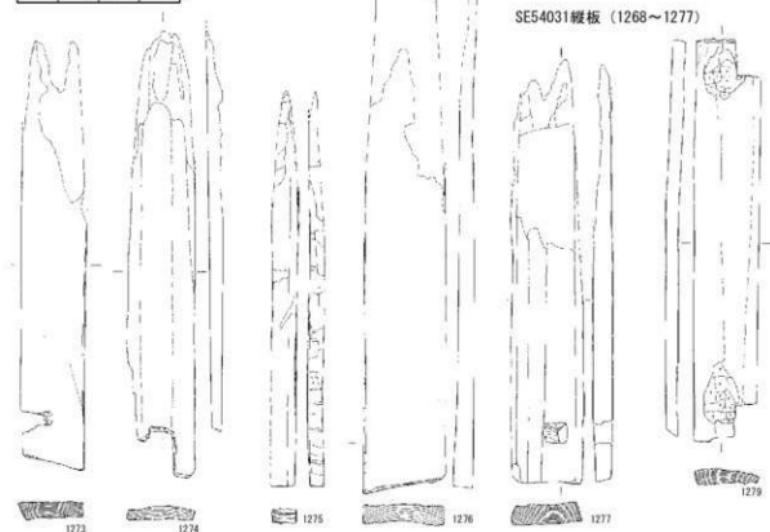
0 (1:12) 40cm

第121図 木製品 1区②・4区① (1:12, 1267は1:4)

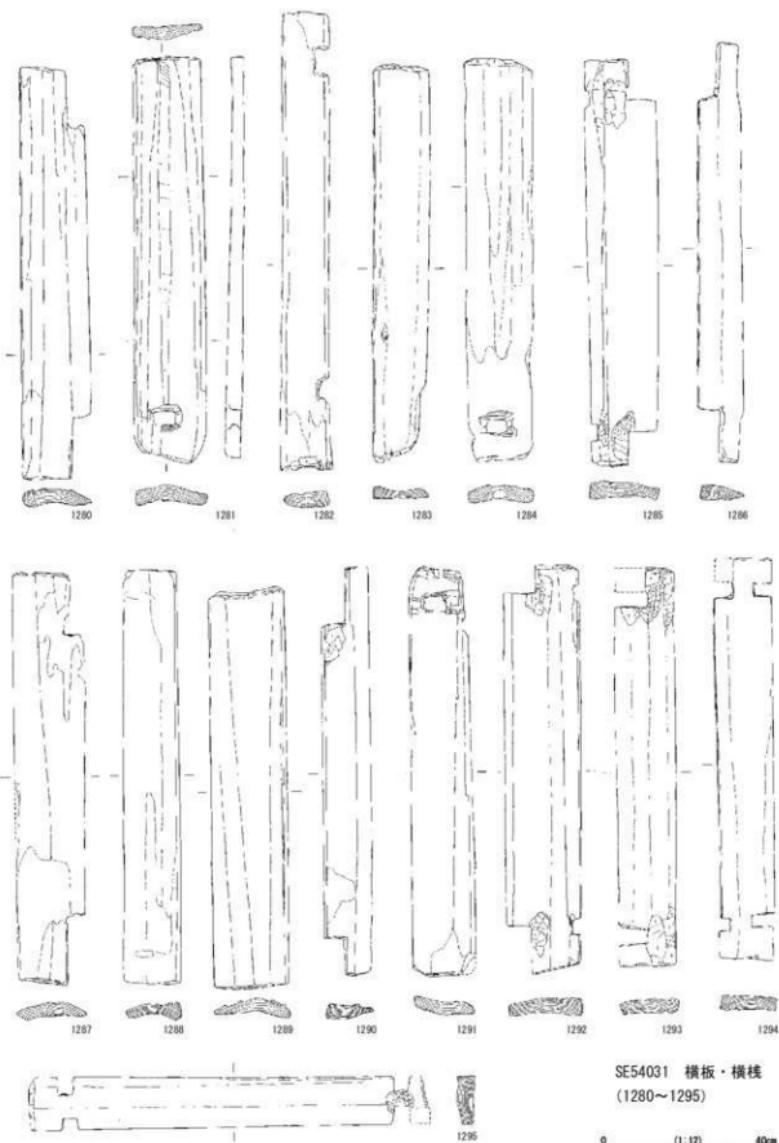
横棟 (1278・1279)



SE54031縦板 (1268~1277)



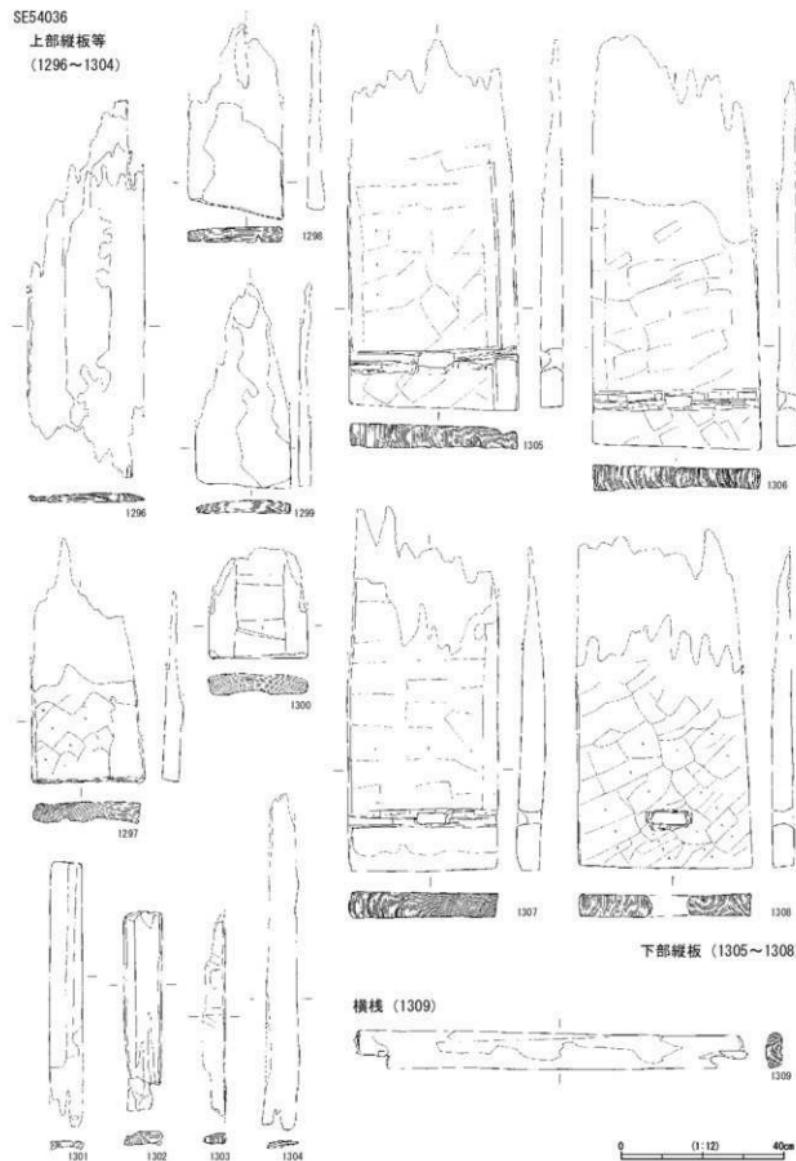
第122図 木製品 4区② (1:12)



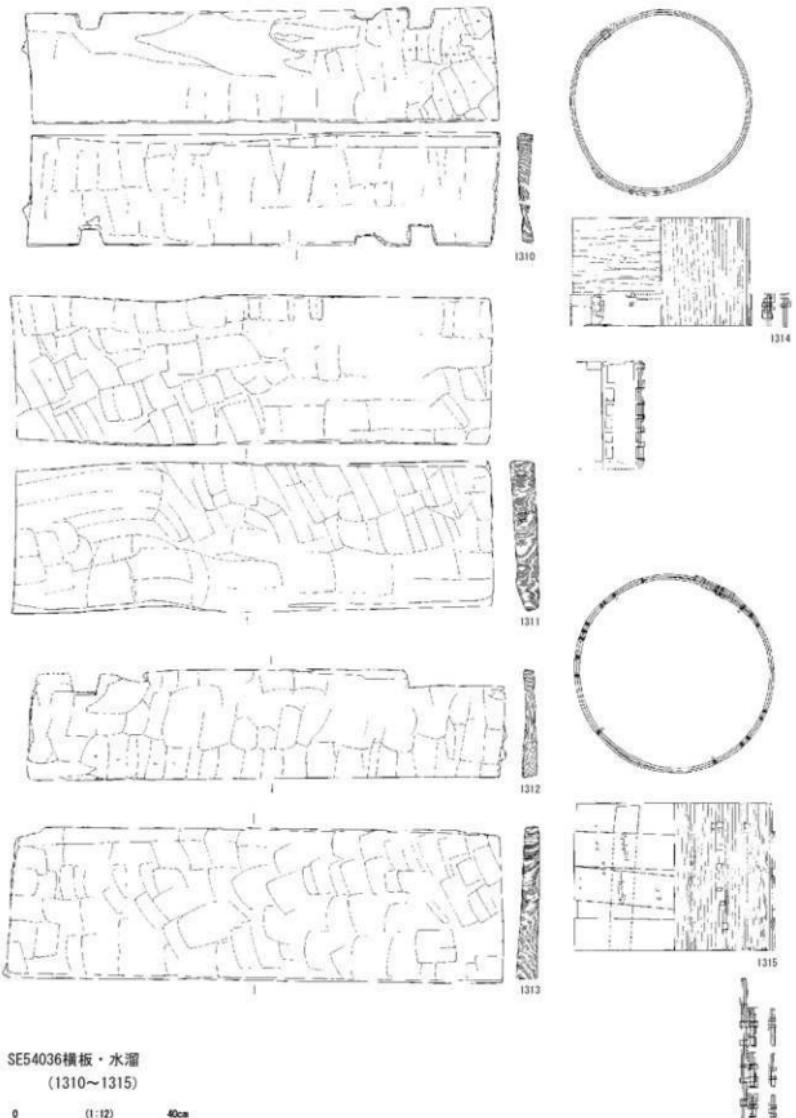
第123図 木製品 4区③ (1:12)

SE54036

上部縦板等
(1296~1304)



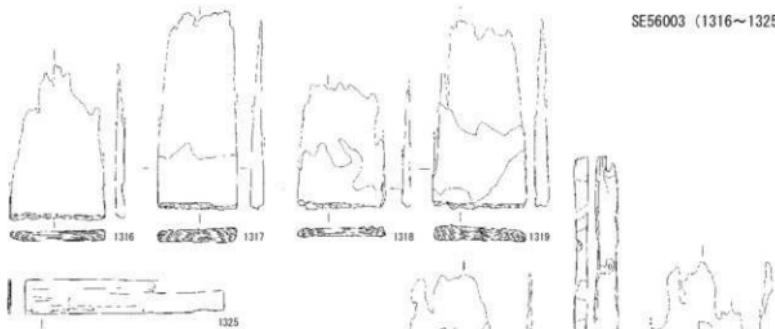
第124図 木製品 4区④ (1:12)



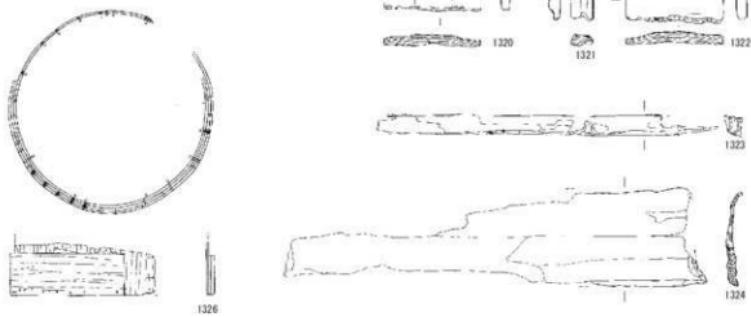
SE54036横板・水溜
(1310~1315)

(1:12) 40cm

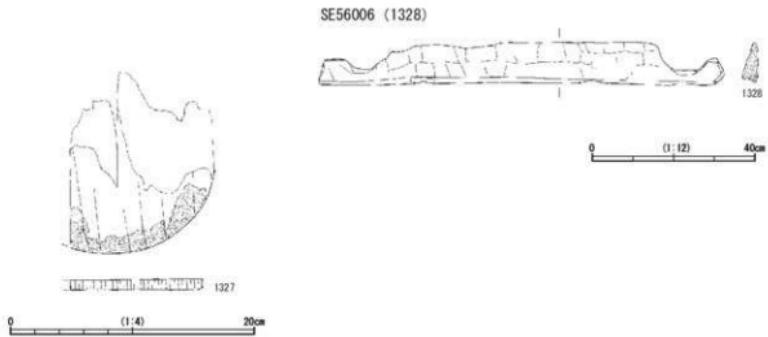
SE56003 (1316~1325)



SE56004 (1326・1327)



SE56006 (1328)



第126図 木製品 6区 (1:12、1327は1:4)

難なものが多い。これらは溝に投棄されたか、流水により周辺から流入したものであろう。

S D 53005 のウマ臼歯は全長 6.5cm、S D 53001 青灰色砂出土ウマ臼歯は全長 3.5cm で老齢馬の可能性がある。

7 区 S D 57053・57062 関連で、ウマの臼歯が複数出土しており、特に S D 57053 内の波板状凹凸面からの出土（第 81 図）が特筆される。S D 57053-P4 では、ウマ上下顎臼歯が混在している。残存長は 5.5 ~ 6.5cm、P5 も臼歯で、残存長 3.5cm である。

9 区 S K 59033 から焼骨小片が出土したが、動物種は不明である。
(櫻井)

3. 繩文時代の遺物

本節では、下層出土の繩文土器・石器を扱う。

各調査区のうち、遺構が確認できたのは 1 区と 6 区だけであったため、1 区と 6 区についてはそれぞれ遺構出土遺物と包含層出土遺物（6 区については埋積浅谷出土遺物も含む）を地区ごとに解説し、その他の地区出土のものは一括して扱う。

朝見遺跡では、繩文時代の遺物は上層遺構（弥生時代～中世）に混入のかたちでも多く出土したが、明らかに時期の異なる遺構への混入遺物は、当該の遺構出土遺物から分離して包含層と同じ扱いとし、「包含層」として一括した。

以下、1 区、6 区、その他調査区の順で解説を加える。包含層等の個々の出土地点は遺物観察表に記したので必要な際は参照されたい。

（1）繩文土器

① 繩文土器の分類（第 127 図）

朝見遺跡 5 次出土繩文土器の主体的な所属時期は中期末にあり、一部後期初頭から前葉のものを含む。無文土器の一部など、どちらに帰属するのかいまひとつ不分明なものもあるが、有文土器についてはほぼ時期的分類が可能である。

以下、繩文土器の記載ができるだけ簡潔に行うため、最初に量的主体をなす中期末（一部後期初頭を含む可能性がある）の土器を中心に、朝見遺跡 5 次調査出土繩文土器の形式分類を提示する。分類にあたっては、京都大学理蔵文化財研究センターから

1980 年に刊行された北白川追分町繩文遺跡の調査における土器分類¹⁰⁾を参考しながら、主に器形及び文様の特徴をもとに分類した。

ただし、浅鉢については、深鉢に比べて大形破片が乏しく、小破片の場合深鉢との分別がいまひとつ不明なものが多い。そのため、分類は最小限にとどめた。以下、その概要を述べる。

深鉢 A 類 口縁下にすぐ渦巻区画文による文様帯をもつものを一括した。口縁全体が緩やかに波打つ波状口縁と主文様部の頂部のみが僅かに立ち上がる波状口縁のほか、平縁も存在する。主文様の渦巻文と從文様の梢円形区画文が一体化したものから、主文様と從文様が分離化したものがあり、文様表出も隆帶を多用するものから、沈線ないしは条線によるものがある。

文様帶の分離化と文様表出の違いから、深鉢 A 類を 1 ~ 5 に細分する。

A 1 主文様と從文様が連結し、文様表出を隆帶のみで行うもの。

A 2 主文様と從文様は連結しているが、文様表出を隆帶に加え沈線で行うもの。

A 3 主文様と從文様は連結しているが、文様表出が沈線のみで行うもの。

A 4 主文様と從文様が独立し、文様表出は沈線のみで行うもの。口縁部文様帶の下位に多重沈線による連弧文を配するものもある。

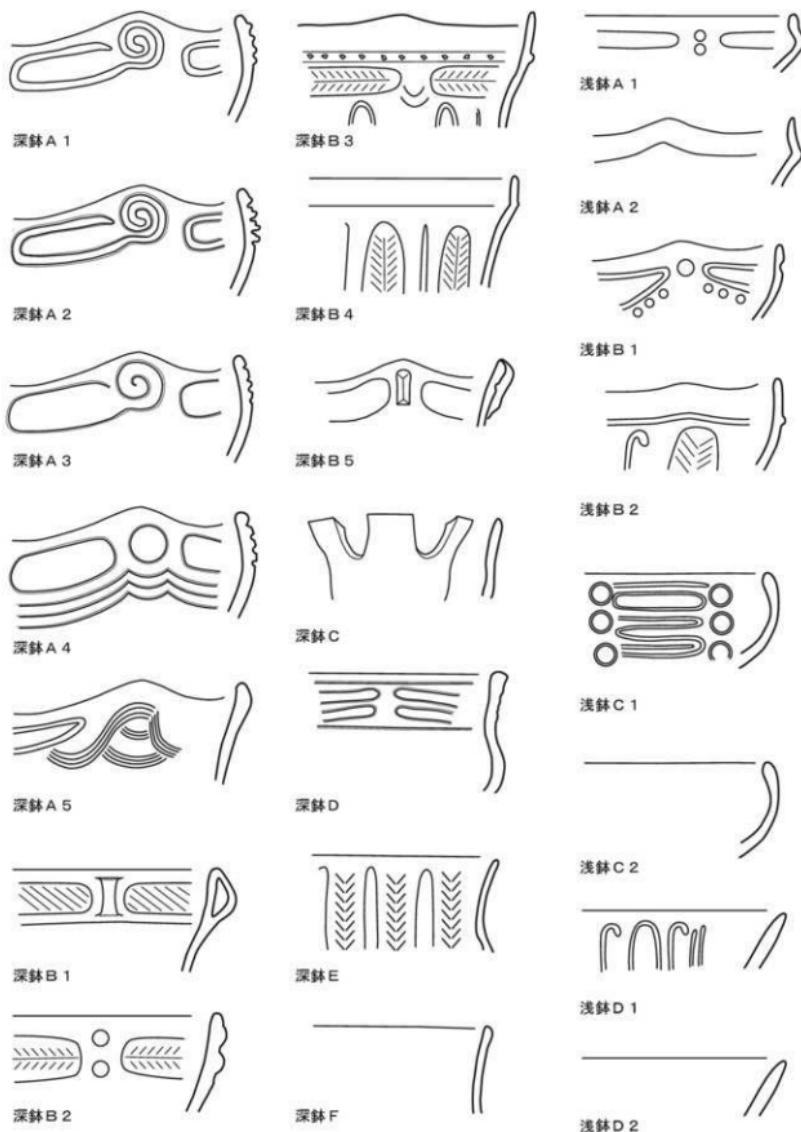
A 5 主文様と從文様の区別 자체が不明瞭となり、横位展開する多重沈線の連弧文や条線文と組みあうもの。

深鉢 B 類 口縁部直下に無文帶をもち、その下位に区画文間のつなぎ部に橋状把手を配した口縁部文様帶が続くもの。もしくは口縁部文様帶が省略されて無文帶の下に直接胴部文様帶が続くものを一括した。胴部文様は、縱方向の薪手沈線と長梢円形区画文の中に綾杉文を入れることを基本とする。緩やかな波状口縁をもつものと、平縁のものがある。橋状把手及び文様帶の状況などから、5 類に分類した。

B 1 橋状把手をもつもの。

B 2 橋状把手が退化して緩降帶化し、上面に凹点を入れるもの。

B 3 隆帶も消失し、橋状把手の名残はなくなる



第127図 縄文土器の分類

が、口縁下の無文帯と口縁部文様帯は残るもの。

- B 4 口縁部文様帯が消失し、口縁部無文帯の下位に直接胴部文様が続くもの。
B 5 口縁直下の無文帯がなく、口縁直下に口縁部文様帯が直接続くが、つなぎ部に橋状把手の名残の縱縫帯が残るもの。A類との折衷的なもの。

深鉢C類 山形（富士山形）に突起する口縁部をもつ有文深鉢。

深鉢D類 口縁部文様帯に横沈線と横長の梢円文を組み合わせて配した平縁の有文深鉢、もしくはそれが崩れ、沈線のみもしくは横長梢円区画文となったもの。

深鉢E類 口縁部文様帯が省略され、本来胴部文様だったものが口縁直下から配された有文深鉢。

深鉢F類 口縁、胴部ともに文様をもたず、器面をナデ・縄文・条線等で調整しただけの無文深鉢を一括した。

浅鉢A類 口縁部がく字形に屈折する浅鉢を一括した。文様の有無から2細分する。

- A 1 有文のもの。
A 2 無文のもの。

浅鉢B類 口縁部が屈折することなく、緩やかな半球形に立ち上がる有文浅鉢を一括した。口縁部無文帯の有無から2細分する。

- B 1 有文のうち、口縁外面に無文帯をもたないもの
B 2 有文のうち、口縁外斜面に無文帯をもつものの

浅鉢C類 口縁部が内湾気味に立ち上がる浅鉢。文様の有無から2細分する。

- C 1 有文のもの
C 2 無文のもの

浅鉢D類 体部から口縁部にかけて外側へ直線的、あるいはやや外反気味に開いて立ち上がる浅鉢を一括した。文様の有無から2細分する。

- D 1 有文のもの。
D 2 無文のもの。

以下、朝見遺跡5次調査出土の縄文土器は、上記の分類に大略従い、上記分類に合致しないものや後

期前葉のものについては適宜個別に対応・記述することとする。

② 1区出土遺物

S Z 51046 (第128～134図) 1329～1471は包含層中の遺物集中として把握されたもので、上位の暗褐色シルト（「黒褐色」として取り上げたものを含む）と、下位の「黄褐色シルト」に分けて取り上げたが、上位と下位で明瞭な遺物時期の相違が認められず、また時代順が逆転している事例も認められたことから、ここでは一括して扱う。

1329～1372は深鉢A類である。1329と1365はA 1（1365は浅鉢A 1の可能性もある）、1332～1338・1346・1358はA 2、1331・1339～1345・1353はA 3、1347・1359～1362はA 4、1348～1350・1356はA 5で、その他の破片はA 3～A 5のいずれかに帰属するとみられるが、小片のため細かい分類は不明である。

このうち、1330～1334・1359～1360は口縁部と胴部を隆帯で区画する深鉢である。1330は主文様と従文様の満巻区画文の下位に、1359～1360は沈線による区画文内に半截竹管を刺突する。小片だが、1361も半截竹管による刺突を伴う。

1347と1348はA 4とA 5に振り分けたが、やや肥厚する口縁外面を無文としており、B類の特徴も併せ持つ。口縁部文様帯の下部に多重沈線による連弧文を入れた1347、口縁部文様帯の簡略化がさらに進行して主文様を条線で描き、口縁部文様帯の下部に崩れた満巻風の横位条線文を描く1348、口縁部の文様帯がさらに押し上がり、幅も細くなった1349、本来の文様帶部が消失し、沈線による満巻文と多重沈線連弧文を組み合わせた1350などは、文様帯が上部にせり上がりしていく動きと捉えることができ、一定の時間的変遷を追える資料として評価できるかもしれない。

1364は、胎土に赤色粒を多く含む。1365は、貝殻压痕による擬繩文が口縁部の内外に残る。

1373・1375・1376・1380～1387・1389・1392・1393は深鉢B類である。つなぎ部に橋状把手が残る1373は、深鉢B 1であるが口縁外面の無文帯が狭く、A類と折衷的なあり方を示す。1375は無文帯下位に刺突列が付加され隆帯上凹点は沈線による二重弧線へ、1376はつなぎ部のアクセントが消失

し、横位展開する楕円形区画文が連続する。これらは、基本的には1373から1376へ変遷していくとみられる。

1380～1386も、基本的にこの流れと照応するとみられ、1380～1382は深鉢B2、1383～1385は小片のため細かい分類は難しいが、1386は口縁部文様帯がなく、口縁無文帯の直下に竹管を施した区画隆帯を配して胴部文様がそのままつながる深鉢B4である。1387・1389・1392・1393は深鉢B4で、口縁部無文帯の直下に胴部文様が接続するか、無文である。1387と1392は口縁無文帯と胴部の間に隆帯を添付し、区分をより明瞭化している。ただし、1387は羽頂部に隆帯を収束させており、これ自体を口縁部文様とみると、A類との親和性が高くなる。

1374・1377～1379・1388・1390・1391は浅鉢で、1374は浅鉢A1、1377～1379、1388は浅鉢B1、1390は浅鉢D2、1391は浅鉢A2である。このうち1374は、口縁直下の無文部が明瞭で、本来橋状把手であったものが隆帯上の凹点に置き換わったもので、深鉢B1類との親和性をもつ。1388・1390・1391も同様に深鉢B類、とりわけB4類との親和性をもつ。

1394は、沈線による文様が入った波状口縁片、1395は口縁部文様帯がなく、肥厚させた口唇部に巻手沈線と竹管刺突、楕円形区画内に半截竹管刺突をもち、その下位に胴部文様が直接繋がるもので、これらも浅鉢の可能性もある。

1396～1400は、深鉢C類である。1399は隆帯を伴うが、その他は沈線で文様を表出し、分帶化した渦巻文や区画文を施す。

1401～1404は深鉢D類である。最も残りが良い1403は、口縁部文様帯として沈線間に細長い楕円形区画文を上下2段に配し、単節LRを地文とする。

1405～1414は、口縁・胴部の破片である。1405は口唇を欠くが、口縁文様帯として沈線による楕円形区画文、胴部に縱位区画楕円文を配する。1406も口唇を欠くが、内面に綾杉文を配した円形区画文を沈線で描き、横に連続させた口縁部片とみられる。1407～1409は胴部に綾杉文をもつもので、1408はそれを縱隆帯で区画する。

1415～1420は深鉢E類である。頭部から口縁部に向かってラッパ状に開く1415・1418と、やや内

湾気味に立直する1416～1417・1419～1420がある。胴部文様は、縱長の巻手沈線ないし長楕円区画に綾杉文が組みあうが、綾杉文は1415・1416のような下向きと、1418のような上向きが併存する。

1421～1433は胴部片である。このうち1421～1430は綾杉文を配するもので、1424は縱隆帯、その他のは縱沈線で綾杉間を区画する。1431～1433も沈線を配した土器で、1431は壺の胴部片とみたが、口縁部片の可能性もある。1433は巻手沈線が入る土器で、沈線内に綾杉もしくは多重斜沈線を充填している。

1434～1452は無文深鉢（深鉢F）である。ナデもしくは条線による調整が多いが、1443・1444は巻貝腹縁の回転による擬繩文、1447は無節調文、1440～1441・1448などは研磨を施している。このうち1440は、口径が狭く、コップ状の器形をなす。1453は深鉢の脚台である。刺突列と沈線で加飾している。1454～1470は底部片である。このうち1454は、底部外面に網代痕を残す。

1471は後期の縁帯文土器で、広瀬土壤4段階^⑨のものに相当しよう。重弧状沈線の口縁部突起を有し、口唇上端面を形成して、そこに沈線と刻みを施している。

1区包含層（第135図） 1472～1479は口縁部片である。1472は深鉢A2、1473は浅鉢A、1474は口縁直下に回線気味の2条沈線を引き、その間に押圧状の刻み列を施した深鉢片で、前述の深鉢分類には合致しない。1475は凹点の周囲に刻目隆帯を貼付した口縁部片、1476・1479～1482は深鉢B類で、口縁端部の残る1476は口縁直下に文様帯がきて、つなぎの縱隆帯が配されたB5類となる。1478は横方向に穿孔が開く橋状把手、1483・1486は綾杉文をもつ口縁部片、1484は胴部片である。

1477と1485は晩期の突帯文土器で、口縁部の残る1477は口唇部と刻目突帯が一体化してヨコナデが施された近畿系の長原式^⑩に類似する。直線的な肩部をもつ1485も同時期として矛盾はない。

③6区出土遺物

S X 56037（第135図） 1487は3波頂の波状口縁に分帶化した主文様と従文様を沈線で描いた深鉢A4であるが、その下部に横方向に開く橋状把手をつ

なぎとした2条隆帯を貼付し、波頂部は上方隆帯からJ字文を派生させている。つまり、2段構成の口縁部文様帯を形成している。胴部は、3条の蕨手沈線と下部を頂点とした棘杉文を組み合わせている。

S Z 56038 (第136図) 小破片ばかりで、若干混入もある。1488は後期の中津式である。1489は磨消繩文内に刺突文を列状に付加したものだが、口唇の処理や器面調整に中期末的要素も残り、中期末から後期の判断が難しい。

1490～1504は中期末に属する。162は刺突を施した蛇行隆帯を口縁部に沿って貼付した深鉢口縁部、1491～1497は無文の口縁部であるが、1492は口縁を肥厚させた無文帯となっており、深鉢B4の可能性がある。1493は口縁内側に内斜面があり、浅鉢かもしれない。1499～1503は口唇が欠損した口縁部片と胴部片で、1500は深鉢B類の口縁下部から胴上部片、1499は沈線区画の下部に重連弧文沈線を引き、胴部に棘杉を配した深鉢A4ないしはA5に復元できよう。1504は底部片で、底部外面に不明瞭ながら網代痕跡らしき圧痕が残る。

S K 56040 (第136図) 1505は口唇を肥厚させて内面に内斜面をもち、刺突と沈線で加飾し、胴部に端部に入り組みにした大振りのJ字文等を横位展開させた文様を施す。胴部文様に古い様相を残すが、口縁の特徴は広瀬土壇40段階の縁帶文成立期とみてよかろう。

S K 56041 (第136図) 1508は隆帯による満巻文をもつが、口縁直下に無文帯があり、深鉢B類になるとみられる。1506・1507・1509はいずれも小片だが沈線による文様施文で、深鉢A3もしくはA4に相当するであろう。

S Z 56042 (第136図) 1510は深鉢口縁部片で、上端面を構成する口縁部に小突起をもち、沈線で文様を描く。1511は縦沈線に繩文R Lを縦方向に施す。1512は底部片である。

S Z 56046 (第136図) 1513は中津式、1514は肩部に3条沈線を配し、胴部に満巻文を配した広瀬土壇40段階の深鉢片、1515は内外に研磨痕が残る無文深鉢、1516は条線を施した粗製深鉢である。

時期差があるが、いずれも後期初頭～前葉の所産であろう。

S Z 56047 (第137図) 1517は浅鉢A2で、口唇端と肩部に刺突列が入り、その間に繩文L Rを充填する。1518は深鉢A5で、波頂部の主文様の区画はあるが、従文様の区画ではなく、刺突だけが施される。胴部には、蛇行沈線や蕨手沈線、沈線、逆U字沈線などを縦位施文し、横に連続していく。

1519・1520は深鉢C類、1521は口縁端部が若干開き気味で、浅鉢D1もしくは深鉢E類、1522～1523・1525は深鉢Fで、1522・1523は口縁部が立直するタイプ、1525が外反するタイプである。

1524は胴部片で、3条の縦沈線もしくは蕨手沈線に繩文L Rを組み合わせている。1526は底部片である。

S X 56057 (第138図) 1527は体半部の残存で、縦方向の弱い沈線が粗い間隔で入っている。底部外面には、ドーナツ状に刺突状の圧痕のようなものが入っている。

S K 56060 (第138図) 1528は頭部に幅6mm弱の沈線を1本単位で引いたものが現況で3条分残り、小片で詳細は不明だが緩やかな連弧文を形成するとみられる。この沈線は、「幅がやや広く、浅い沈線であるが、角が直立したシャープな沈線」という東海地方西部の特徴的なものとされるものに合致し、嶺嶼・高橋両氏の「中富・神明式」土器の2期新¹¹¹(広義の「咲絞式」)に特徴的とされる沈線とみられる。

S K 56061 (第138図) 有文土器は、後期前葉の棒内ながら若干の時間幅をもつ。1529は3条沈線の磨消繩文で福田K II式¹¹²、体上部片の1530は磨消繩文を施した中津式である。1532は、小波頂に凹点を囲む重円弧文を配した北白川上層式1期¹¹³

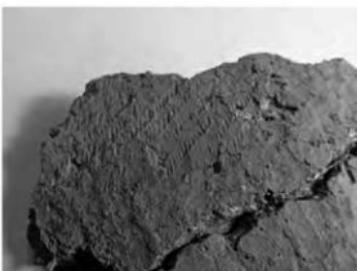


写真2 繩文土器 (1536) 施文状況

の縁帶文土器で、地文に縄文L Rを充填している。1533～1535は無文深鉢で、口縁の残る1533は緩やかな波状口縁、1534は内外に二枚貝条痕を施す。1535は1531・1532と同じ特徴をもち、同一個体の可能性がある。1536は、直線的に外に開く体下部をもつ深鉢で、外面縱方向、内面横方向に研磨が施され、上部は無節の縄文を横方向に回転施している(写真2)。

6区下層ピット(第139図) 1537～1540は確実に縄文遺構と判断できたピットの出土遺物である。

1537は平縁の口縁部で、沈線による区画文を施した深鉢A 4である。1538は外面に縄文を充填した沈線区画を配した浅鉢E 1とみられる。図面左端も沈線区画文が続く。1539は外開きの口縁端部に沈線を入れた縁帶文土器の口縁部で、後期前葉の所産であろう。1540は胴部片で、内面を研磨し、外面に2枚貝条痕を施す。

6区埋積浅鉢(第139図) 1541は、ボール状の器形をもつ中津式の浅鉢で、沈線によるJ字もしくはO字かとみられる文様を施す。1542・1543も中津式である。内側に肥厚する口縁部片の1542は緩やかな波状を呈し、紺錐文を垂下させている。胴部片の1543は、紺錐文による磨消縄文の下部に区画縄文帯を連結し、体部文様帯を閉じている。1544も中津式とみられる磨消縄文であるが、縄文帯を区画する沈線末端が若干途切れている。

1545は、胴部が張った壺もしくは浅鉢で、縄文R Lを地文として施した上に、竹管刺突を入れた沈線による長方形区画文を描く。

1546は、口縁部から一段下位の隆帯に向けて、欠損するが橋状把手が付き、さらにその下に円孔が穿たれて注口部が付される注口土器である。注口部を開む文様は、低い隆帯の貼付により形成されている。

1547は、外反する口縁部の端部を少し摘み上げて縁帯化した半精製深鉢で、口縁から垂下する条線と、胴部に渦巻状に描く条線で文様効果を醸している。

1548・1549は、縄文L Rを全面施した胴部片であるが、口縁部が不明のため、有文土器かどうかはわからない。

1550～1553は無文土器の口縁部片である。1550は外面を研磨、1551は口縁内外に縄文を施す浅鉢

D 2であろう。1552と1553はナデ調整で、1552は口縁部を肥厚させている。

1554～1556は底部片。外面に研磨痕がある1555は底部に網代痕跡、1554は底部に縄文が残る。

6区灰褐色～黄褐色シルト(第140・141図) 1557～1589は6区北壁5～8層相当の包含層出土遺物で、中期末から後期前葉の土器が混在している。

1557～1572は有文土器で、1566までが中期末、1567からが後期に属する。1557は、上面に刺突を加えた蛇行隆帯を貼付した土器で、1475や1490と同じ特徴をもつ。1558は深鉢Dとみられるが、波頂部の直下を刺突で加飾する。1559は、口縁外斜面に縱方向の刻目隆帯を貼付する土器で、その両脇を沈線で施す。浅鉢の可能性がある。1560は深鉢A 5、1561は山形波頂をもつ深鉢Cである。

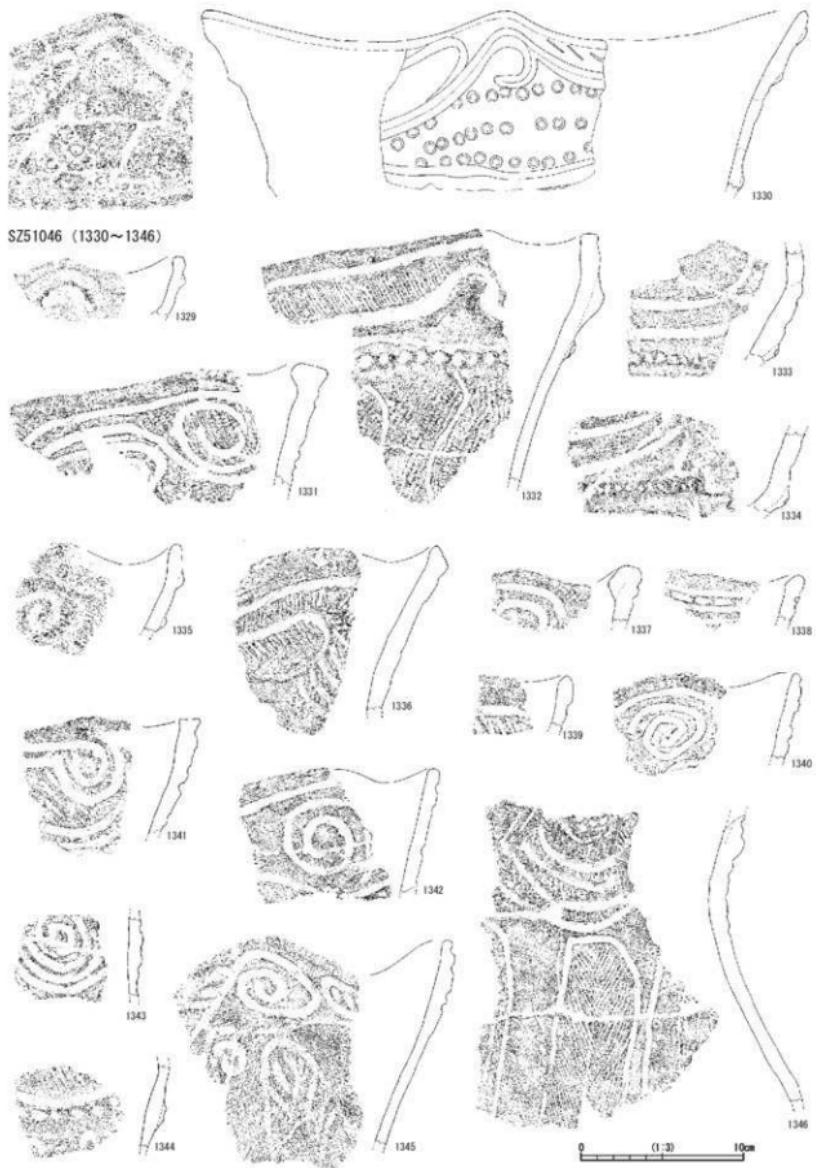
1562は端部を欠くが、多重沈線の連弧文は口縁部文様とみられ、深鉢A 5に相当しよう。連弧文の合わせ部と胴部文様の間に小さな「C」字沈線をアクセントで貫入させている。1563・1564も端部を欠くが口縁部で、1563は口縁部と胴部の境界に竹管刺突を施した隆帯で区画した深鉢、1564は沈線で緩やかな梢円区画を描いて内部を条線で充填している。

1565はやや上げ底気味の底部で、胴部文様の縦沈線が残る。1566は、透かしをもつ脚台である。

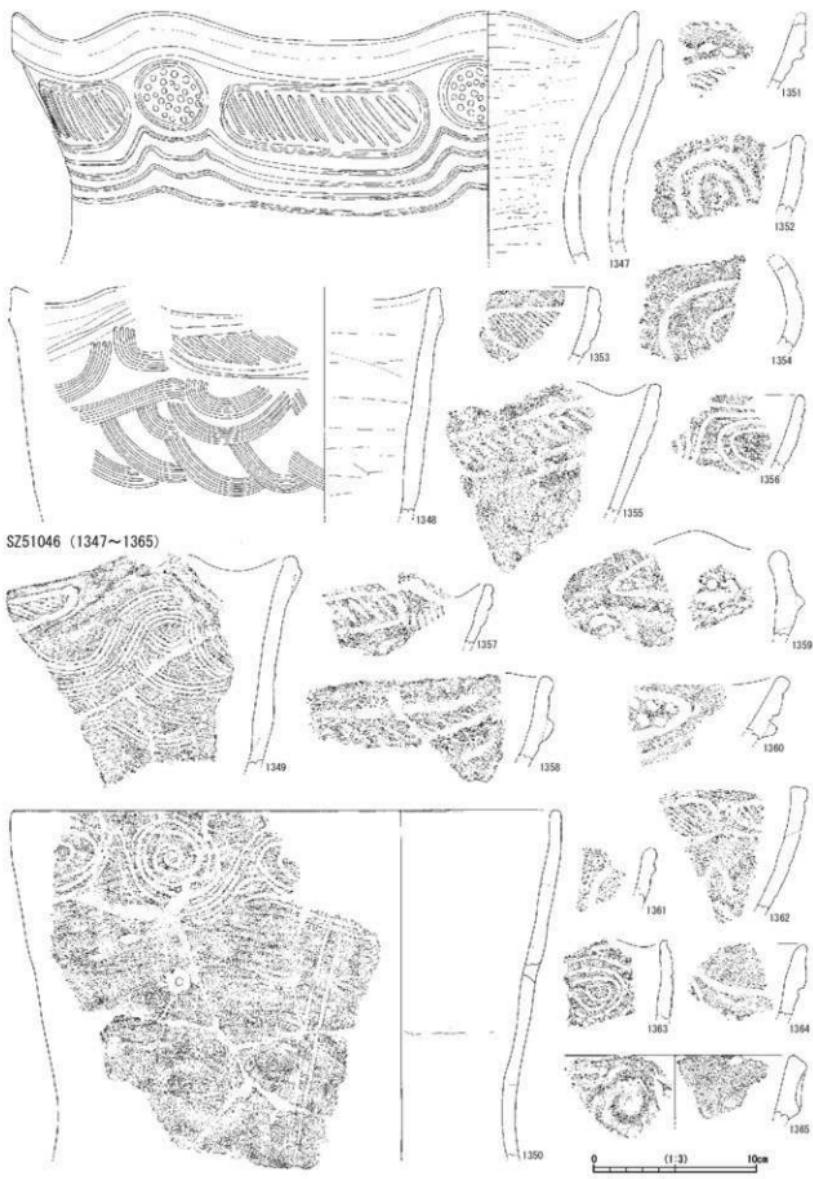
1567～1569は、後期初頭の中津式である。1567は、O字文と横長梢円文、横沈線を組み合わせた浅鉢C 1である。1568・1569は胴部片で、1568は沈線による施文、1569は沈線区画内に縄文を充填した磨消縄文である。

1570～1572は縁帶文期の口縁部片である。1570は口縁部上端面を形成して刺突を施し、突起を付加している。1571は、口縁直下に刻目隆帯を貼付する土器、1572は摘み上げた口縁端部に刻みを施したもので、ともに関東の堀之内式系統の深鉢とみられる¹⁰。

1573～1583は無文土器もしくは縄文施文の半精製土器である。1573・1578・1582はナデ調整、1574・1576・1577は外面に条線を施す深鉢である。このうち1576は、条線を口縁部横、その下位に曲線を含む斜めで施し、文様効果を出している。1576～1578、1582はいずれも口縁部がやや肥厚気味で、



第128図 縄文土器 1区① (1:3)



第129図 縄文土器 1区② (1:3)

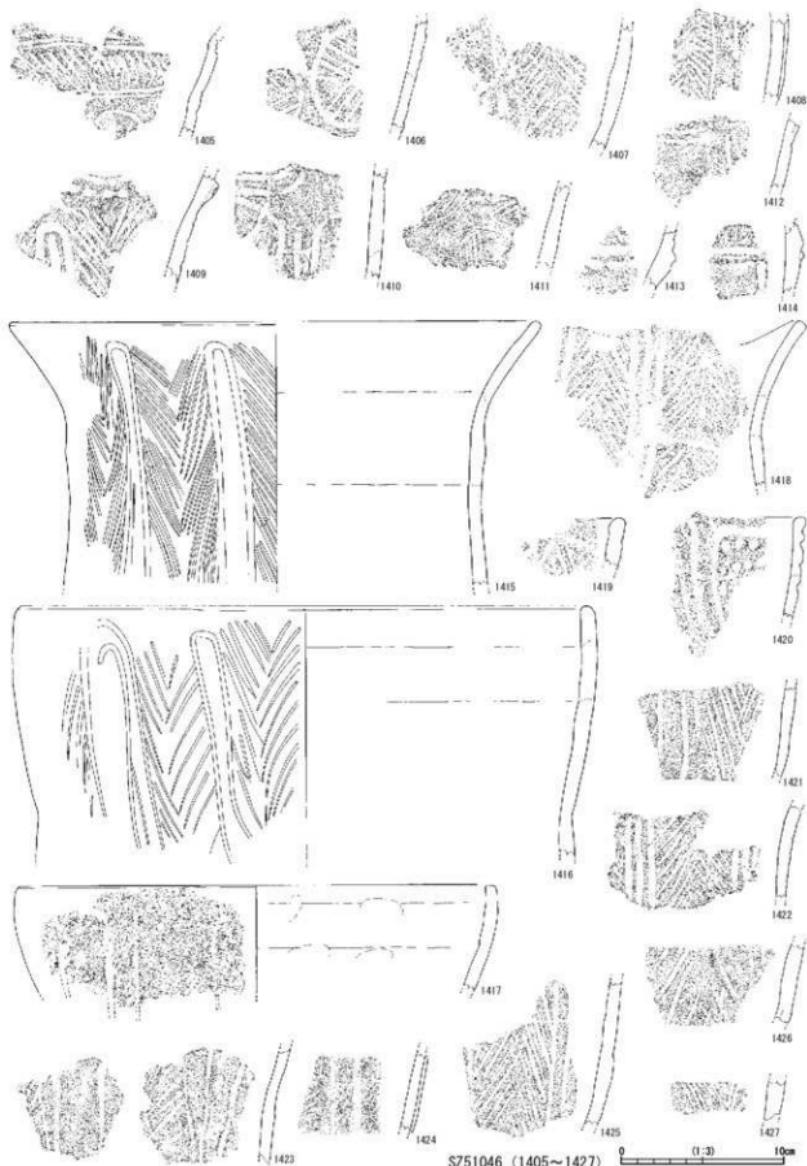


第130図 縄文土器 1区③ (1:3)

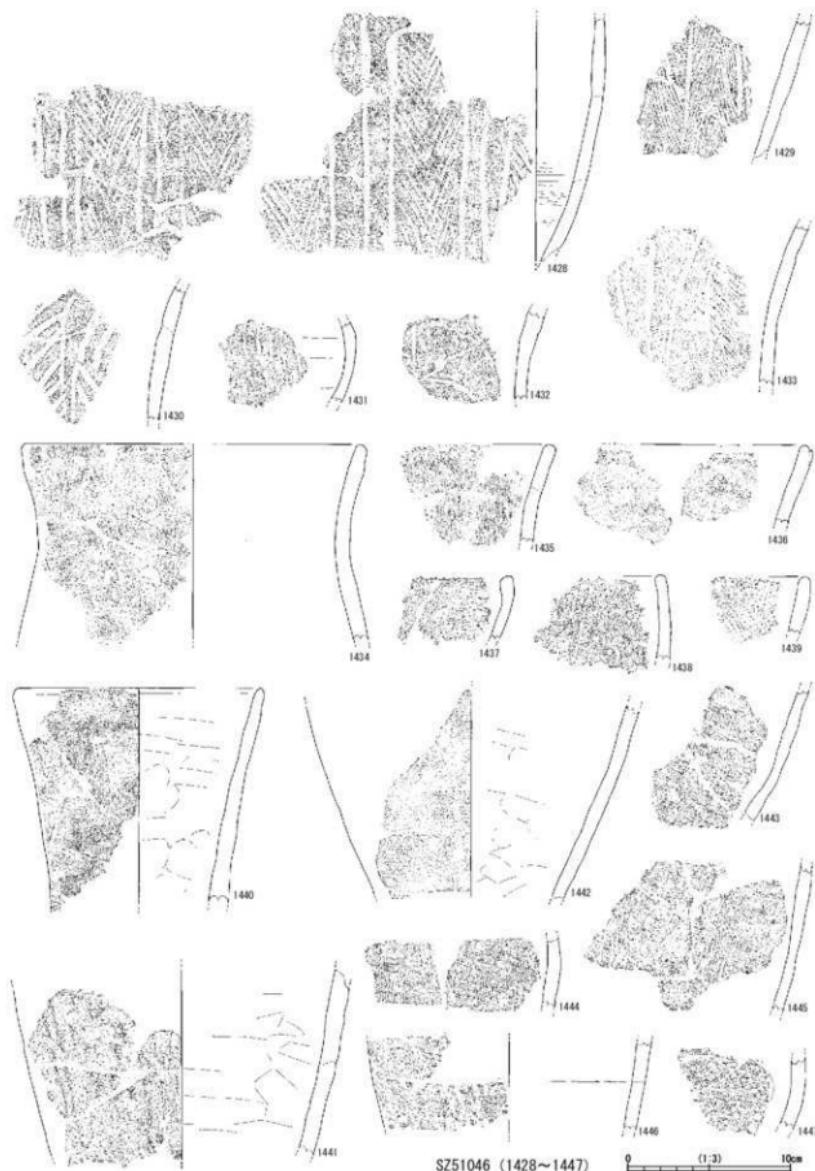


SZ51046 (1387~1404)

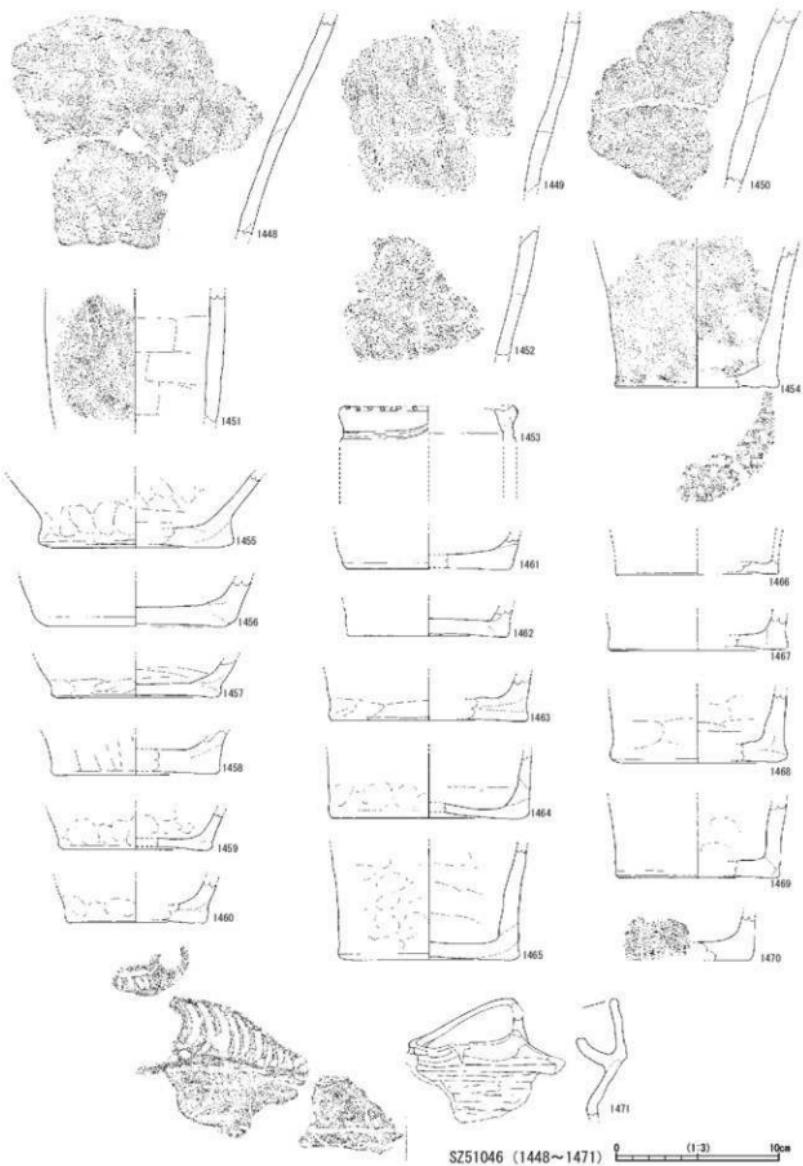
第131図 繩文土器 1区④ (1:3)



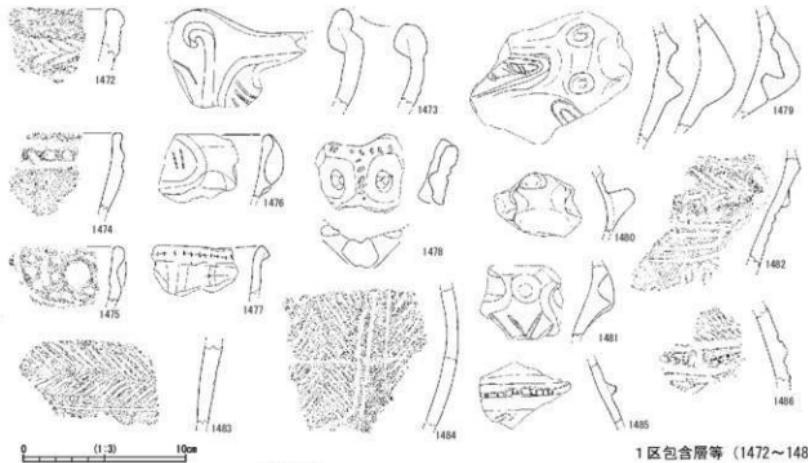
第 132 図 縄文土器 1 区⑤ (1:3)



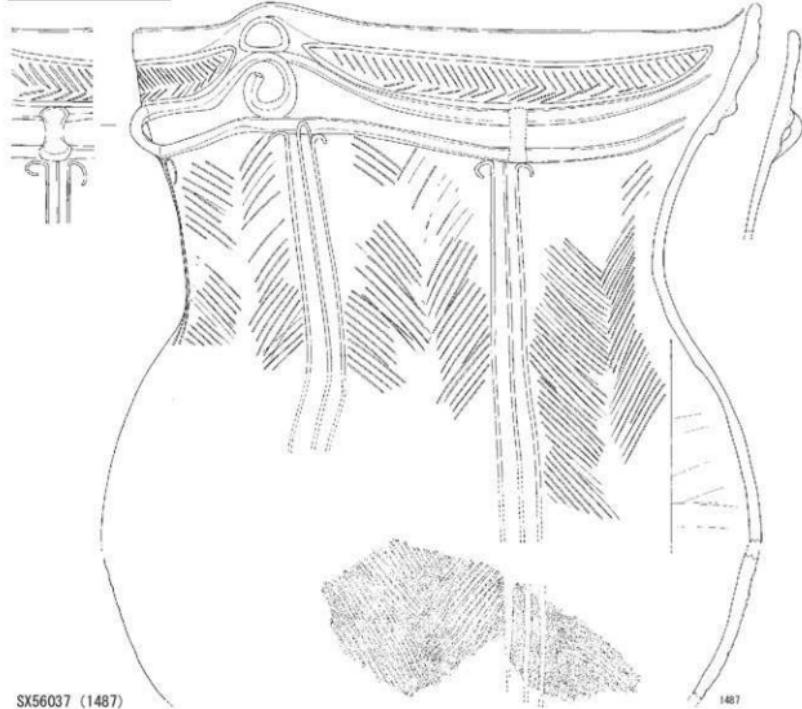
第133図 縄文土器 1区(6) (1:3)



第 134 図 縄文土器 1区⑦ (1:3)

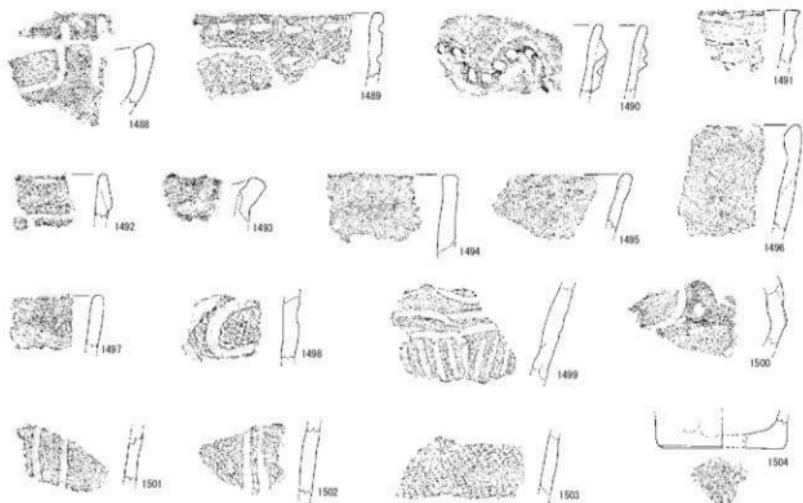


1区包含层等 (1472~1486)

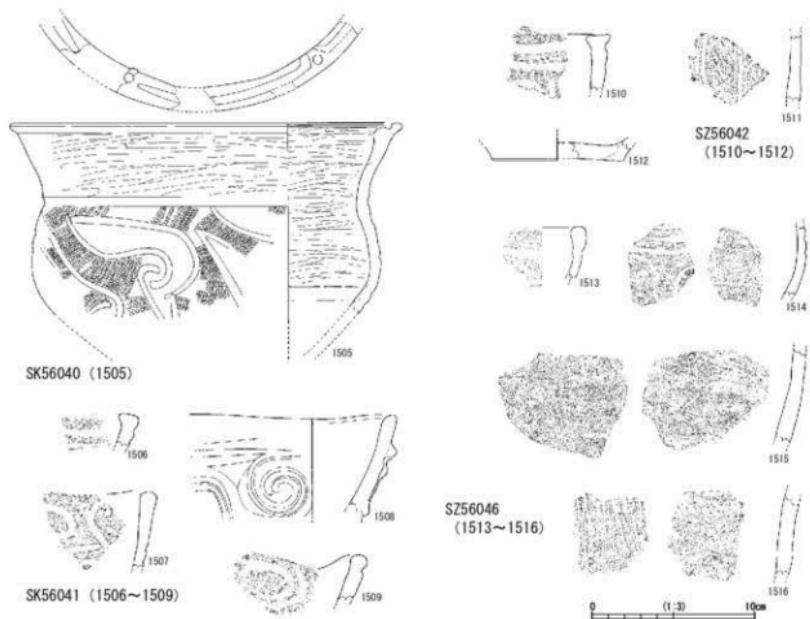


SX56037 (1487)

第135図 繩文土器 1区⑧・6区① (1:3)

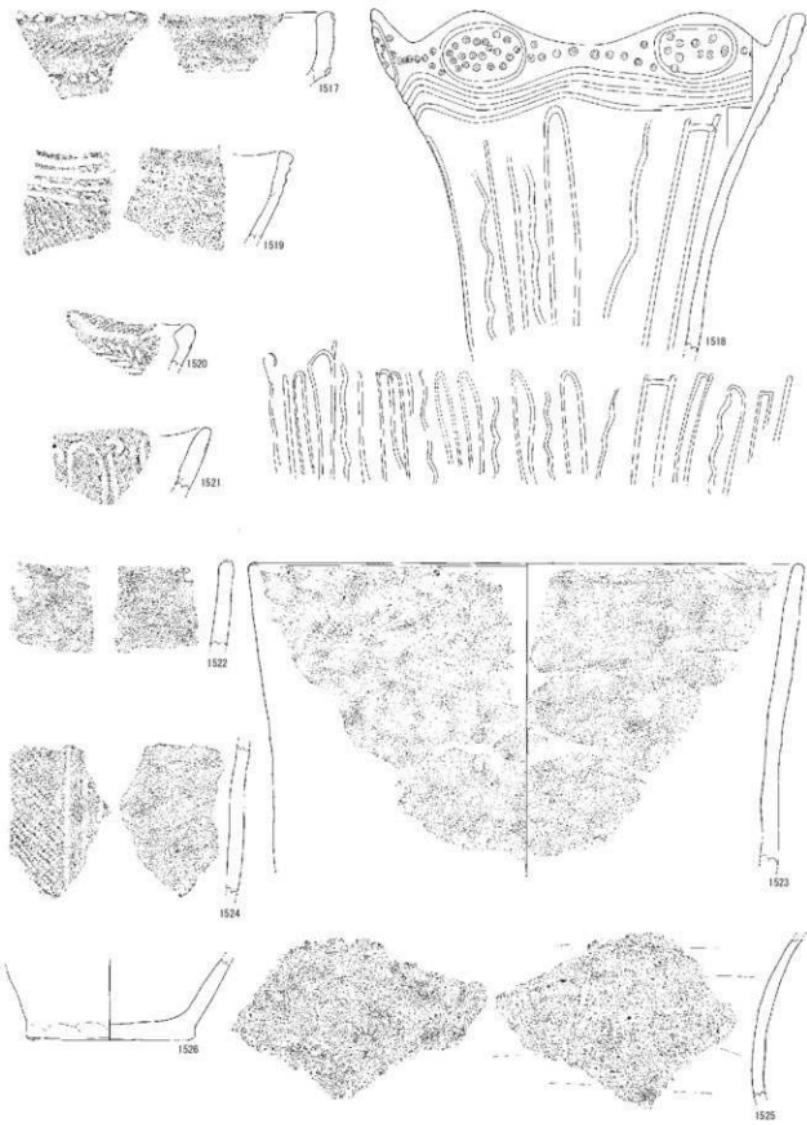


SZ56038 (1488~1504)



0 0.30 1cm

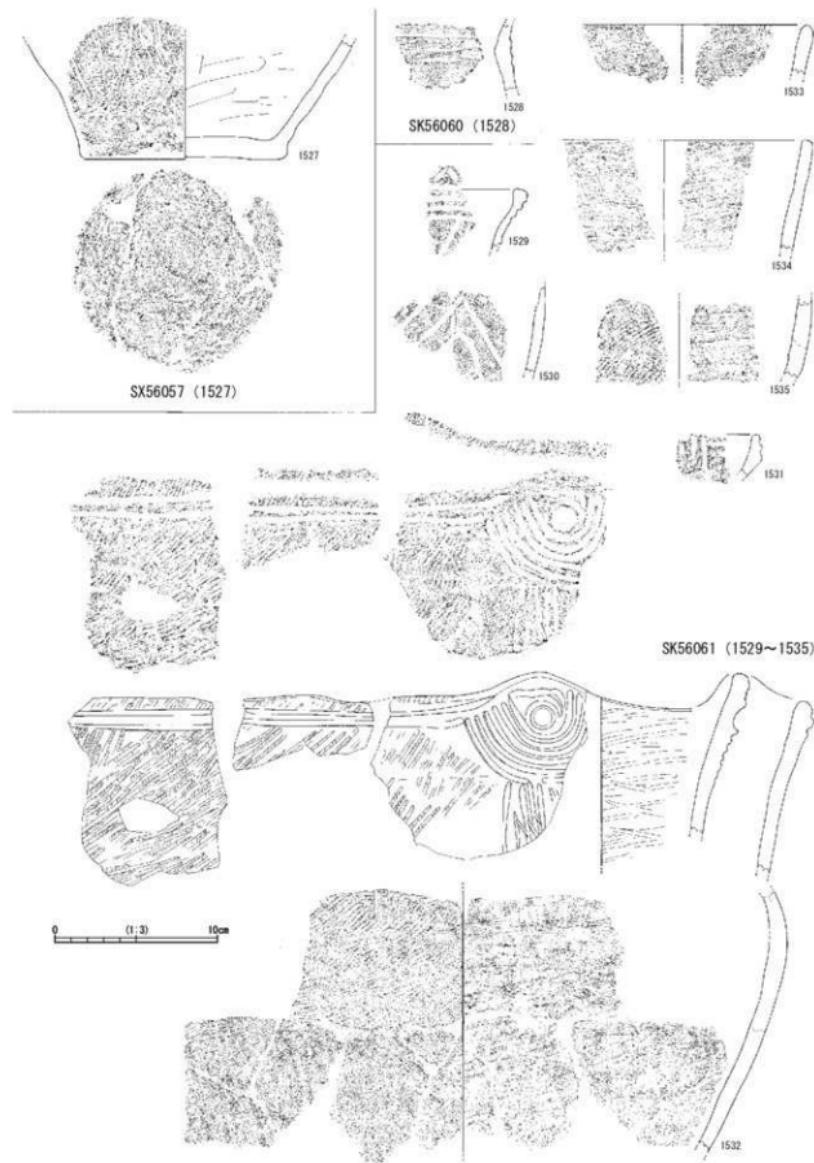
第 136 図 繩文土器 6 区② (1:3)



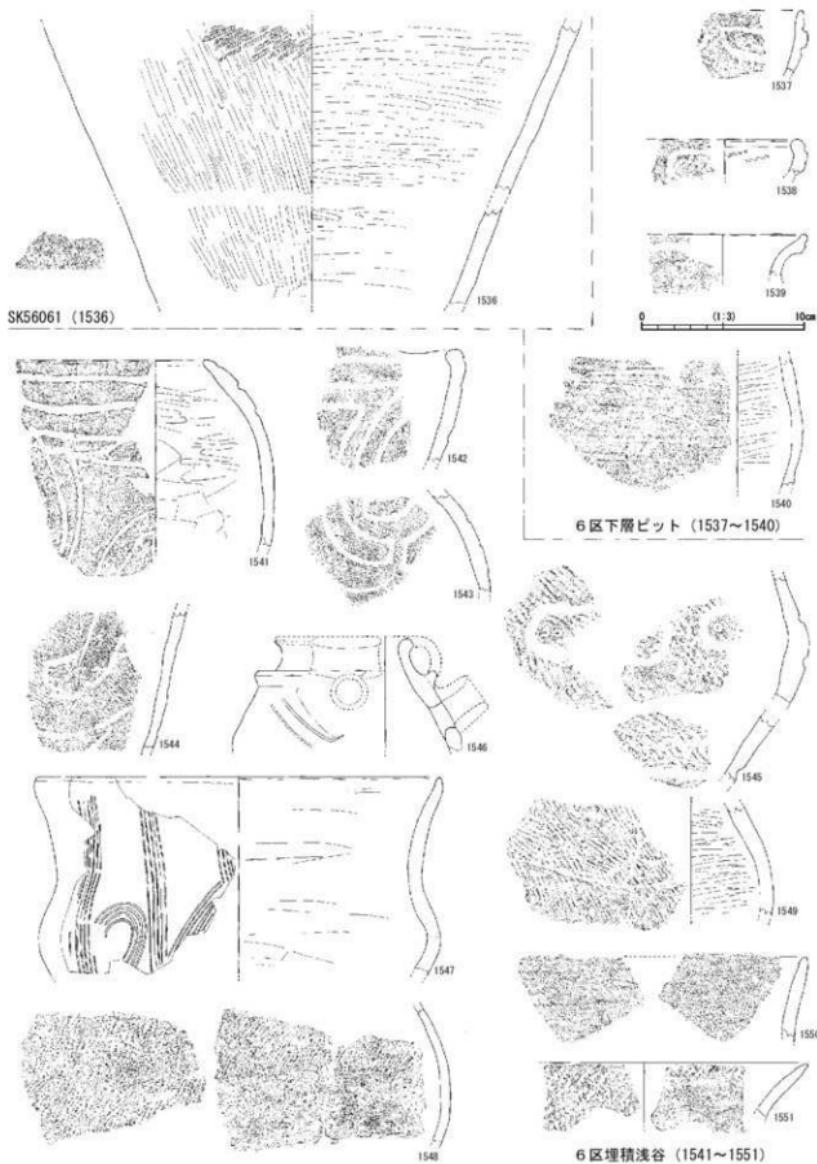
SZ56047 (1517~1526)

0 (1:3) 10cm

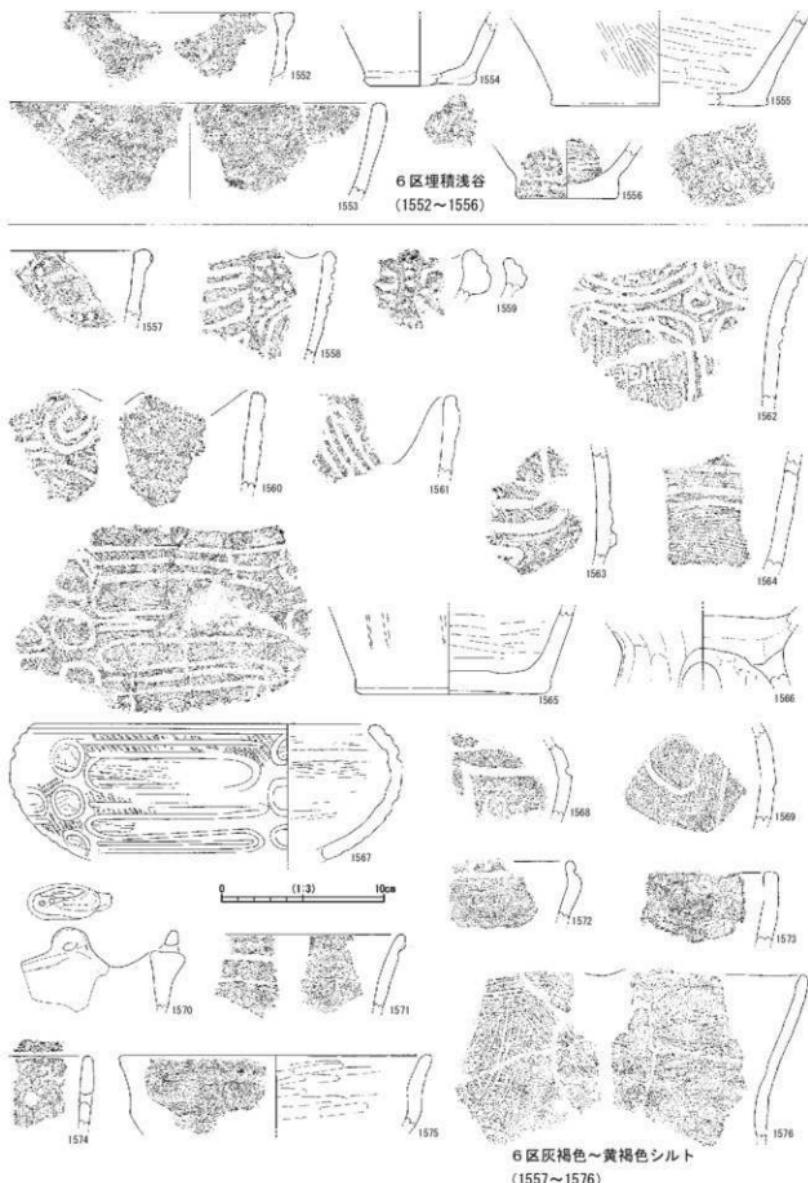
第137図 縄文土器 6区③ (1:3)



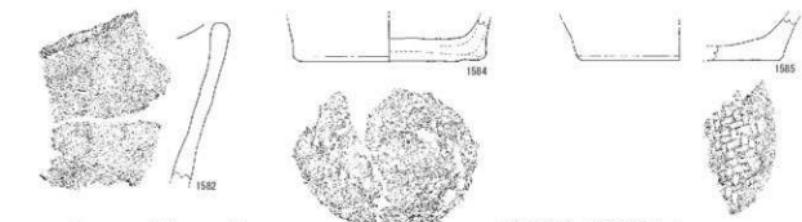
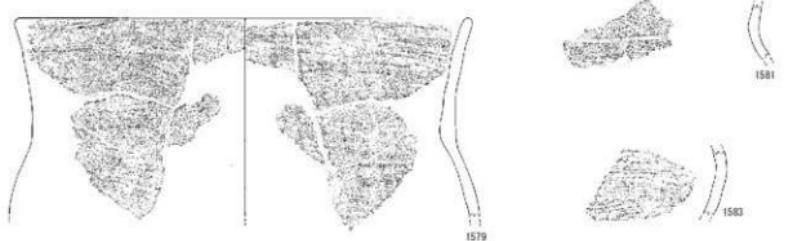
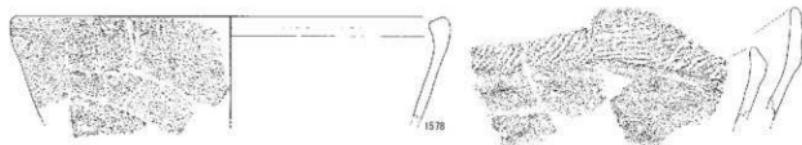
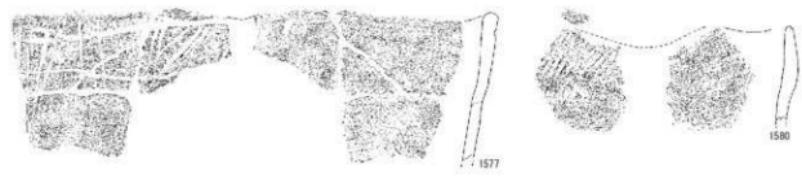
第 138 図 縄文土器 6 区④ (1:3)



第139図 縄文土器 6区⑤ (1:3)

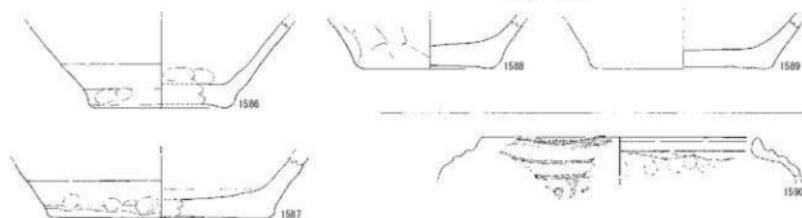


第140図 縄文土器 6区⑥ (1:3)



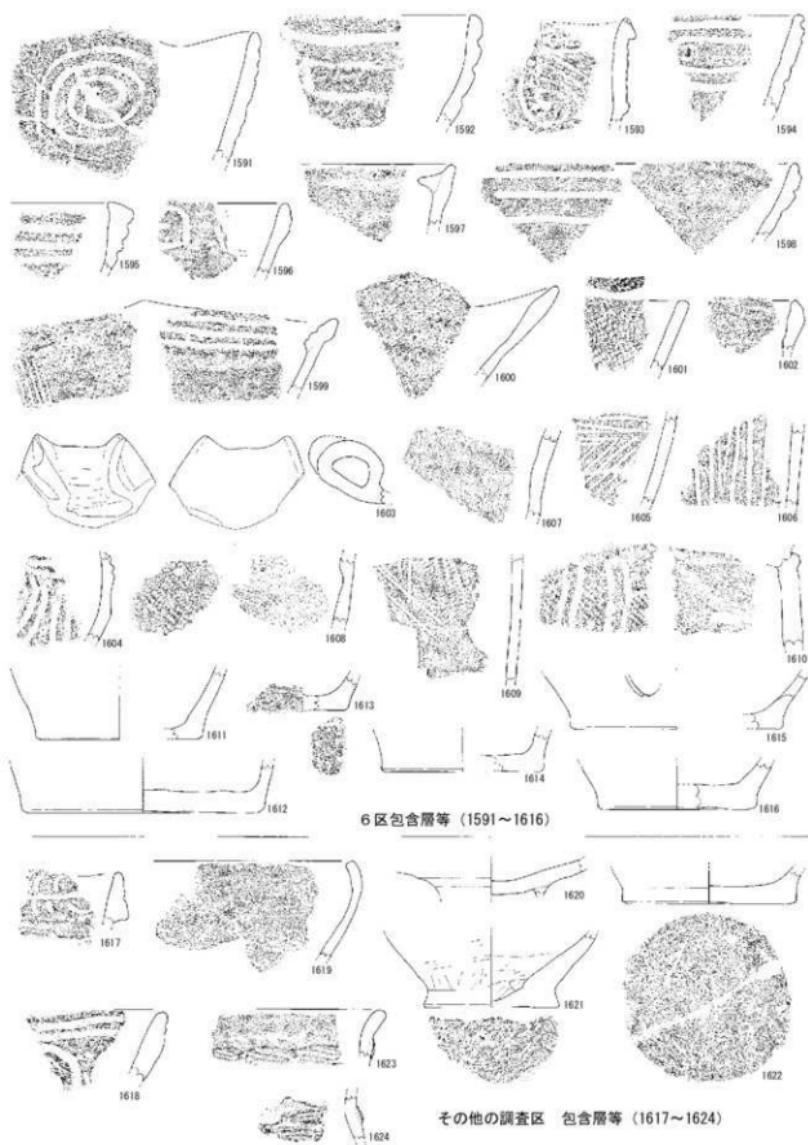
0 (1:3) 10cm

6区灰褐色～黄褐色シルト
(1577～1589)



6区灰オリーブ色細砂 (1590)

第141図 繩文土器 6区(7) (1:3)



第 142 図 縄文土器 6 区⑧・その他 (1:3)

頭部が若干くびれる器形も含め後期の所産と考えられる。

1575は浅鉢で、内外に研磨を施している。1579も内外に粗い研磨を施した深鉢で、後期に属するものであろう。

1580～1581は口縁外面と体部に縄文LRを施し、明部を無文とする波状口縁深鉢である。後期前葉の縁帯文期に属する土器であろう。

1583は条痕を施した胴部片である。

1584～1589は底部で、1584は織維状の圧痕、1585は網代痕が残る。

6区最下層（第141図） 1590は6区北壁12層の灰オリーブ色細砂から出土した土器である。端部が立ち上がる袋状の口縁部に隆帶を貼付して施文する深鉢で、いわゆる啖煙式⁽¹⁰⁾に属する中期中葉の所産とみられる。

6区包含層等（第142図） 弥生時代の方形周溝墓などの上層遺構よりも上位の包含層や、弥生時代以降の遺構に混入するかたちで出土した縄文土器を一括した。1591・1592・1594～1596・1604は深鉢A4もしくはA5に相当しよう。1593は、端部を欠損するが口縁部とみられ、垂下させた端部を渦巻状に捩じる刺突隆帶を中心に弧状沈線を引く。

1597～1600・1603は浅鉢もしくは鉢である。このうち1597は、蓋受状の突帶を口縁内側に巡らす。1599は、外面に縦条線を施し、口縁内側に肥厚させた内斜面を形成し、そこに3条沈線を描くもので、広瀬土壇40段階の土器の特徴をもつ。1603は横方向に開口する橋状把手を口縁部に付加する。

1601と1602は無文土器の口縁部片で、1601は口唇と外面に縄文LRを施文する。

1605～1609は胴部片である。1605～1606は、崩れていらるが綾杉状に沈線を引いた土器、1607は半截竹管状工具を格子状に引いた土器、1608は縄文施文の土器、1609は綾杉文と縄文を組み合わせた土器である。

1610は深鉢脚台で、縄文地に長楕円区画の磨消縄文を施す。1611～1616は底部である。このうち、1613は底部外面に圧痕状の痕跡が残る。1615は底部付近に補修孔をもつ。

④その他の調査区

包含層等（第142図） 1617～1624は1区・6区以外から出土した縄文土器を一括している。遺構に伴うものはない。

1617～1622は中期末に属する。1617は、三角状に肥厚させた口縁外面に葉脈状の沈線を引いたもの、1618は文深鉢A3もしくはA4、1619は外面をケズリ調整した浅鉢C2、1620～1622は底部で、1620は粘土紐を円形の高台状に貼り付けた。

1623～1624は、晩期の突帯文土器で、ともに突帯上に二枚貝条痕による刻目をつける。口縁部片の1623は、丸く収めた端部からやや下がった位置に突帯を貼付している。1624は肩部片で、体部と肩部の境界は明瞭に区画されている。
(種類)

(2) 石器・土製品

①概要と石器組成

機能が判明する石器はすべて図化し、主要な剥片・碎片を含め88点を示した。いずれも中期末から後期初頭・前葉の石器である。

大半の石器は6区の包含層および埋積浅谷から出土しており、遺構から出土したものは非常に少ない。1区では、6区に比べ数が少ないものの、S2 51046（土器集中）付近から石礫・磨石・敲石・打欠石錐・切目石錐がひととおり出土している。土製品は土器片錐（1652）1点のみである。

本次調査の石器組成を第143図に示す。組成の中心となるのは堅果類等の調理具（磨石・敲石・石皿等）で、全体の4割を占める。漁撈具（石錐）がそれに次いで多い。報告済みの第6次調査（縄文後期初頭中心）でもほぼ同じ傾向がみられるが、より低地に所在する福岡遺跡では、石錐が卓越するという違いがある（VI章で詳述）。

遺跡は標高10m以下の低地にあるが、石器組成は丘陵・段丘上の遺跡と大きく異なるところはないといえよう⁽¹⁰⁾。

なお、1区・6区の遺物包含層は重機で掘削したため、小型の剥片石器の回収率が低くなかった点は注意されたい。

石器の利用石材は、打製は主にサヌカイトである。礫石器は砂岩のほか、変塩基性岩や変成岩、花崗岩、花崗閃緑岩がみられ、主に柳田川下流域で得られる石材が用いられているようであるが、磨製石斧など

変塩基性岩の一部は、宮川流域から搬入されている可能性もある。

以下、調査区ごとにまとめて記述する。

② 1 区出土遺物（第 144 図）

1625～1629はS Z 51046出土。1625は平面五角形の有茎鐵でサヌカイト製。1626は黒色がかった半透明色の剥片で、黒曜石の可能性もある。黒曜石は 6 次調査で出土している。1627は線刻縫としたが、単に脈石に亀裂が入った自然石かもしれない。

1630～1633はS Z 51046周辺の上層遺構や基盤層の出土遺物である。1632は圓基式石鐵、1633は今回出土した石鍤では最小のものである。

③ 6 区出土遺物（第 144～150 図）

1634は下層ピットの底に埋置されていた磨石で、磨面の使用痕が顕著である。

1635～1655は埋積浅谷出土で、打欠石鍤が多いが、磨石・石皿類も一定みられる。1635～1637は磨石で、砂岩自然縫の幅広面を使用している。1635は敲石としても使用している。1638も敲石で、棒状縫の側縫に敲打痕がみられる。1639はRFで、サヌカイトの貝殻状剥片の縁辺に微細剝離がみられる。

1640～1651は打欠石鍤で、いずれも葉理のある砂岩や変成岩の扁平な縫を素材とし、両短辺を打ち欠いている。1652は土器片鍤で、土器を打欠成したのち、切目を入れる。

1653～1655は石皿で、概ね同形同大のものである。

1656～1692は下層遺物包含層の遺物である。圓基式石鐵 1657 のほか、石鍤や石錐の未成品 1656・

1658、石核・剥片・碎片がある。サヌカイト石核 1662 は爪状の礫表皮が残る。1663は変塩基性岩の定角式磨製石斧である。1664～1673は石鍤で、1664のみ切目、あとは打欠石鍤である。1674～1684は磨石・敲石等で、1674・1676・1675・1680のように磨石から敲石に転用されているものが目立つ。敲石の敲打痕はあばた状で、楔形石器製作時の両極打法に伴う筋状の敲打痕はみられない。1680は敲打により欠損し、多面体敲石のようなサイズと形状を呈する。1682は変塩基性岩の棒状縫を用いた石棒かもしれない。1685～1692は石皿・台石等で、扁平な板石を用いるものが多いが、1689は塩基性岩の重厚な角縫である。1690も塩基性岩。

1693～1709は上層遺構混入や廃土のもの。1694はサヌカイト石核で、爪状の礫表皮が残る。1695はRFで、緻密な砂岩の貝殻状剥片を使用している。1706は磨石を打欠石鍤に転用する。1709は石棒の未成品か。変塩基性岩の棒状縫を素材とし、縫の棱線部分に敲打痕が集中する。

④ 7 区出土遺物（第 150 図）

1710・1711は上層遺構混入遺物、1712・1713は表土出土で、6 区に近い箇所で得られたものが多い。1710のみ遺跡西側の 7-2 区で出土したやや大ぶりの有茎鐵である。縄文草創期～早期など、縄文時代でも古相のものかもしれない^[17]。（櫻井）

註

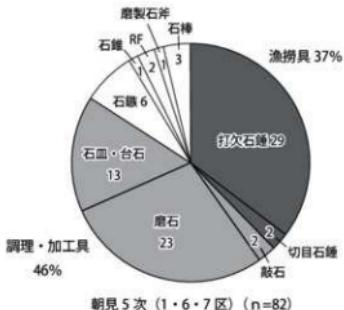
(1) 土器等の分類・編年については以下の文献による。

赤生・古墳時代の土器類：三重県埋蔵文化財センター『村竹コノ遺跡』2000 年 / 愛知県埋蔵文化財センター『廻間跡』1990 年。

古代の土器類：斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告 I』2001 年。

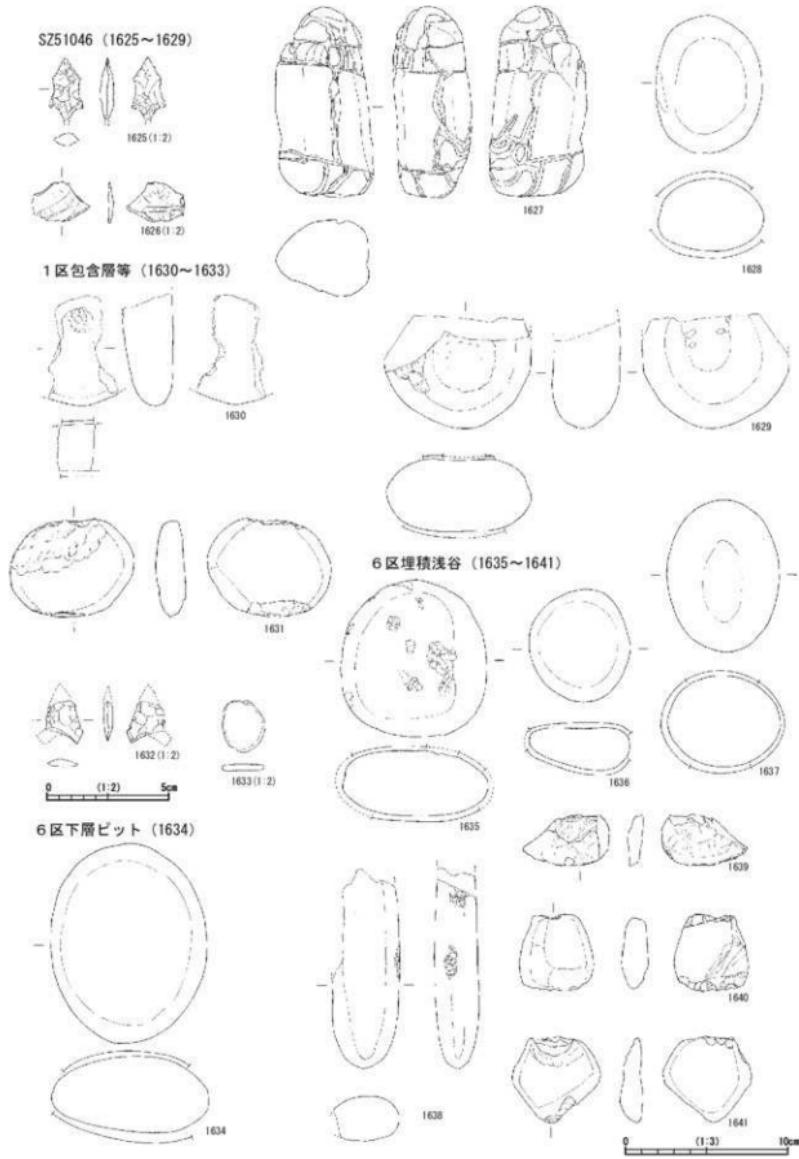
須恵器：田辺昭三『須恵器大成』角川書店、1981 年 / 東海土器研究会『須恵器の出現から消滅』(第 1 回東海土器研究会資料) 2000 年 / 愛知県『愛知県史』別編窯業 1 (古代窯投系)、2015 年。

灰陶土器：橋崎彰一『須恵器の編年について』『愛知県古窯跡群分布調査報告書』III、愛知県教育委員会、1983 年 / 愛知県『愛知県史』別編窯業 1 (古代窯投系)、2015 年。

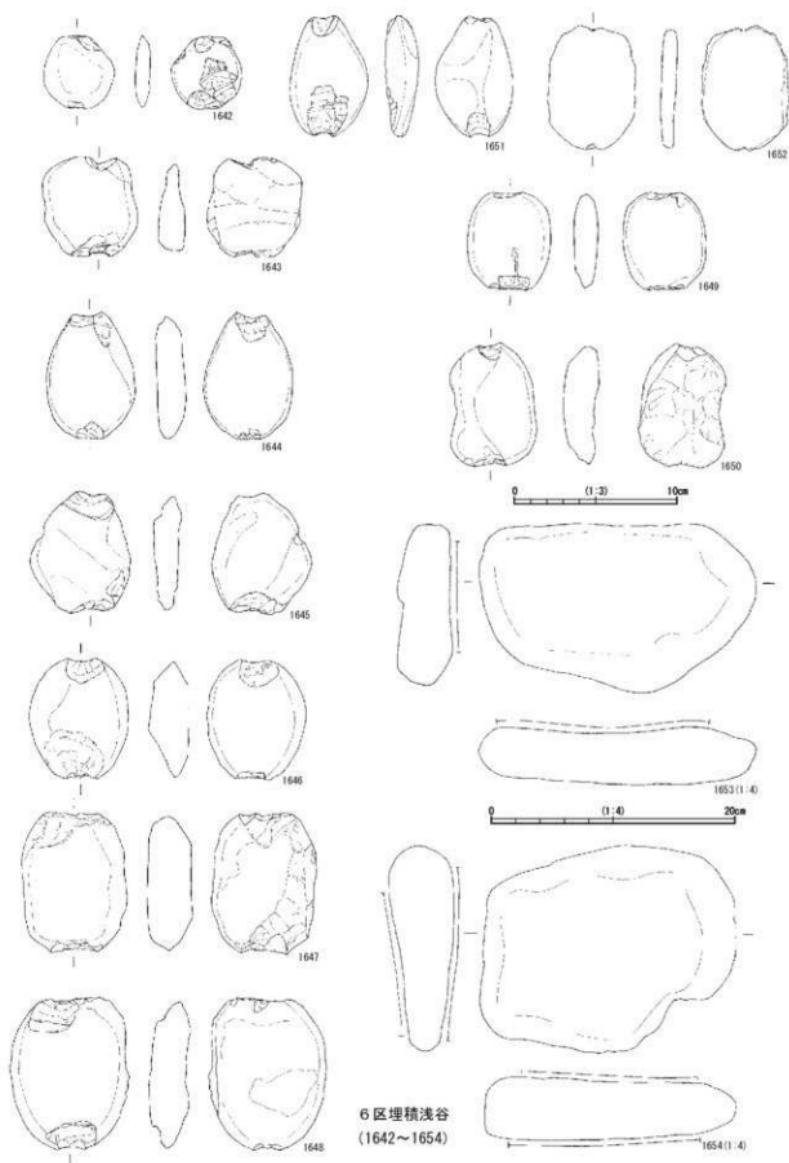


第 143 図 朝見遺跡（第 5 次）の石器組成

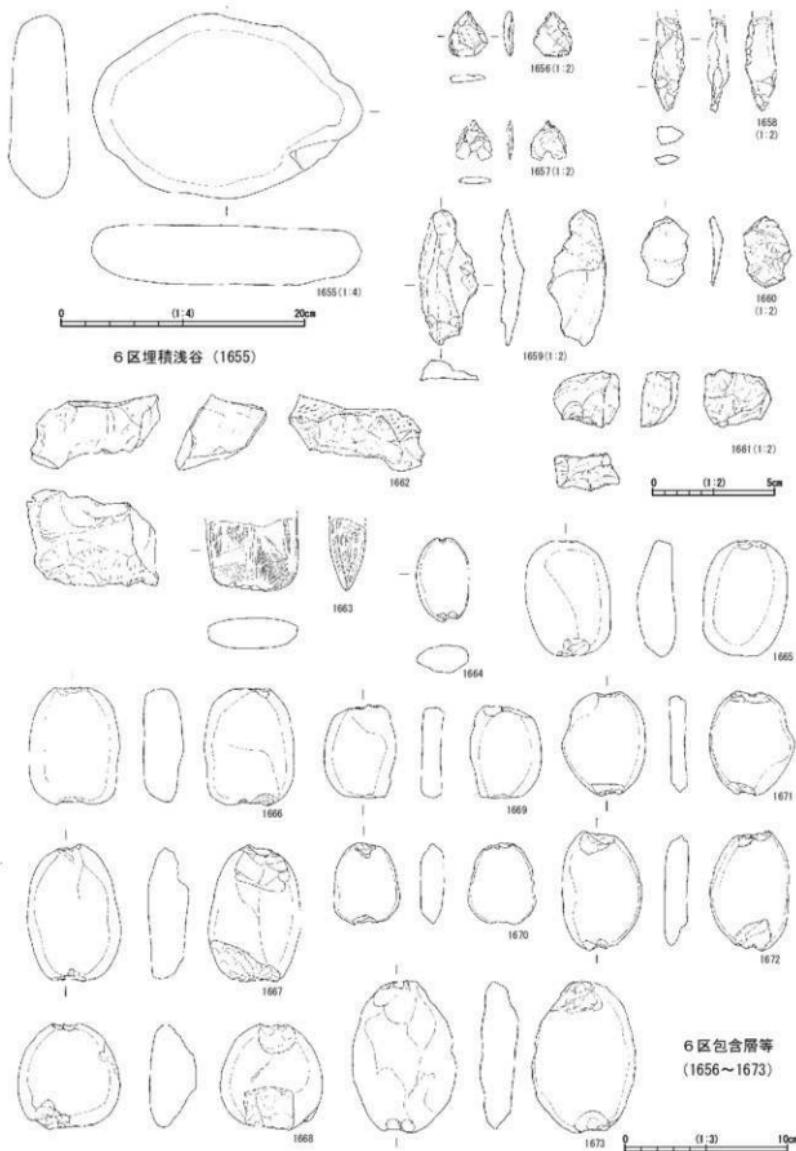
- 中世土器：伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2、三重県、2008年／伊藤裕偉「中世成立期における伊勢の土器相」『埴抜II』三重県埋蔵文化財センター、2000年。
- 山茶碗：藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター、1994年。
- 古瀬戸～瀬戸美濃大窯：藤澤良祐「瀬戸美濃大窯編年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯、2002年／「古瀬戸前期・中期・後期様式の編年」『中世瀬戸窯の研究』高志書院、2008年。／愛知県『愛知県史』別編巻業2（瀬戸系）、2007年。常滑：愛知県『愛知県史』別編巻業3（中世・近世常滑系）、2012年。
- 貿易陶磁：太宰府市教育委員会『太宰府条坊跡XV』2000年。
- (2) 蛍光X線による成分分析は、三重県総合博物館の協力を得た。測定装置：SEAI200VX ID_1443、測定日は2014年8月21日である。他に、土器566の赤色顔料（ベンガラ）も三重県総合博物館での分析による。なお、鏡の特徴や類例について、杉山洋氏（奈良文化財研究所、当時）、内川隆志氏（國學院大學博物館）の教示を得た。
- (3) 奈良文化財研究所『日光二荒山神社中宮祠宝物館所蔵男体山山頂遺跡出土鏡の研究』2014年。
- (4) 杉山洋「今様の鏡と古跡の鏡—出土八棱鏡より見た平安時代の鏡ー」『MUSEUM』481、東京国立博物館、1993年。
- (5) 中森成行「和鏡」『三重県史』資料編考古2、三重県、2008年。
- (6) 松阪市『松阪市史』第二巻資料編考古、1978年／三重県『三重県史』資料編考古2、2008年。
- (7) 動物遺体について、丸山真史氏（東海大学）の教示を得た。
- (8) 泉拓良・家根洋多「北白川追分町遺跡出土の縄文土器」『京都大学埋蔵文化財調査報告III - 北白川追分町縄文遺跡の調査 -』京都大学埋蔵文化財研究センター、1985年。
- (9) 千葉豊「縁帯文土器の成立と展開」『史林』76巻6号、史学研究会、1989年。
- (10) 家根洋多「近畿地方の土器」『縄文文化の研究4 縄文土器II』雄山閣、1981年。
- (11) 繩断茂・高橋健太郎「中富式・神明式土器」『絆縄文土器』アム・プロモーション、2008年。
- (12) 石田由紀子「中津・福田K II式土器」『絆縄文土器』アム・プロモーション、2008年。
- (13) 泉拓良「近畿地方の土器」『縄文文化の研究4 縄文土器II』雄山閣、1981年。
- (14) 北白川上層式と埴之内式の併行関係の概要是、前掲註13文献に指摘がある。
- (15) 泉拓良「船元・里木式土器様式」『縄文土器大観中期II』小学館、1988年。
- (16) 関西縄文文化研究会『縄文時代の石器II - 関西の縄文前・中期』（関西縄文文化研究会資料）2003年。
- (17) 田部剛士氏（鈴鹿市文化スポーツ部文化財課）の教示による。



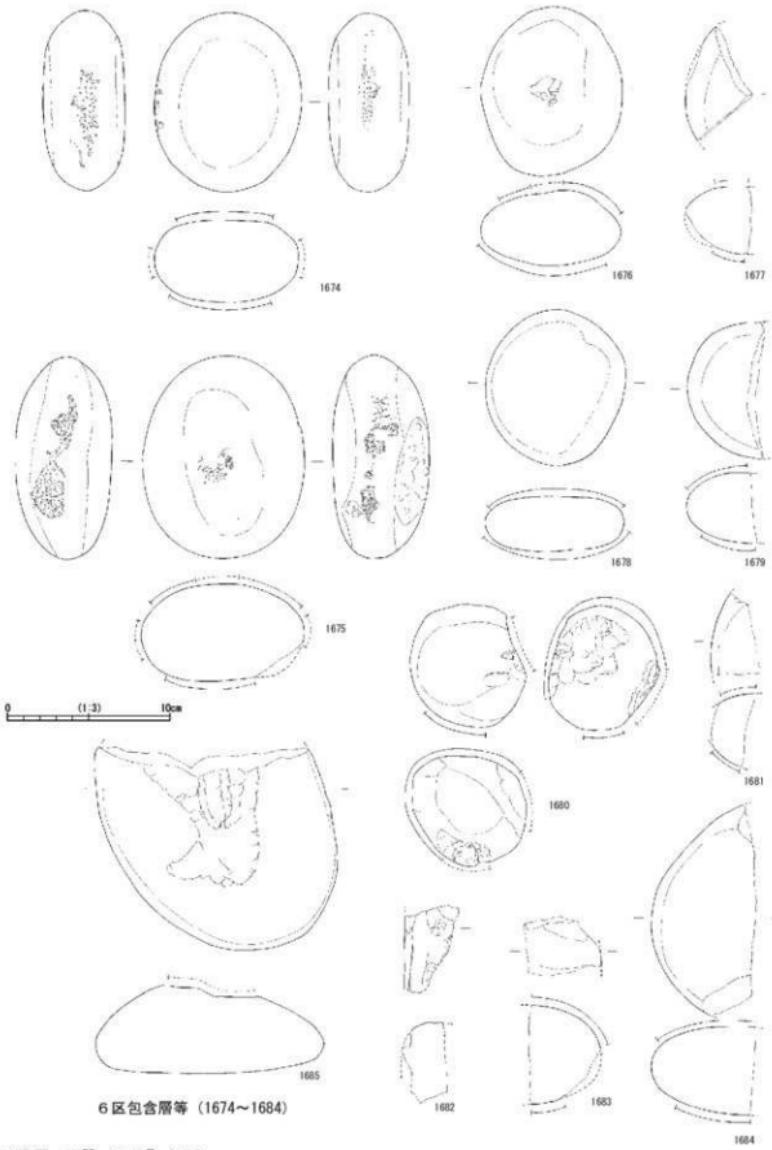
第144図 石器 1区・6区① (1:3、剥片石器1:2、断面周囲の破線は敲打、実線は擦痕)



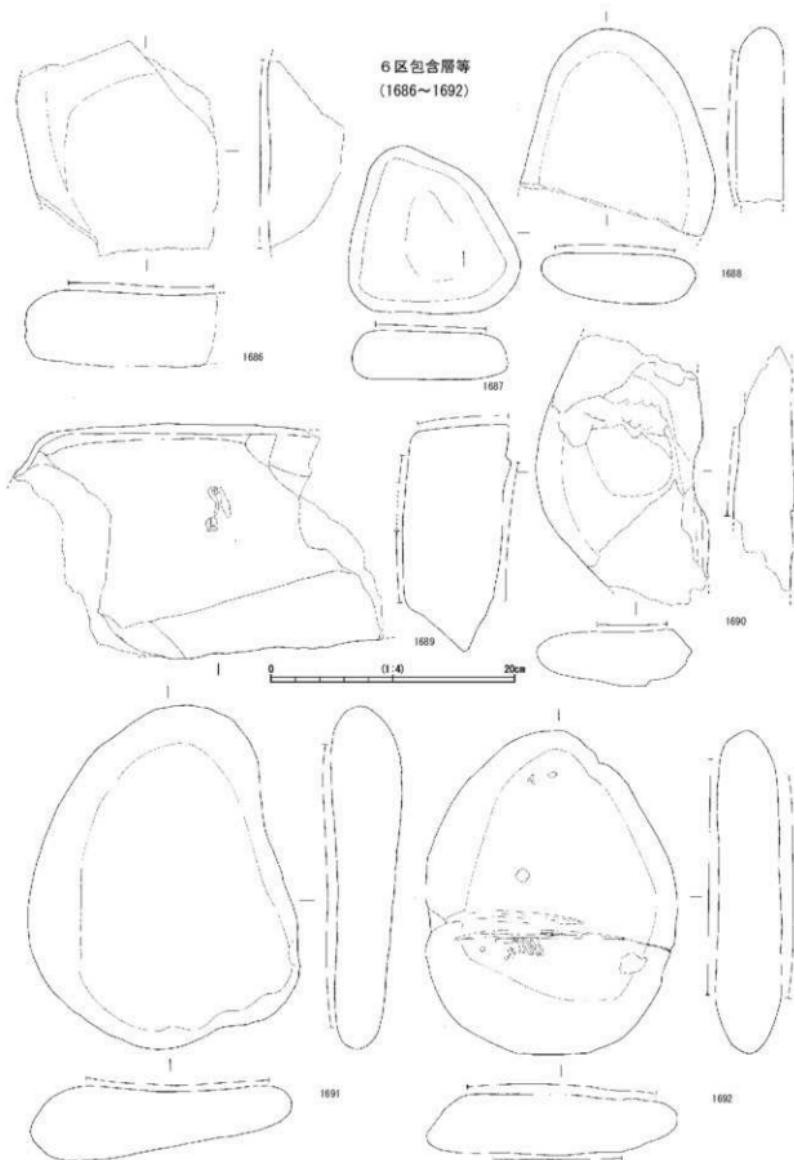
第145図 石器 6区② (1:3、石皿1:4、1652は土製品)



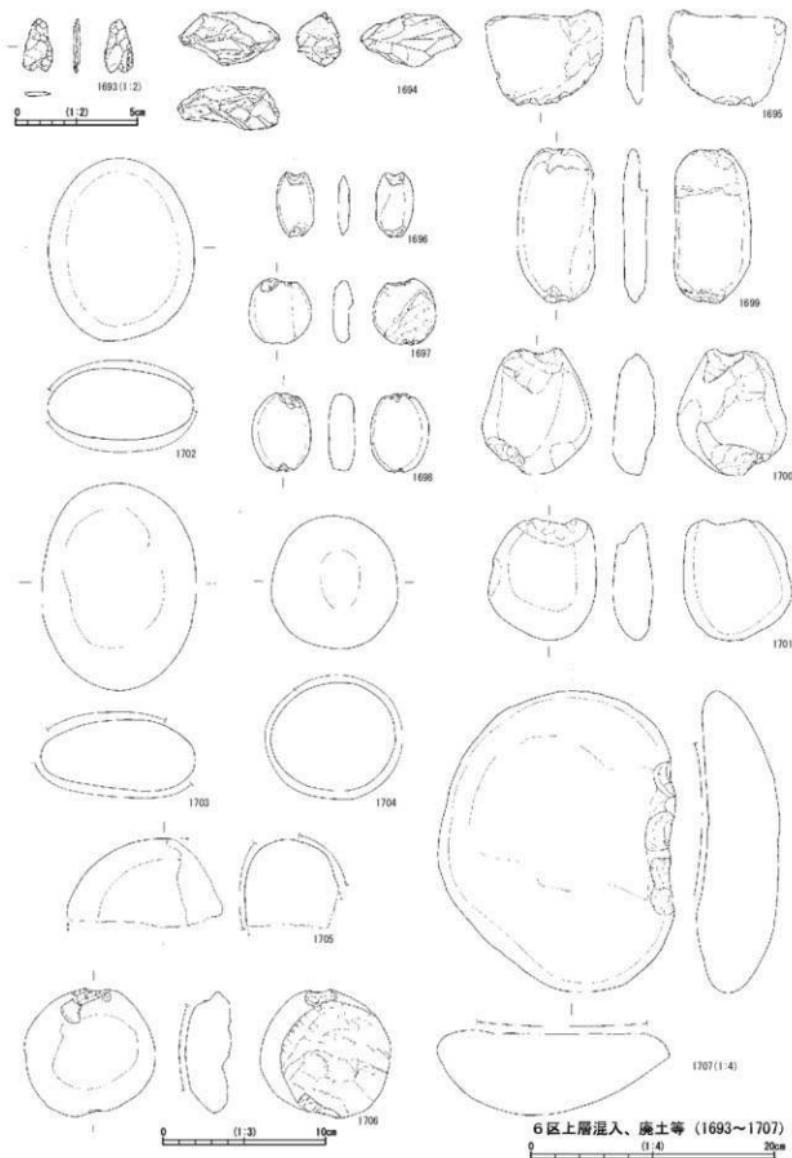
第 146 図 石器 6区③ (1:3、剥片石器 1:2、石皿 1:4)



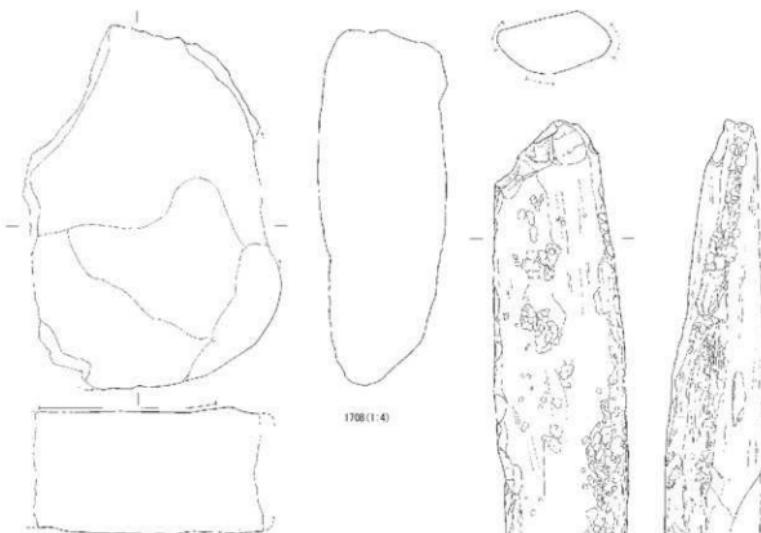
第147図 石器 6区④ (1:3)



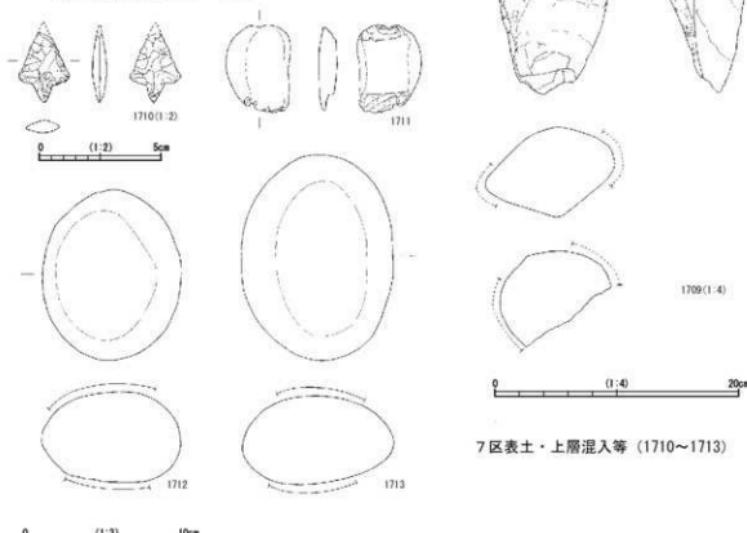
第148図 石器 6区⑤ (1:4)



第149図 石器 6区⑥ (1:3, 剥片石器1:2, 石皿1:4)



6区上層混入等 (1708・1709)



7区表土・上層混入等 (1710~1713)

第150図 石器 6区⑦・7区 (1:3、剥片石器1:2、石皿・石棒1:4)

第4表 遺物観察表

①土器・陶磁器等

No.	実測 番号	種類 (產地・系統)	形態	調査区	地区	遺構 位置	部位 推定度	量 (cm)		性状・文様の特徴 基盤	色調 (外觀)	特記事項
								口径	底径			
1	001-03	土器器	盆	1	チ-413-14	SBR1001上層	2/12	16.0	-	4.0 内「7.7」, 外「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
2	002-03	土器器	盆	1	チ-414-15	SBR1001上層	2/12	14.9	-	3.9 内「7.7」, 外「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
3	001-03	土器器	盆	1	チ-414-15	SBR1001上層	2/12	16.0	-	12.6 内「7.7」, 外「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	外側に内縫き
4	001-03	土器器	盆	1	チ-414-15	SBR1001上層	2/12	16.0	-	9.9 内「7.7」, 工具「1.7」, 壁厚「1.2」	灰	内縫き
5	003-01	土器器	盆	1	チ-414-15	SBR1001	2/12	16.4	-	5.9 内「7.7」, 壁厚「1.2」	浅黄色	
6	001-03	土器器	盆	1	チ-414	SBR1001上層	2/12	24.0	-	5.9 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	内縫き
7	003-02	陶器器	盆	1	チ-414-15	SBR1001上層	2/12	26.8	-	6.5 内「7.7」, 壁厚「1.2」, 著色灰	灰	
8	003-02	陶器器	盆	1	SBR1001	2/12	26.8	-	6.5 内「7.7」, 壁厚「1.2」, 著色灰	灰		
9	003-01	土器器	盆?	1	チ-414-15	SBR1001上層	直縫口	-	-	内「7.7」, 縫跡	灰	内縫き
10	001-01	土器器	高盆	1	ト-4-2	SBR1001下層	鋸切6/12	-	9.2	0.9 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
11	001-03	土器器	盆	1	チ-014	SBR1001	把手鉢片	-	-	内「7.7」, 壁厚「1.2」	浅黄色	
12	002-02	陶器器	盤	1	チ-014	SBR1001上層	側縫口	-	-	内「7.7」, 壁厚「1.2」, 内縫き灰	灰白	フタスロ瓶か
13	002-03	瓦	平瓦	1	チ-014	SBR1001上層	1/8	-	-	厚2.9 内縫き, 瓦頭丸	灰白	
14	002-01	瓦	平瓦	1	チ-014	SBR1001上層	1/8	-	-	厚1.8 内縫き, 瓦頭	灰白	
15	009-06	陶生土器	高盆	1	チ-JB	SBR1004	輪部	-	-	内「3.7」, 壁厚「1.2」	灰	内縫き
16	009-07	陶生土器	高盆	1	チ-K9	SBR1004	輪部-直縫口	-	9.1	0.9 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
17	009-08	陶器器	盆	1	チ-49	SBR1005	2/12	17.2	-	3.9 内「7.7」, 壁厚「1.2」, 壁厚灰	灰白	
18	009-01	土器器	盆	1	チ-113	SBR1005	2/12	14.8	-	2.4 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
19	009-05	土器器	盆	1	チ-JB	SBR1005	4/12	15.8	-	3.2 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
20	009-03	土器器	盆	1	チ-J10	SBR1005	4/12	14.4	-	3.0 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
21	010-02	土器器	盆	1	チ-H13	SBR1005	1/12	13.9	-	3.0 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
22	010-01	土器器	盆	1	チ-G13	SBR1005	4/12	14.7	-	3.1 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
23	009-02	土器器	盆	1	チ-J10	SBR1005	直縫-側縫口	17.7	-	2.4 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	内縫き
24	010-03	土器器	盆	1	チ-113	SBR1005	直縫-側縫口	23.1	-	14.4 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	内縫き
25	009-01	土器器	盆	1	チ-J9	SBR1005	直縫-側縫口	24.0	-	8.6 内「7.7」, 壁厚「1.2」, 壁厚灰	灰	内縫き
26	009-01	土器器	盆	1	SBR1005	北斬削削下層	2/12	15.3	-	4.2 内「7.7」, 壁厚「1.2」, 壁厚灰	灰	
27	009-01	土器器	盆	1	SBR1005	2/12	15.0	-	2.4 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰		
28	009-04	土器器	盆	1	SBR1005	小片	-	-	2.2 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰		
29	009-02	山茶瓶	瓶	1	SBR1002	底面4/12	-	6.8	2.0 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰白		
30	009-01	山茶瓶	瓶	1	SBR1002下層	直縫4/12	-	7.4	2.0 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰白		
31	008-01	山茶瓶	瓶	1	チ-EF13	SBR1002	底面8/12	-	2.5 内「7.7」, 壁厚「1.2」, 壁厚灰	灰白		
32	008-05	土器器	盆	1	SBR1002	直縫-側縫口	15.0	-	4.4 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	内縫き	
33	003-03	陶器器	瓶	1	SBR1002下層	1/12	-	10.6 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰白			
34	007-01	瓦	斜平瓦	1	SBR1002	小片	-	-	厚1.2 内縫き, 壁厚「1.2」	灰		
35	006-01	瓦	平瓦	1	SBR1002	北斬削削下層	1/8	-	厚1.2 内縫き, 壁厚「1.2」, 壁厚灰	灰		
36	011-03	土器器	高盆	1	チ-EH	SBR1007	輪部	-	-	内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	外側に採村窓
37	011-03	土器器	盆	1	チ-H14	SBR1008	直縫-側縫口	17.2	-	12.6 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	外側に採村窓
38	011-04	土器器	盆	1	チ-H14	SBR1008	直縫-側縫口	-	-	内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
39	010-02	土器器	盆	1	チ-K10	SBR1010	3/12	10.8	-	4.1 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	内縫き
40	012-01	土器器	盆	1	チ-J11	SBR1011上層	3/12	16.9	-	6.2 内「7.7」, 壁厚「1.2」, 壁厚灰	灰	
41	012-03	土器器	盆	1	チ-J11	SBR1011上層	3/12	17.0	-	5.4 内「7.7」, 壁厚「1.2」, 壁厚灰	灰	
42	012-03	土器器	盆	1	チ-J11	SBR1011上層	7/12	15.1	-	3.5 内「7.7」, 壁厚「1.2」, 壁厚灰	灰	
43	012-02	土器器	盆	1	チ-K11	SBR1011上層	5/12	11.8	-	3.7 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
44	013-04	土器器	盆	1	チ-K11	SBR1011上層	3/12	15.8	-	4.1 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
45	011-02	土器器	盆	1	チ-K11	SBR1011下層	直縫5/12	19.0	-	4.8 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
46	011-01	土器器	盆	1	チ-K11	SBR1011上層	直縫5/12	23.6	-	8.1 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
47	011-01	土器器	盆	1	チ-K11	SBR1011上層	8/12	14.5	-	10.1 内「7.7」, 工具「1.7」, 壁厚「1.2」	灰	底面外側に内縫き
48	011-01	土器器	盆	1	チ-K11	SBR1011上層	8/12	37.8	-	10.2 内「7.7」, 工具「1.7」, 壁厚「1.2」	灰	把手付
49	011-07	土器器	盆	1	チ-K11	SBR1012	1/12	15.5	-	4.6 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	
50	010-08	土器器	盆	1	チ-J12	SBR1013	3/12	12.5	-	3.4 内「7.7」, 壁厚「1.2」	浅黄色	
51	010-06	土器器	盆	1	チ-H18	SBR1023	1/12	12.0	-	4.9 内「7.7」, 壁厚「1.2」	浅黄	
52	010-03	土器器	盆	1	チ-H18	SBR1023	1/12	13.8	-	3.5 内「7.7」, 壁厚「1.2」	浅黄	
53	010-04	土器器	盆	1	チ-H18	SBR1023	直縫5/12	12.0	-	3.2 内「7.7」, 壁厚「1.2」	浅黄	
54	010-02	土器器	盆	1	チ-H18	SBR1023	直縫5/12	15.8	-	4.0 内「7.7」, 壁厚「1.2」	浅黄色	
55	020-05	陶器器	瓶	1	チ-G14	SBR1022	輪部	-	-	内「7.7」, 壁厚「1.2」, 壁厚灰	灰白	
56	010-02	陶生土器	高盆	1	チ-H18	SBR1021	直縫5/12	-	-	12.6 内「7.7」, 壁厚「1.2」	灰	

番号	種類 (品目・系統)	規格	調査区	地区	漁獲 部位	船名 荷役場	漁量 (t) 口当り 漁獲量		漁法・技術の特徴 施設		色図 (外観)	特記事項	
							内港	外港	内港	外港			
38	010-01	上鱈類	成魚	1	チ-216	SNS1017	新潟川	-	内: 南風 外: 13°	-	に伝い 根		
39	010-04	上鱈類	高級	1	チ-216	SNS1017	御崎川/12	-	15.2	3.3 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	に伝い 根	透孔丸舟	
40	010-04	上鱈類	台付蟹	1	チ-213	SNS1017	日輪川/10	16.0	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	に伝い 根		
42	020-03	上鱈類	成	1	チ-613	SNS1020	L/12	15.1	-	2.6 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
43	020-04	上鱈類	高級	1	チ-613	SNS1020	杵御川/12	15.9	-	5.6 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	鉤留	
44	020-06	上鱈類	高級	1	チ-614	SNS1020	御崎川	-	-	内: 鉤留底走工 外: (3°, 227°)	根	透孔丸舟	
45	020-06	上鱈類	高級	1	チ-613	SNS1020	御崎川/12	16.3	0.4 内: 工業仕立、227° 外: (3°, 227°)	根			
46	019-05	生ホ土鱈	成	1	チ-613	SNS1020	日輪川/12	11.8	-	3.6 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	透孔丸舟	
47	019-04	上鱈類	成	1	チ-613	SNS1020	日輪川	-	-	内: 工具入り、227° 外: (3°, 227°)	根		
48	019-02	生ホ土鱈	成	1	チ-613	SNS1020	日輪川/12	13.8	-	2.1 内: 鉤留底走工、337°、斜削 外: (3°, 227°)	根	底面	
49	019-01	上鱈類	成	1	チ-613	SNS1020	日輪川~御崎川	1/12	-	15.2 内: 工業仕立、227° 外: (3°, 227°)	根	明治船	
50	020-01	上鱈類	成	1	チ-613	SNS1020	日輪川/12	23.8	-	5.0 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	浅海型	
51	017-01	上鱈類	台付蟹	1	チ-213	SNS1020	4/12	16.8	-	29.2 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 根付付	
52	019-02	上鱈類	成	1	チ-613	SNS1020	御崎川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 根付	
53	019-03	上鱈類	高級	1	チ-615	SNS1024	御崎川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 根付	
54	025-02	上鱈類	成	1	チ-211	SNS1036	日輪川/12	15.8	-	5.5 内: フラット、227°、3° 外: (3°, 227°)	根	浅海型	
55	025-04	生ホ土鱈	成	1	チ-211	SNS1036	底原川/12	-	6.6	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	浅海型	
56	020-03	生ホ土鱈	成	1	チ-211	SNS1036	御崎川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	浅海型	
57	022-04	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1028	御崎川底走工	小舟	-	2.9 内: フラット、227°、鉤留底走工 外: (3°, 227°)	根	に伝い 根	
58	021-01	上鱈類	成	1	チ-213	SNS1028	御崎川	1/12	13.0	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	
59	022-03	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1028	芦戸川内	日輪川/12	15.2	-	3.0 内: フラット、227°、3° 外: (3°, 227°)	根	内部に探査者
60	021-02	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1028	9/12	16.0	-	5.3 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	底面	
61	019-02	上鱈類	成	1	チ-213	SNS1028	9/12	15.5	-	5.4 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	鉤留底走工	
62	022-05	上鱈類	成	1	チ-213	SNS1028	上鱈	小舟	-	2.9 内: フラット、227°、鉤留底走工 外: (3°, 227°)	根	に伝い 根	
63	021-01	上鱈類	成	1	チ-213	SNS1028	御崎川	1/12	13.0	-	1.9 内: フラット、227°、鉤留 外: (3°, 227°)	根	底面
64	022-02	上鱈類	成	1	チ-213	SNS1028	御崎川	1/12	13.0	-	2.3 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	底面
65	021-01	河豚胸肉	桿	1	チ-719	SNS1028	日輪川	2/12	13.8	7.6 内: フラット、227°、底原ハク巻り	根	底面	
66	022-01	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1028	日輪川/12	16.4	-	15.4 内: フラット、227°、3° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 根	
67	022-02	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1028	芦戸川内	日輪川~御崎川	5/12	-	13.4 内: フラット、227°、3° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 根
68	018-01	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1028	日輪川~御崎川	2/12	24.8	-	12.0 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	浅海型
69	270-02	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1028	日輪川/12	18.8	-	6.3 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
70	021-03	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1028	1/12	19.6	-	2.3 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
71	021-01	河豚胸肉	桿	1	チ-719	SNS1028	日輪川/12	19.8	-	4.0 内: 工業仕立、227°	根	底面	
72	019-01	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	9/12	16.0	-	3.2 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	底面	
73	020-01	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	9/12	16.0	-	3.2 内: フラット、227°、227° 外: (3°, 227°)	根	底面	
74	020-04	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	9/12	16.0	-	3.2 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	底面	
75	020-05	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	9/12	16.0	-	3.2 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	底面	
76	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	9/12	16.0	-	3.2 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	底面	
77	020-04	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	底原川	-	-	3.2 内: フラット、227°、底原小艇号	根		
78	020-04	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	底原川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
79	020-04	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川	-	-	内: フラット、227°、自然船	根		
80	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	底原川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
81	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
82	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
83	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
84	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
85	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
86	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
87	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
88	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
89	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
90	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
91	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
92	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
93	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
94	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
95	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
96	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
97	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
98	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
99	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
100	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
101	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
102	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
103	020-06	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
104	020-02	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
105	020-01	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
106	020-02	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
107	020-01	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
108	020-04	上鱈類	成	1	チ-212	SNS1043	日輪川/12	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根		
109	020-02	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	No.1	16/12	19.2	12.6 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
110	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	No.2	4/12	23.2	16.8 内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
111	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
112	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
113	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
114	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
115	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
116	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
117	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
118	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
119	020-02	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
120	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
121	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
122	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
123	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
124	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
125	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)	根	に伝い 透孔丸舟	
126	020-01	生ホ土鱈	高級	1	チ-210-11	SNS1042	日輪川	-	-	内: フラット、227° 外: (3°, 227°)			

NO	実施場所	測量地(面積)	基準	調査状況	地区	地名	地番	測量 位置	測量 精度	測量 測定座標	社法・文規の特徴 規制		色調 (外観)	特記事項
											測量 方法	測量 結果		
117	067-02	茨	平成	1	チ-014	SRS0145 (SRS0011分界)		小片	-	-	内「1.8 内-1.8 内-1.8」	規		
118	067-03	土師器	高斯	2	チ-014	SRS2004下層		所蔵B/12	-	-	2.4 内「3」 内「3」 内「3」	明治規	内面に交付書	
119	067-04	土師器	高斯	2	チ	SRS2006		所蔵B/12	-	-	6.0 内「3」 内「3」 内「3」	に古い 美術		
120	067-06	土師器	高	2	牛-014	SRS2006上層		所蔵B/12	-	-	6.2 内「3」 内「3」 内「3」	明治規		
121	067-07	土師器	高	2	牛-T14	SRS2006下層		所蔵B/12	-	-	内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
122	067-05	土師器	台付便	2	牛	SRS2006		台付B/12	-	-	4.6 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
123	065-04	土師器	新	2	牛-L14	SRS2003		日録B/12	12.4	-	2.6 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
124	065-03	瓦陶器	瓦	2	牛-014	SRS2003		西面B/12	-	7.2	2.6 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	灰白	内面無色	
125	065-03	陶器 (鏡)	天日陶器	2	牛-C14	SRS2003		日録B/12	-	-	内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	赤褐色		
126	065-03	土師器	高	2	牛-C14	SRS2003		口録-側面片	-	-	内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	灰		
127	067-01	土師器	瓦	2	牛-012-13	SRS2004下層 金子屋		日録B/12	12.8	-	3.2 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
128	064-02	土師器	瓦	2	牛-012-13	SRS2004上層		11/12	11.1	-	2.6 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	灰白		
129	061-03	土師器	瓦	2	牛-012-13	SRS2004上層		5/12	11.0	-	3.2 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	浅灰色		
130	066-05	土師器	高斯	2	牛-012-13	SRS2004下層		所蔵B/12	-	-	16.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
131	066-06	土師器	高斯	2	牛-012-13	SRS2004下層 金子屋		所蔵B/12	-	-	9.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	灰灰	透孔3方	
132	063-03	土師器	台付便	2	牛-G14-14	SRS2004上層		台面B/12	-	-	9.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
133	066-02	土師器	高斯	2	牛-C14	SRS2004上層		所蔵B/12	-	-	9.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	浅灰色	透孔3方	
134	064-04	土師器	高斯	2	牛-012-13	SRS2004上層		所蔵B/12	-	-	13.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規	他の可能性あり	
135	069-01	土師器	瓦	2	牛-B15	SRS2004		日録-側面 9/12	7.4	-	3.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
136	069-04	土師器	瓦	2	牛-012-14	SRS2004下層		日録B/12	-	-	4.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
137	069-03	土師器	台付便	2	牛-A012-13	SRS2004上層		日録B/12	11.6	-	5.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	灰灰	外面に付属書	
138	069-03	土師器	瓦	2	牛-C14	SRS2004上層		日録B/12	20.3	-	5.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
139	063-02	土師器	瓦	2	牛-G13-14	SRS2004中層		日録-側面 10/12	16.6	-	6.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	西面模		
140	065-02	土師器	台付便	2	牛-G13	SRS2004上層		日録B/12	13.2	-	5.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	西面模	外面に付属書	
141	069-01	土師器	瓦	2	牛-012-13	SRS2004中層		日録B/12	15.0	-	8.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
142	063-01	土師器	瓦	2	牛-B14	SRS2004上層		日録B/12	22.6	-	3.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規	二重瓦錠	
143	067-02	土師器	台付便	2	牛-G12-12	SRS2006		所蔵B/12	-	2.0	3.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	灰黄	外面に付属書	
144	069-03	土師器	瓦	2	牛-G13-14	SRS2004上層		2/12	22.0	-	2.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	浅灰色		
145	069-04	土師器	瓦	2	牛-G13-14	SRS2004下層		2/12	22.0	-	4.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
146	069-07	土師器	台付便	2	牛-F13	SRS2016		台面B/12	-	4.2	4.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	灰灰		
147	069-08	土師器	台付便	2	牛-F13	SRS2016		台面B/12	-	9.2	4.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
148	069-02	土師器	瓦	2	牛-B14	SRS2014上層		日録B/12	12.6	-	3.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
149	069-01	土師器	瓦	2	牛-G13-14	SRS2014下層		日録-側面 3/22	26.4	-	5.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
150	069-04	土師器	新	2	牛-C15	SRS2013		日録B/12	13.5	-	2.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
151	069-05	土師器	新	2	牛-C15	SRS2011上層		日録B/12	13.6	-	2.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
152	069-01	瓦陶器	瓦	2	牛-E12	SRS2014下層		西面B/12	-	7.0	2.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	灰白		
153	069-01	土師器	新	2	牛-G15	SRS2006		小片	-	-	内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
154	069-02	土師器	新	2	牛-G15	SRS2009		日録B/12	18.0	-	2.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
155	070-05	土師器	高斯	2	牛-J11	SRS2020		所蔵B/12	-	-	内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規	透孔3方	
156	069-05	土師器	台付便	2	牛-E15	SRS2017		日録B/12	-	-	内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	灰灰		
157	061-01	土師器	台付便	2	牛-E15	SRS2017上層		4/12	14.0	9.0	22.7 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術	外面に付属書	
158	070-01	土師器	瓦	2	牛-E15	SRS2017		日録-側面 6/12	16.6	-	2.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規	新安	
159	073-04	土師器	瓦	2	牛-E12-13	SRS2018		日録B/12	-	-	内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
160	070-04	土師器	高	2	牛-G15-14	SRS2016下層		3/22	26.4	-	5.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
161	071-02	瓦陶器	杯蓋	2	牛-E15	SRS2013		日録B/12	13.5	-	2.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
162	072-01	土師器	便	2	牛-F15	SRS2012		日録B/12	-	-	内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	灰白		
163	072-02	土師器	便	2	牛-E15	SRS2012		日録B/12	21.4	-	2.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
164	070-03	土師器	台付便	2	牛-U14	SRS2018		台面B/12	-	2.0	4.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規	内面無色	
165	071-01	土師器	會	2	牛-V14	SRS2018上層 No.2		日録B/12	13.0	-	10.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
166	070-02	土師器	會	2	牛-E14	SRS2018		日録-側面 底面	-	-	5.2 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
167	070-02	土師器	會	2	牛-E14	SRS2018		日録B/12	-	-	内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
168	072-03	土師器	瓦	2	牛-B14-14	SRS2020		4/12	15.2	-	4.1 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
169	072-05	土師器	台付便	2	牛-E14	SRS2018		台面B/12	-	6.7	3.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
170	072-04	土師器	台付便	2	牛-E14	SRS2020		日録-側面 3/12	22.0	-	5.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	に古い 美術		
171	073-03	土師器	新	2	牛-E15	SRS2017		3/12	26.2	-	3.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	浅黄色		
172	072-03	土師器	高斯	2	牛-W15	SRS2027		日録B/12	-	-	内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規	新潟土の複合物に割み	
173	072-01	土師器	台付便	2	牛-E15	SRS2027		日録-側面 3/12	22.4	-	3.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	規		
174	072-06	土師器	會	2	牛-E15	SRS2027新規		日録B/12	18.2	-	2.0 内「1.8」 内「1.8」 内「1.8」	灰白		

番号	測量場所 (位置・高程)	種類	調査区	地区	沿岸 測量場	部屋 標高差	位置 (km) 口径 / 道幅		往復・文庫の特徴	色図 (外観)	特記事項	
							左岸	右岸				
175	070-05	土斜面	折	3 ワ-116	SBS0001上層	-2/12	14.6	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰		
176	070-03	土斜面	折	3 ワ-116	SBS0001上層	-7/12	14.2	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	浅黄緑		
177	070-06	土斜面	折	3 ワ-116	SBS0001上層	-2/12	14.6	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰		
178	070-02	土斜面	折	3 ワ-116	SBS0001上層	-道筋12/12	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰			
179	070-04	土斜面	折	3 ワ-014-15	SBS0001	道筋小介	-	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白		
180	070-01	土斜面	壁	3 ワ-116	SBS0001上層	10/12	17.6	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	高い壁	
184	070-02	瓦	平瓦	3 ワ-115	SBS0001上層	小所	-	-	右岸 内→外、右岸 内→外、右岸 内→外	灰白	高い 瓦張り	
184	070-03	瓦	平瓦	3 ワ-116	SBS0001上層	小所	-	-	右岸 内→外、右岸 内→外、右岸 内→外	灰白	高い 瓦張り	
186	070-01	瓦	平瓦	3 ワ-X10-19	SBS0001上層	小所	-	-	右岸 内→外、右岸 内→外、右岸 内→外	灰白	高い 瓦張り	
188	070-02	土斜面	高所	3 ワ-115	SBS0001上層	底筋12/12	-	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	明歩場		
189	070-01	土斜面	高所	3 ワ-114	SBS0001下層	脚筋場	-	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	明歩場		
190	070-04	土斜面	踏面	3 ワ-114	SBS0001下層	右筋場	-	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	明歩場		
193	080-05	土斜面	高所	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	-	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	浅	透光孔	
192	070-08	土斜面	高所	3 ワ-114-15	SBS0001下層	脚筋	-	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	高い 透光孔	
193	080-01	土斜面	高所	3 ワ-115	SBS0002下層	脚筋	-	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	浅	透光孔	
194	080-01	土斜面	壁	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	11/12	8.1	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	高い 壁
196	080-02	築堤面	高所	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	8/12	12.2	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰	
197	070-02	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	11/12	11.6	8.5	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
198	070-03	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	10/12	11.0	8.0	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
199	070-01	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	9/12	10.5	7.5	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
200	080-01	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	8/12	10.0	7.0	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
201	070-07	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	7/12	9.5	6.5	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
202	080-01	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	6/12	9.0	6.0	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
203	070-03	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	5/12	8.5	5.5	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
204	080-01	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	4/12	8.0	5.0	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
205	070-04	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	3/12	7.5	4.5	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
206	070-04	土斜面	台付壁	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	2/12	7.0	4.0	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
207	070-02	土斜面	台付壁	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	1/12	6.5	3.5	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
208	070-03	土斜面	台付壁	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	0/12	6.0	3.0	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
209	070-06	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	11/12	5.5	3.5	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
210	070-07	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	10/12	5.0	3.0	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
211	080-01	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	9/12	4.5	2.5	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
212	070-02	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	8/12	4.0	2.0	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
213	070-03	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	7/12	3.5	1.5	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
214	070-04	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	6/12	3.0	1.0	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
215	070-02	土斜面	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	5/12	2.5	1.0	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
216	080-05	山系胸壁	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	4/12	2.0	0.5	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
217	070-06	山系胸壁	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	3/12	1.5	0.5	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
218	070-09	山系胸壁	傾斜面	3 ワ-115	SBS0002下層	底筋	2/12	1.0	0.5	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
219	110-03	土盤面	傾斜面	3 正規	SBS0002上層	小所	-	-	-	-	灰白	
220	080-04	土盤面	台付壁	3 ワ-114	SBS0002上層	脚筋場	-	-	-	-	灰白	
221	080-01	土盤面	折	3 ワ-114	SBS0002上層	脚筋場	-	-	-	-	灰白	
222	080-02	土盤面	折	3 ワ-114	SBS0002上層	脚筋場	-	-	-	-	灰白	
223	070-01	土盤面	傾斜面	3 ワ-114	SBS0002上層	脚筋場	11/12	14.6	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
224	080-02	土盤面	傾斜面	3 ワ-114	SBS0002上層	脚筋場	10/12	14.1	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
225	070-03	土盤面	傾斜面	3 ワ-114	SBS0002上層	脚筋場	9/12	13.1	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
226	080-01	土盤面	傾斜面	3 ワ-114	SBS0002上層	脚筋場	8/12	12.6	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
227	070-04	土盤面	傾斜面	3 ワ-114	SBS0002上層	脚筋場	7/12	12.0	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
228	110-02	土盤面	傾斜面	3 正規	SBS0002上層	脚筋場	6/12	11.5	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
229	080-04	土盤面	折	3 ワ-114	SBS0002下層	脚筋場	-	-	-	-	灰白	
230	070-01	土盤面	傾斜面	3 ワ-114	SBS0002下層	脚筋場	5/12	11.0	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
231	080-06	土盤面	傾斜面	3 正規	SBS0002上層	脚筋場	4/12	10.5	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
232	080-02	土盤面	傾斜面	3 正規	SBS0002上層	脚筋場	3/12	10.0	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
233	080-04	土盤面	傾斜面	3 正規	SBS0002上層	脚筋場	2/12	9.5	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白	
234	080-01	瓦	丸瓦	3 ワ-109	SBS0003	1/2	-	-	右岸 内→外、右岸 内→外、右岸 内→外	灰白	東2.5.0g	
235	080-02	山系胸壁	折	3 ワ-123	SBS0003	高所1/12	-	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白		
236	080-01	山系胸壁	傾斜面	3 ワ-120	SBS0003	高所1/12	-	-	左岸 内→外、左岸 内→外、左岸 内→外	灰白		
237	070-01	土盤面	傾斜面	3 ワ-118	SBS0006	脚筋場	-	-	-	-	灰白	

No	実施者 (施設・系統)	種別	調査区	地区	選択 部位	割合 種群	数量 (cm) 口数 高度 高基			特徴・文様の特徴 類似	色調 (外基)	特記事項
							口数	高さ	高基			
236	098-01 土師器	便	3 ツ-C17	SBS0005	口縁一側面 1/2	16.2	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	浅黄緑	
239	104-02 土師器	糞	3 ツ-C18	SBS0012	口縁1/2 底面9/12	16.0	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	浅黄緑	
240	104-04 山茶園	糞	3 ツ-C18	SBS0012	口縁1/2 底面9/12	8.9	6.9	3.5	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
241	105-03 山茶園	糞	3 ツ-C18	SBS0012	底面9/12	-	7.0	1.0	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
242	104-05 山茶園	糞	3 ツ-C18	SBS0012	底面4/12	-	7.7	2.0	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
243	104-01 土師器	糞	3 ツ-C18	SBS0012	口縁一側面 2/12	24.0	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	に長い 黒縦
244	104-03 土師器	糞	3 ツ-C18	SBS0012	完形	14.6	13.3	-	-	内:工具マーク	浅黄緑	重さ5.5g
245	107-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C18	SBS0012	小片	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰	瓦表面は欠陥
246	107-03 瓦	斜平瓦	3 ツ-C18	SBS0012	小片	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	浅黄緑	
247	096-04 土師器	糞	3 ツ-C18	SBS0007	口縁部4/12	16.0	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	に長い 黒縦
249	091-03 土師器	糞	3 ツ-V19	SBS0006	口縁部面	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	に長い 黒縦
249	098-05 沢地南面	糞	3 ツ-V15	SBS0009	底面1/12	-	7.5	1.4	-	内:工具マーク	灰白	
250	096-06 土師器	糞	3 ツ-V15	SBS0010	口縁部面	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	に長い 黒縦
251	096-02 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0006	底面1/12	-	6.6	1.8	-	内:工具マーク, 外:工具マーク,工具マーク	灰白	外方に備文書「大」
252	092-02 木造(平屋)	糞	3 ツ-C17	SBS0004	口縁部面	-	-	-	-	内:工具マーク	灰白	
253	093-03 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面2/12	-	8.0	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	内部に備文書
254	091-02 山茶園	糞	3 ツ-C18	SBS0004	底面12/12	-	7.1	3.0	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
255	091-06 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面12/12	-	8.9	2.0	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
256	091-01 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面12/12	-	7.7	3.1	-	内:工具マーク, 外:工具マーク,工具マーク	灰白	
257	094-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-V18	SBS0004	下端	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	浅黄緑	
258	095-05 ロカ土塗器	付付瓦	3 ツ-V18	SBS0004	底面3/12	-	6.1	2.1	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	浅黄緑	
259	092-03 ロカ土塗器	糞	3 ツ-C17	SBS0004	中端	-	9.6	2.4	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
260	099-04 山茶園	糞	3 ツ-V18	SBS0004	中端	-	8.5	4.3	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
261	097-02 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	上端	-	11.2	5.4	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
262	097-01 山茶園	糞	3 ツ-C18	SBS0004	上端	-	16.0	6.5	5.6	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
263	096-01 山茶園	糞	3 ツ-V18	SBS0004	底面	-	6.6	3.4	-	内:工具マーク, 外:工具マーク,工具マーク	灰白	外方に備文書「○」
264	094-03 沢地南面	糞	3 ツ-C17	SBS0004	中端	-	11.3	2.8	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	オーバー 灰	
265	091-03 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面	-	7.9	2.4	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
266	097-04 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	中端	-	7.5	3.6	-	内:工具マーク, 外:工具マーク,工具マーク	灰白	
267	096-05 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面3/12	-	6.2	3.6	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	内方に備文書
268	097-05 山茶園	糞	3 ツ-V18	SBS0004	底面	-	6.2	3.6	-	内:工具マーク, 外:工具マーク,工具マーク	灰白	
269	091-03 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面12/12	-	6.6	3.4	-	内:工具マーク, 外:工具マーク,工具マーク	灰白	
270	091-04 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面12/12	-	7.2	3.6	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
271	099-03 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面12/12	-	7.3	3.4	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
272	097-06 山茶園	糞	3 ツ-V18	SBS0004	底面12/12	-	6.9	3.5	-	内:工具マーク, 外:工具マーク,工具マーク	灰白	内方に備文書
273	096-03 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面12/12	-	7.5	3.6	-	内:工具マーク, 外:工具マーク,工具マーク	灰白	内方に備文書
274	091-01 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	中端	-	7.9	2.8	-	内:工具マーク, 外:工具マーク,工具マーク	灰白	
275	099-04 山茶園	糞	3 ツ-V18	SBS0004	底面9/12	-	7.2	3.2	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	内方に備文書
276	092-02 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	中端	-	8.2	3.2	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
277	097-06 山茶園	糞	3 ツ-V18	SBS0004	底面12/12	-	6.9	3.5	-	内:工具マーク, 外:工具マーク,工具マーク	灰白	内方に備文書
278	096-03 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面7/12	-	7.5	3.6	-	内:工具マーク, 外:工具マーク,工具マーク	灰白	内方に備文書
279	091-01 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面12/12	-	7.9	2.8	-	内:工具マーク, 外:工具マーク,工具マーク	灰白	
280	099-01 山茶園	糞	3 ツ-V18	SBS0004	底面9/12	-	7.2	3.2	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
281	092-02 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	中端	-	8.2	3.2	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
282	099-05 山茶園(底見)	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面12/12	-	8.4	24.6	-	内:工具マーク,L工具マーク	灰	に長い 赤縦
279	092-02 山茶園(底見)	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面12/12	-	7.8	3.6	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰	
279	092-02 山茶園(底見)	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面4/12	-	16.9	3.4	-	内:工具マーク	灰白	
282	092-04 膜器	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
283	099-01 山茶園	糞	3 ツ-C17	SBS0004	底面	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
284	099-03 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	小片	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰	
285	090-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	小片	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	に長い 黒縦
286	093-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	小片	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	瓦表面研磨
287	090-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	小片	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰	
288	090-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	小片	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰	
289	091-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	小片	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰	
290	090-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	小片	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰	
291	087-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	小片	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰	
292	097-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	小片	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰	に長い 黒縦
293	098-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	小片	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
294	093-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	小片	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰白	
295	098-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	小片	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰	
296	088-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	小片	-	-	-	-	内:工具マーク, 外:工具マーク	灰	向腹透光
297	086-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
298	093-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
299	090-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
300	091-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
301	092-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
302	093-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
303	094-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
304	095-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
305	096-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
306	097-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
307	098-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
308	099-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
309	090-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
310	091-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
311	092-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
312	093-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
313	094-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
314	095-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
315	096-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
316	097-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
317	098-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
318	099-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
319	090-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
320	091-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
321	092-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
322	093-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
323	094-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
324	095-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
325	096-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
326	097-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
327	098-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
328	099-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
329	090-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
330	091-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
331	092-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
332	093-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
333	094-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
334	095-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
335	096-02 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰	
336	097-01 瓦	斜平瓦	3 ツ-C17	SBS0004	底面上端	-	-	-	-	内:工具マーク	灰</td	

NO	実測 箇所 (場所・系統)	種別	調査区	地区	選択 施設	割合 施設序号	流量 (cm) 日間量 最高量			技法・支障の特徴 施設	色調 (外見)	特記事項	
							日間量	最高量	最高量				
297	102-01 土砂路	林	3	ワ-015-16	SB53011	16/12	13.4	-	5.2	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	に高い 黄褐色		
298	102-06 土砂路	林	3	ワ-015-16	SB53011	4/12	11.0	-	2.1	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	黄褐色		
299	102-05 土砂路	林	3	ワ-015-16	SB53011	8/12	10.4	-	1.9	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	に高い 黄褐色		
300	102-07 土砂路	林	3	ワ-015-16	SB53011	14/12 完済	9.9	-	1.7	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	に高い 黄褐色		
301	106-05 土砂路	林	3	ワ-C-D15	SB53011	1/12	12.8	-	1.5	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	浅黄褐色		
302	102-03 土砂路	林	3	ワ-015-16	SB53011	11/12	11.6	-	2.1	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	に高い 黄褐色		
303	102-03 土砂路	林	3	ワ-015-16	SB53011	6/12	11.0	-	2.0	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	に高い 黄褐色		
304	103-04 土砂路	林	3	ワ-015-16	SB53011	6/12	10.8	-	1.8	内: 77°, 227°, 337° 外: 192°, 277°, 337°	に高い 黄褐色		
305	102-06 ロクロ土砂路	林	3	ワ-A15 既成土砂路	SB53011	既成土砂路	-	4.0	1.5	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	浅黄褐色		
306	101-04 土砂路	土砂	3	ワ-A15	SB53011	完済	10.9	7.2	-	77°	灰黃	表: 4.7 g	
307	101-03 土砂路	土砂	3	SB53011	既成土砂路(4)	完済	10.9	7.2	-	77°	灰黃	表: 3.8 g	
308	101-02 土砂路	土砂	3	ワ-B15	SB53011	完済	10.3	7.2	-	77°	灰黃	表: 3.6 g	
309	103-03 河床面路	小輪	3	ワ-C15-18	SB53011	3/12	9.8	15.5	3.8	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
310	103-06 河床面路	林	3	ワ-C15	SB53011 既成土砂路	既成土砂路	-	8.2	1.8	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°	灰 オリーブ		
311	103-07 河床面路	林	3	ワ-C15-18	SB53011	1/12	13.0	-	2.4	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灰黃		
312	099-07 中川	林	3	ワ-C15-18	SB53011 既成土砂路	既成土砂路	-	-	-	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
313	102-09 山系面	林	3	ワ-B15	SB53011 既成土砂路	既成土砂路	-	4.1	1.6	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
314	103-02 山系面	林	3	ワ-C15-18	SB53011	既成土砂路	-	7.6	2.2	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
315	106-01 表面路	土砂	3	ワ-C15	SB53011 既成土砂路	既成土砂路	-	5.0	1.8	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°	黄		
316	101-01 海路	土砂	3	ワ-A15	SB53011 既成土砂路	既成土砂路	-	11.3	12.4	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
317	103-05 海路	土砂	3	ワ-B15	SB53011 既成土砂路	既成土砂路	-	5.2	2.6	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
318	103-04 海路	土砂	3	ワ-C15-16	SB53011	既成土砂路	-	8.0	9.6	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337° 左: 192°, 277°, 337°	灰白		
319	103-01 海路	土砂	3	ワ-A15	SB530001 既成土砂路	既成土砂路	-	17.0	6.6	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
320	099-02 土瓦	土瓦	3	ワ-A15	SB53011 既成土砂路	既成土砂路	-	9.2	3	内: 77°, 有目 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
321	109-02 土瓦	土瓦	3	ワ-A15	SB53011	小井	-	-	7.9	内: 77°, 有目 外: 192°, 277°, 337°	灰		
322	109-01 土瓦	土瓦	3	ワ-E15	SB53011	小井	-	-	7.9	内: 77°, 有目 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
324	099-01 土瓦	土瓦	3	ワ-S16	SB53011 既成土砂路	既成土砂路	-	-	7.7	内: 77°, 有目 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
325	106-03 ロクロ土砂路	林	3	レ-H15	SB53011	既成土砂路	-	5.5	1.6	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	褐		
326	106-04 土砂路	林	3	ワ-E15-18	SB53011	既成土砂路	-	1.8	1.8	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	浅黄褐色		
327	105-04 山系面	林	3	ワ-E15	SB53013	既成土砂路	-	7.2	2.1	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
328	105-09 山系面	林	3	ワ-E15	SB53013	既成土砂路	-	7.4	2.6	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
329	106-02 山系面	林	3	ワ-E15	SB53013	既成土砂路	-	8.1	3.3	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337° 左: 192°, 277°, 337°	灰白		
330	107-02 土瓦	土瓦	3	ワ-E18	SB53013	小井	-	-	7.2	内: 77°, 有目 外: 192°, 277°, 337°	黑褐色		
331	109-01 山系面	林	4	才-03	SB54001 下層 既成土砂路	既成土砂路	-	7.2	2.2	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
332	111-02 土瓦	土瓦	4	才-03	SB54001 下層 既成土砂路	既成土砂路	-	7.2	2.2	内: 77°, 有目 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
333	109-02 土砂路	林	4	才-022	SB54001	3/12	10.4	-	5.1	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	浅黄褐色		
334	109-05 土砂路	林	4	才-01	SB54003	小井	-	-	5.4	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	に高い 黄褐色		
335	109-07 土砂路	林	4	才-S22	SB54003	小井	-	-	5.4	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	に高い 黄褐色		
336	109-06 土砂路	林	4	才-S22	SB54004 既成土砂路	既成土砂路	-	-	5.4	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
337	117-03 河床面路	林	4	才-S20	SB54006	既成土砂路	-	8.6	1.0	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灰白		
338	115-04 土砂路	林	4	才-017	SB54009	1/12	11.8	-	3.4	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	に高い 黄褐色		
339	115-05 土砂路	林	4	才-016	SB54011 既成土砂路	既成土砂路	-	13.4	-	3.4	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	浅黄褐色	
340	116-04 土砂路	高草	4	才-016	SB54011	既成土砂路	-	16.8	-	4.4	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	浅黄褐色	
341	116-06 土砂路	灌木	4	才-016	SB54011	既成土砂路	-	-	-	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灌木		
342	116-03 土砂路	高草	4	才-019	SB54011	既成土砂路	-	-	4.6	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337° 左: 192°, 277°, 337°	灌木	または台付林	
343	118-05 土砂路	高草	4	才-016	SB54011 既成土砂路	既成土砂路	-	11.6	9.8	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灌木	透水3.3%	
344	115-03 土砂路	灌木	4	才-W15	SB54011	既成土砂路	-	4.1	2.4	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灌木		
345	116-02 土砂路	台付林	4	才-E9	SB54011	既成土砂路	-	13.6	-	5.0	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灌木	
346	115-01 土砂路	林	4	才-019	SB54011	既成土砂路	-	16.8	-	12.2	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灌木	表面は台付林に若い
347	117-01 土砂路	灌木	4	才-016	SB54011 既成土砂路	既成土砂路	-	20.0	-	7.6	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	灌木	浅黄褐色
348	112-07 土砂路	林	4	才-P22	SB54006	9/12	8.1	-	3.1	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	に高い 黄褐色		
349	115-03 土砂路	林	4	才-P22	SB54006	9/12	9.7	-	3.1	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	後赤壁		
350	112-08 土砂路	林	4	才-P22	SB54006	3/12	11.4	-	5.1	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	内赤壁		
351	112-06 土砂路	林	4	才-P22	SB54006	3/12	10.4	-	5.2	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	後赤壁		
352	112-04 土砂路	林	4	才-P22	SB54006	2/12	12.2	-	3.7	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	後赤壁		
353	112-01 土砂路	林	4	才-P22	SB54006	7/12	10.2	-	4.3	内: 77°, 227° 外: 192°, 277°, 337°	後赤壁		

NO	実施場所	測量 (測地)系統	基準	調査区	地区	選択 位置	測量 位置	測量 方法	測量 CM （口直）			社法・文規の特徴 規制	色調 (外観)	特記事項
									口直	直角	高さ			
412	123-01	ロクロ土削器	正	4	ク-918	SE34006	底面9/12	-	5.0	1.9	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」、直切版	に高い 黄緑	
413	123-05	土耕器	便	4	ク-918	SE34036下層	口縫底面	-	-	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	に高い 黄緑	
414	123-04	転倒角器	横	4	ク-918	SE34036下層	直面9/12	-	6.0	9.6	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」、直切版	居合	
415	123-02	山耕機	横	4	ク-918	SE34036	口縫底面/12 セ1	直面底面	10.2	7.3	5.7	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」、直切版、(3)版	居白	内に黒付青緑
416	123-01	転倒角器	横	4	ク-918	SE34036	口縫底面 セ2	直面底面	10.9	7.3	5.7	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」、直切版、(3)版	明 オーブ	または相坂山耕機
417	123-03	転倒角器	横	4	ク-918	SE34036内側	底面9/12	-	6.0	2.4	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	居黄	
418	123-05	ロクロ土削器	横	4	ク-918	SE34036内側	底面9/12	-	7.0	2.1	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」、直切版	居赤	
419	124-02	瓦	平瓦	4	ク-918	SE34036内側 セ2	1/4	-	-	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」、直切版	に高い 灰	
420	109-08	土耕器	耕	4	オ-813	SE34042-1	小片	-	-	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	に高い 灰	
421	109-09	土耕器	整	4	オ-813	SE34042-1	1/12	-	-	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	浅黄緑	
422	125-01	土耕器	整	4	オ-914	SE34041-7	3/12	10.1	-	1.0	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	居白		
423	109-03	土耕器	整	4	オ-915	SE34041-7	1/12	6.3	-	1.0	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	居白		
424	109-04	土耕器	耕	4	オ-915	SE34041-7	1/12	6.3	-	1.0	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	居白		
425	125-04	土耕器	整	4	オ-918	SE34040	口縫面	-	2.0	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	浅黄緑	
426	036-03	その他	供洋	4	ク-919	SE34040	小片	3.6	2.5	1.0	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	23.5g 陶器用、下面が錆く発着	
427	129-05	山耕機	横	2	ク-913	SE35004	底面9/12	-	7.0	2.2	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」、直切版、(3)版	居白	
428	129-06	山耕機 (深掘)	片口縫	2	ク-912-13	SE35004	口縫面	-	-	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	浅黄緑	
429	129-01	土耕器	耕	6	ク-710	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	1/12	15.0	-	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	浅黄緑	
430	129-05	土耕器	耕	6	ク-710	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	1/12	14.6	-	2.3	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	灰		
431	129-02	土耕器	耕	6	ク-412	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(1)	小片	-	-	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	浅黄緑	
432	129-03	土耕器	耕	5	ク-412	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	1/12	11.0	-	2.4	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	に高い 黄緑		
433	129-04	土耕器	耕	6	ク-412	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	1/12	12.0	-	2.3	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	浅黄緑		
434	129-02	土耕器	耕	6	ク-412	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	2/12	13.0	-	2.1	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	居白		
435	127-05	土耕器	耕	5	ク-412	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	1/12	14.2	-	2.1	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	に高い 灰		
436	130-03	土耕角器	耕	5	ク-710	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	口縫面	-	-	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	居白	
437	130-04	転倒角器	横	6	ク-710	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	1/12	15.0	-	3.0	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	居白		
438	130-02	転倒角器	横	3	ク-412	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(1)	1/12	16.0	-	2.9	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	居白		
439	130-05	転倒角器	横	6	ク-413	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	1/12	15.0	0.5	4.5	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	居白		
440	130-08	転倒角器	横	6	ク-710	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	9/12	-	6.2	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	居白		
441	129-04	土耕器	整	6	ク-412	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	1/12	16.0	-	1.8	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	浅黄緑		
442	129-02	土耕器	整	6	ク-710	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	1/12	15.0	-	3.0	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	浅黄緑		
443	127-04	土耕器	整	6	ク-412	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	1/12	15.0	-	2.1	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	に高い 灰		
444	129-01	土耕器	整	6	ク-413	SE55005-1P1底面 (セ-1)P1(2)	1/12	15.0	-	5.7	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	に高い 黄緑	口縫面外側に籠付帯	
445	129-03	土耕器	耕	6	ク-412	SE55005	口縫面	-	16.0	7.1	5.2	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	浅黄緑	
446	129-07	裏蓋取	板状	6	ク-412	SE55005	口縫面	-	-	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	灰	
447	129-06	裏蓋取	杯状	5	ク-412	SE55005	底面9/12	-	7.1	2.0	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」、(3)号	灰	
448	129-03	土耕器	整	6	ク-412	SE55005	口縫面/2	12	-	5.3	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	灰		
449	129-01	土耕器	整	6	ク-412	SE55005	口縫面	-	20.4	39.4	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	浅黄緑	
450	129-04	土耕器	耕	6	ク-412	SE55005	口縫面	-	16.0	7.1	5.2	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	藍色T.Tg	
451	132-05	ロクロ土削器	横	6	ク-922	SE56001	底面9/12	-	4.1	2.7	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	浅黄緑	
452	132-03	山耕機	横	6	ク-422-23	SE56001	底面4/12	-	6.7	2.0	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」、直切版	居白	
453	132-02	開器	整	4	ク-422-23	SE56001	底面	-	11.0	4.7	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	居白	
454	131-07	開器	整	6	ク-423	SE56005	底面3/12	-	6.1	1.9	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	自然緑	
455	132-07	山耕機	横	6	ク-423	SE56005	底面	-	8.6	2.0	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	居白	
456	130-03	土耕器	耕	6	ク-423	SE56005	1/12	15.0	-	2.0	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	に高い 黄緑	底盤内面に墨書き「七西」	
457	130-02	土耕器	耕	6	ク-423	SE56005	1/12	15.0	-	2.1	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	黄緑		
458	130-01	土耕器	耕	6	ク-423	SE56005	1/12	15.0	-	4.3	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	黄緑		
459	137-03	土耕器	耕	6	ク-423-24	SE56006	7/12	13.0	-	3.2	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	灰		
460	137-07	転倒角器	横	6	ク-424	SE56006	口縫面	-	-	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	オーブ	
461	137-05	裏蓋取	整	6	ク-424	SE56006	底面1/12	-	10.0	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	または底	
462	137-06	裏蓋取	整	6	ク-424	SE56006	口縫面	-	-	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	灰	
463	137-04	裏蓋取	整	6	ク-424	SE56006	底面1/12	-	12.0	6.1	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	居白	
464	138-04	土耕角器 割込式	横	6	ク-424	SE56006	底面内	-	-	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	黄緑	
465	139-06	土耕器	耕	6	ク-424	SE56007	底面内	-	-	-	-	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	被	
466	139-08	土耕器	耕	6	ク-424	SE56007	1/12	11.0	-	2.2	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	に高い 黄緑		
467	140-03	土耕器	耕	6	ク-424	SE56007	1/12	12.0	-	2.0	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	に高い 黄緑		
468	139-04	土耕器	整	6	ク-424	SE56007	1/12	10.0	-	3.1	内「 ^{レバ} 」 外「 ^{レバ} 」	墨矢		

NO	実施場所	測量 (測地)系統	基準	調査区	地区	選択 施設	測量 位置	測量 精度	測量 方法	測量 工具	測量 基準	技術・文書の特徴・ 性質			特記事項
												測量 回数	測量 距離	測量 高さ	
499	149-02	土師器	新	6	テ-024	SE56007	3/12	13.5	-	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸			
470	139-03	土師器	新	6	テ-024	SE56007	2/12	-	-	内 内-192, フル-2179	-	に点々 に点々			
471	139-07	土師器	新	6	テ-024	SE56007	1/12	13.4	-	内 内-192, フル-2179	-	に点々 に点々			
472	149-01	土師器	古付録	6	テ-024	SE56007	直角3/12	-	15.4	5.2	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		
473	139-05	山茶園	新	6	テ-024	SE56007	直角3/12	-	8.0	2.0	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		
474	139-02	土師器	新	6	テ-024	SE56007	口輪-1脚	1/12	-	内 内-192, フル-2179	-	に点々 に点々			
475	139-01	土師器	新	6	テ-024	SE56007	口輪-1脚	2/12	-	内 内-192, フル-2179	-	に点々 に点々			
477	149-04	汎用陶器	新	6	テ-024	SE56013	直角3/12	-	6.0	2.2	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		
478	141-04	土師器	新	6	テ-023	SE56018	口輪足	-	-	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸			
479	141-05	土師器	新	6	テ-023	SE56018	直角3/12	15.0	-	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸			
480	141-01	土師器	新	6	テ-023-24	SE56018	3/12	13.8	-	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸			
481	143-02	山茶園	新	6	テ-022-23	SE56018	直角3/12	-	6.4	4.1	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		
482	149-05	土師器	新	6	テ-022-23	SE56018	口輪足	-	-	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸			
483	142-04	土師器	便	6	テ-025	SE56011	口輪足	-	-	内 内-192, フル-2179	-	に点々 に点々			
484	142-02	土師器	便	6	テ-025	SE56011	口輪足	2/12	23.0	3.0	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		
485	133-02	ロクロ土師器	便	6	テ-025	SE56003	史形	9.4	3.6	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸			
486	134-06	ロクロ土師器	便	6	テ-025	SE56003	直角3/12	15.0	4.2	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸			
487	134-07	ロクロ土師器	便	6	テ-025	SE56003下層	直角3/12	-	6.9	1.9	内 内-192, フル-2179	-	に点々 に点々		
488	134-05	ロクロ土師器	便	6	テ-025	SE56003	直角3/12	-	7.2	1.8	内 内-192, フル-2179	-	に点々 に点々		
489	132-04	ロクロ土師器	便	6	テ-025	SE56003上層	直角3/12	16.0	-	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸			
490	133-01	土師器	土師	6	テ-025	SE56003	直角3/12	16.0	-	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸			
491	131-04	山茶園	便	6	テ-025	SE56003	直角3/12	-	7.5	5.0	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		
492	134-08	陶器	瓦	6	テ-025	SE56003	直角3/12	-	6.6	2.9	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		
493	132-06	山茶園	小輪	6	テ-025	SE56003上層	直角	8.5	6.1	5.2	内 内-192, フル-2179	-	瓦		
494	134-04	山茶園	小輪	6	テ-025	SE56003	直角3/12	9.2	6.6	2.7	内 内-192, フル-2179	-	オーバー		
495	134-02	山茶園	小輪	6	テ-025	SE56003	直角3/12	9.6	2.4	内 内-192, フル-2179	-	瓦			
496	132-01	山茶園	小輪	6	テ-025	SE56003上層	直角3/12	16.4	4.2	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸			
497	134-03	区域測器	便	6	テ-025	SE56003	直角4/12	-	6.2	1.3	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		
498	135-02	山茶園	便	6	テ-025	SE56003	直角4/12	-	5.4	2.3	内 内-192, フル-2179	-	地図		
499	135-03	山茶園	便	6	テ-025	SE56003	直角4/12	15.2	8.4	3.3	内 内-192, フル-2179	-	地図		
500	135-01	山茶園	便	6	テ-025	SE56003	直角4/12	15.2	8.0	3.3	内 内-192, フル-2179	-	地図		
501	134-01	山茶園	便	6	テ-025-21	SE56003上層	直角4/12	16.0	7.2	3.3	内 内-192, フル-2179	-	地図		
502	131-01	山茶園	便	6	テ-025	SE56003	5/12	17.1	7.3	0.3	内 内-192, フル-2179	-	地図		
503	131-02	山茶園	便	6	テ-025	SE56003上層	5/12	17.1	8.0	0.3	内 内-192, フル-2179	-	地図		
504	133-03	土師器	便	6	テ-025	SE56003上層	口輪-1脚	21.0	-	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸			
505	135-06	土師器	便	6	テ-025	SE56004	直角3/12	11.6	-	2.3	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		
506	133-04	土師器	便	6	テ-025	SE56004	直角3/12	12.0	-	2.3	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		
507	135-05	土師器	便	6	テ-025	SE56004	内輪	11.8	-	2.1	内 内-192, フル-2179	-	に点々 に点々		
508	135-06	土師器	便	6	テ-025	SE56004	直角3/12	12.4	-	2.3	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		
509	135-07	山茶園	小輪	6	テ-025	SE56004	直角3/12	6.4	6.2	2.3	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		
510	139-08	山茶園	便	6	テ-025	SE56004	直角3/12	16.0	-	0.9	1.8	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
511	132-02	山茶園	便	6	テ-025	SE56004	直角3/12	17.0	-	2.0	2.0	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
512	136-04	山茶園	便	6	テ-025	SE56004	直角3/12	-	-	2.2	2.2	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
513	136-06	白磁(中国)	便	6	テ-025	SE56004	直角3/12	16.4	-	2.2	2.2	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
514	136-03	山茶園	便	6	テ-025	SE56004	直角3/12	17.0	-	2.2	2.2	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
515	136-07	青磁(中国)	便	6	テ-025	SE56004	直角3/12	16.4	-	2.2	2.2	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
516	135-03	陶器	新	6	テ-025	SE56004	直角3/12	-	-	2.2	2.2	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
517	126-01	土師器	泥	6	テ-025	SE56004	直角3/12	11.2	-	0.8	2.3	内 内-192, フル-2179	-	に点々 に点々	
518	141-02	土師器	新	6	テ-025	SE56015	直角-1脚	3/12	-	3.0	2.2	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
519	141-03	土師器	便	6	テ-025	SE56015	直角-1脚	2/12	-	3.0	2.2	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
520	142-01	土師器	便	6	テ-025	SE56015	直角-1脚	1/12	-	3.0	2.2	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
521	145-06	土師器	便	6	テ-025	SE56016	直角3/12	-	10.1	6.2	2.2	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
522	143-03	汎用陶器	便	6	テ-025	SE56016	直角3/12	-	7.6	1.8	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		
523	143-05	土師器	便	6	テ-025	SE56016	直角3/12	13.8	-	2.0	2.0	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
524	144-07	山茶園	便	6	テ-025	SE56024	直角足	-	-	2.0	2.0	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
525	145-04	土師器	便	6	テ-025	SE56024	直角足	-	-	2.0	2.0	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸	
526	145-05	須恵器	便	6	テ-025	SE56018	直角3/12	-	7.2	2.1	内 内-192, フル-2179	-	後掛軸		

No	実施場所	種別(施設・系統)	基準	調査状況	地区	選択部位	割合	計量 (cm) 口径 幅員	計量 (cm) 高さ	社法・文部の特徴		色調 (外側)	特記事項	
										内	外			
527	144-03	山蒸瀬	概	6	テ-L23	08560021	口縫55/12	底筋12/12	18.0	2.3	4.5	内:ホリゾンタル、天井縫合	灰	
										内:ホリゾンタル、底部筋、天井縫合				
528	144-04	山蒸瀬	概	6	テ-L23	08560021	底筋6/12	-	8.8	1.6	内:ホリゾンタル	灰		
										内:ホリゾンタル、底部筋、軒板筋				
529	144-05	山蒸瀬	概	6	テ-L23	08560021	底筋12/12	-	7.9	0.6	内:ホリゾンタル	灰		
										内:ホリゾンタル、底部筋、軒板筋				
530	145-03	土財路	概	6	テ-L025	08560021	口縫-一部筋	1/2/12	19.8	-	3.0	内:ホリゾンタル	灰	
										内:ホリゾンタル、軒板筋、軒端筋				
531	145-01	土財路	概	6	テ-L22	08560012	口縫筋1/12	-	19.6	-	1.9	内:ホリゾンタル	浅黄緑	
										内:ホリゾンタル、軒板筋、軒端筋				
532	144-06	山蒸瀬	概	6	テ-M23	08560021	底筋12/12	-	8.6	3.8	内:ホリゾンタル	灰		
										内:ホリゾンタル、軒板筋、軒端筋				
533	158-01	土財路	概	6	テ-W19	08560021上層	口縫筋片	-	-	-	内:ホリゾンタル	緑		
										内:ホリゾンタル、軒板筋、軒端筋				
534	157-02	土財路	概	6	テ-W19	08560021上層	口縫筋1/12	18.8	-	1.6	内:ホリゾンタル	灰		
										内:ホリゾンタル、軒板筋、軒端筋				
535	158-02	土財路	概	6	テ-W19	08560021	口縫筋片	-	-	-	内:ホリゾンタル	灰		
										内:ホリゾンタル、軒板筋、軒端筋				
536	158-03	土財路	概	6	テ-W19	08560021	口縫筋片	-	-	-	内:ホリゾンタル	灰		
										内:ホリゾンタル、軒板筋、軒端筋				
537	157-01	土財路	概	6	テ-W19	08560021上層	口縫筋2/12	18.6	-	2.0	内:ホリゾンタル	灰		
										内:ホリゾンタル、軒板筋、軒端筋				
538	156-01	土財路	概	6	テ-W19	08560021上層	口縫筋1/12	-	-	-	内:ホリゾンタル	緑		
										内:ホリゾンタル、軒板筋、軒端筋				
539	145-02	河岸高傍	底	6	テ-L21	05560023	底筋12/12	-	17.6	-	2.0	内:ホリゾンタル、底筋-一部筋	灰	
										内:ホリゾンタル、底筋-一部筋				
540	144-02	底敷路	底	6	テ-L21	05560023	底筋12/12	-	11.8	0.6	内:ホリゾンタル	灰		
										内:ホリゾンタル、底筋-一部筋				
541	144-01	底敷路	底	6	テ-L21	05560023	底筋12/12-底筋	-	13.3	0.6	内:ホリゾンタル	灰		
										内:ホリゾンタル、底筋-一部筋、軒板筋				
542	145-05	土製品	土製	6	テ-L21	05560023	1/2	底3.3 壁1.5	-	0.6	内:ホリゾンタル	灰	4.0g	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
543	161-03	土財路	底	6	テ-L13	08560031	11/12	-	11.3	-	3.2	内:ホリゾンタル	灰	
										内:ホリゾンタル、軒板筋				
544	162-01	土財路	底	6	テ-L13	08560032	16/12	-	14.8	-	16.2	内:ホリゾンタル、軒板筋	浅黄緑	
										内:ホリゾンタル、軒板筋、壁3.3				
545	161-02	土財路	底	6	テ-L13	08560032	鋼筋片	-	-	-	内:ホリゾンタル	灰		
										内:ホリゾンタル、軒板筋				
546	145-03	土財路	底	6	テ-M23	08560023	鋼筋片	-	-	-	内:ホリゾンタル	緑		
										内:ホリゾンタル、軒板筋				
547	147-01	土財路	底	6	テ-M23	08560023	鋼筋片	-	-	-	内:ホリゾンタル	緑		
										内:ホリゾンタル、軒板筋				
548	146-01	土財路	底	6	テ-L24	08560026	剥-底筋	12/12	-	3.2	23.1	内:ホリゾンタル	灰	
										内:ホリゾンタル、底筋-一部筋				
549	161-04	土財路	底	6	テ-Q14~17	08560033	1/12	-	11.4	-	2.3	内:ホリゾンタル	浅黄緑	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
550	144-04	土財路	底	6	テ-L22	08560035-1耐力筋 (テ-W21P11)	1/12	-	12.8	-	2.2	内:ホリゾンタル	緑	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
551	139-05	土財路	底	6	テ-W13	08560035	1/12	-	12.8	-	2.3	内:ホリゾンタル	緑	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
552	145-05	土財路	底	6	テ-L22	08560035-P1耐力筋 (テ-W21P11)	1/12	-	12.8	-	2.3	内:ホリゾンタル	浅黄緑	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
553	139-06	底筋-土蓋	底	6	テ-L22	08560035-P1耐力筋 (テ-L22P11)	小片	-	-	-	内:ホリゾンタル	明赤端		
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
554	194-05	土財路	底	6	テ-L22	08560035-P1耐力筋 (テ-W21P11)	鋼筋片	-	-	-	内:ホリゾンタル	浅黄緑		
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
555	194-05	土製品	土製	6	テ-W23	08560035	兜筋	壁5.1	壁1.3	-	内:ホリゾンタル	浅黄緑	5.0g±0.7g	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
556	160-07	土財路	小屋	6	テ-L13	08560031	2/12	-	8.4	-	1.6	内:ホリゾンタル	緑	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
557	159-08	廻廊(東洋)	火葬	6	テ-L13	08560031	口縫筋片	-	-	-	内:ホリゾンタル	浅黄緑		
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
558	161-01	土財路	格子	6	テ-L13	08560031	3/12	-	10.8	-	3.5	内:ホリゾンタル	黒	
										内:ホリゾンタル、壁3.3、壁3.3、壁3.3				
559	193-06	土財路	新	6	テ-L2	08560034-1耐 (テ-L2P1)13	1/12	-	14.6	-	1.7	内:ホリゾンタル	緑	
										内:ホリゾンタル、壁3.3、壁3.3				
560	195-02	河岸高傍	底	6	テ-M22	08560035-P1耐力筋 (テ-L2P1)13	鋼筋片	-	-	-	内:ホリゾンタル	灰		
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
561	152-01	土財路	底	6	テ-L19	08560017	口縫筋1/12	-	12.8	-	2.3	内:ホリゾンタル	浅黄緑	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
562	152-01	土財路	底	6	テ-L19	08560017	鋼筋片	-	-	-	内:ホリゾンタル	緑		
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
563	159-07	土財路	小屋	6	テ-L13	08560031	底筋12/12	-	13.5	-	2.2	内:ホリゾンタル	浅黄緑	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
564	161-01	土財路	格子	6	テ-L13	08560031	底筋12/12	-	13.5	-	2.2	内:ホリゾンタル	黒	
										内:ホリゾンタル、壁3.3、壁3.3、壁3.3				
565	193-06	土財路	新	6	テ-L2	08560034-1耐 (テ-L2P1)13	底筋12/12	-	14.6	-	1.7	内:ホリゾンタル	緑	
										内:ホリゾンタル、壁3.3、壁3.3				
566	150-01	土財路	底	6	テ-M23	08560027	底筋12/12	-	16.8	-	2.0	内:ホリゾンタル	新規	
										内:ホリゾンタル、壁3.3、壁3.3、壁3.3				
567	154-02	土財路	底	6	テ-L19-19	08560027	底筋12/12	-	11.7	-	4.0	内:ホリゾンタル	緑	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
568	152-01	土財路	底	6	テ-L19	08560027	鋼筋片	-	12.4	-	3.6	内:ホリゾンタル	灰	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
569	151-04	土財路	付帯	6	テ-L17	08560027	口縫筋片	-	13.2	-	5.4	内:ホリゾンタル	灰	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
570	151-03	土財路	底	6	テ-S15	08560027	口縫筋1/12	-	13.8	-	5.2	内:ホリゾンタル	灰	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
571	152-04	土財路	付帯	6	テ-L17	08560027	口縫筋2/12	14.3	2.3	16.5	内:ホリゾンタル	浅黄緑		
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
572	153-03	土財路	底	6	テ-L17	08560027	鋼筋片	-	13.7	-	4.2	内:ホリゾンタル	新規	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
573	150-04	土財路	底	6	テ-L19-19	08560027	鋼筋片	-	13.7	-	4.2	内:ホリゾンタル	新規	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
574	151-01	土財路	高板	6	テ-L19-19	08560027	底筋2/12	-	17.4	-	4.7	内:ホリゾンタル	緑	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
575	152-01	土財路	高板	6	テ-W19	08560027	底筋3/12	-	13.1	-	4.2	内:ホリゾンタル	灰	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
576	152-02	土財路	高板	6	テ-L19-19	08560019	底筋3/12	-	13.8	-	4.2	内:ホリゾンタル	新規底筋文	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
577	152-02	土財路	高板	6	テ-W19	08560019	鋼筋片	-	-	-	内:ホリゾンタル	西表		
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
578	155-02	土財路	底	6	テ-S15	08560027	11/12	-	13.3	-	2.2	内:ホリゾンタル	緑	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
579	150-04	土財路	底	6	テ-N10	08560027	4/12	-	17.6	-	4.7	内:ホリゾンタル	緑	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
580	149-01	瓦	平瓦	6	テ-L13	08560025	小片	-	-	-	内:ホリゾンタル	灰		
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
581	149-02	土財路	高板	6	テ-A20	08560019	小片	-	-	-	内:ホリゾンタル	緑		
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
582	149-01	土財路	高板	6	テ-A20	08560019	口縫筋1/12	-	13.0	-	3.0	内:ホリゾンタル	新規	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
583	149-06	土財路	高板	6	テ-L14-15	08560029	口縫筋片	-	-	-	内:ホリゾンタル	緑		
										内:ホリゾンタル、壁3.3				
584	160-03	土財路	底	6	テ-L10-16	08560029	1/12	-	11.4	-	3.6	内:ホリゾンタル	灰	
										内:ホリゾンタル、壁3.3				

ID	実施地 (都道府県)	種別	調査区	地区	選択 候補	割合 順位	数量 CM 口数	性別 年齢	性別・支種の特徴 割合		色調 (外見)	特記事項		
									性別	年齢				
584	157-04 土師面	新	6	ツ-4110-18	SE56029	2/12	10.3	-	内:75% 75%	外:25% 25%	灰			
585	157-03 土師面	新	6	ツ-4115-16	SE56029	2/12	10.5	-	3.7	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
586	160-02 土師面	新	6	ツ-4110-18	SE56029	1/12	10.7	-	5.9	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
587	160-04 土師面	新	6	ツ-4115-16	SE56029	1/12	12.3	-	3.9	内:75% 75%	外:25% 25%	[C-55] 灰		
588	155-03 土師面	新	6	ツ-4110-18	SE56029	3/12	13.8	-	4.1	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
589	155-05 土師面	新	6	ツ-4110-18	SE56029	6/12	12.5	-	3.6	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
590	157-05 土師面	新	6	ツ-4110-18	SE56029	1/12	10.9	-	5.9	内:75% 75%	外:25% 25%	绿		
591	155-06 土師面	新	6	ツ-4110-18	SE56029	3/12	11.8	-	5.9	内:75% 75%	外:25% 25%	绿白		
592	155-08 土師面	新	6	ツ-4110-18	SE56029	3/12	11.9	-	5.1	寒暖		浅黄緑		
593	160-01 土師面	新	6	ツ-4110-16	SE56029	2/12	11.9	-	3.3	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
594	155-07 土師面	新	6	ツ-4110-18	SE56029	4/12	12.2	-	3.2	内:75% 75%	外:25% 25%	浅绿		
595	160-05 土師面	新	6	ツ-4110-18	SE56029	4/12	13.8	-	4.9	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
596	158-05 土壌面	新	6	ツ-114-15	SE56029上層	山林段1/12	10.6	8.1	3.6	内:75% 75%	外:25% 25%	灰		
597	159-02 深色樹	新	6	ツ-114-13	SE56029上層	山林段1/12	9.8	6.1	3.1	内:75% 75%	外:25% 25%	灰		
598	159-04 深色樹	新	6	ツ-114-16	SE56029	山林段1/12	11.4	2.2	3.5	内:75% 75%	外:25% 25%	灰白		
599	159-03 深色樹	新	6	ツ-4110-18	SE56029	11/12	10.6	-	2.9	内:75% 75%	外:25% 25%	灰		
600	155-09 深色樹	新	6	ツ-4110-16	SE56029	1/12	10.7	-	4.8	内:75% 75%	外:25% 25%	灰白		
601	155-01 深色樹	新	6	ツ-113-16	SE56029	6/12	12.8	-	4.9	内:75% 75%	外:25% 25%	灰白		
602	158-04 土師面	新	6	ツ-4110-18	SE56029	山林段1/12	-	-	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑			
603	160-02 土師面	新	6	ツ-4110-18	SE56029	山林段1/12	13.7	-	4.3	内:75% 75%	外:25% 25%	[C-55] 灰		
604	160-01 土師面	新	6	ツ-116	SE56029上層	山林段1/12	15.0	-	1.8	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
605	156-04 土師面	新	6	ツ-115	SE56029上層	山林段1/12	13.6	-	4.7	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
606	155-05 土師面	新	6	ツ-115	SE56029上層	山林段1/12	13.0	-	4.3	内:75% 75%	外:25% 25%	[C-55] 灰		
607	157-01 深色樹	新	6	ツ-4110-18	SE56029	山林段1/12	14.9	-	9.6	内:75% 75%	外:25% 25%	灰白		
608	636-01 その他	新	6	ツ-115-16	SE56029	1/2	4.0	4.8	-	34.4g	特有物、やや強く香氣			
610	182-02 土師面	新	6	ツ-124	SE56030	7/12	19.6	-	4.8	内:75% 75%	外:25% 25%	绿		
611	143-03 土師面	新	6	ツ-124	SE56030	12/12	13.8	-	2.9	内:75% 75%	外:25% 25%	绿		
612	194-01 土師面	付生葉	6	ツ-902	SE56030-1 (ツ-114-13)	山林段1/12	12.8	-	2.0	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
613	195-06 土師面	新	6	ツ-914	SE56030-1 (ツ-914P-16)	山林段1/12	-	-	内:75% 75%	外:25% 25%	灰白			
614	193-03 土師面	新	6	ツ-913	SE56030-1 (ツ-913P-16)	山林段1/12	13.6	-	2.3	内:75% 75%	外:25% 25%	绿		
615	192-02 土師面	新	6	ツ-918	SE56030-1 (ツ-918P-13)	山林段1/12	13.6	-	2.9	内:75% 75%	外:25% 25%	绿		
616	162-02 土師面	新	6	ツ-913	SE56030-1 (ツ-913P-16)	山林段1/12	13.0	-	3.1	内:75% 75%	外:25% 25%	[C-55] 灰		
617	197-07 土師面	新	6	ツ-421	SE56030-1 (ツ-421P-11)	山林段1/12	13.4	-	5.0	内:75% 75%	外:25% 25%	绿		
618	197-04 山苔類	新	7	ツ-111-12	SE57002	山苔段1/12	-	-	6.1	内:75% 75%	外:25% 25%	灰白		
619	197-06 土師面	新	7	ツ-111-12	SE57002	山苔段1/12	13.0	-	4.5	内:75% 75%	外:25% 25%	[C-55] 灰		
620	198-02 土師面	新	7	ツ-119-10	SE57006	山苔段1/12	13.8	-	2.2	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
621	198-03 白蘚(中国)	新	7	ツ-119-10	SE57006	山苔段1/12	-	-	内:75% 75%	外:25% 25%				
622	197-07 霜(鹿島)	新	7	ツ-119-10	SE57006	山苔段1/12	-	-	9.6	5.3	内:75% 75%	外:25% 25%	灰	
624	198-05 山苔類	新	7	ツ-119-10	SE57006	山苔段1/12	-	-	2.8	内:75% 75%	外:25% 25%	灰灰白		
625	198-04 山苔類	新	7	ツ-119-10	SE57006	山苔段1/12	-	-	2.8	内:75% 75%	外:25% 25%	灰白		
626	198-07 山苔類	新	7	ツ-119-10	SE57006	山苔段1/12	-	-	4.2	内:75% 75%	外:25% 25%	灰		
627	198-08 土質土	新	7	ツ-940	SE57007	1/2 良1.1 堆1.2	-	-	7.1	内:75% 75%	外:25% 25%	灰白	3.1g	
628	198-10 土質土	新	7	ツ-940	SE57007	1/2 良1.1 堆1.2	-	-	4.5	内:75% 75%	外:25% 25%	绿		
629	198-10 土質土	新	7	ツ-940	SE57007	1/2 良1.1 堆1.2	-	-	4.5	内:75% 75%	外:25% 25%	绿		
630	197-01 土師面	新	7	ツ-940	SE57007下層	山苔段1/12	9.0	-	3.5	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
631	196-05 土師面	新	7	ツ-940	SE57007	山苔段1/12	16.0	-	3.7	内:75% 75%	外:25% 25%	[C-55] 灰		
632	197-02 腐殖(中国)	新	7	ツ-43	SE57007下層	山苔段1/12	-	-	内:75% 75%	外:25% 25%	オリーブ灰			
633	197-03 山苔類	新	7	ツ-940	SE57007下層	山苔段1/12	-	-	内:75% 75%	外:25% 25%	绿褐色			
634	198-01 土師面	新	7	ツ-940	SE57007	山苔段1/12	28.4	-	6.0	内:75% 75%	外:25% 25%	[C-55] 灰		
635	197-01 土師面	新	7	ツ-940	SE57007下層	山苔段1/12	-	-	3.5	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
636	196-05 土師面	新	7	ツ-940	SE57007	山苔段1/12	-	-	3.7	内:75% 75%	外:25% 25%	[C-55] 灰		
637	199-06 土師面	新	7	ツ-940	SE57010	2/3 良1.1 堆1.0	-	-	4.5	内:75% 75%	外:25% 25%	灰	8.0g	
638	199-06 土師面	新	7	ツ-940	SE57010	2/3 良1.1 堆1.0	-	-	4.5	内:75% 75%	外:25% 25%	灰		
639	199-06 土師面	新	7	ツ-940	SE57010	2/3 良1.1 堆1.0	-	-	4.5	内:75% 75%	外:25% 25%	灰		
640	200-05 ロクナ土師類	小苗	7	ツ-116	SE57022	11/12	9.6	-	1.9	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
641	200-04 ロクナ土師類	小苗	7	ツ-116	SE57022	12/12	9.9	-	1.2	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		
642	200-03 土師面	新	7	ツ-112	SE57022	11/12	14.3	-	3.7	内:75% 75%	外:25% 25%	浅黄緑		

NO	実施場所	種別 (地名・系統)	基準	調査区	地区	選択 部位	割合 部位存有	数量 cm 口径	cm 直径	基部	性状・文様の特徴・ 性別			特記事項	
											長さ	幅	高さ		
643	281-01	土師器	直	T	ツ-J12	5337022 堀内6号	12/12	14.6	-	内	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	後灰陶	
644	280-06	土師器	直	T	ツ-J12	5337023 堀内6号	11/12	15.9	-	3.0	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	浅黄褐	
645	199-05	土師器	小堀	T	ツ-J12	5337023 堀内6号	11/12	9.4	-	1.9	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	浅黄褐	
646	199-07	土師器	小堀	T	ツ-J12	5337023 堀内6号	11/12	9.9	-	1.9	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	浅黄褐	
647	281-02	土師器	小堀	T	ツ-J16	5337022 堀内7号	4/12	8.6	-	1.1	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	に高い 傾	
648	199-06	土師器	小堀	T	ツ-J12	5337022 堀内6号	9/12	9.1	-	1.8	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	浅黄褐	
649	281-03	土師器	直	T	ツ-J16	5337022 堀内6号	12/12	14.6	-	4.3	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	傾	
650	281-04	土師器	直	T	ツ-L19	5367023 山種田12	16.4	-	6.1	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	[2.45]の 高程		
651	282-02	土師器	直	T	ツ-43	5337026 武田12/1	3/12	11.9	-	3.0	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白	
652	282-03	土師器	直	T	ツ-43	5337026 武田12/1	-	13.0	1.9	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白		
653	199-03	土師器	折	T	ツ-A18-19	5367017 山種田12	1/12	16.0	-	2.9	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	傾	
654	199-02	土師器	折	T	ツ-L19	5367017 山種田12	3/12	13.6	-	2.5	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰灰 茎丸	
655	199-04	土師器	直	T	ツ-A18-19	5367017 山種田12	高原12	-	-	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	傾 浜田外窓に墨書き「東」		
656	199-01	土師器	直	T	ツ-L19	5367017 山種田12	12/12	14.2	-	6.8	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	に高い 黄褐	
657	280-02	瓦蓋器	瓶	T	ツ-A18-19	5367017 山種田12	-	12.4	2.9	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰		
658	200-01	最神陶器	手付瓶	T	ツ-L19	5367017 山種田12	-	16.5	6.6	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	浅黄 紫斑地 白		
659	283-01	土師器	小堀	T	ツ-15	5367020 安原	-	6.8	-	1.0	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	に高い 茎丸	
660	283-04	青磁 (中国)	瓶	T	ツ-14-5	5367020 安原	小舟	-	-	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	オーバー 黄 同前系		
661	282-05	山蓋器	瓶	T	ツ-43	5367020 安原12/12	12/12	13.9	6.6	5.2	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白	
662	282-06	山蓋器	瓶	T	ツ-JB	5367020 安原12/12	8/12	12.3	5.4	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白		
663	282-04	山蓋器	瓶	T	ツ-43	5367020 安原12/12	-	6.1	2.6	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白		
664	283-03	土師器	瓶	T	ツ-14-6	5367020 安原12/12	口縁片面	-	-	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	に高い 黄褐		
665	283-02	土師器	瓶	T	ツ-JB	5367020 安原12/12	12/12	17.0	-	3.5	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	江戸・黄褐	
666	281-05	瓦蓋陶器	三	T	ツ-J12	5367024 高原12/12	高原12/12	-	6.6	1.3	内: 17.5, 22.5°, 沈泡 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白	
667	281-07	山蓋器	瓶	T	ツ-H11	5367025 高原12/12	-	8.2	2.1	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白		
668	281-06	山蓋器	瓶	T	ツ-H11	5367025 高原12/12	-	7.6	4.3	内: 17.5, 22.5°, 目録記 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白		
669	282-01	瓦	直	T	ツ-J18	5367025 高原12/12	小舟	-	-	22.1	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰	
670	210-03	土師器	折	T	ツ-L17	5367043-1 P1-10番	12/12	13.8	-	3.0	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	に高い 黄褐	
671	210-02	土師器	折	T	ツ-J17	5367043-2 (ツ-J17P1)13	口縁片面	-	-	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	浅黄褐		
672	210-06	土師器	折	T	ツ-K18	5367043-2 P1-10番	口縁片面	-	-	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	に高い 黄褐		
673	227-07	土師器	折	T	ツ-J12	5387942-1 (ツ-J12P1)13	2/12	12.6	-	2.2	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	浅黄褐	
674	210-07	土師器	折	T	ツ-J12	5387942-1 P1-10番	2/12	11.8	-	2.2	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白	
675	228-02	土師器	折	T	ツ-J14	5387942-1 (ツ-J14P1)13	5/12	13.5	-	2.2	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	滑溜	
676	227-01	縦縫陶器	直	T	ツ-J1	5387942-1 (ツ-J1P1)13	口縁片面	16.7	-	1.4	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白	
677	212-03	瓦蓋陶器	瓶	T	ツ-412	5387942-2 (ツ-412P1)13	底盤9/12	-	2.1	1.4	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白	
678	211-05	土師器	便	T	ツ-413	5387942-2 (ツ-413P1)13	口縁片面	3/12	15.5	-	5.6	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	に高い 黄褐
679	206-05	土師器	便	T	ツ-1/4	5387906 高原12/12	1/12	11.9	-	1.6	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白	
680	205-03	土師器	便	T	ツ-J1	5387903 高原12/12	口縁片面12/12	14.5	2.1	9.1	内: 17.5, 22.5°, 沈泡 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	に高い 黄褐	
681	206-03	ロクロ土師器	瓶	T	ツ-J1	5387903 高原12/12	底盤9/12	-	6.8	2.2	内: 17.5, 22.5°, 沈泡 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	に高い 黄褐	
682	206-04	ロクロ土師器	瓶	T	ツ-J1	5387903 高原12/12	底盤10/12	-	6.6	3.3	内: 17.5, 22.5°, 沈泡 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	浅黄褐	
683	205-05	ロクロ土師器	瓶	T	ツ-J1	5387903 高原12/12	底盤11/12	-	5.2	1.7	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	浅黄褐	
684	228-06	茶葉土器	碗	T	ツ-J1	5387903 高原12/12	-	-	-	内: 17.5, 22.5°, 沈泡 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白		
685	206-04	瓦蓋陶器	瓶	T	ツ-J1	5387903 高原12/12	-	-	2.9	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白		
686	206-02	瓦蓋陶器	瓶	T	ツ-J1	5387903 高原12/12	底盤10/12	13.4	6.6	5.3	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白	
687	206-01	瓦蓋陶器	瓶	T	ツ-J1	5387903 高原12/12	底盤11/12	14.6	2.2	4.4	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白	
688	224-03	瓦蓋陶器	瓶	T	ツ-J1	5387901 高原12/12	底盤12/12	13.8	-	3.2	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白	
689	228-05	瓦蓋陶器	瓶	T	ツ-J1	5387901 高原12/12	底盤13/12	14.8	-	4.2	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白	
690	224-05	瓦蓋陶器	瓶	T	ツ-J1	5387901 高原12/12	口縁片面	13.0	-	4.2	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰黄褐	
691	228-04	土師器	便	T	ツ-J1	5387901 高原12/12	口縁片面	22.6	-	5.6	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	に高い 黄褐	
692	206-02	土師器	便	T	ツ-J1	5387903 高原12/12	口縁片面	11.6	-	6.8	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	に高い 傾	
693	224-04	土師器	便	T	ツ-J1	5387903 高原12/12	口縁片面	-	-	6.9	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	に高い 黄褐	
694	205-01	土師器	便	T	ツ-J1	5387901 高原12/12	口縁片面	3/12	16.6	-	6.9	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	傾
695	204-06	土師器	便	T	ツ-J1	5387901 高原12/12	口縁片面	-	-	-	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	浅黄褐	
696	228-03	土師器	直	T	ツ-J1-2	5387902 高原12/12	底盤10/12	13.6	-	3.2	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	浅黄褐	
697	228-02	土師器	直	T	ツ-J1-2	5387902 高原12/12	底盤11/12	13.4	-	3.2	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	浅黄褐	
698	204-02	土師器	直	T	ツ-J1-2	5387902 高原12/12	底盤12/12	13.9	-	1.9	内: 17.5, 22.5° 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰白	
699	228-01	瓦器	直	T	ツ-J1-2	5387902 高原12/12	底盤13/12	-	-	-	内: 17.5, 22.5°, 横斜状 外: 19.5, 17.5, 22.5°	-	-	灰	

No	実施場所	種類 (産地・系統)	基準	調査状況	地区	選択 部位	剖面 位置	剖面 保存度	測量 寸法 口径 高さ 基面	社法・文様の特徴・ 性質			色調 (外観)	特記事項	
										法量	cm	形状			
709	204-05	山茶樹	良	T	ツ-11	5067003	日暮田12/12 底面12/12	-	8.0	3.2	2.0	内・外・内・外	良白		
710	204-04	山茶樹	極	T	ツ-12	5067032	直面12/12	-	6.6	3.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白		
709	204-03	山茶樹	極	T	ツ-11	5067003	直面12/12	-	6.6	3.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白		
703	204-01	山茶樹	極	T	ツ-11	5067032	日暮田12/12	22.4	-	3.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白		
704	221-02	土製品	土	T	ツ-12	5067032	直面12/12	22.4	-	3.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	に高い 質感	
706	225-01	土製品	土	T	ツ-12	5067032	完形	良-1.6	幅0.0	-	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	に高い 質感	
706	226-06	土製品	紙	T	ツ-13	5067041-F1 (ツ-13)P(1)	F1面直方	1/12	13.0	-	2.2	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	に高い 質感
707	201-01	土製品	紙	T	ツ-13	5067041-F1 (ツ-13)P(1)	F1面直方	2/12	11.9	-	1.9	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
708	226-08	土製品	紙	T	ツ-11	5067041-F1 (ツ-11)P(1)	F1面直方	1/12	12.0	-	1.7	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
709	226-07	土製品	紙	T	ツ-11	5067041-F1 (ツ-11)P(1)	F1面直方	1/12	12.0	-	2.1	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
710	226-05	土製品	紙	T	ツ-13	5067041-F1 (ツ-13)P(1)	F1面直方	2/12	12.0	-	2.2	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	に高い 質感
711	204-01	土製品	紙	T	ツ-13	5067041-F1 (ツ-13)P(1)	F1面直方	2/12	13.1	-	2.1	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
712	226-04	土製品	紙	T	ツ-13	5067041-P2 (ツ-13)P(1)	P2面直方	1/12	13.2	-	2.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
713	226-03	土製品	紙	T	ツ-13	5067041-P1 (ツ-13)P(1)	P1面直方	1/12	14.0	-	2.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	底面内面に墨書き「保平」
714	208-05	土製品	紙	T	ツ-13	5067041-F1 (ツ-13)P(1)	F1面直方	1/12	14.1	-	3.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
715	207-03	土製品	紙	T	ツ-13	5067041-P2 (ツ-13)P(1)	P2面直方	1/12	13.8	-	2.5	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	被
716	207-02	土製品	紙	T	ツ-13	5067041-P1 (ツ-13)P(1)	P1面直方	2/12	13.0	-	3.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
717	212-03	土製品	紙	T	ツ-14	5067041-P5 (ツ-14)P(1)	P5面直方	-	-	-	-	内・外・内・外	内・外・内・外	外面に墨書き	
718	207-04	河内陶器	瓦	T	ツ-13	5067041-F1 (ツ-13)P(1)	F1面直方	2/12	13.8	6.0	2.6	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	瓦の他瓦張りあり
719	207-05	河内陶器	瓦	T	ツ-13	5067041-P6 (ツ-13)P(1)	P6面直方	1/12	14.1	-	2.2	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
720	226-09	河内陶器	瓦	T	ツ-13	5067041-P7 (ツ-13)P(1)	P7面直方	1/12	13.0	-	2.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
721	209-06	志摩丸 越前土器	瓦	T	ツ-13	5067041-P7 (ツ-13)P(1)	P7面直方	小片	-	-	-	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
722	209-03	土製品	壁	T	ツ-13	5067041-P8 (ツ-13)P(1)	P8面直方	1/12	14.1	-	4.3	内・外・内・外	内・外・内・外	西黄緑	
723	207-04	河内陶器	瓦	T	ツ-13	5067041-P9 (ツ-13)P(1)	P9面直方	2/12	14.1	-	4.3	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
724	207-05	河内陶器	瓦	T	ツ-13	5067041-P10 (ツ-13)P(1)	P10面直方	1/12	15.0	-	2.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
725	209-02	土製品	壁	T	ツ-13	5067041-P11 (ツ-13)P(1)	P11面直方	1/12	19.1	-	3.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
726	209-04	土製品	壁	T	ツ-13	5067041-P12 (ツ-13)P(1)	P12面直方	1/12	21.0	-	3.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
727	226-05	土製品	瓦	T	ツ-13	5067041-P13 (ツ-13)P(1)	P13面直方	-	-	-	-	内・外・内・外	内・外・内・外	被	
728	208-04	土製品	土	T	ツ-13	5067041-P14 (ツ-13)P(1)	P14面直方	1/12	19.0	6.0	2.7	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	重さ1.8kg
729	208-03	土製品	土	T	ツ-14	5067041-F1 (ツ-14)P(1)	F1面直方	1/2	15.0	6.0	2.9	内・外・内・外	内・外・内・外	黄灰	重さ1.3kg
731	223-06	志摩丸	瓦	T	ツ-13	5067041-P22 (ツ-13)P(1)	P22面直方	日暮田12/12	15.0	-	2.0	内・外・内・外	内・外・内・外	西黄緑	
732	209-03	土製品	壁	T	ツ-13	5067041-P23 (ツ-13)P(1)	P23面直方	1/12	19.1	-	3.0	内・外・内・外	内・外・内・外	被	
733	223-03	土製品	壁	T	ツ-13	5067041-P24 (ツ-13)P(1)	P24面直方	1/12	15.0	-	2.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	に高い 質感
734	218-01	ロクナ土器	小皿	T	ツ-16	5067063	直面12/12	15.0	-	6.7	3.5	内・外・内・外	内・外・内・外	西黄緑	
735	218-02	ロクナ土器	小皿	T	ツ-16	5067063	直面12/12	15.0	6.0	4.0	1.0	内・外・内・外	内・外・内・外	西黄緑	
736	219-01	ロクナ土器	小皿	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	7.1	3.1	内・外・内・外	内・外・内・外	西黄緑		
737	218-04	織部	蓋	T	ツ-16	5067063上巻	直面12/12	-	9.0	4.0	-	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	古色の織物か
738	219-04	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	16.1	8.0	5.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
739	219-05	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	16.1	8.0	5.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
740	219-06	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	16.8	8.0	6.1	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
741	219-02	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	15.0	8.0	6.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
742	219-01	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	15.0	8.0	6.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
743	219-03	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	16.4	8.0	6.1	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
744	219-05	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	16.8	8.0	6.1	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	内面に模様有
745	219-03	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	17.0	8.0	6.1	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
746	214-05	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	16.0	8.1	6.1	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
747	214-04	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	16.0	8.1	6.1	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
748	215-04	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	17.2	8.1	6.1	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
749	214-07	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	17.1	8.1	6.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
750	219-07	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	16.0	8.0	6.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
751	219-02	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	17.0	8.0	6.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
752	214-03	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	17.0	8.0	6.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
753	214-02	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	17.0	8.0	6.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
754	214-04	山茶樹	極	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	17.0	8.0	6.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
755	216-05	山茶樹	蓋	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	17.0	8.0	6.0	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
756	216-06	山茶樹	蓋	T	ツ-16	5067063上巻	直面12/12	-	16.1	8.1	6.1	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	
757	216-06	山茶樹	蓋	T	ツ-16	5067063	直面12/12	-	16.0	8.1	6.1	内・外・内・外	内・外・内・外	良白	

ID	実物番号	種類 (遺物・系統)	基準	調査区	地図	遺構 位置	剖面 位置	測量 CM	測量 口幅	測量 奥幅	測量 高さ	社法・文書の特徴 性質		色調 (外観)	特記事項
												内	外		
700	219-03	山薺編	桜	T	8-1J16	SB070603	遺構A3/12	-	7.0	5.9	内:「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
700	225-05	海苔	麻	T	8-J16	SB070603	底廻り/12	-	14.4	7.5	内:「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
700	229-04	土師器	繩	T	8-H15	SB070603	口縁-腹縁 1/2	24.4	-	5.0	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白	に高い 壁		
701	216-02	土師器	繩	T	8-J16	SB070603	口縁-腹縁 2/2	22.6	-	5.0	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白	に高い 壁		
702	218-01	土師器	繩	T	8-J16	SB070603最上層	口縁-腹縁 1/2	22.0	-	5.0	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白	に高い 壁	口縫間に保村書	
703	218-03	土師器	繩	T	8-H16	SB070603	口縁-腹縁 1/2	21.6	-	5.0	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
704	217-05	瓦	平瓦	T	8-J16	SB070603	小片	-	-	-	内:「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
704	216-04	縄陶器	板	T	8-H15	SB070603-P8 (8-1J16P1)2	底廻り	-	-	-	内:「ツバメ」	浅黄褐			
706	218-06	山薺編	小桜	T	8-H16	SB070603-P9 (8-1J16P1)2	底廻り/3	-	4.4	3.0	内:「ツバメ」、自然顔	灰白			
707	214-03	山薺編	桜	T	8-H15	SB070603-P10 (8-1J16P1)3	底廻り/3	-	7.1	5.0	内:「ツバメ」、灰留墨で書か る「ア」	灰白	輪形		
708	218-05	海苔	桑	T	8-H15	SB070603-P1	口縁	-	-	-	内:「ツバメ」	灰白			
709	217-01	海苔	桑	T	8-J16	SB070603-P1 (8-1J16P1)1	底廻り/2	-	24.1	5.7	内:「ツバメ」	灰白			
710	217-02	瓦	平瓦	T	8-H16	SB070603-P3	小片	-	-	-	内:「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
711	227-04	土師器	新	T	7-114	SB07044-P1 (7-1J1P1)3	口縁	1/2	11.8	-	2.0	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	浅黄褐		
712	210-04	土師器	新	T	7-114	SB07044-P1 (7-1J1P1)2	底廻り	5/32	11.0	-	2.0	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白	外側に保村書	
713	216-06	土師器	新	T	7-114	SB07044-P1(仕切) (7-1J1P1)3	口縁	6/32	9.2	-	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	浅黄褐		
714	227-03	土師器	新	T	7-114	SB07044-P1(仕切) (7-1J1P1)2	底廻り	2/32	10.8	-	2.0	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白		
715	211-04	土師器	桑	T	7-113	SB07044-P2 (7-1J1P1)3	口縁	-	-	-	内:「ツバメ」	浅黄褐			
716	213-03	土師器	桜	T	7-113	SB07044-P3 (7-1J1P1)2	口縁	-	-	-	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	浅黄褐			
717	212-01	灰陶器	桜	T	7-112	SB07045-P3 (7-1J1P1)3	口縁	-	-	-	内:「ツバメ」	灰白			
718	212-07	黑色土器	新	T	7-113	SB07044-P1(仕切) (7-1J1P1)3	口縁	1/32	17.0	-	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	黑	浅黄褐	
719	212-06	黑色土器	桜	T	7-112	SB07045-P2 (7-1J1P1)2	底廻り/3	-	7.6	-	2.0	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	黑	浅黄褐	
720	211-21	山薺編	桜	T	7-113	SB07044-P1 (7-1J1P1)2	口縁	2/32	15.6	5.0	1.8	内:「ツバメ」	灰白		
721	211-20	土師器	黑	T	7-113	SB07044-P1 (7-1J1P1)1	口縁	3/32	11.8	-	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	浅黄褐		
722	211-01	土師器	新	T	7-117	SB07044-P1 (7-1J1P1)3	底廻り	2/32	13.8	-	2.0	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白	金縛に保村書	
723	211-06	山薺編	桜	T	7-110	SB070504	底廻り	-	6.8	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
724	212-07	山薺編	桜	T	7-110	SB07049-P1 (7-1J1P1)3	底廻り	1/32	15.8	-	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白	輪形	
725	219-06	山薺編	桜	T	8-H16	SB070504	底廻り/3	-	7.4	2.2	内:「ツバメ」	灰白			
726	219-04	黑色土器	桜	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.3	1.8	内:「ツバメ」、橢円状地文 「ア」	灰白	内黒		
727	219-05	ロクナ土師器	黑	T	8-H15	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
728	219-03	灰陶器	桜	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.1	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
729	219-01	土師器	黒	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
730	219-08	土師器	新	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
731	219-09	土師器	黒	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
732	220-04	山薺編	桜	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.3	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
733	220-04	土師器	新	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.3	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
734	220-01	ロクナ土師器	黒	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
735	220-06	山薺編	桜	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
736	219-20	土師器	黒	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
737	221-01	ロクナ土師器	黒	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
738	220-03	山薺編	桜	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
739	219-20	土師器	黒	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
740	221-01	ロクナ土師器	黒	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
741	220-06	山薺編	桜	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
742	221-01	ロクナ土師器	黒	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
743	222-02	灰陶器	桜	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
744	222-03	灰陶器	桜	T	8-H16	SB070508	底廻り/2	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「ツバメ」、赤留墨「ア」、「イ」版	灰白			
745	836-02	その他	海苔	T	8-H16	SB070508	底廻り	-	-	-	-	49.7g 梅鉢形、下部がやや強く縮む			
746	833-07	土師器	新	T	7-419	SB070908-P1 (7-1J1P1)6	底廻り	-	-	-	-	内:「ツバメ」			
747	833-01	ロクナ土師器	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	5.6	1.9	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
748	833-05	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
749	833-06	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
750	833-04	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
751	833-02	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
752	833-02	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
753	833-07	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
754	833-01	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
755	833-06	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
756	833-04	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
757	833-02	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
758	833-07	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
759	833-01	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
760	833-06	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
761	833-04	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
762	833-02	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
763	833-07	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
764	833-01	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
765	833-06	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
766	833-04	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
767	833-02	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
768	833-07	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
769	833-01	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
770	833-06	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
771	833-04	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
772	833-02	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
773	833-07	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
774	833-01	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
775	833-06	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
776	833-04	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
777	833-02	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
778	833-07	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
779	833-01	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
780	833-06	山薺編	桜	T	8-H16	SB070908-P1	底廻り/12	-	6.2	1.8	内:「ツバメ」、「赤留墨」	灰白			
781	833-04	山薺編													

No	実施場所	測量 (測地・系統)	基準	調査区	地区	測量 部位	測量 種別	測量 位置	測量 結果			注記・文様の特徴 箇所	色調 (外観)	特記事項
									法量 cm 口幅	法量 cm 通幅	高さ mm			
615	222-01	土砂面	便	T	#-112	SBS7071-#7 (#-112P10)	口縁～斜底	1/12	15.1	-	3.9	内「工」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	後黄緑	
616	227-06	土砂面	便	T	#-112	SBS7071-#7 (#-112P10)	口縁～斜底	1/12	-	-	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」	黄緑	
617	222-06	沢崩落石	便	T	#-112	SBS7071-#8 (#-112P11)	口縁部分	-	-	-	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」	灰白	
618	224-01	沢崩落石	便	T	#-112	SBS7071-#8 (#-112P10)	口縁部分	-	-	-	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」	オーブー 灰 に高い 緑	
619	221-02	ロクロ土崩斜	新	T	#-91	SBS7072	底溝4/12	-	5.9	-	1.4	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	浅黄緑	
620	222-06	土砂面	便	T	#-102	SBS7072	口縁部分	-	-	-	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」	灰白	
621	227-06	土砂面	新	T	#-114	SBS7074-#1 (#-114P11)	2/12	15.9	-	3.1	内「#」外「#」 内「#」外「#」	浅黄緑		
622	226-06	黄土土崩斜	便	T	#-117	SBS7074-#1 (#-117P13)	2/12	14.2	8.6	5.1	内「#」外「#」 内「#」外「#」	灰黄緑	内黒	
623	231-01	劣化土崩斜	便	#	9-911	SBS8003	底溝3/12	-	9.8	3.7	2.0	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 黄緑	
624	231-06	土砂面	新	#	9-017	SBS8007	口縁部分	-	-	-	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」	浅黄緑	
625	229-03	劣化土崩斜	便	#	9-012	SBS8008	口縁部分	-	-	-	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」	浅黄緑	
626	229-01	劣化土崩斜	便	#	9-017	SBS8010	口縁～斜底	3/12	17.1	-	13.9	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	後黄緑	
627	230-06	土砂面	新	#	9-918	SBS8013	5/12	-	2.5	2.0	2.0	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑	
628	229-02	土砂面	便	#	9-918	SBS8013	18号充満	11.4	-	8.2	2.0	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 黄緑	外面に保材等
629	232-05	沢崩落石	便	#	9-023	SBS8013	底溝2/12	-	4.8	1.9	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」	灰白	
630	230-03	土砂面	新	#	9-023	SBS8016	2/12	13.1	-	2.9	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	浅黄緑		
631	230-08	土砂面	新	#	9-023	SBS8016	2/12	14.0	-	2.2	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 緑		
632	231-03	土砂面	新	#	9-023	SBS8016	1/12	14.4	-	2.2	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 黄緑		
633	230-05	土砂面	新	#	9-023	SBS8018	1/12	14.2	-	2.1	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	黄緑		
634	230-04	土砂面	新	#	9-023	SBS8018	1/12	14.0	-	2.2	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑	内面に保材等	
635	230-01	土砂面	新	#	9-023	SBS8018	3/12	14.6	-	2.0	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 緑		
636	231-01	土砂面	新	#	9-023	SBS8018	7/12	12.4	-	2.2	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	浅黄緑		
637	230-02	土砂面	新	#	9-023	SBS8018	2/12	13.1	-	2.9	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	浅黄緑		
638	230-07	土砂面	新	#	9-023	SBS8018	2/12	13.2	-	2.1	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	浅黄緑	細斑	
639	230-04	土砂面	新	#	9-023	SBS8018	1/12	14.0	-	2.2	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑	内面に保材等	
640	230-01	土砂面	新	#	9-023	SBS8018	口縁部分	-	-	-	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	浅黄緑	に高い 緑
641	231-05	土砂面	新	#	G-321	SBS8018	底溝1/12	-	13.8	-	2.1	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 黄緑	
642	231-09	台付壁	便	#	9-023	SBS8018	台付壁	-	-	-	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑	
643	232-02	土砂面	便	#	9-023	SBS8018	底溝4/12	-	9.2	2.1	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑		
644	232-06	黄土土崩斜	便	#	9-023	SBS8018	底溝2/12	-	8.2	0.6	2.0	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	明緑	内黒
645	239-04	土砂面	新	#	9-023	SBS8018	底溝	-	-	2.0	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 黄緑	武田外壁に警備	
646	232-04	沢崩落石	便	#	9-023	SBS8018	底溝	-	-	2.0	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	灰白		
647	232-03	底溝式 斜面土崩斜	便	#	9-023	SBS8018	口縁部分	-	-	-	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 緑	
648	231-08	底溝式 斜面土崩斜	便	#	9-023	SBS8018	口縁部分	-	-	-	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑	
649	231-07	土砂面	便	#	9-023	SBS8018	口縁部分	-	-	-	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑	
650	229-05	土砂面	便	#	9-023	SBS8018	口縁～斜底	1/12	16.9	-	3.3	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 緑	
651	240-01	土砂面	便	#	G-023	SBS8020	口縁～斜底	1/12	21.0	-	7.2	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 緑	
652	241-06	山崩斜	便	#	G-023	SBS8020	底溝5/12	-	8.0	3.2	3.2	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	灰白	
653	240-01	土砂面	新	#	G-C22	SBS8018	1/12	15.9	-	3.4	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	暗緑		
654	239-08	土砂面	新	#	G-023	SBS8018	2/12	16.3	-	3.5	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	緑		
655	239-06	土砂面	新	#	G-023	SBS8018	1/12	17.8	-	3.9	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 緑		
656	239-01	土砂面	便	#	G-023	SBS8018	6/12	15.8	-	2.9	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑		
657	240-01	土砂面	新	#	G-023	SBS8018	2/12	15.6	-	2.2	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑		
658	239-04	土砂面	新	#	G-023	SBS8018	2/12	14.7	-	2.5	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 黄緑		
659	240-05	土砂面	新	#	G-023	SBS8018	2/12	13.8	-	2.1	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑		
660	233-02	土砂面	便	#	G-023	SBS8018	5/12	14.7	-	2.1	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 黄緑		
661	241-05	土砂面	便	#	G-024	SBS8018	1/12	14.8	-	2.0	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑		
662	239-05	土砂面	便	#	G-022	SBS8018	1/12	12.0	-	2.0	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑		
663	239-07	土砂面	便	#	G-C21	SBS8018	1/12	12.8	-	2.5	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑		
664	236-01	土砂面	便	#	G-022	SBS8018	4/12	12.9	-	2.7	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 緑		
665	240-02	土砂面	便	#	G-C22	SBS8018	1/12	12.6	-	2.9	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	緑		
666	239-03	土砂面	便	#	G-022	SBS8018	5/12	14.7	-	2.1	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 黄緑		
667	239-04	土砂面	便	#	G-022	SBS8018	完所	-	18.8	-	3.1	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 黄緑	
668	241-04	土砂面	便	#	G-023	SBS8018	1/12	13.6	-	2.5	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑		
669	240-06	土砂面	便	#	G-023	SBS8018	1/12	13.2	-	3.3	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 緑		
670	233-07	土砂面	便	#	G-C22	SBS8018	口縁部分	-	-	-	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	西黄緑	
671	233-06	土砂面	便	#	G-022	SBS8018	口縁部分	-	-	-	-	内「#」外「#」 内「#」外「#」 内「#」外「#」	に高い 緑	

ID	種類	種類 (学名・系統)	標識	調査区	地区	過樹 樹木位置	樹高 樹木高度	流量 (10m 幅) 幅員		往復・支流の特徴 距離		色斑 (外因)	特記事項
								幅員	過樹	最高	最低		
872	240-06	土蜘蛛	新	8	G-B21	S2606018	1/12	17.2	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	に高い 壁	
873	235-01	土蜘蛛	新	8	G-B21	S2606018	2/12	14.8	-	3.2	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	壁	
874	235-03	土蜘蛛	新	8	G-B21	S2606018	3/12	14.8	-	2.9	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	に高い 壁	
875	239-04	土蜘蛛	新	8	G-B21	S2606018	1/12	13.8	-	2.6	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	西斜面	
876	239-05	土蜘蛛	新	8	G-B21	S2606018	2/12	13.0	-	2.5	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	に高い 武田外側に蓄着「平成」	
877	235-06	土蜘蛛	新	8	G-B21	S2606018	3/12	13.0	-	2.5	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	地盤	
878	234-07	土蜘蛛	新	8	G-B21	S2606018	4/12	13.0	-	2.5	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	に高い 壁	
879	237-05	土蜘蛛	新	8	G-B21	S2606018	5/12	13.0	-	2.5	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	西斜面	
880	239-01	黑色七色	飼	8	G-C21	S2606018	6/12	13.0	-	2.4	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	武田外側に蓄着「大」	
881	240-07	土蜘蛛	飼	8	G-C21	S2606018	7/12	13.0	-	2.7	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	内斜面	
882	240-04	火薙蜘蛛	飼	8	G-B21	S2606018	8/12	13.0	-	2.7	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
883	236-02	火薙蜘蛛	飼	8	G-C21	S2606018 ^{アサヒ}	9/12	13.0	-	2.7	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
884	236-03	火薙蜘蛛	飼	8	G-C21	S2606018	10/12	13.0	-	2.7	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
885	236-04	土蜘蛛	飼	8	G-B21	S2606018	11/12	13.0	-	2.7	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
886	235-05	土蜘蛛	飼	8	G-B22	S2606018	1/12	13.8	-	3.2	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	西斜面	
887	241-02	正太郎 黒尾アゲハ	♂	8	G-C22	S2606018	2/12	13.8	-	3.2	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	壁	
888	241-01	正太郎 黒尾アゲハ	♂	8	G-C22	S2606018	3/12	13.8	-	3.2	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	西斜面	
889	241-03	正太郎 黒尾アゲハ	♂	8	G-C22	S2606018	4/12	13.8	-	3.2	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	壁	
890	234-03	土蜘蛛	便	8	G-C21	S2606018	5/12	13.8	-	3.2	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
891	234-01	土蜘蛛	便	8	G-B23	S2606018	6/12	13.8	-	3.2	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	西斜面	
892	234-02	土蜘蛛	便	8	G-B22	S2606018	7/12	13.8	-	3.2	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
893	237-01	土蜘蛛	便	8	G-C22	S2606018	8/12	13.8	-	3.2	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
894	237-03	土蜘蛛	便	8	G-C21	S2606018	9/12	13.8	-	3.2	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
895	237-07	土蜘蛛	便	8	G-B22	S2606018	10/12	13.8	-	3.2	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
896	236-01	土蜘蛛	便	8	G-B21	S2606018	11/12	13.8	-	3.2	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
897	239-01	土蜘蛛	便	8	G-B21	S2606018	12/12	13.8	-	3.2	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
898	237-01	土蜘蛛	便	8	G-B21	S2606018	1/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	西斜面	
899	237-02	土蜘蛛	便	8	G-B21	S2606018	2/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
900	239-01	土蜘蛛	便	8	G-B21	S2606018	3/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
901	237-01	土蜘蛛	便	8	G-B21	S2606018	4/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
902	237-02	土蜘蛛	便	8	G-B21	S2606018	5/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
903	237-03	土蜘蛛	便	8	G-B21	S2606018	6/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
904	237-07	土蜘蛛	便	8	G-B21	S2606018	7/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
905	239-04	瓦	瓦	8	G-B21	S2606018	8/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
906	238-03	その他	飼育	8	G-B21	S2606018	9/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
907	243-04	土蜘蛛	便	8	G-C21	S2606018	10/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
908	241-07	土蜘蛛	便	8	G-C22	S2606018	11/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
909	241-06	土蜘蛛	便	8	G-C22	S2606018	12/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
910	241-05	土蜘蛛	便	8	G-C22	S2606018	1/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
911	244-05	火薙蜘蛛	飼	9	T-27	S2606018	2/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
912	244-06	火薙蜘蛛	飼	9	T-45	S2606018	3/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
913	244-07	火薙蜘蛛	飼	9	T-45	S2606018	4/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
914	244-08	土蜘蛛	便	9	T-46	S2606018	5/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
915	244-09	土蜘蛛	便	9	T-46	S2606018	6/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
916	244-10	土蜘蛛	便	9	T-46	S2606018	7/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
917	244-05	クロコ土蜘蛛	正	9	T-46	S2606018	8/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
918	245-01	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	9/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
919	244-03	基色七色	飼	9	T-46	S2606018	10/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
920	243-06	山蜘蛛	飼	9	T-46	S2606018	11/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
921	244-04	山蜘蛛	飼	9	T-46	S2606018	12/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
922	243-05	山蜘蛛	飼	9	T-46	S2606018	1/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
923	243-02	山蜘蛛	飼	9	T-46	S2606018	2/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
924	243-03	山蜘蛛	飼	9	T-46	S2606018	3/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
925	244-04	土蜘蛛	便	9	T-46	S2606018	4/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
926	244-05	土蜘蛛	便	9	T-46	S2606018	5/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
927	243-03	陶器	鉢	9	T-46	S2606018	6/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
928	244-01	瓦	瓦	9	T-46	S2606018	7/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
929	244-02	瓦	瓦	9	T-46	S2606018	8/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
930	244-06	土蜘蛛	飼	9	T-46	S2606018	9/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
931	244-07	土蜘蛛	飼	9	T-46	S2606018	10/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
932	244-08	土蜘蛛	飼	9	T-46	S2606018	11/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
933	244-09	土蜘蛛	飼	9	T-46	S2606018	12/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
934	244-10	土蜘蛛	飼	9	T-46	S2606018	1/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
935	244-01	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	2/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
936	244-02	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	3/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
937	244-03	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	4/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
938	244-04	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	5/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
939	244-05	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	6/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
940	244-06	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	7/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
941	244-07	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	8/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
942	244-08	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	9/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
943	244-09	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	10/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
944	244-10	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	11/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
945	244-01	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	12/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
946	244-02	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	1/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
947	244-03	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	2/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
948	244-04	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	3/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
949	244-05	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	4/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
950	244-06	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	5/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
951	244-07	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	6/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
952	244-08	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	7/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
953	244-09	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	8/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
954	244-10	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	9/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
955	244-01	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	10/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
956	244-02	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	11/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
957	244-03	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S2606018	12/12	14.0	-	3.1	内→ ^{2.7} , _{2.7} ^{2.7}	底面	
958	244-04	土蜘蛛	丸虎頭	9	T-46	S26							

No	実施場所	種別 (产地・系統)	基準	調査状況	地図	選択 部位	割合 選択部位	数量 CM			性別・文様の特徴	色調 (外見)	特記事項
								口数	高さ	基底			
930	271-04	土師器	純	9	2-PT	SD69007	1/12	-	-	-	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	浅黄緑	
931	271-05	土師器	純	9	2-PT	SD69007	1/12	10.8	-	3.5	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	灰白	
932	271-07	土師器	純	9	2-PT	SD69007	2/12	9.8	-	3.8	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	灰白	
933	271-01	土師器	純	9	2-PT	SD69007	12/12	10.6	-	2.1	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	浅黄緑	
934	271-02	土師器	純	9	2-PT	SD69007	8/12	11.0	-	2.3	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	浅黄緑	
935	271-03	土師器	純	9	2-PT	SD69007	3/12	10.5	-	1.8	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	灰白	
936	272-01	ロクロ土師器	純	9	2-PT	SD69007	5/12	11.5	6.9	2.7	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	赤泥斑	
937	271-09	土製品	土器	9	2-PT	SD69007	10/12	10.5	幅.1	-	Pt.75, Pt.75	赤泥斑	量.0.3kg
938	271-06	瓦和陶器	純	9	2-PS	SD69007	低窓1/12	-	8.2	3.6	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	灰白	
939	249-02	土師器	純	9	2-N5	SD69008	1/12	14.0	-	2.6	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	浅黄緑	
940	249-06	土師器	純	9	2-M5	SD69008	白磁底	-	-	-	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	青	
941	247-03	土師器	純	9	2-N5	SD69008	直縁底1/12	17.1	-	4.6	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	灰白	
942	246-02	山系綱	純	9	2-N5	SD69008	直縁底8/12	-	2.0	2.1	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	灰白	
943	246-08	山系綱	純	9	2-N5	SD69008	直縁底4/12	-	5.6	2.2	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	灰白	
944	246-05	山系綱	純	9	2-N5	SD69008	直縁底11/12	-	2.1	2.2	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	灰白	
945	246-03	山系綱	純	9	2-N5	SD69008	直縁底7/12	13.4	6.1	0.9	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	内面に保材付	
946	246-04	山系綱	純	9	2-N5	SD69008	直縁底8/12	-	8.1	4.3	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	灰白	
947	249-01	牛生土器	漆	9	2-15	SD69014	直縁底3/12	19.6	-	2.0	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	に点々 模	
948	247-04	牛生土器	高环	9	2-H6	SD69017	脚置片	-	-	-	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	浅黄緑	透.0.3kg
949	247-05	土師器	漆	9	2-H6	SD69017	直縁底3/12	13.1	-	4.9	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	青	
950	285-01	土師器	漆	9	2-PT	SD69021	1/12	21.1	-	3.6	内面付保材付文 Pt.75, Pt.75, Pt.75	青	内面に保材付
951	247-02	土師器	漆	9	2-PT	SD69021	直縁底4/12	12.9	-	3.3	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	に点々 模	
952	247-01	土師器	漆	9	2-PT	SD69021	直縁底1/12	14.1	-	6.0	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	に点々 模	
953	249-01	土師器	漆	9	2-PT	SD69021	脚置片	-	-	-	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	青	
954	249-04	土師器	純	9	2-PT	SD69022	2/12	10.8	-	3.5	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	浅黄緑	
955	252-06	瓦和陶器	純	9-C5	SD69023	脚置片	-	-	-	-	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	青	
956	246-01	瓦和陶器	純	9	2-PT	SD69023	直縁底5/12	-	2.2	2.9	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	灰白	内面に保材付
957	251-07	土師器	漆	9	2-PT	SD69024	直縁底1/12	17.8	-	2.5	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	青	見込みに縦刷
958	251-08	土師器	漆	9	2-PT	SD69025	脚置片	-	-	-	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	青緑	
959	252-05	瓦和陶器	純	9	2-PT	SD69025	直縁底5/12	9.1	5.1	4.1	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	灰白	
960	257-11	土師器	漆	9	2-Q7	SD69033	直縁底3/12	13.6	-	1.2	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	灰白	
961	257-08	土師器	漆	9	2-Q7	SD69033	4/12	11.1	-	2.4	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	黄灰	
962	257-10	土師器	漆	9	2-Q7	SD69033	直縁底2/12	10.9	-	2.4	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	浅黄緑	
963	256-02	土師器	漆	9	2-Q7	SD69033	9/12	10.8	-	2.2	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	浅黄緑	
964	256-06	土師器	漆	9	2-Q7	SD69033	4/12	9.9	-	2.2	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	浅黄緑	
965	257-04	土師器	漆	9	2-Q7	SD69033	小片	-	-	-	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	浅黄緑	
966	257-05	土師器	漆	9	2-Q7	SD69033	小片	-	-	-	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	灰白	
967	256-03	土師器	漆	9	2-Q7	SD69033	直縁底12/12	-	6.0	1.9	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	青緑	
968	259-09	瓦和陶器	純	SD69032	口縁底片	-	-	-	-	-	オーバーブ 灰	表面に点々青緑色	
969	257-01	土師器	漆	9	2-Q7	SD69033	口縁底片	-	-	-	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	浅黄緑	
970	258-05	土製品	土器	9	2-Q7	SD69033	完形	盆.1.7	幅.1.3	-	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	に点々 青	量.0.6kg
971	253-02	土製品	土器	9	2-Q7	SD69033	完形	盆.2.1	幅.1.1	-	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	に点々 青	量.0.5kg
972	258-06	土製品	土器	9	2-Q7	SD69033	完形	盆.2.9	幅.1.3	-	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	灰青	量.0.5kg
973	258-04	土製品	土器	9	2-Q7	SD69033	2/3	盆.3.1	幅.1.6	-	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	に点々 青	量.0.5kg
974	258-05	土製品	土器	9	2-Q7	SD69033	完形	盆.3.1	幅.1.4	-	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	に点々 青	量.0.5kg
975	258-02	土製品	土器	9	2-Q7	SD69033	完形	盆.3.6	幅.1.1	-	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	に点々 青	量.0.5kg
976	258-01	土製品	土器	9	2-Q7	SD69033	完形	盆.5.6	幅.2.0	-	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	青	量.0.3kg
977	258-07	土製品	土器	9	2-Q7	SD69033	完形	盆.3.1	幅.1.3	-	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	に点々 青	量.0.5kg
978	252-02	土師器	漆	9-C5	SD69027	3/12	10.9	-	-	3.0	内面付保材文、輪郭状埋文 Pt.75, Pt.75, Pt.75	に点々 青	内面に保材付
979	253-03	土師器	漆	9-B6	SD69027	2/12	10.6	-	-	2.2	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	浅黄緑	
980	257-07	土師器	漆	9	2-Q7	SD69027	口縁底2/12	13.6	-	3.1	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	青	
981	251-06	土師器	漆	9-C5	SD69027	7/12	13.2	-	-	3.5	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	に点々 青	内面に保材付
982	252-09	土師器	漆	9-C5	SD69027	1/12	10.9	-	-	2.5	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	に点々 青	
983	256-06	土師器	漆	9-C6	SD69027	3/12	12.8	-	-	2.3	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	浅黄緑	
984	253-05	土師器	漆	9	2-B6	SD69027	2/12	13.6	-	3.2	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	青	
985	253-04	土師器	漆	9	2-B6	SD69027	5/12	12.8	-	3.2	Pt.75, Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75, Pt.75	青	
986	251-03	土師器	漆	9	2-B6	SD69027	2/12	12.9	-	3.0	Pt.75, Pt.75 Pt.75, Pt.75	青	

NO	実施場所	種別(属性・系統)	基準	調査状況	地名	選択部位	割合 割合 割合	測定 測定 測定	法則・文様の特徴・ 性質			色調 (外観)	特記事項	
									口唇	顎頭	顎底			
987	254-06	土師器	新	9	3-CF	10000027	口輪側面	-	-	-	-	灰		
988	254-04	土師器	新	9	3-BE	10000027	小舟	-	-	-	-	灰	内面に 黒色斑	
989	253-02	土師器	新	9	3-CH	10000027	2/12	14.0	-	2.0	内・外 内・外 内・外	浅黄緑		
990	253-08	土師器	新	9	3-CB	10000027	1/12	14.8	-	1.0	内・外 内・外 内・外	緑		
991	251-04	土師器	新	9	3-BE	10000027	1/12	17.0	-	2.1	内・外 内・外 内・外	緑		
992	253-06	土師器	新	9	3-BE	10000027	2/12	19.0	-	2.0	内・外 内・外 内・外	緑		
993	254-03	土師器	新	9	3-CE	10000027	6/12	20.1	-	3.0	内・外 内・外 内・外	緑		
994	255-04	土師器	新	9	3-BE	10000027	底面部	-	-	-	-	灰	底面部に 黒色斑	
995	255-05	土師器	新	9	3-BE	10000027	底面部	-	-	-	-	灰	底面部に 黒色斑	
996	256-04	土師器	新	9	3-CF	10000027	隅み底面	-	-	-	-	緑		
997	257-08	土師器	不明	9	3-00	10000027	-	-	-	-	内・外 内・外 内・外	灰		
998	252-02	陶器器	裏	9	3-BE	10000027	2/12	-	-	-	内・外 内・外 内・外	灰		
999	252-03	陶器器	裏	9	3-CI	10000027	口輪側面/12	10.0	-	1.0	内・外 内・外 内・外	灰		
1000	252-02	陶器器	裏	9	3-CI-6	10000027	口輪側面/12	10.0	-	1.0	内・外 内・外 内・外	灰		
1001	252-01	陶器器	裏	9	3-CI	10000027	5/12	16.2	-	5.0	内・外 内・外 内・外	灰		
1002	257-02	陶器器	新	9	3-00	10000027	底面部/12	-	9.2	1.0	内・外 内・外 内・外	灰		
1003	257-03	陶器器	新	9	3-BE	10000027	底面部/12	-	10.0	2.0	内・外 内・外 内・外	灰		
1004	254-02	陶器器	新	9	3-CB	10000027	底面部/12	-	11.1	2.0	内・外 内・外 内・外	灰		
1005	256-01	土師器	灰	9	3-BE	10000027	底面部	-	-	-	-	灰		
1006	253-02	土師器	新	9	3-BE	10000027	口輪側面	-	-	-	-	灰		
1007	257-03	土師器	裏	9	3-CH	10000027	口輪・側面	22.3	-	12.0	内・外 内・外 内・外	浅黄緑		
1008	251-01	土師器	裏	9	3-CB	10000027	口輪側面/12	23.0	-	9.0	内・外 内・外 内・外	灰		
1009	253-01	土師器	裏	9	3-BE	10000027	口輪側面/12	13.0	-	4.9	内・外 内・外 内・外	緑		
1010	250-04	土師器	裏	9	3-CB	10000027	口輪側面/12	13.2	-	3.1	内・外 内・外 内・外	灰		
1011	251-01	土師器	裏	9	3-BE	10000027	口輪側面/12	21.0	-	7.0	内・外 内・外 内・外	灰		
1012	250-01	土師器	裏	9	3-CB	10000027	口輪・側面	25.1	-	9.0	内・外 内・外 内・外	緑		
1013	253-02	土師器	裏	9	3-BE	10000027	口輪側面/12	19.0	-	6.1	内・外 内・外 内・外	灰		
1014	250-02	土師器	裏	9	3-BE	10000027	口輪側面/12	13.0	-	3.0	内・外 内・外 内・外	灰		
1015	254-05	陶器器	裏	9	3-00	10000027	口輪側面	-	-	-	-	灰		
1016	254-01	陶器器	底面	9	3-CH	10000027	口輪底面/12	10.0	-	3.2	内・外 内・外 内・外	灰		
1017	249-01	陶器器	裏	9	3-CH	10000027	口輪底面/4/12	23.4	-	6.0	内・外 内・外 内・外	灰	内面にM字形織目	
1018	250-01	陶器器	底板	9	3-BE	10000027	口輪底面	-	-	-	-	灰		
1019	257-06	土師器	新	9	3-QT	1000004	口輪側面/12	12.0	-	2.0	内・外 内・外 内・外	浅黄緑		
1020	254-09	土師器	新	9	3-QT	1000004	口輪側面/12	12.0	-	3.0	内・外 内・外 内・外	浅黄緑		
1021	259-01	土師器	新	9	3-QT	1000004	小舟	-	-	-	-	内・外 内・外 内・外	灰	
1022	259-05	絹織物器	底板	9	3-QT	1000004	口輪側面/12	17.0	-	2.1	内・外 内・外 内・外	オリーブ 緑地に灰白色		
1023	259-03	土師器	底板	9	3-QT	1000004	口輪側面/12	13.0	-	2.0	内・外 内・外 内・外	灰		
1024	259-02	土師器	裏	9	3-QT	1000004	口輪側面	-	-	-	-	内・外 内・外 内・外	灰	
1025	259-09	土製品	土師	9	3-QT	1000004	完形	底L.7	幅1.1	-	内・外 内・外 内・外	灰	底L.4.4kg	
1026	259-11	土師品	土師	9	3-QT	1000004	完形	底L.4	幅1.3	-	内・外 内・外 内・外	灰	底L.5.9kg	
1027	258-10	土製品	土師	9	3-QT	1000004	ほぼ完形	底L.5	幅1.4	-	内・外 内・外 内・外	灰	底L.5.9kg	
1028	253-12	土師品	土師	9	3-QT	1000004	完形	底L.5	幅1.5	-	内・外 内・外 内・外	灰	底L.3.4kg	
1029	258-12	土製品	土師	9	3-QT	1000004	底	底L.5	幅1.0	-	内・外 内・外 内・外	灰	底L.3.4kg	
1030	259-08	土師器	新	9	3-CF	1000005	口輪側面/12	13.0	-	2.5	内・外 内・外 内・外	緑		
1031	259-06	陶器器	底蓋	9	3-CH	1000005	口輪側面/12	13.1	-	1.4	内・外 内・外 内・外	灰		
1032	257-07	土師器	底	9	3-CF	1000005	口輪側面	-	-	-	-	灰		
1033	260-01	ローラ土器器	底	9	3-QT	1000008	底面部/12	-	8.0	2.0	内・外 内・外 内・外	西高麗	内面に熱帯付着	
1034	260-02	土師器	新	9	3-QT	1000008	3/12	14.2	-	2.0	内・外 内・外 内・外	灰	内・外 内・外 内・外	
1035	260-03	土師器	裏	9	3-QT	1000008	口輪側面	-	-	-	-	内・外 内・外 内・外	緑	
1036	260-04	土師器	新	9	3-QT	1000004	3/12	10.7	-	2.2	内・外 内・外 内・外	浅黄緑		
1037	260-03	土師器	新	9	3-QT	1000004	4/12	11.0	-	2.3	内・外 内・外 内・外	浅黄緑		
1038	260-07	土師器	新	9	3-QT	1000004	4/12	13.2	-	2.1	内・外 内・外 内・外	灰	内面に熱帯付着	
1039	260-06	土師器	新	9	3-QT	1000004	3/12	10.1	-	2.0	内・外 内・外 内・外	灰		
1040	260-08	土師器	新	9	3-QT	1000004	3/12	11.4	-	2.0	内・外 内・外 内・外	浅黄緑		
1041	261-02	黑色土器	新	9	3-QT	1000004	2/12	13.6	-	5.0	内・外 内・外 内・外	黑	内黒	
1042	261-03	黑色土器	新	9	3-QT	1000004	底面部/12	-	4.0	1.0	内・外 内・外 内・外	黒	内黒	
1043	261-04	絹織物器	小舟	9	3-QT	1000004	1/12	8.7	1.1	1.1	内・外 内・外 内・外	オリーブ 緑地に黒色 斑	底面部黒い	

番号	種類	種類 (属性・系統)	種群	調査区	地区	漁獲 部位	船名 荷役度	漁獲 (10t)			往復・支拂の特徴			色斑 (外因)	特記事項
								回数	日付	漁獲量	往復	支拂			
1044	261-01	沢鰯南魚	純	9	タ-47	SH00041	5/12	15.8	8.1	9.7	内→外	外→内	支拂		
1045	261-05	土鰯南	純	9	タ-07	SH00042-P1	5/12	15.8	-	-	内→外	外→内	支拂	外洋が混化	
1046	261-06	土鰯南	純	9	タ-06	SH00043-P1	5/12	15.8	-	-	内→外	外→内	支拂		
1047	269-07	ニシキジ	土鱈	9	タ-06	SH00044	5/12	1.2	0.8	0.6	-	内→外	支拂	量少	
1048	262-02	土鰯南	純	9	タ-07	SH00044-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	浅海帶	
1049	263-02	土鰯南	純	9	タ-07	SH00044-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	浅海帶	
1050	262-03	土鰯南	純	9	タ-07	SH00044-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	浅海帶	
1051	263-04	土鰯南	純	9	タ-07	SH00044-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	浅海帶	
1052	263-05	土鰯南	純	9	タ-06	SH00044-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	浅海帶	
1053	263-09	土鰯南	純	9	タ-07	SH00044-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	浅海帶	
1054	263-09	純鰯南魚	純	9	タ-07	SH00044-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	オーブン 高水温・底層も獲物	
1055	262-01	東洋南魚	新苗	9	タ-07	SH00045-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	灰	
1056	262-07	沢鰯南魚	純	9	タ-07	SH00046-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	灰	
1057	263-06	沢鰯南魚	純	9	タ-07	SH00047-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	灰	
1058	264-04	上鱈南	土鱈	9	タ-07	SH00047-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1059	264-07	土鱈南	土鱈	9	タ-07	SH00048-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1060	262-03	上鱈南	土鱈	9	タ-07	SH00048-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1061	262-06	上鱈南	土鱈	9	タ-07	SH00048-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1062	264-04	上鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00048-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1063	262-07	土鱈南	土鱈	9	タ-07	SH00048-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1064	262-04	土鱈南	土鱈	9	タ-07	SH00048-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1065	264-08	純鰯南魚	純	9	タ-07	SH00048-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1066	262-03	上鱈南	土鱈	9	タ-07	SH00049-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1067	262-06	上鱈南	土鱈	9	タ-07	SH00049-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1068	262-04	上鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00049-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1069	262-08	上鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00049-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1070	268-05	土鱈南	純	9	タ-06	SH00050-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1071	267-01	土鱈南	純	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1072	267-03	土鱈南	純	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1073	267-05	土鱈南	純	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1074	267-04	土鱈南	純	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1075	267-07	土鱈南	純	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1076	264-03	土鱈南	純	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1077	268-09	上鱈南	土鱈	9	タ-07	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1078	269-01	純	純	9	タ-03	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1079	268-08	上鱈南	純	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1080	267-04	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1081	267-05	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1082	267-03	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1083	266-05	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1084	266-02	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1085	266-01	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1086	265-02	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1087	269-03	沢鰯南魚	純	9	タ-07	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1088	266-06	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1089	264-04	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1090	266-04	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1091	261-02	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1092	266-03	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1093	264-01	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1094	267-02	アフロ土鱈南	純	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1095	266-08	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1096	268-07	カワハギ	純	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1097	269-07	土鱈南	土鱈	9	タ-07	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1098	269-04	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1099	269-05	土鱈南	土鱈	9	タ-06	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	
1100	269-08	土鱈南	土鱈	9	タ-07	SH00051-P1	5/12	1.2	-	-	内→外	外→内	支拂	量少	

NO	種類 (学名・系統)	種群	調査区	地区	通過 位置	移動 速度	通過 (km)			往復・文庫の特徴 地図	色面 (外観)	特記事項		
							日数	距離	最高					
1301	271-10	土蜘蛛	土蜘蛛	土蜘蛛	タ-06	0350051-22 (タ-06P13)	2/3	4.1	47.7	-	ツバキ、ツバ	濃葉樹	葉合:10.4g	
1302	269-02	茶色土蟻	茶	茶	タ-06	0350052	口輪駅A/12	10.3	-	4.7	内山、内山	内山	内山	
1303	268-02	土蜘蛛	茶	土蜘蛛	タ-06	0350053	5/12	13.0	-	3.1	内山、内山、内山	内山	内山	
1304	268-06	土蜘蛛	茶	土蜘蛛	タ-06	0350053P (タ-06P13)	口輪駅B/12	15.0	-	2.0	内山、内山、内山、内山	内山	内山	
1305	272-04	土蜘蛛	茶	土蜘蛛	タ-07	0350053 (タ-07P13)	11輪駅	-	-	-	内山、内山、内山、内山	内山	内山	
1306	270-02	土蜘蛛	茶	土蜘蛛	タ-07	0350053	1/12	13.2	15.1	5.2	内山、内山	内山	内山	
1307	270-02	土蜘蛛	茶	土蜘蛛	タ-07	0350053	尾端駅/12	-	17.0	3.1	内山、内山	内山	内山	
1308	270-01	土蜘蛛	茶	土蜘蛛	タ-07	0350053	1/12	22.0	6.0	内山、内山	内山	内山		
1309	026-06	土蜘蛛	茶	1	タ-11	P113	11輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	内山	内山	
1310	228-08	土蜘蛛	茶	1	タ-113	P116	口輪駅B/12	12.2	-	3.6	内山、内山、内山	内山	内山	
1311	029-03	火輪蜘蛛	桃	1	タ-111	P113	口輪駅B/12	12.0	-	3.6	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1312	029-06	火輪蜘蛛	桃	1	タ-113	P113	道端駅/12	-	8.0	3.2	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1313	029-06	土蜘蛛	桃	1	タ-113	P113	古井駅	-	5.0	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1314	028-07	土蜘蛛	桃	1	タ-113	P113	山端-脚踏車	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1315	073-05	土蜘蛛	桃	2	タ-018	P113	11輪駅	-	-	-	内山、内山	桃白	桃白	
1316	028-04	土蜘蛛	桃	4	タ-113	P113	口輪駅B/12	14.3	-	3.2	内山、内山、内山、内山	桃白	桃白	
1317	193-04	土蜘蛛	小黒	0	タ-49	P113	3/12	2.3	-	1.2	内山、内山	灰白	灰白	
1318	142-05	土蜘蛛	桃	0	タ-124	P113	9/12	11.6	-	3.2	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1319	162-04	土蜘蛛	桃	0	タ-125	P113	3/12	11.7	-	3.5	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1320	163-01	土蜘蛛	桃	0	タ-403	P119	9/12	9.1	-	2.1	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1321	193-01	土蜘蛛	桃	0	タ-410	P113	1/12	16.6	-	3.6	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1322	142-03	黄蜘蛛	桃	0	タ-410	P113	8/12	13.2	-	3.6	内山、内山、内山	灰	灰	
1323	193-05	火輪蜘蛛	淡黄	0	タ-123	P1110	口輪駅B/12	17.0	-	1.9	内山、内山、内山	灰白	灰白	
1324	194-01	山糞蜘蛛	桃	0	タ-122	P1112	尾端駅/12	-	6.7	3.9	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1325	194-01	土蜘蛛	桃	0	タ-304	P1112	口輪駅B/12	-	17.8	-	3.0	内山、内山	桃白	桃白
1326	194-02	土蜘蛛	桃	0	タ-415	P113	口輪駅B/12	12.8	-	3.1	内山、内山	灰白	灰白	
1327	223-29	土蜘蛛	桃	7	タ-214	P114	1/12	11.8	-	1.6	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1328	223-04	土蜘蛛	桃	7	タ-212	P113	尾端駅/12	14.0	2.0	0.5	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1329	223-04	土蜘蛛	桃	7	タ-214	P113	口輪駅B/12	-	-	-	内山、内山	桃白	桃白	
1330	212-04	土蜘蛛	桃	7	タ-214	P113	口輪駅B/12	-	-	-	内山、内山	桃白	桃白	
1331	212-05	土蜘蛛	桃	7	タ-214	P114	尾端駅	-	-	-	内山、内山	桃白	桃白	
1332	223-03	脚踏車駆	桃	7	タ-214	P113	11輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1333	223-01	火輪蜘蛛	桃	7	タ-214	P113	口輪駅B/12	17.6	6.8	3.1	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1334	105-01	土蜘蛛	桃	3	タ-115	P113	口輪駅B/12	20.8	-	3.2	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1335	165-02	火輪蜘蛛	桃	3	タ-815	P113	尾端駅/12	-	7.5	1.4	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1336	110-01	瓦瓦	2	タ-418	P113	小舟	-	-	-	内山、内山	桃白	桃白		
1337	127-02	土蜘蛛	桃	0	タ-112	P113	口輪駅B/12	16.1	-	3.1	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1338	130-01	火輪蜘蛛	桃	0	タ-113	P113	口輪駅B/12	14.0	6.8	2.0	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1339	147-03	土蜘蛛	桃	0	タ-112	P113	11輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1340	127-03	土蜘蛛	桃	0	タ-112	P113	口輪駅B/12	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1341	127-03	土蜘蛛	桃	0	タ-112	P113	口輪駅B/12	22.8	-	18.0	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1342	271-06	土蜘蛛	桃	0	タ-06	P114	1/12	18.6	-	3.0	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1343	270-01	土蜘蛛	桃	0	タ-06	P114	2/12	12.3	-	2.5	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1344	274-09	土蜘蛛	桃	0	タ-07	P112	口輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1345	274-03	土蜘蛛	桃	0	タ-07	P112	口輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1346	275-01	土蜘蛛	桃	0	タ-06	P112	口輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1347	274-03	土蜘蛛	桃	0	タ-06	P112	口輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1348	275-03	土蜘蛛	桃	0	タ-07	P112	口輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1349	272-02	ロジ土蜘蛛	桃	0	タ-06	P112	尾端駅/12	-	5.8	1.7	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1350	275-07	土蜘蛛	桃	0	タ-07	P116	口輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1351	272-05	土蜘蛛	桃	0	タ-07	P117	口輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1352	274-12	土蜘蛛	桃	0	タ-07	P116	口輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1353	274-10	土蜘蛛	桃	0	タ-07	P116	口輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1354	272-08	土蜘蛛	桃	0	タ-07	P112	口輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1355	272-07	土蜘蛛	桃	0	タ-07	P116	1/12	13.8	-	3.2	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1356	274-11	土蜘蛛	桃	0	タ-06	P112	口輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1357	275-04	黄蜘蛛	桃	0	タ-07	P112	口輪駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	
1358	275-10	陶器	桃	0	タ-06	P112	尾端駅	-	-	-	内山、内山、内山	桃白	桃白	

ID	実測 番号	種類 (変種・品種)	基準	調査区	地図	選択 部位	割合 種別	数量 (cm) 口径 直径 厚さ			性状・文様の特徴 性状	色調 (外観)	特記事項
								口徑	直徑	厚さ			
1109	214-14	灰陶陶器	灰	9	ク-Q5	P1x13	口縁部	-	-	-	内・外ツボ、鶴丸丸 内・外ツボ	灰 オーラー	
1109	275-05	灰陶陶器	灰	9	ク-Q6	P1x3	底面1/12	-	6.8	1.1	内・外ツボ	灰白	
1109	275-06	灰陶陶器	灰	9	ク-Q6	P1x12	口縁部1/12	15.8	-	4.1	内・外ツボ	灰白	
1109	275-06	灰陶陶器	灰	9	ク-Q7	P1x16	底面2/12	-	8.0	2.9	内・外ツボ、灰陶質の跡け 内・外ツボ	灰白	
1109	275-08	灰陶陶器	灰	9	ク-Q7	P1x16	口縁部1/12	-	4.1	2.6	内・外ツボ 内・外ツボ、赤斑	灰白	
1109	274-03	土陶品	土	9	ク-Q7	P1x2	泥断	直径 8	幅 6.0	-	内・外ツボ	浅黄褐	直 3.3g
1109	274-05	土陶品	土	9	ク-Q7	P1x2	泥断	直径 8.5	幅 7.4	-	内・外ツボ	灰素	直 4.4g
1109	274-01	土陶品	土	9	ク-Q7	P1x2	泥断	直径 8.5	幅 7.4	-	内・外ツボ	灰素	直 2.7g
1109	274-01	土陶品	土	9	ク-Q7	P1x7	口縁部	直径 8.5	幅 7.4	-	内・外ツボ	灰素	直 2.4g
1109	274-04	土陶品	土	9	ク-Q7	P1x2	口縁部	直径 8.5	幅 7.4	-	内・外ツボ	灰素	直 2.1g
1109	274-08	土陶品	土	9	ク-Q8	P1x12	口縁部	直径 8.5	幅 7.4	-	内・外ツボ	浅黄褐	直 2.0g
1109	274-06	土陶品	土	9	ク-Q8	P1x6	泥断	直径 8.5	幅 7.4	-	内・外ツボ	浅黄褐	直 2.0g
1173	271-11	土陶品	土	9	ク-Q7	P1x7	泥断	直径 8.0	幅 7.4	-	内・外ツボ	灰素	直 2.4g
1173	282-05	土陶品	土	9	ク-Q7	P1x1	泥断	直径 8.5	幅 7.2	-	内・外ツボ	灰	直 4.4g
1173	262-06	土陶品	土	9	ク-Q7	P1x1	泥断	直径 8.5	幅 7.2	-	内・外ツボ	灰白	直 3.5g
1173	274-02	土陶品	土	9	ク-Q7	P1x2	泥断	直径 8.5	幅 7.2	-	内・外ツボ	浅黄褐	直 2.2g
1173	271-12	土陶品	土	9	ク-Q7	P1x11	泥断	直径 8.5	幅 7.2	-	内・外ツボ	灰素	直 2.2g
1173	273-01	土陶品	土	9	ク-Q7	P1x12	泥断	直径 8.5	幅 7.4	-	内・外ツボ	灰素	直 2.4g
1173	276-04	土陶器	土	1	無	無	口縁部	-	-	-	内・外ツボ	灰	
1173	278-03	土陶器	土	1	無	無	口縁部	直径 13.4	-	5.2	内・外ツボ 内・外ツボ、内・外ツボ	浅黄褐	
1173	280-04	土陶品	土	1	無	無	口縁部	直径 8.0	-	4.0	内・外ツボ	浅黄褐	直 15.3g
1173	275-05	土陶品	土	1	無	無	口縁部	直径 8.0	-	4.0	内・外ツボ	灰白	直 9.4g
1173	277-02	泥瓦器	土	1	無	無	口縁部	直径 10.8	-	3.5	内・外ツボ 内・外ツボ、内・外ツボ	灰	
1173	277-05	泥瓦器	土	1	無	無	口縁部	直径 12.4	-	4.8	内・外ツボ 内・外ツボ、内・外ツボ	灰白	高台内側部。転用か?
1173	278-04	縫合陶器	土	1	無	無	底面1/12	-	7.7	1.1	内・外ツボ	灰 灰白	
1173	279-05	生土生器	土	1	無	無	口縁部	-	-	-	内・外ツボ	浅黄褐	
1173	276-03	土陶器	土	1	無	無	口縁部	-	-	-	内・外ツボ	浅黄褐	
1173	271-01	泥瓦器	土	1	無	無	口縁部	-	-	-	内・外ツボ	灰白	
1173	278-01	土陶器	土	2	木-F13	包合層	小片	-	-	-	内・外ツボ	浅黄褐	
1173	276-01	土陶器	土	2	木-F13	包合層	小片	-	-	-	内・外ツボ	灰素	内・外ツボ
1173	277-07	山系綱	木	5	無	無	口縁部2/12	20.8	-	5.5	内・外ツボ 内・外ツボ	灰 灰白	内・外ツボ
1173	277-07	山系綱	木	5	無	無	口縁部2/12	15.5	6.9	5.2	内・外ツボ 内・外ツボ	灰	
1173	280-02	山系綱	木	5	無	無	底面12/12	-	4.8	3.0	内・外ツボ	浅黄褐	
1173	277-04	山系綱	木	2	無	無	口縁部	直径 9.2	9.2	2.6	内・外ツボ 内・外ツボ、内・外ツボ	灰白	
1173	280-02	山系綱	木	3	無	無	底面12/12	-	3.2	1.4	内・外ツボ 内・外ツボ、内・外ツボ	灰白	
1173	280-07	石器	石	5	無	無	底面12/12	-	6.0	3.2	内・外ツボ 内・外ツボ	灰白	見込みに重ね書き感
1173	278-05	石器	石	5	無	無	底面12/12	-	6.0	3.2	内・外ツボ 内・外ツボ	灰白	
1173	275-05	その他の 施設	施設	3	無	無	底面12/12	-	-	-	-	-	
1173	276-06	土陶品	土	5	ワ-320	包合層	小片	直径 13.0	-	7.0	内・外ツボ	灰白	直 3.7g
1173	111-01	瓦	瓦	3	無	無	1/8	-	-	-	内・外ツボ 内・外ツボ	瓦素文	
1173	280-01	瓦	瓦	3	無	無	小片	-	-	-	内・外ツボ 内・外ツボ	瓦素文	
1173	279-01	瓦	瓦	3	無	無	小片	-	-	-	内・外ツボ 内・外ツボ	瓦白	
1201	282-02	瓦	瓦	3	無	無	小片	-	-	-	内・外ツボ 内・外ツボ	瓦白	
1201	280-02	瓦	瓦	3	無	無	小片	-	-	-	内・外ツボ 内・外ツボ	瓦白	
1201	280-01	山系綱	木	4	無	無	U/12	16.4	12.1	5.0	内・外ツボ 内・外ツボ、内・外ツボ	灰白	
1204	281-01	土陶器	土	4	中央部北側壁	無	口縁部4/12	16.9	-	4.3	内・外ツボ 内・外ツボ	灰白	
1208	281-03	土陶器	土	4	中央部北側壁	無	底面4/12	-	20.2	6.4	内・外ツボ 内・外ツボ	灰白	内・外ツボ
1208	282-03	瓦	瓦	4	ク-B18	包合層	小片	-	-	-	内・外ツボ	灰白	内・外ツボ
1208	281-04	瓦	瓦	5	無	無	小片	-	-	-	内・外ツボ 内・外ツボ	瓦白	内・外ツボ
1209	280-05	灰陶陶器	灰	6	無	無	底面4/12	-	-	-	内・外ツボ 内・外ツボ	灰白	
1212	282-04	土陶品	土	6	ケ-112	泥瓦器	泥瓦器	-	-	-	内・外ツボ 内・外ツボ、赤斑	灰白	泥瓦器
1212	280-06	灰陶陶器	灰	6	無	無	底面4/12	-	9.9	1.6	内・外ツボ 内・外ツボ、赤斑	灰白	泥瓦器
1212	280-03	山系綱	木	6	無	無	底面4/12	-	11.1	0.9	内・外ツボ 内・外ツボ	灰白	泥瓦器
1214	281-02	土陶器	土	6	無	無	底面4/12	-	17.5	4.0	内・外ツボ 内・外ツボ	灰白	泥瓦器
1214	282-01	瓦	瓦	6	無	無	小片	-	-	-	内・外ツボ 内・外ツボ	瓦白	
1214	281-05	土陶品	土	6	無	無	口縁部	直径 13.0	-	7.0	内・外ツボ 内・外ツボ	灰白	内・外ツボ
1217	280-02	土陶器	土	7	ヒ-J18	包合層	底面4/12	-	12.0	2.8	内・外ツボ 内・外ツボ	灰白	見込みに重ね書き感
1218	284-01	灰陶陶器	灰	7	ヒ-J18	包合層	底面4/12	-	7.0	3.1	内・外ツボ 内・外ツボ	灰白	見込みに重ね書き感

ID	実施場所	測量 (度数)・系統	標準	調査区	地区	選択 部位	部位 種別	測量 位置	測量 値			柱法・支承の特徴 性質	色調 (外見)	特記事項
									口径	高さ	基盤			
1369	040-03	調文土器	西緯	I	1-4X北	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	褐	
1370	059-04	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1371	040-06	調文土器	西緯	I	1-4X北	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	
1372	035-02	調文土器	西緯	I	チ-113	5211046 (261-320)黒褐色	口縁・側面	3/12	22.7	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	
1373	032-01	調文土器	西緯	I	チ-112-13	5211046 (261-320)黒褐色	口縁部	1/12	26.2	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	
1374	031-01	調文土器	西緯	I	チ-113	5211046 黄褐色(3)	口縁部	1/12	26.2	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	
1375	037-01	調文土器	西緯	I	チ-612-13	5211046 黄褐色(3)(No.22)	口縁・側面	2/12	35.1	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	中ひびき状
1376	038-01	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	6/12	30.1	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	中ひびき状
1377	052-05	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	褐	
1378	056-05	調文土器	西緯	I	1-4X北	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1379	052-04	調文土器	西緯	I	チ-413	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1380	051-08	調文土器	西緯	I	1-4X	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	褐	
1381	058-07	調文土器	西緯	I	チ-112-13	5211046 (261-320)黒褐色	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	
1382	050-03	調文土器	西緯	I	1-4X北	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	褐	皮状凹凸
1383	057-06	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)(No.45)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1384	055-02	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1385	033-04	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	褐	
1386	054-02	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)(No.17)	側面	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	
1387	040-01	調文土器	西緯	I	チ-113	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	皮状凹凸
1388	054-05	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1389	054-05	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1390	051-04	調文土器	西緯	I	1-4X	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	褐	
1391	050-04	調文土器	西緯	I	1-4X北	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1392	056-06	調文土器	西緯	I	チ-612-13	5211046 黒褐色(3)(No.22)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1393	031-04	調文土器	西緯	I	チ-612-13	5211046 黄褐色(3)	口縁・側面	3/12	21.4	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	皮状凹凸
1394	040-04	調文土器	西緯	I	1-4X北	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1395	040-02	調文土器	西緯	I	1-4X北	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1396	050-01	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	皮状凹凸
1397	051-03	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1398	050-02	調文土器	西緯	I	1-4X北	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1399	051-07	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1400	036-01	調文土器	西緯	I	チ-612	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1401	053-04	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)(No.12)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	褐	
1402	057-08	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1403	050-01	調文土器	西緯	I	チ-612-13	5211046 黄褐色(3)	口縁・側面	3/12	21.4	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	皮状凹凸
1404	055-04	調文土器	西緯	I	チ-612-13	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1405	051-02	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1406	051-07	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1407	036-01	調文土器	西緯	I	チ-612	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1408	056-03	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1409	052-07	調文土器	西緯	I	チ-612-13	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	皮状凹凸
1410	055-04	調文土器	西緯	I	チ-612-13	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1411	049-05	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1412	059-07	調文土器	西緯	I	1-4X北	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1413	051-03	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	皮状凹凸
1414	055-06	調文土器	西緯	I	チ-612-13	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	皮状凹凸
1415	039-01	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1416	049-01	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1417	034-01	調文土器	西緯	I	チ-612	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1418	049-04	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)(No.9)	口縁・側面	2	35.0	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	皮状凹凸
1419	049-01	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁・側面	1/12	34.8	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿、鉄火	灰褐色	皮状凹凸
1420	049-01	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)(No.1)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1421	049-04	調文土器	西緯	I	1-4X北	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	皮状凹凸
1422	057-01	調文土器	西緯	I	チ-612-13	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、竹管火	褐	
1423	061-04	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1424	049-01	調文土器	西緯	I	チ-612-13	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1425	061-02	調文土器	西緯	I	チ-612	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1426	049-02	調文土器	西緯	I	チ-612	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1427	049-01	調文土器	西緯	I	チ-612	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1428	049-04	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)(No.9)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1429	049-04	調文土器	西緯	I	1-4X北	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1430	057-01	調文土器	西緯	I	チ-612-13	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、竹管火	褐	
1431	061-04	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1432	049-01	調文土器	西緯	I	チ-612-13	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1433	061-02	調文土器	西緯	I	チ-612	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1434	056-04	調文土器	西緯	I	チ-612-13	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	
1435	060-02	調文土器	西緯	I	チ-613	5211046 黄褐色(3)	口縁部	-	-	-	-	内・外・ ¹³ 外付、沈殿	灰褐色	

ID	実施場所	測量 (座地・系統)	基準	調査区	地区	選択 部位	部位 種別	測量 順序	測量 寸法			柱法・支拂の特徴 性状	色調 (外見)	特記事項
									口径	高さ	基底			
1408	033-03	漢文土器	復原	1	チ-012	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	浅黄褐色	
1427	053-03	漢文土器	復原	1	チ-113	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・黒茶 内・黒茶、緑茶	灰褐色	
1429	044-01	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・黒茶 内・黒茶、緑茶	黑褐色	
1429	032-03	漢文土器	復原	1	チ-113	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・黒茶 内・黒茶、緑茶	灰褐色	
1430	044-01	漢文土器	復原	1	チ-012	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	浅黄褐色	
1431	057-03	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	浅黄褐色	
1432	048-07	漢文土器	復原	1	I-4区北	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	浅黄褐色	
1433	033-03	漢文土器	復原	1	チ-012	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	浅黄褐色	
1434	030-01	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	12.0 脚部D/12	29.6	-	-	内・外 内・外・赤褐色	粉	
1435	056-02	漢文土器	復原	1	I-4区北	5251046 暗褐色	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1436	056-07	漢文土器	復原	1	チ-012-13	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色、黑色	灰褐色	
1437	048-01	漢文土器	復原	1	I-4区北	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1438	055-01	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1439	045-03	漢文土器	復原	1	I-4区北	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	粉	
1440	031-03	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	12.0 脚部D/12	29.6	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1441	033-05	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1442	059-05	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1443	032-04	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1444	060-03	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1445	060-05	漢文土器	復原	1	チ-012	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1446	040-02	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1447	054-04	漢文土器	復原	1	チ-012	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1448	059-06	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	粉	
1449	034-01	漢文土器	復原	1	チ-012	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	浅黄褐色	
1450	061-01	漢文土器	復原	1	チ-012	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	外側に保材着
1451	033-05	漢文土器	復原	1	チ-012	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	明赤褐色	
1452	037-07	漢文土器	復原	1	チ-012	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	粉	
1453	039-02	漢文土器	台形上部	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	10.4 脚部D/12	10.4	-	2.5	内・外 内・外・赤褐色	明褐色	
1454	036-03	漢文土器	復原	1	チ-012	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1455	047-06	漢文土器	復原	1	I-4区北	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1456	047-08	漢文土器	復原	1	I-4区北	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	明黄褐色	
1457	047-07	漢文土器	復原	1	I-4区北	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	浅黄褐色	
1458	047-08	漢文土器	復原	1	I-4区北	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1459	047-02	漢文土器	復原	1	チ-012-13	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1460	061-03	漢文土器	復原	1	チ-012	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1461	054-01	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1462	047-04	漢文土器	復原	1	I-4区北	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1463	059-01	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	明褐色	
1464	052-01	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	明褐色	
1465	047-06	漢文土器	復原	1	I-4区北	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1466	047-07	漢文土器	復原	1	I-4区北	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	明黄褐色	
1467	047-07	漢文土器	復原	1	I-4区北	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	浅黄褐色	
1468	047-08	漢文土器	復原	1	I-4区北	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1469	047-02	漢文土器	復原	1	チ-012-13	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1470	061-03	漢文土器	復原	1	チ-012	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1471	060-01	漢文土器	復原	1	チ-013	5251046 暗褐色×11%赤	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・赤褐色	灰褐色	
1472	023-04	漢文土器	復原	1	チ-013	5251029 青褐色	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・青褐色	灰褐色	
1473	287-05	漢文土器	復原	1	チ-018	5251046 暗褐色	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・青褐色	浅黄褐色	
1474	058-04	漢文土器	復原	1	チ-015	5251046 暗褐色	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・青褐色	粉	
1475	023-05	漢文土器	復原	1	チ-013	5251029 青褐色	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・青褐色	灰褐色	
1476	058-02	漢文土器	復原	1	チ-013	5251029 青褐色	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・青褐色	灰褐色	
1477	287-02	漢文土器	復原	1	*-K11	P112	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・青褐色	灰褐色	
1478	286-06	漢文土器	復原	1	I-4区	断削	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・青褐色	粉	横断面
1479	287-03	漢文土器	復原	1	断削	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・青褐色	浅黄褐色		
1480	058-01	漢文土器	復原	1	チ-013	5251029 青褐色	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・青褐色	灰褐色	
1481	058-03	漢文土器	復原	1	チ-013	5251029 青褐色	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・青褐色	粉	
1482	016-01	漢文土器	復原	1	チ-013	5251017 暗褐色	脚部D	-	-	-	-	内・外 内・外・青褐色	灰褐色	

ID	実測面番号	測量面(測地・系統)	基準	調査区	地図	測量位置	測量用具	測量用具	測量 厘メートル			柱法・支拂の特徴	色調(外観)	特記事項	
									口径	高さ	基底				
1540	160-02	調査土器	西端	6	テ-407	P11111	側面所	-	-	-	-	内・外	灰黄褐色		
1541	163-01	調査土器	西端	6	-14m	壁面洗い(?)内 壁面洗い(?)内	口縁～側面	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい 黄褐色		
1542	169-07	調査土器	西端	6	テ-125	壁面洗い(?) 灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい 黄褐色		
1543	189-05	調査土器	袖	6	テ-124-25	灰黄褐色(?) 灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい 黄褐色		
1544	180-04	調査土器	西端	6	テ-125	壁面洗い(?) 灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい 黄褐色		
1545	189-01	調査土器	西端	6	テ-125	壁面洗い(?) 灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい 黄褐色		
1546	192-03	調査土器	口上部	6	-14m	壁面洗い(?) 灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢	側状部	
1547	192-01	調査土器	西端	6	-14m	灰黄褐色(?) 灰黄褐色(?)	口縁～側面	2/2	24.6	-	12.3	内・外	灰黄褐色		
1548	182-03	調査土器	西端	6	テ-4120	壁面洗い(?) 壁面洗い(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい 黄褐色		
1549	189-03	調査土器	西端	6	テ-125	壁面洗い(?) 灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	灰黄褐色		
1550	191-05	調査土器	西端	6	-14m	壁面洗い(?) 壁面洗い(?)	口縁所	-	-	-	-	内・工行(?)、3.5cm 内・外、3.5cm	明黄色 薄く揮芬付		
1551	189-04	調査土器	西端	6	テ-124-25	灰黄褐色(?) 灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢	塊状	
1552	192-02	調査土器	西端	6	-14m	壁面洗い(?) 灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・工行(?)、3.5cm 内・外、3.5cm	穢	当部剥離付	
1553	189-04	調査土器	西端	6	テ-134-35	壁面洗い(?) 灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	灰黄褐色		
1554	187-04	調査土器	西端	6	テ-1400	壁面洗い(?) 壁面洗い(?)	側面所	-	-	-	6.0	5.0	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい 穢	
1555	187-02	調査土器	西端	6	テ-125	壁面洗い(?) 灰黄褐色(?)	直面所	-	-	-	13.2	3.1	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい 黄褐色	
1556	187-03	調査土器	西端	6	テ-1400	壁面洗い(?) 灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい 穢		
1557	196-06	調査土器	西端	6	テ-125	灰黄褐色(?) 灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・工行(?)、3.5cm 内・外、3.5cm	穢	にぶい穢	
1558	184-02	調査土器	西端	6	-34-45m	灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1559	189-02	調査土器	西端	6	テ-420	灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	灰黄褐色	剥離付	
1560	189-08	調査土器	西端	6	テ-125	灰黄褐色(?) 灰黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい 穢		
1561	181-03	調査土器	西端	6	テ-1400	壁面洗い(?) 灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢		
1562	183-03	調査土器	西端	6	-34.1m	灰黄褐色(?) 灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢	当部剥離付	
1563	184-02	調査土器	西端	6	-34-45m	灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1564	189-02	調査土器	西端	6	テ-425	灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	灰黄褐色	剥離付	
1565	189-08	調査土器	西端	6	テ-1400	灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1566	181-03	調査土器	西端	6	-43.1m	灰黄褐色(?) 灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢	剥離付	
1567	190-01	調査土器	西端	6	テ-1400	灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢	西面剥離付	
1568	183-03	調査土器	西端	6	-34.1m	灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢	西面剥離付	
1569	184-02	調査土器	西端	6	-34-45m	灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢	にぶい穢	
1570	193-04	調査土器	袖	6	-3.5m	灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1571	187-01	調査土器	西端	6	-14m	黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1572	186-02	調査土器	西端	6	-14m	黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1573	186-01	調査土器	西端	6	テ-815	黄褐色(?)	口縫合所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢	透視4.0	
1574	186-05	調査土器	西端	6	-149-83m	灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1575	190-07	調査土器	西端	6	-34.1m	灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢		
1576	184-02	調査土器	西端	6	-34.1m	灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢		
1577	187-01	調査土器	西端	6	-14m	灰黄褐色(?)	口縁所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1578	186-01	調査土器	西端	6	テ-815	灰黄褐色(?)	口縫合所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1579	187-04	調査土器	西端	6	-149-83m	灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1580	184-03	調査土器	西端	6	-34.1m	灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢		
1581	181-01	調査土器	西端	6	-12m	灰黄褐色	口縫合所	2/2	18.6	-	1.5	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1582	191-01	調査土器	西端	6	-149-84m	灰黄褐色(?)	口縫合所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢	西面剥離付	
1583	197-02	調査土器	西端	6	-3.5m	黄褐色(?) 灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢	西面剥離付	
1584	180-02	調査土器	西端	6	-149-83m	灰黄褐色(?)	口縫合所	2/2	27.4	-	1.5	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1585	190-03	調査土器	西端	6	テ-918	灰黄褐色(?) 灰黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢	側面剥離付	
1586	181-02	調査土器	西端	6	テ-124	暗褐色	口縫合所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1587	184-01	調査土器	西端	6	-43.1m	灰黄褐色(?) 灰黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1588	185-03	調査土器	西端	6	テ-905	灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢		
1589	183-04	調査土器	西端	6	-43.1m	灰黄褐色(?) 灰黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1590	184-04	調査土器	西端	6	-43-45m	灰黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢		
1591	193-01	調査土器	西端	6	-43.0m	灰黄褐色(?)	口縫合所	2/2	27.4	-	1.5	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1592	180-03	調査土器	西端	6	テ-918	灰黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1593	182-02	調査土器	西端	6	テ-124	暗褐色	口縫合所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1594	187-03	調査土器	西端	6	-43.1m	灰黄褐色(?) 灰黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1595	188-04	調査土器	西端	6	テ-905	灰黄褐色(?)	側面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢		
1596	184-04	調査土器	西端	6	-43-45m	灰黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1597	182-02	調査土器	西端	6	-43-45m	灰黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1598	182-01	調査土器	西端	6	テ-118	黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1599	186-03	調査土器	西端	6	テ-425	灰黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1600	185-04	調査土器	西端	6	テ-124	黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1601	186-04	調査土器	西端	6	テ-118	灰オリーブ緑	口縫合所	1/1	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	暗褐色	暗褐色	
1602	189-02	調査土器	西端	6	-3.5m	灰黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1603	287-06	調査土器	西端	6	テ-423	P111	口縫合所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢		
1604	190-03	調査土器	西端	6	-124	P115	口縫合所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		
1605	179-03	調査土器	西端	6	テ-614	10560033	口縫合所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢	明黄色	
1606	179-04	調査土器	西端	6	テ-614	10560033	口縫合所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	穢		
1607	189-04	調査土器	西端	6	-43-45m	灰黄褐色(?)	直面所	-	-	-	-	内・外、3.5cm 内・外、3.5cm	にぶい穢		

ID	実施場所番号	種別(施設・系統)	基準	調査期	地図	道橋 部位	耐候 性評定	法規 (cm)			技術・支障の特徴 點	色調 (外観)	特記事項	
								日径	月径	最高				
10007	179-01	湖上上部	既存	6	〒-KL11	SBS60033	日歸船形	-	-	内・外	内・外	浅黄褐		
10008	179-01	湖上上部	既存	6	〒-KL11	SBS60033	日歸船形	-	-	内・外	内・外	灰青		
10009	180-01	湖上上部	既存	6	〒-KL11	SBS60033	日歸船形	-	-	内・外	内・外	灰青	黄緑白縫	
10010	180-01	湖上上部	既存	6	-43.3	SBS60033	日歸船形	-	-	内・外	内・外	灰青	灰青白縫	
10011	280-01	湖上上部	既存	6	米	SBS60033	日歸船形	-	-	内・外	内・外	灰青		
10012	143-01	湖上上部	既存	6	〒-425	SBS60037	日歸船形	-	-	内・外	内・外	灰青		
10013	129-01	湖上上部	既存	6	〒-KL11	SBS60033	日歸船形	-	-	内・外	内・外	灰青		
10014	179-09	湖上上部	既存	6	〒-KL11	SBS6033	鋼製片	-	-	内・外	内・外	明赤褐		
10015	280-01	湖上上部	既存	6	〒-425	PI112	鋼製片	-	-	内・外	内・外	褐灰		
10016	179-06	湖上上部	既存	6	〒-KL11	SBS6033	鋼製片	-	-	内・外	内・外	灰青	内・外・褐	
10017	180-01	湖上上部	既存	6	米	紳士	鋼製片	-	-	内・外	内・外	灰青		
10018	177-06	湖上上部	既存	6	〒-KL11	SBS6033	鋼製片	-	-	内・外	内・外	灰青		
10019	180-01	湖上上部	既存	6	〒-923	ガラス内蔵	鋼製片	-	-	内・外	内・外	灰青	内・外・灰青	
10020	128-06	湖上上部	既存	6	〒-416	SBS6033	鋼合板	-	-	内・外	内・外	褐		
10021	127-01	湖上上部	既存	6	〒-KL11	SBS6033	鋼合板	-	9.1	1.2	内・外	内・外	内・外	
10022	127-01	湖上上部	既存	6	〒-134	SBS6003上層	鋼合板	-	12.8	2.9	内・外	内・外	浅黄褐	
10023	143-06	湖上上部	既存	6	〒-425	SBS6017	鋼製片	-	-	内・外	内・外	灰青	内・外・灰	
10024	127-04	湖上上部	既存	6	〒-915	SBS6027	鋼合板	-	9.1	2.4	内・外	内・外	褐灰	
10025	127-02	湖上上部	既存	6	〒-KL11	SBS6033	鋼合板	-	12.2	3.9	内・外	内・外	灰青	内・外・灰青
10026	177-01	湖上上部	既存	6	〒-416	SBS6033	鋼合板	-	8.9	2.8	内・外	内・外	浅黄褐	既存底座孔
10027	180-01	湖上上部	既存	6	〒-KL11	SBS6033	鋼合板	-	-	内・外	内・外	褐	内・外・灰	
10028	180-01	湖上上部	既存	6	〒-134	SBS6017	鋼製片	-	-	内・外	内・外	褐		
10029	180-01	湖上上部	既存	6	〒-134	SBS6017	鋼製片	-	-	内・外	内・外	褐		
10030	287-01	湖上上部	既存	8	北	紳士	鋼製片	-	-	内・外	内・外	黄灰		
10031	287-07	湖上上部	既存	5	北	紳士	鋼製片	-	-	内・外	内・外	黄灰		
10032	280-01	湖上上部	既存	7	〒-416	下屋内装合板上段	鋼製片	-	16.6	2.2	内・外	内・外	褐	
10033	128-05	湖上上部	既存	5	〒-113	SBS6001	日歸船形	-	-	内・外	内・外	深灰	内・外・深灰	
10034	287-01	湖上上部	既存	6	〒-825	高子F	鋼製片	-	-	内・外	内・外	浅黄褐		

②木製品

ID	実施場所番号	種別	調査期	地区	沿構 部位	法規 (cm)	法規 (cm)			耐候	木取り	特記事項 (加工法・難手箇)	
							直	横	高				
1239	912-02	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	80.1	17.0	4.5	丸穴	板目	木口ノゾメ切削		
1240	922-02	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	78.5	15.6	3.7	丸穴	板目	木口ノゾメ切削		
1241	916-01	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	76.0	18.0	6.2	丸穴	板目	木口ノゾメ切削 木口ノゾメ切削用(縫六寸)、木口ノゾメ切削 縫合用(縫六寸)、木口ノゾメ切削用(縫六寸)、木口ノゾメ切削		
1242	920-01	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	47.0	18.0	3.5	丸穴	中差目	木口ノゾメ切削		
1243	926-01	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	89.3	18.5	7.0	丸穴	板目	木口ノゾメ切削		
1244	916-02	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	65.7	27.0	6.3	丸穴	透版目	腐食害しい、木口ノゾメ切削		
1245	924-01	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	194.7	35.0	6.7	丸穴	板目	腐食害しい、物穴		
1246	939-01	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	93.0	18.5	6.0	丸穴	板目	腐食害しい、物穴、表面チョウナ		
1247	933-02	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	62.5	7.5	2.5	丸穴	穴込	表面チョウナ		
1248	912-03	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	85.0	20.5	5.7	丸穴	板目	木口ノゾメ切削		
1249	919-02	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	84.2	18.7	5.9	丸穴	板目	木口ノゾメ切削		
1250	919-01	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	80.2	20.1	6.3	丸穴	板目	木口ノゾメ切削		
1251	944-01	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	85.2	18.4	5.0	丸穴	板目	腐食害		
1252	912-01	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	89.8	20.0	5.4	丸穴	中差目	穴込、表面チョウナ		
1253	901-02	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	82.0	12.9	5.7	丸穴	透版目	穴込		
1254	906-02	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	87.7	6.4	2.9	丸穴	透版目	穴込、表面チョウナ		
1255	914-02	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	75.0	24.5	3.0	丸穴	板目	穴込、表面チョウナ、木口ノゾギリで切削		
1256	935-01	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	79.7	28.9	3.0	丸穴	板目	穴込、表面チョウナ、木口ノゾギリで切削		
1257	913-02	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	76.0	11.5	5.5	-	透版目	表面チョウナ、木口ノゾギリで切削		
1258	929-02	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	84.5	11.7	2.4	丸穴	透版目	木口ノゾギリで切削		
1259	927-04	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	73.1	7.9	6.8	-	透版目	木口ノゾメ切削		
1260	914-03	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	31.5	24.5	5.4	丸穴	透版目	表面チョウナ、木口ノゾギリ・オノで切削		
1261	927-02	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	23.0	18.2	2.9	丸穴	透版目	表面チョウナ、木口ノゾギリ・オノで切削		
1262	916-04	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	31.1	11.6	6.3	丸穴	透版目	表面チョウナ、木口ノゾギリで切削		
1263	927-03	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	27.8	12.3	2.3	丸穴	板目	穴込、表面チョウナ、木口ノゾギリで切削		
1264	917-03	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	29.5	22.6	5.5	丸穴	板目	表面チョウナ、木口ノゾギリ・オノで切削		
1265	913-01	芦戸材 (既存)	1	〒-F12 +13	SBS1028	30.8	14.5	3.6	丸穴	板目	穴込、表面チョウナ、木口ノゾメ切削		

ID	実測番号	種類	調査区	地区	遺構位置	至高cm			解説	本数	特記事項 (加工品・施設等)
						直	横	高			
1286	045-01	丹戸材 (木造)	1	チ-12	SE51028	往	高	4.0	クスノキ柾目 高さ:1.5cm	一本倒	下掘に穴、内外面チップナ
1287	289-02	舟形	4	オ-05	SE54031	往	高	0.7	高さ:1.5cm 高さ:1.5cm	板目	木造4本で、側面内面ケビキ、底部鋼鉄工具
1288	050-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	118.9	17.0	4.0	スギ	板目	舟形削削、木口ノゾで切削
1289	027-01	舟形	4	オ-05	SE54031	124.9	17.7	4.8	スギ	板目	ノミでカット舟形(穂先)?、木口ノゾで切削
1290	003-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	87.8	10.0	3.3	スギ	板目	ノミでカット舟形(穂先)?、木口ノゾで切削
1271	015-03	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	105.6	7.9	4.1	スギ	追跡	327と接合
1272	012-02	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	128.0	10.0	4.8	スギ	板目	木口ノゾで切削
1273	002-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	104.5	15.0	4.0	スギ	板目	木口ノゾで切削
1274	017-02	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	109.8	16.4	3.1	スギ	板目	舟形削削、木口ノゾで切削、ノミでカット舟形(穂先)?、128.0-127.5と接合し、同一木材の可能性
1275	012-03	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	96.4	7.7	3.6	ヒノキ	追跡	船底ナット
1276	022-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	128.5	20.0	5.5	スギ	板目	ノミでカット舟形(穂先)?、木口ノゾで切削 運搬用鉄釘用か、127.5と接合
1277	005-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	105.9	18.0	5.0	スギ	板目	ノミでカット舟形(穂先)?、木口ノゾで切削
1278	012-02	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	116.0	11.5	4.0	スギ	板目	128.0と接合
1279	009-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	98.5	15.5	4.0	スギ	板目	穴込、次回周辺にチップナまたはノミ、側面チップナ、木口ノゾで切削
1280	001-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	106.5	16.9	4.3	スギ	板目	舟形削削、木口ノゾで切削
1281	021-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	96.3	17.5	4.0	スギ	板目	舟底-船底ナット、木口ノゾで切削、ノミでカット舟形(穂先)?、128.0と同一舟形
1282	018-02	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	111.5	12.5	4.0	スギ	板目	穴込、木口ノゾで切削 運搬用鉄釘用か、127.5と接合
1283	002-02	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	97.4	14.0	3.0	スギ	板目	木口ノゾで切削
1284	001-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	98.1	16.7	4.4	スギ	板目	ノミでカット舟形(穂先)?、洞口ノゾで切削 128.0と接合
1285	024-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	99.1	17.9	4.6	ヒノキ	板目	穴込、木口ノゾで切削、128.0と接合
1286	039-02	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	102.5	11.3	6.0	スギ	追跡	穴込、次回周辺にチップナ、木口ノゾで切削
1287	005-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	108.8	17.5	3.9	スギ	板目	穴込、次回周辺にチップナ、木口ノゾで切削、ノミでカット舟形(穂先)?、128.0と同一舟形
1288	014-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	108.9	13.8	4.5	スギ	板目	木口ノゾで切削
1289	015-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	98.1	18.0	4.6	スギ	板目	舟形削削、洞口ノゾで切削 128.0と接合
1290	006-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	98.3	11.7	2.5	スギ	板目	穴込、128.0と接合
1291	009-02	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	108.0	15.5	4.5	スギ	板目	128.0と接合
1292	010-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	99.7	18.5	4.5	スギ	板目	穴込、次回周辺にチップナまたはノミ、側面チップナ、木口ノゾで切削
1293	007-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	99.3	14.9	4.0	スギ	板目	穴込、木口ノゾで切削 運搬用鉄釘用か、127.5と接合
1294	002-02	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	97.8	14.0	4.0	スギ	板目	穴込、木口ノゾで切削 128.0と接合
1295	002-02	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	86.9	8.0	5.5	スギ	板目	穴込、木口ノゾで切削 128.0と接合
1296	039-02	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	96.3	11.7	2.5	スギ	板目	穴込、128.0と接合
1297	009-02	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	108.0	15.5	4.5	スギ	板目	128.0と接合
1298	010-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	99.7	18.5	4.5	スギ	板目	穴込、次回周辺にチップナまたはノミ、側面チップナ、木口ノゾで切削
1299	029-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	99.3	14.9	4.0	スギ	板目	穴込、木口ノゾで切削 運搬用鉄釘用か、127.5と接合
1300	006-03	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	97.8	24.0	4.0	スギ	板目	穴込、木口ノゾで切削 128.0と接合
1301	005-01	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	64.6	8.4	1.9	スギ	板目	縫合
1302	026-02	丹戸材 (木造)	4	オ-05	SE54031	92.9	28.5	2.0	ヒノキ	板目	縫合
1303	011-01	丹戸材 (木造)	4	チ-12	SE54031	108.8	27.0	5.0	スギ	中空目	表面チップナ。木口ノゾで切削
1304	001-02	舟形	4	チ-12	SE54031	47.0	23.2	3.9	ヒノキ	板目	木口ノゾで切削
1305	006-01	丹戸材 (木造)	4	チ-12	SE54031	96.4	41.3	6.0	スギ	板目	縫合
1306	042-01	丹戸材 (木造)	4	チ-12	SE54031	106.6	41.3	6.5	スギ	板目	表面チップナ。木口ノゾで切削、縫合、物川
1307	039-01	丹戸材 (木造)	4	チ-12	SE54031	98.1	36.5	6.1	スギ	板目	表面チップナ。木口ノゾで切削、縫合、物川
1308	040-01	丹戸材 (木造)	4	チ-12	SE54031	82.7	42.0	5.5	スギ	板目	表面チップナ。木口ノゾで切削、縫合、物川
1309	003-02	舟形	4	チ-12	SE54031	96.0	9.0	4.0	スギ	追跡	縫合
1310	033-01	丹戸材 (木造)	4	チ-12	SE54031	118.5	27.5	3.8	ヒノキ	板目	木口ノゾで切削 1311と同一舟形(ノコギリで切削)、縫合、物川
1311	039-01	丹戸材 (木造)	4	チ-12	SE54031	117.5	36.9	7.2	スギ	板目	表面チップナ。木口ノゾで切削、縫合、物川
1312	023-01	丹戸材 (木造)	4	チ-12	SE54031	117.0	26.5	3.5	ヒノキ	板目	木口ノゾで切削、縫合、物川
1313	037-01	丹戸材 (木造)	4	チ-12	SE54031	121.8	36.8	5.7	スギ	板目	表面チップナ。木口ノゾで切削 1311と同一舟形(ノコギリで切削)、縫合、物川
1314	041-01	舟物版	4	チ-12	SE54031	48.0	28.2	1.1	スギ	板目	木口ノゾで切削、外側鉄工具、内面チップナ
1315	034-01	舟物版	4	チ-12	SE54031	47.0	36.0	1.2	スギ	板目	木口ノゾで切削
1316	032-01	丹戸材 (木造)	6	チ-12	SE56003	38.0	13.2	2.6	スギ	板目	木口ノゾで切削
1317	032-02	丹戸材 (木造)	6	チ-12	SE56003	60.2	6.5	4.2	スギ	追跡	エラフリ
1318	006-02	丹戸材 (木造)	6	チ-12	SE56003	30.7	21.5	2.3	スギ	板目	縫合
1319	006-01	丹戸材 (木造)	6	チ-12	SE56003	48.2	23.9	3.9	スギ	板目	縫合
1320	004-01	丹戸材 (木造)	6	チ-12	SE56003	39.2	23.8	2.9	スギ	板目	縫合
1321	009-01	丹戸材 (木造)	6	チ-12	SE56003	49.8	5.9	2.8	スギ	追跡	穴込、エラフリ
1322	018-01	丹戸材 (木造)	6	チ-12	SE56003	105.2	23.5	2.5	スギ	板目	縫合
1323	006-02	丹戸材 (木造)	6	チ-12	SE56003	48.5	18.3	3.5	スギ	板目	縫合
1324	019-03	丹戸材 (木造)	6	チ-12	SE56003	45.3	23.7	3.0	スギ	板目	縫合

No	実物番号	基盤	調査区	地区	遺構	平面・cm			幅	本数	特記事項 (加工品・既存)
						直	横	高			
1225	020-02	角柱筒瓦	0	ア-203	SE00013 計上用	40.3	9.5	8.6	1.6m	傾斜	タガの破片、木筋(?)
1229	042-01	角柱筒瓦	0	ア-117	SE00014 計上用	35.0	13.0	1.8	1.7m	傾斜	タガの破片、木筋(?)等
1327	200-01	角柱筒瓦	0	ア-117	SE00011 計上用	35.0	—	1.8	アシナガ瓦	傾斜	内側面に角柱筒瓦跡、平面形(?)等
1328	042-02	瓦戸付 (土窓)	0	ア-123	SE00008 計上用	38.4	10.0	8.9	1.7m	傾斜	瓦戸

③石製品

No	実物 番号	基盤	調査区	地区	遺構・層位	平面・cm			石材	幅	特記事項
						直	横	厚			
46	519-05	砾石	1	ア-013	SE01025	9.9	7.3	4.9	花崗岩	230.0g、傾斜、2.0m 丸太石長手に調節溝跡の可能性あり	
61	518-06	砾石	1	ア-118	SE01017	11.2	4.7	6.0	砂岩	325.2g、2.0m	
100	071-01	大型石臼等?	2	ア-914	SE01019	8.9	6.0	1.1	砂岩片岩	97.2g、傾斜の傾片	
103	074-04	砾石	2	ア-015-18	SE00012上層	9.1	7.2	1.8	砂岩	130.4g、2.0	
311	101-05	骨瓦	3	ア-015	SE00011(解剖) 瓦色	2.6	0.3	—	緑片岩	0.9g	
476	140-04	砾石	6	ア-724	SE00007	10.2	8.1	1.8	砂岩	467.8g、2.0m、比表面	
608	615-02	砾石	8	ア-615-16	SE01026	9.7	2.2	4.4	砂岩	126.7g	
620	137-06	砾石	7	ア-012	SE00002	10.2	8.9	7.9	砂岩	363.5g、2.0m	
902	238-02	砾石	9	L	SE00016	11.8	7.5	4.6	砂岩	280g、2.0m、黒質	
1134	223-08	砾石	7	ア-722	F118	6.7	4.0	3.1	緑片岩	135.4g、2.0m、白色、使用歴歴跡あり	
1628	601-03	石礫	1	ア-013	SE01040 (SE0012)瓦色(?)	2.5	1.3	0.9	サクナイト	1.5g、有機物痕跡	
1629	601-02	砾石	1	ア-013	SE01040 (SE0012)瓦色(?)	2.4	1.6	0.2	チートーン	1.5g、透明白度高く黒いがかる 斑状化の可能性あり	
1627	611-01	砾石等?	1	ア-013	SE01040 (SE0012)瓦色(?)	11.7	6.1	4.6	花崗岩	471.7g 比較的均一な形状もみ	
1628	615-03	砾石	1	ア-013	SE01040 (SE0012)瓦色(?)	8.5	6.0	4.4	砂岩	330.7g、傾斜	
1629	620-01	砾石	1	ア-012	SE01040 (SE0012)瓦色(?)	8.9	6.0	4.6	砂岩	286.7g、傾斜 底面に少しでも使用	
1630	288-01	砾石	1	ア-14	合造層	8.9	6.4	3.1	砂岩	90.4g	
1631	409-01	火打石繩	1	ア-115	波瀬色(?)	8.0	7.2	1.8	砂岩	125.8g	
1632	429-03	石礫	1	ア-013	SE01020	1.8	1.8	0.4	サクナイト	0.8g、2.0m	
1633	524-05	引目石繩	1	ア-011	SE01006	2.2	1.7	0.9	緑片岩片岩	1.7g	
1634	609-04	砾石	6	ア-917	F1101	12.3	8.7	4.8	砂岩	795.5g	
1636	617-04	砾石	6	ア-724-25	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	8.6	9.1	4.9	砂岩生れ (SE0012)瓦色(?)	485.4g 調査生れとしても使用	
1636	614-06	砾石	6	ア-720	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	9.9	6.3	2.6	砂岩	33.1g	
1637	632-02	砾石	6	ア-720	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	9.3	7.0	5.6	砂岩	500.4g	
1638	607-02	砾石	6	ア-724	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	12.3	6.2	2.6	緑片岩片岩	220.8g	
1639	614-04	砾	6	ア-014	SE01008	3.3	5.1	0.9	サクナイト	18.4g、傾斜	
1640	607-03	火打石繩	0	ア-125	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	6.7	4.6	1.8	砂岩	45.8g	
1641	618-03	引火石繩	0	ア-125	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	9.7	5.3	1.8	埋造片岩	68.7g	
1642	608-02	引火石繩	0	ア-925	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	6.1	6.6	0.8	砂岩	25.5g	
1643	617-02	引火石繩	0	ア-724	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	9.1	5.9	1.6	砂岩	77.7g	
1644	626-03	引火石繩	0	ア-125	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	7.8	5.6	1.8	砂岩	115.4g	
1645	618-02	引火石繩	0	ア-125	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	7.9	6.2	1.6	緑片岩片岩	95.3g	
1646	620-03	引火石繩	0	ア-125	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	7.4	9.2	2.2	緑片岩片岩	154.7g	
1647	629-01	引火石繩	0	ア-724-25	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	8.2	8.6	2.8	砂岩	245.4g	
1648	618-04	引火石繩	0	ア-125	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	9.4	7.4	2.0	砂岩	233.7g	
1649	619-03	引火石繩	0	ア-724-25	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	6.0	5.2	1.8	埋造片岩	73.3g	
1650	618-01	引火石繩	0	ア-125	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	7.6	5.7	2.0	泥鰌岩	88.8g	
1651	601-05	引火石繩	0	ア-724-25	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	7.4	9.9	2.9	砂岩	83.4g	
1652	607-04	土器片岩	0	ア-125	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	7.6	3.5	0.8	サクナイト	47.4g	
1653	613-01	砾石	0	ア-014	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	22.7	15.9	4.6	砂岩	2.3kg、粗粒	
1654	606-01	石基	0	ア-724	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	20.9	17.3	5.2	泥鰌岩	2.0kg	
1655	604-01	石基	0	ア-925	埋蔵面(?) —波瀬色(?)	22.1	15.2	4.9	砂岩	2.0kg	
1656	619-01	石繩	0	ア-724-25	波瀬色(?)	1.9	1.6	0.4	サクナイト	1.1g、粗粒部分	
1657	602-02	石繩	0	ア-125	波瀬色(?)	1.7	1.3	0.2	サクナイト	0.8g、粗粒	
1658	614-02	石繩	0	ア-014	波瀬色(?)	4.0	1.1	0.6	サクナイト	4.1g、粗粒	
1659	601-01	砾石	0	ア-724	波瀬色(?)	8.7	2.5	0.6	サクナイト	0.7g	
1660	610-02	砾石	0	ア-925-02	波瀬色(?)	3.0	2.0	0.2	サクナイト	2.1g	
1661	626-04	砾石	0	ア-014	波瀬色(?)	2.3	2.0	1.6	サクナイト	11.2g、粗粒部分	
1662	620-04	砾石	0	ア-014	波瀬色(?)	0.9	0.5	2.9	サクナイト	15.1g、傾斜地盤	
1663	625-02	埋造石基	0	ア-128	波瀬色(?)	8.5	5.5	0.9	埋造基材岩	81.8g	
1664	625-01	引目石繩	0	ア-014	波瀬色(?)	5.1	2.3	1.8	砂岩	40.4g	
1665	604-02	引火石繩	0	ア-925	波瀬色(?)	7.1	4.3	2.4	砂岩	130.5g	
1666	617-01	引火石繩	0	ア-724-17	波瀬色(?)	7.2	5.0	3.4	泥鰌岩	130.7g	
1667	602-05	引火石繩	0	ア-925-02	波瀬色(?)	8.4	5.3	2.4	埋造片岩	160.4g	
1668	602-05	引火石繩	0	ア-925-02	波瀬色(?)	8.5	6.3	2.8	砂岩	140.5g	

NO	実施場所	管理	調査区	地区	地盤・位置	寸法(cm)			石材	特記事項
						高さ	幅	厚さ		
1608	600-01	打丸木樁	6	-100~45m	汎用白色(4)	0.7	0.1	1.2	45kg	30.7g, 破損
1679	825-01	打丸木樁	6	-100~45m	汎用白色(4)	0.9	0.2	1.6	45kg	40.4g
1671	826-02	打丸木樁	6	-100m	汎用白色(4)	0.4	0.2	1.6	45kg	32.1g
1672	826-01	打丸木樁	6	-100m	汎用白色(4)	0.3	0.0	1.4	45kg	26.8g
1673	609-02	打丸木樁	6	平-017	汎用白色(4)	0.3	0.1	2.2	45kg	17.8g
1674	826-02	樋柱	6	-100~45m	汎用白色(4)	15.0	0.9	0.9	45kg	72.4g, 鋼筋入り, L型も使用
1675	821-01	樋柱	6	-100m	汎用白色(4)	12.3	0.9	0.9	45kg	67.2g, 鋼筋入り, L型も使用
1676	814-01	樋柱	6	-100~45m	汎用白色(4)	10.4	0.9	0.9	45kg	58.6g
1677	801-01	樋柱	6	-100m付近	汎用白色(4)	7.0	0.2	4.0	45kg	35.4g, 小口
1678	602-01	樋柱	6	-20~45m	汎用白色(4)	0.8	0.7	2.3	45kg	11.5g
1679	819-01	樋柱	6	-100~45m	汎用白色(4)	0.5	0.7	1.4	45kg	18.4g, 製造年:1/2020
1680	827-02	樋柱	6	-100m	汎用白色(4)	7.8	0.2	—	45kg	65.7g, 鋼筋入り, L型も使用
1681	609-01	樋柱	6	平-014	汎用白色(4)	0.9	0.9	0.9	45kg	48.4g, 小口
1682	817-03	石積手	6	-100m	汎用白色(4)	0.8	0.2	4.0	45kg	35.4g, 小口
1683	829-02	石積手	6	-100m	汎用白色(4)	0.6	0.9	0.9	45kg	12.8g, 小口
1684	825-01	樋柱	6	平-017	汎用白色(4)	12.9	0.9	0.9	45kg	59.4g, 製造年:1/2020
1685	827-01	石積手	6	-100m	汎用白色(4)	12.5	0.1	0.2	45kg	1.3kg, 製造年:1/2020
1686	823-01	石積手	6	-100m	汎用白色(4)	13.0	0.9	0.9	45kg	2.8kg
1687	815-01	石積手	6	-100m	汎用白色(4)	13.0	0.9	0.9	45kg	19.0g
1688	911-02	石積手	6	-100~45m	汎用白色(4)	17.9	0.1	0.9	花崗岩	1.9kg
1689	826-01	石積手	6	-100m	汎用白色(4)	30.7	0.9	0.9	花崗岩	9.3kg, 小口
1690	818-01	石積手	6	-100m	汎用白色(4)	22.1	0.9	0.9	花崗岩	3.1kg
1691	824-01	石積手	6	-100m	汎用白色(4)	28.3	0.1	0.9	花崗岩	5.9kg
1692	822-01	石積手	6	灰	汎用白色(4)	26.8	0.9	0.9	花崗岩	4.7kg
1693	602-01	石積手	6	平-124	SH60208	3.1	0.2	0.2	ナメカワト	0.4kg, 黒色
1694	603-01	石積手	6	平-021	PL119	0.3	0.2	0.2	ナメカワト	0.4kg, 黒色
1695	913-01	石	6	平-120	SH60402	7.2	0.9	0.2	特別	0.6kg, 磨光面
1696	829-02	打丸木樁	6	平-121	SH60408	0.1	0.2	0.6	特別	0.9kg
1697	601-02	打丸木樁	6	-100~45m	SH60408	0.1	0.9	1.2	瓦砾	22.8g
1698	607-01	打丸木樁	6	土	SH60408	0.8	0.2	1.6	45kg	40.4g
1699	828-01	打丸木樁	6	-100~45m	SH60407	0.5	0.9	1.6	45kg	40.4g, 破損
1700	819-01	打丸木樁	6	土	SH60407	7.8	0.8	2.4	モードル	116.7g
1701	814-01	打丸木樁	6	-100~45m	SH60407上層	7.0	0.7	2.4	花崗岩	105.3g
1702	602-01	樋柱	6	土	SH60407上層	11.2	0.1	4.2	45kg	405.7g
1703	811-01	樋柱	6	土	SH60407上層	12.7	0.1	4.2	45kg	398.1g
1704	832-01	樋柱	6	平-0114	SH60403	0.3	0.9	0.4	45kg	108.2g
1705	819-01	樋柱	6	土	SH60403	0.8	0.5	0.6	45kg	209.1g, 小口
1706	607-01	樋柱	6	土	SH60403	1.9	0.1	2.8	45kg	打丸木樁に類似
1707	811-01	石積手	6	平-127+18	SH60501上層	20.5	0.1	1.8	花崗岩	1.9kg
1708	812-01	石積手	6	平-123	SH60501上層	22.4	0.5	2.8	花崗岩	4.3kg
1709	810-01	石積手	6	平-124	SH60501上層	20.0	0.9	0.9	花崗岩	0.5kg
1710	601-01	石	7-1	SH-009	SH60501上層	2.8	0.1	0.8	ナメカワト	2.7g, 有葉
1711	818-01	打丸木樁	7	平-13	SH60501上層	3.1	0.9	1.0	45kg	27.3g
1712	604-01	樋柱	7	土	SH60501上層	10.1	0.9	0.2	45kg	405.1g
1713	820-01	樋柱	7	土	SH60501上層	12.6	0.2	0.2	45kg	963.1g

④金属製品

NO	実施場所	管理	調査区	地区	地盤・位置	寸法(cm)			重量(kg)	特記事項
						高さ	幅	厚さ		
99	836-01	鍵製品 (錠前・錠室内)	1	平-A12	SH61043	90.4	-	0.2	1. kg	北米鈑(100kgの範囲)
101	836-008	鍵製品 (錠内)	3	平-A19	SH63001	10.9	0.9	0.5	1.5kg	
102	836-10	鍵製品	3	平-A18	SH63001下層	9.2	0.8	0.8	6.4kg	
107	826-01	鍵製品 (錠内)	3	平-A14	SH63002下層	10.7	-	0.2	18. kg	
112	633-01	鍵製品 (錠内)	3	平-V11	SH63003上層	10.1	-	0.7	191. kg	北米 鍵(北米及上層部)
113	634-01	鍵製品 (錠内及上層部)	3	平-V11	SH63003上層	10.7	-	0.7	26. kg	外壁 外壁(一階部)
201	836-11	鍵製品	3	平-A17	SH63004上層	3.1	0.4	0.8	0.1kg	
202	836-11	鍵製品	3	平-A17	SH63004下層	2.4	0.9	0.8	1. kg	
207	836-07	鍵製品 (子)	7	平-L18	SH63041-PW01 (ワイヤー) (ワイヤー)	3.3	0.2	0.4	0.4kg	
1177	836-15	鍵製品	3	平-A7	P116	2.7	1.0	0.9	0.7kg	
1187	836-09	鍵製品	2	土	鍵柱	0.6	0.6	0.4	25. kg	
1207	836-13	鍵製品	4	田舎作土	4.2	1.4	0.6	6.3kg		
1221	836-12	鍵製品	2	田舎作土	0.1	0.0	0.6	2.4kg		
1229	242-006	鍵製品 (錠前・錠内)	6	G-024	オーバーホール (錠内)	92.4	-	0.2	2.4kg	
1230	836-001	鍵製品 (錠内)	9	80-34	台面	6.2	1.3	0.4	0.1kg	

V 自然科学分析

1. 分析の種類と対象

第5次調査に関して実施した自然科学分析は次項（1）～（3）の3つである。分析の委託先と内容は以下のとおり。

・株式会社パレオ・ラボ

放射性炭素年代測定（AMS法）、火山灰分析、花粉分析・珪藻分析・植物珪酸体分析

・パリノ・サー・ヴェイ株式会社

木製品の樹種同定

（1）C 14 年代測定

6区縄文遺構や1区・5区の古土壤から得られた炭化材により、遺構や土層の放射性炭素年代を明らかにし、遺跡形成過程を知るための材料を得る。

6区縄文遺構は、層位的に古く、中期中葉頃の土器片が出土したSK 56060とし、1区は遺物を多く含む古土壤、5区は基本層VI層（砂礫層）直上の可能性のある古土壤（暗色帶）を選定した。結論を記すと、SK 56060は中期中葉頃、1区古土壤も中期の年代を示したが、5区古土壤では、より上位の包含遺物の年代観よりも新しい年代値が得られ、層序認識に課題を残す結果となった（第III章7節）。

（2）土壤分析（火山灰、花粉・珪藻・植物珪酸体）

土壤分析は複数の遺構で実施した。

・縄文時代の古環境と黒ボク土生成（3区）

3区では、基盤層中に黒ボク土由来するとみられる黒色土が確認された。県内の黒ボク土は、度会郡大紀町野添大辻遺跡などの分析結果から、K-Ahなどの広域火山灰を層中に含むことや、草原環境下や人工的な火入れにより生成されることがわかっている。K-Ahを中心にして火山灰の検出を試みるとともに、微化石の分析を行った。

・古墳時代前後の環境

S D 52004を対象に、古代の条里施工前の環境に関するデータを得る。

・青銅鏡出土流路（S D 53002）周辺の環境変遷

遺跡南東部（3区）、弥生時代～中世の遺物を含

む流路である。流路機能～廃絶時の古環境に関する資料を得ることを目的とした。微化石の遺存状況は不良であり、環境変遷にかかる具体的なデータは得られなかったが、埋没による水文環境の変化について間接的に知ることができ、青銅鏡出土の背景を探るためのデータが得られた。

・井戸機能～廃絶時（S E 51028）の環境

遺跡東部（1区）、8世紀末～9世紀前半の井戸埋土を対象に微化石の分析を行った。

・縄文時代の環境変遷（1区・6区）

1区および6区埋積浅谷周辺の堆積土を対象として、微化石の分析を行った。微化石の遺存状況は不良であり、環境変遷にかかる具体的なデータは得られなかったが、全体として好気的な環境下にあり、埋積と土壤化が併行して進行する状況が、間接的に明らかになった。

（3）木製品の樹種同定

樹種同定は、井戸枠材を中心とする報告遺物を対象とし、木材利用や植生に関する資料を得た。樹種同定結果は遺物観察表（第4表）に記載した。

（櫻井）

2. C 14 年代測定・土壤分析

株式会社パレオ・ラボ

本報告では、調査区の基盤層を主体とする堆積層と流路埋積層の層序・年代および古環境復元を目的として行われた自然科学分析の結果を示す。分析項目は、花粉分析・珪藻分析・植物珪酸体分析の微化石分析、放射性炭素年代測定（AMS法）、火山灰分析である。なお、朝見遺跡（第7次）調査区で検出された堆積土器内の堆積物のリン・カルシウム分析の比較検討用の試料として、6区北壁で採取した基盤層の堆積物（試料33）が採取されたが、その分析結果は、朝見遺跡（第7次）の報告書において示す。

分析試料の一覧を第5表に示す。試料の詳細は、各分析の報告において適宜述べる。

第5表 分析試料一覧

試料No.	種別	調査区・遺構・層位	分析項目と点数				
			AMS	花粉	珪藻	植物 珪酸体	火山灰
1	炭化材	6区? - M23 SK56060	1				
2	炭化材	1-4区北 西壁9層	1				
3	炭化材	5区E-C12東壁49層	1				
4	炭化材	5区E-C12東壁47層	1				
5	堆積物	3区南壁20層 (SD53002)		1	1	1	
6	堆積物	3区南壁17層 (SD53002)		1	1	1	
7	堆積物	3区南壁24層 (SD53002)		1	1	1	
8	堆積物	3区南壁26層 (SD53002)		1	1	1	
9	堆積物	3区南壁8層上位		1	1	1	1
10	堆積物	3区南壁8層中位		1	1	1	1
11	堆積物	3区南壁8層下位		1	1	1	1
12	堆積物	3区南壁9層		1	1	1	1
13	堆積物	3区南壁9層		1	1	1	1
14	堆積物	1-4区西壁5層		1	1	1	
15	堆積物	1-4区西壁6層		1	1	1	
16	堆積物	1-4区西壁7層		1	1	1	
17	堆積物	1-4区西壁8層		1	1	1	
18	堆積物	1-4区西壁9層		1	1	1	
19	堆積物	1-4区西壁10層		1	1	1	
20	堆積物	1-4区西壁11層		1	1	1	
21	堆積物	1-4区西壁12層		1	1	1	
22	堆積物	1-4区西壁13層		1	1	1	
23	堆積物	6区北壁東6層		1	1	1	
24	堆積物	6区北壁東7層		1	1	1	
25	堆積物	6区北壁東8層		1	1	1	
26	堆積物	6区北壁東9層		1	1	1	
27	堆積物	6区北壁東11層		1	1	1	
28	堆積物	6区北壁東12層		1	1	1	
29	堆積物	6区北壁東13層		1	1	1	
30	堆積物	6区北壁東14層		1	1	1	
31	堆積物	6区北壁西6層		1	1	1	
32	堆積物	6区北壁西7層		1	1	1	
33	堆積物	6区北壁西8層		1	1	1	
34	堆積物	6区北壁西10層		1	1	1	
35	堆積物	6区北壁西15層		1	1	1	
36	堆積物	6区卜-L1 埋積浅谷4層		1	1	1	
37	堆積物	6区卜-L1 埋積浅谷6層		1	1	1	
38	堆積物	6区卜-L1 埋積浅谷7層		1	1	1	
39	堆積物	2区 SD52004 2層		1	1	1	
40	堆積物	2区 SD52004 4層		1	1	1	
41	堆積物	2区 SD52004 5層		1	1	1	
42	堆積物	2区 SD52004 8層		1	1	1	
43	堆積物	2区 SD52004 10層		1	1	1	
44	堆積物	1区 SE51028 井戸枠内		1	1	1	

第6表 年代測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-36775	調査区：6区_テ-M23 遺構：SK56060 試料No. 1	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外部位不明 状態：dry	混合物除去 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2%， 水酸化ナトリウム：1.0%，塩酸： 1.2N）
PLD-36776	調査区：1-4区北 層位：西壁 9層（黒褐色シルト） 試料No. 2	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外部位不明 状態：dry	混合物除去 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2%， 水酸化ナトリウム：1.0%，塩酸： 1.2N）
PLD-36777	調査区：5区_E-C12 層位：東壁49層 試料No. 3	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外部位不明 状態：dry	混合物除去 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2%， 水酸化ナトリウム：1.0%，塩酸： 1.2N）
PLD-36778	調査区：5区_E-C12 層位：東壁47層 試料No. 4	種類：炭化材 試料の性状：最終形成年輪以外部位不明 状態：dry	混合物除去 有機溶剤処理：アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2%， 水酸化ナトリウム：1.0%，塩酸： 1.2N） 処理備考：土混じり、状態悪い

第7表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正 用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1σ 暦年代範囲	2σ 暦年代範囲
PLD-36775 試料No. 1	-25.12 \pm 0.27	4176 \pm 25	4175 \pm 25	2876-2859 cal BC (12.2%) 2809-2752 cal BC (41.5%) 2722-2701 cal BC (14.5%)	2883-2836 cal BC (20.3%) 2816-2671 cal BC (75.1%)
PLD-36776 試料No. 2	-27.34 \pm 0.14	4107 \pm 23	4105 \pm 25	2848-2813 cal BC (19.0%) 2692-2690 cal BC (0.9%) 2679-2618 cal BC (37.2%) 2609-2583 cal BC (11.1%)	2859-2809 cal BC (24.0%) 2752-2721 cal BC (9.3%) 2702-2577 cal BC (62.1%)
PLD-36777 試料No. 3	-23.88 \pm 0.14	3438 \pm 23	3440 \pm 25	1876-1841 cal BC (11.6%) 1820-1797 cal BC (4.2%) 1781-1682 cal BC (78.8%) 1674-1666 cal BC (0.8%)	
PLD-36778 試料No. 4	-24.24 \pm 0.13	3449 \pm 23	3450 \pm 25	1867-1849 cal BC (12.4%) 1774-1736 cal BC (36.3%) 1716-1695 cal BC (19.5%)	1877-1840 cal BC (19.1%) 1823-1796 cal BC (8.6%) 1782-1690 cal BC (67.7%)

(1) C 14 年代測定 (AMS 法)

①方法

測定試料の情報、調製データは第6表のとおりである。また、炭化材の試料写真を第151図に示す。試料は調製後、加速器質量分析計（バレオ・ラボ、コンパクト AMS:NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

②結果

第7表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、第152図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸

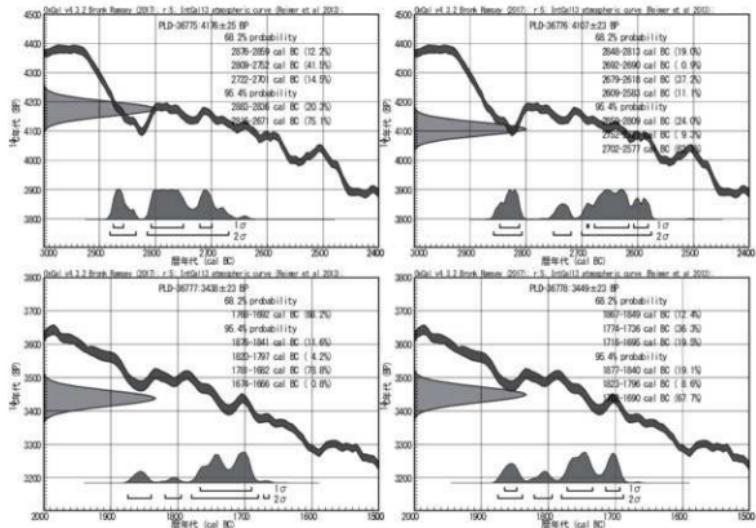
めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うため記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2% であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、および半減期の違い (^{14}C の半減期 5730



第151図 年代測定試料の写真



第152図 歴年較正結果

± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の曆年較正には OxCal4.3 (較正曲線データ:IntCal13) を使用した。なお、1 σ 曆年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の曆年代範囲であり、同様に 2 σ 曆年代範囲は 95.4% 信頼限界の曆年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に曆年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は曆年較正曲線を示す。

③ 考察

幡中 (2012) による繩文土器編年と放射性炭素年代値の検討結果にもとづくと、今回得られた曆年代は、試料 No. 1 が繩文時代中期後半（船元IV式と里木II式）、試料 No. 2 が繩文時代中期後半（船元IV式と里木II式）から中期末（北白川C式）、試料 No. 3 と No. 4 が繩文時代後期前葉（北白川上層式3期）に対比される。

ただし、木材の場合、最終形成年輪部分を測定すると枯死もしくは伐採年代が得られるが、内側の年輪を測定すると、最終形成年輪から内側であるほど古い年代が得られる（古木効果）。今回の試料は、すべて最終形成年輪を欠く部位不明の炭化材である。したがって、測定結果は古木効果の影響を受けている可能性があり、その場合、木が実際に枯死もしくは伐採されたのは測定結果よりも新しい年代であったと考えられる。

（バレオ・ラボ AMS 年代測定グループ（伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtadze・辻 康男）

（2）火山灰分析

① 方法

分析試料は、3 区南壁 7 層～9 層から採取された 5 点である（第 8 図）。

試料は、粒度分析を行って細い分けした 4 タン（0.063mm）筒残渣を使用した。各試料を、恒温乾燥機 105 度、24 時間で乾燥して含水率を求めた。

4 タン筒残渣について、重液（テトラブロモエタン、比重 2.96）を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。

軽鉱物については、水浸の簡易プレパラートを作製し、軽鉱物組成と火山ガラスの形態分類を行った。

火山ガラスの形態は、町田・新井（2003）の分類基準に従って、バブル型平板状（b1）、バブル型 Y 字状（b2）、軽石型纖維状（p1）、軽石型スponジ状（p2）、急冷破碎型フレーク状（c1）、急冷破碎型塊状（c2）に分類した。また、重鉱物については、封入剝レーザサイドセメントを用いてプレパラートを作製し、斜方輝石（Opx）、單斜輝石（Opx）、角閃石（Ifo）、ジルコン（Zr）、磁鐵鉱（Mg）を同定・計数した。今回の分析試料で確認できた重軽鉱物と火山ガラスの写真を写真 3 に示し、同定の根拠とする。

また、試料 No. 9～11 の 4 タン筒残渣中の火山ガラスについては、横山ほか（1986）に従い、温度変化型屈折率測定装置（MA10T 2000：（株）古澤地質製）を用いて屈折率測定を行った。

② 結果

以下に、鉱物組成、火山ガラスの形態分類の特徴、火山ガラスの屈折率測定結果について述べる。

試料は、7 層が灰黄褐色の土壤質シルト、8 層が黒色～暗褐色の土壤、9 層がぶい黄褐色のシルト質粘土である。

含水率は、13.69～33.72% であり、8 層中位が最も高い。重液分離では、いずれも軽鉱物の割合が高い（第 9 表）。

火山ガラスは全体的に少ないが、8 層中位において、バブル型平板状ガラス（b1）とバブル型 Y 字状ガラス（b2）がやや多く含まれていた。重鉱物は、全体的に角閃石が多く、斜方輝石や單斜輝石は極端に少ない。8 層中位においては、斜方輝石や單斜輝石がやや多かった（第 10 表）。

火山ガラスの屈折率測定では、8 層上位の火山ガラスが範囲 1.5057～1.5116（平均 1.5083）、8 層中位が範囲 1.5058～1.5116（平均 1.5086）、8 層下位が範囲 1.5061～1.5114（平均 1.5088）であった（第 153 図）。

③ 考察

8 層中に含まれる火山ガラスは、ガラスの形態および屈折率（範囲 1.5057～1.5116）から、鬼界アカホヤテフラ（K-Ah）と同定される。なお、火山ガラスが少ない点や、斜方輝石や單斜輝石が極端に少ない点から、一次的なテフラ層ではない可能性が考えられる。

鬼界アカホヤテフラ（K-Ah）は、南九州鬼界カル

デラから約7,300年前に噴出した降下軽石、火碎流堆積物とその降下火山灰をさす。このテフラは、輝石デイサイト質のガラス質テフラで、部層により大差なく、ほぼ均質である。バブル型の多い火山ガラスは、姶良Tnテフラ(AT)の火山ガラスと比べると、薄手で淡褐色を帯びるものがあり、屈折率もかなり高く、広いレンジをもつ($n = 1.508 - 1.516$)。もつとも、完全には水和していないガラスの縫目など、

ガラスの厚い部分の屈折率は低く、1.500前後まである(町田・新井2003)。(藤根・久・鈴木正章)

(3) 微化石分析(珪藻・花粉・植物珪酸体)

①方法

a) 硅藻分析

各試料について以下の処理を行い、硅藻分析用プレパラートを作製した。

・ 湿潤重量約1.0gを取り出し、秤量した後ビー

第8表 火山灰分析試料とその特徴

試料No.	位置	層位	堆積物の色調		箇分けによる	
			7層	灰黄褐色(10YR 4/2) 土壌質シルト		
3区南壁	8層上位	黑色(7.5YR 2/1) 土壤、明黃褐色シルト塊混じる				
		8層中位		黑色(7.5YR 1.7/1) 土壤		
	8層下位	暗褐色(10YR 3/3) 土壤		max. 5mm疊含む		
		9層		にぶい黄褐色(10YR 6/4) シルト質粘土、1mm以下白色粒子混じる		

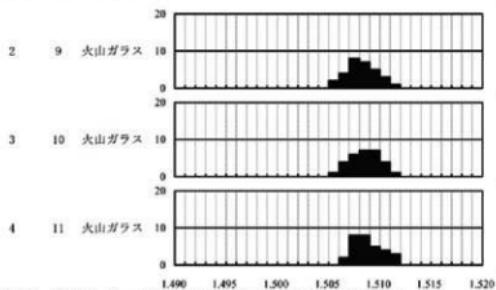
第9表 テフラ試料の湿式箇分け・重液分離の結果

試料No.	処理湿重(g)	含水率(%)	乾燥重量(g)	砂粒分の粒度組成(重量g)				鉱・重鉱物組成(重量g)		
				1φ	2φ	3φ	4φ	1φ	2φ	
12	34.55	17.40	28.54	0.66	0.70	15.85	1.98	0.31	0.02	
9	34.02	21.78	26.61	0.15	0.33	0.39	0.58	0.21	0.02	
10	31.71	33.72	21.02	0.40	0.55	0.53	0.57	0.19	0.01	
11	32.49	26.71	23.81	0.67	1.04	1.05	0.94	0.29	0.02	
13	35.68	13.69	30.80	2.11	1.69	1.62	1.38	0.32	0.03	

第10表 4φ箇分け残渣中の鉱物組成

分析群	試料No.	石英 (Qz)	長石 (Pl)	雲母類 (M)	不明 (Op)	火山ガラス			ガラス 合計	重鉱物				重鉱物 の合計			
						バブル (%v/v)		急冷 破砕型		重鉱物							
						平板状 (bt)	T字状 (bz)	フレーク状 (el)		斜方 矽石 (Op)	榍石 (Ps)	角閃 石 (Hs)	ジル コン (Zr)	磁鐵 石 (Mg)			
1	12	3	30	23	296	1	1	2	344	3	174	2	3	61	243		
2	9	13	51	3	290	4	2	3	7	334	7	2	155	3	24	56	245
3	10	19	49	5	251	5	6	11	335	11	6	160	2	13	48	240	
4	11	14	20	6	298	4	2	6	333	2	186	1	10	36	235		
5	13	6	27	7	303			0	343	1	178	2	12	44	241		

分析No. 試料No. 測定対象



	範囲(range)	平均(mean)	個数
2	1.5057 - 1.5116	1.5083	30
3	1.5058 - 1.5116	1.5086	30
4	1.5061 - 1.5114	1.5088	30

第153図 分析No. 2～No. 4の火山ガラスの屈折率測定結果

カーに移して30%過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。・反応終了後、水を加え、1時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を20回ほど繰り返した。

・懸濁残渣を遠心管に回収し、マイクロビペットで適量取り、カバーガラスに滴下し、乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入し、プレパラートを作製した。

作製したプレパラートを顕微鏡下600～1000倍で観察し、プレパラートの2/3以上の面積について同定・計数した。顕微鏡は、三眼生物顕微鏡(BX43(珪藻)：オリンパス製)を使用した。珪藻殻は、完形と非完形(原則として半分程度残っている殻)に分けて計数し、完形殻の出現率として示した。さらに、試料の処理重量とプレパラート上の計数面積から堆積物1g当たりの殻数を計算した。また、保存状態の良好な珪藻化石を選び、写真4に載せた。

b) 花粉分析

試料(湿重量約3～4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え、1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、統いてアセトトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣をグリセリンを滴下し、保存用とする。この残渣より適宜プレパラートを作製し、全面を検鏡した。顕微鏡は、三眼生物顕微鏡(BH-2(花粉)：オリンパス製)を使用した。また、保存状態の良好な花粉化石を選び、写真5に載せた。

c) 植物珪酸体分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトールピーカーにより、約0.02gのガラスピーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20～30cc加え、脱水処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラート

を作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについて、ガラスピーズが300個に達するまで行った。また、植物珪酸体の写真を撮り、写真6に載せた。

②結果

a) 珪藻分析

珪藻化石の環境指標種群 珪藻化石の環境指標種群は、主に小杉(1988)および安藤(1990)が設定し、千葉・澤井(2014)により再検討された環境指標種群に基づいた(第11表)。写真4に珪藻化石を示して同定の根拠とする。同定された種と環境指標群の対応関係を結果表(第12表)に示す。

なお、環境指標種群以外の珪藻種については、海水種は海水不定・不明種(?)、淡水種は広布種(W)、その他の種はまとめて不明種(?)として扱った。また、破片のため属レベルの同定にとどめた分類群は、その種群を不明(?)として扱った。

結果 堆積物から検出された珪藻化石は、海水種が1分類群1属1種、淡水種が47分類群28属31種であった(第12表)。

これらの珪藻化石は、海水域における1環境指標種群(C1)と、淡水域における4環境指標種群(K、O、Qa、Qb)に分類された。珪藻化石群集の特徴からは、試料はI帯とII帯に分帶された(第154図)。

以下では、各珪藻帯における珪藻化石の特徴とその堆積環境について述べる。

・I帯(試料No.44): 1区 S E 51028 井戸枠内

堆積物1g中の珪藻殻数は2.6×105個、完形殻の出現率は59.7%である。主に淡水種からなり、海水種をわずかに伴う。堆積物中の珪藻殻数が多い。環境指標種群では、陸生珪藻A群(Qa)が多く、陸生珪藻B群(Qb)を伴い、中～下流性河川指標種群(K)や海水藻場指標種群(C1)をわずかに伴う。

環境指標種群の特徴から、ジメジメとした陸域環境が推定される。

・II帯(試料No.43～45)

堆積物1g中の珪藻殻数は0個～1.6×103個、完形殻の出現率は0%～100%である。淡水種のみが検出された。堆積物中の珪藻殻数は全く含まれていないか非常に少ない。環境指標種群では、中～下流性河川指標種群(K)、沼沢湿地付着生指標種群(O)、

陸生珪藻 (Qa, Qb) がわずかに検出された。

珪藻化石の残存状況から、基本的に乾燥した陸域環境の可能性が考えられる。

b) 花粉分析

検鏡の結果、十分な量の花粉化石が得られた試料は4試料である。この4試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉30、草本花粉24、形態分類のシダ植物胞子2の総計66である。これらの花粉・シダ植物胞子の一覧を第13表に、花粉分布図を第155図に示した。

花粉分布図では、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を、草本花粉・胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基準とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン (-) で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科やマメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便

宜的に草本花粉に一括して入れてある。

c) 植物珪酸体分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスピーズ個数の比率から試料1g当りの各プラント・オパール個数を求め(第14表)、分布図に示した(第156図)。

検鏡の結果、イネ属機動細胞珪酸体とネザサ節型機動細胞珪酸体、ササ属型機動細胞珪酸体、他のタケアキ属機動細胞珪酸体、ヨシ属機動細胞珪酸体、キビ属機動細胞珪酸体、ウシクサ族機動細胞珪酸体の7種類の機動細胞珪酸体の産出が確認できた。また、イネの初穂で形成される珪酸体の破片(イネ穂片)も確認された。

③ 考察

a) 硅藻分析

調査区の基盤層の縄文時代中期～平安時代以前の堆積層(試料No. 9～38)では、珪藻化石の保

第11表 硅藻化石の環境指標群一覧

【外洋性指標群 (A)】
塩分濃度が3‰以上以上の外洋中に浮遊生活する種群である。
【内海性指標群 (B)】
塩分濃度が0‰～3‰の内海水中に浮遊生活する種群である。
【海水の海藻指標群 (CL)】
塩分濃度が0‰～3‰の海水の海藻や海草(アマなど)に付着生活する種群である。
【海水の質子貯蔵指標群 (D1)】
塩分濃度が1‰～3‰の海水の底泥に付着生活する種群である。この生育場所には、ウミニナ属、キサゴ属、アサリ属、ハマグリ属などの貝類が生活する。
【海水の質子貯蔵指標群 (D2)】
塩分濃度が1‰～3‰の海水の底泥に付着生活する種群である。この生育場所には、イボウミナ主体の貝殻層やカニなどの甲殻層が見られる。
【汽水の質子貯蔵指標群 (C2)】
塩分濃度が0‰～1‰の汽水の底泥や海草に付着生活する種群である。
【汽水の質子貯蔵指標群 (D2)】
塩分濃度0‰～3‰の汽水の底泥(砂の表面や砂粒間に)に付着生活する種群である。
【汽水の質子貯蔵指標群 (E2)】
塩分濃度0‰～1‰の汽水の底泥に付着生活する種群である。汽水の影響により、汽水化した埴地に生活するものである。
【上陸性河川指標群 (F)】
河口や河川の底泥(底泥中に)で出現する種群である。これらは、體全体で前にびたりと垂れ付いて生育しているため、流れによっては運ばれててしまうことがある。
【中～下流性河川指標群 (K)】
河川の中～下流域、すなはち河川ないし河成段丘、階状段丘および自然堤防、後背堤防といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種には、例えはさやで葉茎に付着し、葉を水中に伸ばして生活する種が多い。
【最も下流性河川指標群 (M)】
最下流部の、角川の一部に集中して出現する種群である。これらの種には、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が「三角洲堆積」に入ると底泥が厚くなり、浮遊生の種でも育生できるようになるためである。
【湖沼底生形態指標群 (N)】
水深1m以下、湖沼、底泥に水生植物が見られるが、本底には植物が生育していない湖面に出現する種群である。
【湖沼底生量形態指標群 (O)】
湖面における浮遊生種としても、底泥に水生植物が見られるが、本底には植物が生育していない湖面に出現する可能性が大きい種群である。
【湖沼底生付着形態指標群 (P)】
水深1m内外で、一般に植物が繁殖している所や湖面において、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。
【海底底生指標群 (R)】
尼泊爾原産や中国・韓国などのように、ミズゴケを中心とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。
【陸域底生指標群 (Q)】
上の水底に対して、陸域を生息地として生活している種群である(陸生底生と呼ばれている)。
【陸生生長A群 (Qa)】
根生性の強い特定のグループである。
【陸生生長B群 (Qb)】
地上に伸長し、見た直後や水中にも生育する種群である。

第 12 表-1 堆積物中の珪藻化石産出率(1) 種群は、千葉・澤井(2014)による

第12表-2 堆積物中の珪藻化石産出表② 種群は、千葉・澤井（2014）による

No.	科名	属名	种名	株高												
				15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
1	Coccoidea	Acanthococcus	coquilletti	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
2	Aleyrodoidea	Hemiptera	W													
3	Aleyrodoidea	Hemiptera	K													
4	A.	viridis	W													
5	A.	stroblianus	W													
6	A.	leptophloeus	?													
7	Aleyrodoidea	Myzus	?													
8	Aleyrodoidea	Myzus	capitatus	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
9	A.	capitatus	W													
10	A.	capitatus	coquilletti	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
11	A.	coquilletti	W													
12	Coccoidea	Phenacoccus	W													
13	Coccoidea	Phenacoccus	W													
14	Coccoidea	Phenacoccus	luteorum	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
15	Coccoidea	Phenacoccus	melesiae	W												
16	Coccoidea	Phenacoccus	melesiae	W												
17	Coccoidea	Phenacoccus	angulatus	K	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
18	Coccoidea	Phenacoccus	angulatus	W												
19	Coccoidea	Phenacoccus	confertus	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
20	Coccoidea	Phenacoccus	confertus	W												
21	Coccoidea	Phenacoccus	spissatus	W												
22	Coccoidea	Phenacoccus	spissatus	W												
23	Famidae	Phytomyza	W													
24	F.	Phytomyza	W													
25	Glyciphoridae	Geococcus	acuminatus	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
26	Glyciphoridae	Geococcus	acuminatus	W												
27	Glyciphoridae	Geococcus	parvulum	W												
28	Glyciphoridae	Geococcus	parvulum	W												
29	Hemiptera	Anthrenus	W													
30	Hemiptera	Anthrenus	maculatus	W												
31	Hemiptera	Anthrenus	varians	K	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
32	Hemiptera	Anthrenus	varians	W												
33	Hemiptera	Anthrenus	alpinensis	W												
34	Hemiptera	Anthrenus	alpinensis	W												
35	Hemiptera	Anthrenus	spinosus	W												
36	Hemiptera	Anthrenus	spinosus	W												
37	Hemiptera	Anthrenus	spinosus	W												
38	Hemiptera	Anthrenus	spinosus	W												
39	Hemiptera	Orchesella	W													
40	Hemiptera	Orchesella	coerulea	W												
41	Hemiptera	Pseudococcidae	W													
42	Hemiptera	Pseudococcidae	W													
43	Hemiptera	Pseudococcidae	heterostictum	K	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
44	Hemiptera	Pseudococcidae	heterostictum	W												
45	Sternorrhinae	Sternorrhinae	W													
46	Sternorrhinae	Sternorrhinae	W													
47	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
48	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
49	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
50	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
51	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
52	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
53	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
54	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
55	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
56	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
57	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
58	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
59	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
60	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
61	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
62	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
63	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
64	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
65	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
66	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
67	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
68	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
69	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
70	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
71	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
72	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
73	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
74	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
75	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
76	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
77	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
78	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
79	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
80	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
81	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
82	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
83	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
84	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
85	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
86	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
87	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
88	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
89	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
90	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
91	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
92	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
93	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
94	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
95	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
96	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
97	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
98	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
99	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
100	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
101	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
102	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
103	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
104	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
105	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
106	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
107	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
108	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
109	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
110	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
111	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
112	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
113	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
114	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
115	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
116	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
117	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
118	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
119	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
120	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
121	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
122	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
123	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
124	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
125	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
126	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												
127	Sternorrhinae	Sternorrhinae	spiculata	W												

存状態が非常に不良であった。さらに、SD 53002（試料No. 5～8）でも保存状態が非常に不良であった。このような傾向は、花粉化石も同様である。珪藻化石と花粉化石の保存状態が不良であった要因については、花粉・植物珪酸体分析のところで詳しく述べる。ここでは、珪藻化石の保存状態が相対的に良好であった8～9世紀のSE 51028の井戸枠内の試料No. 44の産状を検討する。

8～9世紀前半のSE 51028の井戸枠内からは、陸生珪藻（Qa, Qb）の他に、中～下流性河川指標種群（K）や海水藻場指標種群（C1）などがわずかに検出された。井戸枠内は、閉鎖された極狭い堆積空間である。したがって、海水種や河川種は、井戸の側壁等などの基盤層からの再堆積とみなされる。

井戸枠内の優占種群は、陸生珪藻（Qa, Qb）である。湧水層に近いと考えられる井戸枠付近の側壁では、ジメジメした状態が維持されていたと推定される。

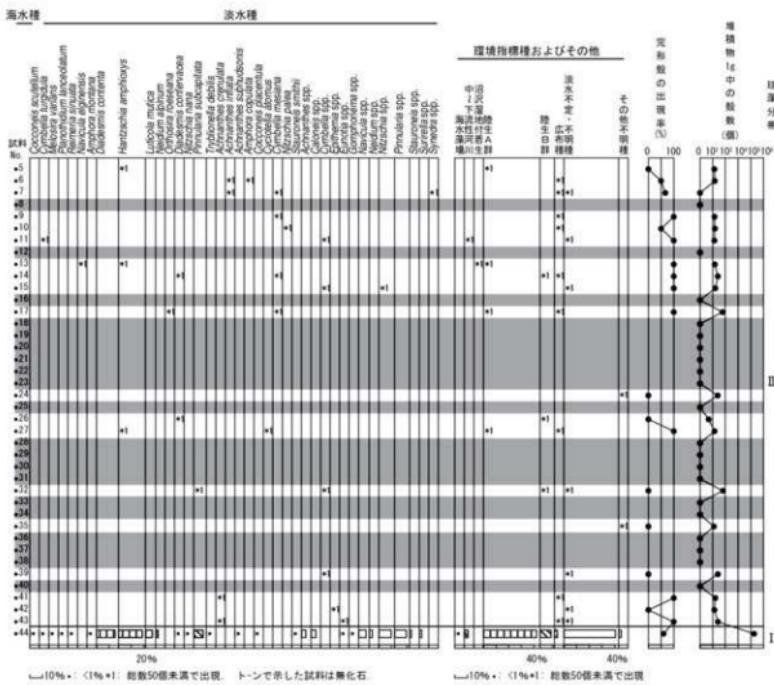
今回産出している陸生珪藻の多くは、この側壁からの堆積と推測される。

b) 花粉・植物珪酸体分析

上記したように、調査区の基盤層の調文時代中期～平安時代以前と、溝SD 53002の堆積層では、花粉化石の保存状態が非常に不良であった。植物珪酸体についても、火山灰分析を行った層準のうち、黒ボク土の様相を示す3区南壁の8層（試料No. 9～11）以外は、基本的に保存状態が不良である。

ここでは、遺構ごとの産状を考察し、その後に調査区の基盤層を含め、遺跡の立地環境との観点から、微化石の産状を検討する。

SD 52004 古墳時代から古代の構埋土であるSD 52004の各層（試料No. 39～43）から産出する樹木花粉を見ると、スギ属やコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、クリ属、シノキ属マ



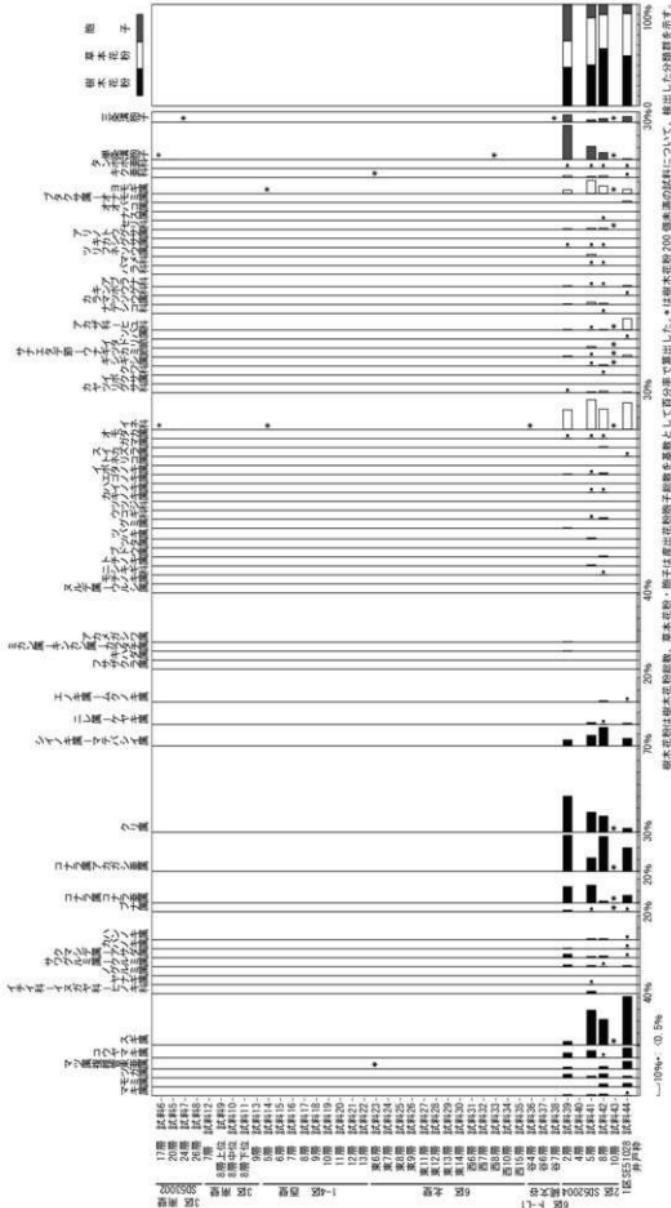
第154図 堆積物中の珪藻化石分布図（主な分類群を表示）

第13表-1 産出花粉孢子一覧表①

学名	和名	試料No.													
		6	5	7	8	12	9	10	11	13	14	15	16	17	18
樹木															
<i>Podocarpus</i>	マキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Abies</i>	モミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Tsuga</i>	ツガ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pinus</i> subgen. <i>Diploxylon</i>	マツ属複管束基属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Sciadopitys</i>	コウヤマキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cryptomeria</i>	スギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Taxaceae—Cephalotaxaceae—Cupressaceae</i>	イチイ科—イヌガヤ科—ヒノキ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Salix</i>	ヤナギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Pterocarya—Juglans</i>	サワグルミ属—クルミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Carpinus—Ostrya</i>	クマシタ属—アサダ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Betula</i>	カバノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fagus</i>	ブナ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Quercus</i> subgen. <i>Lepidobalanus</i>	コナラ属コナラ亜属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Quercus</i> subgen. <i>Cyclobalanopsis</i>	コナラ属アカガシ亜属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Castanea</i>	クリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gastanopea—Pasanaria</i>	シイノキ属—マテバシイ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ulmus—Zelkova</i>	ニレ属—ケヤキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Celtis—Aphananthe</i>	エノキ属—ムノノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Citrus—Fortu. —Ponci.</i>	ミカク属—キンカン属—カラタチ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Mallotus</i>	アカバガシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Celastraceae</i>	ニシキギ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Aesculus</i>	トチノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Vitis</i>	ブドウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Camellia</i>	ツバキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Elaeagnus</i>	グミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Kraliaceae</i>	ウコギ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Symplocos</i>	ハイノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ligustrum</i>	イボタノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Lonicera</i>	スイカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
草本															
<i>Typha</i>	ガマ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Sagittaria</i>	オモダカ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Gramineae</i>	イネ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Cyperaceae</i>	カヤツリグサ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Moraceae</i>	クワ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Rumex</i>	ギシギシ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Polygonum</i> sect. <i>Persicaria</i> — <i>Echinocaulon</i>	サンカクデ属—ナガツカミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Polygonum</i> sect. <i>Reynoutriae</i>	イタドリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Fagopyrum</i>	ソバ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Chenopodiaceae—Amaranthaceae</i>	アカザ科—ヒユ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Caryophyllaceae</i>	ナデシコ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Thlaspiatum</i>	カラマツソウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Ranunculaceae</i>	キンポウゲ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Brassicaceae</i>	アブラナ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Leguminosae</i>	マメ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Iapetina</i>	ツリフネソウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Rotala</i>	キカシグサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Apiales</i>	セリ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Solanum</i>	ナス属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Adonis</i> — <i>Xanthium</i>	ブタクサ属—オナモミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Tubuliflorae</i>	キク属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<i>Liguliflorae</i>	タンボボ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シダ植物															
monolete type spore	単条溝孢子	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
trilete type spore	三条溝孢子	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Arboreal pollen	樹木花粉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Nonarboreal pollen	草本花粉	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
Spores	シダ植物孢子	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Total Pollen & Spores	花粉・孢子総数	4	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-
unknown	不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第13表-2 産出花粉孢子一覧表②

和名	試料No.																									
	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	
樹木																										
マキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	3	-	1	-	
モミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	6	-	-	
ツガ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	3	7	-	3	-	
マツ属裸果木束葉属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	4	-	13	-	
コウヤマキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	12	1	-	17	-	
スギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	59	44	1	84	-	
イチイ科-イスガヤ科-ヒノキ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	
ヤナギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	
サワグルミ属-クルミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	1	-	2	-	
クマシナ属-アサダ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	2	3	-	1	-	
カバノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	
ハンノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	2	-	1	-	
ブナ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	1	-	1	1	-	
コナラ属コナラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	-	30	3	1	13	-	
コナラ属アカシナ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	61	-	23	60	1	41	-	
クリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	-	34	28	3	7	-	
シイノキ属-マタバシイ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	18	32	-	13	-	
ニレ属-ケヤキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	2	-	
エノキ属-ムクニキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	
ミカン属-キンカン属-カラタチ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
アカメガシワ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
ニシキギ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
トチノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
ブドウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
ツバキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	
グミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
ウコギ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	
ハイノキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	
イボタキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	3	-	1	-	
スイカズラ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
草本																										
ガマ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	
オモダカ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1	-	-	-	
イネ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	87	-	126	63	5	95	-	
カヤツリグサ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	5	6	-	3	-	
クワ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	4	-	1	-	
ギンジン属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	1	1	-	1	-	
サンエカデ属-ウナギツカミ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	4	-	-	-	-	
イタドリ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	1	-	41	-	
ソバ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	
アカザ科-ヒユ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	2	1	-	1	-	
ナデシコ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	10	4	-	1	-	
カラマツリウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	6	5	1	1	-	
キンボウゲ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	2	1	-	4	-	
アブラナ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	1	-	
マメ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	
ツリフネソウ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	1	-	-	-	
キカシガサ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	6	5	1	1	-	
セリ科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
ナス属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	
ブタクサ属-オナモキ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-	56	24	1	16	-	
ヨモギ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	10	11	4	20	-	
キク属	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	4	5	-	1	-	
タンポポ属	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	1	-	1	-	
シダ植物																										
単条漢孢子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	150	-	55	21	18	3	-	
三条漢孢子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	32	-	-	-	10	-	11	4	20	-	-	
樹木花粉	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	200	-	203	206	18	208	-	
草本花粉	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	137	-	236	124	17	176	-	
シダ植物孢子	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	182	-	65	32	22	23	-	
花粉・孢子総数	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	519	-	504	362	46	407	-	
不明	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	-	1	4	5	15	-	



第155圖 花粉分布圖

第14表 試料1g 当りのプラント・オバール個数

	イネ (個/g)	イネ破片 (個/g)	ネギサ類型 (個/g)	ササ漢型 (個/g)	他の タケ亜科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	ポイント型 結晶体 (個/g)	不明 (個/g)
試料6	0	0	29,900	1,000	0	0	4,800	8,700	1,000	1,000
試料5	0	0	18,300	0	0	1,100	4,300	1,100	0	0
試料7	1,100	2,100	37,400	4,300	1,100	0	6,400	2,100	0	2,100
試料8	2,100	0	12,600	1,000	0	0	12,600	7,300	1,000	0
試料12	0	0	54,900	4,600	1,100	0	4,600	18,300	1,100	3,400
試料9	0	0	232,600	16,400	1,300	1,300	65,700	118,800	2,500	0
試料10	0	0	685,700	20,300	10,900	3,100	74,800	157,500	3,100	1,600
試料11	1,300	0	249,200	18,900	6,700	0	37,700	51,200	2,700	1,300
試料13	0	0	5,800	2,300	0	0	3,500	0	0	0
試料14	0	0	5,700	0	0	0	4,500	1,100	0	1,100
試料15	0	0	1,800	0	0	0	1,800	0	0	0
試料16	1,000	0	3,000	0	0	0	1,000	1,000	0	0
試料17	0	0	3,700	0	0	0	0	1,200	0	0
試料18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
試料19	1,000	0	7,700	0	0	0	1,000	1,000	0	0
試料20	0	0	1,100	1,100	0	0	1,100	1,100	0	0
試料21	0	0	13,800	0	0	0	3,200	3,200	0	0
試料22	0	0	1,000	0	0	0	0	0	0	0
試料23	1,100	0	13,400	2,200	0	0	1,100	1,100	0	0
試料24	0	0	6,600	0	0	0	1,100	1,100	0	0
試料25	0	0	11,000	1,100	0	0	1,100	0	0	1,100
試料26	0	0	2,000	0	0	0	0	0	0	0
試料27	0	0	2,100	0	0	0	1,100	0	0	0
試料28	0	0	1,100	0	0	0	1,100	0	0	0
試料29	0	0	0	1,100	0	0	0	0	0	0
試料30	0	0	1,100	2,200	0	0	1,100	1,100	0	0
試料31	0	0	60,800	3,400	6,900	0	5,700	4,600	0	2,300
試料32	1,000	0	18,500	0	0	0	4,100	5,200	0	1,000
試料33	0	0	3,200	1,100	0	0	2,100	0	0	1,100
試料34	2,100	0	0	0	0	0	2,100	0	0	0
試料35	0	0	0	0	0	0	1,100	0	0	0
試料36	0	0	4,700	2,400	2,400	1,200	1,200	4,700	0	0
試料37	0	0	13,900	0	1,200	0	3,500	2,300	0	0
試料38	1,100	0	28,100	2,200	0	1,100	2,200	0	1,100	1,100
試料39	3,200	0	12,600	1,100	0	0	4,200	12,600	0	1,100
試料40	5,500	0	24,100	1,100	1,100	0	12,100	12,100	0	0
試料41	4,100	1,000	23,700	3,100	2,100	0	7,200	4,100	0	2,100
試料42	0	0	2,900	1,900	0	1,000	1,000	3,800	0	0
試料43	0	0	10,200	1,000	2,000	0	2,000	1,000	0	0
試料44	25,700	6,100	12,200	0	1,200	0	9,800	11,000	6,100	0

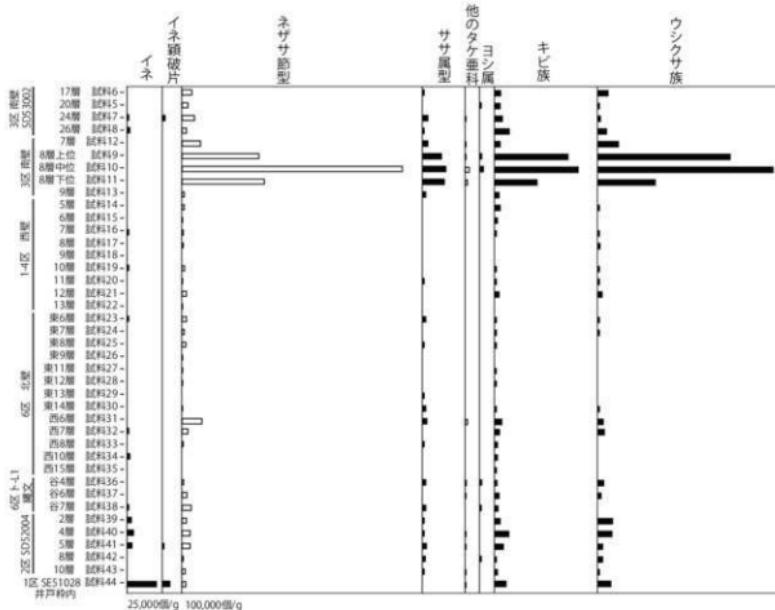
テバシイ属などの産出が目立つ。よって、遺跡周辺にはスギ林やアカガシ亜属とシノキ亜属・マテバシイ属からなる照葉樹林や、コナラ亜属やクリ属の落葉樹林などが分布していたと考えられる。このうち、スギ属は上位層に向かって減少傾向を示しており、コナラ属・コナラ亜属とクリ属は上位層に向かって増加傾向を示している。こうした産出傾向は、スギ林の縮小と、コナラ亜属とクリ属の拡大を示す可能性がある。

また、SD 52004（試料No. 39～43）から産出する草本花粉では、ガマ属やオモダカ属、ツリフネソウ属、キカシグサ属などの抽水へ湿性植物があり、溝周辺の湿地的環境が推察される。このうち、オモダカ属とキカシグサ属は水田雜草を含む分類群としても知られており、イネ科花粉の産出と合わせて考えると、SD 52004周辺において水田が存在していた可能性がある。

プラント・オパール分析の結果でも、2、4、5層（試料No. 39～41）では、少ないものの、イ

ネ機動細胞珪酸体が産出しており、水田の存在を示唆している。なお、SD 52004の8層（試料No. 42）と10層（試料No. 43）ではイネが産出しておらず、その他の分類群の機動細胞珪酸体の産出も少ない傾向がある。こうした産出傾向を示す背景としては、植物珪酸体の堆積に營力が関与していた可能性が考えられる。すなわち、SD 52004の下位層には中粒砂や細粒砂が堆積しており、比較的大きな營力が働き、堆積速度が速かったと推測されるため、イネ科植物の葉身が堆積しづらかったが、上位層になると粘質土やシルトが堆積しているため、營力が弱まり、イネ科植物の葉身が多く堆積するようになった可能性がある。

SD 53002 弥生時代～中世の溝 SD 53002では、花粉化石と珪藻化石のいずれも保存状態が非常に不良である。一般的に花粉や珪藻の保存は、埋没後の土壤環境が水浸かりとなる嫌気的（還元的）状態で良く、大気に常時曝されるような好気的（酸化的）状態で相対的に不良となる傾向がある。花



第 156 図 植物珪酸体分布図

粉化石と珪藻化石の保存が不良であるため、SD 53002 埋没時期の河床付近の堆積時期には、好気的な環境に晒されていた可能性がある。つまり、SD 53002 の溝床付近の堆積時期には、滞水状態となったり、地下水位が高く湿地になるような湿润状態が維持されていなかったとみられる。植物珪酸体では、イネ（穎珪酸体を含む）が産出した。流域の集水域では、水田や人為的にイネが持ち込まれる居住域などが存在し、そこからイネの葉身がもたらされた可能性がある。

S E 51028 8～9世紀前半の井戸枠埋土の S E 51028（試料 No. 44）では、樹木花粉ではスギ属の産出が目立ち、遺跡周辺のスギ林から供給されたと思われる。草本花粉ではイネ科やアカザ科・ヒユ科、ヨモギ属などの産出が目立ち、井戸周辺に生育していたと思われる。また、植物珪酸体ではイネやネザサ節型、キビ族、ウシクサ族などの産出が見られ、井戸周辺に生育していたイネ科植物から供給されたと思われる。イネについては、イネ穎に形成される珪酸体の産出も目立つ。井戸内には、人為的に持ち込まれたイネが何らの要因で再堆積した可能性も考えられる。

c) 調査区基盤層の花粉・珪藻化石の産状

古代以降の遺構検査面下に累重する縄文時代中期～平安時代以前の調査区の基盤層（以下、基盤層とする）の花粉・珪藻分析では、すべての試料で保存状態が極めて不良であった。分析試料の層相と調査区周辺の地形をふまえると、このような花粉・珪藻化石の産状は、遺跡の立地環境と密接に関わると予想される。

本遺跡は、櫛田川左岸の沖積氾濫原面上に立地している（第157図）。遺跡周辺の深部の堆積層については、櫻井編（2016）によって詳しく検討されている。これによると、調査区の基盤層に対比される層準では、今回の分析層準と岩質が類似するとみなされるシルトを中心として、所々で砂層を挟在する堆積層が、現地表面下から1～2m前後の層厚で側方へ広く連続して累重する。そして、その直下には、砂礫が5～7m前後の厚さで堆積している。この砂礫は、今回の発掘調査地点でも部分的に確認されている。

本遺跡は、櫛田川が臨海部に広がる平野に出る谷口に近い場所に存在しており、付近の等高線が扇形に張り出すようにして分布する。このような地形をふまえると、遺跡周辺の沖積面は、沖積扇状地の氾濫原をなすと解釈される。櫻井編（2016）が示したボーリング柱状図から、遺跡周辺の深部の堆積層を構成する砂礫のうち上部のものは、沖積層に区分されるとともに、これらが厚く堆積している状況が読み取れる。このような基盤の堆積状況からも、遺跡周辺の沖積面は、扇状地であると考えられる。

遺跡周辺では、上記の沖積扇状地面を構成する砂礫を薄く覆って、今回微化石分析を実施した調査区の基盤層に相当するシルトが広く累重する（櫻井編 2016）。このシルトは、活発な堆積領域が移動して、この場所での扇状地形成が終了しつつある離水傾向が強まった段階に堆積した浮遊洪水堆積物と考えられる。

砂礫を薄く覆う調査区基盤層をなすシルトについては、発掘調査結果から堆積状況が確認できる。調査区の堆積層の断面写真や断面図と遺物の出土状況によると、今回の調査区の古代以降の遺構検査面は、表土から極浅い深度で埋没している。この古代以降の遺構検査面の直下には、縄文時代中期～後期頃の遺物を含むシルトを主体とする堆積層が堆積する。このような層序関係から、調査区周辺の氾濫原面は、縄文時代後期以降に氾濫原の離水が進行したと考えられる。また、調査区の基盤層のシルトを主体とする堆積層については、植物遺体が挟在せず、土色も酸化傾向を示す黄灰色系を示す領域が多い。このような層相から、シルト層の堆積時期および堆積後に好気的な地表環境が維持されていたと考えられる。

上記してきた調査区の基盤層の堆積状況と地形発達史から、分析地点周辺では、縄文時代中期以前に、調査区の底部付近より下位の厚い砂礫層の堆積によって、高燥な微高地をなす冲積扇状地面が発達したと考えられる。縄文時代中期～後期頃には、浮遊洪水堆積物のシルト主体の堆積層が砂礫層を覆って堆積していくような氾濫原が形成されていたと捉えられる。この時期には、すでに氾濫原が離水傾向へと転じており、さらに縄文時代後期以降にその傾向が強まると解釈される。したがって、縄

文時代中期末から後期以降には、分析地点とその周辺は地表付近の水はけが良好で乾燥傾向にあり、好気的土壤環境が維持される氾濫原が広がっていたと考えられる。今回花粉・珪藻分析を行ったのは、このような堆積・土壤環境下にあったとみられる調査区基盤層をなすシルト主体の堆積物であり、試料の微化石の保存状態が極めて不良であった。この産状は、上述のような試料採取層準の好気的な堆積・土壤環境を反映しているとみなされる。

今回の微化石分析のうち、珪藻分析と花粉分析では、特に基盤層で保存状態が不良な試料が多く、化石群集にもとづく縄文時代から古代頃までの古環境復元が困難であった。ただし、微化石の産状は、上記のような遺跡周辺の地形発達史と密接に関連すると考えられ、このような観点から分析結果を評価できる。

d) 調査区基盤層の植物珪酸体の産状

植物珪酸体はガラス質であり、花粉や珪藻よりも風化に耐性が強いため、縄文時代中期～平安時代以前の調査区の基盤層でも、保存状態が不良ながら統計的に扱えるだけの個数が産出した。基盤層の植物珪酸体では、乾燥地を好むネザサ節型、ササ属型、キビ族、ウシクサ族が多く産出しており、湿潤地を好むヨシ属がほとんど認められない。このような産状は、上記した基盤層の堆積・土壤環境とも調和的である。

なかでも、縄文時代中期以前の3区南壁で採取された試料No. 9～13では、特に黒ボク土とされる8層で植物珪酸体の産出量が非常に多い点が着目される。9層（試料No.13）では植物珪酸体の産出量は比較的小ないが、8層下位（試料No.11）以上の層準で、ネザサ節型やキビ族、ウシクサ族などの機動細胞珪酸体の産出量が急増する。こうした産出傾向から推測すると、9層の堆積時にはイネ科植物がそれほど繁茂していなかったが、8層の堆積時になるとネザサ節のササ類やキビ族、ウシクサ族などイネ科植物が分布を広げていた可能性がある。

こうしたイネ科植物の分布拡大には、黒ボク土の形成が関わっていると思われる。山野井（1996）は、微粒炭が腐殖を吸着・保持して黒ボク土が形成されるとし、微粒炭は古代人の野焼きや山焼きなどの火

入れによって生じると述べている。黒ボク土とされる3層には微粒炭が多く含まれていると推測され、微粒炭を生じさせる火入れが行われることで、草原的環境が出現するようになる。一方、細野・佐瀬（1997）は、黒ボク土形成の条件の1つとして、腐植を供給する草原植生の重要性を述べており、草原の成立・維持には火入れなどの人間活動が必要としている。いずれにしろ、黒ボク土の形成過程については草原的環境の関与があったと思われ、8層におけるネザサ節型やキビ族、ウシクサ族の産出量の増加、特に最も黒味が増す8層中位でネザサ節型機動細胞珪酸体が突出する現象は、8層における草原的環境の拡大を示していると思われる。

e) 遺跡周辺の旧河道について

本遺跡内には、第157図の地形分類図からも確認されるように、明瞭な理済旧流路（以下、旧流路とする）が幾条も地形判読できる。そして、このような旧流路は、地表の地割からも容易に認識できる。地形判読および地割から復元される旧流路については、発掘調査が実施されており、奈良時代頃から鎌倉時代前後にかけて機能および埋没した旧流路が確認されている（櫻井編 2016）。また、この旧流路の埋積層では、砂を挟在するものの砂礫がほぼ認められず、シルトや粘土の泥質堆積物を主体する埋没状況である様子が、櫻井編（2016）などの記載から読み取れる。このような流路の層相やその埋没過程は、旧流路が櫛田川の主要な分流路ではなく、主流路の流路移動や切断によって切り離された放棄流路（増田・伊勢屋 1985）や、洪水流の侵食によって形成された氾濫流路（増田 2018）の特徴を有している。一般的に冲積扇状地面上では、本流の転流などによって切り離されたり、地形面が離水傾向に転じたものを契機として、それまで本流であった流路への河川水と堆積物の供給が急激に減少し、穏やかな河川堆積作用に変化するとともに、流路が固定的となる放棄流路や氾濫流路が形成されやすい。特に、本流転流後にその旧流路内を流れる河川は、名残川と呼ばれ、転流（流路変更）や流路切断が生じやすい扇状地でよくみられる地形とされる（鈴木 1998）。

本遺跡内を流下する旧流路については、直線状となしており、櫛田川右岸の裁川沿いを中心に広く分

布する蛇行が著しい流路痕跡とは形態が大きく異なる。以上の旧流路の状況から、遺跡周辺では、縄文時代後期前後以降に離水傾向をさらに強めたと考えられる。このような流路痕跡の微地形および流路内とその基盤層の堆積層の特徴をふまえると、旧流路は名残川に相当すると推定される。名残川は、地表水が集積するとともに地下水でも涵養されるため、流路の堆積環境が穩やかで、大規模な洪水が起こりにくく、一定量の水量が見込まれ、灌漑など農業的利用に適した流路となる（鈴木 1998）。

これまでの発掘調査において、朝見遺跡と、この北東方向に続く中坪遺跡、堀町遺跡では、旧流路沿いでの古代から中世の活発な人間活動や灌漑水路の掘削などが確認されている（三重県埋蔵文化財センター 2015）。上述の流路痕跡の分布から、櫛田川右岸の氾濫原は、河川の地形および堆積作用が激しく、不安定であったとみられる。一方で、櫛田川左岸の朝見遺跡とその周辺遺跡が載る氾濫原面は、櫛田川右岸よりも相対的に堆積環境がかなり安定的であった様子が、調査区周辺の地形や基本層序の形成過程からも確認できる。このような場所における耕作地の開発等の人間活動にとって、名残川をなす旧流路は、水供給の基幹として重要な存在であったとみられる。本遺跡周辺の耕作地の開発、特に水田の構築

とその維持・管理については、旧流路内を流下する河川水の水量に強く依存していたと思われる。

ただし、灌漑については、現地表の水路網に見られるように、南側に存在する丘陵部分の開析谷からも古代以降のある段階で水路が整備されたと推測される。上述の遺跡の地形・地質学的検討から、遺跡周辺の沖積氾濫原面は、非常に安定的で耕作地開発を行いやすい領域であったと指摘できる。しかし、名残川の可能性のある旧流路や後背の丘陵地は、ともに水の涵養量が大きないと予想され、耕作地開発の維持・管理の基礎となる水の供給量については、一定の限界が生じやすい地域であったとみられる。

今後は、本地域の水文学的な検討も併せて、古代以降の人間活動について検討していくことが課題と認識される。

（森 将志・野口真利江・辻 康男）

引用・参考文献

- 安藤一男（1990）「淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『東北地理』42, p 73-88.
 Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51 (1), 337-360.
 千葉 崇・澤井裕紀 (2014)「環境指標種群の再検討と更新」『Diatom』30, p 7-30.



凡例 HL：丘陵 TR：台地 FP：沖積氾濫原 NB：自然堤防 AC：旧流路 RID：水路・流路 Kus.R：櫛田川 H.R.：越川

第 157 図 遺跡周辺の地形分類図

- 橋中光輔（2012）「西日本縄文時代における遺跡タイプ別ジエ分析の実践と展開」『関西縄文文化研究会編』『関西縄文時代研究の新展開：松尾洋次郎さん追悼論集』関西縄文文化研究会、p33-49。
- 細野 衛・佐瀬 隆（1997）『黒ボク土生成試論』『第四紀』29、p1-9。
- 小杉正人（1988）「往還の環境指標種群の設定と古環境復元への応用」『第四紀研究』27、p1-20。
- 町田 洋・新井房夫（2003）『新編火山灰アトラス』東京大学出版会、336p。
- 増田富士雄（2018）「京都府南部、城陽市下水主遺跡の発掘調査で見いだされた弥生時代の氾濫流路とその埋積物』『新名神高速道路整備事業関係遺跡下水主遺跡第1・4・6次』京都府埋蔵文化財調査研究センター、p. 247-255。
- 増田富士雄・伊勢風ふじこ（1985）『“逆グレーディング構造”自然堤防帶における氾濫原浜木堆植物の示相堆積構造』『堆積学研究会報』22-23、p108-116。
- 三重県埋蔵文化財センター編（2015）『水と大地といにしえの人びと—松阪市朝見地区の発掘調査から—』三重県埋蔵文化財センター、30p。
- 中村俊夫（2000）「放射性炭素年代測定法の基礎」（日本先史時代のC14年代編集委員会編）『日本先史時代のC14年代』3-20、日本第四紀学会
- Reimer, P.J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Buck, C.E., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hoffmann, D.L., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kaiser, K.F., Kromer, B., Manning, S.W., Niu, M., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Staff, R.A., Turney, C.S.M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. Radiocarbon, 55 (4), 1869-1887.
- 櫻井拓馬編（2016）『福町遺跡（第5次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財センター、208p。
- 鈴木隆介（1998）『建設技術者のための地形図読図入門』第2巻 低地、古今書院、554p。
- 山野井 徹（1996）『黒土の成因に関する地質学的検討』『地質学雑誌』102、p526-544。

横山卓雄・檀原 徹・山下 透（1986）「温度変化型屈折率測定装置による火山ガラスの屈折率測定」『第四紀研究』25、p21-30。

3. 樹種同定

バリノ・サーヴェイ株式会社

（1）試料

本分析調査で対象とする試料はほとんどが古代から中世とされる井戸の井戸枠材であり、SE 51028、SE 54031、SE 54036、SE 56004、SE 56006から出土した計87点である。試料は2018年9月11日に当社技師1名が三重県埋蔵文化財センターに赴き採取した。結果は遺物観察表（第4表）に示す。

（2）分析方法

剃刀を用いて木口（横断面）・杁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の切片を作成する。光学顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995, 1996, 1997, 1998, 1999）を参考にする。

（3）結果

顕微鏡観察の結果、全体の9割近くがスギに同定された。次に多いのがヒノキ属で、約1割を占める。ヒノキ属にはヒノキとサワラがあり、木材組織の違いにより識別できる場合もあるが、今回は遺物の破壊を極力抑えることに主眼を置き、両者を区別できるような試料採取（広範囲かつ保存状態の良い場所からの採取）を行っていないため、ヒノキ属としている。その他コウヤマキ、ニッケイ属が1個体ずつ検出されている。以下に木材組織の特徴を述べる。

・コウヤマキ (*Sciadopitys verticillata* (Thunb.) Sieb. et Zucc.) コウヤマキ科コウヤマキ属

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は窓状で、1分野に1個。放射組織は単列、

1～5細胞高。

・スギ (*Cryptomeria japonica* (L. f.) D. Don)

スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

・ヒノキ属 (*Chamaecyparis*) ヒノキ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかへやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は基本的にヒノキ型だが、保存が悪く観察できない箇所もある。放射組織は単列、1～15細胞高。

・ニッケイ属 (*Cinnamomum*) クスノキ科

散孔材で、道管径は比較的大径、管壁は薄く、横断面では梢円形、単独または2～3個が放射方向に複合して散在する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1～3細胞幅、1～20細胞高。柔組織は周囲状～翼状。油細胞がある。

(4) 考察

最も多く同定されたスギは、やや軽軟で加工性（特に割裂性）に富むので、土木、建築材として多く用いられる。次いで多いヒノキ属も優れた建築材であり、耐朽性、耐湿性に富むことから井戸枠材として適している。一方、曲物もスギとヒノキ属が用いられているが、曲げに強く、加工性に富むという材質の特性を生かした選択だと思われる。コウヤマキは耐水性に富む良材で現在も三重県の山間部に分布する。この特性から井戸枠としては適材だが、産地が限られ、生育数も少ないと見用例は少ない。クスノキ属の材は、加工しやすく、油分が多いので耐朽性、耐湿性に優れているが、狂いやすいので、建築部材としての利用は多くない。

遺構別の樹種内訳では、SE 51028は全27点のうち、26点がスギ、削り抜きの水滸のみがニッケイ属に同定され、スギ中心の組成を示す。SE 54031は全28点の内、26点がスギ、2点がヒノ

キ属であり、やはりスギ中心の組成を示す。SE 54036は全20点の内、13点がスギに、6点がヒノキに、1点がコウヤマキであり、やはりスギ中心ではあるが、ヒノキの割合も高い。SE 56003は10点全てがスギに同定され、スギ中心の組成を示す。SE 56004とSE 56006は各1点を同定しているが、共にヒノキである。

なお、朝見遺跡も含まれる朝見上地区（朝見・堺町・中坪遺跡）の井戸枠部材の樹種については中坪遺跡発掘調査報告書（三重県埋蔵文化財センター 2017）で詳細にまとめられている。これによると、奈良時代の井戸はヒノキが圧倒的に多く、平安時代前期から後期にかけてはスギが最も多く、ヒノキも合わせて利用される。平安時代末から鎌倉時代にかけては引き続きスギが最も多く、ヒノキの割合が減り、コウヤマキ、マツ属、モミ属等が利用される。室町時代から戦国時代になるとスギの割合が減り、ヒノキ、コウヤマキの割合が増える。これに沿って本分析調査の結果を見ると、SE 51028、SE 54031、SE 56003はスギ中心の組成を示し、平安時代前期から後期、もしくは平安時代末から鎌倉時代の組成に相似する。一方で、SE 54036ではスギ中心であるものの、ヒノキの割合も高い組成を示し、平安時代末から鎌倉時代の組成に相似する。各井戸の形態や帰属する年代を踏まえたうえで、井戸枠材の木材利用について検証し、これまでの朝見上地区における調査成果と比較する必要がある。

引用文献

- 林 昭三 (1991)『日本産木材顕微鏡写真集』京都大学木質科学研究所
伊東隆夫 (1995)「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ」『木材研究・資料』31、京都大学木質科学研究所、p81-181.
伊東隆夫 (1996)「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ」『木材研究・資料』32、京都大学木質科学研究所、p66-176.
伊東隆夫 (1997)「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ」『木材研究・資料』33、京都大学木質科学研究所、p83-201.
伊東隆夫 (1998)「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ」『木材研究・資料』34、京都大学木質科学研究所、p39-166.
伊東隆夫 (1999)「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ」『木材研究・資料』35、京都大学木質科学研究所、p47-216.

- 伊東隆夫・山田昌久（編）（2012）『木の考古学 出土木製品用材データベース』海青社、449p.
- 金原正明（2002・2003）「樹種同定・遺物觀察表」『一般国道23号中勢道路（8工区）建設事業に伴う六大A遺跡発掘調査報告（木製品編）』（三重県埋蔵文化財調査報告115-16・17）、三重県埋蔵文化財センター、p18-22
- バリノ・サーヴェイ株式会社（2006）「堀町遺跡（第1次）における自然科學分析」『一般国道42号松阪・多気バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告7 堀町遺跡』（三重県埋蔵文化財調査報告123-7）、三重県埋蔵文化財センター、p261-266.
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編) (2006) 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト、伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘（日本語版監修），海青社, 70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地謙・伊東隆夫（1982）図説木材組織、地球社、176p.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編) (1998) 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト、伊東隆夫・藤井智之・佐伯清（日本語版監修），海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification]
- 三重県埋蔵文化財センター（2017）「總括」『中坪遺跡（第1次）発掘調査報告』三重県埋蔵文化財調査報告370、三重県埋蔵文化財センター、166-179p.

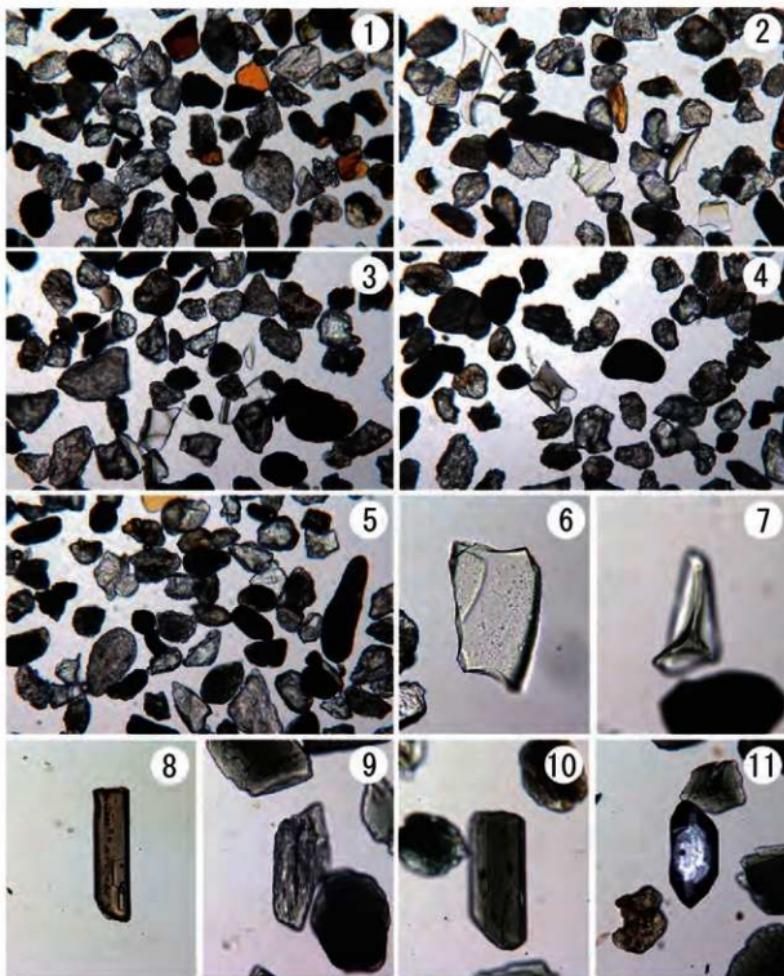
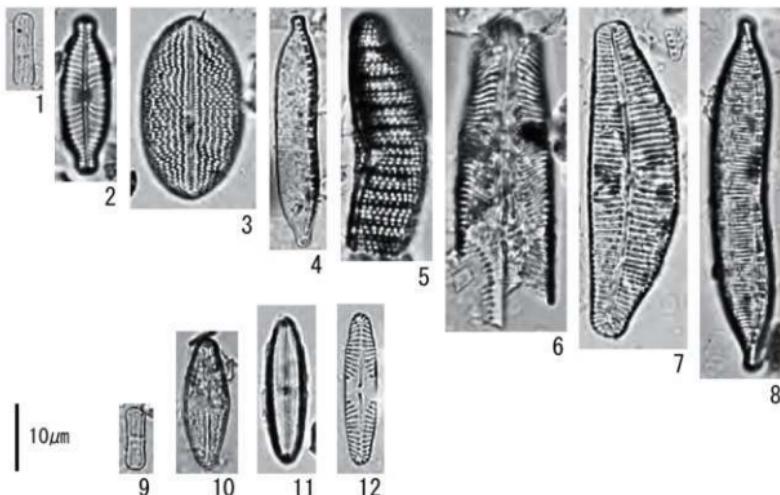


写真3 テフラ試料の偏光顕微鏡写真

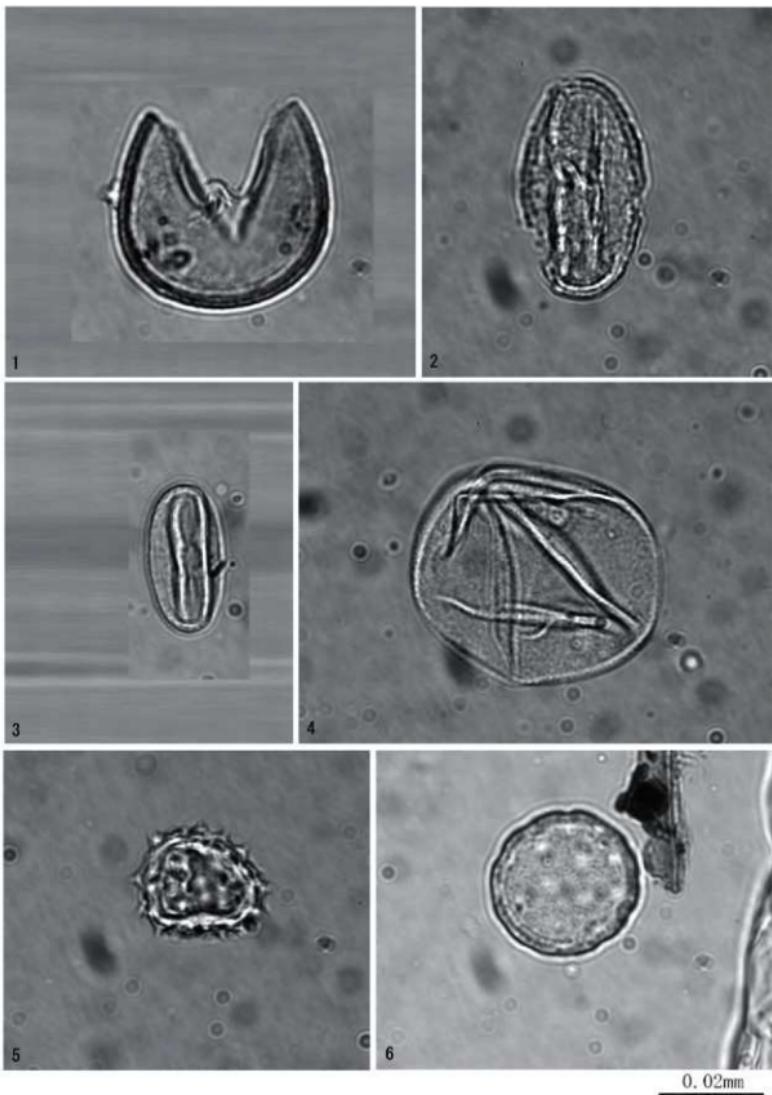
- 1. 4ϕ 軽鉱物 (分析 No. 1) 2. 4ϕ 軽鉱物 (分析 No. 2) 3. 4ϕ 軽鉱物 (分析 No. 3)
- 4. 4ϕ 軽鉱物 (分析 No. 4) 5. 4ϕ 軽鉱物 (分析 No. 5) 6. バブル型平板状ガラス (分析 No. 3)
- 7. バブル型Y字状ガラス (分析 No. 3) 8. 斜方輝石 (分析 No. 2)
- 9. 単斜輝石 (分析 No. 3) 10. 角閃石 (分析 No. 5) 11. ジルコン (分析 No. 5)



(括弧内の数字は試料No.を示す)

1. *Diadesmis contenta* (No. 44)
2. *Navicula elginensis* (No. 13)
3. *Cocconeis placentula* (No. 44)
4. *Hantzschia amphioxys* (No. 44)
5. *Epithemia* spp. (No. 42)
6. *Pinnularia* spp. (No. 44)
7. *Cymbella turgidula* (No. 44)
8. *Hantzschia amphioxys* (No. 44)
9. *Diadesmis contenta* (No. 44)
10. *Luticola mutica* (No. 44)
11. *Neidium alpinum* (No. 44)
12. *Pinnularia subcapitata* (No. 44)

写真4 堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真（括弧内の数字は試料No.を示す）



1. スギ属 (試料44 PLC. 2679)
 2. コナラ属コナラ亜属 (試料44 PLC. 2680)
 3. シイノキ属-マテバシイ属 (試料42 PLC. 2681)
 4. イネ科 (試料44 PLC. 2682)
 5. キク亜科 (試料44 PLC. 2683)
 6. アカザ科-ヒュ科 (試料44 PLC. 2684)

写真5 産出した花粉化石

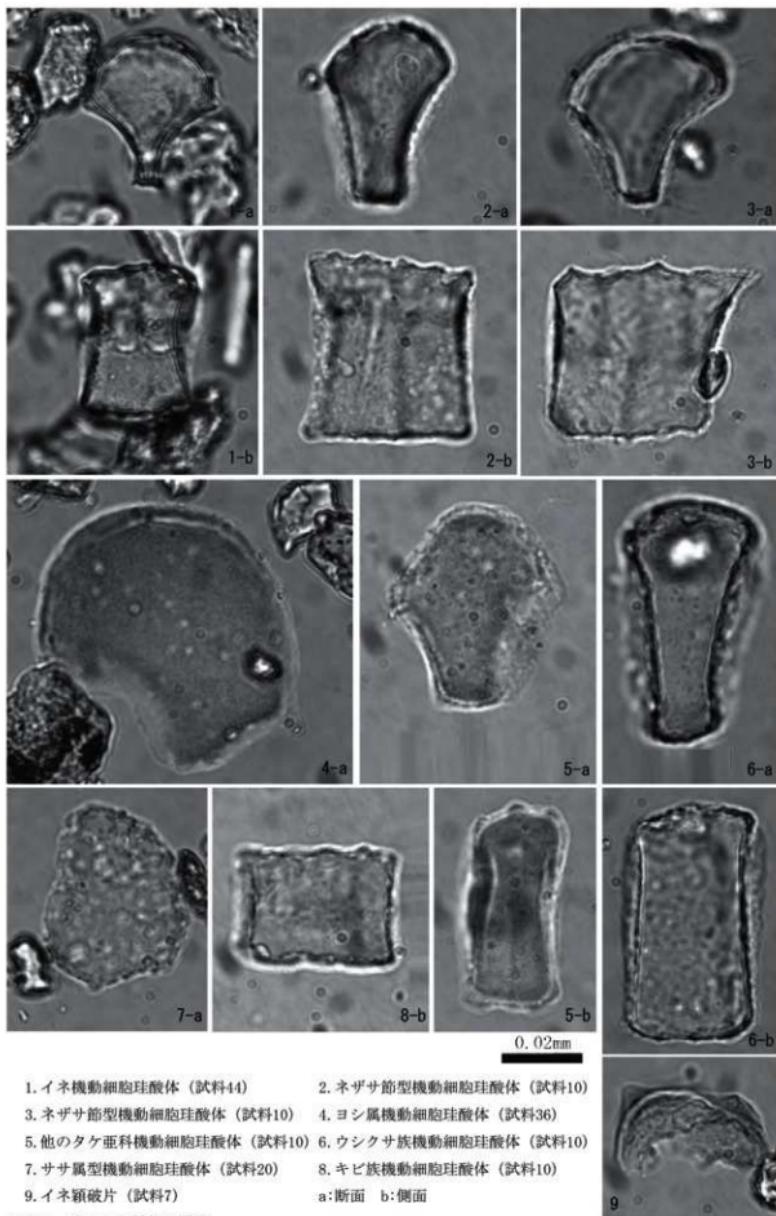


写真6 産出した植物珪酸体



写真7 樹種同定結果1（抜粋）

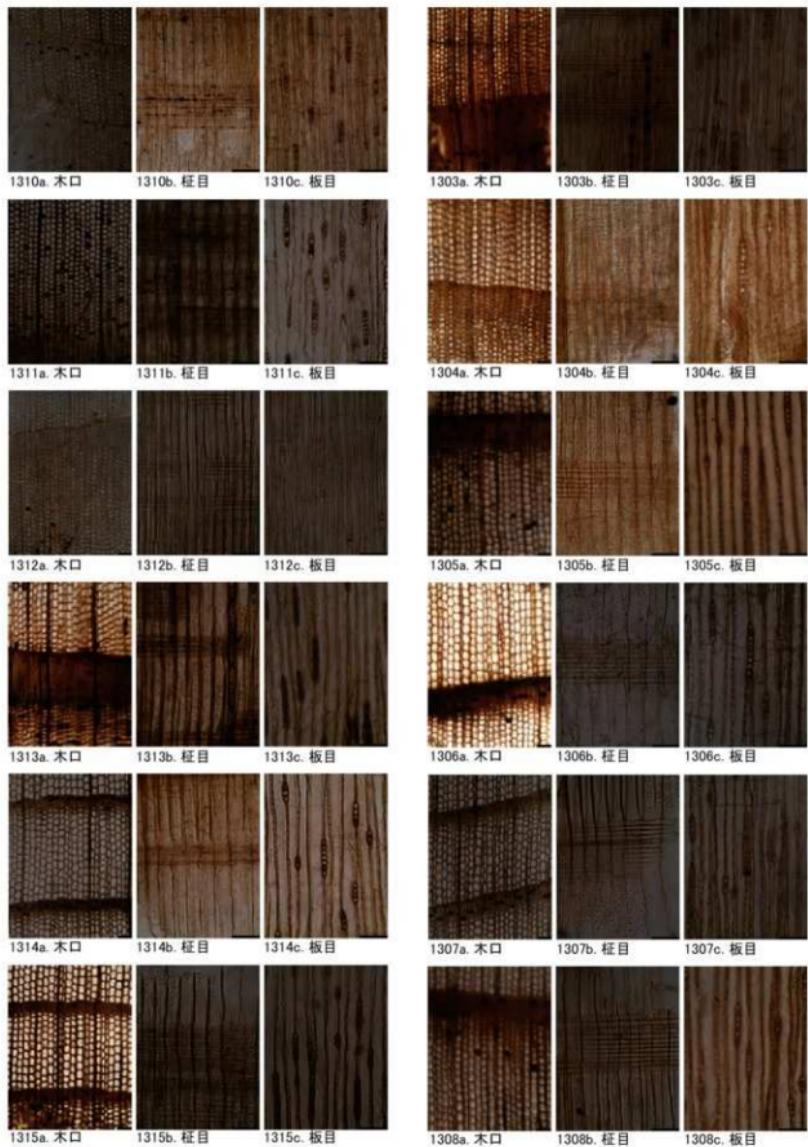


写真8 樹種同定結果2（抜粋）

VI 総括

1. 縄文時代の集落と環境

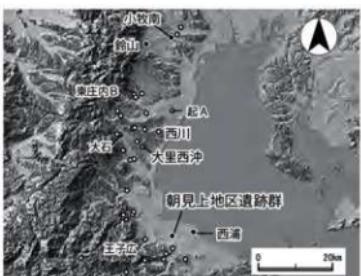
(1) 網文時代の集落と地形環境

今回の調査では、1区・6区で縄文時代中期中葉～後期前葉の遺構・遺物が認められた。その後の第6次・7次調査、堀町遺跡、中坪遺跡も含めた朝見上地区遺跡群の調査においても、縄文中～後期の遺構・遺物が確認されている。また、柳田川右岸下流域の西浦遺跡（多気郡明和町）では、浜堤なし自然堤防の砂層中から里木式相当の埋設土器が出土しており、里木式・咲煙式期を嚆矢として柳田川低地に遺跡が展開していくようである。

なお、堀町遺跡では、少量ながら後期中葉の土器（元住吉山I式）も出土している。このように、沖積低地にあって中期中葉から後期にかけて居住がなされた点は注目すべきところである。三重県内では、標高10m以下の低地にある縄文遺跡は非常に少なかったため（第158図）¹⁰⁾、遺構の検出パターンや埋没地形についてまとめておきたい。

①遺構の検出パターン

朝見遺跡・堀町遺跡では、遺構を良好に検出できた箇所がごく限られており、炉の被熟面や遺物集中、埋設土器の単独出土としてしか把握できないことが多い。堅穴住居状の暗色土の落ち込みが認められても、主柱穴が検出できない、炉の位置が対応しないなど、調査当初は遺構認定に苦慮した。最終的には、



第158図 県内の縄文中～後期前半の遺跡（国土地理院数値地図をカシミール3Dにより作図）

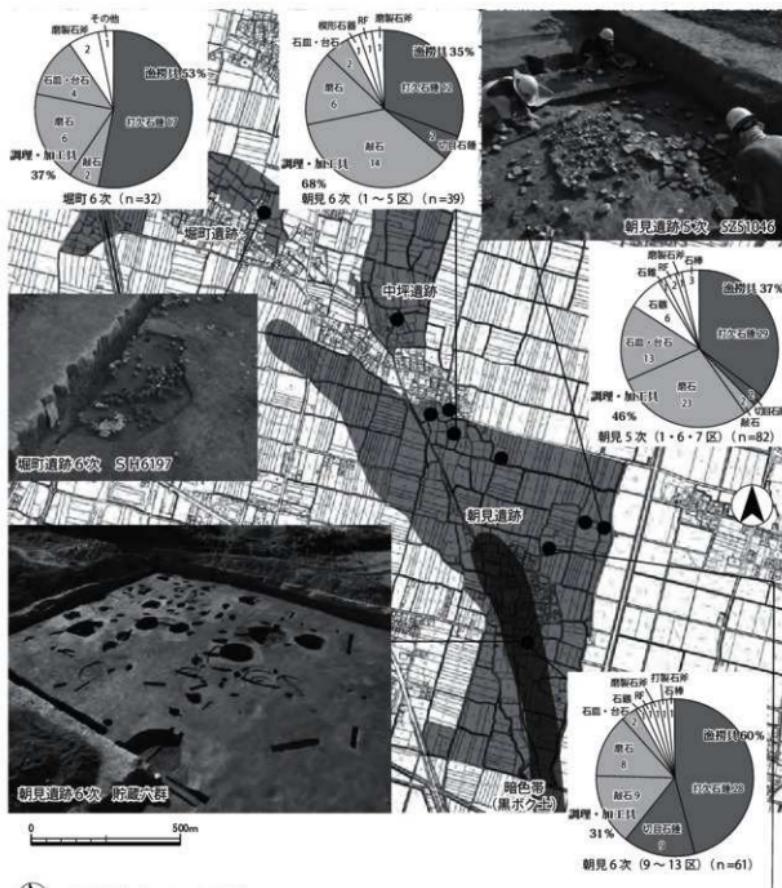
各所で実施した下層確認と土層観察の結果から、遺構は土壌化により消失、いわゆる「層」となり、かつ大阪・河内平野のように堆積物の供給量が多くないため、遺構プランが下部まで消失した結果であると判断している^②。

一方、谷の付近は堆積物の供給量が多いため、6区理積浅谷付近では、「b層」上面で遺構を複数検出することができた。また、第6次調査では、谷ないし自然流路に接した地点で円筒形の土坑群が確認され、埋土中からオニグルミ、トチノキ等の炭化種子やアカガシ亜属の炭化子葉が出土した。これは伊賀市森脇遺跡（晚期）^⑫、愛知県寺部遺跡（後期前葉）^⑬の貯蔵穴群のように、谷や自然流路付近に堅果類の貯蔵穴を設けた、いわゆる低湿地型貯蔵穴^⑭であろう。

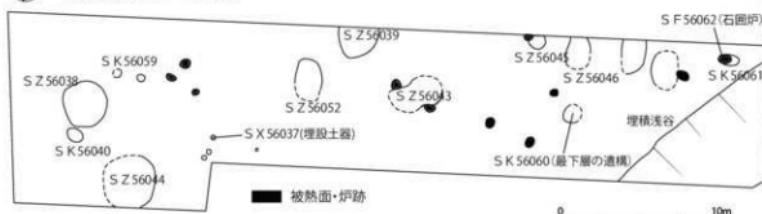
これらを総合すると、朝見遺跡・堀町遺跡では、縄文中期中葉（啖煙式併行）から後期前葉（縄帶文期）にかけて堅穴住居・埋設土器・石圍炉・貯藏穴などの遺構が微高地ごとに形成され、小規模な集落（居住域）が点在していたと考えられる（第159図）。中坪遺跡でも遺物が一定量出土しており、遺構が存在する可能性は高い。

繩文時代の遺物包含層・構造は、空中写真で白く読み取れる埋没地形と関係している可能性が高い（写真図版1）。付近のボーリングデータによれば、沖積層下部の砂礫層が大きな凹凸を見せており、この凸地由来の微高地上では、比較的安定した居住が可能であったと推測される（図版、第6図）。その中でも、水生資源の利用、トノキ等の灰汁抜きや貯蔵に適した流路・谷付近を選地したようである。微高地上は、下部砂礫層の影響で地下水位が低いため、木製品などの有機質遺物は得られなかったが、微高地縁から後背湿地に相当する跡遺東端・西端では、今後有機質遺物や水場構造が確認される可能性もある。

ところで、このような沖積低地での遺跡形成過程は、全国的には周知されてきているが、三重県内の沖積地における層位的調査は、度会町森添遺跡(第



○ 朝見遺跡5次6区 下層遺構



第159図 朝見上地区遺跡群の縄文遺構・遺物分布

など土砂堆積量の多いごく一部の遺跡にとどまっている。また、土壤化層=暗色帶=遺物包含層という認識が強く、腐植が弱い黄褐色系シルト中に遺構・遺物がある状況が注目されることとなかった。

しかし、過去の調査事例の中でも、谷底平野の地表下約3mで被熱面や遺物集中がみられた堀之内遺跡⁽¹⁾（松阪市、縄文中期）は、朝見遺跡と同じ遺跡形成過程が想定できる。また令和2年度に三重県埋蔵文化財センターが調査した、雲出川水系大村川の河岸段丘上にある岡遺跡（津市白山町）でも、黄褐色系極細砂のa層を除去したところで縄文遺構を検出しており、段丘上でも朝見遺跡と同様の調査事例が今後増加していくと思われる。ひいては、縄文後期の「大規模葬祭空間」か「大集落」か評価が分かれている⁽²⁾天白遺跡（松阪市）なども、遺構面（機能面）の土壤化という観点から再評価することが可能となろう。

②黒ボク土と縄文前半期の微高地

遺跡南東の3区では、基盤層中に黒ボク土とみられる暗色帶（黒褐色シルト）がみられた。縄文遺構が確認された第6次調査11区・12区付近でも縄文後期初頭の遺構面下に黒色シルトが認められ、他に2次SE72の基盤層や、5次9区下層でも同層を確認していることから、暗色帶が5次3区から現和屋・立田集落に向かって、北西方向に細長く広がるるとみられる（第159図）。

自然科学分析（V章）によれば、当該層には植物珪酸体が非常に多く含まれ、ササ類やキビ族、ウシクサ族が分布し、一帯には高燥な草原的環境が広がっていたとみられる。また、層中に広域テフラK-Ah（6,300BP）が少量含まれており、大まかな生成時期が推定できる。6次調査11区下層黒色シルト（91層）も植物珪酸体を多含、K-Ahを含み、土壤のC14年代測定で 6585 ± 25 yrBP (5611-5483calBC:2σ) の年代が得られている⁽³⁾。したがって、縄文早~前期の温暖な気候のもと、安定した高燥な草原的環境ができ、黒ボク土の生成が進んだと判断される。その後、シルト・細粒砂の堆積と土壤化が並行して進み、縄文中~後期の遺構面が形成された。

朝見上地区遺跡群では、今のところ中期の喰煙式を認める遺構・遺物は明確でないが、第5次7-2区で

大型の有茎鐵（1710）や風化度合いの強いサスカイト剥片などが得られており、今後、朝見遺跡内で縄文時代前半の遺構・遺物が確認される可能性は高いといえよう。当地での低地への進出が、沖積平野の埋積とともに縄文中期以降活発化するのか、あるいは自然堤防や扇状地由来の安定した微高地で、時に洪水の影響を受けつつも早くから集落が営まれたのか、今後も注視していく必要がある。

なお、この埋没地形が、縄文時代から現代に至るまで朝見遺跡の動向を大きく左右していることを改めて強調しておきたい。

③縄文時代の気候変動イベントとの関係

朝見上地区遺跡群の遺跡形成上大きな画期となる縄文中期末は、紀元前2300年頃から進行した急激な寒冷化と湿润化の時期（いわゆる4.2~4.3Kaイベント）に相当し、その後後期前葉にかけて温暖湿润な気候に変化していくとされている⁽⁴⁾。

今回、1区や6区の調査では、縄文中期中葉以降、特に縄文中期末ごろに砂・シルトの埋積が進行したことや、後期初頭から前葉にかけて安定した環境下で多くの有機物が供給され、黒褐色の古土壤（暗色帶）が形成されたことが判明している。朝見遺跡下層の堆積状況は、4.2~4.3Kaイベント以降の気候変動と、一見調和するようにみえる。

伊勢湾沿岸では、愛知県林ノ峰貝塚で黄褐色の中期遺物包含層（H層）上に後期の黒褐色遺物包含層（G層）が形成された例⁽⁵⁾や、愛知県朝日遺跡で後期の遺物包含層（黒色土）が形成される事例⁽⁶⁾とあわせ、今後より詳細な検討が必要であろう。

平野の地理学的研究がある程度進んでいる雲出川や宮川流域と異なり、柳田川低地の形成過程は不明な点が多い。ボーリングデータの収集などを合わせ、弥生時代以前の地形環境や縄文海進／海退との関係を明らかにしていくことが課題である。（櫻井）

（2）縄文中期末の土器について

V章でも示したように、5次調査の縄文土器は、後期初頭の資料も少量含みつつ、その主体となるものは中期末に属する土器群であった。この土器群は、一部土坑やピット出土のものが含まれるとはいえ、多くが1区のS Z 51046から出土している。S Z 51046出土縄文土器は、遺物が集中した箇所の縄文土器

不明遺構（S Z）出土として取り上げたもので、型式学的に一時期（單一型式）の土器相とは言い難く、時期的な一括性には乏しい。

このS Z 51046 出土遺物も含め、第5次調査出土の縄文時代中期末葉土器群は、概ね北白川追分町遺跡で分離された北白川C式と器種組成や特徴で共通する部分が大きく、その範疇を考慮すると理解しやすい。そのため、本書においても、縄文土器の分類に当たっては「北白川追分町縄文遺跡の調査」で示された形式分類⁽¹²⁾を参考に土器分類を行っている。

しかし、一部においては、北白川C式ではあまり見かけない土器もある。これらは、北白川C式に由来する土器というよりは、いわゆる東海西部系に属するとみたほうが理解しやすい。具体的には、深鉢Dとして分類した、口縁部文様に横沈線と横長梢円文を組み合わせて施文した平縁の有文深鉢がこれに相当する。

同類の土器は、津市大里西沖遺跡SH 15出土縄文土器⁽¹³⁾のなかにも認められる（第160図、報告書5番の土器）。大里西沖遺跡の5は、口縁部だけでなく、肩部に配した縱方向の蛇行沈線に連絡されて、胴部にも横長梢円文を基調とした胴部文様が配されている。大里西沖遺跡では、5と本書分類（第127図）の深鉢A 1類が共伴しており、時代が下るごとに深鉢Dは胴部や肩部の文様が消失し、口縁部文様帯に集約されてくるとみてよからう。

こうした文様帯の変遷は、他の深鉢にも認められる。例えば、伊勢湾西岸の中期末深鉢の基軸となる有文の波状口縁深鉢である深鉢Aでは、口縁部に隆帯による渦巻き区画文が時代が下るとともに沈線化と主文様と從文様の分帯化を推進していくが⁽¹⁴⁾、完全に口縁部文様帯が分帯化し、文様も沈線化した

深鉢A 4ではその下部に多重沈線による連弧文を配し（1347）、さらに深鉢A 5は主文様と從文様の規範自体が崩れ、多重沈線が口縁部文様帯にせり上がりしていく動きをみせる（1348～1350）。

深鉢B類も、口縁部に橋状把手を配したB 1類（1373）のようなものが本来のものだったとみられるが、B 2類は橋状把手が凹点に置き換わって痕跡器官的な存在に変化し（1377～1380など）、B 3類では橋状把手の名残がさらに痕跡的になる一方、口縁直下に新たに無文帯が形成され（1375・1376）、B 4類では本来の口縁部文様帯が完全に消失して、新たに成立した口縁部無文帯の直下に胴部文様が接続するようになる（1386・1392など）。時間的な前後関係となるのか、併行関係にあるのかは今後の資料の増加を待つて判断する必要があるが、その無文帯すら焼失し、胴部文様が口縁部までせり上がったのが深鉢E類ともいえる（1415・1416など）。

こうした文様帯の変遷、具体的には隆帯の沈線化、渦巻と梢円形区画が一体となった主文様の分帯化、多重沈線の発生などが関連しつつ、口縁部文様帯が上方へせり上がるとともに、最終的には退化・消失していく動きとしても捉えることができる。胴部文様の上方化は、この動きと連動したものであろう。

深鉢の型式変化を推し進めた動きは、鉢・浅鉢の類の動きにも連動するとみられるが、浅鉢は口縁部から底部まで全体形が判明するものが乏しく、全体的な評価は今後の課題としたい。（稲穂）

（3）石器組成の特徴と評価

調査期間の制約もあって、小型の剥片石器は十分に回収できていないが、礫石器を中心にして90点弱のまとまった量があり、地点ごとの石器組成を示す（第169図）。

朝見遺跡では打欠石錐とともに、磨石・石皿類が目立っている。より低地側の堀町遺跡は、打欠石錐が主体であり、漁撈への強い志向がうかがえる。朝見遺跡でも遺跡西側（6次11区付近）では、打欠石錐が多くみられ、付近の流路などで漁撈が行われたのであろう。両遺跡とも磨製石斧は少量で、打製石斧は少ない。

当地一帯は氾濫原や内水面、汽水域とのエコトーン（遷移的環境）であり、微高地は疊林や草原的



第160図 大里西沖遺跡SH 15 縄文土器5（註14）

環境が形成され、それらに即した資源獲得がなされたと予想される。一方、6次調査の低湿地型貯蔵穴が示すように、トチノキ・オニグルミ・イチイガシ(アカガシ亜属)など堅果類への食糧依存度は高かつたようである。この点を反映して、朝見遺跡の石器組成は丘陵・段丘上の遺跡と大きく変わるところがない⁽³⁰⁾。また打製石斧も少なく、現状では栽培植物への傾倒も看取できない。

なお、当地の植生のみで主食を賄うことは困難であったと予想され、森林資源の豊富な丘陵部との交易や、湖底・湖岸遺跡にみられるヒシの利用も想定しておきたい。朝見遺跡では自然遺物が得られないため、土器の種実压痕や残存デンブン粒などから植物食糧の利用状況を復原していく必要がある。

(櫻井)

2. 弥生～古墳時代の土地利用

(1) 弥生時代前～中期の空白期

弥生時代前～中期は、朝見上地区遺跡群および柳田川低地全体で遺構・遺物が非常に希薄である。6区埋積浅谷では、縄文時代後期初頭から前葉の遺物を包含する黒褐色シルト(第47図埋積浅谷4層)より上位は、細砂で急激に埋没し、その後弥生時代終末期まで遺跡の空白期となる。遺跡中央微高地(和屋集落南)の第6次12-3区では、上層遺構の基盤層中(灰色細砂)に弥生時代中期中葉～後葉の漆体部片(土器4931)が含まれていた。このように縄文時代後期後半から弥生時代後期前半にかけては、朝見遺跡の微高地においても砂・シルトによる埋積が進んでおり、年代こそ絞り込めないが、他の時代に比べ相対的に不安定な環境が生じた可能性がある。

伊勢湾沿岸では、雲出川流域や濃尾平野全体で河川の供給土砂量が弥生時代に増大したとされる⁽³¹⁾。また、近年の古気候研究では、伊勢湾沿岸の中期後葉(高級式期)以降、湿润化と変動の激しい不安定な気候下で弥生集落の再編が進んだ可能性が指摘されている⁽³²⁾。断片的ではあるが、遺跡の空白期についても重要な資料が得られたといえよう。

(2) 弥生時代終末期～古墳時代の生産域

弥生時代後期後半(山中II式)、終末期(廻間I

～II式併行)以降は、溝や流路が認められ、主に生産域(水田)や墓域として開発が及んだとみられる(第161図)。集落の実態は不明で、古墳時代中・後期のピットが遺跡中央の微高地(6次調査12区)で若干確認されたにすぎないが、現状では現集落付近を居住域と推測しておきたい。

遺跡西部の4区・7区・9区には、幅約9m以上の自然流路が、弥生時代終末期から古墳時代後期にかけて微高地の縁辺を南東～北西に走っていたが、奈良時代までに埋没した。上流側の3区SD53002もこの時期以降、流路を凌濶して開削されたとみられ、長期にわたって維持されている。

遺跡東部では、2区でSD52004～52006など直線的な水路が古墳時代に開削され、SD52005・52016～018から分水、一帯に水田が広がっていたと推測される。SD52004を対象とした微化石分析の結果でも、イネ科や水田雑草を含む分類群の花粉、イネ機動細胞珪酸体が検出された(V章)。

朝見遺跡の溝等は、より上流側の琵琶塙内遺跡と概ね同時期であり、両遺跡の開発は連動しつつ進んだと考えられ、条里施工の前史として重要である。

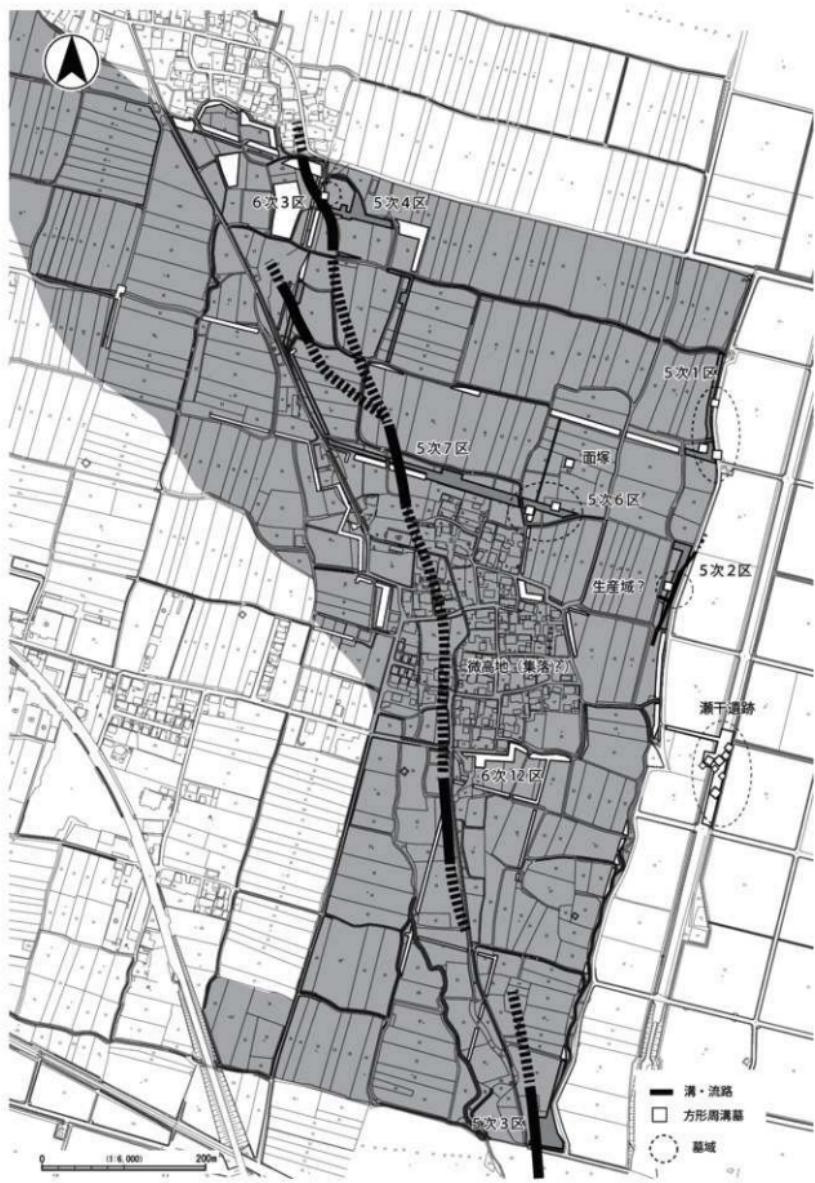
(3) 方形周溝墓

今回の調査では5基の方形周溝墓を確認した。遺構の残りが悪く、認定に課題を残すものもあるが、これらも数を含めると、朝見遺跡の東側から隣接する漸干遺跡にかけて確認された方形周溝墓は計15基となり、遺跡東部の1区・6区付近から漸干遺跡にかけての微高地縁辺に墓域が展開していたようである(第161図)。また、遺跡中央北側の6次3区付近(SD63009)も墓域だった可能性がある。

検出した方形周溝墓の時期は、弥生時代後期後半のS X 51042を除き、概ね濃尾平野の廻間I式後半～II式前半に併行する。周溝は、南側(漸干遺跡は南東側)一方に陸橋部が開き、残存幅に比して深いのが特徴である。埋葬施設や埴丘は残存しない。

周溝出土土器は、有文赤彩・無文の広口壺や直口壺、高杯等で、重複遺構への混入ではあるが、内面に水銀朱が付着する高杯(118)もある。土器は大半が埋土上層からの出土であり、埴丘上から流入した土器の可能性が高いといえよう。

なお、S X 51017では古墳時代前期後半、S X



第161図 弥生・古墳時代の遺構分布 (1:6,000)

56027 では 7 世紀代の土器が上層から出土しているが、S X 56027 上層の遺物出土状況は、7 世紀においても方形周溝墓が認知され、儀礼ないし祖靈祭祀の対象であったことを窺わせる。

朝見遺跡が所在する和屋町には、明治末年に 7 基の古墳（塚）が存在し、その一つが 6 区に北接する「面塚」であると伝えられる（II 章）。しかし、6 区付近では古墳時代の遺構は皆無であることから、7 基の「古墳」に、弥生時代の方形周溝墓が含まれていた可能性があろう。

3. 平安時代の遺構と遺物

（1）平安遺構の分布と時期

飛鳥・奈良時代は、若干の遺構・遺物が散在するものの、本格的な開発は平安時代に入ってからである。既報告分の調査では、特に 9 世紀後半から 10 世紀前半にかけて、井戸や溝から綠釉陶器、大量の志摩式製塙土器などの特殊遺物が多くみられた。

今回の 5 次調査でも、掘立柱建物などの主要な遺構は、9 世紀以降、特に斎宮編年の II - 3 ~ 4 段階、灰釉陶器は K90 ~ 053 号窯式に位置づけられ、9 世紀後半～10 世紀前半（平安時代前～中期）に集中している。綠釉陶器の優品や石製鉢など、朝見遺跡で「官衙的」といえる遺構・遺物の大半は、この時期のものであろう。

当該期の掘立柱建物は、ピット掘方が方形、一辺約 1 m と大型、桁行 4 間程度で底付きもみられる。こうした大型建物は、他に 5 区北、6 区、7-1 区、7-2 区、9 区で確認されている。建物が所在する区画外は遺構の空閑地であるが、深い谷などの大きな地形変化もないことから、空閑地は耕地や水路帯、農耕用牛馬の放牧地であったと推定しておきたい。このように、本次調査の結果、耕地等とみられる空閑地を挟みながら、方六町を超える広大な遺跡の各所に、複数の建物区画や水辺の祭祀場が展開していたことが判明した（第 164 図）。さらに、馬の存在（鞍牛馬祭祀）や櫛田川分流の名残川の存在、2 次・6 次調査における製塙土器の集中的な出土も勘案すると、物流や水陸交通のセンターも域内に含まれていたとみられる。

平安後期（斎宮 III 期、10 世紀後半）以降は、主に 9 区で遺構・遺物が多くみられ、7-1 区にも建物が展開しているが、規模は 2 × 3 間程度の小規模なもののが中心で、関与した経営主体や遺跡の性格に変化が生じたことが考えられる。また、1 区、6 区ではこの時期の遺構が明確でなく、遺跡中央から西に建物の分布が偏るようである。

（2）大型掘立柱建物の評価

① 遺構の変遷と条里プラン

7-1 区で大型掘立柱建物（S B 57041）を含む建物群が見つかり、付近は遺構の変遷が非常に明解であるため、詳細にみていくべき。

掘立柱建物群は、南北方向の小溝群にはさまれた区画内（東西約 50 m）に配されており、条里地割とは異なる正方位寄りの地割が存在したと考えられる。区画の東西幅は、条里の半町とも若干異なっている。

この地割方位は、当地の自然流路や微高地の形状に左右されたものと考えられ、微高地の両縁辺に区画溝が掘削されたのであろう。区画溝の外側にはほとんど遺構がなく、東・西に約 60 m 離れて建物群が展開する（6 区、7-2 区）。

調査区内で建物は大きく 3 期の変遷が想定でき、1 期は遺構の切り合いから、さらに 2 段階に細分が可能である（第 162 図）。

・ 1-a 期（平安時代中期、10 世紀前半）

最も大型の S B 57041 が建てられ、建物の主軸は区画溝に近い方位をとる。同時期の付属建物は明確でなく、調査区外の南側に存在した可能性がある。

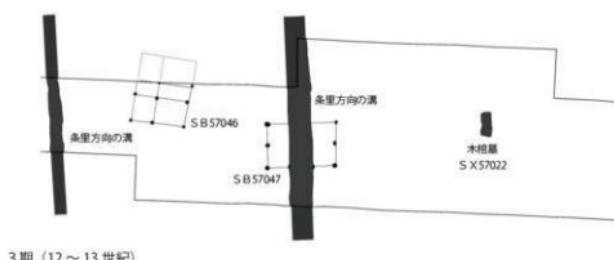
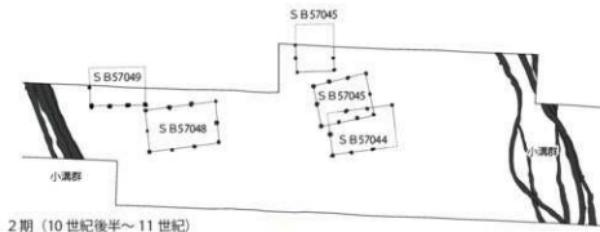
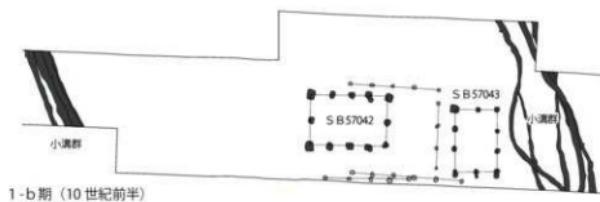
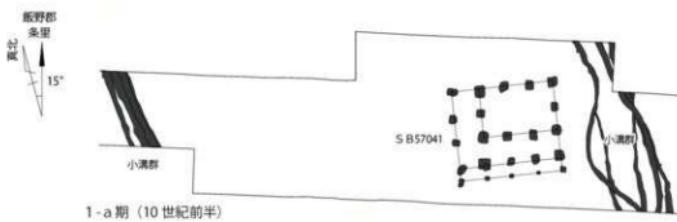
なお、S B 57041 出土遺物からは明確にできないが、他地区の大型建物の動向や、1-b 期との時期差を考慮すると、区画内の建物造営自体は、9 世紀後半まで遡る可能性もある。

・ 1-b 期（平安時代中期、10 世紀前半）

S B 57041 廃絶後、同じく大型のピットをもつ側柱建物 S B 57042・57043 と、S B 57042 を囲む柵が建てられる。建物の方位は区画溝の方位と異なり、条里方向をとる。見えない条里プランが意識されていた可能性が高い。

・ 2 期（平安時代後期、10 世紀後半～11 世紀）

S B 57044 など、2 × 3 間、小型ピットの小規模な建物からなる。建物の方位は条里方向と、やや振



0 20m

第162図 7-1区大型建物SB 57041付近の造構変遷 (1:500)

れるものがあり、2段階程度の細かな変遷が想定されるが、建物の前後関係は明らかにできない。

・3期（中世I～II期、12～13世纪）

中世の總柱建物SB 57046や、2×3間のSB 57047、条里方向の構、木棺墓がある。条里方向の構はSB 57047廃絶後に掘削されている。7-1区では、他にも戦国期の条里方向の構が確認された。

以上のように、当該区画では、当初条里プランは意識されておらず、他の調査区でも大型建物の方位は地形に即した正方位に近似することが多い。1-b期の建物建て替え以降、飯野郡条里プランに即した建物が出現することがわかる。中世に至ると、構（水路）、建物、墓とともに、条里プランを明確に意識しているようである。

②建物の類例との比較

区内で最も大型のSB 57041（10世纪前半）は、朝見遺跡で最大の建物でもあり、3間×2間の身舎に南・西側の二面庇、さらに南側に縁束・添柱なし・孫庇が付く。ピットは一辺約1mの方形で、当該期の建物柱穴としては斎宮や国庁に匹敵、あるいはそれ以上の規模である。一方で、柱痕跡は直径約25cmで、掘方の大きさからすると柱は特別に太いとはいえない、実用性の高い建物であったとみられる。

出土遺物は墨書き土器714や綠釉陶器が注目されるが、他方で土鍤や志摩式製塙土器が出土しており、漁撈などの実務にも関わる建物と推測される。土鍤や志摩式製塙土器は、9区のピットから多く出土しており、朝見遺跡の平安時代前～中期の建物に広く共通する要素といえよう。

さて、県内を対象に、平安時代の荘所や耕地開発拠点の居館に相当する建物⁽¹⁹⁾を概観すると、二面庇以上の建物を有する遺跡では、綠釉陶器を多く保有する傾向があることから、特にそれらと比較する（第163図）。柱筋内の占有面積により建物規模を比較すると、庇の有無と面積が概ね対応し、三面庇を超えると、占有面積が100m²を超えるようになる。朝見遺跡SB 57041は二面庇であるため、占有面積からすると、六大B遺跡SB 45（三面庇）、位田遺跡SB 5（三面庇+孫庇か縁）をやや下回る規模となる。カウジデン遺跡SB 5は、付近に展開した東寺領大園荘との関係も考えられる建物で、四面庇の

非常に大型の建物である。こうした事例から、SB 57041は一般建物より大型ではあるものの、居館として特段に規模や格式を有するとはいえない。庇・縁のある南側に別の主屋（中枢施設）が存在し、その付属建物であった可能性もある。また、正規の地方官衙の主要建物のように、同位置で建物が建て替えられ、長期間存続することはなかった。

以上から、SB 57041は古代・中世の莊園関係資料で「田屋」「荘所」などと呼ばれる、耕地經營の拠点（居館）ないし付属建物に相当すると考える。一方で、当該期には異例ともいえる大型ピットをもつ背景には、官衙や寺院造営にも関与した技術者の関与や工人集団の編成を想定する必要があろう。

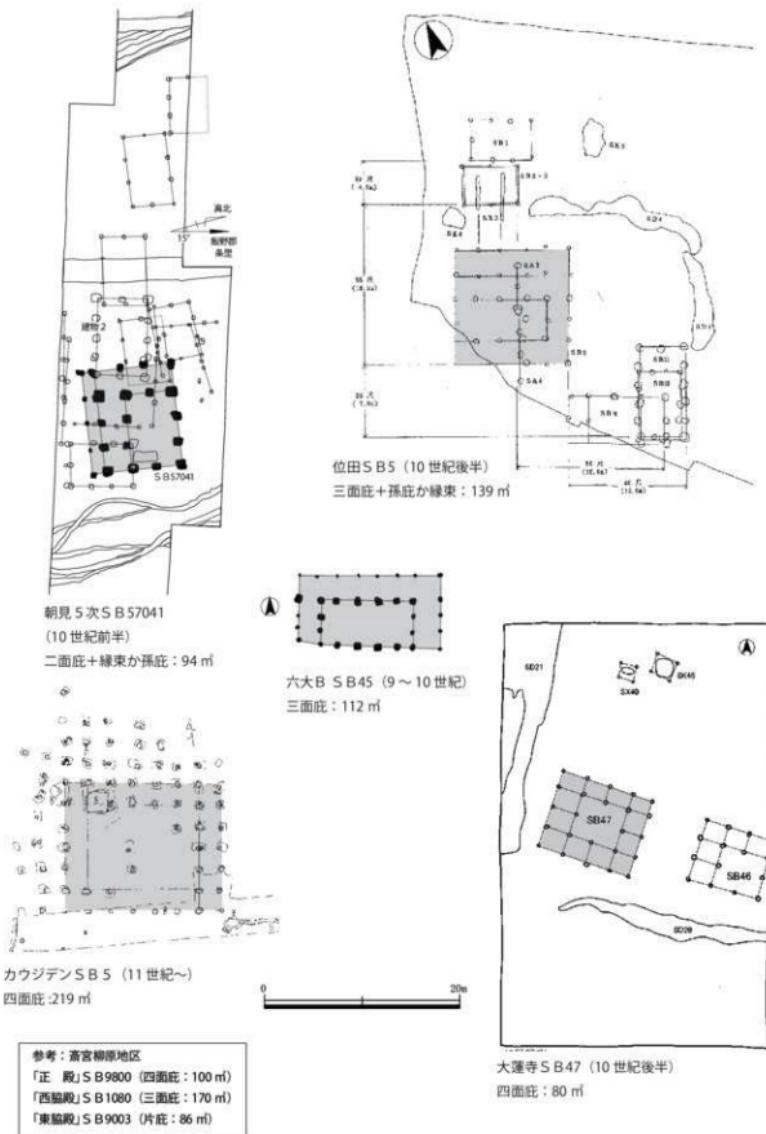
（3）水辺の祭祀と水路

①青銅鏡の評価

3区SD 53002の上面で青銅鏡が2面（瑞花円鏡・瑞花双鳥八稜鏡）出土した。鏡はともに鏡面を上にしており、ほぼ原位置を保った状態と判断され、水辺の祭祀や儀礼に用いた儀鏡と考えられる。他に祭祀等に関わる遺物は得られていない。埋土の状況から有機質遺物はすべて腐食した可能性が高いが、墨書き土器などが集中する様子もなく、単発的・スポット的な祭祀であろう。なお下層からも素文鏡が出土したが、時代が異なる流入遺物の可能性が高い。

SD 53002上層出土土器は9世纪から鎌倉時代まで幅をもつが、鏡の製作年代は2面とも10世纪後半である。また、瑞花円鏡（212）は鋳込み後の粗い研磨痕が残っており、長期伝世なく供献された可能性が高い。よって、鏡の製作年代と同じ、10世纪後半（平安時代後期）を鏡供献の時期とみておきたい。流路や構から鏡が出土する事例は大阪府大園遺跡などがあるが、祭祀の目的を具体的に示す例としては、構の取水口付近に素文鏡・重圓鏡など3面を捧げた香川県居石遺跡の例が注目され、安定的な水供給が祭祀の目的と考えられている⁽²⁰⁾。水利との関係で注目されよう。また、大阪府五反島遺跡の渡し場の橋脚下など人の往来や土地の境界に供えたとされる例⁽²¹⁾も、視野に入れておく必要がある。

3区付近は水利上、遺跡東部（1・2区方面）と遺跡西部（8・9区方面）への分水点にあたる重要な地点で、下流側（北西約1km）には構から綠釉陶器



第163図 平安時代の館的建物（黒釉陶器出土遺跡中心、1:500）

が大量に出土した2次調査地がある。

SD 53002は幅約6m、深さ1mで、微高地の西側を北西方向へ流れる大溝である。弥生時代終末期～古墳時代や飛鳥・奈良時代の遺物も層位的にみられ、連続と受け継がれた基幹水路であった。鏡を献じた平安後期には、シルトで大半が埋没しており、ごく浅い溝であった可能性が高い。

この状況から、鏡は渴水期の水乞いや雨乞い、あるいは雨期の河川氾濫など水害を鎮める祭祀に用いられたと推測される。他に豊穰祈願なども含め、広く農耕に関わる祭祀の可能性を第一に考えておきたい。耕地に水を供給する水路で、貴重品である鏡を用いた祭祀が行われたことは、遺跡の性格をより明確にするものといえよう。

なお、樹木年輪セルロースの酸素同位体比を中心とする近年の古気候研究では、10世紀中葉は少雨と高温の夏が数十年続く危機的状況にあったが、10世紀後半にかけて降水量は回復していくとされる⁽²²⁾。こうした数十年周期の気候の変動期にあたることも背景に想起しておく必要があろう。

②水辺の祭祀と水路

朝見遺跡では、他にも遺跡西部の6次3区で古代の八花鏡片が出土しており、古代の鏡は計4枚となつた。八花鏡は中世溝への混入であるが、水路が集中する遺跡西側で鏡が出土した点が重要である。

1・2次調査では、溝・流路や井戸の儀礼・祭祀の場が複数認められ、平安前～中期の堀町遺跡でも、これらの溝・流路の延長で、斎事などの木製祭祀具や多くの墨書き土器が出土している。

朝見上地区遺跡群の平安期集落において、朝見遺跡南東から朝見遺跡西、堀町遺跡に至る溝・流路が、水辺の祭祀場としても重要な役割を担つたのである。

③緑釉陶器と鏡

朝見遺跡では、2次調査で271点の緑釉陶器が出土しており、緑彩・陰刻花文・垂壺など斎宮跡に比肩する優品がみられた。5次調査の緑釉陶器は、出土数は8点とさほど多くないが、楕・皿以外に把手付瓶などの高級仕器が含まれ、豊富な緑釉陶器の一端が垣間見える。また、中坪遺跡では香炉、瑞花円鏡・瑞花双鳥八稜鏡が出土した3区東に接する大蓮寺遺跡でも、陰刻花文の緑釉陶器が出土している。

緑釉陶器の生産・流通には、淳和院などの院宮王臣家とその家政機関が介在した可能性が指摘されており⁽²³⁾、陰刻花文や緑釉緑彩などさわめて優秀な緑釉陶器を有する平安期朝見遺跡の経営主体も、これらと結びつきのある院宮王臣家や斎宮寮上級官人、伊勢国司、有力貴族・寺社、神郡である飯野郡を統治した伊勢大神宮司などが想定される。

これに加えて、信濃の牧経営に関わる長野県吉田川西遺跡⁽²⁴⁾（10世紀後半）のように、多量の緑釉陶器とともに複数の八稜鏡を保有する遺跡があることも注目したい。平安時代八稜鏡の主要な生産地は平安京内である。緑釉陶器と鏡の生産・流通は、直接結びつくものではないが、一部は院宮王臣家も関与した複数の奢侈品にアクセス可能な経営主体という点で、吉田川西遺跡の事例は重要である。斎宮跡で平安時代の八稜鏡が複数出土していることも改めて注目されよう。朝見遺跡の緑釉陶器の主体（平安時代前～中期）と、今回出土した鏡の時期（平安時代後期）はやや異なるが、一応注意を喚起しておきたい。

（4）平安時代の墨書き土器

①「平」の墨書き土器

朝見遺跡では、遺跡西部の2次調査で、溝から「美」「成」など吉祥句を記した墨書き土器が130点出土している。今回の調査では、6区、7-1区の建物群、8・9区で墨書き土器が15点出土した（第15表）。「平」を記す例が複数認められ、SD 58018「平成」やSD 57041 ピット埋納遺物に「保平」とある。

第15表 第5次調査墨書き土器一覧

番号	器種	調査区	遺構	時期	墨書き
375	杯	4	SE54031	II-4 10C前半	□
456	杯	6	SE56006 井戸跡内	II-4 10C前半	七西井
655	杯カ	7	SE56006 井戸跡内	平安	美ガ
714	杯	7	SB57041-P16 椭方	II-4 10C前半	保平カ
717	杯	7	SB57041-P5	II-4 10C前半	□
805	杯カ	7	SA57068-P1	平安	十カ
845	杯カ	8	SD58016	平安	十カ
876	杯	8	SD58018	II-4 10C前半	平成
877	杯カ	8	SD58018	平安	乃カ
878	杯カ	8	SD58018	平安	平
879	杯カ	8	SD58018	平安	大
994	杯カ	9	SD59027	平安	口平
995	杯カ	9	SD59027	平安	口平
1130	杯カ	7	ブ-JI4P14	平安	□
1131	杯カ	7	ブ-JI4P14	平安	□

「平」は堀町遺跡にも「承平」「仁平」「南平」の例があり、一字目は様々で二文字目に「平」を記すものが多い。いずれも平安前～中期の土師器杯で、水辺の祭祀に伴う遺物と考えられる。堀町遺跡（第6次）の報告書で類例を詳しく検討しているが、二文字目に「平」を記すものは全国的にも少なく、三重県内では斎宮跡などに若干例があるが、基本的には朝見上地区遺跡群の集団内に共有されたローカルな吉祥句と推測されている⁽²⁵⁾。ただし、朝見遺跡2次では「平」はみられず、地点ないし遺構ごとで様相が大きく異なる点も注意される。

吉祥句の意味は一義的には理解しがたいが、「平らか」に成る、の意を含めたものであろうか。

なお、「承平」「平成」は元号にもなる語であり、元号の典拠となる漢籍や古典の教養を持つ人物が、文字使用に開与した可能性も考えられる。

②「七西井」の評価

6区S E 56006で出土した墨書き土器「七西井」(456)は、条里制との関連で注目される文字資料である。斎宮II-4段階（10世紀前半）の土師器皿に野太く筆記し、字体は稚拙である。戸井枠痕内（戸井枠は廻食し消滅）上層から出土し、戸井庵施時の儀礼や祭祀に伴う土器とみられる。

史料上、「七西井」に似た表記では、「地名+井」で井堰・溝の名前を示した例がある。伊勢国東寺領大國荘に関する康和5（1103）年の「東寺領伊勢国大國荘損田注進」に「永田井溝」「川原井溝」の用法がみられ、保安2（1121）年櫛田川洪水に関する「大國荘流出田畠注進状」では、堰長（田堵）らが「堰溝」の被害を訴え出ている⁽²⁶⁾。

これらの史料では、「井」=井堰・溝を指すことから、6区付近に「七西井溝」と呼ぶべき井堰・溝が存在し、その管理に6区掘立柱建物群の居住者が関与した可能性があろう。

他に、朝見遺跡は飯野郡復元条里で七条・八条の境界付近にあたることから（第164図）、七条に由来する地名「七西井」を表す可能性や、「飯野・飯高郡条里絵図」（沢氏古文書）で「一宮田」「二長田」「六麻生」など数字と地名を組み合わせて条里坪付を表す用法から、「七」+「西井」で条里坪付を示したこととも考えられる。この場合、条里施工や坪並呼称

が、10世紀までは付近にある程度浸透していたこととなる。

大きくなはこの三用例が候補にあげられ、いずれの場合も10世紀段階における一帯の開発や、条里施工の進展度を考える上で重要であるといえよう。

4. 条里地割と開発

（1）条里施工の年代と段階

①条里施工が大きく進展した時期

条里施工の前史として、弥生時代終末期～古墳時代には、付近の耕地開発が櫛田川分流の名残川を中心として、ある程度進んだことが判明したが（2節）、朝見遺跡の飛鳥・奈良時代の遺構の希薄さからは、古墳時代以降の耕地開発が、右肩上がりで進展したとは考えられない。

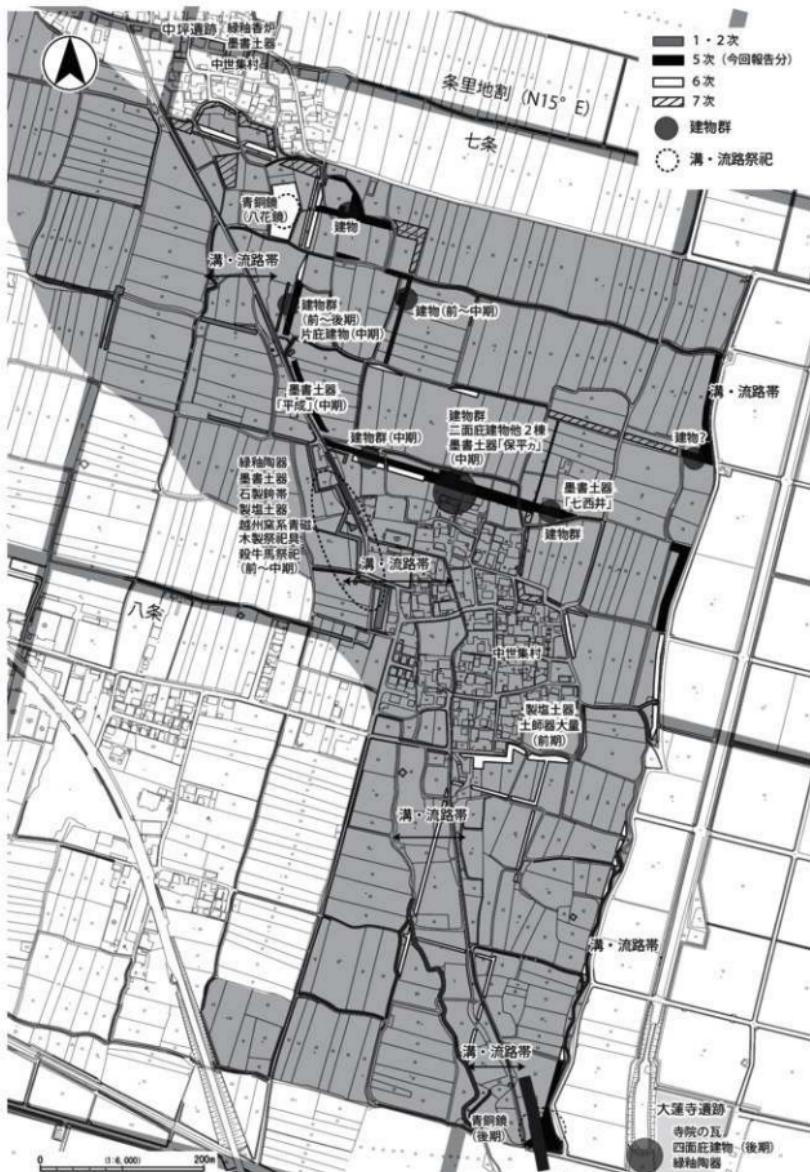
既往の調査では、条里の坪境溝の掘削時期や花粉分析の結果に基づき、11世紀以降に一帯の条里施工が大きく進展したとしている⁽²⁷⁾。水利に伴う溝は、長期存続するため細かな時期変遷を明らかにできないが、5次調査でも条里の地割に即した溝、現行坪境溝の前身遺構は、平安時代後期～末以降に開削されたとみられ、1・2次調査の所見を追認した。

第162図に示した7-1区の建物の変遷からも、平安時代末以降、微地形の起伏を克服するかたちで、条里に沿った直線的な水路が網羅されるようになつたとみられる。また、堀町遺跡においても、平安時代後期に集落が大きく再編され、中世には微高地上にも条里方向の溝が及ぶようになる。

第II章でみたように、「飯野・飯高郡条里図」（沢氏古文書）の成立が13世紀に遡るならば、13世紀までに条里坪並とその基準線となる坪境溝は、海岸付近まで広がっていたこととなろう。

②平安時代前～中期の条里施工

一方、朝見遺跡の最盛期である平安時代前～中期では、掘立柱建物の主軸方位を見る限り、見えない条里プランがある程度意識されていた可能性が高いが、自然の微地形も依然影響しており、条里プランが貫徹されたとは言い難い。大型建物がみられる堀町遺跡では、平安前～中期の建物は条里方向を志向しており、朝見遺跡とほぼ同じ状況といえる。見え



第 164 図 平安時代の空間利用 (1:6,000)

ない条里プランへの意識や、墨書き土器「七西井」は、付近に条里地割が及んでいた可能性を示唆する。

ただし、この時期の朝見遺跡内の溝は、蛇行するものの、S字状の屈曲、緩やかなカーブを描くものが多く見られ、走行方向も一定でない。特に小型の溝（例えば、1区SD 51003～51005、9区SD 59002など）はその傾向が強く、いわゆる半折型や長地型といった古代、特に律令期の条里制に典型的な短冊形地割を読み取ることは困難である。むしろ、柳田川分流の名残川を中心に、自然の微起伏と水回りを巧みに取り入れた弥生・古墳時代以来の耕地開発と水田經營が、平安時代の朝見遺跡内では一般的であったのではないだろうか。

遺跡内は大きくなりれば微高地にあたるため、遺跡外の低湿地とは様相が大きく異なる可能性があるものの、大型掘立柱建物が空閑地を挟んで展開する遺構分布のあり方から、遺跡内の開発はモザイク状に進展し、方格条里施工はごく限定的、あるいは早くに限界に達したと推測されるのである。加えて、基幹水路となる名残川の涵養量には限界もあり（V章）、水の広域的な供給や、旱魃への対応には潜在的な問題があったことも考慮する必要がある。

多気・飯野両郡にまたがる9世紀段階の東寺領大国资の内部には、広大な空閑地や川成荒地、桑畠などが含まれていたことも参考になろう⁽³⁸⁾。

③朝見遺跡における条里施工の諸段階

現時点で判明した事柄から、朝見遺跡における条里施工の諸段階をまとめておく。

弥生時代終末期～奈良時代 条里施工の前史で、柳田川分流の名残川を中心に、耕地開発が及ぶ。

平安時代前～中期 建物の方位から、見えない条里プランが存在、墨書き土器「七西井」など、付近に条里地割が及ぶ可能性はあるが、遺跡内では不明確。

平安時代後期～末 大型建物は退転し、建物は小型化するが、条里坪境溝の掘削、地割内に条里方向の溝が掘削されるなど、条里施工が大きく進展した段階。13世紀には、条里絵図にある条里坪並が完成しつつあると推測され、現在に至る。

（2）その他の生業・生産

耕地開発、水田經營以外の生業・生産に関する事項をまとめておく。

漁撈 平安時代を通じて、大型建物の柱穴などから土鍤が出土している。特に遺跡西部の9区に多く見られ、河川や溝、水田での網漁が重要な生業であったとみられる。莊園や勅旨田の經營に漁撈が深く関わることはつとに指摘されており⁽³⁹⁾、この点も遺跡の性格を知る上で重要といえよう。

鍛冶・鑄造 各調査区で、輪羽口や溶解炉の炉壁片、小型の椀形鋳がみられ、遺跡各所の建物群に付随して、農具等の維持管理や小規模な出しきがなされたと推測される。東南に接する大蓮寺遺跡でも鍛冶・鑄造関連遺物が若干みられる。

堀町遺跡では、飛鳥時代に鍛冶津が集中するエリアがあるが、朝見遺跡内では今のところ工房区と断定し難い遺物集中エリアは確認できない。

製塩土器 9～10世紀の志摩式製塩土器が2次・6次調査で大量に出土しており、日常の食事や儀礼に用いる以上の需要があったようである。本次調査でも掘立柱建物のビット中などに製塩土器がみられた。

朝見遺跡が、塩の流通に関わる集散地だった可能性も想定されるが、製塩土器は遠隔地で出土することが多く、堅塙の外容器として運搬、廃棄されたとみられる。基本的には、当地で塩が大量に消費されたと考えるのが妥当であろう。

食事以外の塩の用途は三つ想定⁽⁴⁰⁾され、第一が農耕用牛馬の塩分補給である。製塩土器が特定の地区に集中する状況から、塩あるいは使用対象の牛馬は、遺跡中枢付近で管理されていた可能性があろう。第二は、古代伊勢道に近い立地から、駅馬や伝馬の備蓄・管理が考えられる。今回の調査では、平安時代の微高地上の植生を示すデータは得られていないが、縄文時代の基盤層の状況（1節）を援用すれば、高燥な草原的環境や、流路帯に開まれた閉鎖的空間を利用し、小規模な備蓄牧が展開した可能性があろう。第三は、皮革生産（皮鞣し）に伴うもので、発掘調査で具体的な資料は得られていない。

朝見遺跡の製塩土器の出土量は、3節でみた県内他遺跡の出土量を圧倒している。これは、複数の拠点が複合した経営の規模によるか、農耕用牛馬の飼養にとどまらない遺跡の機能を有したかのいずれかで、現状では複数の可能性を示すにとどめたい。

(3) 中世の集落

今回の調査では、6区に中世の井戸や土坑、7区に小規模な建物や木棺墓はみられたが、全体的に遺構は希薄である。既報告分の調査成果も考慮すると、特に立田集落の南側に中世前期の集落が展開したと考えられる。中世参宮街道沿いの立田（旧立利村）は史料上、村落として早くに名がみえるのに対し、和屋は実態が不明であることから、立利村からの分村や出作地であったかも知れない。

室町時代以降は、立田・和屋ともに現集落付近へ集村化したとみられる。

(4) 気候変動との関係

① 9～10世紀の乾燥・温暖化

承和14年（847）の櫛田川洪水は、櫛田川流域に甚大な影響をもたらしたが、平安時代の前半期（9～10世紀）は、全体として乾燥・温暖化が進む時期であり、旱魃への対応が重要な課題であった³⁰⁾。

朝見遺跡の本格的な集落形成はこの時期にあたり、堀町遺跡でも9世紀代の大型建物がみられる。また、弘仁3年（812）には布勢内親王の墳田が東寺に施入、大国荘が立荘される。このように櫛田川中・下流域で低地の開発が進む背景には、旱魃に伴い新たな耕地や水系の確保が求められたことや、乾燥により未開の低湿地開発が可能になった等が想起される。『万葉集注釈』に「已に渚は江湖と化成れり」（平安頃か）と記された、櫛田川河口部の地形（潟湖）の湿地化・陸化も上記と連動していよう。

続く10世紀中葉頃には、高温乾燥の夏が数十年続く危機的な気候となり、農耕や灌漑水利に甚大な被害を与えた可能性が指摘される。朝見遺跡・堀町遺跡の大型建物・奢侈品・祭祀関連遺物は、10世紀後半に存続せず、遺跡の経営主体に大きな変化が生じたと推測される。遺跡の盛衰と気候変動の間には様々なファクターが関係し、直接的な影響関係は慎重に判断しなければならないが、現状では、気候変動の動向と共に矛盾しない。なお、平安後期（10世紀後半～11世紀前半）は、朝見遺跡よりも下流側の堀町遺跡で、より生活の痕跡が濃密である。

② 11世紀以降の気候変動と地域社会

11世紀以降、気候は反転し、短期的な変動を繰り返しながらも、長期的には15～16世紀まで一貫

して温潤・冷涼な気候に変化していった。

平安後期以降、朝見遺跡の経営主体に大きな変化が生じたと推測されるが、一方で、その後も条里施工は進み、平安時代末以降、本格化するに至る。

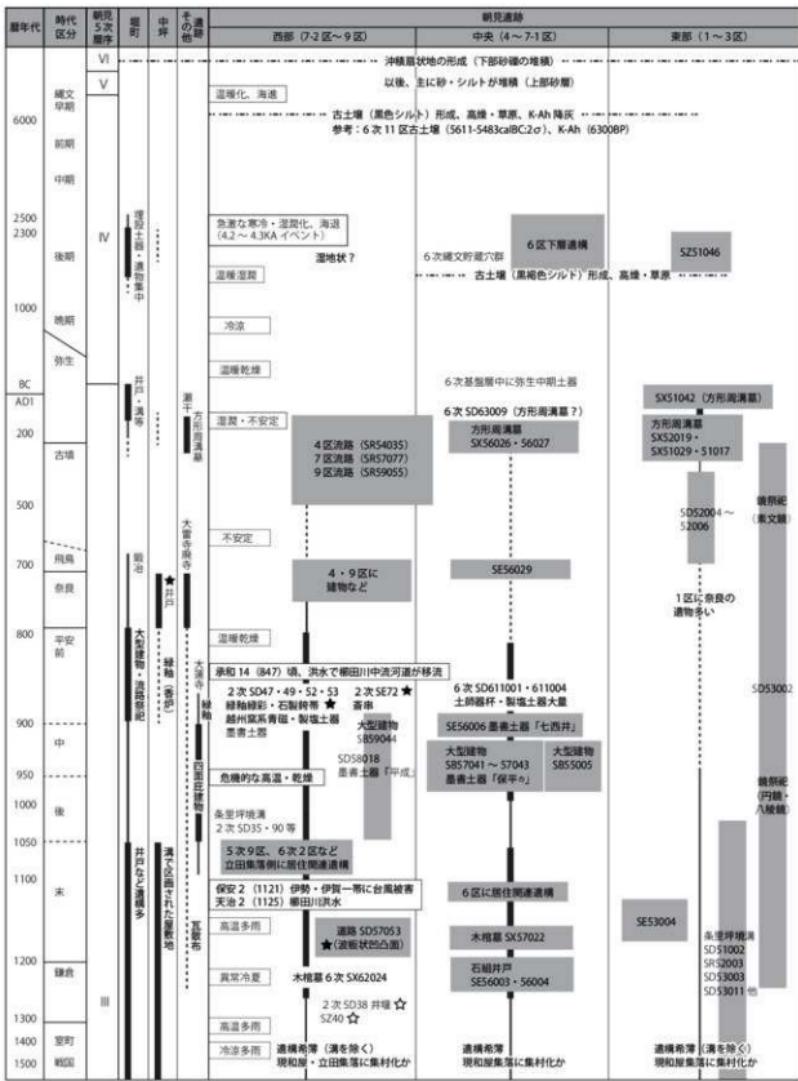
この遺跡の変質を考える上でも、東寺領大国荘の動向が参考になる。11世紀以降、気温や降水量が激しく変動し不安定となる中、大国荘では保安2年（1121）の台風、天治2年（1125）、宝治2年（1248）洪水など水害が多発した。保安2年（1121）の水害においては、田堵や郡司、神宮權齋など様々な在地勢力が溝や井堰の復旧にあたったこと、天治2年（1125）洪水では、耕地被害の大きさにも関わらず死者が少なく、水害に対する知識や備えが蓄積されていたこと、堰長や往住住人が結託し、溝の復旧と同時に寺領を掠め取るなど既得権益の伸張をはかったことが知られる。水害を前提とした耕地經營がなされ、水害復旧を契機に地域社会や村落の再編が進み、東寺の支配力は低下していった³¹⁾。

朝見遺跡の建物や出土遺物の変質、平安時代末以降の盛んな構掘削も、上級勢力の退転、在地勢力が主導権を握っていく過程として理解できる可能性は高いといえよう。かかる点では、平安後期～末の道路遺構（SD 57053 板状凹凸面）に見られた馬齒の埋納は、古代律令国家が規制した殺牛馬祭祀が、中世前期の地域社会に存続したことを示すとともに、開発の基盤を担った在地勢力の存在を表していくよう。

さらに、朝見遺跡付近の名残川の涵養量は高くなる、旱魃には苦慮した可能性が高いが、水害が頻発する時期には、櫛田川右岸に比べて安定的な耕地經營が望める環境にあった（V章）。流路・溝の埋土は礫を含まない細砂やシルトで、水害の復旧や水路の改修も比較的容易であっただろう。このような周辺環境の特質が、11世紀以降の気候変動や地域社会の変化に適した結果、朝見上地区遺跡群一帯の条里施工が活発化したと結論づけておきたい。

5. 朝見遺跡の特質

これまでの総括に基づき、第165図に縄文時代～中世の朝見遺跡の土地開発史をまとめ、合わせて朝見上地区遺跡群および周辺遺跡の動向を記した。



第 165 図 朝見遺跡の土地変遷史

以下では、平安時代、特に9世紀後半～10世紀前半の朝見遺跡について、現状判明していることをまとめておきたい。

(1) 朝見遺跡の諸属性

建物 一辺1mの方形ピットをもつ大型建物が、空閑地を挟みながら各所にみられる。三面・四面庇建物は未検出である。建物は短期間(土器1型式程度)で廃絶、規模を縮小させる。

奢侈品 初期貿易陶磁、多量の縁袖陶器(緑彩、陰刻花文、唾壺、把手付瓶等)など、斎宮跡に匹敵する格段の内容を持つ。隣接する中坪遺跡は縁袖香炉、大蓮寺遺跡は陰刻花文碗がみられる。

官人層の闇 石製鉢帯、大量の墨書き土器、朱墨のある転用硯など、実務官人が文書事務など経営に関与か。堀町遺跡でも風字硯が出土。

宗教施設 朝見遺跡では不明確だが、南に大雷寺廃寺が所在、同寺の瓦が広く散布する。平安後期には大蓮寺遺跡に四面庇など庇付建物が複数みられ、有力者の居館ないし宗教施設の存在が想定される。

水辺の祭祀 井戸や溝から斎串や形代が出土。井戸や溝での殺牛馬祭祀。平安時代後期には水辺の鏡祭祀がなされ、他にも古代の鏡を保有。堀町遺跡でも、遺跡全体に水辺の祭祀(祓所か)がみられる。

その他 鋳治・鋳造関連遺物、大量の志摩式製塙土器が出土。製塙土器は牛馬の使役や馬の備蓄牧と関係するものか、運河、物流や手工業生産のセンター機能を有する可能性もある。溝や掘立柱建物からの土鍾出土から、漁撈にも一定の比重が置かれていた。

(2) 遺跡の性格と経営主体

朝見遺跡は性格や経営主体を確定する文字資料を欠いているため、現状では、様々な可能性を残しておくべきである。それでも、5次調査の結果、主な可能性は較られてきたように思われる。

当遺跡では、耕地等とみられる空閑地を挟みながら、方六町を超える広大な遺跡の各所に、複数の建物区画や水辺の祭祀場が展開していたことが判明した(第164図)。こうした遺構の空間分布は、郡衙など正規の官衙にはみられず、むしろ東大寺領横江荘(石川県)に代表される大規模な古代荘園で、宇野隆夫氏が「有力寺社主導2型」として類型化するものに近い¹³⁰。その特徴は、數町の規模を有し、

中枢部の周辺に複数の荘所(各荘所は一方に収まる)を編成、域内に宗教施設や船着場などの交通関連施設、工房区を包摂するところにある。

さらに、堀町遺跡、中坪遺跡、大蓮寺遺跡、大雷寺廃寺の動向も朝見遺跡と連動しており、櫛田川下流左岸の名残川を中心とした広大なエリアが、開発の対象であった可能性が高い。

以上から、朝見遺跡は郡衙等の地方官衙・下級官衙ではなく、荘園や勤旨田に類する大規模耕地開発・経営の拠点として評価するのが妥当と思われ、その成立や経営に、斎宮や飯野郡などの公的機関や実務官人層が関与した可能性が想定できる。

延喜2年の莊園整理令(902年)は、院宮王臣家による山川敷地の占有禁止や、勅旨田・臨時御厨の停止、院宮・五位以上の官人による閑地荒田の買得などを禁止するが、朝見遺跡はまさにこのころに頗在化する遺跡である。ただし、時期的には律令国家から王朝国家への転換期でありながら、律令期を思わせる掘立柱建物の姿は非常に異質といえよう。

経営主体は広く、院宮王臣家や神郡を統治した伊勢大神宮司、伊勢国司を含む斎宮の上級官人などが想定され、さらに公的機関の実務官人、神宮神官、郡司等の豪族、富豪層や田堵が経営にあたったと推測される。

(3) 今後の課題と展望

今回の調査では、織文時代から中世の遺構を広範囲にわたって検出したことで、櫛田川左岸下流域の沖積平野や遺跡の形成過程を詳細に知ることができた。また、こうした成果を近年の古気候研究と突き合わせ、遺跡の動向をより明確にしようと試みた。

引き続き、朝見上地区遺跡群や周辺集落の動向から、復原的・広域的に一帯の土地開発史や景観を論じていく必要があろう。また、微高地を中心とした今回の調査では、木製品、大型種実、花粉・珪藻など微化石の遺存状況が絶じて不良で、細かな環境変遷のデータが得られなかつた。こうしたデータの不足や偏りも、今後長期的に解決すべき課題である。

遺跡全体の遺構の時期変遷を示すとともに今回は断念した。朝見遺跡全体、朝見上地区遺跡群の発掘調査全体の総括は、朝見遺跡7～9次調査の報告内容を踏まえ、別に行うこととした。(櫻井)

註

- (1) 田部剛士『三重県の概要・集成』『関西縄文時代の集落と地域社会』関西縄文文化研究会、2009年。
- (2) 新潟大学、小野映介氏の教示による（所属は調査当時）。「a層」「b層」の用法は、高橋学『平野の環境考古学』古今書院、2003年による。
- (3) 上野市遺跡調査会『森脇遺跡発掘調査報告』1995年。
- (4) 豊田市教育委員会『寺部遺跡』2011年。
- (5) 水ノ江和同『低湿地型の縄文』『縄文時代の考古学』5、同成社、2007年。
- (6) 度会町教育委員会『森添遺跡』2011年。
- (7) 三重県埋蔵文化財センター『平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』第1分冊、1992年。
- (8) 矢野健一『近畿』『講座日本の考古学 縄文時代（上）』青木書店、2013年。
- (9) 三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第3・4・6次）発掘調査報告』2021年。
- (10) 小林謙一『南西関東縄文中期後葉から後期前葉における推定人口と気候変動』『先史・古代の気候と社会変化』臨川書店、2020年。
- (11) 南知多町教育委員会『林ノ峰貝塚I』1983年。
- (12) 石黒立人 2006 「伊勢湾周辺地域における弥生時代の平野地形について」『愛知県埋蔵文化財センター研究記要』第7号、愛知県埋蔵文化財センター。
- (13) 泉拓良・家根洋多『北白川追分町遺跡出土の縄文土器』『京都大学埋蔵文化財調査報告Ⅲ - 北白川追分町縄文遺跡の調査 -』京都大学埋蔵文化財研究センター、1985年。
- (14) 伊藤裕像・德積裕昌「3. 大里西沖遺跡の調査」『平成3年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告－第1分冊－』三重県埋蔵文化財センター、1992年。
- (15) 許 14 文献第26図（29頁）に変遷概念図を示した。
- (16) 関西縄文時代研究会『縄文時代の石器II 関西の縄文前期・中期』2003年。
- (17) 川瀬久美子『三重県雲出川下流部における海岸低地の形成と堆積環境の変遷』『地理学評論』76-4、日本地理学会、2003年 / 小野映介『濃尾平野における完新世後期の海岸線変化とその要因』『地理学評論』77、日本地理学会、2004年。
- (18) 桶上昇「東海地方における弥生～古墳時代の遺跡変遷と気候変動」『先史・古代の気候と社会変化』臨川書店、2020年。
- (19) 三重県教育委員会「カウジデン遺跡」『昭和54年度県営圃場整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』1980年 / 三重県埋蔵文化財センター『位田遺跡発掘調査報告』1999年 / 三重県埋蔵文化財センター『六B遺跡（B～I地区）発掘調査報告』2006年 / 三重県埋蔵文化財センター『大蓮寺遺跡発掘調査報告』2014年。
- (20) 山元敏裕「香川県居石遺跡の儀鏡と出土造構」『考古学ジャーナル』446、ニューサイエンス社、1999年。
- (21) 杉山洋『日本の美術 394 古代の鏡』至文堂、1999年。
- (22) 田村憲美「10世紀を中心とする気候変動と中世成立期の社会」『気候変動と中世社会』臨川書店、2020年 / 伊藤俊一『莊園』中央公論新社、2021年。
- (23) 尾野善裕「平塚市出土縄文陶器の歴史的背景」『第3回平塚市遺跡調査・研究発表会資料』平塚市教育委員会、2014年。
- (24) 長野県・長野県埋蔵文化財センター『塩尻市内その2：吉田川西遺跡』1989年。
- (25) 三重県埋蔵文化財センター『塙町遺跡（第6次）発掘調査報告』2017年。
- (26) 水野章二「10～12世紀の農業災害と中世社会の形成」『気候変動と中世社会』臨川書店、2020年。
- (27) 三重県埋蔵文化財センター『朝見遺跡（第1・2次）発掘調査報告』2014年。
- (28) 水野章二「大國・川合荘」『講座日本荘園史』6、吉川弘文館、1993年。
- (29) 宇野隆夫『莊園の考古学』青木書店、2001年。
- (30) 皮草生産と塩が関係することを、丸山真史が指摘している（丸山真史「河内・大和の動物供養と駒馬処理」『馬の考古学』同成社、2021年）。
なお、ここでいう「備蓄牧」とは、古代の馬牧のうち、生産地の牧から供給された馬匹を備蓄するための牧を指し、官衙等の厩舎で飼養される以外の予備の馬を放牧する、比較的小規模の牧と想定されている（吉川敏子「近畿の馬牧」『馬と古代社会』八木書店、2021年）。
- (31) 許 22 前掲。
- (32) 許 26 前掲。
- (33) 許 29 前掲。

報 告 書 抄 錄

三重県埋蔵文化財調査報告 401

朝見遺跡（第5次）発掘調査報告
～松阪市立田町・和屋町～
－本文編－

2022（令和4）年3月14日
編集・発行 三重県埋蔵文化財センター
印刷 (有)ミフジ印刷

